

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 鍋沢元蔵筆録ノート：翻刻と訳注 (Nabesawa-1～Nabesawa-5)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 志保 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00006040">https://doi.org/10.15021/00006040</a>

## 凡例

- 原ノート（以下、ノート）には、セリフを表す印や、段落の区切りを表す印はないが、アイヌ語ローマ字表記と和訳においては、引用符や句読点、疑問符を適宜追加した。ただし、アイヌ語ローマ字表記においては、文末詞などが用いられて確実に文の区切りであることがわかる個所以外は、文の区切りか節の区切りかの判断が難しいこともあり、ピリオドを入れていない。そのため、句読点ならびにピリオドについてはアイヌ語と和訳とで必ずしも一致はしていない。
- 音素にあたらないと判断した y や w（いわゆる「わたり音」）が挿入されている場合は、ノートにおいて表記されていてもアイヌ語ローマ字表記に反映させなかった。そのため、ノートの表記とローマ字表記との間に若干の差異も見られるが、その場合は注において明示した。（例：イヰカルカル→ノートの表記にしたがうと iyekarkar だが、y は挿入音のため、ローマ字表記においては i=ekarkar とした）
- 同一の固有名詞に対して、声門閉鎖音の有無などによって複数の表記がされている固有名詞については、ローマ字はそれぞれの行の表記にしたがったが、和訳においては同一人物であることから、いずれかの表記に統一した。（例：チュボラカン→Cuporakan「チュボラカン」／チュブオラカン→Cup'orakan「チュボラカン」）
- 「ン」のローマ字表記にあたっては、語義がわかるものについては、それに従った（例：etamanpa < etamani + pa）。また、ノートの表記と矛盾する場合には、注をつけた。
- ノートにおいて並べて書いてある（割注のようになっている）個所は、カナ表記では [ ] 内に並べて記した。スラッシュ（/）は行の区切りを示す。ローマ字表記・和訳では文脈に関係する部分だけを記した。
- 棒線で消されている行も、そのまま記した。ローマ字表記・訳も同様に上で棒線で消してある。
- 音韻交替にあたる部分は、その前または後にアンダーバー（\_）を付すことで表した。音韻交替については、本報告書所収「鍋沢元蔵によるアイヌ語のカナ表記体系」も参考のこと。
- ノートにおいて黒塗りで潰されている文字はカナ表記で■であらわしたが、ローマ字や注の見出しでは省略した。
- ローマ字・和訳を問わず、解釈に疑問が残る個所については行末に（?）を付した。
- 注におけるアンダーラインは、引用文中におけるものも引用者による。
- ノートのカナ表記とローマ字表記とでずれが生じる際には、その部分について触れてあるが、それぞれの特徴の詳細については本報告書所収の「鍋沢元蔵によるアイヌ語のカナ表記体系」にまとめて記したため、注では詳しく触れていない。
- 注において引用・参照した文献については、すべて略称であらわした。略称については「参考文献略称」を参考のこと。

## 参考文献略称

- 『アイヌのくらし』：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構編，2011『千島・樺太・北海道 アイヌのくらし—ドイツコレクションを中心に』札幌：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構。
- 『アイヌの叙事詩』：門別町郷土史研究会編，1969『アイヌの叙事詩』鍋沢元蔵筆録，扇谷昌康訳注，門別：門別町郷土史研究会。
- 『アイヌの祈詞』：門別町郷土史研究会編，1966『アイヌの祈詞』鍋沢元蔵筆録，扇谷昌康訳注，門別：門別町郷土史研究会。
- 『アイヌ・モシリ』：釧路アイヌ文化懇話会編，1998『アイヌ・モシリ—幻のアイヌ語誌復刊』釧路：私家版。
- 『五つの心臓』：萱野茂，2003『五つの心臓を持った神—アイヌの神作りと送り』東京：小峰書店。
- 『蝦夷生計図説』：秦檜内撰，間宮林蔵・村上貞助増補，『蝦夷生計圖説』（高倉新一郎編，1969『日本庶民生活資料集成 第四巻 探検・紀行・地誌 北辺篇』東京：三一書房）。
- 『音声資料』：田村すず子編著，1984-1999『アイヌ語音声資料』，東京：早稲田大学語学教育研究所。
- 『萱野辞典』：萱野茂，2002（1996）『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』東京：三省堂。
- 『金成叙事』：金成まつ筆録，北海道教育庁編，1980-『アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ』札幌：北海道教育委員会。
- 『祈道全集』：鍋沢元蔵著，海山応援団編，2007『アイヌ祈道全集 沙流川の祈祷集含』札幌：海山応援団。
- 『金田一全集』：金田一京助全集編集委員会編，1992-1993『金田一京助全集』東京：三省堂。
- 『葛野辰次郎』：財団法人アイヌ民族博物館編，2002『伝承記録7 葛野辰次郎の伝承』白老：財団法人アイヌ民族博物館。
- 『クトゥネシリカ』：門別町郷土史研究会編，1965『アイヌ叙事詩クトゥネシリカ』鍋沢元蔵筆録，門別：門別町郷土史研究会。
- 『久保寺辞典』：久保寺逸彦編，1992『アイヌ語・日本語辞典稿』札幌：北海道教育委員会。
- 『久保寺タイプ』：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター（旧北海道立アイヌ民族文化研究センター）所蔵 久保寺逸彦文庫文書資料「〔9〕 KAMUI-YUKAR 神謡」（資料番号 KD5184-9）
- 『久保寺ノート』：北海道教育庁社会教育部文化課編，1987-1991『久保寺逸彦ノート』（ア

- アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ 6-10) 札幌：北海道教育委員会。
- 『くらしと言葉』：北海道教育庁社会教育部文化課編，1989-『アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ アイヌのくらしと言葉』札幌：北海道教育委員会。
- 『講座方言学』：五十嵐三郎，1982「北海道方言の概説」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』東京：国書刊行会。
- 『サコロベ』：貫塩喜蔵，1978『アイヌ叙事詩サコロベ』白糠町：白糠アイヌ文化保存会。
- 『沙流辞典』：田村すず子，1996『アイヌ語沙流方言辞典』東京：草風館。
- 『沙流方言1』：田村すず子編，2001『アイヌ語沙流方言の音声資料1—近藤鏡二郎の録音テープに遺されたワテケさんの神話』大阪：大阪学院大学情報学部。
- 『宗教と儀礼』：久保寺逸彦，2001『久保寺逸彦著作集1 アイヌ民族の宗教と儀礼』東京：草風館。
- 『文学と生活』：久保寺逸彦，2004『久保寺逸彦著作集2 アイヌ民族の文学と生活』東京：草風館。
- 『小辞典』：知里真志保，1956『地名アイヌ語小辞典』東京：楡書房（『知里真志保著作集』3，pp.335-454，東京：平凡社 1973）。
- 『叙事研』：三浦佑之編，2001『叙事詩の学際的研究』平成9年度-平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書，千葉：千葉大学。
- 『神謡集』：知里幸恵，1978（1923）『アイヌ神謡集』東京：岩波書店。
- 『神謡・聖伝』：久保寺逸彦，1977『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』東京：岩波書店。
- 『神話集成』（1~10）：萱野茂，1998『萱野茂のアイヌ神話集成』（全10巻）東京：ビクターエンタテインメント。
- 『静内語彙』：奥田統己編，1999『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集』北海道江別市：札幌学院大学。
- 『生活誌』：財団法人アイヌ無形文化伝承保存会編，1986『語りの中の生活誌』札幌：財団法人アイヌ無形文化伝承保存会。
- 『生物記I』：更科源蔵・更科光，1992（1976）『コタン生物記I 樹木・雑草篇』東京：法政大学出版局。
- 『大漢和10』：諸橋轍次，1959（1991年修訂2版）『大漢和辞典 第十巻』東京：大修館書店。
- 『千歳辞典』：中川裕，1995『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館。
- 『動物篇』：知里真志保，1963『分類アイヌ語辞典 動物編』東京：日本常民文化研究所（『知里真志保著作集』別巻I，東京：平凡社 1976）。
- 『日本語北海道方言』：小野米一，1993『文部省科学研究費一般研究(C)研究成果報告書「アイヌ語話者の日本語北海道方言についての研究』』札幌：北海道大学言語文化部。
- 『人間篇』：知里真志保，1954『分類アイヌ語辞典 第3巻 人間篇』東京：日本常民文

- 化研究所（『知里真志保著作集別巻Ⅱ 分類アイヌ語辞典 人間篇』東京：平凡社 1975）。
- 『バチェラー辞典』：ジョン・バチェラー，1995（1939）『アイヌ・英・和辞典』東京：岩波書店。
- 『文法の基礎』：佐藤知己，2008『アイヌ語文法の基礎』東京：大学書林。
- 『方言辞典』：服部四郎編，1964『アイヌ語方言辞典』東京：岩波書店。
- 「名称」：遠藤志保，2014「アイヌ英雄叙事詩における登場人物の名称」中川裕編『アイヌ語の文献学的研究1』（人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書274）pp.1-20，千葉：千葉大学大学院人文社会科学研究科。
- 『ユーカラ集』：金成マツ筆録・金田一京助訳注，1959-1970『アイヌ叙事詩ユーカラ集』（全9巻）東京：三省堂。

## Nabesawa-1

### 【表紙】

(右から左への横書き)

アイヌ

聖典全

昭和三年二月

### 【見返し】

北海道日高国

沙流郡新平賀 鍋澤モトアンレク

(以下, 右から左への横書き)

神大古聖語<sup>1)</sup>

(その下に縦書き)

(傳 ユカル) . . . . .

### 【1丁表】

1.	トミサンベチ・	Tomisanpeci <sup>2)</sup>	トミサンペツの
2.	シヌタブカタ・	Sinutapka ta	シヌタブカで
3.	アコットレシ・	a=kor_ turesi <sup>3)</sup>	私は妹を
4.	アレシ■バボカ	a=respa poka	育てることに
5.	エヤイコラム・	eyaykoramu <sup>4)</sup>	心を砕いて
6.	ベテツネカネ・	petetne kane	苦労して
7.	シランナワ・ <sup>5)</sup>	siran awa	いたが
8.	セドルナワ・	seturna wa <sup>6)</sup>	(妹は) 私の背中に
9.	イシベステ・	i=sipeste	大便を垂れ流し
10.	イクヒベステ・ <sup>7)</sup>	i=kuypeste <sup>8)</sup>	小便を垂れ流して、
11.	アレスバボカ・	a=respa poka	私は(妹を)育てることに
12.	エヤイコラム・	eyaykoramu-	心を砕いて
13.	ベテツネカネ・	petetne kane	苦労して
14.	アナシルエネ・	an=an ruwe ne.	いたのだ。
15.	コタンノシキタ・	kotan noski ta	村のまん中には

16.	ボンアコロユビ・	pon a=kor yupi	小さい兄さんが
17.	アナルズネ・	an ruwe ne.	暮らしている。
18.	シヌマ・ネヤッカ・	sinuma ne yakka	彼もまた
19.	トレシ・レスワ・	turesi resu wa	妹を育てて
20.	アナルズネ・	an ruwe ne.	いるのだ。
21.	コタンバワノ・	kotan pa wano <sup>9)</sup>	村の上手には
22.	ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんの
23.	ラムプアン・ニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ・
24.	イヅバンニシバ・	Yepannispa <sup>10)</sup>	イエバンニシバが
25.	アナルズネ・	an ruwe ne.	暮らしている。
26.	シヌマ ネヤッカ・	sinuma ne yakka	彼もまた
27.	トレシレスワ・	turesi resu wa	妹を育てて
28.	アナルズネ・	an ruwe ne.	いるのだ。
29.	ランマカネ・	ramma kane	いつもいつも
30.	カツコロ・カネ・	katkor kane	変わりなく
31.	オカアンヒケ	oka=an hike	暮らしていたが
32.	フチイタク・	huci itak	おばさんの言葉
33.	チホッパ・イタク・	cihoppa itak <sup>11)</sup>	言い遺した言葉は
34.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
35.	ソヤウンクル	Soyaunkur	ソヤウンクルは
36.	シネドレシヌ・	sine turesnu	一人の妹を持って
37.	アナルズネ・	an ruwe ne.	いるのだ。
38.	ネドレシ・	ne turesi	その妹は
39.	アオマ・ヤルベ・	a=oma yarpe <sup>12)</sup>	私が入ったおむつの
40.	エムコサマ・	emkosama	半分で
41.	アオレス・ルズ・	a=oresu ruwe	育てられたの
42.	ネナ・セコル・	ne na. sekor	だ、という
43.	チホッパ・イタク・	cihoppa itak	遺言を
44.	アヌコロ・アナン・	a=nu kor an=an.	私は聞いていた。
45.	オロシネアンタ・	oro sineanta	そしてある日
46.	コタンバ・ウンクル・	kotan pa un kur	村の上手に住む人 (である)
47.	イヅバン・ニシバ・	Yepannispa	イエバンニシバ・
48.	ラムプ・アン ニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ
49.	ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんが
50.	アフンルエネ・	ahun ruwe ne.	(家に) 入ってきて

51. エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
52. インカルクス・	“inkar kusu <sup>13)</sup>	「さあさあ
53. アアクトノケ・	a=ak-tonoke,	わが弟君よ,
54. イタカンチキ・	itak=an ciki	私が話すから
55. ビリカノ・ヌヤン・	pirkano nu yan.	よく聞きなさい。
56. キルイマシキン・	ki ruy maskin	あまりにも
57. ウレシバボカ	urespa poka	(妹を) 育てることに
58. アエヤイコラム・	a=eyaykoramu-	心を砕いて
59. ベテツネクス・ <sup>14)</sup>	petetne kusu	苦勞してきたので
60. エムコサマ・	emkosama <sup>15)</sup>	そのために
61. エカシ・チバサン・	ekasi cipasan	父祖の祭壇
62. チバサン・クルカ・	cipasan kurka <sup>16)</sup>	祭壇が
63. コライナタラ・	koraynatara <sup>17)</sup>	さびれて
64. キルゴアックス	ki ruwe an kusu	いるから

## 【1 丁裏】

65. ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちに
66. アチブタレ・ヤクネ・	a=ciptare yakne	船を作らせて
67. トノコウイマム	tono kouymam	和人と交易を
68. アキヤクネ・	a=ki yakne	したら
69. エカシ・ヌサカ・	ekasi nusa ka	父祖の祭壇を
70. エリキブニ・	erikipuni <sup>18)</sup>	建て直す
71. アキクスネナ・	a=ki kusu ne na.”	つもりなのだよ」
72. セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということを
73. タイゴ・カネ・	taye kane <sup>19)</sup>	言って
74. ソイワサンマ・	soywasamma	外へ
75. オシライゴ・	osiraye	出た。
76. オロワノ・	orowano	それから
77. ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちが
78. チブタフミ・	cipta humi	船をつくる音が
79. オロネ・アンベ・	oroneanpe <sup>20)</sup>	一斉に
80. ケフシタラ・ <sup>21)</sup>	keusitara	鳴り響く。
81. キロク・アイネ・	ki rok ayne	そのうちに
82. タネ・アナクネ・	“tane anakne	「今,
83. チブ・タオケレ・	cipta okere.”	船を作り終えます」
84. セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということを

85.	ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちが
86.	タイヅカネ・	taye kane	言うと
87.	コタンバ・ウンクル・	kotan pa un kur	村の上手に住む人 (である)
88.	ラムプアン・ニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ・
89.	イヅバン・ニシバ・	Yepannispa	イエパンニシパ (という)
90.	ポロアコロ・ユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんが
91.	チブ・ヌイヅ・	cip nuye	船に彫刻する (ために)
92.	マキリ・ウコアンパワ・	makiri ukoanpa wa <sup>22)</sup>	一緒に小刀を持って
93.	チブヌヅ・クス・	cip nuye kusu <sup>23)</sup>	船に彫刻するため
94.	バヅルヅネ・	paye ruwe ne.	行ったのだ。
95.	タネ・アナクネ・	tane anakne	(そして) 今や
96.	チブ・ヌヅ・オケレ・	cip nuye okere	船に彫刻し終えた
97.	キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
98.	タ■ネ・ネコロ・アナクネ・	tane anakne	今や
99.	チブ・ヌヅオケレ・	cip nuye okere	船に彫刻し終えた
100.	キルヅネ <sup>24)</sup>	ki ruwe ne.	のだ。
101.	タブネ・ネコロ・	tapne ne kor <sup>25)</sup>	そうすると
102.	カムイ・チホキ・	kamuy cihoki	クマの毛皮や
103.	ユク・チホキ・	yuk cihoki	シカの毛皮を
104.	ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちが
105.	ルラバルヅネ・	rura pa ruwe ne.	(舟に) 運ぶ。
106.	バクノ・ネコロ・	pakno ne kor <sup>26)</sup>	そこで、
107.	アカリワ・アンベ・	a=kar wa an pe <sup>27)</sup>	私は彫っていたものを
108.	アイタルコ・ツブ・	a=itarkocupu <sup>28)</sup>	ござで包んで
109.	アウカオルヅネ・	a=ukao ruwe ne.	片付けた。
110.	カムイコソソテ・	kamuy kosonte	神の小袖を
111.	アエヤイクルカサム・	a=eyaykurkasam-	自分の身に
112.	オビラサ・	opirasa <sup>29)</sup>	まとい
113.	ウオッカネクチ・	uokkanekut <sup>30)</sup>	金鎖のベルトを
114.	エアラサイネノ・	earsayneno	一卷きに
115.	アヤイコサイヅ・	a=yaykosaye	自分に巻き
116.	カムイランケタム・	kamuy ranke tam	神授の刀を
117.	アクツボケチウ・	a=kutpokeciw	帯に差し、
118.	カバルベ・カサ・	kaparpe kasa	薄手の笠
119.	カサラン【2丁表】トベブ・	kasa rantupep	笠のあご紐を

120.	アヤイコユプ・	a=yaykoyupu	ぎゅっと結んだ。
121.	バクノ・ネコロ・	pakno ne kor	そうして
122.	アコットレシ・	a=kor_ turesi	私が妹に
123.	アコイタクムヅ・	a=koytakmuye	言い残したのは
124.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
125.	アコットレシ・	“a=kor_ turesi,	「妹よ,
126.	イタカンチキ	itak=an ciki	私が話すから
127.	ピリカノ・ヌヤン・	pirkano nu yan.	よく聞きなさい。
128.	アオアッチニ・	a=oatcini	片足を
129.	アオヤ・ウシ・	a=oyausi	陸に立て
130.	アオアッチニ・	a=oatcini	片足を
131.	アオレプシ・	a=orepusi <sup>31)</sup>	沖に立てる
132.	セムコラチ・	semkoraci	ように (ためらうが)
133.	トノコタンウン・	tono kotan un	和人の村へ
134.	ウイマムアンヤクネ・	uymam=an yakne	交易に行ったら
135.	トノムヤンキ・	tono muyanki	和人の土産を
136.	ポロンノ・	poronno	たくさん
137.	エカアオセ・	e=ka a=osc <sup>32)</sup>	お前に持って帰る
138.	キクスネナ・	ki kusu ne na.	つもりだよ。
139.	イテキ・ソイネノ・	iteki soyne no	決して外に出ずに
140.	オカヤン・セコロ・	oka yan.” sekor	いるのだよ」と
141.	アコイタクムイヅ・	a=koytakmuye	言い置きを
142.	キロク・アワ・	ki rok awa	すると, (妹は)
143.	ユッポ・セコロ・	“yuppo.” sekor	「お兄ちゃん」と
144.	ハエオカコロ・	haweoka kor	言いながら
145.	アチンキケセ・	a=cinkikese	私の着物の裾に
146.	ドノイワンスイ・	tunoiwan suy <sup>33)</sup>	何度も
147.	レノイワンスイ・	renoiwan suy	幾度も
148.	オウコライヅ・	oukoraye <sup>34)</sup>	しがみついて
149.	キコロカイキ・	ki korkayki	きたけれど
150.	ドビリカ・クニプ・	tu pirka kuni p <sup>35)</sup>	多くのよいこと
151.	レビリカクニプ	re pirka kuni p	多数のよいことを
152.	チエバカシヌ・	ciepakasnu	(妹に) 教え
153.	アエカルカルヒネ・	a=ekarkar hine	諭して
154.	ソイワ・サムマ・	soywasamma	私は外に

155.	アオシライズ・	a=osiraye	出た。
156.	イヅカリノ・	i=ekari no <sup>36)</sup>	私に向かって
157.	アユプタリ・	a=yuputari	兄たちが
158.	アキルズ・	arki ruwe <sup>37)</sup>	来る様子は
159.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
160.	トノ・コシユクバ・	tono kosiyuk pa <sup>38)</sup>	和風の装束をして
161.	マシキン・クス・	maskin kusu <sup>39)</sup>	なおいっそう
162.	ルアンピトネ・	ruan pito ne <sup>40)</sup>	盛装した神に
163.	ルアンカムイネ・	ruan kamuy ne	盛装したカムイに
164.	アヌカルバカネ・	a=nukarpa kane	見えて (立派で)
165.	レン・アネワ	ren a=ne wa	私たち三人で
166.	ピシタサバンルズ・	pis ta sap=an ruwe	浜辺に出る様子は
167.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
168.	ポロ・レウイマムチブ・	poro re uymam cip <sup>41)</sup>	大きい三艘の貿易船の
169.	チブ・ホンクルカ・	cip hon kurka <sup>42)</sup>	船の胴体の表面に
170.	レプタロク・カムイ・	rep ta rok kamuy	沖に座す神
171.	ヤタ・ロク・カムイ・	ya ta rok kamuy	陸に座す神の
172.	ドノカオルケ・	tu noka orke	多くの姿
173.	レノカ・オルケ・	re noka orke	数多の姿が
174.	アエズヅカラ・	a=enuyekar	彫られている。
175.	イネロクベクス・	inerokpe kusu	なんとまあ
176.	アコロ・ユビ・	a=kor yupi	兄さんは
177.	アシカイ・カシバ・	askay kaspa	器用すぎる
【2丁裏】			
178.	シラン・ナンコラ・	siran nankor _ya	ことだろうか (と)
179.	ラヤブ・ケウドンボ・	rayap kewtumpo	感嘆の気持ちを
180.	アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	抱いた。
181.	バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
182.	ポロチカルカル・チブ・	poro cikarkar cip <sup>43)</sup>	飾られた大きな船を
183.	アドイソクルカ・	atuy so kurka	海に
184.	アコエアチウ・	a=koeaciw <sup>44)</sup>	押し出し
185.	レン・アネパワ・	ren a=ne pa wa	私たち三人は
186.	アオバ・ルズネ・	a=o pa ruwe ne.	(船に) 乗った。
187.	ウムラプカタ・	umunrap ka ta <sup>45)</sup>	船尾の上で
188.	ヲロラッキブ・	wororatiep <sup>46)</sup>	ともがいを

189.	アエヤイマクナクル・	a=eyaymaknakur-	懸命に
190.	テスバカネ・	tespa kane <sup>47)</sup>	漕いで
191.	ウサム・チブ・オッテ・	usamcip'otte <sup>48)</sup>	互いの船から
192.	アキワ・	a=ki wa	離れずに
193.	レプン・アンルエネ・	repun=an ruwe ne.	沖に出た。
194.	インカルアンヒケ・	inkar=an hike	見ると
195.	タネアナクネ・	tane anakne	今は
196.	カムイ・シクマ・	kamuy sikuma <sup>49)</sup>	神の峰が
197.	ソナビ・クンネ・	sonapi kunne	飯の高盛のように
198.	チシレアヌ・	cisireanu <sup>50)</sup>	そばえている。
199.	オロワノ・	orowano	それから (さらに)
200.	バイゴアンアイネ・	paye=an ayne	進むと
201.	タネアナクネ・	tane anakne	今度は
202.	カムイシクマ・	kamuy sikuma	神の峰が
203.	イヌンベ・クンネ・	inunpe kunne <sup>51)</sup>	炬縁のように
204.	チシドルバレ・	cisiturpare	伸びて見える。
205.	バクノ・バイゴ・アンコロ・	pakno paye=an kor	そこまで行くと
206.	コタンバウンクル・	kotan pa un kur	村の上手に住む人 (である)
207.	イゴパン・ニシバ・	Yepannispa	イエパンニシバ
208.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
209.	フムセドラ・	humse tura <sup>52)</sup>	魔払いのおたけびとともに
210.	エネイタキ・	ene itak_hi	こう言った。
211.	アアクトノケ・	“a=ak-tonoke	「わが弟君
212.	ウタリヒ・	utarihi,	たちよ,
213.	インカルクス・	inkar kusu	ほら,
214.	キムン・メトツ・	kimun metotso	山の奥
215.	メトツ・クルカ・	metotso kurka	山奥の上に
216.	ドゼンクル・ネクル	tu wen kur ne kur <sup>53)</sup>	多くの雨雲が
217.	ウコヘドク・	ukohetuku	湧き出てきた。
218.	イヨッセルケレ・	iyosserkere <sup>54)</sup>	ああ, 大変だ。
219.	キシンネヤクン・	ki sinne yakun	こうなったら
220.	キキタネクス・	kikita ne kusu <sup>55)</sup>	しかたがないから
221.	アエアシカイ・バクノ・	a=easkay pakno	できるだけ
222.	ホシッパアンナ・	hosippa=an na.”	戻るぞ」
223.	セコロオカイベ・	sekor okay pe	ということを

224.	タイゴ・カネ・	taye kane	言いながら
225.	ヘトボ・ホリカ・	hetopo horka <sup>56)</sup>	(長兄が) 後戻りして
226.	チベヤナクル・	cipeyanakur-	船を浜に
227.	アッテ・カネ・	atte kane <sup>57)</sup>	漕ぎ戻すと
228.	アオカネヤッカ・	aoka ne yakka <sup>58)</sup>	私たちもまた
229.	チベヤナ・アッテ・	cipeyanaatte	船を浜に漕ぎ
230.	アンルゴネ・	=an ruwe ne.	戻した。
231.	ボンノヤブアンコロ・	ponno yap=an kor	少し戻ると
232.	タンポロ・レラ・	tan poro rera	大風が
233.	アDOI【3丁表】カ・	atuy ka	海の上に
234.	オシマ・キシリ・	osma ki siri	吹きつける様子は
235.	エネオカヒ・	ene oka hi	このようだ。
236.	アDOIソ・クルカ・	atuy so kurka	海面の上は
237.	チバド・バド・	cipatupatu <sup>59)</sup>	大荒れとなり
238.	サツバシ・クンネ・	satupas kunne <sup>60)</sup>	雪山のように
239.	カンナ・アDOI・	kanna atuy	海面が
240.	チラウ・オラリ・	ciraw'orari <sup>61)</sup>	深く沈み込み
241.	ボクナ・アDOI・	pokna atuy	海の底が
242.	チリキプス・	cirikipusu <sup>62)</sup>	高く沸きあがる
243.	セムコラチ・	semkoraci	かのよう
244.	ネルゴネ・	ne ruwe ne.	なのだ。
245.	ヤヲマブ・カムイ・	yaomap kamuy <sup>63)</sup>	岸を打つ大波は
246.	イワテックンネ・	iwatek kunne <sup>64)</sup>	連なる山のように
247.	アルタブコクル・	arutapkokur-	並んで
248.	エトソスケ・	etososke <sup>65)</sup>	揺れ動いている。
249.	ゴンベウブン・	wen peupun <sup>66)</sup>	激しいしぶきが
250.	カントコトル・	kanto kotor	空に
251.	エゴシノイゴ・	ewesinoye <sup>67)</sup>	巻き上がっては
252.	ヘトボ・ホリカ・	hetopo horka <sup>68)</sup>	真っ逆さまに
253.	アDOIソクルカ・	atuy so kurka	海面へ
254.	ルヤンベサシネ・	ruyanpe sas ne <sup>69)</sup>	豪雨が降るように
255.	エラン・フムコンナ・	eran hum konna	落ちる音が
256.	サシナタラ・	sasnatara	ザーザーと鳴る。
257.	アユブタリ・	a=yuputari	私が兄さんたちと
258.	ドラノ・カイキ・	turano kayki	いっしょに

259.	ベウレ・フムセ・	pewre humse <sup>70)</sup>	若いおたけびで
260.	アエヤイラムコトル・	a=eyayramkotor-	心を
261.	メゴヒタラ・	mewehitara <sup>71)</sup>	奮い立たせる (と)
262.	ラムパン・ニシバ・	Ramupannispa	ラムパンニシパ
263.	アコロ ユビ・	a=kor yupi	兄さんは
264.	エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
265.	イキネイベカ・	“ikineypeka	「決して
266.	ウオヤク・オシマ・	uoyak osma <sup>72)</sup>	離れ離れに
267.	アンヤクゼンナ・	=an yak wen na. <sup>73)</sup>	ならないように。
268.	ウサ■ム・チブ・オッテ・	usamcip’otte	互いの船の
269.	アキクスネナ・	a=ki kusu ne na.”	近くにしよう」
270.	アリオカイベ・	ari okay pe <sup>74)</sup>	ということを
271.	タイゴ・カネ・	taye kane	言うど
272.	オロワノ・	orowano	それからは
273.	クンネヘネ・	kunne hene	夜も
274.	トカブヘネ・	tokap hene	昼も
275.	オルフナクン・	or hunak un	どこへなのか
276.	マウサママ・	mawsamama <sup>75)</sup>	風に横様に吹き
277.	アキロク・アイネ・	a=ki rok ayne	つけられたあげく、
278.	ソモスイクスン・	somo suy kusun <sup>76)</sup>	まさか
279.	シリキ・クニ・	sirki kuni	そうなるとは
280.	アムアワ・ <sup>77)</sup>	a=ramu awa	思わなかったのに
281.	ボンアコロユビ・	pon a=kor yupi	小さい兄さんが
282.	チブ・ウブソルン・	cip upsor un	船の中へ
283.	エシッチウ・シリコ・	esitciw sir ko <sup>78)</sup>	頭から倒れて
284.	ムルコサムバ・	murkosanpa <sup>79)</sup>	ばったりと伏して
285.	キロク・クス・	ki rok kusu	しまったので
286.	ポロ・アコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんが
287.	オドシ・ゼンバ・	otu siwenpa <sup>80)</sup>	何回も叱責を
288.	オレシ・ゼンバ・	ore siwenpa	何度も悪口を
289.	シロタツパ・ハゴ・	sirotatpa hawe <sup>81)</sup>	ぶちまける声は
290.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
291.	アゼン・【3丁裏】アアキヒ・	“a=wen a=akihi	「わが愚弟は
292.	ゼンノ・カシバ・	wenno kaspa	駄目すぎ
293.	ハウケ・カシバ・	hawke kaspa	弱すぎ

294.	キシリアン	ki siri an?"	ではないか]
295.	セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということ
296.	タイゴ・キコロ・	taye ki kor	言う
297.	ボンアコロユビ・	pon a=kor yupi	小さい兄さんが
298.	オア・チブ・	o a cip	乗っている船を
299.	シトムコテ・	sitomkote <sup>82)</sup>	自分の船に繋いだ。
300.	ネイタ・バクノ・	neyta pakno	いつまでも
301.	ベウレ・フムセ・	pewre humse	若いおたけびで
302.	アエイラム・コトル・	a=eyayramkotor-	心を
303.	メウバカネ・	mewpa kane	奮い立たせて
304.	キロクアイネ・	ki rok ayne	いるうちに
305.	ウオヤクンマ・	uoyak un _wa <sup>83)</sup>	別々の所へと
306.	マウサママ・	mawsamama	風に横様に吹き
307.	アキロクアワ・	a=ki rok awa	つけられたが
308.	ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんは
309.	ハウケ・ホドイゴ・	hawke hotuye	弱い呼び声
310.	ルイホドイゴ・	ruy hotuye	強い呼び声を
311.	ウカクシテ	ukakuste <sup>84)</sup>	何度も重ねて
312.	エネオカヒ・	ene oka hi	こう言った。
313.	アアクトノケ・	"a=ak-tonoke,	「わが弟君よ、
314.	ルイノ・モイモイケ・	ruyno moymoyke	激しく働き
315.	イルノシザリ・ <sup>85)</sup>	ruyno sicari	激しく奮闘
316.	エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	するのだよ。
317.	イキネイベカ・	ikineypeka	決して
318.	アナンラボク	ananrapok <sup>86)</sup>	負けては
319.	エカリキナ・	e=kari ki na."	いけないよ]
320.	セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということ
321.	タイゴカネ・	taye kane	言って
322.	オロワノ	orowano	それから
323.	オルフナクン・	or hunak un	どこへなのか
324.	マウサママ・	mawsamama	風に横様に吹き
325.	アキアイネ・	a=ki ayne	つけられるうちに
326.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんたちは
327.	アヌカル・フミカ・	a=nukar humi ka	見えも
328.	イサムルゴネ・	isam ruwe ne.	しなくなった。

329.	タブネカネ・ <sup>87)</sup>	tapne kane	こうして
330.	レンアネワ・	ren a=ne wa	私たち三人は
331.	ドベスイ・クロル・	tu pesuykuror <sup>88)</sup>	何度も波間に沈み
332.	レベスイクロル・	re pesuykuror	何回も波間に沈み
333.	アイカルバレコル・	a=i=karpare kor	させられると
334.	オルフナクン・	or hunak un	どこへなのか
335.	マウサママ・	mawsamama	風に横様に吹き
336.	アキロク・アイネ・	a=ki rok ayne	つけられるうちに
337.	アケウトムコンナ・	a=kewtumkonna	私の気持ちは
338.	コスンナ・タラ・	kosumnatara <sup>89)</sup>	しおれてしまい
339.	ノイナタラ・	noynatara <sup>90)</sup>	フラフラになった。
340.	キロク・アイネ・	ki rok ayne	そうしたあげく
341.	エネ・アシクニヅ・	ene as kuni p <sup>91)</sup>	どうしたものか
342.	アアツライヘ・	a=attaraye <sup>92)</sup>	気が遠くなり
343.	モコロヘネヤ・	mokor he ne ya	眠ったものか
344.	ライヘネヤ・	ray he ne ya	死んだものか
345.	アエコンラム・	a=ekonramu <sup>93)</sup>	私の心が
346.	シツネアイネ・	sitne ayne	もつれるうちに
347.	ネヅ・フミヒ・	nep humihi	何かの音
348.	ネヅハヱヘ・	nep hawehe	何かの声で
349.	アコンラム・	a=konramu	心が
350.	シツネアイネ・	sitne ayne	もつれたあげくに

## 【4丁表】

351.	コヤイシカルン・	koyaysikarun <sup>94)</sup>	意識を
352.	アキクス・	a=ki kusu	取り戻すと
353.	ラムパン・ニシバ・	Ramupannispa	ラムパンニシパ
354.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
355.	ポロトマカシ・	poro tomakas	大きな仮小屋を
356.	カンロクオカ・	kar_rok'oka	作っていたのだ。
357.	オロタネシ・	oro ta nesi	そこで
358.	アベテksamタ・	ape teksam ta	火のそばで
359.	リ・チニヌイベ・	ri cininuype	私は高い枕を
360.	アイヱアヌワ・	a=i=eanu wa <sup>95)</sup>	あてがわれて
361.	オロサムコンナ・	orsamkonna <sup>96)</sup>	そこで
362.	コヤイシカルン・	koyaysikarun	私は意識を

363.	アキ■ルエネ・	a=ki ruwe ne.	取り戻したのだ。
364.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
365.	ウセイカルワ・	usey kar wa	お湯を沸かして
366.	アバロオotte・	a=paro otte <sup>97)</sup>	私に飲ませて
367.	キロクアイネ・	ki rok ayne	くれたあげく
368.	タネアナクネ・	tane anakne	今や
369.	シキヌ・ドサ・	siknu tusa <sup>98)</sup>	生き返り, 治るよう
370.	アウレンカレ・ルエネ・	a=urenkare ruwe ne.	計らってもらった。
371.	アアクトノケ・	“a=ak-tonoke,	「わが弟君よ,
372.	ネコンイキヤ・	nekon iki ya	どうしたことか
373.	アエラミシカリ・	a=eramiskari	私にはわからない
374.	キルゴタバン・	ki ruwe tapan.”	のです」
375.	ネヒサマタ・	ne hi sama ta <sup>99)</sup>	そこで
376.	インカル・アンヒケ・	inkar=an hike	見ると
377.	アエラミシカリップ・	a=eramiskari p	見知らぬところ
378.	イキコロカ・	iki korka	ではあるが
379.	ソヤコタン・	Soya kotan	ソヤ村の
380.	トマリサマ・	tomari sama	港の近くに
381.	アオヤブルゴ・	a=oyap ruwe	上陸した
382.	ネコトムノ・	ne kotomno	ように
383.	アエサンニヨ・	a=esanniyo	思われた。
384.	インカランヒケ・	inkar=an hike	見たところ
385.	ネコンネルゴ・	nekon ne ruwe	一体どういうこと
386.	ネナンコラ・	ne nankor _ya?	なのだろうか。
387.	インネチブ・ウタラ・	inne cip utar	おびたらしい船が
388.	アヤブテ・ルゴ・	a=yapte ruwe <sup>100)</sup>	上陸する様子は
389.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうなのだ。
390.	ホシキヤンチブ・	hoski yan cip	先に上陸する船は
391.	マクン・マサル・	makun masar <sup>101)</sup>	奥の浜辺に
392.	アコエタイゴ・	a=koetaye	引き上げられ
393.	ドタヌ・ヤンチブ・	tutanu yan cip	次に上陸する船は
394.	サンケマサル・	sanke masar	手前の浜辺に
395.	アコエタイゴ・	a=koetaye	引き上げられ
396.	ドタヌ・ヤンチブ・	tutanu yan cip	次に上陸する船は
397.	サトタカ・	sat ota ka	乾いた砂浜の上に

398.	アコエタイヘ・	a=koetaye <sup>102)</sup>	引き上げられ
399.	ドタヌ・ヤンチブ・	tutanu yan cip	次に上陸する船は
400.	テイネ・オタカ・	teyne ota ka	湿った砂浜の上に
401.	アコエタイゴ・	a=koetaye	引き上げられ
402.	ドタヌ・ヤンチブ・	tutanu yan cip	次に上陸する船は
403.	オリリ・シタイキ・	orirsitayki <sup>103)</sup>	波に打たれている。
404.	インネ・チブ・ウタラ・	inne cip utar	おびたらしい船が
405.	アヤブテキワ・	a=yapte ki wa	陸に上げられて
406.	オカルゴネ・	oka ruwe ne.	いるのだ。
407.	コヨヤモクテ・	koyoyamokte	不思議に
408.	アキカネコロ・	a=ki kane kor	思っ
409.	オカアン・アワ・■	oka=an awa	いたが

## 【4丁裏】

410.	シネアントタ・	sineantota	ある日のこと
411.	ルゴサンカタ・	ruwesani ka ta <sup>104)</sup>	浜への下り口に
412.	ピラッカ・ウシクル・	pirakka us kur <sup>105)</sup>	下駄を履いた人が
413.	アキキ・フミ・	arki humi	来る音は
414.	チドナシカ・	citunaska <sup>106)</sup>	急いでいるようで
415.	カシ・アバオッタ・	kas apa or_ ta	仮小屋の戸のところに
416.	アキキ・キコロ・	arki ki kor	来ると
417.	ドノイワンスイ・	tu noiwan suy	何十回も
418.	レノイワン・スイ・	re noiwan suy	何十回も
419.	アバアクカリ	apa akkari	戸を通りすぎる。
420.	アフン・ヌクリブ・	ahun nukuri p	入りにくいもの
421.	チエソネレ・	ciesonere <sup>107)</sup>	とおほしく
422.	キロク・アイネ・	ki rok ayne	そうしたあげくに
423.	ドイドカリ・	toy tukari <sup>108)</sup>	身をかがめながら
424.	エアバ・マクバ・	eapamakpa	戸を開けて
425.	アフ■ン・ルゴネ・	ahun ruwe ne.	入ってきたのだ。
426.	アイヌビト・	aynu pito <sup>109)</sup>	立派な人
427.	アンナンコラ・	an nankor _ya?	だろうか。
428.	シレドク・ドラ・	siretok tura	美貌であり
429.	ラメトク・トラ・	rametok tura	勇壮であり
430.	アコエラヤブ・クル・	a=koerayap kur	感嘆するような人
431.	イキコロカイキ・	iki korkayki	なのだが

432.	チウテキ・ニシバ・	ciwtek nispa <sup>110)</sup>	使者の長
433.	チエソネレ・	ciesonere	とおほしく
434.	エドメクカシ・	etumekkasi <sup>111)</sup>	鼻筋には
435.	ゼンクル・ミントム・	wenkur mintum <sup>112)</sup>	卑しい人の顔色を
436.	ホマリタラ・	homaritara	かすかに
437.	オマ・ルヱネ・	oma ruwe ne.	帯びている。
438.	タバンベ・クス・	tapanpe kusu	そのため
439.	ウッシウ・ネルヱ・	ussiw ne ruwe	召し使いであることが
440.	アエラムアン・	a=eramuan	わかった。
441.	センニ・トニ・	senne toni <sup>113)</sup>	決して兄のほうに
442.	コシケプニ・	kosikepuni <sup>114)</sup>	目を上げることを
443.	ソモキノボ・	somo ki nopo	しないで
444.	オリバク・キワ・	oripak ki wa	おそれ慎んで
445.	オカロク・アワ・	oka rok awa	いると
446.	アコロユビ■・	a=kor yupi	兄さんは
447.	エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
448.	ネプクス・	“nep kusu	「何のために
449.	エアフン・ルヱアン・	e=ahun ruwe an?	お前は来たのだ？
450.	ドナシ・イタク・	tunas itak.	早く話せ。
451.	イタク・モイレクル・	itak moyre kur	話すのが遅い人は
452.	イタク・エトコ・	itak etoko	話す前に
453.	コトヱ・ラメトク・	kotuye rametok	切る勇者が
454.	アネルエネ・	a=ne ruwe ne.	私であり
455.	イタキ・ドナシ・クル・ <sup>115)</sup>	itak tunas kur	話すのが早い人は
456.	イタク・オカケ・	itak okake	話した後で
457.	コドイヱ・ラメトク・	kotuye rametok	切る勇者が
458.	アネナ・	a=ne na. <sup>116)</sup>	私なのだよ。
459.	トナシノ・イタク・	tunasno itak.”	早く話せ」
460.	セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということを
461.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
462.	イヱロク・クス・	ye rok kusu	言ったので
463.	ケウトム・コンナ・	kewtum konna	意を
464.	ユプコサヌ・	yupkosanu <sup>117)</sup>	決して
465.	ウッシウ・ニシバ	ussiw nispa <sup>118)</sup>	召し使いの長は

## 【5丁表】

466. エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
467. ソヤウンクル・	“Soyaunkur	「ソヤウンクル
468. アコロニシバ・	a=kor nispa	ご主人様が
469. イウテク・ハヅ・	i=utek hawe	私を思い出して
470. エネオカヒ・	ene oka hi	こう言いました。
471. トミサムベツ・	‘Tomisanpet	『トミサンベツ
472. シスタ■ブカタ・	Sinutapka ta	シスタツカの
473. アイリワク・ウタニシバ・	a=irwak nispa <sup>119)</sup>	私の兄弟の長者
474. アイリワクトノ・	a=irwak tono	私の兄弟の旦那が
475. オマナン・ヤク・	omanan yak <sup>120)</sup>	いらしていると
476. アイヅ・クス・	a=ye kusu	言うことだから
477. ポントノト・	pon tonoto	少しばかりの酒を
478. アカリ・ヤクネ <sup>121)</sup>	a=kar yakne	造ったら
479. アイリワク・ニシバ・	a=irwak nispa,	私の兄弟の長者よ、
480. アエヌカル・	a=e=nukar	あなたに会う
481. クス・ネナ・	kusu ne na.	つもりですよ。
482. ボンノ・イテレ・	ponno i=tere	少し待って
483. イコロバレヤン・セコロ・	i=korpore yan.’ sekor	ください』と
484. アコロ・ニシバ・	a=kor nispa	私の主人が
485. イユテク・ <sup>122)</sup>	i=utek	私を使いによこした
486. ルヅネナ・セコル・	ruwe ne na.” sekor	のですよ』と
487. ウッシウ・■ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長が
488. イタク・ルヅネ・	itak ruwe ne.	言った。
489. イヨヌイタサ・	ionuytasa <sup>123)</sup>	今度は代わって
490. アコロ ユビ・	a=kor yupi	兄さんが
491. ㊦ネビリカ・ハヅネ・	“pirka hawe ne.”	「いいですね」
492. セコロイタク・ルヅネ・	sekor itak ruwe ne.	と言った。
493. ビルカ・ソンコネ・	pirka sonko ne	(それを) 良い返事として
494. ■エホシビ・	ehosipi	(使者は) 戻った
495. キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
496. オロワネシ・	orowa nesi	それから
497. ボンノ・シランコル・	ponno siran kor <sup>124)</sup>	しばらくして
498. カンナ・ルイノ・	kanna ruyno	再び
499. ビラッカ・ウシクル	pirakka us kur	下駄を履いた人が

500.	エクフムコンナ・	ek hum konna	来る音は
501.	チドナシカ・	citunaska	急いでいるようだ。
502.	アバチマカ・	apa cimaka	戸が開いて
503.	ネアオックアイボ・	nea okkaypo	例の若者が
504.	アフン・ルヅネ・	ahun ruwe ne.	入ってきて
505.	エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
506.	アコロニシバ・	“a=kor nispa <sup>125)</sup>	「私の主人が
507.	アリキ・ヤクネ・	‘arki yakne	『(客が) いらしたら
508.	トノト・アニ・	tonoto ani	杯を
509.	ウヌカル・アンナ・セコロ・	unukar=an na.’ sekor <sup>126)</sup>	交わそうよ』と
510.	アコロ・ニシバ・	a=kor nispa	私の旦那様が
511.	イウテク・ルヅネナ・	i=utek ruwe ne na.”	私を使わしましたよ」
512.	セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということを
513.	タイヅカネ・	taye kane	言うと
514.	アコロ・ユビ・	a=kor yupi	兄さんは
515.	コシムシシカ・	kosimusiska <sup>127)</sup>	(賛同の) 咳払いを
516.	キルヅネ・	ki ruwe ne.	した。
517.	オロワ・ネシ・	orowa nesi	そして (酒宴に行くため)

【5丁裏】

518.	バヅアンヒケ・	paye=an hike	私たちが出かけると
519.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長が
520.	ホシキ・アルバ・	hoski arpa	先に行き
521.	オドタス・	otutanu	その次に
522.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
523.	アルバルエネ・	arpa ruwe ne.	行く。
524.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
525.	カッコロ・シリ・	katkor siri <sup>128)</sup>	振る舞う様子は
526.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
527.	コロ・ヅン・ブリ・	kor wen puri <sup>129)</sup>	彼の憤怒が
528.	エナンクルカシ・	enankurkasi <sup>130)</sup>	顔面に
529.	イブキ・タラ・	ipukitara <sup>131)</sup>	ありありと浮かぶ。
530.	ネヒコラチ・	ne hi koraci <sup>132)</sup>	それとともに
531.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長の
532.	ケスビヒ・	kesupihi	かかとを
533.	ルイノ・オテルケ・	ruyno oterke	激しく踏みつけ

534.	ハウケノ・オテルケ・	hawkeno oterke	弱く踏みつける。
535.	ネヒコラチ・	ne hi koraci	それにつれて
536.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長の
537.	ケスビヒ・	kesupih	かかとが
538.	ポロノ・アメス・	porono a=mesu	大きくむしられ
539.	ボンノ・アメス・	ponno a=mesu	小さくむしられ
540.	キコク・クス・ <sup>133)</sup>	ki rok kusu	したので
541.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長が
542.	ヤイタブ・クルカ・	yaytapkurka-	自分の肩ごしに
543.	エコホサリ・	ekohosari	振り返り
544.	クルカシケ・	kurkasike <sup>134)</sup>	ながら
545.	イタコハズ・	itako hawe	言ったことは
546.	エネオカヒ・	ene oka hi <sup>135)</sup>	こうだ。
547.	タンベ・レコル・	“tanpe rekor <sup>136)</sup>	「これがいわる
548.	テルケ・イビシ・	terke ipisi <sup>137)</sup>	跳ねとぶ尋問
549.	ホプニ・イビシ・	hopuni ipisi	飛ぶ尋問
550.	ネシリ・ネヤクン・	ne siri ne yakun	であるなら
551.	エネカドフ・	ene katuhu <sup>138)</sup>	あのことを
552.	アエチヌレ・ハズ・	a=eci=nure hawe	お聞かせ
553.	ネヒタパンナ・	ne hi tapan na.”	しましようね」
554.	セコロ・イタクコロ・	sekor itak kor	と言うと
555.	エネオカヒ・	ene oka hi	こう語った。
556.	レプイシリ・ウンクル・	“Repuysir’unkur <sup>139)</sup>	「レプンシリウンクルが
557.	チブシネ・ワンホツ・	cip sine wanhot <sup>140)</sup>	船何百艘
558.	ウタットラワ・	utar_ tura wa <sup>141)</sup>	とともに
559.	ヤルズネ・	yan ruwe ne.	上陸して
560.	マテトン・イタキ・	matetun itak <sup>142)</sup>	嫁取りの話を
561.	キルズネ・	ki ruwe ne.	してきたのです。
562.	ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
563.	アコロニシバ・	a=kor nispa	ご主人様は
564.	エネイタクヒ・	ene itak hi	こう答えました。
565.	トミサム・ベチ・	‘Tomisanpeci	『トミサンベツの
566.	シスタブカ・ウンクル・	Sinutapkaunkur	シスタブカウンクルの
567.	ボニウネ・ニシバ・	poniwne nispa	年下の首領が
568.	アコットレシ・	a=kor_ turesi	私の妹の

569.	アコレスキワ・	a=koresu ki wa <sup>143)</sup>	許婚として育てられて
	【6丁表】		
570.	シラン・ルズネ・	siran ruwe ne.	いるのです。
571.	オアラナクネ・	oar anakne <sup>144)</sup>	(だから) まったく
572.	ズン・ハズネ・	wen hawe ne.ʻ	無理な話です』(と)
573.	ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル様は
574.	イタクロク・アワ・	itak rok awa	話したのですが
575.	ドマッケサマ・	tumakkesama	(相手は) 何としても
576.	コドズ・エネオカヒ・	kotuye ene oka hi <sup>145)</sup>	聞かず、こう言いました。
577.	アシヌマ・アナク・	ʻasinuma anak	『私は
578.	ウタリインネベ・	utari inne pe <sup>146)</sup>	仲間が多いもの
579.	アネルエネ・	a=ne ruwe ne.	なのです。
580.	ネヒサマタ・	ne hi sama ta <sup>147)</sup>	さらに
581.	ヌブルベ・アネワ・	nupur pe a=ne wa	私は巫者であって
582.	トイドム・クシベ・	toy tum kus pe	土中を通るものは
583.	ドスエ・プス・	tusuepusu <sup>148)</sup>	巫術であばき出し
584.	ニソルクシベ・	nisor kus pe	天空を通るものは
585.	ドスエ・ランケ・	tusueranke	巫術で落とす
586.	バクノ・ヌブルクル・	pakno nupur kur	ほど巫力が強い者
587.	アネルエネ・	a=ne ruwe ne.	なのです。
588.	セコランクス・	sekor an kusu	ということなので
589.	ネプトミヒ・	nep tumihi	何かの戦争に
590.	エコアン・ヤクカ・	e=koan yakka <sup>149)</sup>	あなたが見舞われても
591.	アケツピロルケ・	a=keppirorke	私の力添えて
592.	エチ・エドサ[キサ/ルエ]・	eci=etusa ruwe <sup>150)</sup>	無事でいられること
593.	ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.	でしょう。(けれど)
594.	エコバン・ヤクネ・	e=kopan yakne	(嫁入りを) 断ったら
595.	エネアン・クニ・	ene an kuni	こうなりますよ。
596.	エコラ・コタン・	e=kor a kotan	あなたの村は
597.	アコイキクス・	a=koyki kusu	襲われ
598.	アズンテクス・	a=wente kusu	荒らされ
599.	ネヒタ■バンナ・	ne hi tapan na.	ますよ。
600.	エコラ・コタン・	e=kor a kotan	あなたの村が
601.	アズンテ・ヤクカ・	a=wente yakka	荒らされても
602.	ピリカ・ヤクン・	pirka yakun	いいのなら

603.	エコバン・ルエ・	e=kopan ruwe	(結婚の話を) 拒否するの
604.	ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.ʼ	ですね』
605.	アリノカネ・	arino kane	と
606.	レプイシリ・ウンクル・	Repuysirʼunkur	レプンシリウンクルは
607.	イタク・ルエネ・	itak ruwe ne.	話すのです。
608.	ソヤ・ウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
609.	アコロアニシバ・	a=kor a nispa	ご主人様 (すなわち)
610.	ウタリ・サク・ニシバ・	utar sak nispa <sup>151)</sup>	仲間がいない主人は
611.	エネ・イゴヒカ・	ene ye hi ka	どう言い逃れも
612.	イサム・ルゴネ・	isam ruwe ne. <sup>152)</sup>	できませんでした。
613.	コットレシ・	kor_ turesi	妹を
614.	アコエドン・クニ・	a=koetun kuni	結婚させることに
615.	コラムオシマ・	koramuosma	同意した
616.	キルゴネ・	ki ruwe ne.	のです。
617.	タバンベ・クス・	tapanpe kusu	そこで
618.	ウヌカル・サケ・	unukar sake <sup>153)</sup>	結婚の酒
619.	ウゴチウサケ・	ueciw sake <sup>154)</sup>	婚礼の酒を
620.	アカシルゴネ・	a=kar_ ruwe ne.	醸しているのです。
621.	ネラポッタ・	ne rapok ta	その間に
622.	エチ・アリキ・[6丁裏]ルゴ・	eci=arki ruwe	来ていただくの
623.	ネヒ・タバンナ・	ne hi tapan na.	ですよ。
624.	エチヌルスイ・クス・	eci=nu rusuy kusu	(この話を) 聞きたくて
625.	エチイキブ・ネクス・	eci=iki p ne kusu <sup>155)</sup>	ああしたのしょうから
626.	アイゴ・ハウゴ・	a=ye hawe	私は話したの
627.	ネヒ・タバンナ・	ne hi tapan na.ʼ	ですよ』
628.	アリノ・カネ・	arino kane	と
629.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長が
630.	イタク・ロックス・	itak rok kusu	言ったので
631.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
632.	エネ・イタクヒ・	ene itak hi	こう言った。
633.	セコロ・ネハウゴ・ネワ・	“sekor ne hawe ne wa.	「そういうことか。
634.	ネプロルンベ	nep rorunpe	何かの戦に
635.	イコアン・チキ・	i=koan ciki	我々が見舞われたら
636.	イコバクサマ・	i=kopaksama	私たちの味方を
637.	エオシライゴ・	e=osiraye <sup>156)</sup>	する

638.	エラム・ヤクン・	e=ramu yakun	心持ちなら
639.	ネノエイヅ・	nenno e=ye	そう言え。
640.	オロワ・ウンスイ・	orowaun suy	そして
641.	エコパン・セコル・	e=kopan sekor	それを拒むと
642.	エヤイス・ヤクン・	e=yaynu yakun	考えているなら
643.	タンテ・ボタ・	tantepo ta <sup>157)</sup>	すぐここで
644.	アエトイコ・タタ・	a=e=toykotata	お前をひどく刻む
645.	キクスネナ・	ki kusu ne na.”	つもりだぞ」
646.	セコロ・オカイベ・	sekor okay pe	ということを
647.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
648.	イヅロク・クス・	ye rok kusu	言ったので
649.	ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長は
650.	エネ・イタクヒ・	ene itak hi	こう言った。
651.	アコロ・ニシバ・	“a=kor nispa	「私の主人の
652.	コバクサモルケ・	kopaksam orke	ほうの
653.	アオシライヅ・	a=osiraye	味方を
654.	キクニヒ・	ki kunihi	しようと
655.	アラム・クスタシ・	a=ramu kusu tas <sup>158)</sup>	思ったからこそ
656.	エネカドフ・	ene katuhu	このような有様を
657.	アイヅ・ハウヅ・	a=ye hawe	私はお話した
658.	ネヒタパンネク・	ne hi tapan nek.”	のですよ」
659.	アリノ・カネ・	arino kane	と
660.	ウッシウニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長は
661.	イタク・ルヅネ・	itak ruwe ne.	言った。
662.	イヨヌイタサ・	ionuytasa <sup>159)</sup>	今度は代わって
663.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
664.	エネイタクヒ・	ene itak hi	こう言った。
665.	ハヅネヤクン・	“hawe ne yakun <sup>160)</sup>	「そういうことなら
666.	タネ・テワノ・	tane te wano	今ここからは
667.	ウッシウニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長を
668.	アレコカド・	a=reko katu	呼ぶのには
669.	エネアン・クニ・	ene an kuni	こうしよう。
670.	ケスプ・サクニシバ・	Kesupsaknispa <sup>161)</sup>	ケスプサクニシバ
671.	セコロ・アレコ・クス・	sekor a=reko kusu	と呼ぶことに
672.	ネヒタパンナ・	ne hi tapan na.	しましようよ。

673.	アシヌマ・アナク・	asinuma anak	私は
674.	テルケ・イビシ・セコル・	Terkeipisi sekor <sup>162)</sup>	テレケイビシと
675.	アレヘ・アンナ・	a=rehe an na.”	いう名になるね」
676.	セコロ・オカ【7丁表】イベ・	sekor okay pe	ということを
677.	アコユビ・ <sup>163)</sup>	a=kor yupi	兄さんが
678.	イタクキコロ・	itak ki kor	話すと
679.	ゼンミナハウ・	wen mina haw <sup>164)</sup>	大笑いの声を
680.	アウコブンバ・	a=ukopunpa	みんなであげつつ
681.	バゼアンルゼネ・	paye=an ruwe ne.	行ったのだ。
682.	アコロユビ・	a=kor yupi	(やがて) 兄さんが
683.	ホシキノボ・	hoskinopo	最初に
684.	アフン・ルゼネ・	ahun ruwe ne. <sup>165)</sup>	(家に) に入った。
685.	オシノアフナン・ルゼ・	osino ahun=an ruwe	後から私が入ると
686.	エネオカヒ・	ene oka hi	こんな様子だった。
687.	タン・ポロチセ・	tan poro cise	この大きな家の
688.	ウプソ・ロールケ・	upsor orke	中には
689.	セシケムレ・	seskemure <sup>166)</sup>	ひしめくほど
690.	インネウタラ・	inne utar	多くの人々が
691.	オカルゼネ・	oka ruwe ne.	いるのだ。
692.	ロク・アंकニヒ・バテク・	rok=an kuni hi patek	私たちが座るべき所だけ
693.	シチミサラ・	sicimisara <sup>167)</sup>	空いている (?)
694.	シラン・ルゼネ・	siran ruwe ne.	様子だ。
695.	アコロユビ・ドラノ・	a=kor yupi turano	(その席に) 兄さんと一緒に
696.	ロクアンルゼネ・	rok=an ruwe ne.	座った。
697.	ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル (という)
698.	アイヌビト・	aynu pito	立派な方が
699.	ピリカ・ルエ・	pirka ruwe	すばらしいことに
700.	アコエラヤブ・	a=koerayap	私は感嘆
701.	キルゼネ・	ki ruwe ne.	した。
702.	レブン・シリ・ウンクル・	Repunsir'unkur	レブンシリウンクルに
703.	アアリコトムカブ・	aarkotomka p <sup>168)</sup>	違くない者 (すなわち)
704.	アイヌ・ビト・	aynu pito	立派な人物は
705.	アシノ・ピンニ・	asno pinni <sup>169)</sup>	屹立するヤチダモの
706.	シコバヤラ・	sikopayar	よう (に立派) で
707.	カネ・ハヨクベ・	kane hayokpe	金の鎧を

708.	エトмамカシ・	etumam kasi <sup>170)</sup>	体の上に
709.	コテシナトラブ・	kotesnatara p <sup>171)</sup>	きちんと着ている者が
710.	アシルエネ・	as ruwe ne.	立っているのだ。
711.	ネイケ・フイケ・	neyke huyke <sup>172)</sup>	どこからどこまでも
712.	イタク・クシ・ウヅ・ <sup>173)</sup>	itak kus ruwe	文句の言いようの
713.	オアラリサムベ・	oararisam pe	全くないものが
714.	アンルヅネ・	an ruwe ne.	いたのだ。
715.	ウタシバ・バクノ・	utaspa pakno	(彼は) お互いに
716.	ウヅカブ・イタク・	uekap itak <sup>174)</sup>	挨拶を
717.	アコロユビ・ドラノ・	a=kor yupi turano	私の兄さんと
718.	キパ・ルヅネ・	ki pa ruwe ne.	しあった。
719.	バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
720.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんを
721.	シントコ・オシマク・	sintoko osmak <sup>175)</sup>	シントコの後ろに
722.	アオランラニ・	a=oranrani <sup>176)</sup>	座らせた。
723.	アシヌマ・アナク・	asinuma anak	私は
724.	ソバワノ・	sopa wano	上座に(ある)
725.	エアルソ・ネノ・	ear sone no <sup>177)</sup>	一人用の座に
726.	カバルベオッチケ・	kaparpe otcike <sup>178)</sup>	立派なお膳と
727.	カバルベ・ドキ・	kaparpe tuki	立派な杯が
728.	オウシ・ヒネ・	ous hine <sup>179)</sup>	置いてあるので
729.	アヤイベカレ・	a=yaypekare <sup>180)</sup>	(そこに) 向かった
730.	キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
731.	シサク・トノト・	sisak tonoto <sup>181)</sup>	(すると) 最高の酒宴が
732.	アウコ・マクテツカ・	a=ukomaktekka <sup>182)</sup>	開かれた。
733.	ソヤ・【7丁裏】ウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
734.	コツレシ・	kor_ turesi	の妹は(なんと)
735.	メノコサニ・	menoko sani <sup>183)</sup>	美しい女
736.	アンナンコラ・	an nankor_ ya?	だろうか。
737.	カムイ・チキルベ・	kamuy cikirpe	立派な着物を
738.	アルトム・チウレ・	ar utomciwre <sup>184)</sup>	一枚羽織り
739.	カムイ・チバナブ・	kamuy cipanup	立派な鉢巻を
740.	エルリキクル・	erurikikur-	かぶって髪を
741.	ラヅヒタラ・	rayehitara <sup>185)</sup>	押さえ、
742.	タンバナバ・	tanpa ne pa <sup>186)</sup>	今年あたりに

743.	シノツスマツポ・	sinotnumatpo	遊びの胸紐を
744.	エリコマレ・	erikomare	高くあげる
745.	バクノアン・	pakno an	くらいの(年頃の)
746.	ビリカ・メノコ・	pirka menoko	美しい女で、
747.	タネポタバネ・	tanepo tapne	初めて
748.	チセタドレシ・	cisetatures <sup>187)</sup>	家にいる妹に
749.	エシリカ・バクテ・	esirkapakte <sup>188)</sup>	匹敵する顔立ちの
750.	ボンメノコ・	pon menoko	娘が
751.	アニブン・タリ・	anipuntari	両口の銚子を
752.	エシムッコ	esimukko-	かかげ
753.	アンバ・カネ・	anpa kane <sup>189)</sup>	持って
754.	イヨマレ・クス・	iomare kusu <sup>190)</sup>	酌をするために
755.	チクブソ・ウドル・	cikupso utur <sup>191)</sup>	酒宴の席の間を
756.	エルドツケ・	erututke <sup>192)</sup>	あちこち回る。
757.	ヘマカシワ・	hemakasi wa	(彼女は)後ろを
758.	シキル・キコル・	sikiru ki kor	向くと
759.	ドヌブル・ヌベ・	tu nupur nupe	多くの熱い涙
760.	レヌブル・ヌベ・	re nupur nupe	数々の熱い涙を
761.	ヤイコランケ・	yaykoranke <sup>193)</sup>	はらはらとこぼし
762.	ヘサシワ・	hesasi wa	前に
763.	シキル・キコル・	sikiru ki kor	向き直っては
764.	ナンクルカシ・	nan kurkasi	顔を
765.	ビルバカネ・	pirpa kane	ぬぐって
766.	イヨマレ・ルズネ・	iomare ruwe ne. <sup>194)</sup>	酌をするのだ。
767.	レプイシリ・ウンクル・	Repuysir'unkur	レプンシリウンクルが
768.	ドキ・リキ・	tukiriki-	杯を高く
769.	ブンバカネ・	punpa kane	持ち上げて
770.	ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
771.	コットレシ・	kor_ turesi	の妹に
772.	アアンテ・マチ・	“a=ante maci,	「わが妻よ、
773.	エキワ・イク・	ek wa iku.”	来て飲め」
774.	アリノ・カネ・	arino kane	と
775.	イタク・キコル・	itak ki kor	言いながら
776.	ドキ・リキ・	tukiriki-	杯を高く
777.	プニヤクカ・	puni yakka	持ち上げても

778.	ソモスベコロ・	somo nu pekor	(彼女は) 聞いていない
779.	アンルヰネ・	an ruwe ne.	かのようなだ。
780.	ドイタク・コシブ・	tu itak kosip <sup>195)</sup>	(彼が) 繰り返し
781.	イヰロク・アイネ・	ye rok ayne	言ったあげくに
782.	カドトル・ウシノ・	katu tur'usno <sup>196)</sup>	(彼女は) しぶしぶ
783.	アリバ・ヒネ・	ari pa hine	(銚子を) 置いて
784.	ドキ・クルボク・	tuki kurpok	(彼の) 杯のもとに
785.	エホラリ・	ehorari	座って
786.	ドキ・ウクルエネ・	tuki uk ruwe ne.	杯を受け取った。
787.	コオンカミカ・	koonkami ka	(彼女は) 礼拝も
788.	ソモキノボ・	somo ki nopo	しないで
789.	ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちに
790.	クレルヰネ・	kure ruwe ne.	飲ませた。
791.	タバンベ・クス・	tapanpe kusu	そこで
792.	ドキ・リキ・	tukiriki-	私が杯を高く
793.	プニアン・カネ・	puni=an kane	持ち上げて
794.	ソヤ【8丁表】ウンマチ・	“Soyaunmat <sup>197)</sup>	「ソヤウンマツ,
795.	アコットレシ・	a=kor_ turesi,	私の妹よ,
796.	アリキ・キワ・	arki ki wa	来て
797.	イクヤン・セコロ・	iku yan.” sekor	飲みなさい」と
798.	イタク・アンアワ・	itak=an awa	言うと(彼女は)
799.	アニブンタリ・	anipuntari	両口の銚子を
800.	イクソ・クルカ・	ikuso kurka	酒宴の席の上に
801.	エアシカル・	easikar <sup>198)</sup>	立てておくと
802.	オリバク・ヒネ・	oripak hine	慎み深く
803.	アキルヰネ・	arki ruwe ne.	やって来た。
804.	アコロ・ドキ・	a=kor tuki	(彼女は) 私の杯を
805.	ウイナキワ・	uyna ki wa	受け取って
806.	ラウイルケ・	ra uyruke	低くかかげ
807.	リクイルケ・	rik uyruke <sup>199)</sup>	高くかかげる。
808.	クワオケレ・	ku wa okere	飲み終えると
809.	ドキ・イコレ・	tuki i=kore	杯を私にくれた。
810.	タボロワノ・	tap orowano	そうしたら
811.	レプイシリ・ウンクル・	Repuysir'unkur	レプンシリウンクルが
812.	イルシカ・キコル・	iruska ki kor	怒って

813.	オカシリ・	oka siri	いる様子に
814.	アエミナ・ルスイ・	a=emina rusuy	笑いたくなって
815.	アナンアワ・	an=an awa	いたが
816.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
817.	ドキリキ・	tukiriki-	杯を高く
818.	ブンヒタラ・	punihitara	捧げ続けて
819.	ソヤウンマチ・	“Soyauimat	「ソヤウンマッ,
820.	アコツレシ・	a=kor_ turesi,	私の妹よ,
821.	エキワ・イク・	ek wa iku.” <sup>200)</sup>	来て飲みなさい」
822.	イタクルヱネ・	itak ruwe ne.	(と) 言った。
823.	ボンメノコ・	pon menoko	娘は
824.	アニブンタリ・	anipuntari	両口の銚子を
825.	アムソクルカ・	amso kurka	床の上に
826.	エアシカル・	easikar	立てておくと
827.	バイヅ・ヒネ・	paye hine	(兄のところ) 行って
828.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
829.	コルア・ドキ・	kor a tuki	持った杯
830.	ドキ・クルボク・	tuki kurpok	杯のもとに
831.	エホラリ・	ehorari	座って
832.	ウイナ・ヒネ・	uyna hine	(杯を) 受け取って
833.	ラウイルケ・	ra uyruke	低くかかげ
834.	リクイルケ・	rik uyruke	高くかかげて
835.	クワオケレ・	ku wa okere	飲み終えて
836.	ドキ・ホシビレ・	tuki hosipire	杯を返した
837.	キルヱネ・	ki ruwe ne.	のだ。
838.	タボロワノ・	tap orowano	そうすると
839.	レプイシリ・ウンクル・	Repuysir’unkur	レブンシリウンクルは
840.	ドアリカ・イタク・	tu arka itak <sup>201)</sup>	多くの怒声
841.	レアリカ・イタク・	re arka itak	数々の怒声を
842.	アコロ・ユビ・	a=kor yupi	兄さんに
843.	コスヅ・カネ・	kosuye kane <sup>202)</sup>	浴びせて
844.	イヨヌイ・タサ・	ionuytasa <sup>203)</sup>	次は反対に
845.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さん
846.	シヌマ・ネヤッカ・	sinuma ne yakka <sup>204)</sup>	も
847.	ドアリカ・イタク・	tu arka itak	多くの怒声

848.	レアリカイタク・	re arka itak	数々の怒声を
849.	レプイシリウンクル・	Repuysir'unkur	レプンシリウンクルに
850.	コスイヰ・カネ・	kosuye kane	浴びせて
851.	ウタシバ・バクノ・	utaspa pakno	お互いに
852.	キロク・アイネ・	ki rok ayne	そうしたあげく

【8丁裏】

853.	レプンシリウンクル・	Repunsir'unkur	レプンシリウンクル(という)
854.	ラムエタクネブ・	ramu etakne p <sup>205)</sup>	短気な奴が
855.	テキ・スイヰ・フムコ・	teksuye hum ko <sup>206)</sup>	手を振り回す音が
856.	シウコサンバ・	siwkosanpa <sup>207)</sup>	シュッと鳴り
857.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
858.	アキク・フンコンナ・	a=kik hum konna	殴られた音が
859.	コヤクコサンバ・	koyakkosanpa <sup>208)</sup>	バキッと鳴る。
860.	イヨスイタサ・	ionuytasa <sup>209)</sup>	今度は反対に
861.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
862.	テキ・スイヰフミ・	teksuye humi	手を振り回す音が
863.	コシウコサヌ・	kosiwkosanu	シュッと鳴り
864.	レプンシリウンクル・	Repunsir'unkur	レプンシリウンクルが
865.	アムク・サル・ドイヰ・	a=mukcartuye <sup>210)</sup>	胸元を切られ
866.	アキク・フンコンナ・	a=kik hum konna	叩かれる音が
867.	コリンコサヌ・	korimkosanu	ドシンとした。
868.	レプイシリウンベ・	Repuysir un pe	レプンシリウの奴は
869.	シウス・オムケ・	siwnu omke <sup>211)</sup>	苦しい咳の
870.	エタストム・	etasuutom <sup>212)</sup>	合間に
871.	エシタイキ・	esitayki <sup>213)</sup>	激しくむせ返り
872.	マカチンカル・	makacinkan-	足を上にして
873.	コタルボンヌ・	kotarponnu <sup>214)</sup>	ひっくり返った。
874.	クルカシケ・	kurkasike	その上に
875.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
876.	ユプケ・タムクル・	yupke tamkur	激しい太刀影を
877.	コテルケレ・	koterkere <sup>215)</sup>	浴びせると
878.	エネヌブルクル・	ene nupur kur <sup>216)</sup>	例の巫者の
879.	チタタケヰ・	citata kewe <sup>217)</sup>	ばらばらの死体が
880.	ホラオチウヰ・	horaociwe	崩れ落ち
881.	シキヌ・カムイネ・ <sup>218)</sup>	siknu kamuy ne	生き返る死霊として

882.	シチュッカネヒ・	sicupka ne hi	真東に
883.	コフンエリキ・	kohum'eriki	音高く
884.	テスヒタラ・	tesuhitara <sup>219)</sup>	それでゆく。
885.	オカケ・アンコロ・	okake an kor	その後になって
886.	タネポ・ソンノ・	tanepo sonno	今まさに、本当に
887.	シサク・トノト・	sisak tonoto	最高の酒宴が
888.	アウコマクテッカ・	a=ukomaktekka	開かれた
889.	キルゴネ・	ki ruwe ne.	のだ。
890.	トノト・オカ・	tonoto oka	酒宴が終わりに
891.	チオマンテコロ・	ciomante kor <sup>220)</sup>	至ると
892.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんと
893.	トラノ・カイキ・	turano kayki	いっしょに
894.	アコットマカシ・	a=kor_ toma kas	我々の仮小屋に
895.	アコホシッパ・	a=kohosippa	戻った。
896.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
897.	タンサケハウ・	tan sakehaw	サケハウ (の節) を
898.	リクナ・ケッケ・	riknakekke	高く回し
899.	ラナケッケ・	ranakekke <sup>221)</sup>	低く回し
900.	ホシッパ・アンルゴネ・	hosippa=an ruwe ne. <sup>222)</sup>	我々は (故郷に) 帰る。
901.	コタンパウンクル・ <sup>223)</sup>	kotan pa un kur	村の上手に住む人 (である)
902.	ラムプ・アンニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ・
903.	イゴバン・■ニシバ・	Yepannispa	イエパンニシバ、
【9丁表】			
904.	ラムプアンニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ (という)
905.	ポロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんは
906.	ネヒタバクノ・ <sup>224)</sup>	ney ta pakno	いつまでも
907.	ルイホドイゴ・	ruy hotuye	強い呼び声
908.	ハウケ・ホドイゴ・	hawke hotuye	弱い呼び声を
909.	ウカクシテ・	ukakuste	何度も重ねて
910.	イラムケシカシ・	i=ramkeskasi	私の心に
911.	カチウカネ・	kaciw kane <sup>225)</sup>	鞭を入れて
912.	イコオルスツケ・	i=koorsutke <sup>226)</sup>	励ます。(だが)
913.	イリオイケシネ・	irioykesne <sup>227)</sup>	しばらくすると
914.	アコロユビヒ・	a=kor yupihi	兄さんが
915.	アヌカル・フミカ・	a=nukar humi ka	見えなく

916.	イサム・ルゼネ・	isam ruwe ne. <sup>228)</sup>	なっていた。
917.	ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
918.	ベウレ・フンセ・	pewre humse	若いおたけびで
919.	アエヤイラムケシ・	a=eyayramkes-	心を
920.	メウバカネ・	mewpa kane <sup>229)</sup>	奮い立たせながら
921.	ウヲロラッキブ・	wororatkip	ともがいを
922.	アコヤイ・マクナ・	a=koyaymakna-	懸命に
923.	テスヒタラ・	tesuhitara	漕いで
924.	キロク・アイネ・	ki rok ayne	いるうちに
925.	ネア・ウゼン・レラ・	nea wen rera	例のひどい風は
926.	ラッチ・ルエネ・	ratci ruwe ne.	穏やかになった。
927.	オロワノ・	orowano	そして
928.	アコロ・コタン・	a=kor kotan	私の村の
929.	コバツケ・サマ・	kopakkesama	ほうへ
930.	アコヤウキ・アイネ・	a=koyawki ayne <sup>230)</sup>	戻ると
931.	アコロ・トマリ・	a=kor tomari	私たちの港
932.	トマリ・カンザル・	tomari kancar <sup>231)</sup>	港の入り口に
933.	アヤイベカレ・	a=yaypekare	向かい
934.	アコロ・ルゼサン・	a=kor ruwesana	浜への下り口に
935.	アオヤンルゼネ・	a=oyan ruwe ne.	上陸した。
936.	アコロチブボ・	a=kor cippo	私の小舟を
937.	サノタ・クルカ・	sanota kurka	砂浜へ
938.	アコエタイゼ・	a=koetaye	引き上げた
939.	キルゼネ・	ki ruwe ne.	のだ。
940.	ピスン・キロル・	pisun kiroru	浜手の立派な道
941.	キロルドイカ・	kiroru tuyka	立派な道の上を
942.	アエヤイリキクル・	a=eyayrikikur-	空高く
943.	ブンバカネ・	punpa kane <sup>232)</sup>	飛び上がって
944.	アルバヤンルエネ・	arpa=an ruwe ne.	飛んで行く。
945.	アウンチセヘ・	a=uncisehe	私の家に
946.	アコシレバ・	a=kosirepa	到着して
947.	アフンアンアワ・	ahun=an awa	(家に) 入ったが
948.	アベカイサム・	ape ka isam	火もなく
949.	アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹の
950.	オアラリサム・	oararisam	影も形もない。

951. タバンベクス・	tapanpe kusu	そこで
952. アコツレシ・	a=kor_ turesi	妹の
953. コロア・ドンブ・	kor a tumpu	部屋（の仕切り）を
954. アモイレ・ルド・	a=moyrerutu <sup>233)</sup>	そっとずらして
955. インカラン・アワ・	inkar=an awa	見ると
956. ソモスイクス・	somo suy kusu	まさか
957. シラン・クニ・	siran kuni	そんな事態だとは
【9丁裏】		
958. アラムロク・アワ・	a=ramu rok awa	思わなかったのに
959. スマンネヤ・	numan ne ya	昨日だけ
960. タント・ネヤ・	tanto ne ya	今日だけに
961. ソッキ・カウン・	sotki ka un	寢床の上で
962. アコツレシ・	a=kor_ turesi	妹が
963. アライケルヱ・	a=rayke ruwe	殺された様子
964. ネノロ・オカ・	nenoro oka (?) <sup>234)</sup>	であったのだ (?)
965. インカルネワ・	inkar ne wa <sup>235)</sup>	見ただけ
966. アキップ・ネコロカ・	a=ki p ne korka	なのに
967. ドルシ・キンラネ・	turus kinra ne <sup>236)</sup>	狂おしい怒りで
968. イコホブニ・	i=kohopuni	かっとなった。
969. エネワ・ボカ・	ene wa poka <sup>237)</sup>	どう
970. イキアंकニ・	iki=an kuni	すべきかと
971. アコウサラムクル・	a=kousaramkur-	いろいろと思いを
972. バシテ・カネ・	paste kane	馳せて
973. イヨイキリ・カウン・	ioykir ka un <sup>238)</sup>	宝壇の上にある
974. エカシバウンベ・	ekaspaunpe <sup>239)</sup>	先祖の冠を
975. アシコエタイヱ・	a=sikoetaye <sup>240)</sup>	引っぱり出すと
976. オドバ・ピロル・	otu papiror	口の中で多くの
977. アコドリ・カル・	a=koturikar <sup>241)</sup>	祈詞を述べて
978. エネオカヒ・	ene oka hi	こう言った。
979. エカシバウンベ・	“ekaspaunpe	「先祖の冠の
980. バセカムイ・	pase kamuy,	重い神よ、
981. イタカンチキ・	itak=an ciki <sup>242)</sup>	私が言うことを
982. ビリカイヌ・	pirka inu	よく聞いて
983. エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	くださいな。
984. アレシバボカ・	a=respa poka	(妹を) 育てるだけでも

985. エヤイコラム・	eyaykoramu-	苦勞して
986. ベテツネ・クニブ・	petetne kuni p	育てたというのに
987. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹は
988. イキロク・アワ・	iki rok awa	こうなりましたが
989. ネブビトホ・	nep pitoho	どんな方が
990. ライケルヱ・	rayke ruwe	殺したの
991. ネワネヤクカ・	ne wa ne yakka	であろうとも
992. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹を
993. シキヌレワ・	siknure wa <sup>243)</sup>	生き返らせて
994. イコロバレヤン・	i=korpare yan.	くださいませ。
995. エニウケシ・ヤクネ・	e=niwkes yakne	できないならば
996. カムイ・エネヤクカ・	kamuy e=ne yakka	神であろうとも
997. アムツエムシ・	a=mut emus	私が佩く刀で
998. コヤイタライヱ・	koyaytaraye <sup>244)</sup>	あなたは死ぬことに
999. エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	なりますよ。
1000. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹を
1001. シキヌレワ・	siknure wa	生き返らせて
1002. イコロバレヤン・	i=korpare yan.”	くださいませ」
1003. イタカン・キコロ・	itak=an ki kor	(と) 私は言うと
1004. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹の
1005. クルカシケ・	kurkasike	上へ (先祖の冠を)
1006. アエコニ・スイヱ・	a=ekonisuye <sup>245)</sup>	放り投げた。
1007. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1008. ソイワサムワ・	soywasamwa <sup>246)</sup>	外へ
1009. アオシライヱ・	a=osiraye	出て
1010. ボン・アコロユビ・	pon a=kor yupi	小さい兄さんの
1011. ウンチセタ・	uncise ta	家に
1012. アフン・アンアワ・	ahun=an awa	入ったところ
1013. アウンチセタ・	a=uncise ta	私の家で
1014. シランルヱ・	siran ruwe	そうだったのと
1015. ビカン【10丁表】コラチ・	pikan koraci <sup>247)</sup>	同じように
1016. アコットレシ・	a=kor_ turesi <sup>248)</sup>	うちの妹が
1017. アライケワ・オカ・	a=rayke wa oka	殺されていた。
1018. イヨイキリ・カウン・	ioykir ka un <sup>249)</sup>	宝壇の上にある
1019. エカシバウンベ・	ekaspaunpe	先祖の冠を

1020. アシコエタイズ・	a=sikoetaye	引っぱりだすと
1021. オドバビロル・	otu papiror	口の中で多くの
1022. アドリカネ・	a=turi kane	祈詞を述べて
1023. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹の
1024. クルカシケ・	kurkasike	上に(冠を)
1025. アエコニ・スイズ・	a=ekonisuye	投げつけた。
1026. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1027. ソイネアンヒネ・	soyne=an hine	私は外に出て
1028. コタンバウンクル・	kotan pa un kur	村の上手に住む人(である)
1029. ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんの
1030. ウンチセタ・	uncise ta	家に
1031. アフン・アンアワ・	ahun=an awa	入ったところ
1032. アリコラチ・	ari koraci	同じように
1033. アコットレシ・	a=kor_ turesi <sup>250)</sup>	うちの妹が
1034. アライケワ・アン・	a=rayke wa an	殺されていた。
1035. カンナルイノ・	kanna ruyno	まともや
1036. イヨイキリ・カウン・	ioykir ka un <sup>251)</sup>	宝壇の上にある
1037. エカシバウンベ・	ekaspaunpe	先祖の冠を
1038. アウイナヒネ・	a=uyna hine	取って
1039. オドバビロル・	otu papiror	口の中で多くの
1040. アコトリカネ・	a=koturi kane	祈詞を述べて
1041. アコットレシ・	a=kor_ turesi	妹の
1042. クルカシケ・	kurkasike	上に(冠を)
1043. アエコニスイズ・	a=ekonisuye	投げつけた
1044. キルズ・タバノ・	ki ruwe tapan.	のです。
1045. バクノ・ネコル・	pakno ne kor	そして
1046. エネワボカ・	ene wa poka	どう
1047. ■イキアンクニ・	iki=an kuni	すべきかと
1048. アコウサラムクル・	a=kousaramkur-	いろいろと思いを
1049. バシテカネ・	paste kane	馳せながら
1050. ソイワサンワ・	soywasamwa	私は外に
1051. アオシライズ・	a=osiraye	出た。
1052. タネアナクネ・	tane anakne	今は
1053. シアンノシキ・	si annoski	真夜中
1054. ドルバキタ・	turpaki ta <sup>252)</sup>	近くに

1055. ネルズネ・	ne ruwe ne.	なった。
1056. アナッキ・コロカ・	anakkikorka	けれども
1057. ルベットム・コタンウン・	Rupettom kotan un	ルベットム村へと
1058. アコンラム・コンナ・	a=konram konna	私の心は
1059. チドリドリ・	citurituri <sup>253)</sup>	向かっている。
1060. タバンベクス・	tapanpe kusu	そこで
1061. オニシサクレラ・	onissak rera <sup>254)</sup>	雲なしの風に
1062. アエイリキクル・	a=eyayrikikur-	乗って高々と
1063. ホブニレワ・	hopunire wa	飛んで
1064. アルバアンクズネ・	arpa=an ruwe ne.	行った。
1065. ソモスイクス・	somo suy kusu	まさか
1066. アベアンクニ・	ape an kuni	火があるとは
1067. アラムロク・クス・	a=ramu rok kusu <sup>255)</sup>	思わなかったのに
1068. アウン・トンビ・	aun tompi <sup>256)</sup>	(山城の) 内側の光が
<b>【10丁裏】</b>		
1069. コマクナタラ・	komaknatara	明るく輝いている
1070. シラン・ルズネ・	siran ruwe ne.	様子なのだ。
1071. アブンノカネ・	apunno kane	私はそっと
1072. ザシサムタ・	casi sam ta	山城のそばに
1073. ホラヲ・チウズ・	horaociwe <sup>257)</sup>	降りた
1074. アキルズネ・	a=ki ruwe ne.	のだ。
1075. フミヒアシベ・	humihi as pe <sup>258)</sup>	音がするものの
1076. ドウドル・オルケ・	tu utur orke	合間合間を
1077. アコウレプニ・	a=kourepuni <sup>259)</sup>	そっと歩いて
1078. アルバアンヒネ・	arpa=an hine	行って
1079. プヤラカ・オッベ・	puyarkaotpe	窓の簾の
1080. チンキ・ケセ・	cinki kese <sup>260)</sup>	端に
1081. アコッカエチウ・	a=kokkaeciw <sup>261)</sup>	ひざまずいて
1082. セブカ・ウドル・	sep ka utur <sup>262)</sup>	隙間から
1083. アシキボソレ・	a=sikposore <sup>263)</sup>	覗き見して
1084. インカラナルズ・	inkar=an ruwe	見えたのは
1085. ルベットム・ウンクル・	Rupettom'unkur	ルベットムウンクル
1086. アコロユビ・	a=kor yupi <sup>264)</sup>	兄さんが
1087. タネアンビ[≠/リ]カ・	tane an pirka <sup>265)</sup>	相変わらず美しく
1088. シオアル・ズンルイ・	sioarwenryu <sup>266)</sup>	一段と立派で

1089. アンルヅネ・	an ruwe ne.	いる様子だ。
1090. ネブエヤイコ・	nep eyayko-	何かを思い
1091. ウヅベケルベ・	uepeker pe <sup>267)</sup>	悩む者は
1092. ホカラム・ノシキ・	hoka ram noski <sup>268)</sup>	炎の中心を
1093. ナンヅイヅレ・	nantuyere <sup>269)</sup>	じっと見つめて
1094. オカルヅネ・	oka ruwe ne.	いるのだ。
1095. オハリキソウン・	oharkisoun <sup>270)</sup>	左座では
1096. ボンメノコ・	pon menoko	若い女が
1097. オドカ・シンコブ・	otu ka sinkop <sup>271)</sup>	多くの糸の結び目を
1098. ランケ・カネ・	ranke kane	下げて
1099. オカルヅネ・	oka ruwe ne.	(糸を繕って) いる。
1100. ボンメノコ・	pon menoko	若い女の
1101. ナンニベキ・	nan nipeki <sup>272)</sup>	顔の輝きは
1102. ヘドク・チュップネ・	hetuku cup ne	昇る太陽のように
1103. イヅヌチユッキ・	ienucupki-	まばゆい光が
1104. チウレ・カネ・	ciwre kane <sup>273)</sup>	さして
1105. タブエアシリ・	tap easir	これこそ本当に
1106. シセタドレシ・ <sup>274)</sup>	cisetatures	家にいる妹に
1107. エドルバク・ナンカ・	eturpak nanka <sup>275)</sup>	匹敵する顔立ち
1108. ネナンコラ・	ne nankor _ya?	ではないか。
1109. ビリカ・カド・	pirka katu	美しい姿は
1110. アコオモンモモ・	a=koomommomo	かくかくしかじか
1111. キルヅネ・	ki ruwe ne.	なのだ。
1112. インカル・アンワ・	inkar=an wa	私が見て
1113. アナン・アワ・	an=an awa	いると
1114. インキ・コタン・	inki kotan	どの村 (から)
1115. ネナンコラ・	ne nankor _ya?	なのだろうか。
1116. ブシコサンバ・	puskosanpa	破裂する音がして
1117. カムイ・エク・フミ・	kamuy ek humi <sup>276)</sup>	神の来る (かのような) 音が
1118. コドリ・ミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
<b>【11丁表】</b>		
1119. ドナシ・エキベ・	tunas ek pe <sup>277)</sup>	急いで来るものと
1120. チエソネレ・ <sup>278)</sup>	ciesonere	おぼしく、
1121. ホシキ・ニシ・	hoski nis	最初の雲は
1122. ドタキセ・ニシネ・	tu takse nis ne <sup>279)</sup>	多くの群雲

1123. レタクセニシネ・	re takse nis ne	多数の群雲となって
1124. チホブニレ・	cihopunire	湧き立ち
1125. ニシラブエムコ・	nis rap emko <sup>280)</sup>	雲が下がる中 (から)
1126. ヌムヌ・カウカウ・	numnu kawkaw	大粒のあられ
1127. ヌムヌ・アプト・	numnu apto	大粒の雨の
1128. エランフンコンナ・	eran hum konna	降る音が
1129. コドリ・ミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
1130. イルカネコル・	iruka ne kor	しばらくすると
1131. チセサムカタ・	cise sam ka ta	家のそばに
1132. マカン・カツコルベ・	makan katkor pe	どんな姿の者だか、
1133. ドンバフミ・	tumpa humi	鏝の音が
1134. コナイナタラ・	konaynatara <sup>281)</sup>	鳴りわたり
1135. ホラヲチヅ・	horaociwe	(空から) 降りて
1136. キルヅネ・	ki ruwe ne.	来た。
1137. ヘヨキ・サクノ・	heyoki sakno <sup>282)</sup>	無遠慮に
1138. アバオル・オッベ・	apaor'otpe	戸の簾を
1139. カイシタブカ・	kaysitapka-	自分の肩で
1140. エテルケレ・	eterkere <sup>283)</sup>	跳ね上げて
1141. アフンクニ・	ahun kuni	入ってくる
1142. コツザヲツノ・	kotcawot no <sup>284)</sup>	より前に
1143. ドイメルクル・	tu imeru kur	多くの光で
1144. チセ・ウブソロ・	cise upsor	家の中が
1145. エマクコサンバ・	emakkosanpa	ぱっと明るくなる。
1146. アイヌアフンマ・	aynu ahun _wa	男が入って来て
1147. インカラン・ルヅ・	inkar=an ruwe	私が見たのは
1148. エネオカヒ・	ene oka hi	こういう人だ。
1149. ドクノ・ピンニ・	tukno pinni	伸長したヤチダモ
1150. シコバヤル・	sikopayar	のような
1151. アイヌ・ビト・	aynu pito	立派な人物が
1152. アンナンコラ・	an nankor _ya? <sup>285)</sup>	いるだろうとは。
1153. カネハヨクベ・	kane hayokpe	金の鎧を
1154. エドマムカシ・	etumam kasi	体の上に
1155. コテシナタラ・	kotesnatara	きちんと着て
1156. ボロブ・アンチキ・	porop an ciki <sup>286)</sup>	大きな体で
1157. ネイケ・フイケ・	neyke huyke	どこからどこまでも

1158. イタクシ・ルヅ・	itak kus ruwe <sup>287)</sup>	文句の言いようの
1159. イサム・ウタルバ・	isam utarpa	ない立派な人物が
1160. アフブルヅネ・	ahup ruwe ne.	入ってきた。
1161. アフブワ・	ahup wa	入ってくるや
1162. モイレ・ラッキ・	moyre ratki <sup>288)</sup>	否や、垂れ下がった
1163. スワチ・エシカリ・	suwat esikari <sup>289)</sup>	炉鉤をつかみ
1164. ドイカシケ・	tuykasike	ながら
1165. イタクオ・ハヅ・	itak'o hawe	言ったことは
1166. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1167. コニンカル・クス・	“koninkar kusu	「さてさて
1168. ルベットム・ウンクル・	Rupettom'unkur,	ルベットムウンクルよ、
1169. イタク・アンチキ・	itak=an ciki	私が話すから
1170. ビリカ・イヌ・	pirka inu	よく聞く
1171. エキナンコンナ・	e=ki nankor_na.	のだよ。
1172. アオヤネネブ・	a=oyanene p	私が嫌いなことは
<b>【11丁裏】</b>		
1173. ヤイコタンカ・	yaykotanka-	自分の村を
1174. エシナネクス・	esina ne kusu <sup>290)</sup>	隠すことだから（言うが）
1175. アコロコタヌ・	a=kor kotanu	私の村の
1176. レコロカド・	rekor katu	名前は
1177. レブン・シリネワ・	Repunsir ne wa	レブンシリであって
1178. パク・ウタリ・インネブ・	pak utari inne p	私ほど仲間が多い
1179. イサムクル・	isam kur	者は
1180. アネルヅネ・	a=ne ruwe ne. <sup>291)</sup>	ほかにいないのだ。
1181. バテク・ソモネ・	patek somo ne	それだけではなく
1182. パク・ヌブルクル・	pak nupur kur	私ほど霊力の強い
1183. イサム・オッカヨ・	isam okkayo	男は
1184. アネルヅネ・	a=ne ruwe ne. <sup>292)</sup>	ほかにいないのだ。
1185. アナン・ヒケ・	an=an hike	私が暮らしていると
1186. トミサムベチ・	Tomisanpeci	トミサンペツ
1187. シヌタブ・カタ・	Sinutapka ta	シヌタツカの
1188. レイリワク・ネクル・	re irwak ne kur	三人兄弟について
1189. ドモシリ・カマ・	tu mosir kama	多くの国を越えて
1190. レモシリ・カマ・	re mosir kama	多数の国を越えて
1191. ドアスル・オルケ・	tu asur orke	多くの噂

1192. レアスル・オロケ・	re asur orke	数多の噂が
1193. ホブニハズ・	hopuni hawe	立つのを
1194. アヌヒケ・	a=nu hike	聞いては
1195. チク・ワッカ・	cik wakka	したたる水が
1196. カムカ・オシマ・	kamka osma	肌にかけて
1197. アエキサシケ・	a=ekisaske <sup>293)</sup>	寒気がする
1198. セムコラチ・	semkoraci	ように
1199. イカッチウ・ケウドム・	ikatciw kewtum <sup>294)</sup>	忌々しく思う気持ちを
1200. アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	抱いて
1201. アナン・アワ・	an=an awa	いたが
1202. スプル・クル・	nupur kur	私は巫力が強い人
1203. アネクス・	a=ne kusu	であるため
1204. インカラシ・ヒケ・	inkar=an hike <sup>295)</sup>	見通してみたところ
1205. シスタブカ・ウンクル・	Sinutapkaunkur	シスタブカウンクルが
1206. レイリワクネワ・	re irwak ne wa	三兄弟で
1207. ウイマム・レブンカ・	uymam repunka	交易しに海に出た
1208. ノイネカネ・	noyne kane	ように
1209. インカルアンワ・	inkar=an wa	見えて
1210. タバンベ・クス・	tapanpe kusu	そこで
1211. アドレンベ・ウタリ・	a=turenpeutari	憑き神たちを
1212. アコオルスツケワ・	a=koorsutke wa	励まして
1213. ゼン・ルヤンベ・	wen ruyanpe	ひどい嵐を
1214. アアシテレ・カド・	a=astere katu <sup>296)</sup>	起こさせた有様は
1215. トカブレルコ・	tokap rerko <sup>297)</sup>	昼の日数は
1216. ノイワン・レルコ・	noiwan rerko	幾日も
1217. クンネ・レルコ・	kunne rerko	夜の日数は
1218. ノイワン・レルコ・	noiwan rerko	幾晩も
1219. ルヤンベ・アシテ・	ruyanpeaste	嵐を起こして
1220. アン[タ/ル]ズネ・	=an ruwe ne. <sup>298)</sup>	いたのだ。
1221. シスタブカ・ウンクル・	Sinutapkaunkur	シスタブカウンクルの
1222. ボニウネ・ニシバ・	poniwe nispa	年下の首領の
1223. セルマク・オルケ・	sermak orke	守護神に
1224. アドス・クシ【12丁表】バレ・	a=tusukuspare <sup>299)</sup>	巫術をかけて
1225. セルマク・オルケ・	sermak orke	彼の守護神に
1226. アフンケ・ヤクカ・	a=hunke yakka <sup>300)</sup>	呪いをかけたが

1227. アカラコヤイクシ・	a=karkoyaykus <sup>301)</sup>	やりそこなった
1228. キロク・アイネ・	ki rok ayne	あげくに
1229. ラヨッテムシ・	rayottemusi <sup>302)</sup>	ようやく
1230. セルマク・オルケ・	sermak orke	あいつの守護神は
1231. アコホピタレ・	a=kohopitare <sup>303)</sup>	吹き飛ばされた。
1232. ドタヌ・ニシバ・	tutanu nispa	二番目の首領の
1233. セルマクオルケ・	sermak orke	守護神に
1234. アフンケ・アイネ・	a=hunke ayne	呪いをかけると
1235. セルマク・オルケ・	sermak orke	その守護神が
1236. アコホピタレ・	a=kohopitare	吹き飛ばされた
1237. キカドフ・	ki katuhu	ことが
1238. アエラムアン・	a=eramuan	わかった。
1239. イヨッタ・キヤンネ・	iyotta kiyanne	一番年長の
1240. ラムプ・アン・ニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバ・
1241. イゼパン・ニシバ・	Yepannispa	イエパンニシパの
1242. セルマク・オルケ・	sermak orke	守護神には
1243. アフンケ・ヤクカ・	a=hunke yakka	呪いをかけても
1244. アニウケシ・ルエネ・	a=niwkes ruwe ne.	しきれなかった。
1245. オロワネシ・	orowa nesi	そうして
1246. ソヤ・ウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
1247. コットレシ・	kor_ turesi	の妹を
1248. アコエドン・クス・	a=koetun kusu	嫁にもらうため
1249. アウタリヒ・	a=utarihi	私の仲間と
1250. アオープン・ブニワ・	a=opunpuni wa <sup>304)</sup>	こぞって
1251. インネ・チプ・ウタラ・	inne cip utar	おびたらしい船を
1252. アシヨ・コテ・	a=siokote <sup>305)</sup>	連ねて
1253. ソヤコタン・	Soya kotan	ソヤ村に
1254. アオヤブルゼネ・	a=oyap ruwe ne.	上陸したのだ。
1255. キロクアワ・	ki rok awa	そうしたところ
1256. イエカリノ・	i=ekari no <sup>306)</sup>	私と時を同じくして
1257. シヌタブカ・ウンクル・	Sinutapkaunkur	シヌタブカウンクルの
1258. イゼパン・ニシバ・	Yepannispa	イエパンニシパが
1259. シネ・アキヒ・	sine akihi	一人の弟と
1260. ドラノ・ヤンマ・	turano yan _wa	共に上陸して
1261. ボロトマカシ・	poro tomakas	大きな仮小屋を

1262. カンルヅネ・	kar_ ruwe ne.	作っていたのだ。
1263. ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
1264. コットレシ・	kor_ turesi	の妹を
1265. アコエドン・アワ・	a=koetun awa	私が貰おうとして
1266. オネ・ロルンベ・	one rorunpe <sup>307)</sup>	起こった戦が
1267. イコアンカド・	i=koan katu	押し寄せたために
1268. アイライケ・コロカ・	a=i=rayke korka	私は殺されたが
1269. ドレンベ・ユブケッ・	turenpe yupke p	憑き神の強い者が
1270. アネアクス・	a=ne a kusu	私だから
1271. イカ・カタ・	ikakata <sup>308)</sup>	すぐに
1272. ヤイカッチビ・	yaykatcipi	私は生き返った
1273. アキルヅネ・	a=ki ruwe ne.	のだ。
1274. ヘトボ・ホルカ・	hetopo horka	引き返して
1275. ホシビ・アンヒネ・	hosipi=an hine <sup>309)</sup>	戻って
1276. トマカシ・オッタ・	tomakas or_ ta	(彼らの) 仮小屋に
1277. アルバ・アン【12丁裏】アワ・	arpa=an awa	行くと
1278. ウタルバ・カンマフ・	utarpa kanmaw <sup>310)</sup>	勇士の威風
1279. ラメトク・カンマフ・	rametok kanmaw	勇者の威風で
1280. イヅマクナクル・	i=emaknakur-	私は気後れし
1281. ライバカネ・	raypa kane <sup>311)</sup>	たじろいで
1282. エムコ・クス・	emkokusu	そのために
1283. アフツボ・カイキ・	ahup pokayki	入ることさえ
1284. アニウケシ・アイネ・	a=niwkes ayne	できずにいるうち
1285. タネアナクネ・	tane anakne	もはや
1286. シアンノシキ・	si annoski	真夜中
1287. ドルバキタ・	turpaki ta	近くに (なってから)
1288. アフン・アンキワ・	ahun=an ki wa	入って
1289. インカル・アンヒケ・	inkar=an hike	見ると
1290. オハリキソウン・	oharkisoun <sup>312)</sup>	左座に
1291. ボニウネ・ニシバ・	poniwne nispa	年下の首領が
1292. ホッケ・キワ・	hotke ki wa	横になって
1293. オカルヅネ・	oka ruwe ne.	いたのだ。
1294. キヤンネ・ニシバ・	kiyanne nispa	年長の首領は
1295. オシソウンマ・	osisoun _wa	右座に
1296. ホッケ・キワ・	hotke ki wa	横になって

1297. オカルズネ・	oka ruwe ne.	いたのだ。
1298. キヤンネ・ニシバ・	kiyanne nispa	年長の首領の
1299. エルブシケタ・	erupsike ta	枕元に
1300. カネシントコ・	kane sintoko	金の行器が
1301. アンルズ・	an ruwe	あって
1302. エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
1303. チブカシ・カムイ・	cip kasikamuy <sup>313)</sup>	(それは) 船の守り神
1304. チエソネレ・	ciesonere	とおぼしく
1305. クルカシケ・	kurkasike	その表面一帯が
1306. コミケ・ミケ・	komikemike	照り輝き
1307. シントコプタワ・	sintoko puta wa	行器の蓋から
1308. ラッキ・エトル・	ratki etor	下がる鈴は
1309. シントコ・ノシキ・	sintoko noski	行器の真ん中まで
1310. チコエドイゾ・	cikoetuye <sup>314)</sup>	一様に垂れ下がり
1311. シントコ・ノシキワ・	sintoko noski wa	行器の真ん中から
1312. ラッキ・エトル・	ratki etor	下がる鈴は
1313. シントコ・ケマ・	sintoko kema	行器の足まで
1314. チコエドイゾ・	cikoetuye	一様に垂れ下がり
1315. オロネアンベ・	oroneanpe	一緒になって
1316. ド■ヌニタラ・	tununitara. <sup>315)</sup>	響いている。
1317. ムクル・サムタ・	mukru sam ta	枕のそばでは
1318. カムイラン・ケタム・	kamuy ranke tam	神授の刀が
1319. ノシキ・バクノ・	noski pakno	真ん中ほどまで
1320. ヘッケ・ヘッケ・	hetkehetke <sup>316)</sup>	出たり入ったりして
1321. ドンバフミ・	tumpa humi	鏝の音が
1322. オロネ・アンベ・	oroneanpe	一緒になって
1323. マユニタラ・	mayunitara <sup>317)</sup>	鳴り響き
1324. ラヤブ・ケウトム・	rayap kewtum	私は感嘆の気持ちを
1325. アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	抱いた。
1326. バクノ・ネコロ・	pakno ne kor	そして
1327. ソドラシ・	so turasi	上座に
1328. アキワネコロ・	a=ki wa ne kor	向かうと
<b>【13丁表】</b>		
1329. ウタルバ・カンマフ・	utarpa kanmaw <sup>318)</sup>	勇士の威風
1330. ラメトク・カンマフ・	rametok kanmaw	勇者の威風に

1331. イヅマクナクル・	i=emaknakur <sup>-319)</sup>	私は気後れし
1332. ライバカネ・	raypa kane	たじろいで
1333. エムコクス・	emkokusu	そのために
1334. シネチニカ・	sine cinika <sup>320)</sup>	一歩
1335. ドチニカ・	tu cinika	二歩
1336. アブニカネ・	a=puni kane <sup>321)</sup>	踏み出しては
1337. ホットル・カタ・	hottor ka ta	体が
1338. アコドスサッキ・	a=kotususatki <sup>322)</sup>	震えあがった。
1339. キロク・アイネ・	ki rok ayne	そうしているうち
1340. ボニウネ・ニシバ・	poniwne nispa	年下の首領 (のところに) に
1341. アコシレバ・	a=kosirepa	至った。
1342. タンエトロ・	tan etoro	(彼の) いびきが
1343. ドイマトリ・	tuymaturi <sup>323)</sup>	遠くまで響いて
1344. アンルヅネ・	an ruwe ne.	いた。
1345. アラムコバ・シテブ・	a=ramkopastep	私は刀を
1346. ウドレン・テクコル・	uturen tekkor <sup>324)</sup>	両手で持ち
1347. サンニブカシ・	sannip kasi <sup>325)</sup>	刀の柄を
1348. アテキラリレ・	a=tekrarire <sup>326)</sup>	ぎゅっと握り
1349. クルカシケ・	kurkasike	ながら
1350. アコタムスイヅ・	a=kotamsuye	刀を振るい
1351. オフムサクノボ・	ohumsaknopo	音もなく
1352. アドイバルヅネ・	a=tuypa ruwe ne. <sup>327)</sup>	切ったのだ。
1353. キヤンネニシバ・	kiyanne nispa	(次に) 年長の首領の
1354. オロタ・アルバアン・	oro ta arpa=an	ところに私は行き
1355. カンナルイノ・	kanna ruyno	再び
1356. アラムコ・バシテブ・	a=ramkopastep	自分の刀の
1357. サンニブカシ・	sannip kasi	柄を
1358. アテキラリレ・	a=tekrarire	ぎゅっと握り
1359. クルカシケ・	kurkasike	ながら
1360. アコタムスイヅ・	a=kotamsuye	刀を振るった。
1361. キロクアワ・	ki rok awa	そうしたところ
1362. ドカリケウシ・	tukarike usi	手前のところの
1363. ドワン・ドイソシ・	tuwan toy sos <sup>328)</sup>	何十もの土の層を
1364. アウカエドイヅ・	a=ukaetuye <sup>329)</sup>	私は切っていた。
1365. カンナルイノ・	kanna ruyno	また再び

1366. アコタム・スイズ・	a=kotamsuye	刀を振るう。
1367. キロク・アワ・	ki rok awa	そうしたのに
1368. カネシントコ・	kane sintoko	金の行器に
1369. タムオシマ・フミ・	tam osma humi	刀が当たる音が
1370. コナイコサンバ・	konaykosanpa	響き渡った。
1371. キロク・アワ・	ki rok awa	そうしたところ
1372. ラムプ・アンニシバ・	Ramup'annispa	ラムパンニシバが
1373. ノシキ・バクノ・	noski pakno	半ばまで
1374. ヘタリシリ・	hetari siri	顔を上げたのは
1375. エネオカヒ・	ene oka hi	こういう様子だった。
1376. コロゼンプリ・	kor wen puri	彼の憤怒は
1377. エナンクルカシ・	enankurkasi	顔面に
1378. イブキタラ・	ipukitara	ありありと浮かび
1379. カムイ・イベタム・	kamuy ipetam	(彼は) 人食い刀を
1380. シコエ・タイズ・	sikoetaye	引き抜いた。
1381. アンライボカ・	anray poka <sup>330)</sup>	私は死ぬのも
1382. ア・【13丁裏】ヤイコニウケシ・	a=yaykoniwkes	いやで
1383. キラアンマ・アワ・	kira=an awa	逃げたのだが
1384. シキルニットム・	sikiru nittom	身を翻すことも
1385. テルケニットム・	terke nittom	跳びずさることも
1386. アイアンニウケシテ・	a=i=anniwkeste <sup>331)</sup>	できないで
1387. ハウケ・ホドズ・	hawke hotuye	弱く叫び
1388. ルイホドズ・	ruy hotuye	強く叫んで
1389. アウカクシテ・	a=ukakuste	祈りを繰り返した。
1390. アウタリボ・	'a=utaripo,	『わが仲間よ,
1391. イカトナシカ・	i=ka tunaska <sup>332)</sup>	私を助けて
1392. イコロバレヤン・	i=korpore yan.	くださいな。
1393. シスタブカウンクル・	Sinutapkaunkur	シスタブカウンクルが
1394. チキマテッカ・	cikimatekka <sup>333)</sup>	私をうろたえ
1395. イズカルカルナ・	i=ekarkar na <sup>334)</sup>	させているのだから』
1396. イタカンアワ・	itak=an awa	(と) 言ったところ
1397. アウタリヒ・	a=utarihi	私の仲間の
1398. ハヨク・ヌミキル・	hayok numikir	鎧の列が
1399. ウカタ・テルケ・	ukataterke <sup>335)</sup>	押し合いへしあいし
1400. ゼンドミラム・	wen tumiram <sup>336)</sup>	大激戦が

1401. ウコホブニ・	ukohopuni <sup>337)</sup>	勃発した。
1402. ネラボキ・	ne rapoki	そうしている間に
1403. アエイキヒネ・	a=eyki hine <sup>338)</sup>	私はやっとのことで
1404. シヌタブカタ・	Sinutapka ta	シヌタブカに
1405. エカンヒネ・	ek=an hine	やって来て
1406. インカラン・アワ・	inkar=an awa	見たが
1407. イネクス・ネブン・	inekus nepun <sup>339)</sup>	なるほど
1408. アスルアシベ・	asuru as pe	噂が立つもの
1409. ネロク・クス・	ne rok kusu <sup>340)</sup>	だけのことはあり
1410. ザシオルケ・	casi orke	山城に
1411. イヌマオルケ・	inuma orke	宝壇に
1412. カムイ・クシナムネ・	kamuy kusnamne <sup>341)</sup>	神さえもが
1413. ホラリバルヅ・	horarpa ruwe <sup>342)</sup>	鎮座しているの
1414. オカナンコラ・	oka nankor _ya?	だろうか。(と)
1415. ラヤブケウドム・	rayap kewtum	感嘆する思いを
1416. アヤイコロバレ・	a=yaykorpore	抱いた。
1417. メノコドンブ・	menoko tumpu	女の部屋が
1418. アンルエネ・	an ruwe ne.	あった。
1419. ドンブアバ・	tumpu apa	(その) 部屋の戸を
1420. アモイレルド・	a=moyrerutu	ゆっくりずらすと
1421. インカランルヅ・	inkar=an ruwe	見えたのは
1422. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1423. サランベ・イタル・	sarampe itar	絹の寝具
1424. イタルソカタ・	itar so ka ta	寝具の上に
1425. ボンメノコ・	pon menoko	若い女が
1426. ホッケ・ルヅ・	hotke ruwe	寝ている様子は
1427. ムクルクルクルカ・ <sup>343)</sup>	mukru kurka	枕の上に
1428. コオツケウマカ・	kookkewmaka-	うなじを
1429. アツテ・カネ・	atte kane <sup>344)</sup>	乗せて
1430. モコルワ・	mokor wa	眠って
1431. アンルヅネ・	an ruwe ne.	いるのだ。
1432. ボンメノコ・	pon menoko	若い女の
1433. アツテ・イメル・	atte imeru <sup>345)</sup>	美貌の輝きで
【14丁表】		
1434. ドンブ・ウブソロ・	tumpu upsor <sup>346)</sup>	部屋の中は

1435. エゾマクマクケ・	ewemakmakke <sup>347)</sup>	満ちあふれている。
1436. カムイ・クスナム・	kamuy kusnam	神でさえも
1437. シレトク・オロケ・	siretok orke	その美貌は
1438. エネオカヒ・	ene oka hi	これほど
1439. ネナンコラ・	ne nankor _ya?	だろうか。
1440. アヌカルヒケ・	a=nukar hike	(女を) 見ると
1441. ナオアル・ボンベ・	na oar ponpe	まだまったく子供
1442. ネルヅネ・	ne ruwe ne.	なのだった。
1443. アドイバ・チキ・	a=tuypa ciki	(彼女を) 切っても
1444. モシリ・エズンベ・	mosir ewen pe	国にさしさわる者で
1445. ソモヘタバン・	somo hetap an <sup>348)</sup>	あるはずがない
1446. ヤイヌアンコロカ・	yaynu=an korka	(と) 思ったが
1447. セウリ・クルポキ・	sewri kurpok <sup>349)</sup>	(女の) 喉もとを
1448. アドイバルヅネ・	a=tuypa ruwe ne.	私は切った。
1449. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1450. ソイネアンワ・	soyne=an wa	外に出て
1451. ウタルバ・ザシ・	utarpa casi	首領の山城
1452. ビシノ・ランケ・	pisno ranke	ごとに、何回も
1453. アフン・アンワ・	ahun=an wa	入って
1454. インカラン・ヒケ・	inkar=an hike	見ると
1455. インキ・ニシバ・	inki nispa	どの首領も
1456. ウヅホシノ・	uehosino <sup>350)</sup>	互いにかけ離れた
1457. ホラルバ・ルヅ・	horarpa ruwe	暮らしである様子は
1458. オアラリサム・	oararisam	まったくなく
1459. ラヤブ・ケウドム・	rayap kewtum	感心する思いを
1460. アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	私は抱いた。
1461. ザシ・ビシノ・	casi pisno	山城ごとに
1462. ボンメノコ・	pon menoko	若い女が
1463. ドンプオッタ・	tumpu or_ ta	部屋の中で
1464. モコロワ・オカ・	mokor wa oka	眠っている
1465. キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
1466. インキメ■ノコ・	inki menoko	どの女も
1467. ウヅホシノ・	uehosino	互に見劣りする
1468. シレトク・オルケ・	siretok orke	美貌で
1469. オカルヅカ・	oka ruwe ka	あるのでは

1470. オアラリサム・	oararisam	なく
1471. ラヤブケウトム・	rayap kewtum	感心する思いを
1472. アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	私は抱いた
1473. キブネコロカ・	ki p ne korka	のだったが
1474. オビッタ・アライケ・	opitta a=rayke	私は（女を）全員殺し
1475. キルゴネ・	ki ruwe ne.	たのだ。
1476. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1477. エカン・ルゴ・	ek=an ruwe	私は（ここに）来た
1478. ネヒタパンナ・	ne hi tapan na.	のですよ。
1479. ルベットムウンクル・	Rupettom'unkur,	ルベットムウンクルよ、
1480. エコットレシ・	e=kor_ turesi	あなたの妹を
1481. イコレ・キヤン・	i=kore ki yan.	私にください。
1482. キワネヤクネ・	ki wa ne yakne	そうしたら
1483. イケツビ・ロルケ・	i=keppirorke	私のおかげで
1484. エエニシテナ・	e=eniste na.	安心できるよ。
【14丁裏】		
1485. ウタリ・インネブ■	utari inne p	私は仲間が多い者
1486. アネルゴネ・	a=ne ruwe ne.	なのだ。
1487. ネヒサマタ・	ne hi sama ta	さらに
1488. スブルクル・アネ・	nupur kur a=ne	私は巫力が強い。
1489. セコロアックス・	sekor an kusu	ということだから
1490. ネブビトホ・	nep pitoho	何者を
1491. エシトマカ・	e=sitoma ka	恐れることも
1492. ソモキ・キナ・	somo ki ki na.	なくなるのだよ。
1493. アコイシトマップ・	a=koysitoma p	恐ろしいものは
1494. イサムルゴネ・	isam ruwe ne.	私にはないのだ。
1495. シスタブカタ・	Sinutapka ta	シスタブカの
1496. ボニウネ・ニシバ・	poniwne nispa <sup>351)</sup>	年下の首領は
1497. ルヤンベアニ・	ruyanpe ani	嵐でもって
1498. イサム・ルゴネ・	isam ruwe ne.	死んだのだ。
1499. オトタヌニシバ・	otutanu nispa <sup>352)</sup>	更に年下の首領は
1500. アライケルゴネ・	a=rayke ruwe ne.	私が殺したのだ。
1501. キヤンネニシバ・	kiyanne nispa	年上の首領
1502. シネンネ・バテク・	sinen ne patek	一人だけに（対して）
1503. アウタリヒ・	a=utarihi	私の仲間たちを

1504. アコホッパ・ルゴ・	a=kohoppa ruwe	置いてきたの
1505. ネワネヤッカ・	ne wa ne yakka	だが
1506. アウタリ・	a=utari	私の仲間は
1507. インネクニブ・	inne kuni p	多いの
1508. ネアクス・	ne a kusu	だから（仲間を）
1509. ヤゴボソレ・	yayeposore <sup>353)</sup>	全滅させられは
1510. ソモキ・ナンコロ・	somo ki nankor.	しないだろう。
1511. セコロアックス・	sekor an kusu	ということだから
1512. タネアナクネ・	tane anakne	今は
1513. アシトマッカ・	a=sitoma p ka	恐れるものも
1514. イサムルゴネ・	isam ruwe ne.	ないのだ。
1515. エコットレシ・	e=kor_ turesi	あなたの妹を
1516. イコロバレヤン・	i=korpare yan.	私にください。
1517. キワネヤクネ・	ki wa ne yakne	そうしたら
1518. シヌタブカ・	Sinutapka	シヌタブカに
1519. オマイスマ・	oma inuma	ある宝物を
1520. エコロ・コタン・	e=kor kotan	あなたの村に
1521. アオセ・ヤクネ・	a=ose yakne	運ぶから
1522. エアスロルケ・	e=asurorke	あなたの噂が
1523. ホブニクス・	hopuni kusu	立つ
1524. ネナ・セコロ・	ne na." sekor	だろうから」と
1525. レプイシリ・ウンクル・	Repuysir'unkur	レプンシリウンクルが
1526. イタクルゴネ・	itak ruwe ne.	言ったのだ。
1527. キロクス・ <sup>354)</sup>	ki rok kusu	そうしたから
1528. ルベットムウンクル・	Rupettom'unkur	ルベットムウンクル
1529. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
1530. ザヘビタ・	ca hepita <sup>355)</sup>	枝が弾ね上がる
1531. シコバヤル・	sikopayar	かのように
1532. アラカ・イタク・	arka itak	怒声を
1533. エアシンケ・	easinke <sup>356)</sup>	発して
1534. エネオカヒ・	ene oka hi	こう言った。
1535. ウサイネ・カタブ・	"usayne ka tap <sup>357)</sup>	「これはこれは
1536. レプイシリ・ウンクル・	Repuysir'unkur	レプンシリウンクル、
1537. ゴナイヌサニ・	wen aynu sani,	悪い人間の子孫よ、
1538. チホイヨレ・	cihoyyore	魔が差したり

【15丁表】

1539. チバウチコレ・	cipawcikore <sup>358)</sup>	魔が憑いたりした
1540. ネカシウン・	ne kasi un <sup>359)</sup>	そのせいで
1541. チコソモクル・	cikosomokur <sup>360)</sup>	無礼なことを
1542. ヤイカタス・	yaykatanu	言って
1543. キハゴアン・	ki hawe an?	いるのか？
1544. シスタブカタ・	Sinutapka ta	シスタブカで
1545. アイリワク・	a=irwak-	私の兄弟分の
1546. ニシバ・ウタリ・	nispautari <sup>361)</sup>	首領たちが
1547. ドレシレスワ・	turesi resu wa	妹を育てて
1548. オカクニ・アワ・	oka kuni awa	いたはずなのに
1549. アロピッタノ・	ar opittano	みなすべて
1550. エライケカタ・	e=rayke ka ta	お前が殺した上に
1551. シスタブカ・	Sinutapka	シスタブカに
1552. オマ・イヨイベ・	oma iyoype	ある宝物を
1553. エルラクニ・	e=rura kuni	運んでくると
1554. エゴ・ハゴアン・	e=ye hawe an?	言うのか？
1555. カムイオル・バクノ・	kamuy or pakno	神のところまでも
1556. アスル・アシベ・	asuru as pe	噂が立つ者が
1557. シスタブカタ・	Sinutapka ta	シスタブカの
1558. アイリワク・ウタリ・	a=irwak'utari	兄弟たち
1559. イキロク・クス・	iki rok kusu	であったのだから、
1560. チコソモクル・	cikosomokur	無礼なことを
1561. ヤイカタス・	yaykatanu	言う
1562. エキハゴ・	e=ki hawe	の
1563. ネワネヤクカ・	ne wa ne yakka	ならば
1564. アイリワク・ウタリ・	a=irwak'utari	私の兄弟たちの
1565. ルヲカケヘ・	ruokakehe <sup>362)</sup>	死後（となった今）は
1566. アエタマニ・	a=etamani <sup>363)</sup>	私が（代わりに）刀を振るう
1567. キクス・ネナ・	ki kusu ne na.	つもりだよ。
1568. ゴナイヌサニ・	wen aynu sani.”	悪い人間の子孫め」
1569. セコロカイベ・	sekor okay pe	ということを
1570. ルベットム・ウンクル・	Rupettom'unkur	ルベットムウンクル
1571. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
1572. タイゴカネ・	taye kane	まくしたて

1573. オトシゼンバ・	otu siwenpa	多くの悪口
1574. オレシゼンバ・	ore siwenpa	多数の悪口を
1575. シロタツバ・	sirotatpa	ぶちまけると
1576. イタクサカヨ・	itak sakayo <sup>364)</sup>	言い争いが
1577. ウコホブニ・	ukohopuni	起こった。
1578. イヌネワ・	inu ne wa	私は聞いて
1579. アキッネ・コロカ・	a=ki p ne korka	いたのだが
1580. トルシキンラネ・	turus kinra ne	狂おしい怒りで
1581. イコホブニ・	i=kohopuni	かとなった。
1582. オロヤチキ・	oroyaciki	なるほど
1583. ゴナイヌサニ・	wen aynu sani	悪い人間の子孫が
1584. イキカドフ・	iki katuhu	したこと
1585. ネロコカ・	ne rokoka	だったのだな (と)
1586. アヌヒケ・	a=nu hike	私は聞いていたが
1587. エネヌブルクル・	“ene nupur kur	「こんな巫者に
1588. エコモイレ・キヤッカ・	e=komoyre ki yakka <sup>365)</sup>	遅れを取っては
1589. ゴンネク・セコル・	wen nek.” sekor	駄目だぞ」と
1590. ヤイヌアングス・	yaynu=an kusu	私は思ったので
1591. プヤロ・ロッパ・	puyarorotpe	窓の簾を
1592. アマフノ・ゴレ・	a=mawnoyere <sup>366)</sup>	すり抜けて (入り)
1593. ゴナイヌサニ・	wen aynu sani	悪い人間の子孫の
1594. サバウシベ・	sapauspe <sup>367)</sup>	髪のを
1595. アテッコノイゴ・	a=tekkonoye <sup>368)</sup>	手に巻きつけた。
1596. キカドフ・	ki katuhu	そうしている様子が
1597. ホマツカカンネ・	homar_ takar_ ne	かすんだ夢のように
1598. アウゴオマンテ・	a=ueomante <sup>369)</sup>	思われて
1599. アコンラム・コンナ・	a=konram konna	私の心は
1600. カリカ【15丁裏】ネ・	kari kane <sup>370)</sup>	ぐるぐる回り
1601. ドルシタラ・	turusitara <sup>371)</sup>	狂ったようだった。
1602. コヤイシカルン・	koyaysikarun	私が気がついた
1603. アキシリ・	a=ki siri	ときには
1604. エネアニ・	ene an _hi	こうなっていた。
1605. ゴナイヌサニ・	wen aynu sani	悪い人間の子孫を
1606. バルシベ・クルカ・	paruspe kurka	(天井の) 梁の上に
1607. アエキク・クス・ネコル・	a=ekik kusu ne kor <sup>372)</sup>	ぶつけようとしても

1608. リテン・カリップネ・	riten karip ne	柔らかい輪のように
1609. ヤイカル・カネ・	yaykar kane <sup>373)</sup>	(相手が) なって
1610. アテク・ドイカシ・	a=tektuykasi	私の手の上に
1611. アテク・ドイボキ・	a=tektuypoki	私の手の下に
1612. リテン・カリブネ・	riten karip ne	柔らかい輪のように
1613. コノイタンケ・	konoytanke <sup>374)</sup>	へばりつく (ので)
1614. アエコツボ・カイキ・	a=ekot pokayki <sup>375)</sup>	殺すことも
1615. エゾニタラ・	ewenitara	できずに
1616. キンラ・マウネ・	kinra maw ne	私は怒り
1617. イコホブニ・	i=kohopuni <sup>376)</sup>	狂った。
1618. ウプシ・テクコロ・	upsi tek kor <sup>377)</sup>	(相手が) 伏せると
1619. アシレカッタ・	a=sirekatta <sup>378)</sup>	地面に引き倒し
1620. ベンラムカタ・	penramu ka ta <sup>379)</sup>	(彼の) 背中に
1621. アコッカ・エチウ・	a=kokkaeciw	私の膝を押しつけ
1622. カムイ・オトビ・	kamuy otopi	立派な髪を
1623. アエテッコノゾ・	a=etekkonoye	手に巻きつけて
1624. アエマカ・カイゾ・	a=emakakaye <sup>380)</sup>	首を後ろに折ろうと
1625. キクスネコロ・	ki kusu ne kor	すると
1626. ドマシヌ・ニネ・	tumasnu ni ne	丈夫な木のように
1627. ヤイカル・カネ・	yaykar kane	なって (ふんばっていて)
1628. アエコツボカ・	a=ekot poka	殺すことも
1629. エゾン・アイネ・	ewen ayne	できずにいると
1630. ヤヤバブラム・	yayapapu ramu <sup>381)</sup>	私は悔しい思いを
1631. アヤイコロバレ・	a=yaykorpore	抱き
1632. キムンベ・オッドム・	kimunpe ottum	熊のような力を
1633. アイコサンケ・	a=ikosanke <sup>382)</sup>	出して
1634. アキ・シユツバ・	a=ki siyuppa	力を込めて
1635. タネボ・ソノノ・	tanepo sonno	今まさに本当に
1636. ゼツバ・カイゾ・	cep pa kaye	魚の頭を折る
1637. アエカルカル・	a=ekarkar	ように首を折った。
1638. イノドオルケ・	inotu orke	魂が
1639. ホブニ・フミ・	hopuni humi	飛び立つ音は
1640. ドレンベ・ユツケブ・	turenpe yupke p	憑き神が強い者 (だから) か、
1641. イネアブクスン・	ineapkusun	なんとまあ
1642. シヨシクル・カシバ・	sioskur kaska <sup>383)</sup>	余りにも未練が残る

1643. フマシキヤ・	humas ki ya?	音がするのだろうか。
1644. ドノイワン・スイ・	tu noiwan suy	何十回も
1645. シチュプカ・ネヒ・	sicupka ne hi	東の方へ
1646. コフム・ニウケシテ・	kohumniwkeste <sup>384)</sup>	飛んで行きそこねて
1647. シアンライビト・	sian ray pito <sup>385)</sup>	完全に死ぬ魂は
1648. シアフン・チュブ・ボク・	siahuncuppok <sup>386)</sup>	真西へ
1649. コフンエラウタ・	kohum'erawta-	音低く
1650. ロルバ・カネ・	rorpa kane <sup>387)</sup>	沈んで、
1651. バクノ・ネコル・	pakno ne kor	そうしたら
1652. ソヤコタン・	Soya kotan	ソヤ村へ
1653. アコイ【16丁表】カドリ・	a=koykaturi <sup>388)</sup>	私は急ぎ足で
1654. テルケ・ネワ・	terke ne wa	跳んだり
1655. ホブニネワ・	hopuni ne wa	飛んだり
1656. アキップネコルカ・	a=ki p ne korka	したのだが
1657. アエコンラムコンナ・	a=ekonram konna	私の心は
1658. ドルシタラ・	turusitara	狂ったようだった。
1659. ネプトホ・ <sup>389)</sup>	nep pitoho	何かの神が
1660. イドレンクス・	i=turen kusu	私に憑いているために
1661. シバセカムイ・	sipase kamuy	(憑いている) 真に重い神が
1662. カントコトル・	kanto kotor	天空で
1663. コフムエブシ・	kohum'epus <sup>390)</sup>	音がはじめて
1664. タンカムイマフ・ <sup>391)</sup>	tan kamuy maw	神風の
1665. ラン■フムコンナ・	ran hum konna	吹き下りる音が
1666. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
1667. カムイマフ・シリカ・ <sup>392)</sup>	kamuy maw sirka	私が神風の上に
1668. アイゾコシネクル・	a=i=ekosnekur-	軽く
1669. スイバカネ・	suypa kane <sup>393)</sup>	揺られつつ
1670. アルバアン・アイネ・	arpa=an ayne	行くうちに
1671. イヌアンヒケ・	inu=an hike	聞こえたのは
1672. イゾトコウン・	i=etoko un <sup>394)</sup>	私の(向かう)先から
1673. オドオトンリム・	otu ototrim	何度もの轟音が
1674. オドキタラ・	otukitara <sup>395)</sup>	高まり起こって
1675. アルバアン・アワ・	arpa=an a wa	来るもので
1676. ドムンチ・ウラル・	tumunci urar	戦争のもや
1677. ロルンバ・ウラル・	rorunpe urar	戦いのもやが

1678. クンネニシネ・	kunne nis ne	黒い雲となって
1679. ロルンベ・クルカ・	rorunpe kurka	戦いの上に
1680. エプタカム・	eputakamu <sup>396)</sup>	かぶさっていた。
1681. クルカシケ・	kurkasike	その上に
1682. コスヲトツケ・	kosuototke <sup>397)</sup>	私は急降下
1683. アキルゴネ・	a=ki ruwe ne.	したのだ。
1684. インカラシシリ・	inkar=an siri	見えたのは
1685. コタンバウンクル・	kotan pa un kur <sup>398)</sup>	村の上手に住む人（である）
1686. ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんと
1687. ボシアコロユビ・	pon a=kor yupi	小さい兄さんと
1688. ウッシウ・ニシバ・	ussiw nispa	召し使いの長の
1689. エレンネキワ・	eren ne ki wa	三人で、
1690. インネ・ウタル・	inne utar <sup>399)</sup>	（彼らが）多くの人々の
1691. イキットムタ・	ikir_ tum ta	集団の中で
1692. マワチカブネ・	mawa cikap ne <sup>400)</sup>	飢えた鳥のように
1693. ヤイカルカネ・	yaykar kane	なって
1694. タマンパ・シリ・	tamanpa siri <sup>401)</sup>	刀を振るう様子は
1695. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1696. ハンケ・ドイゴヅ・	hanke tuye p	近く切るものは
1697. エヤイテムニコロ・	eyaytemnikor-	両腕の中に
1698. オケウ・ドイゴ・	okewtuye <sup>402)</sup>	斬って
1699. ドイマ・ドイゴヅ・	tuymatuye p	遠く切るものは
1700. コウサベンゾル・	kousapencor-	体を
1701. ノイバカネ・	noypa kane <sup>403)</sup>	ひねって（斬ると）
1702. ドブネウタラ・	tu p ne utar <sup>404)</sup>	細切れの死体
1703. レブネウタル・	re p ne utar	バラバラの死体が
1704. ウカタテルケ・	ukataterke <sup>405)</sup>	積み重なった。
1705. イネロクベ・	ine rok pe	なんとまあ
1706. アユブタリ・	a=yuputari	兄さんたち（ほど）の
1707. タマンパシリ・	tamanpa siri	刀の使い手が
1708. オカナンコラ・	oka nankor _ya	あるだろうか（と）
1709. ラヤッケウドム・	rayap kewtum	感嘆の気持ちを
1710. アヤイコルバレ・	a=yaykorpore	抱いた。
1711. アユブタリ・	a=yuputari	私は兄さんたちの
1712. ビシカニケ・	piskanike	まわりで

1713. アドリ【16丁裏】メチウ・	a=turimeciw <sup>406)</sup>	魔払いの力足を踏み
1714. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1715. ドムンチクルカ・	tumunci kurka <sup>407)</sup>	戦いのほうに
1716. コタムエタイゴ・	kotam'etaye	向かって刀を抜いた
1717. アキシリ・	a=ki siri	様子は
1718. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1719. アイヌベンニシ・	aynu pennis <sup>408)</sup>	敵の上半身へ
1720. アエタマニコロ・	a=etamani kor	私が刀を振るうと
1721. サバサク・アイヌ・	sapasak aynu	頭を失った人間が
1722. オロチラビ・	orocirapi <sup>409)</sup>	倒れる。
1723. アイヌ・パンニシ・	aynu pannis <sup>410)</sup>	胴体部分は
1724. スマランシリ・	suma ran siri	石が落ちるかの
1725. エカンナユカラ・	ekannayukar	ようだ。
1726. エムコクス・	emkokusu	そのため
1727. アエムシ・ <del>エムシ</del> ・エプニツ・	a=emus'epuni p <sup>411)</sup>	切った首から
1728. ケマツト・クンネ・	kem apto kunne	血が雨のように
1729. チラナランケ・	ciranaranke <sup>412)</sup>	降り注ぐ。
1730. アハンケ・ドイゴブ・	a=hanketuye p	私が近く切る者は
1731. アエヤイテムニコロ・	a=eyaytemnikor-	両腕の中で
1732. オケウドイゴ・	okewtuye	斬り倒し
1733. アドイマ・ドイゴブ・	a=tuymatuye p	私が遠く切る者は
1734. アコウサ・ベンゾル・	a=kowsapencor-	体を
1735. ノイバカネ・	noypa kane	ひねって(斬り)
1736. アビウバ・ウタラ・	a=piwpa utar <sup>413)</sup>	私が追う者どもを
1737. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちの
1738. テムコロサマ・	temkor sama <sup>414)</sup>	手元に
1739. アコバシテコロ・	a=kopaste kor	走らせると
1740. シネチニカ・	sine cinika	(兄たちは) 一步も
1741. オホリカテルケ・	ohorka terke <sup>415)</sup>	後へ引くことも
1742. ソモキノボ・	somo ki nopo	しないで
1743. キナオールドイゴ・	kinaortuye <sup>416)</sup>	野草を刈る
1744. エカンナユカラ・	ekannayukar	ように斬った。
1745. ロルンベ・カムイ・	rorunpe kamuy	戦争の神が
1746. シノツケウドムネ・	sinot kewtum ne	戯れる心地のように
1747. アエケウドムコンナ・	a=ekewtumkonna-	私の心は

1748. チリキブニ・	cirikipuni <sup>417)</sup>	高揚する。
1749. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちが
1750. アンラボッキ・	anrapokki <sup>418)</sup>	こてんぱんに
1751. アカリクニ・	a=kar kuni <sup>419)</sup>	負かされそうに
1752. オドライサンベ・	oturaysampe	なったら大変だと
1753. アネコッテカル・	an=ekotekar <sup>420)</sup>	思っ
1754. フムネ・アンコロ・	humne an kor <sup>421)</sup>	時には
1755. ベケンレラネ・	peker_ rera ne	私は清風のように
1756. トムンチ・クルカ・	tumunci kurka	戦場を
1757. アエシスイズ・	a=esisuye <sup>422)</sup>	駆け回った。
1758. イドレンピト・	i=turen pito	私の憑き神が
1759. ドムンチクルカ・	tumunci kurka	戦いの上へ
1760. コオニシボソ・	koonisposo <sup>423)</sup>	雲間から現れる。
1761. トムンチソカ・	tumunci so ka	(すると) 戦場が
1762. チタトイバクノ・	citatoy pakno <sup>424)</sup>	掘り起こされた畑ほど (か)
1763. チタトイカス・	citatoy kasu	それ以上に (荒廃し)
1764. ウフイワバイズ・	uhuy wa paye	燃えていく
1765. ヤカラム・	yak a=ramu	と思った。
1766. ホントモタ・	hontomo ta	その途中で
1767. カンチウ・イキリ・	kanciw ikir <sup>425)</sup>	雹の山が
1768. ドムンチソカ・	tumunci so ka	戦場に
1769. エランフンコンナ・	eran hum konna	降る音が
【17丁表】		
1770. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響き
1771. シカンナカムイ・	sikanna kamuy <sup>426)</sup>	強大な雷の神が
1772. ドノイワンスイ・	tu noiwan suy	何回も
1773. ロルンベクルカ・	rorunpe kurka <sup>427)</sup>	戦場へ
1774. コオニシボソ・	koonisposo	雲間から現れては
1775. モシリソクルカ・	mosir so kurka	大地の上で
1776. チオウシカル・	ciouskar <sup>428)</sup>	(尾を) 立てて
1777. ドمام・スッコンナ・	tumam sut konna	体の下のほうを
1778. ノユンヒタラ・	noyunhitara <sup>429)</sup>	うねうねと波立たせ
1779. ランラムリキ・	ramram riki	うろこを高く
1780. ロシキカネ・	roski kane	立てて
1781. エムコクス・	emkokusu	そのために

1782. アエコナラム・	a=ekonramu-	心に
1783. チユツテクカネ・	cuptek kane <sup>430)</sup>	恐怖を抱かされて
1784. シアンライビト・	sian ray pito	完全に死ぬ魂は
1785. シチユツプカネヒ・	sicupka ne hi	東の方には
1786. コフムニウケシテ・	kohumniwkeste	飛んで行きそこねて
1787. シアフン・チユツボク・	siahuncuppok	真西へ
1788. コフムエラウタ・	kohum'erauta-	音低く
1789. ロルバカネ・	rorpa kane	沈んで、
1790. シキヌ・ライビト・	siknu ray pito <sup>431)</sup>	生き返る死霊は
1791. シチユツプカネヒ・	sicupka ne hi	真東のほうへ
1792. コフムエリキ・	kohum'eriki-	音高く
1793. テスヒタラ・	tesuhitara	それでゆく。
1794. ニキドイサクノ・	nikituy sakno <sup>432)</sup>	絶え間なく
1795. ドカムイライフム・	tu kamuy ray hum	多くの神が死ぬ音
1796. レカムイライフム・	re kamuy ray hum	多数の神が死ぬ音が
1797. オロネアンベ・	oroneanpe	一緒になって
1798. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
1799. エアツテリケタ・	ear_ terke ta <sup>433)</sup>	わずかな間で
1800. セタク・イキリ・	seta kikir <sup>434)</sup>	犬につく虫 (までも)
1801. ウワスルアシテ・	uasuruaste <sup>435)</sup>	噂を立てる (もの) を
1802. アエケシケ・カルバ・	a=ekeskekar pa <sup>436)</sup>	殺しつくした。
1803. パクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1804. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちと
1805. ドラノ・カイキ・	turano kayki	いっしょに
1806. ウケゴホムス・	ukewehomsu <sup>437)</sup>	勝ち鬨を
1807. アキルゴネ・	a=ki ruwe ne.	あげた。
1808. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1809. アユプタリ・コロ・	a=yuputari kor	兄さんたちの
1810. ウイマムチブ・	uymam cip	交易用の船を
1811. アドイソ・クルカ・	atuyso kurka	海上に
1812. アコエアチウ・	a=koeaciw	押し出し
1813. アオバルゴネ・	a=o pa ruwe ne.	(船に) 乗った。
1814. キロクアワ・	ki rok awa	そうしたところ
1815. ソヤウンクル・	Soyaunkur	ソヤウンクル
1816. コットレシ・	kor_ turesi	の妹が

1817. ビスンル	pisun ru	浜の道
1818. ルテキサム・	ru teksam <sup>438)</sup>	道のそばまで
1819. チオサンケ・	ciosanke <sup>439)</sup>	出ていた。
1820. トヌブル・ヌベ・	tu nupur nupe	多くの熱い涙
1821. レヌブル・ヌベ・	re nupur nupe	多数の熱い涙を
1822. ヤイコランケ・	yaykoranke <sup>440)</sup>	はらはらと流す
1823. シリキ・コロカ・	sirki korka	様子だが
1824. アセムコッタヌ <sup>441)</sup>	a=semkottannu	私は知らんぷりをして
1825. アホッパヒネ・	a=hoppa hine	(彼女を) 後に残して
1826. レブンアンルゴネ・	repun=an ruwe ne.	沖に出た。(やがて)
1827. アコロ・ルゴサン・	a=kor ruwesan	我々の浜の下り口に
1828. アオヤブルゴネ・	a=oyap ruwe ne.	上陸した。
【17丁裏】		
1829. チブアエタイゴ・	cip a=etaye	舟を引き上げて
1830. オロワネシ・	orowa nesi	それから
1831. キロルクルカ・	kiroru kurka	道の上を
1832. アエイリキ・	a=eyayriki-	空高く
1833. ブンバキワ・	punpa ki wa	飛び上がって
1834. バイゴアン・カド・	paye=an katu	飛んでいく様子は
1835. アオモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
1836. バイゴアンアワ・	paye=an awa	(家に) 戻ると
1837. アコットレシ・	a=kor_ turesi	私たちの妹は
1838. アロビットノ・	ar opittano	みなすべて
1839. シキヌワオカ・	siknu wa oka <sup>442)</sup>	生き返っており
1840. ケゴゼホムス・	kewecehomsu <sup>443)</sup>	喜びの儀礼を
1841. アエカル・カルバ・	a=ekarkarpa	私たちはした
1842. キルゴネ・	ki ruwe ne.	のだ。
1843. ランマカネ・	ramma kane	いつものように
1844. オカアン・アイネ・	oka=an ayne	暮らしていたが
1845. シネアンタ・	sineanta	ある日
1846. ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちに
1847. アサケカレ・	a=sakekare	酒を作らせる
1848. キクニヒ・	ki kunihi	ようにと
1849. アゾルゴネ・	a=ye ruwe ne.	言われた。
1850. イルカネコロ・	iruka ne kor	しばらくして

1851. トノトカムイ・	tonoto kamuy	酒が
1852. ビリカマヌ・	pirka manu	いい具合になったと
1853. ウッシウ・ウタラ・	ussiw utar	召し使いたちが
1854. イヅルヅネ・	ye ruwe ne.	言うのだ。
1855. マドタラオッタ・	mat utar or_ ta	女たちは
1856. ウコイザリ・	ukoicari-	みんなでザルを
1857. テルケレ・	terkere <sup>444)</sup>	渡しあい
1858. オッカ■ヨ・オッタ・	okkayo or_ ta	男たちは
1859. ウコエビリケブ・	ukoepirkep-	互いに小刀を
1860. ホシテカネ・	hoste kane <sup>445)</sup>	走らせて
1861. イヌンバサスム・	inumpa sas _hum	酒こしをする音と
1862. イナウケサスム・	inawke sas _hum	イナウを削る音が
1863. オロネ・アンベ・	oroneanpe	一緒になって
1864. コサシナタラ・	kosasnatara	響き
1865. アンラマス・	anramasu	心地よく
1866. アウヅ・スイヅ・	awwesuye	面白く思う。
1867. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1868. アウタリ・オビッタ・	a=utari opitta	仲間を全員
1869. アタク・ルヅネ・	a=tak ruwe ne.	招待した。
1870. シサク・トノト・	sisak tonoto	最高の宴会が
1871. アウコ・マクテッカ・	a=ukomaktekka	開かれた
1872. キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
1873. トノト・サルケシ・	tonoto sarkes	酒宴の最後に
1874. チオマンテコロ・	ciomante kor	至って
1875. イタク・アンハヅ・	itak=an hawe	私が話したことは
1876. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1877. アコツレシ・	“a=kor_ turesi	「私の妹は
1878. ルベットムウンクル・	Rupettom`unkur	ルベットムウンクルと
1879. アコレク【18丁表】ニ・	a=kore.” kuni <sup>446)</sup>	結婚しなさい」と
1880. アイヅルヅネ・	a=ye ruwe ne.	言った。
1881. イヨヌイタサ・	“ionuytasa <sup>447)</sup>	「その代わりに
1882. ルベットムンマツ・	Rupettomunmat	ルベットムンマツと
1883. アコロクニヒ・	a=kor kuni hi	私は結婚する
1884. ネルヅネ・	ne ruwe ne.	つもりだ。
1885. ボンアコロユピ・	pon a=kor yupi	小さい兄さん

1886. コットレシ・	kor_ turesi	の妹は
1887. サンプツ・ウンクル・	Sanput'unkur	サンプトウンクルと
1888. アコレクニ・	a=kore." kuni	結婚しなさい」と
1889. アイヅ・ルヅネ・	a=ye ruwe ne.	言った。
1890. イヨスイタサ・	ionuytasa	その代わりに
1891. サンプチ・ウンマツ・	Sanput'unmat <sup>448)</sup>	サンプトウンマツは
1892. ボアコロユビ <sup>449)</sup>	pon a=kor yupi	小さい兄さんと
1893. コロクニヒ・	kor kuni hi	結婚することに
1894. ネルヅネ・	ne ruwe ne.	なった。
1895. コタンバ・ウンクル・	kotan pa un kur	村の上手に住む人 (である)
1896. ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さん
1897. コルドレシ・	kor turesi	の妹は
1898. イヨチウンクル・	Iyociunkur	イヨチウンクルと
1899. アコレクニ・	a=kore kuni	結婚することに
1900. ネルヅネ・	ne ruwe ne.	なった。
1901. イヨスイタサ・	ionuytasa	その代わりに
1902. イヨチ・ウンマチ・	Iyociunmat <sup>450)</sup>	イヨチウンマツは
1903. ボロアコロユビ・	poro a=kor yupi	大きい兄さんと
1904. コロクニヒ・	kor kuni hi	結婚しようと
1905. アエウコラムコロ・	a=eukoramkor <sup>451)</sup>	私たちは相談
1906. キルヅネ・	ki ruwe ne.	したのだ。(そして)
1907. アユブタリ・	a=yuputari	兄さんたちは
1908. ウコホッパ・	ukohoppa <sup>452)</sup>	みな戻って行った
1909. キルヅネ・	ki ruwe ne.	のだ。
1910. ランマカネ・	ramma kane	(それからは) いつものように
1911. オカアンヒケ・	oka=an hike	暮らしていたが
1912. ドトイレブンベ・	tu toy repunpe	多くのひどい沖の奴
1913. レトイレブンベ・	re toy repunpe	多くのひどい沖の奴らが
1914. ゼウラム・テクク・	cewramtekuk <sup>453)</sup>	共謀している
1915. イヅバ・ハウヅ・	ye pahawe	(と) いう噂が
1916. アヌコロ・オカアン・	a=nu kor oka=an <sup>454)</sup>	聞こえていた。(が)
1917. ランマカネ・	ramma kane	私は変わりなく
1918. オカアンルヅネ	oka=an ruwe ne.	暮らしていた。

## 注

- 1) 神大古聖語：すぐ下に書かれた「傳」と組み合わせ、それぞれ「神伝」「大伝」「古伝」「聖伝」「語伝」を表すものと考えられる。「神伝」以下は、オイナ (Oyna) というジャンルの訳語として用いられることが多く、『アイヌの叙事詩』にも「神伝 (kamuy oyna)」と題されたオイナが収められている。ただし、ここではオイナではなく、直後に書かれた「ユカル (yukar)」を指す訳語か。また、最後の「語伝」のように読める語は不詳の語。
- 2) トミサンベチ Tomisanpeci: 鍋沢の表記においては音節末子音に-i音を伴ってtがチと書かれる場合もある (このような表記についての詳細は、本報告書所収「鍋沢元蔵によるアイヌ語のカナ表記体系」を参照)。そのためトミサンベチはTomisanpeciあるいはTomisanpetという可能性が考えられる。既刊のテキストにおいては、Tomisanpet / Tomisanpeci 双方の語形が出て来るが、おおよその傾向として、格助詞を伴う際には「Tomisanbet ta」(『ユーカラ集5』p.391)のようにTomisanpetとなることが多く、助詞などを伴わず単独で用いるときにはTomisanpeciが多く見られるようである。ここは格助詞を伴っていないことから、ノートの表記どおりTomisanpeciとした。
- 3) アコツトレシ a=kor\_turesi: 『千歳辞典』に「『～の妹』は～トゥレシ ～turesiの場合も、～コツ トウレシ ～kor\_turesiの場合もある。後者の場合も所属形をとるのが普通である」(p.284)とあることから、turesではなくturesiと表記した。
- 4) eyaykoramu- / petetne: 本ノートでは、mもmuも共に「ム」で表記しているが、ここでは-ramu-とした。『沙流辞典』にはeyaykoram-patetneとeyaykoramu-petetneが共に項目として立てられているが、eyaykoram-petetneの項に、「< eyaykoramu-petetne」とあることや、eyaykorampetetneでは動詞価(ality)から他動詞にはならないことから、本来的には-ramu-と考えられるためである。『沙流辞典』にはrespa poka eyaykoramu-petetneで「...を育てるのに心をくだきいろいろと骨を折り苦勞する」(p.155)とある。
- 5) シランナワ: ノートの表記どおりだとsirannawaだが、siran awaの意味か。
- 6) セドルナワ seturna wa: 直訳は「背中の方から」。注8)も参照。
- 7) イクヒベステ: イクヒベステはi=kuypeste。
- 8) seturna wa / i=sipeste / i=kuypeste: 『ユーカラ集3』に「setun na wa / tuion na wa / chishiepeshte / chikuiepeshte / eiyekarkar 背中から / 腹から / うんこのたれながし / しっこのたれながしを / わたしへお前がした」(p.318)とある。幼い妹を背中におぶって育てていた様子。なお、ここに引いた『ユーカラ集3』の例ではsie-paste / kuye-pesteのようにsiとkuyが所属形になっているが、本ノートでは共に概念形である。
- 9) kotan pa wano: ここでは「村の上手」としたが、『沙流辞典』によるとkotanpaに「村の上手(かみて)」のほか「村の入り口」という意味もある(p.343)。また、wanoは多く「(場所)から」と訳されるが、「『～(場所)で。～(場所)に』と訳される場合もある」(『千歳辞典』p.430)とあることを参考に訳した。
- 10) ラムブアン・ニシバ / イヱパンニシバ Ramupannispa / Yepannispa: 未詳の語句。直訳は「思うことがある首領 / 言うことがある首領」か。この後も何度か出てくる語だが、いずれも主人公の長兄の呼称として使われているため、固有名詞として扱う。Ramupannispaは本行のラムブアンRamup'anのほかラムバンRamupan (262行など)という表記もされており、pとaの間に声門閉鎖音が挿入されるか否かについては揺れがある。一方、Yepannispaは同じ場所に声門閉鎖音が入る表記はされていない。そこで、日本語訳においてはイェパンニシバに合わせてラムパンニシパで統一した。

- 11) cihoppa itak : ci-「～された」 hoppa「～を後に残す」 itak「言葉」。『久保寺辞典』に「chihoppa itak 言ひ遺した言葉」(p.42)とある。
- 12) a=oma yarpe ~ ruwe ne na: おむつの半分で育てたというのは英雄叙事詩において赤ん坊の頃からの許婚関係であることをいう際の常套的な表現で、「oma yarpe『(彼が)中に在る・むつき』, むつきの中からの約婚の間柄だの意」(『ユーカラ集1』p.68)とある。a=omaのa=は二人称敬称と取ることもできるが、英雄叙事詩中で二人称敬称としてのa=が用いられることはほとんどない。そのため、ここではene oka hi以下の内容を sekor「～と」で受けていることから直接話法とはなっているが、「Iyochiunmat / aoma yarpe / yarpe emko / aoreshu menoko / ne yak aye wa / anu rokpe 余市姫 / わがはいるむつき / むつきの半分に / 育てられた乙女 / だと言われて / 我聞いていた」(『ユーカラ集8』p.182)と人称接辞の付き方が同一であることから、間接話法を念頭に置いた内容が直接話法の型に入ってしまったものと解釈した。したがって、a=omaのa=は一人称で主人公を表し、a=oresuのa=は不定人称の受身用法とした。主人公とソヤウンクルの妹とが許婚関係であることを祖母から聞いていたという内容である。
- 13) インカルクス inkar kusu: 原因・理由の接続助詞にはkusu / kusという語形があるが、本ノートにおける表記においては、母音を伴わないsの場合には、「シ」が用いられることが圧倒的に多いことから、「クシ」はkus, 「クス」はkusuと解釈した。
- 14) この行の枠外上部に「三男言」と書かれている。叙述者が三男であることを明示するメモカ。
- 15) emkosama: 『沙流辞典』に「emkosama そのために」(p.97)とある。
- 16) cipasan kurka: cipasanは『久保寺辞典』に「inau-san = chipasan. = soyun chipa」とあり(p.101), 「祭壇, 幣棚」のこと。したがって直訳は「祭壇の上」だが、ここでは「上」という位置ではなく、祭壇そのものを指しているものとしてcipasan kurka全体で「祭壇」とした。69行目の ekasi nusa kaも同様。
- 17) koraynatara: 『久保寺辞典』に「korainatara 廃滅に帰して久しくなつた <ko (共に) rai (死滅) natara (引きつづく状態)」(p.140)とある。ここでは「久しく祭をせずに過ぎた」ために祭壇が「荒廃して古幣が風雨にさらされて影も形もなくなっている」(『金田一全集9』p.406)状態。
- 18) erikipuni: 『千歳辞典』に「erikipuni ~の頭を上に乗上げる」(p.106)とある。
- 19) taye : ta (強調) ye「～を言う, ～に言う」。「タイエカネ【ta ye kane】しゃべる, 言い並べる, まくしたてる」(『萱野辞典』p.292)のように2語で解釈している場合と「taye《…を言う》(= ye)」(『音声資料11』p.165)のように1語として解釈している場合とがある。「atayekane」(『サコロベ』p.170)のようにtaの前に人称接辞が接頭している例があることから、ここではtayeを1語として扱った。
- 20) oroneanpe: 『久保寺辞典』に「oroneanpe『一緒になる』『相和する』と訳し得べし」(p.191)とある。『ユーカラ集1』などでは、「oro『甚だ』neampe(語勢), まるでひどく」(p.231)として、程度が甚だしい様子に用いられている。そのため「kamui nupeki / oroneambe / mike kane / herkai kane shiran こうごうしい光 / まるで / びかびか / きらきらしていた」(p.263)のように輝かしさについて使われることも少なくないが、鍋沢のテキストにおいては「u-asishawko / orone anpe / pepunitara 仲間同志のけんかの / 大騒ぎの音が / がやがやして」(『アイヌの叙事詩』p.581)のように、複数回あるいは数種類の音が一齐に鳴る様子に限って用いられている。
- 21) ケフシタラ keusitara: ケフシタラはkeusitara。『沙流辞典』にkeuskeus「カラッカラッと鳴る

- (下駄の音)」(p.299)とあることを参考に、keus とローマ字化した。『久保寺辞典』には keus で「かんかん鳴りひびく」、keusitara で「鳴りさわぐ」(p.127)とある。-itara は継続・持続を表す接尾辞。
- 22) makiri ukoanpa wa : ukoanpa は ukoani 「～を一緒に持つ」の複数形なので、長兄を含めた複数人が船の彫刻に向かっている。ここでは長兄と次兄と一緒に、ということか。
- 23) cip nuye kusu : ここで兄たちが船に彫刻したものは、169～174行目で語られる。
- 24) タネアナクネ～ キルゴネ : タネの頭にカギ括弧が、ルゴネの後にカギ括弧閉じが、それぞれ鉛筆のようなもので書き足されている。直前の表現と重複しているために、不要と判断したものか。鉛筆書きについては kamuyyukar(1) 注8)も参照。
- 25) tapne ne kor : 『久保寺辞典』に「tapne nekor 斯くて」(p.167)とある。
- 26) pakno ne kor : 鍋沢元蔵の英雄叙事詩で多く用いられる接続句。『久保寺辞典』には「pakno-nekor かくして、折ふし、前を承けて後を起す接続辞、そこまでであると、そこまでになつて」(p.200)とある。
- 27) アカリワ・アンベ a=kar wa an pe : アカリは a=kar。r の直後に-i の音が挿入された表記。そのため直訳は「私が作っていたもの」。この話では、ここまで主人公が何を「作って」いたのか語られていないが、英雄叙事詩や神謡において男性主人公は普段の生活では彫刻をしているのが常であるため、ここでも a=kar wa an pe は彫刻を施していた刀の鞘などを指す。
- 28) itarkocupu : itar 「ござ、寝具」ko- 「～と共に」cupu 「～をまるめる、～をつぼめる」。『久保寺辞典』に「itarkochupu 莫塵と一緒に包む」(p.110)とある。「むしろの上で刀鞘の彫刻をしてくらすから、しまう時はそれにぐるぐるっと巻いてかたづけしておく」(『ユーカラ集2』p.352)という場合に使われる語。
- 29) a=eyaykurkasam- / opirasa : 『千歳辞典』に「eyaykurkasam`opirasa ～を自分の体に着せかける。～を身にまとう」(p.100)とある。
- 30) ウオッカネクチ uokkanekut : カネクチは kanekut。u- 「互い」ok 「～にひっかかる」kane 「金属」kut 「帯」。英雄叙事詩における主人公の衣装のひとつ。ほかのテキストにおける用例では kanekut (例えば『金田一全集9』p.455)となっているため、kanekuci ではなく kanekut とした。
- 31) a=oatcini / a=oyausi / a=oatcini / a=orepusi : 『千歳辞典』に「a=atcikiri a (n) =oyausi a=atcikiri a (n) =orepusi」で「『片足を陸に立て、片足を沖に立て』という常套句で、家のことをきづかいながらも、交易などのために海に舟を出す際の気持ちを表現する際に用いられる」(p.130)とある。a=oatcini は a= 「私の」oar- 「片方の」cini 「～の股」で、a=atcikiri と同意の語句。
- 32) e=ka a=ose : 『萱野辞典』に「カシオセ【kasi o-se】みやげ物を持って行く」(p.192)とある。
- 33) tunoiwan suy : 直訳は「2つの6回」だが、実数としての「2」や「6」を意味するのではなく多数を表す表現であることから、「何度も」とした。以下、tu (otu) ～「2つの」あるいは tu ～ / re ～「2つの / 3つの」、iwan 「6つの」という表現も同様。
- 34) oukoraye : 「chinki kese / a-o-ukoraye 裾の末を / われおさえる」(『アイヌの叙事詩』p.91)。ukoraye は「一所によせる、よせあはす。寄せ集む、掻集める、取集む」(『久保寺辞典』p.292)。
- 35) tu pirka kuni p / re pirka kuni p : 「tu pirka kunip 二つのいいこと」(『ユーカラ集4』p.341)のように訳される。使われる場面が比較的限られており、(1) 祈詞で、神の加護による恩恵を願う場合(『くらしと言葉4』p.273など)、(2) 英雄叙事詩で、怒りなどで理性を失っている状態の主人公を落ち着かせ、なだめる際(『アイヌの叙事詩』p.607など)に用いられることが多い。ここでは(2)のやや変則的な使い方、聞き分けのない妹をなだめるための説得を指

す。

- 36) イヰカリノ i=ekari no: ノートの表記にしたがうと iyekari no だが, y は挿入音。
- 37) アリキルヰ arki ruwe: アリキは arki。以下, arki「来る (複数)」についてはすべて「アリキ」という表記が用いられており, 「アラキ」もしくは「アルキ」という表記は見られない。
- 38) tono kosiyuk pa: 「tono koshiyukbe / mashkin teta / riwak kamui ne 倭風の装束が / いやまさって / 昇天する神のよう」(『ユーカラ集 1』 p.337)。陣羽織などを羽織って盛装した姿を褒め称える表現。なお, ここにあげた『ユーカラ集 1』の用例は, 和人との交易から戻ってくる最中のアイヌラックルの衣装。したがって, 和人との交易に赴く際に身につける衣装が tono kosiyuk であろうか。
- 39) maskin kusu: maskin は「あまりに, ますます」(『久保寺辞典』 p.154), maskin kusu で「なおのこと」(『クトゥネシリカ』 p.166) のような意味になる。
- 40) ruan pito ne: 『久保寺辞典』に「ruan kamui ne 昇天の神の如く / ruan pitone = riwak kamui ne (pito ne)」(p.228) とある。「ruan 本当の, まことの」(同)。同義とされている riwak kamuy は「帰神, 昇天の神。(1) 死んで天国へ帰るといふ時は盛装して神々しくする。(2) 盛装した人間の姿等の美称 (252) (3) 死んで盛装させて天国へ帰る神 (4) 立派に盛装したる神」(同: p.227)。本テキストでは(2)の用法。
- 41) poro re uymam cip: 主人公兄弟 3 人はそれぞれ別の舟に乗って交易に出かけるため, 舟は 3 艘になる。この話に限らず, 散文説話などでも同様に交易に行く際は一人につき一艘が基本である。
- 42) cip hon kurka: 鍋沢の kamuy oyna にも cip hon に飾りがある舟が見られる。そこでは「kane pon penchay こがねの小弁財船」について「kane pon penchay / chip hon kasi / hure ipetam / siwnin ipetam / iwan ipetam / a-eannuye kar / chip arke wa / ne wa neyakka / hure ipetam / iwan ipetam / a-eannuye kar こがねの小弁財船 / 船の腹の上に / 赤い剣 / 浅黄色の剣 / 六本の剣を / 彫刻して / 船の片側 / にさえも / 赤い剣 / 浅黄色の剣 / 六本の剣を / 彫刻し」(『アイヌの叙事詩』 pp.71-72) と描写されている。この船は「nanun-rap-ka 船のへさき」と「umunrap-ka 船のとも」の上にはそれぞれ「sirat potoki 岩の地蔵」があるとも描かれていることから, 「chip hon 船の腹」は艫(とも)や舳先(へさき)とは別の部分, すなわち船の胴体であろう。しかし, 「船の胴体」を hon (腹) と呼ぶ例は, ここにあげた用例以外では見られない。模様つきの舟ということでは, 木のカムイが自叙する神謡に「舟になった私は片側に天の神(雷神)の生きた姿を描かれ, 一方には部落神のフクロウの神を描かれ」た(『生物記 I』 p.63) という描写が見られる。また, 実際の uymam cip における飾りは, 『蝦夷生計圖説』(p.589; 599-602)によると, 艫(とも)の部分にあるようである。一方, uymam cip ではないが, ライプツィヒ民族学博物館所蔵の樺太アイヌの板綴舟(イタオマチツ)の模型には, 舳先, 船尾に加え船中央部分にも模様が描かれている(『アイヌのくらし』 p.12) ものがあることから, 本テキストのように舟の胴体に模様がある舟は, 必ずしも口承文学の中に限られたものとは言いきれないようである。
- 43) poro cikarkar cip: cikarkar は『沙流辞典』に「刺しゅうが入っている」(p.51) とある。ここでは, 兄たちが彫刻した文様を指しているものであろう。また, poro「大きい」は cikarkar ではなく cip を修飾していると解釈した。
- 44) a=koeaciw: ko-「～に向かって」 eaciw 「(槍など)を投げて刺す」。「cipkoeaciw 沖の方へ押し出した」(『音声資料11』 p.155)。
- 45) umunrap: 『久保寺辞典』に「umunrap 艫. 船尾」(p.293) とある。

- 46) wororatkíp: 『沙流辞典』に「wororatkíp ともがい (舟の櫂の一種)」(p.832) とある。
- 47) a=eyaymaknakur- / tespa : e- 「～について」 yay- 「自分の」 mak 「～の奥」 -na 「～の方に」 kur (虚辞) tespa 「～を反らす (tesu の複数形)」か。自分の後ろに (櫂を) 反らすことから, 「wororatkíp / koyaymaknakur / tesupa kane 船のかいを / 懸命に / 漕いでいる」(『アイヌの叙事詩』 p.71) などのように, 力を込めて懸命に船を漕いでいることを言う場合に用いられる。
- 48) usamcipotte : u- 「互い」 sam 「～のそば」 cip 「船」 otte 「～を～に掛ける」。ここでは, 主人公兄弟が乗る3艘がばらばらにならず, 互いに近くを並走するように漕いでいること。
- 49) kamuy sikuma : 船尾でともがいを漕いでいるため, 漕ぎ手は進行方向とは反対を向いている。したがって, ここで見えている「kamuy sikuma 神の峰」は, 主人公たちが暮らしていた土地にある山。
- 50) cisireanu : 『久保寺辞典』に「chishireanu 其処にある. 立やたりけり. そこにある」(p.49) とある。
- 51) inunpe kunne : 197行目では「飯の高盛」のように見えた「神の峰」が次には「炉縁」のように見えている。遠ざかるに従って「神の峰」が低く見えるようになる様子。
- 52) humse : 『千歳辞典』に「humse フムという. 悪神を払うためのおたけびの声を上げる」(p.338) とある。本テキストにおいても自分たちの暮らしていた村での変事に気づいて humse をしていることから, 単に注意を促す声ではなく, 魔払いのために声をあげている。
- 53) tu wen kur ne kur : 直訳は「二つの悪い影である影」だが, 『パチエラー辞典』に wenkurihi が「A rain cloud.」(p.556) とあるのを参考にした。
- 54) iyosserkere : 『久保寺辞典』に「iyosserkere おどろいた! あきれた, ああたまげた, おそろしい. <i- (我々を) 畏れさす」(p.113) とある。
- 55) kikita ne kusu : 『沙流辞典』に「kikita しかたなく(?)」(p.303), 『久保寺辞典』に「kikitane <及ばない, 敵しがたい.」(p.128) とある。
- 56) へトボ・ホリカ hetopo horka : ホリカは horka. r の直後に -i の音が挿入された表記。hetopo 「逆に, 反対に」 horka 「反対に, 逆方向に」で, 『久保寺辞典』に「hetopo horka 引返してまた. 引返す」(p.85) とある。
- 57) cipeyanakur- / atte : 『久保寺辞典』に「chip erepna atte 舟を沖へ漕ぎ出す」(p.46) とあることから, cipeyanakuratte は cip 「船」 e- 「〈場所〉へ」 ya 「陸」 -na 「～のほう」 kur (虚辞) atte 「(舟を) ～に向けて進める」で, 「船を陸へ漕ぎ進める」か。
- 58) aoka ne yakka : aoka 「私たち」は, ここでは主人公と次兄のこと。長兄が船を戻すのに弟たちも従っている。
- 59) cipatupatu : 『久保寺辞典』に「chipatupatu はたはたと煽る, もくもくまき上がる」(p.46) とある。
- 60) satupas kunne : 『沙流辞典』に「satupas 雪を掃いて山にしてあるもの」(p.612) とある。波が高く盛り上がっている様子の比喩なので, 直後の行ではなく3行後の「kanna atuy / cirikipusu 下の海は / 高く沸き上がる」に掛かっている。
- 61) kannā atuy / ciraw'orari : kannā atuy の直訳は「上の海」。ciraw'orari は ci- 「～される (中相)」 raw 「深いところ, 低いところ」 o- 「〈場所〉へ」 rari 「～を押さえつける」か。「海が底から沸き返って海底が海面になり, 海面が海底になる」(『金田一全集9』 p.437) ほど, 海が荒れている様子の形容。
- 62) pokna atuy / cirikipusu : pokna atuy の直訳は「下の海」。cirikipusu は「沸き上る」(『久保寺辞

- 典』p.47)。
- 63) yaomap kamuy: ya「陸」oma「〈場所〉にある」p「もの」だが、『久保寺辞典』に yaomap kamuy で「岸打つ大浪」(p.315)とある。
- 64) iwatek kunne:『久保寺辞典』に「iwa-tek 支山, 岐山 <iwa (あら山) tek (手, 枝, わかれ)」(p.112)とある。
- 65) arutapkukur- / etososke:『金田一全集9』などでは「arutap-kurka / etususke もろ肩をつらねて / ざあと揮ひ」(p.436)のように etososke ではなく etususke を用いた語形で見られるため, ar-「全く」u-「互い」tap「肩」ko-「と共に」kur(虚辞) e-「〜について」тусsuske「ふるえる」と考えられる。だが,「repunkaibe / yankekaibe / ukaetososhke wa 沖の折れ浪 / 岸のくだけ浪が / 相重なって崩れて(『ユエカラ集3』p.400)のように etososke を用いた語形も見られることから,「エトソスケ」は etususke の誤記ではないものとして, ノートの表記どおりにローマ字化した。
- 66) wen peupun: wen「程度がひどい」pe「水」upun「吹雪, 雪煙」。『沙流辞典』に「peupun 水煙(波の上に煙みたいに起きること)」(p.527)とある。
- 67) eweshinoye:『久保寺辞典』に「eweshinoye うずまき起こる」(p.73),「ueshinoye ぐるぐる竜巻く様に渦巻く」(p.288)とある。
- 68) ヘトボホリカ hetopo horka: ホリカは horka。
- 69) ruyanpe sas ne:「ruyampe sash ne / ran hum konna 豪雨の降る音なして / 降り来る音」(『神謡・聖伝』p.259)。sas 自体は「ざざあといふ音. 摩擦する音」(『久保寺辞典』p.235)。
- 70) pewre humse: humse は『千歳辞典』に「フムという。悪神を払うためのおたけびの声を上げる」(p.338)とある。鍋沢のテキストでは pewre humse に「若い気合」(『アイヌの叙事詩』p.178),「若いかけ声」(同: p.557),「若き雄叫び」(『クトゥネシリカ』p.111)という訳がついている。いずれも, 魔払いのための声を発すること。
- 71) eyayramkotor- / mewehitara: mewe は「ふんばる. ふるひ勉める, 張る」(『久保寺辞典』p.157)で, ramkotormewe は「胸を張り元気を振ひ起す」(『久保寺辞典』p.218)こと。また, 金田一京助は ramkotor を「ram(胸) kotor(平面)」(『金田一全集9』p.372)と解釈しているが, ram の原義が「心」であるため, ここでは心の中で「元気を振ひ起」している様子と解釈した。
- 72) uoyak osma: 直訳は「別々のところに入る」。
- 73) ikineypeka / uoyak'osma / =an yak wen na: 直訳は「決して別々のところに入ったら駄目だぞ」。uoyak「別々のところ」osma「〈場所〉に入る」とは, ここでは兄弟3人の舟が互いに遠ざかり, ばらばらに航海してしまうこと。
- 74) ari okay pe:『方言辞典』に, 引用の「〜と」として ari が用いられるのは, 八雲・幌別・帯広方言においてだとある(p.321)。また静内でも ari (『静内語彙』)。一方, 沙流方言では通常は sekor okay pe となるが, ここでは sekor の代わりに ari が用いられている。理由は未詳。この後も引用を示す語句としては, しばしば arino kane が用いられている(605, 628行目など)。
- 75) mawsamama:「maw samama 横に吹かれて」(『クトゥネシリカ』p.56)。金田一京助によると「mau(風) samama(横になる)」であり, komawsamama を「風に横さまに吹きつけられ」と訳している(『金田一全集9』p.434)。
- 76) somo suy kusun: somo suy kusu と同じ。『久保寺辞典』に「shomo shui kusu よもや何々せんとは」(p.257)とある。
- 77) アムアワ a=ramu awa:「somo sui kusu / shirki kuni / a-ramu rokawa よもやと / 思い / きや」(『久保寺ノート』p.28)といった表現が見られることから,「ラ」が脱落しているが,

- a=ramu awa 「私が思ったが」の意味か。
- 78) esitciw: 『千歳辞典』に「esitciw 頭から倒れる。倒れ伏す」(p.83) とある。
- 79) murkosanpa: 『久保寺辞典』に「komurkosanu 突然仆れ死す様」(p.137) とある。「e-shitciw shir-ko / ko-mur-kosanu. どざりと前にのめって／斃れ伏した」(『神話・聖伝の研究』p.248)。
- 80) otu siwenpa: siwenpa は、『沙流辞典』に「叱責, 叱りつける言葉」(p.667) とある。
- 81) シロタツバ sirotatpa: 鍋沢の既刊のテキストにおいて, シロタツバは sirotatpa (『アイヌの叙事詩』p.200ほか) と sirotappa (『アイヌの叙事詩』p.190) の2通りの表記が見られる(ただし, 既刊本においては鍋沢によるカナ表記を編者の扇谷昌康がローマ字化していることから, ローマ字表記に鍋沢の意図が反映されているのかは疑問が残る)。ここでは、『久保寺辞典』の「shiroatpa たたきつける. まき散らす」(p.252)などを参考に, sir「地, あたり」otatpa「～を注ぐ, (水など)をかける」と解釈して sirotatpa とした。
- 82) sitomkote: 『千歳辞典』に「sitomkote ～を自分の体にくっつける。～が自分の体にくっつけている」(p.215) とある。ここでは, 気を失ってしまった次兄が乗っている船を引っ張って行くために, 次兄の船を長兄が自分の船に結びつけている様子。
- 83) un\_wa: 『沙流辞典』に「un だけでも同じ意味と働きを持つが, unma (=un wa) と言うともっとはっきりする」(p.773) とある。
- 84) ukakuste: ukakuspare と同義で, 「～をくり返す」。「tu onkamitoy / ukakuspare 礼拝を / 重ね重ねして」(『アイヌの叙事詩』p.361) のように何度も礼拝 (onkami) を重ねるという常套表現で使われることが多い語だが, 鍋沢のテキストでは「ruy hotuye / hawke hotuye / ukakuspare」(同: p.337ほか) 以外にも, 「tu niwen toyru / aukakuspare 戦さの仕方を / われして」(同: p.139), 「otuparepa / aukakuspare 二杯三杯 / われ重ね」(『クトゥネシリカ』p.138) などの表現で, ukakuspare が使われている。
- 85) イルノシザリ: 「イルノ」と書かれた隣に, 鉛筆書きで「ルイノ?」と書かれている。「ルイノ」のつもりで「イルノ」と書き誤ったのか, という意味であろう。さらに直前の行と対句にもなることから, 「ルイノ ruyno」とした。
- 86) ananrapok / e=kari: 『久保寺辞典』に「an rapoki 全敗／……< an = ar (全く) rapoki (その下) ekari (通る)」(p.23) とある。沙流方言においては an= という人称接辞は一部の常套表現を除いて使われないことから, ananrapok の anan- は, 『バチエラー辞典』に「Anara, Entirely. Same as Oara」(p.33) とあるように, 強調の接頭辞と解釈した。また, 「anrapok (i) kari」(『久保寺辞典』p.23) という語形があることや, ikineypeka が人称接辞を伴う禁止表現であることから, ekari の e- は人称接辞とした。
- 87) この行の枠外上部に「勇士語る」と書かれている。
- 88) tu pesuykuror / re pesuykuror / a=i=karpore kor: 「otupesuykur / akarpore 波間に浮き沈み / させられる」(『クトゥネシリカ』p.52)。pesuy は「海上の波と波の間に生じる深間; 波の底」(『小辞典』p.90) とあるので, pesuy 「波間」kur (虚辞) or 「～のところ」か。
- 89) kosumnatar: 『久保寺辞典』に「koshum-natar 萎れてしまふ」(p.142) とある。
- 90) noynatar: 『沙流辞典』に「noynatar フラフラになっている」(p.436) とある。『久保寺辞典』では「noinatar = shumnatar」(p.174) とあり, 本テキストでも直前の行と同義並列の対句になっているようだが, この行は前行 kosumnatar に接頭している ko- を欠いている。
- 91) ene as kuni p: 「ene as kunip どうしたのか」(『クトゥネシリカ』p.192)。
- 92) アアツライヘ a=attaraye: ライヘは raye。『久保寺辞典』に「aat-taraye 現心も更になし。気絶する, < aar-ta-raye a (我) at (< ar 全く) ta (そこ) 死せしむ。殺す raye (rai) の

- 他動)」(p.12)とある。
- 93) a=konramu / sitne:『千歳辞典』に「ekonramu sitne kane tanak kane『心がよじれ苦しみ、気が遠くなって』という常套句で、大けがをしたりして生死の間をさまよい、もつれる意識の中で苦しむ様を表わす際に用いられる」(p.214)とある。sitneは「(心が)よじれるように苦しむ」こと(同)。
- 94) koyaysikarun:『千歳辞典』に「yaysikarun 気が付く。意識を取り戻す。物心がつく」(p.389)とある。
- 95) アイゾアヌワ a=i=eanu wa:e-「〈場所〉に」anu「～を置く」。ノートの表記にしたがうと aiyeau wa だが、y は挿入音。
- 96) orsamkonna:『orsamkonna そのうちに』(『アイヌの叙事詩』p.205)。『神謡・聖伝』には「or(強勢接辞「そこ」)sam(側)konna(語尾に添える修飾辞)；側に、四辺に」(p.642)とある。
- 97) a=paro otte: parotteは「のませる、口の中に入れる、くはせる、のませる」(『久保寺辞典』p.201)とあるが、ここでparotteを1語とすると、人称接辞の付き方から「私」(主人公)が兄に飲ませたことになる。だが、文脈からは兄を主語とするほうが適切なので、a=paro「私の口」otte「(彼が)～を～に掛ける」の2語と解釈した。
- 98) シキヌ・ドサ / アウレンカレ siknu tusa / a=urenkare: シキヌはsiknu。『ユーカラ集1』には「shiknu tusa / urenkare 生きの命を取り戻す / 手配をし」、shiknu『生きる』tusa『蘇生』、「u-『互』renka『慮る、とりきめる』re『……さす』、互にとりきめさせた。『うまく蘇生するように配慮した』『方法や材料を揃える』」(p.276)とある。ここでは、人称接辞a=は主人公を表す一人称主格ではなく受身を表す不定人称で、直訳は「生き返り治る手配をされる」か。
- 99) ne hi sama ta:『萱野辞典』に「ネヒサマタ【nehi sama ta】そこで」(p.358)とある。
- 100) a=yapte: 直訳は「(船が)陸に上げられる」。
- 101) makun masar:『久保寺辞典』に「makun masar 後方の浅茅生(海の方より 反対側の草むら)」(p.153)とある。また、『小辞典』によると、浜辺は海側から山側に向かって、pet-ota「濡れた砂原」→sat-ota「乾いた砂原」→hunki-pok「砂丘の下」→hunki-kotor「砂丘の斜面」→hunki-ka「砂丘の上」→sanke-masar「浜手の草原」→makun-masar「奥の草原」という呼称になる(p.57)。したがって、ここで最初に上陸した船は浜辺の中でも最も海から遠い場所まで上げられている。2番目以降の船はsanke masar「手前の浜辺」、sat ota ka「乾いた砂浜」、teyne ota「湿った砂浜」と徐々に海に近いところに上げられる。
- 102) アコエタイヘ a=koetaye: コエタイヘはkoetaye。
- 103) orirsitayki:o「～の尻」rir「波、潮」sitayki「～を叩く」で「波が(船)の尻を叩く」か。ここでは、先行する船で浜がいっぱいになってしまっているために浜辺に乗り上げることができずに、船尾の部分が海に浸かったまま波に打たれている様子。
- 104) ruwesani:『久保寺辞典』に「海及び河の船着場の折口、下口、村口」(p.230)とある。また、「浜から上った少し上に人家—即ち村があるとすると、人家のあるところから浜づたいの道へ下ろうとするとところ」(『金田一全集9』p.461)をruwesanと呼ぶという。
- 105) pirakka us kur: 物語における下駄を履いている人物については「物語中では和人の象徴としても用いられるが、和人と限らず、これをはいて登場するものは悪人である」(『千歳辞典』p.331)と説明されるが、ここで下駄を履いている人物(この後に語られるが、ソヤ村からの使者)は和人でも敵対者でもない。それにもかかわらず下駄を履いているとされる理由は不詳。

- 106) arki humi / citunaska : citunaska は ci-「自ら」 tunas「早い」-ka「～させる」。「aynu ek hum / chitunashika 男の来る音 / いそぎ足にきこえたり」(『金田一全集9』p.267)。
- 107) ciesonere : ci-「自ら」 e-「～について」 sone「本当である」-re「～させる」。『久保寺辞典』には「まことである。さもさうの様に思へる。まことに然り。まことにさうらしい。おぼしく。…のやうにしている」(p.41) とある。
- 108) ドイドカリ / エアバ・マクバ toy tukari / eapamakpa : 『沙流辞典』に toy tukari eapamaka で「地面の手前で戸をあける = 地面に近いごく下の方で戸をあける (遠慮ぶかく身を低くして入る様子の描写)」(p.732) とある。
- 109) aynu pito : 『久保寺辞典』に「ainu pito うつせみの人 (1) 人間ながら神の如き人 okikurmi (2) 人の尊称」(p.17) とある。ここでは (1) の意味。
- 110) チウテキ・ニシバ ciwtek nispa : チウテキは ciwtek。『久保寺辞典』に ciwtek nispa で「(1) 使の頭 (2) 使者としてのんだ人の敬称?」(p.51) とある。ここでは後に出てくる ussiw nispa と同義語であることから (注118) 参照, (1) の意味とした。
- 111) etumekkasi : etumekkasi は「鼻筋」(『人間篇』p.318)。鼻筋に卑しい人の顔色が見えるとは、立派な人物のように見えるが誰かの召し使い (ussiw) であることを言う表現。
- 112) mintum : 『久保寺辞典』に「mintum 顔色」(p.157) とある。
- 113) センニ・トニ senne toni : 表記は「センニ・トニ」だが senne toni とした。公刊されている鍋沢のテキストを見る限りでは、senni という語句は見つからず senne のみが使われていることから、鍋沢の個人語として senni という語形があると考えたよりも senne の書き損じである可能性が高いためである。また、toni「あそこ、あちら」は、具体的には主人公の兄のいる方をいうことから意識した。なお、「senne toni / senne tani / e-ko-hosari / shomo-ki-nopo 決してそちらへ / 必ずこちらへ / 振り返ることなど / せずつて」(『神謡・聖伝』p.111) とあるように、「toni」は「tani」とセットの対句として用いられることが多い。本テキストでも「toni あちら」(= 兄の方) のみに言及するより、「tani こちら」(= 主人公の方) にも言及する方が自然だが、こちらのほうは省略されている。
- 114) kosikepuni : 『千歳辞典』に「kosikepuni ～に対して目を上げる」(p.182) とある。
- 115) イタキ・ドナシ・クル itak tunas kur : イタキは itak。
- 116) itak moyre kur ~ a=ne na : この表現について『千歳辞典』に「素性の知れぬ相手に、自分の正体を明すよう迫るときの常套句」(p.379) とある。
- 117) kewtum konna / yupkosanu : 直訳は「気持ちをはっと引き締める」。「konram konna yupkosanpa 意を決する、思い切る」(『沙流辞典』p.875) を参考にした。
- 118) ussiw nispa : 『久保寺辞典』に「usshiu-nishpa 使人の長」(p.299) とある。「使用人中の頭立ったもの」(『金田一全集9』p.400)。
- 119) a=irwak nispa : 主人公兄弟のこと。次行 irwak tono も同じ。英雄叙事詩では、血縁関係はなくとも、同世代の仲間のことを互いに irwak と呼んでいる。
- 120) omanan : 「歩き回る、行ったり来たりする」が本来の意味だが、ここでは主人公兄弟がソヤ村付近にやって来たことを言う。
- 121) アカリ・ヤクネ : アカリは a=kar。
- 122) イユテク i=utek : ノートの表記にしたがうと iyutek だが、y は挿入音。
- 123) イヨスイタサ ionuytasa : 『沙流辞典』に「ionuytasa 今度は交代して」(p.263) とある。ノートの表記にしたがうと ionuytasa だが、y は挿入音。
- 124) ponno siran kor : 『アイヌの叙事詩』に「ponno siran kor ほんのしばらくして」(p.169) とあ

る。

- 125) a=kor nispa: 使者の主人であるソヤウンクルのこと。この語句を、主人公兄弟への呼びかけと解釈することもできそうだが、本テキストならびにほかの英雄叙事詩で、誰かの召し使い (ussiw) が a=kor nispa と言う際には、「Iyochi-nu-kur / akor nispa / iyutek hawe / ene okahi 余市彦の / わが首領の / 伝言は / こうなのです」(『アイヌの叙事詩』 p.263) のように自分の主人を指し、それ以外の勇士たちを言う例は見当たらない。そのため、ここでも発話者の主人であるソヤウンクルを指すものとした(「名称」参照)。
- 126) tonoto ani / unukar=an na: 直訳は「酒でもって / 私たちは会うよ」。
- 127) kosimusiska : simusiska は、来訪を知らせるための咳払いをいう場合が多いが、ここでは「ukosimusiska / an rok ki akusu お互いに(賛同の)咳払いやうなずきを、 / なされたために」(『くらしと言葉 7』 p.108) のように、承諾の返事としての咳払い。
- 128) katkor siri: 『久保寺辞典』に「katkor 振舞」(p.123) とある。「ayup-utari / katkor shiri わが兄たちの / ふるまふことにて」(『金田一全集10』 p.356)。
- 129) kor wen puri: 『久保寺辞典』に wen puri は「(1)乱暴、狼籍 (2)憤怒 (3)悪事」(p.307) とあるが、ここでは(2)の意味。
- 130) enankurkasi: 『沙流辞典』によると、直訳は「...で顔面が」だが、ここでは「...の顔面に...」という意味で用いられている (p.98)。
- 131) ipukitara: 『沙流辞典』に「ipukitara (顔に) ありありと出ている」(p.241) とある。怒っている様子が顔に表れていることを言う表現。この後の展開から、兄が怒っている理由は、ソヤからの使者が自分たちにすべてを話したわけではなく、何かを隠しているらしいためである。この後、使者の足を踏んで責め立てることで、すべてを包み隠さず話すように使者を急かしている。
- 132) ne hi koraci: 『久保寺辞典』に「nehi korachi 忽ち、それと共に、それにつれて」(p.165) とある。
- 133) キコク・クス: キコクはキロク ki rok の意か。なお、ノートでは「コ」に鉛筆書きで傍線が引かれている。
- 134) クルカシケ kurkasike: 本ノートでは、s と si との表記の区別はなく、共に「シ」で表されているため、kurkaske と kurkasike の2つの語形が考えられる。ここでは、『沙流辞典』の「歌うときは kurkasike クルカシケ と発音され、話すときは通常 i が落ちて kurkaske クルカシケ と発音される」(p.365) という記述や、1行を4ないし5音節に揃えることを基本とする韻文の特徴から3音節の kurkaske より4音節になる kurkasike で記した。以下、同様。なお、ここでの意味は「(動詞句の前に置かれて) ...している間に、...しながら」(同)。
- 135) kurkasike / itako hawe / ene oka hi: 鍋沢の英雄叙事詩において発話の開始時に用いられる常套表現。kurkasike の代わりに tuykasike が用いられることも多い。直訳は「そうしながら / 言葉を置いた(入れた)声は / このようにあること」。
- 136) tanpe rekor: 『ユーカーラ集 9』に「Tanpe rekor これこそ世に云う」(p.149) とある。
- 137) terke ipisi: ipisi は i- 「もの」pisi 「尋ねる、質問する」で、ここでは名詞。かかをと踏むことで、隠していることを話すように圧力をかけていることを指している語句か。
- 138) ene katuhu: 具体的には556行目以下のソヤ村の事情のこと。これを包み隠さず話そうとしている。
- 139) レブイシリ・ウンクル Repuysir'unkur: Repunsir の n が音韻交替して y になっている。本ノートでは、レブイシリ (Repuysir) もレブンシリ (Repunsir) (702行目など) も共に用いられ

- ているが、同一人物を表すことから、和訳はレブンシリで統一した。
- 140) cip sine wanhot : wanhot は「二百」(『沙流辞典』 p.824) だが、「沢山の船ということ」(『神謡・聖伝の研究』 p.659) を表す語句。
- 141) utar\_ tura wa : ここでの「utar」を普通名詞「仲間」として「仲間を連れて」とすると前行との関係が不明瞭になることから、utar は cip が複数であることを意味する形式名詞「～たち」とした。そのため、前行からの直訳は「船二百艘 / たちを連れて」。
- 142) マテドン・イタキ matetun itak : イタキは itak。matetun は「嫁取り、結婚 妻覓ぎ。結婚の申込みをする人」(『久保寺辞典』 p.154)。ここでは、ソヤ村にやって来たレブンシリウングルが、ソヤウングルの妹を自分の嫁にしたいと言ってきている。
- 143) a=koresu : 『千歳辞典』に「koresu ～のいいなづけとして～を育てる」(p.193) とある。
- 144) oar anakne : 『金田一全集 9』に「Oar anakne 此は全くは」(p.205) という用例がある。
- 145) tumakkesama / kotuye : 『沙流辞典』に「tu-makke-sama 何度だめだと言われても言うことをきかずに自分の意志を通す」(p.733) とある。
- 146) ウタリインネベ utari inne pe : 鍋沢の表記においては、音節末子音の後に -i を補って書くことがしばしばあるため、ウタリは utari, utar の 2 通りの可能性が考えられる。だが、「utari inne p / apa koinne p 一族も多く / 親戚も多い」(『宗教と儀礼』 p.59) という例を参考に、所属形の utari とした。
- 147) ne hi sama ta : 『萱野辞典』には「そこで」(p.358) という訳が見られるが、この文脈では一族が多い上に巫者だという添加の意味合いが相応しいため、『久保寺辞典』に「かつ又」(p.165) とあるのを参考にした。
- 148) tusuepusu : tusu 「トウス、巫術」 e- 「～でもって」 pusu 「～を掘り起こす」。
- 149) e=koan : 『沙流辞典』に「koan ... が与えられる、... があびせられる」(p.314) とある。
- 150) a=keppirorke / eci=etusa ruwe : 『沙流辞典』に「keppirorke etusa (人) のおかげで無事にすむ」(p.295) とある。
- 151) ウタリ・サク・ニシバ utar sak nispa : ウタリは utari, utar の双方の可能性がある(注146) 参照) が、「utar sak kamuy / utar sak nispa 仲間のない神 / 身内のない人」(『神話集成 9』 pp.78-79) といった用例を参考に、ここは概念形 utar とした。
- 152) ene ye hi ka / isam ruwe ne : 「ene ye hi ka / isam pe ne kusu 言いようも / ないらしく」(『神話集成 7』 pp.120-121)。
- 153) unukar sake : unukar は「会う」だが、ここでは「結婚する」(『人間篇』 p.517 など) という意味。
- 154) ウヅチウサケ ueciw sake : ノートの表記にしたがうと uweciw だが、w は挿入音。『萱野辞典』に「ウウエチウサケ 【u-e-ciw sake】 u-e-ciw sake 結婚の酒」(p.90) とある。
- 155) eci=iki p ne kusu : ここで eci=iki 「お前たちがした」こととは、この使者に話をさせるために、主人公の兄が使者のかかとを踏んだことを指す。
- 156) i=kopaksama / e=osiraye : 『久保寺辞典』に「kopak-shama o-shiraye 外の方へ行く、彼方へ行く、彼の味方になる」(p.139) とある。
- 157) tantepo ta : 『金田一全集 9』に「tantepo ta すぐここで、ここからどこへも寄らず、tan (この) te (ここ) po (指小辞であるが、たった此処というように、たった今、たったさっきなど、たったの意に用いる事多し)、ta (に)」(p.238) とある。
- 158) a=ramu kusu tas : tas は nek と呼応して強調の意を表す副助詞。tasi という語形もあるが、tasi ではこの行における音節数が多くなってしまうため、tas とした。なお、クス kusu について

は注13) 参照。

- 159) イヨヌイタサ ionuytasa: ノートの表記にしたがうと iyonuytasa だが, y は挿入音。
- 160) hawe ne yakun: 『萱野辞典』に「ハウエネヤクン [hawe ne yakun] そうであるなら, ともかくにも, なんなら, なんにせよ」(p.396) とある。
- 161) Kesupsaknispa: ソヤからの使者につけられた仇名。kesup 「かかと」 sak 「～を失う」 nispa 「旦那」の意味で, 主人公の兄からかかとを踏まれていたことに由来する。
- 162) Terkeipisi: 主人公の兄の仇名。530行目以降で, ソヤウクルの使者のかかをと踏むことによって話を促していたことに由来する。注137) も参照。
- 163) アコユビ a=kor yupi: ノートの表記は「アコユビ」だが, 鉛筆書きで「コ」と「ユ」の間に「ロ」が挿入されている。
- 164) wen mina haw: 『沙流辞典』に「wenminahaw 大笑いの声」(p.828) とある。
- 165) 唐突ではあるが, ここで主人公たちはソヤ村に到着したらしく, ソヤウクルの家にあがることになる。
- 166) seskemure: 『久保寺辞典』に「seshkemure いつばいつまつている」(p.239)。ここでは酒宴に集まってきた人々が大勢いること。
- 167) sicimisara: 未詳の語。si- 「自分」 cimi 「～を分ける」 sara 「あらわになる」で「自らを分けて空いている」の意か。ここでは, 多くの人が集まっている中で, ただ一ヶ所のみが空いていることを言う語か。
- 168) アアリコトムカブ aarkotomka p: 「アアリ」は aar。したがって, aarkotomka 「～に違いない(もの)」(『千歳辞典』p.2) の意。
- 169) asno pinni: as 「立つ」 -no (副詞化辞)。pinni 「ヤチダモ」が立派に伸びている様子。
- 170) etumam kasi: etumam の e- について金田一京助は, 直前にある「hayokpe を受けて, それをもて(体の上を包む)の意」(『金田一全集9』p.476) と説明している。
- 171) kotesnatara p: kotesnatara は「... にピターッとくつついている」(『沙流辞典』p.345) なので, 直訳は「(金の鎧が身体に)ピターッとくつついている者」だが, 「etumam kasi / kotesnatara 胴体の上に / きちんとして」(『アイヌの叙事詩』p.512), 「あの人の着物はよく体に合っている。:toankur mipi netopake kotesnatara」(『方言辞典』p.154: 幌別) のように, 身体にぴったり合った鎧を着ている意味と解釈した。「(鎧が)身体に合っている者」とは, ここではレプンシリウクルを指す。
- 172) neyke huyke: 『久保寺辞典』に「neike huike 何処一つも, 何処一つとして」(p.166) とある。また, neyke huyke itak kus ruwe oararisam で「どこ一つ非難すべき所なし」(同) という用例も見られる。
- 173) イタク・クシ・ウゴ itak kus ruwe: この部分は, 注172) にあげた『久保寺辞典』の例文とほぼ同じ表現になっている。この例文を参考にすると, ノートの表記「ウゴ」は ruwe であろう。
- 174) ウゴカブ uekap: ノートの表記にしたがうと uwekap だが, w は挿入音。
- 175) sintoko osmak: 『沙流辞典』によると, sintoko osmak 「酒びつの後ろ」は「つまり最上席」(p.478) にあたる場所。
- 176) a=oranrani: 『沙流辞典』に「oranrani ... を ... に座らせる」(p.478) とある。
- 177) ear sone no: ear sone no は「一枚の inau-so の上に唯一人坐ること」(『久保寺辞典』p.54) であり, ここでは上座に設けられた特等席に座ること。
- 178) kaparpe otcike / kaparpe tuki: 直訳は「薄いお膳 / 薄い杯」。ここでいう「薄い」は立派で高価な品を意味しているため, それぞれ意識した。

- 179) オウシ・ヒネ ous hine : ous は、o- 「～の尻」 us 「～につく」で「～の後につく」。ここでは「chioushkar 立っている、佇む」（『久保寺辞典』 p.46）のように、「（お膳と杯が、一人用の座）に立っている」という意味になる。また、「オウシ」の表記からは ous, ousi の2通りの可能性が考えられるが、ousi は「～を～の後につける」の意味であり、この文脈では不適であることから ous とした。
- 180) a=yaypekare : 『沙流辞典』に「yaypekare … に向かって / … を目指して行く」（p.863）とある。ここでは、立派なお膳や杯が並べてある座 (ear so) に向かっていて。
- 181) sisak tonoto : tonoto は「(1)酒. (2)酒宴」（『久保寺辞典』 p.277）とあるが、ここでは「(2)酒宴」の意味。
- 182) a=ukomaktekka : 『沙流辞典』に「ukomaktekka 皆で一緒に（宴会）を打ち開く」（p.758）とある。
- 183) menoko sani : menoko 「女」 sani 「血統、子孫」なので直訳は「女の血統」だが、「menoko sani / oka nankor (y)a! 美しい女も / いるものだろう！」（『神謡・聖伝』 p.391）を参考にした。
- 184) utomciwre : 『沙流辞典』に「utomciwre … を身につける」（p.796）とある。
- 185) erurikikur- / rayehitara : e- 「～でもって」 ru 「髪の毛」 riki 「上」 kur （虚辞） raye 「～へ行かせる」 -hitara （継続・持続を表す接尾辞）。「被り物を頂いて髪をおさえ」る（『ユーカラ集1』 p.363）という様子。
- 186) tanpa ne pa ~ pakno an : 若い娘の年格好を形容する際の常套表現。「遊びの胸紐を高くあげるくらい」の年齢とは、「娘が思春期になり胸のふくらみを気にしはじめめる年頃」で、「今まで胸がはだけても気にしなかったが、急に胸紐を気にするようになった。思春期になる」（『萱野辞典』 p.270）頃のことだという。
- 187) cisetatures : 『久保寺辞典』に「chise-ta turesh 家にいる妹。血縁の妹」（p.48）とある。主人公が自分の家に暮らしていたときに育てていた妹のこと。
- 188) esirkapakte : 『久保寺辞典』に「aeshirkapakte 顔を較べられる」（p.14）とある。747行目の tanepo tapne 「初めて」はこの行を修飾し、自分の妹に匹敵するほど美しい女を初めて見たということ。
- 189) esimukkoanpa : e- 「～の頭」 si- 「自分の」 muk 「胸」 ko- 「～に対して」 anpa 「～を持つ（複数）」か。「～を胸まで抱え上げていた」という意味で、『人間篇』に「ani-puntari e-si-muk-ko -ani-hitara, chikup-so utur e-rututke …… もろくちの銚子を胸まで持ち上げていて」とある（p.406）。
- 190) イヨマレ iomare : ノートの表記にしたがうと ijomare だが、y は挿入音。
- 191) cikupso : 「chikup はアイヌ語の『酒』といふ語。……so は床即ち酒の座席、うたげのむしろ」（『金田一全集11』 p.90）。
- 192) erututke : erututke は「酌を取つて、あちらこちら駆けめぐる」（『金田一全集11』 p.90）、「斡旋す、酒間を斡旋す」（『久保寺辞典』 p.67）。『静内語彙』に「rututke 這い回る、走り回る」とあることから e- 「(場所) を」 rututke 「這い回る、走り回る」か。
- 193) tu nupur nupe / re nupur nupe / yaykoranke : 「二しずくも三しずくもの涙を流す = ハラハラとたくさん涙を流す」（『沙流辞典』 p.855）という意味の慣用表現。
- 194) イヨマレ iomare : ノートの表記にしたがうと ijomare だが、y は挿入音。
- 195) tu itak kosip : 「tu itak kosip 二度も繰返して」（『アイヌの叙事詩』 p.430）。ここではレブンシリウンクルが自分を無視しているソヤウンマツに対して、自分のところに来て杯を受けるようにと何度も促している様子。

- 196) katu tur'usno: 『沙流辞典』に「katu turusno いやいやそうに, しぶしぶ」(p.741)とある。
- 197) ソヤウンマチ Soyaunmat: マチはmat。以下, すべて同様。
- 198) easikar: e- 「〈場所〉に」 asi 「～を立てる」 kar (他動詞形成接尾辞)。
- 199) ra uyruke / rik uyruke: 杯を受け取る時の儀礼の動作。その具体的な所作は『語りの中の生活誌』(pp.256-257)に詳しい。
- 200) エキワ・イク ek wa iku: エキワは文字どおりには e=ki wa とも解釈できるが, ここは文脈から ek wa とした。
- 201) ドアリカ・イタク tu arka itak: 『久保寺辞典』に「arka itak 怒っていふ声(口葉)」(p.28)とある。アリカはarka。以下, 同様。
- 202) kosuye: ko- 「～に対して」 suye 「～をゆらす」が原義だが, 「pinu itak / ikosuye kar ひそひそ言葉で / 私に言いながら」(『アイヌの叙事詩』p.434), 「tu arka itak / re arka itak / i=kosuyupa hawe / ene oka hi 痛い言葉で / 私にどなりちらして / このように言った」(『音声資料11』pp.73-74)のように「～に対して(言葉)をかける」のような使い方も見られ, ここでもそのような使い方がされている。
- 203) イヨヌイ・タサ ionuytasa: ノートの表記にしたがうと iyonuytasa だが, y は挿入音。
- 204) sinuma ne yakka: 直訳は「彼もまた」。
- 205) ramu etakne p: 「ramu etakne kuru, ku-ramu chuptek 短気な人」(『久保寺辞典』p.219)。ここではレブンシリウングルと同格。
- 206) テクスイゾフムコ teksuye hum ko: テクスイゾは teksuye。862行目「テクスイゾ」も同様。
- 207) siwkosanpa: siwkosanuの複数形。『久保寺辞典』に siwkosanu 「しゅうと一つ音がする, しゅうと鳴る, さつと音がする」(p.255)とある。『ユーカラ集3』には, 「poro tekehe / shisuye humi / shiukosanu 大きなその手を / 自ら振る音 / さあつと鳴り」(p.181)という, 物を振るときの音として siwkosanpa が使われている例がある。
- 208) koyakkosanpa: yakkosanu で「がりつとといふ音が一つする(樹木の折れる如き音)」(『久保寺辞典』p.314)。
- 209) イヨヌイタサ ionuytasa: ノートの表記にしたがうと iyonuytasa だが, y は挿入音。
- 210) アムクサルドイゾ a=mukcartuye: ノートの表記に従うと「amuksartuye」となるが, これでは意味が不詳になるため, 「サ」はここでは「ザ」(=ca)の意か。『久保寺辞典』に「mukchara 胸許, 「mukchat-tuye 水落を切る, 胸元を切る, 胸の水落を切る」(p.161)とある。
- 211) siwnu omke: siwnu は「苦い」(『沙流辞典』p.668), 「苦しい」(『久保寺辞典』p.255)とある。siwnu omke で「苦しそうな咳をする」(『金田一全集9』p.317)こと。
- 212) エタストム etasuutom: 公刊されている鍋沢のテキストでは「a-etasutom」(『アイヌの叙事詩』p.211), 「etasu\_utom」(同:p.316)など表記に揺れがあるが, 同義である kotasuutom という語について「kotashu (息を出す)-utom (間)」(『金田一全集9』p.317)という語釈があることから, e-tasu-utom とした。「siwnu omke / aetasu-utom / esitayki 苦しい咳を / われ息をむせ返し / 激しくする」(『クトゥネシリカ』p.164)。
- 213) esitayki: 『久保寺辞典』に「eshitaiki 瞳と蹴る, どさりと投げこむ くわつとほとばしる」(p.68)とある。
- 214) マカチンカル / コタルボンヌ makacinkan- / kotarponnu: 「amakachinkan / kotarponnu 私を足を上にして / ひっくり返ってしまう」(『アイヌの叙事詩』p.393)など, makacinkan~の用例は見られるが, ノートの表記「マカチンカル~ makacinkar(u)~」にあたる用例は見られない。また, 語義的にも「maka (後方え) + chin (足) + kan (末) + hokus (倒れる); 後

- 方えひっくり返ってその勢で両足が宙を切る」(『人間編』 p.2) とあり、ノートどおりの表記では意味が取れなくなる。そのため、makacinkan とローマナイズした。kan を kar の音韻交替と捉えた異分析による表記という可能性も考えられる。
- 215) koterkere : koterke は『千歳辞典』に「～にとびかかる」(p.186) とある。ここでは tamkur 「太刀影」がとびかかることで、「yupke tam kur / akoterkere 激しい太刀を / 浴せた」(『アイヌの叙事詩』 p.389) などを参考にした。
- 216) ene nupurkur : レブンシリウシクルのこと。
- 217) citata kewe : ci- 「～される (中相)」 tata 「～を刻む」 kewe 「死体」で、『久保寺辞典』に citata kewe で「ばらばらの骸 切断せられた屍」(p.49) とある。
- 218) シキヌカムイネ : シキヌは siknu。また、ここでは kamuy を「『死者の』霊魂」(『人間篇』 p.243) の意味とした。
- 219) kohum'eriki / tesuhitara : ko- 「～に対して」 hum 「音」 e- 「～の頭」 riki 「高所」 tesu 「～を反らす」-hitara 「～し続けている」。「kohumeriki / tesuhitara 音を高くして / それてゆく」(『アイヌの叙事詩』 p.250) など、鍋沢のテキストではしばしば見られる表現。
- 220) ciomante : 「Chikupsho-noshki / chiomante kor 酒宴なかば / すぎゆく頃ほひ」(『金田一全集 9』 p.397), 「rorumpe oka / chiomante kor いくさが終り / はてつつ」(『ユーカーラ集 9』 p.212) など、名詞+位置名詞+ ciomante で「～を～までし終えた」といった表現が見られる。そのため、『久保寺辞典』では「過ぎる. 行去る. 過去る」と訳出している (p.45)。
- 221) riknakekke / ranakekke : rik 「高所」-na 「～の方」 kekke 「～を折る」。「tan sakehaw / eriknakekke / eranakekke 上機嫌で / 酒を飲んだ時に / 出す声を高く低く出しながら」(『神話集成 8』 pp.76-77) のように、サケハウのメロディを高くしたり低くしたりする意味で、「riknakaye こぶしを高く回して～を歌う」「ranakaye こぶしを低く回して～を歌う」(『千歳辞典』 p.407, 413) と同意の表現。
- 222) hosippa=an : どこに hosippa 「帰る」のか明記されていないが、ここでは自分たちの村 (Sinutapka) に戻るという意味。以下、海に出て舟を漕ぎ、嵐に遭う描写が続く。
- 223) ノートでは、この行の枠外上部に「三男勇士語」と書かれている。「三男であるところの勇士が語る」という意味か。
- 224) ネヒタバクノ ney ta pakno : 「ネヒ」は ney。
- 225) i=ramkeskasi / kaciw : 直訳は「私の心の末の上を突き刺す」。「i=ramkeskaciw 私を励まし」(『アイヌ神話集成 8』 pp.40-41) とあるように、強く励ますことを意味する語句。鍋沢のテキストにも、鼓舞するための発話によって「iramkes kasi / kaciw」しているという表現が見られる(『アイヌの叙事詩』 p.555)。
- 226) i=koorsutke : 『萱野辞典』に「コオロスツケ【ko-orsutke】(～を) 励ます : それ頑張れ, もっともっと, と力づける」(p.234) とある。
- 227) irioykesne : 『久保寺辞典』に「irioikeshne 段々に, 漸次 さうやつてさうやつて, さうしてさうして. 暫くさうやつていて」(p.106) とある。irioykesne (『久保寺辞典』 p.107, 『萱野辞典』 p.84, 『パチェラー辞典』 p.202) という語形も確認できるが、ここではノートの表記に従って irioykesne という語形でローマ字化した。
- 228) a=kor yupihi ~ isam ruwe ne : 直訳は「私の兄を / 見る感じも / ないのだ」。925行目で wen rera 「ひどい風, つむじ風」と言っていることから、ソヤ村に来たときと同じように嵐に巻き込まれて、兄が乗っている船とはぐれて見失ってしまったということ。以後しばらく、主人公は 1 人で行動していく。

- 229) a=eyayramkes- / mewpa: 「...のことを皆で一致して一心に思う」(『沙流辞典』 p.158) という意味の語だが、この文脈では注71の eyayramkotor- / mewe (mewpa) と同義の語として用いられている。
- 230) a=koyawki: 『久保寺辞典』に「yauki 上る、寄せる」(p.316) とある。鍋沢のテキストでは「akor'a mosir / kopaksamaha / akoyawki わが国土の / そば近く / 上陸し」(『クトゥネシリカ』 pp.258-259) のように、自分の国や山城に戻る場面で使われる例が見られる。
- 231) tomari kancar: 「tomari kanchar 港の入口」(『クトゥネシリカ』 p.127)。「口」に当たる語は沙流方言では通常 par を用い、『沙流辞典』にも kanpar で「口先」とある (p.276)。だが、鍋沢のテキストではこの語に関しては kancar のみが見られ、kanpar という語形は使われていない。
- 232) a=eyayrikikur- / punpa: 『沙流辞典』に「eyayrikikur-punpa (空)に浮かび上がってのぼっていく」(p.160) とある。主人公は、ここから自分の家まで空を飛んで移動する。
- 233) a=kor\_ turesi / kor a tumpu / a=moyrerutu: 直訳は「私の妹 / の部屋を / 遅く押しずらす」だが、ここでは部屋の仕切りをずらすこと。中にいるであろう妹に遠慮して、そっと覗き見をしようとしている様子。部屋の仕切りは「ごごをカーテンのように下げて間仕切りした」(『沙流辞典』 p.737) もの。ここでは rutu 「持ち上げないで下を引きずりながら押して動かす」(同: p.593) という語を用いているので、仕切りの裾を持ち上げて下から覗き見をしているのではなく、脇から覗き見をしているのであろう。
- 234) ネノロ・オカ nenoro oka: 未詳の語句。ne rokoka 「～であったのだ」、ne korka 「だったが」などを意図した誤字か。
- 235) inkar ne wa / a=ki p ne korka: 『ユーカラ集3』に「inkar newa / akip ne koroka ただ見るだけ / われしたのだけれど」(p.415) とある。
- 236) turus kinra ne: 『久保寺辞典』に「turush kinra ne 気狂の様になつて怒る、ブンブン怒る」(p.284) とある。
- 237) ene wa poka: 『久保寺辞典』に「ene-wa-poka 如何にか、どういふ風に、如何にとも 兎にも角にも」(p.62) とある。
- 238) ioykir: ノートの表記にしたがうと iyoykir だが、y は挿入音。
- 239) ekaspaunpe: 『神謡集』に「ekashpaunpe 先祖の冠」(pp.116-117) とある。
- 240) a=sikoetaye: sikoetaye は「...を自分の方へひっぱり / 引き寄せる」(『沙流辞典』 p.631)。
- 241) otu papiror / a=koturikar: 『久保寺辞典』に otu papiror ore papiror a=koturi kar で「口の内に二言三言いのりの詞を述べて」とある (p.200)。
- 242) itak=an ciki: 直訳は「私が話したら」。
- 243) シキヌレワ sikhure wa: シキヌレは sikhure。1001行目のシキヌレも同様。
- 244) koyaytaraye: ko-「～に対して」yay-「自分を」ta (強調) raye 「～を死なせる、殺す」。koyaytaraye e=ki で「斬って棄てるから覚悟しろの意」(『金田一全集9』 p.428) になる。
- 245) a=ekonisuye: ekonisuye は「投げる」(『萱野辞典』 p.134)、「打つける」(『久保寺辞典』 p.13) だが、「[u]tuyma iwor / iworso kasi / aekonisuye. ずうっと遠くの方 / 遠くの方へ / ほうり投げた」(『音声資料7』 pp.43-44) とあるように、単に投げるというよりも「力いっぱい投げる」「放り投げる」場合に用いられる。
- 246) ソイワサムワ soywasamwa: soywasamma 「(家などから) 外へ」(『沙流辞典』 p.681) と同じ。ノートの表記では wa の部分が音韻交替を起こさず wa のままで表記されている。
- 247) pikan koraci: ne hi koraci と同義(『久保寺辞典』 p.207) で、「anuwenpe / pikan korachi われ聞かないもの / のように」(『アイヌの叙事詩』 p.508) のように使われる。

- 248) a=kor\_ turesi : 次兄が育てていた妹のこと。
- 249) イヨイキリ ioykir : ノートの表記にしたがうと iyoykir だが, y は挿入音。
- 250) a=kor\_ turesi : 長兄が育てていた妹のこと。
- 251) イヨイキリ ioykir : ノートの表記にしたがうと iyoykir だが, y は挿入音。
- 252) si annoski / turpaki ta : turpak は「匹敵する, 及ぶ」(『久保寺辞典』 p.283) だが, ここでは「si annoski turpaki ta i=os wa paye hawe as 真夜中近くになって, 後ろから(人が)やってくる声がする」(『千歳辞典』 p.25) を参考にした。
- 253) a=konram konna / citurituri : 直訳は「私の心が / 何度も伸びる」。ルベツム村に行きたくてたまらなくなったということ。
- 254) onissak rera : 『アイヌの叙事詩』に「onis sak rera 雲無しの風」(p.518) とある。
- 255) a=ramu rok kusu : 直訳は「わたしは思ったので」。kusu を目的や原因・理由の意味で訳してしまうと前後のつながりが悪くなるため, 意識した。
- 256) aun tompi : 『久保寺辞典』に「tompi 光, 宝, 富」(p.276)。主人公がルベツム村に到着したところで, casi 「山城」から漏れる明かりを見つけた場面。
- 257) ホラヲチウヅ horaociwe : ここでは「空から地上にサッと降りる」(『沙流辞典』 p.200) こと。なお, ノートの表記にしたがうと horawociwe だが, w は挿入音。
- 258) humihi as pe : 「humihi aspe / tu ru uturuhu / akourekir 音のするもの / 数々の間を / 踏みよけて」(『アイヌの叙事詩』 p.280)。「音のするもの」とは, 小枝などのように踏んだら音を立てそうなものか。これらを踏まないように隙間を縫うようにして歩くということ。
- 259) a=kourepuni : ko- 「～に対して」 ure 「足」 puni 「～を持ち上げる」。『萱野辞典』に「コウレプニ 【ko-ure-puni】 (上品に) 歩く」(p.233) とある。
- 260) cinki kese : 直訳は「裾の西端」。
- 261) a=kokkaeciw : kokka 「膝」 e- 「～の頭」 ciw 「～を突き刺す」。訳は「ratki buraiotpe / chinki kese / akokkaechiu 垂れてある窓のすだれ / その裾のはし / われひざまづき」(『ユウカラ集 3』 p.169) を参考にした。
- 262) sep ka utur : 直訳は「広い糸の間」。ここから覗き見するというのは「ボンヤウンベが窓から家の中を覗く時に窓の簾に顔をあてて見る」(『萱野辞典』 p.286) 様子を言う表現。「ウドル」については, 「sepka utur」(『金成叙事31』 p.86) のように概念形 utur が使われる例も, 「sepka uturuhu」(『アイヌの叙事詩』 p.280) のように所属形 uturu (hu) の例も見られるが, 『アイヌの叙事詩』においては, 所属形となる際には長形 uturuhu が優勢となっていることから, 「ウドル」は utur とローマ字化した。
- 263) アシキボソレ a=sikposore : シキボソレは sikposore。sikposore は「目を透す, 隙見する」(『久保寺辞典』 p.244)。
- 264) a=kor yupi : Rupettom'unkur のことで, ここでは同格。英雄叙事詩では, 主人公の味方となる男性勇士は実兄ではなくとも「yupi 兄」と呼ばれる。
- 265) tane an pirka : 『久保寺辞典』に「tane an pirka いつもの美しさ」(p.266) とある。
- 266) sioarwenrui : 『久保寺辞典』に「shioar-wenrui 尚一しほいやまさる. いと増したる……前後にない程立派である」(p.248) とある。
- 267) エヤイコ / ウヅベケルベ eyaykouepeker pe : 『千歳辞典』に「eyaykouepeker ～についてあれこれ思い悩む。～を気にかける」(p.100) とある。ここでの「何かを思い悩む者」は, ルベツムウシクルのこと。なお, ノートの表記にしたがうと eyaykouepeker pe だが, w は挿入音。

- 268) hoka ram noski : hoka 「炎」 ram 「低い」 noski 「～の真ん中」。目を伏せて炎の下の方をじっと見ている様子で、じっと考え込んでいる際の常套表現。
- 269) nantuyere : 『萱野辞典』に「ナンドイエレ【nan-tuye-re】 見つめる、一心に目を注ぐ、じっと見つづける」(p.340) とある。
- 270) オハリキソウン oharkisoun : オハリキノは oharkiso。
- 271) ka sinkop : sinkop は「糸がよれてできる輪などのように、長いものが丸くなって輪になったもの」で、tu ka sinkop ranke は「糸をよっていくうちに、自然によった糸がねじれて輪ができる。それが糸がのびるに従って自然に下に下がっていく様子を描写した表現」(『千歳辞典』 p.228)。
- 272) ナンニベキ nan nipeki : 鍋沢の表記においては、ニベキは概念形 nipek の語末に-i が挿入されたものである可能性もあるが、「[u] nan nipeki 顔の輝き」(『音声資料 8』 p.56) など同様の表現を参考に「顔の光」という所属形 nipeki とした。
- 273) イズヌチュッキ / チウレ ienucupki- / ciwre : ienucupki は「照らしかがやかす光」(『久保寺辞典』 p.95)。iyenucupkiciwre で「そこに日の光がさす」(『沙流辞典』 p.259) という意味になり、非常に美しい顔の形容。なお、ノートの表記にしたがうと iyenucupki だが、y は挿入音。
- 274) シセタドレシ cisetatures : シセタドレシは、文脈から cisetatures 「家にいる妹」か。ノートでは行頭の「シ」の隣に鉛筆書きで「チ」という書き足しが見られることから、誤記の可能性が高い。意味は注187) 参照。
- 275) eturpak : 『久保寺辞典』に「eturpak 匹敵する」(p.71) とある。
- 276) kamuy ek \_hum : ここで kamuy と称されている者は、後に人間であることがわかるため、kamuy はここでは神(カムイ) そのものではない。神のように立派な人物といった意味で kamuy という語が使われている。
- 277) ドナシ・エキベ tunas ek pe : エキは ek。
- 278) チエソネレ : ノートの表記は「チエソネレ (cesonere)」のようにも見える。しかし、本ノートで ce は「チェ」ではなく「ゼ」で表記されていることや、433行目などで「チエソネレ」と表記されていることから、チエソネレ ciesonere とした。エ は後から書き足されたなどの理由から、やや小さく見えるものであろう。
- 279) ドタキセ・ニシネ tu takse nis ne : タキセは takse。takse は「大きい(石や岩)」(『沙流辞典』 p.692) の意味で、takse nis で「叢雲」(『久保寺辞典』 p.265)。
- 280) nis rap emko : 鍋沢のテキストには「nisrap emkoho 雲の先端」(『アイヌの叙事詩』 p.226) という訳も見られるが、nis 「雲」 rap 「下りる」 emko 「～の半分」であることから、雲が垂れ下がるようになっている部分のことか。
- 281) konaynatara : 「naikosanu ちゃりんとなる音。(金物等が)」(『久保寺辞典』 p.163) とあり、語根 nay- は金属的な音がする様子を、それに継続を表す接尾辞 -natara が付いた konaynatara は金属的な音が継続している様を表す。ko- は擬声語とともに使われる、ほとんど意味を持たない接頭辞。「tumpa humihi / konaynatara 鏗の音が / 鳴りわたる」(『クトゥネシリカ』 p.98)。
- 282) heyoki sakno : heyoki は「遠慮(する)」, heyoki sakno で「遠慮せずに、ためらわずに」(『沙流辞典』 p.188)。
- 283) kaysitapka- / eterkere : 『久保寺辞典』には kaysitapka-eterkere で「己が背の上に投飛ばしたり」(p.116), 「我が肩もてとばしかかける」(p.122) とある。戸になっている簾を、手を使わずに頭や体で払うようにして荒々しく入ってくる様子。
- 284) kotcawot no : 『千歳辞典』に「kotcawot 人の前を逃れるように」(p.186) とある。ここでは

- 本人が入ってくるよりも先に光が家の中に差し込んでくる様子。
- 285) an nankor \_ya?: 直訳は「いるだろうか」。ここでは疑問ではなく反語と解釈し、家の中に入って来たこの男のような人物はほかにいないだろうと思うほど、彼が立派な姿であるという意味とした。
- 286) porop an ciki: ここでの ciki は「～したところ」(『千歳辞典』p.253)の意味で、直訳は「大きな者であったところ」だが、「poropanchiki 大きなからだで」(『ユーカラ集9』p.182)を参考にした。
- 287) イタクシ・ルズ itak kus ruwe: イタクシは、「neikeuike / itakkush kuni ka / oar isambe どこからどこまで / 言うべきところも / 全く無い者が」(『ユーカラ集5』p.138)などを参考に、ノートの表記にkをひとつ補って itak kus とした。
- 288) ahup wa / moyre: 直訳は「入って / 遅れる」。「ahunanhi wa moire わが入るや遅しと」(『金田一全集9』p.346)を参考にした。
- 289) スワチ・エシカリ suwat esikari: スワチは suwat。他人の家に入ってきてすぐに炬鉤を引っつかむという動作は、「Irara-ruypap / konumina sam / omahitara, / ratki suwat / ukopekakar 無礼も甚しき子ども / うす笑ひをうかべ / 入って来て, / 垂らした自在鍵を / 一緒にひつつかみ」(『クトゥネシリカ』p.99)のような無礼な者や「iruska ruipe / a-nep ne kusu, / ratki shuwat / a-tek-saikare 怒り激しき / 我なりければ, / 吊り下される炬鉤を / 我が手にひつつかみ」(『神謡・聖伝』p.44)のような怒っている者の登場の場面ではしばしば見られる。本テキストでは前者か。
- 290) yaykotanka- / esina: yay-「自分の」kotan「村」ka「～の上」esina「～を隠す」。「yaykotan ka / eshina おのれの村も / 包みかくして」(『ユーカラ集6』p.78)。
- 291) pak utari inne p / isam kur / a=ne ruwe ne.: 直訳は「これほど仲間が多い者が / いない人が / 私であるのだ」。
- 292) pak nupur kur / isam okkayo / a=ne ruwe ne.: 直訳は「これほど霊力が強い人は / いない男が / 私であるのだ」。
- 293) a=ekisaske : e-「～でもって」kiskaske「寒気がする」。
- 294) ikatciw kewtum: 『久保寺辞典』に「ikatchiu keutum いまいましき情。いまいましく思ふ心」(p.96)とある。
- 295) inkar=an hike: 「見たところ」とも訳せるが、ここではただ目で見るとはならず、自分の暮らすレブンシリ村から遠くシヌタツカを巫術でもって透視している様子になる。
- 296) astere katu: as「立つ」-te「～させる」-re「～させる」。使役接尾辞が2つ重なっているが、「yaypastere (直訳すると)自分を走らせる」(『沙流辞典』p.863)(<yay-「自分を」pas「走る」-te「～させる」-re「～させる」)や、葛野辰次郎の祈詞にci=sikoocastere ki 手前どもに働きかけるように(『くらしと言葉5』p.66)(<si-「自分」ko-「～に対して」o「～の尻」cas「走る」-te「～させる」-re「～させる」)といった語が見られることから、誤記ではないものとした。
- 297) tokap rerko: 直訳は「昼3日」。ここでの rerko は「『三』という意味がなくなって、単に『日』を表す場合」(『千歳辞典』p.428)の用法。夜も昼も、長い間戦ってきた様子。
- 298) ルヤンベ・アシテ / アン ruyanpeaste / =an: この部分は (1) ruyanpeaste (wa) an「彼(=憑神)が ruyanpeaste をしていた」、(2) ruyanpeaste an「 ruyanpeaste があった」、(3) ruyanpeaste=an「私(あるいは私たちは私+憑き神)が ruyanpeaste をした」といった解釈ができそうだが、ここでは(3)で解釈した。 ruyanpeaste は ruyanpe「嵐」as「降る」-te「～させる」。

- 299) a=tusukuspare : tusu 「トウス, 巫術」 kus 「〈場所〉を通る」 pa (複数) -re 「～させる」。「tumi sermak / insu kuspare 戦の命運は / 巫術であらわし」(『アイヌの叙事詩』 p.46) など、戦の命運などの占い(予知)をする際に tusukuspare が使われていることが多い。しかし、この文脈では占いをしているわけではないため、「巫術をかける」意味とした。
- 300) a=hunke yakka : 『千歳辞典』に「hunke ～に呪いをかける」(p.340) とある。
- 301) a=karkoyaykus : 『久保寺辞典』に「karkoyaikush やりそこなふ」(p.122) とある。
- 302) rayottemusi : 『パチエラー辞典』に rayottemusi は「Scarcely. Hardly. Syn : Rai-korachi」(p.418) とある。
- 303) a=kohopitare : 『久保寺辞典』に「akohopitare 吹飛ばされる」(p.19) とある。
- 304) a=opunpuni wa : o- 「～の尻」 punpuni (puni 「～を持ち上げる」の重複形)。ここでは「aopunpuni こぞって」(『ユーカラ集 9』 p.80), 「おこしたてる, 加勢してもらう」(『ユーカラ集 3』 p.289) という意味。
- 305) アシヨコテ a=siokote : si- 「自分」 o- 「～の尻」 kote 「～を～にくっつける」。「久保寺辞典」に「あとへくつつく, 後へついてゆく」(p.248) とある。ノートの表記にしたがうと siyokote だが, y は挿入音。
- 306) i=ekari no : 『静内語彙』に「ekari ちょうど～と同時に」とある。また、『沙流辞典』(p.86) にも「onumanipe ekari ek hani! ちょうど夕食のときにおいでよ」のように、「ちょうど」と訳せる例文があげられている。
- 307) one rorunpe : 『久保寺辞典』に「one そのために, それが原因となる / ～rorunpe その為に起った戦」(p.187) とある。
- 308) ikakata : 『久保寺辞典』に「ikakata すぐに, 即座に」(p.96) とある。
- 309) レブンシリウナルによる回想が続くが、以下では、ここまでテキスト中では触れられなかった内容が語られる。該当する892行目付近では、ソヤ村の酒宴を退出した主人公と長兄は、すぐに自分の村を目指して出航したかのようである。しかし、以下のレブンシリウナルの話によると、彼らはソヤ村近くの仮小屋に一泊していたようで、その夜の出来事が以降では明らかにされる。
- 310) ウタルバカンマフ utarpa kanmaw : カンマフは kanmaw。1279行目「カンマフ」も同様。kanmaw は「utarpa kanmaw / rametok kanmaw 首領の威風 / 勇者の威風」(『ユーカラ集 4』 p.347) のように使われ、「威風」のほか「体臭」(『ユーカラ集 3』 p.344), 「勢い」(『アイヌ・モシリ』 p.445) などと訳されている。いずれも、そこにいるだけで相手に圧倒する様子。
- 311) イヰマクナクル / ライバ i=emaknakur- / raypa : i= 「私を」 e- 「～について」 mak 「～の奥」 -na 「～の方に」 kur (虚辞) raypa 「～へ行かせる (複数)」で、「我を気を遠くならしむ」(『久保寺辞典』 p.95) という意味になる。なお、ノートの表記にしたがうと iyemaknakur だが, y は挿入音。
- 312) オハリキソウン oharkisoun : オハリキソは oharkiso。
- 313) チブカシカムイ cip kasikamuy : 「カシカムイ」に当たる語としては, kaškamuy (『沙流辞典』, 『千歳辞典』, 『人間篇』) と kasikamuy (『萱野辞典』, 『沙流辞典』, 『方言辞典』) という2種類の語形が確認できる。ノートの表記からは、どちらの可能性も考えられるが, si とすると5音節となることから、ここでは kasikamuy とした。
- 314) cikoetuye : 『久保寺辞典』に「chikoetuye 同じ長さにたれ下る」(p.43) とある。
- 315) tununitara : 『久保寺辞典』に「tunu-(n)itara 金の音がつづく」(p.282) とある。
- 316) hetkehetke : hetkehetke は「刀が中間まで抜け抜けする」(『萱野辞典』 p.398) ことで、ここで

は刀身がひとりでに鞘から抜けたり納まったりしている様子。「刀身から水が滴りそうな神の人食い刀が中程まで抜け抜けしている」(同)という例のように、しばしば ipetam 「人食い刀」の特徴のひとつとして、ひとりでに hetkehetke する様子が語られる。後に1379行目で明らかになるが、この刀も ipetam である。

- 317) mayunitara : mayunitara は「鏘然として聞える」(『久保寺辞典』 p.155), 「チャリンと鳴る」(『静内語彙』) とある。
- 318) ウタルバカンマフ utarpa kanmaw : カンマフは kanmaw。1330行目のカンマフも同様。
- 319) イゾマクナクル i=emaknakur- : ノートの表記にしたがうと iyemaknakur だが, y は挿入音。
- 320) sine cinika : cinika は「足踏」(『久保寺辞典』 p.44)。
- 321) a=puni : 直訳は「(足)を持ち上げる」。
- 322) hottor ka ta / a=kotususatki : hottor は「顔の上部, 眉のあたりから額にかけて」(『久保寺辞典』 p.90), 「頭の前部; 前頭部; ひたい」(『人間篇』 p.28), 「皮膚」(『萱野辞典』 p.412) とあるが, ここでは「hottor ka ta kotususatki という常套句で……, 体全体が震え上がったこと」(『千歳辞典』 p.358) という意味として使われている。
- 323) tuymaturi : 直訳は「遠く伸ばす」。
- 324) uturen tekkor : 『久保寺辞典』に「uturen-tekkor もろ手をかけて」(p.301) とある。
- 325) sannip kasi : sannip は san- (音節数を整える接頭辞) nip 「刀などの柄」。また, ノートの表記からのみでは, kas と kasi の2通りの可能性があるが, 音節数を5に近づけるためにここでは kasi とした。1357行目も同様。
- 326) アテキラリレ a=tekrarire : テキラリレは tekrarire。1358行目も同じ。tekrarire は「…を手でギューッとつかむ」(『沙流辞典』 p.708)。
- 327) a=tuyra ruwe ne : ここで「私」(=この部分の発話者であるレブンシリウンクル)が斬った年下の勇者は, 主人公のこと。英雄叙事詩の主人公は, 敵からの攻撃をうまくかわすことが多いが, ここでは回避の様子が語られていないことから, 主人公は斬られてしまっているらしい。あるいは, レブンシリウンクルが斬ったと錯覚しているだけの可能性も考えられるが, いずれにせよ, 主人公が死んだことにはまったく言及されないのだから, 殺されていたとしても長兄によってすぐさま蘇生したのであろう。
- 328) tuwan toy sos : 「tu toi-sosh utur / re toi-sosh utur 幾重の土層(つちくれ)の間(あわい)に / 幾重の土の中に」(『文学と生活』 p.57)。
- 329) a=ukaetuye : 『久保寺辞典』に「ukaetuye 幾本も切る」(p.289) とある。
- 330) anray poka / a=yaykoniwkes : anray は ar- 「全く」 ray 「死ぬ」。『静内語彙』に「yaykoniwkes ~ができない, ~がしたくない」とあり, ここでは「~がしたくない」。「anrai poka / yaikoniwkes 全く死ぬのも / いやだから」(『ユーカラ集3』 p.80)。
- 331) sikiru nittom / terke nittom / a=i=anniwkeste : nittom は nitom と同義で「間に, ひまに」(『久保寺辞典』 p.174), a=i=anniwkeste は a= 「人が」 i= 「私に」 an- (< ar-) 「全く」 niwkes 「~をしかねる」-te 「~させる」。したがって直訳は「振り向く隙も / 跳ねる隙も / まったく私にできなくさせる」。「sikiru nittom / hosari nittom / i-an niwkeste 体を回すことも / 振り向くことも / 出来えず」(『アイヌの叙事詩』 p.284)。
- 332) i=ka tunaska : ka (si) tunaska は「急いで救ふ」(『久保寺辞典』 p.123)。「ika tunashka / ikorpare yan 早く私のところに / 駆け付けてきてください」(『久保寺ノート2』 p.46)。
- 333) cikimatekka / i=ekarkar na : 直訳は「私を慌てさせたぞ」。
- 334) イゾカルカル i=ekarkar : ノートの表記にしたがうと iyekarkar だが, y は挿入音。

- 335) ukataterke: 「ukataterke 互いに重なり合う」(『アイヌの叙事詩』 p.525), 「ukataterke 押し合いへしあい」(『ユーカラ集9』 p.89)。
- 336) wen tumiram: 『パチュラー辞典』によると tumiram は「A very severe war」(p.511)。レブンシリウシクルの呼びかけに応じて助けにやって来た大勢の仲間たちと、主人公の長兄との戦いのこと。
- 337) ukohopuni: 『千歳辞典』に「ukohopuni いっせいに起こる」(p.60) とある。「tu wan rorunpe wen rorunpe ukohopuni たくさんの戦い, ひどい戦いが巻き起こった」(同:p.361)。
- 338) a=eyki hine: eyki は「...でものごとをする」(『沙流辞典』 p.163) という意味なので直訳は「私がして」になるが, ここは『久保寺辞典』に「e-iki aine やつとこさ」(p.57) とあるのを参考にした。
- 339) inekus nepun: 『久保寺辞典』に「inekushnepun まことに, 成程, 如何にもよく」(p.101) とある。
- 340) ne rok kusu: 直訳は「であったから」。
- 341) kamuy kusnamne: kusnam は「さへ, なりとも, なりとてさへ という様な意味の強い語」(『久保寺辞典』 p.148)。
- 342) horarpa ruwe: ホラリパは, horari pa (単数形「住む」+複数の助動詞 pa) と horarpa (複数形「住む」, r の後に-i の音が挿入された表記) の2通りの可能性が考えられるが, 通常, 複数形があるものはその語形を用いることが多いことから horarpa とした。
- 343) ムクルクルカ: ほかのテキストでは, mukru kurka という表現のみが見られる。ノートでは「ムクルク」でページの下端にいたっているため, 改行にあたって「クル」が重複してしまったという可能性も考えられる。したがって, 虚辞 kur が挿入されているのではなく, 「ムクルクルカ」の誤字か。
- 344) kookkewmaka- / atte: ko- 「～に対して」 okkew 「首筋, うなじ」 maka 「後方に」 atte 「～を掛ける」なので, 「うなじを後に / 垂れている」(『クトゥネシリカ』 p.128) という意味になる。すなわち, 枕に頭を乗せて仰向けに眠っている様子。
- 345) atte imeru: 『神謡・聖伝』に「a-atte imeru 美貌のかがやき」(p.464) とある。
- 346) tumpu upsor: tumpu 「部屋」や casi 「山城」の中という際には「[u]casi upsor」(『音声資料7』 p.16) のように概念形 upsor が用いられる用例も, 「casi upsoroho 城の中」(『アイヌの叙事詩』 p.295) のように所属形 upsoro (ho) が用いられている例も見られるが, 概念形 upsor が用いられている例が多いため, ここでも upsor とした。
- 347) ewemakmakke: 『久保寺辞典』に「e(w)emakmakke 明るくなる, みちあふれる」(p.73) とある。
- 348) somo hetap an: 『久保寺辞典』に「somo hetap an あるべからざることも也」(p.260) とある。
- 349) セウリクルボキ sewri kurpok: クルボキは kurpok。
- 350) ウズホシノ uehosino: uehosino は「互いに異なって, 互いと反対に」(『沙流辞典』 p.804) という意味。ここでは, 主人公の家もほかの首領 (=主人公の兄) たちの家も, 互いにいずれ劣らぬ立派な様子であるということ。なお, ノートの表記にしたがうと uwehosino だが, w は挿入音。1467行目も同様。
- 351) poniwne nispa: この語句で主人公を指すこともしばしばあるが, ここでは主人公の次兄のこと。嵐で死んだのは, 次兄だけである。
- 352) otutanu nispa: 主人公のこと。otutanu 「次の」 nispa 「首領」は, poniwne nispa (年下の勇士 =次兄) の次の弟という意味か。

- 353) yayeposore:『久保寺辞典』に「yayeposore 潰滅(かいめつ) させる」(p.308) とある。
- 354) キロクス ki rok kusu: ノートの表記に k をひとつ補って, ki rok kusu とした。
- 355) ca hepita: hepita は「たわんでいたものが弾力で跳ね上がる」(『千歳辞典』 p.347) こと。ここでは、「曲げられて押えられていた柴(=細い木)が手を離れた途端にパツとはじけて伸びるように言うな=すぐに怒ってはいけない, 短気を起こすな」(『沙流辞典』 p.184) のように, 急に怒り出す有様の比喩。
- 356) easinke:『久保寺辞典』に「eashinke 出す, 言ふ, 発する」(p.54) とある。
- 357) usayne ka tap:『久保寺辞典』に「usainekatap こはそも如何に, これはしたり」(p.298) とある。「驚きの問投詞」(『金田一全集 9』 p.304) として英雄叙事詩ではしばしば使われる。
- 358) cihoyore / cipawcikore: cihoyore は「悪事, 兇事」(『久保寺辞典』 p.41)。同辞典で hoyyo は「ふざける」(p.86) とあるので ci-「自ら」 hoyyo 「ふざける」-re 「~させる」。cipawcikore は ci-「自ら」 pawci 「パウチ, 魔物の一種」 kor 「~を持つ」-e 「~させる」。この 2 語を同格として並べて, 「兇魔がついて / 悪魔がついて」(『ユーカラ集 3』 p.316), 「魔が憑いて / まがごとをする」(同: p.211) のように使われる例が見られる。
- 359) ne kasi un: 直訳は「その上へ」だが, 文脈から意識した。
- 360) cikosomokur / yaykatanu:『沙流辞典』に「cikosomokur koyaykatanu ... に対して無礼なことをする / 言うこと」(p.53) とある。
- 361) a=irwak- / nispautari: 主人公兄弟のこと。
- 362) ルヲカケヘ ruokakehe:『沙流辞典』に「ruwoka ... の去った後, ... の死後」(p.595) とある。また, ノートの表記にしたがうと ruwokake だが, w は挿入音。
- 363) a=etamani: e-「~について」 tam 「刀」 ani 「~を持つ」。『久保寺辞典』に「aetamani 我が刀を揮る」(p.14) とある。文字通り刀を手を持ち, それを振り回すというだけではなく, 「Kemkarip / etamani 朱の輪姫が / 刀をもて戦う」(『ユーカラ集 4』 p.143) のように敵と戦う(敵に対して刀を振るう)という意味合いで使われる語。
- 364) itak sakayo:『久保寺辞典』に「itak sakayo 口論, 口喧嘩, 言葉争ひ」(p.110) とある。
- 365) e=komyore ki yakka: 直訳は「お前が~に遅れたら」。この心中発話における e=「お前」は, 自分自身のこと。
- 366) アマフノ・ズレ a=mawnoyere: マフは maw。『久保寺辞典』に「mawnoyere ひらりと抜ける, 吹きまくる」(p.155) とある。
- 367) sapauspe: sapa 「頭」 us 「~に生える」 pe 「もの」。『久保寺辞典』に「髪毛」(p.235) とある。
- 368) a=tekkonoye: tek 「手」 ko-「~と共に」 noye 「~をねじる」。「atekkonoye 我が手に巻きつけ」(『ユーカラ集 5』 p.245), 「matkosanu a=sapa-us-pe / tek-ko-noye ぱつと跳び上がり, わたしの髪の毛を / ひつつかんで手にからみ」(『生活誌』 p.145) などの用例から, ここでは髪を手巻きつけるようにして相手をつかんだ様子か。
- 369) ホマツタカンネ / アウゾオマンテ homar\_ takar\_ ne / a=ueomante: ueomante は『千歳辞典』に「(頭の中で) ~という思いを行き来させる」(p.52) とある。homar takar ne / a=ueomante という表現では「かすかな夢の如く / 覚えて」(『クトゥネシリカ』 p.194) のように訳されていることが多く, 現実か夢かの判断があやふやになっている状態を言うようである。なお, ノートの表記にしたがうと a=uweomante だが, w は挿入音。
- 370) a=konram konna / kari:『久保寺辞典』に「konram-konna karikari 我が心持飛びまはる, ぐるつとかけまはる, 余り激しくて夢中になる」(p.138) とある。
- 371) turusitara:『久保寺辞典』に「turusitara 狂気のように夢中になつて前後を忘れてしまふ」(p.284)

とある。

- 372) a=ekik kusu ne kor: 直訳は「私が〈場所〉にぶつけようとする」とだが、「paruspe kurka / ekik kusu ne kor 梁木の上に / 打ちつけても」(『クトゥネシリカ』p.105)を参考に逆接のように訳した。
- 373) yaykar: yaykar は「化ける, …に化する, 自身変ず, 変身する, 自分でなる, なる, …になる」(『久保寺辞典』p.309)だが, ここでは「柔らかい輪」に変化しているわけではない。悪い人間の子孫 (= レブンシリウクル) が主人公の手や腕に絡みつくようにしている様子で, このために主人公は彼をぶん投げることができないでいる。
- 374) konoytanke: 手などに「からみつく」(『ユーカラ集1』p.128) こと。
- 375) a=ekot pokayki / ewenitara: ekot は「〜で死ぬ」が本来の意味だが, ここでは「e(y)ekot poka ewenitara 我を殺すことも能はず」(『久保寺辞典』p.74) のように, 「〜を殺す」という意味で使われている。
- 376) kinra maw ne / i=kohopuni: 直訳は「もの狂いの風となって / 私に対して立ち上がる」だが, 『沙流辞典』によると wenkinrane / i=kohopuni で「私はものすごく怒りくるった」という慣用表現になる (p.319)。
- 377) upsi tek: upsi 「うつ伏せになる」 tek 「さっと〜する」。
- 378) a=sirekatta: 『千歳辞典』に「sirekatta ~を地面に引き倒す」(p.226) とある。
- 379) penramu: penramu は「胸」だが, うつぶせになっていることと, 首を後ろに折ろうとしていることを考えると, 膝を押し付けているのは背中側と考えられるため, penram は「普通上半体上半の前面(胸部)をさすが, 上半の背面(背中)をさすこともある」(『人間篇』p.116) という記述を参考に「背中」とした。
- 380) a=emakakaye: e- 「〜の頭」 maka 「後方に」 kaye 「〜を折る」。
- 381) yayapapu: 「謝る」という意味もあるが, ここでは「自分のした行為を口惜しく思う。恥じる」(『千歳辞典』p.397)。レブンシリウクルの首を折ろうとしたのに, 一度で仕留めることができなかったことに対する悔しさを言っている。
- 382) kimunpe ottum / a=ikosanke: 「kimunpeottum / aikosanke 山熊の力を / 我一緒に出し」(『金田一全集9』p.312)。思い切り力を入れるときに用いられる表現。
- 383) イネアプクスン / シヨシクル・カシバ inep kusun / sioskur kaska: 鍋沢のテキストでは, 殺されて飛んで行く魂の様子を「inep kusu un / siyosikur humi 何ほどか / 悲しいのか」(『アイヌの叙事詩』p.201) のようにいう例が見られる。sioskur は si- 「自分」 oskur 「〜を惜しく思う」か。なお, ノートの表記にしたがうと siyosikur だが, y は挿入音。
- 384) kohumniwkeste: 『アイヌの叙事詩』で, kohumniwkeste は「音を鳴らし」(p.201) のように音を鳴らしていると解釈されている場合と, 「音をたて得ずして」(p.229) のように音を立てていない場合とがあるが, ko- 「〜に対して」 hum 「音」 niwkes 「〜しかねる」 -te 「〜させる」と分析できるため, 音を立てることができないという意味として解釈した。「音を立てる」とは, この文脈では「魂が飛んでいく」とほぼ同義であるため, 何十回も東 (= 生き返れる魂が向かう方向) へ向かおうと試みるものの失敗し, 西 (= 生き返れない魂が向かう方向) へと飛んで行くことになる様子。
- 385) sian ray pito: 直訳は「本当に死ぬべき神」。生き返ることができない者の魂のことで, ここではレブンシリウクルのこと。
- 386) siahuncuppok: 『萱野辞典』に「アフンチュッポク [ahun-cup-pok] 西の方, 日の入る方」(p.30) とある。si- は「真の, 本当の」の意味の接頭辞。

- 387) kohum'erawta- / rorpa : 「kohumerawta / rarpa kane 音を低く / 沈んでいく」(『アイヌの叙事詩』 p.244) は、生き返れない者の魂が西の地平の彼方に向かう際に用いられる常套表現。
- 388) a=koykaturi : 『久保寺辞典』には「akoikaturi 我大股に超えたり」(p.19) とあるが、a=koykaturi で「疾走する」(『クトゥネシリカ』 p.26), 「急ぎました」(『久保寺ノート4』 p.84) のように急いで移動することに焦点を置いた訳も見られるため、ここでは急いでいる意味と解釈した。
- 389) ネプトホ : 「ビ」が脱落しているが、nep pitoho 「何の神」の意か。
- 390) kohumepus : ko- 「～に対して」 hum 「音」 e- 「～でもって」 pus 「破裂する」か。「kohumepus 音を立てて」(『アイヌの叙事詩』 p.496)。
- 391) タンカムイマフ tan kamuy maw : マフは maw。
- 392) カムイマフ・シリカ kamuy maw sirka : マフは maw。
- 393) アイゴシネクル / スイバ a=i=ekosnekur- / suypa : 「a=iekosnekur / suypa kane われ軽々と / ゆられながら」(『アイヌの叙事詩』 p.141)。ノートの表記にしたがうと aiyekosnekur だが、y は挿入音。
- 394) イゼトコ i=etoko : ノートの表記にしたがうと iyetoko だが、y は挿入音。
- 395) otukitara : 『久保寺辞典』に「otukitara < tuk (高まり起る) もり上つて起る。itara 継続動作態」(p.196) とある。ここは自分が向かっている先から、戦っている音が聞こえてきているということ。
- 396) eputakamu : 「eputakam かぶさって」(『アイヌの叙事詩』 p.142) のように、『アイヌの叙事詩』では eputakam (p.142), eputakamu (p.423) と語形に揺れが見られるが、e- 「場所」に puta 「ふた」 kamu 「～にかぶさる」と考えられることから、eputakamu とした。
- 397) コスヲトッケ kosuototke : 『静内語彙』に「kosuwototke ～へ急降下する」とある。また、「ako-su-ototke 飛び降りて」(『アイヌの叙事詩』 p.421)。なお、ノートの表記にしたがうと kosuwototke だが、w は挿入音。
- 398) kotan pa un kur : poro a=kor yupi 「大きい兄さん」のことで、次の行とは同格。
- 399) inne utar : 主人公の兄たちが敵対している人々のこと。このソヤ村で、主人公の兄たちが戦っている相手が誰かは、特に明言されない。ただし、この話における敵対者がレブンシリウングルとその仲間だけであり、彼らがソヤ村近くの仮小屋にいた主人公兄弟を襲うために集結していたという展開から、ここでの敵はレブンシリウングルの仲間たちであろう。
- 400) mawa cikap ne : mawa 「飢える」 cikap 「鳥」 ne 「～として」。「餓鳥が磯浜に下り忙しくあちらこちら物を啄(ついば)む如くに、あちらに駆け、こなたへ轉(てん)じて戦ふ」(『久保寺辞典』 p.155) ような様子をいう。そのため、直後に yaykar 「化ける」とあるが、実際に鳥に変化したわけではなく、せわしなく動きまわっていることの比喩。
- 401) tamanpa : tamani の複数形。tam 「刀」 anpa 「～を持つ(複数)」。「久保寺辞典」に「刀を使ふ、刀を用ふ」(p.265) とある。
- 402) eyaytemnikor- / okewtuye : e- 「～について」 yay- 「自分の」 temnikor 「両手で作った輪の中」 o- 「場所」で kew 「体」 tuye 「～を切る」。鍋沢のテキストではほかに『クトゥネシリカ』(p.63) などにも同じ表現は見られるが、同様の内容に対して「a-e-yay tem nik-or / okew chari 両腕の中に / 斬り倒し」(同 : p.51) のように tuye ではなく cari を用いている例も見られる。
- 403) コウサベンブル / ノイバ kousapencor- / noypa : 鍋沢の既刊テキストでは、「akousapencor / noypa kane われ腰を / ひねって斬る」(『クトゥネシリカ』 p.217) ほか、kowsapencor- と表記されている。しかし、本ノートでは「ゾ (= co)」と表記されていることや、pencor が「上

体」の意味（『久保寺辞典』 p.204）であることから、ノートの表記どおりの kowsapencor-でローマ字化した。

- 404) tu p ne utar / re p ne utar : 直訳は「二つになった人々 / 三つになった人々」だが、「2つの～, 3つの～」という表現で多数を表すことから（注33参照）、ここでは、文字通り真つ二つに斬られたというより、バラバラに切断された死体のこととした。
- 405) ukataterke : 「ukataterke 互いに重なり合う」（『アイヌの叙事詩』 p.525）。ここでは、死体が山のようになっている様子。
- 406) a=turimeciw : 『千歳辞典』に「turimeciw 刀を顔近くに突き出して、魔払いの儀礼を行う」（p.283）とある。『アイヌの叙事詩』には「piskanike / aturimechiw そのまわり / 地ひびき立てて我まわる」（p.172）とあり、具体的な所作は「ボイヤウンベが助立ちすると言って、地ひびきするような音を立てて、一回まわるのだといわれる」（同）。また、rimeciw は「どんどん力足を踏むことで誦呪の式 kewehomsu……をされたこと」（『ユーカー集3』 p.136）とあり、ここでも魔払いのために足を踏みならず動作を行っていると解釈した。
- 407) tumunci kurka : 直訳は「戦いの上」。tumunci は、「悪鬼, 悪魔」（『萱野辞典』 p.331）などと訳されて敵対者を指す場合もあるが、ここでは「悪鬼, 悪魔」ではなく普通の人間が相手であることから、tumunci は「戦い」の意味と解釈した。
- 408) aynu pennis : 直訳は「人間の上体」。pennis は「上体（胸や頭を包括していふ）」（『久保寺辞典』 p.204）。
- 409) sapasak aynu / orocirapi : 『アイヌの叙事詩』には「sapa sak aynu / oro chirapi 首の無い者を / 散らしていく」（p.579）と訳されているが、『久保寺辞典』に「chirapirapi ばたばた打仆れる」（p.47）とあることを参考にした。oro-は「全く」（『久保寺辞典』 p.189）の意味の接頭辞か。
- 410) aynu pannis : 直訳は「人間の下体」。pannis は「尻の方, 下部, 下体（胴や腹以下）」（『久保寺辞典』 p.200）で、ここでは首を斬られた死体のうち、胴体部分を指している。
- 411) a=emus'epuni p : emus 「刀」 e- 「～でもって」 puni 「～を持ち上げる」で、「私が斬り上げたもの」が直訳。胴体から斬り離れた頭の部分を指している。
- 412) ciranaranke : ci- 「自ら」 ra 「下方」 -na 「～の方に」 ranke 「下ろす」。『久保寺辞典』に「下りる. 降る. 落ちてくる」（p.47）とある。
- 413) a=piwpa utar : piwpa （単数形 piwe）「押す」（『久保寺辞典』 p.209）だが、「inne numikir / ikopiwpa kor 多数の軍勢が / われを追いまくれば」（『アイヌの叙事詩』 p.178）を参考に、ここでは敵を追いかける意味の語とした。
- 414) temkor sama : temkor は「腕と両腕との間」（『久保寺辞典』 p.271）だが、「kamuy rametok / temkor sama / a-osiraye 神の勇士の / ふところに / 飛び込みました」（『アイヌの叙事詩』 p.517）を参考に、ここでは敵を兄たちが待ち構えているほうへ追い込もうとしているものとした。
- 415) オホリカテルケ ohorka terke : オホリカは ohorka。「ohorka terke 後戻りする」（『アイヌの叙事詩』 p.495）。
- 416) kinaortuye : kina 「野草」 or- 「全く」 tuye 「～を切る」か。「kina ortuye / sem korachi 草を刈る / 如くである」（『クトゥネシリカ』 p.64）などと訳され、たやすく敵を殺していく様子を表す。
- 417) a=ekewtumkonna- / cirikipuni : e- 「～について」 kewtum 「心」 konna （虚辞） ci- 「自ら」 riki 「高所に」 puni 「～を持ち上げる」で、「心のさまは / 奮い起つ」（『クトゥネシリカ』 p.209）

- という意味の語。ここでは、「tumi ne akip / sinot kewtum ne / a-ekewtum konna / chipunipuni 戦をするのに / 遊ぶ気持のように / われの心のさまは / うきうきとする」(同:p.76)のように、戦っていることを遊びであるかのように思って、わくわくしている様子。
- 418) アンラポッキ anrapokki:「ラポッキ」はrapoki(ke)の形で見られることが多いが、『久保寺辞典』に「rapokkike ta」が見られる(p.220)ため、ここでも誤記などではなくrapokkiという語形であると解釈し、ノートの表記にしたがった。意味は「an rapoki 全敗」(『久保寺辞典』p.23)。
- 419) アカリクニ a=kar kuni:ノートの表記におけるカリの部分を「an = ar (全く) rapoki (その下) ekari (通る)」(『久保寺辞典』p.23)のようにkariと解釈している説明も見られるが、自動詞kari「回る」とすると、このテキストにあるアカリの「ア」が文法的に説明できなくなる。そのため、カリはkar「～をする」の末尾に-i音が挿入された表記だと解釈した。この句でkarを用いている例としては「anrapoki / ekar hikusu うちまかされて / しまうふとは」(『金田一全集9』p.188。同ページの注によればekarはe=kar「お前がする」)などがある。
- 420) オドライサンベ / アネコッテカル oturaysampe / an=ekotekar:『沙流辞典』に「oturaysampe ekote (...しては) 大変だと思う」(p.494)とあることから、「コッテkotte」というノートの表記は「コテkote」の意か。ただし、1例のみではあるが「chiekotekar 着く。附く」(『久保寺辞典』p.41)に当たる語が鍋沢のテキストで「chiekotekar」(『クトゥネシリカ』p.161)となっている例があることから、ekoteに当たる語が鍋沢の語彙としてはekotteという語形である可能性も考えられる。また、沙流方言では通常、他動詞の人称接辞にan=は使われないが、「shenturaisham / anekotekar いかであるべきと / われ奮ひたつ」(『金田一全集9』p.299)のように常套表現などでan=が用いられることがあるため、ここでも人称接辞an=とした。
- 421) humne an kor:『アイヌの叙事詩』に「humnean kor 時には」(p.591ほか)などの訳が多く見られる。
- 422) a=esisuye: e-「～について」si-「自分」suye「～を振る」か。ここでは、「mosirso kurka / esisuye wa 地上を / あっちへ走りこっちへ走り」(『音声資料9』p.54)などを参考に、腕などを振り回しているのではなく、戦場を奔走している様子とした。
- 423) koonisposo: ko-「～に向かって」o-「～の尻」nis「空」poso「～を通り抜ける」で、直訳は「空から～に落ちる」。ここでは「落ちる」ような勢いではあっても自らの意思で降りてきている。
- 424) citatoy pakno / citatoy kasu: ci-「～される(中相)」ta「～を掘る」toy「畑」なので、直訳は「掘り起こされた畑と同じくらい / 掘り起こされた畑以上に」。「chitatoy pakno / chitatoy kasu 荒れ果てるだけ / 荒れ果てて」(『アイヌの叙事詩』p.195)とあるように掘り起こした畑のように草一本ない状態になったということ。多くの場合は主人公の憑き神によって「wen ape meru / ukosannasisi 火炎のひらめき / 飛び散る」(『クトゥネシリカ』p.77)のために、周囲が激しく焼き尽くされたことを言う表現だが、このテキストでは何によって焼かれたのかが欠けてしまっている。
- 425) kanciw ikir: kanciwは「いん石」あるいは「大雹(ひょう)」(『久保寺辞典』p.119)。
- 426) sikanna kamuy: sikannaは「上天の、一番高い所の」(『沙流辞典』p.624)なので「上天の神」となるが、sikanna kamuyを「大龍蛇神」(『金田一全集9』p.371)のように、特に力の強いkanna kamuy「雷神」と見なす訳が見られることから、si-「真の」kanna kamuy「雷神」とした。なお、この神は主人公の憑き神のこと。
- 427) rorunpe kurka: 直訳は「戦いの上」だが「rorunpe kurka 戦場に」(『クトゥネシリカ』p.216)

を参考にした。

- 428) ciouskar : ci-「自ら」o-「～の尻」us「～につく」-kar (他動詞形成接尾辞)。「立つている、佇む」(『久保寺辞典』p.46) という意味。同様の表現では、「eane saraha / ekaichish tapka / chioushkara / tumamshir konna / noyunitara 細い尻尾を / 切り立つ崖の上に / 立てて / からだを / よじりました」(『久保寺ノート4』p.101) となっていることから、ここでは sikanna kamuy 自体が佇んでいる様子ではなく、尾をあらわす語が脱落したものと解釈し、和訳で補った。
- 429) noyunhitara : 「波打つ」という意味の語で「竜がポンヤウンベをおそう時に体の上を波打たせる様子」(『萱野辞典』p.366) に用いるという。
- 430) a=ekonramu- / cuptek : e-「～でもって」konram「その心」cup-「つぼむ(語根)」-tek「さつと～する」で、「心細く覚ゆ」、「わか心の中 / おちおそる」(『金田一全集9』p.367) という意味。ここでは恐怖を抱くのは主人公ではなく、敵(直後の sian ray pito) であるため、a= は不定人称(受身)で解釈した。
- 431) シキヌ・ライビト siknu ray pito : シキヌは siknu. ray pito は『人間篇』に「[死者の] 靈魂」(p.243) とある。
- 432) nikituy sakno : 『アイヌの叙事詩』に「nikituy sakno 絶え間なく」(p.576) とある。
- 433) エアツテリケタ ear\_ terke ta : ear「ひとつの」terke「跳ねる」ta「～に」なので「ひと跳びで」という意味になるが、「eatterketa ちよっとの間に」(『ユーカラ集3』p.423) を参考にした。また、テリケは terke。
- 434) セタクイキリ seta k'ikir : クイキリは kikir「虫」。seta kikir は「犬や虫けら」(『金田一全集9』p.242) と訳される場合と「犬にたかる虫」(『ユーカラ集1』p.246) と訳される場合とがあるが、『久保寺ノート3』に「seta kikir / mun kikir 犬についた虫 / 草についた虫」(p.23) という対句があることなどから、「犬についた虫」とした。これは「大将はいうに及ばず雑輩のはてまで一人のこらず(のこれば、これを話のたねに雑輩は噂を立てるもの故うるさいからと、犬にたかる虫のはてまで) 生きたし生けるものをみな打殺した」(『金田一全集9』p.411) という意味で使われる、敵を皆殺しにした際の常套的な表現。
- 435) ウワスルアシテ uasuruaste : u-「互いに」asuru「～の噂」as「立つ」-te「～させる」。ノートの表記にしたがうと wasuruaste だが、w は挿入音。「seta pokaiki uasurashtep, aeunke-shte, seta kikir ahookere 犬ころさへも、噂を伝へん程のものは我殺したやし、犬につく蚤のはてまで、我殺しあへたり」(『久保寺辞典』p.239) のように、「互いに噂をするものを / 私が殺し絶やす」という意味だが、このテキストでは「噂をするもの」の「もの」に相当する語(p)を欠いている。このような表現は、鍋沢によるほかのテキストにおいても同様で、「seta kikirih / u-asuraste / a-ekeske kar 犬の虫けらまで / 評判を立てるもの / われ斬りすてる」(『アイヌの叙事詩』p.308) のように uasuraste p という表現は使われていないようである。
- 436) ekeshkekar : keske は「～を嫌う、～を憎む」だが、『久保寺辞典』に「ekeshkekar 殺し絶やす」とあるように、この常套表現の訳としては「忌み嫌う」ではなく、「殺し絶やす」が使われている。
- 437) ukewehomsu : 「(1) 祝ひことほぐ。(幌別, 沙流) (2) 火事, 溺死や, 熊に殺されたことがあつた時, 村人隣村の人々が集つて行ふ儀式. 手に手に太刀を抜き連ね祈詞を高くとなへて魔物を退散させる」(『久保寺辞典』p.128)。英雄叙事詩においては「歓迎の声をあげたのである」(『アイヌの叙事詩』p.184)、「祝ひの声をあげたりけり」(『金田一全集9』p.307)、「互いの労を犒(ねぎら)い合い」(『神話集成8』p.49) など様々な訳がつけられている。ここでは、「い

- くさの後にやるときには正に勝鬨をあげるにもあたる事であろう」(『金田一全集9』p.410)という説明を参考にした。
- 438) ルテキサム ru teksam: テキサムは teksam。
- 439) ciosanke: ci- 「自ら」 o- 「〈場所〉へ」 sanke 「〜を出す」。『久保寺辞典』に「へ出る。へ打ち出でる。出る」(p.46)とある。
- 440) tu nupur nupe / re nupur nupe / yaykoranke: テキスト中では明言されないが、ソヤウンマツは自分の許嫁だとされていたはずの主人公と一緒に連れて行ってもらえないことを嘆いているようである(注12)参照。
- 441) a=semkottannu: semkottanu は『千歳辞典』に「〜を気にしない。〜を知らぬふりをする」(p.235)とある。
- 442) シキヌワオカ siknu wa oka: シキヌは siknu。
- 443) kewecehomsu: 『久保寺辞典』に「kewecehomsu 喜び悲しみの儀礼作法」(p.128)とある。
- 444) ukoicari- / terkere: u- 「互いに」 ko- 「〜に対して」 icari 「ざる」 terke 「跳ねる」-re 「〜させる」。koterke が「飛びつく」というような意味になるので、ukoterkere は、箆をお互いにやりとりする動作を指しているものか。北海道東部に伝承される icarikoterkere という酒漉し歌に伴う踊りでも、箆を渡しあう動作があることから、いくつも樽の酒を漉すのに、箆を次々と渡していくことを表現しているのであろう。
- 445) ukoepirkep- / hoste: 「uko-epirkep / hoshte kane 互ひに小刀を / 走らせて」(『神話・聖伝』p.70)。この部分の注によると「uko (相互に) epirkep (=ipirkep とも、<物に傷をつけるもの、小刀) hoshte (hoshre, hoshpare とも言う、互いに背中合わせにする)」と解釈でき、「人々が互いに小刀を木幣にする棒の上に走らせて、一端まで削花を掻きたれ、また反して同じ方向に削花を掻いていく様」(同: p.616)をいう常套的な表現。
- 446) a=kor\_ turesi / Rupettom'unkur / a=kore: 直訳は「私がルベットムウンクルに私の妹を与える」。ここでは嫁にやることを言うため「結婚する」とした。
- 447) イヨヌイタサ ionuytasa: ノートの表記にしたがうと iyonuytasa だが、y は挿入音。1890行目、1901行目も同様。
- 448) サンブチ・ウンマツ Sanput'unmat: 「サンブチ」は Sanput。t の後に i の音が挿入された表記。
- 449) ボアコロユビ pon a=kor yupi: ノートの表記どおりの po a=kor yupi では意味が不詳になるため、n を補ってボナコロユビ pon a=kor yupi の意味と判断した。
- 450) イヨチ・ウンマチ Iyociunmat: マチは mat。
- 451) アエウコラムコロ a=eukoramkor: e- 「〜について」 u- 「互い」 ko- 「〜に対して」 ram 「心」 kor 「〜を持つ」。『沙流辞典』では ewkoramkor とあるように、u- は w へ弱化している可能性もあるが、鍋沢による実際の発音などが書き文字からは不明であることもあって、ここでは u のまま表記した。意味は『沙流辞典』に「... について相談する」(p.145)とある。
- 452) ukohoppa: 『久保寺辞典』に「ukohoppa 皆去る」(p.291)とある。
- 453) cewramtekuk: ewramtekuk は「或る事に就て互にしっかりとぐるになつて謀る」(『久保寺辞典』p.72)。これに接頭辞 ci- が付き、さらに cie- が ce- と縮まった形。
- 454) a=nu kor oka=an: 主人公が姪まれているそうだという終わり方は、この段階では平穩に暮らしてはいるが、再び新たな戦いが勃発することを示唆するもの。

【19丁表】

神謠

(カムイユカラ)

其 語 (ノーウ)

1.	キルイマシキン	ki ruy maskin <sup>1)</sup>	あまりにも私は
2.	ミシムライケ	mismurayke <sup>2)</sup>	退屈で死にそう
3.	アキクス	a=ki kusu	だったので
4.	シネアントタ	sineantota	ある日
5.	シシリムカ	Sisirmuka	沙流川 (という)
6.	アコロベツボ	a=kor petpo	私たちの川
7.	サンタブカシ	santapkasi <sup>3)</sup>	に (天の国から)
8.	アオサンオサン	a=osan'osan <sup>4)</sup>	下りた。
9.	アムサマンニ	amsamamni <sup>5)</sup>	平らかな倒れ木
10.	サマムニクルカ	samamni kurka	倒れ木の上に
11.	アオ・オソルシ	a=oosorusi <sup>6)</sup>	私は腰掛けて
12.	タバンシノツザ	tapan sinotca <sup>7)</sup>	即興歌を
13.	アエラフンクチ <sup>8)</sup>	a=eraunkuci-	喉の奥から
14.	カムイノイゴ	kamuynoye. <sup>9)</sup>	美しく響かせた。
15.	シノツザアルコンタ	sinotca arkonta <sup>10)</sup>	(すると) 歌の一部は
16.	カントコトル	kanto kotor	天に
17.	チオリキンカ	ciorikinka <sup>11)</sup>	上っていく。
18.	シノツザアルコンタ	sinotca arkonta	歌の一部が
19.	アドイソクルカ	atuy so kurka	海の上に
20.	オアルバハゴ	oarpa hawe	届いた声が
21.	クルラツキ	kururarki <sup>12)</sup>	響き渡る。
22.	シノツザアルケ	sinotca arke	歌の一部は
23.	キムンメトツ	kimun metotso <sup>13)</sup>	奥山へ
24.	チオアルバレ	cioarpare <sup>14)</sup>	向かう。
25.	シノツザエトコ	sinotca etoko	歌の (届く) 先々で
26.	ベケルカムイ	peker kamuy <sup>15)</sup>	よい神 (と)
27.	ニツネカムイ	nitne kamuy	悪い神とが
【19丁裏】			
28.	オシノツハウゴ	osinot hawe <sup>16)</sup>	遊ぶ声が
29.	オロネアンベ	oroneanpe <sup>17)</sup>	一緒になって
30.	ロイセカネ	royse kane <sup>18)</sup>	騒がしいのを

31. アンラマス	anramasu	興味深く
32. アウズスイズ	awwesuye <sup>19)</sup>	面白く思っ
33. アンアン	an=an awa	いたが
34. ネコンネフミ	nekon ne humi	何の音
35. ネナンコラ	ne nankor _ya? <sup>20)</sup>	だろうか。
36. イヨシマケウン	i=osmake un <sup>21)</sup>	私の後ろで、
37. シリサシヌランケ	sirsasnu ranke <sup>22)</sup>	何度もサラサラ鳴り
38. シリタクヌ	sirtaknu <sup>23)</sup>	ドンドンと
39. ランケ <sup>24)</sup>	ranke	何度も響く
40. クスフマシベ	kusu humas pe	ので、音がするのを
41. コヨヤモクテ	koyoyamokte <sup>25)</sup>	私は不思議に
42. アキルズネ	a=ki ruwe ne.	思った。
43. ホサリアンワ	hosari=an wa	振り返って
44. インカランアワ	inkar=an awa	見ると
45. ヌサコロカムイ	nusa kor kamuy <sup>26)</sup>	幣場の神 (=蛇) が
46. サルカコンナ	sarka konna <sup>27)</sup>	尾を振りたてて
47. カチンヒタラ	kacinhitara <sup>28)</sup>	尾を振り回すのを
48. アヌカドフ	a=nu katuhu	私は聞いていたの
49. ネロクオカ	ne rok'oka.	だった。
50. ネフミヒ	ne humihi	その音は
51. トイタクマフネ <sup>29)</sup>	tu itak maw ne	多くの話し声
<b>【20丁表】</b>		
52. レイタクマフネ	re itak maw ne	多数の話し声として
53. エネ・ネベコロ	ene ne pekor	このように
54. アヌヒタシ	a=nu hi tasi <sup>30)</sup>	聞こえた。
55. ボンオキクルミ	“pon Okikurmi, <sup>31)</sup>	「若いオキクルミよ、
56. エネトルバクノ	ene turpakno <sup>32)</sup>	それほどまでに
57. エシキナクカシバ	e=siknak kasp <sup>33)</sup>	お前の目は節穴
58. ネヒヘタパン	ne hi he tapan? <sup>34)</sup>	なのか。
59. シシリムカ	Sisirmuka	沙流川の
60. サノブツカシ	sanoput kasi <sup>35)</sup>	河口に
61. カムイチブ	kamuy cip	神の舟が
62. オヤブ	oyap	上陸
63. キルズネワ	ki ruwe ne wa	して
64. エコラコタン	e=kor a kotan	お前の村が

65.	アゼンテ	a=wente	荒らされ
66.	ノイネ	noyne	そうな
67.	シランヒケ	siran hike	様子なのに、
68.	エネドルバクノ	ene turpakno	それほどまでに
69.	エシキナクヒヘタブ	e=siknak hi hetap	お前の目は節穴だ
70.	エハゴアンヤ	e=hawean ya?'' <sup>36)</sup>	と言うのか？」
71.	セコンネベコロ	sekor_ ne pekor	というかのように
72.	アコブヤヌ	a=kopuyanu <sup>37)</sup>	聞こえた(?)。
73.	タバンベクス	tapanpe kusu	そこで
74.	インカル	inkar <sup>38)</sup>	私が見やる
75.	アン■アワ	=an awa	と
76.	ソンノボカ	sonno poka <sup>39)</sup>	聞かされたとおり
77.	ネロクオ■カ	ne rok'oka	だった。
78.	アイヌオッタ	aynu or_ ta	人間のところに
【20丁裏】			
79.	フツチセコル	huttat sekor <sup>40)</sup>	笹と
80.	アゼロク	a=ye rok	言われる
81.	クニブ	kuni p	もの(で作られた)
82.	インネチビヒ	inne cipihi <sup>41)</sup>	多くの舟が
83.	アコロベツボ	a=kor petpo	私たちの川の
84.	ベトサンブド	petosanputu <sup>42)</sup>	川尻に
85.	チオヤンケカラ	cioyankekar <sup>43)</sup>	上陸した
86.	シランルゼネ	siran ruwe ne.	様子なのだ。
87.	タネニサブノ	tane nisapno	今すぐ
88.	エネワボカ	ene wa poka <sup>44)</sup>	どのように
89.	イキアंकニ	iki=an kuni	するべきか
90.	アコウサランクル <sup>45)</sup>	a=kowsaramkur-	いろいろと思いを
91.	バシテカネ	paste kane <sup>46)</sup>	めぐらせて
92.	タバンベクス	tapanpe kusu	そこで
93.	ノヤチシナブ	noya cisinap <sup>47)</sup>	ヨモギの草人形
94.	キナチシナブ	kina cisinap	野草の草人形を
95.	アエイモンボク	a=eyaymonpok-	忙しく手を
96.	トシマクカネ	tusmak kane <sup>48)</sup>	動かして
97.	アカンルゼネ	a=kar_ ruwe ne.	作った。
98.	オロワネシ	orowa nesi	そうして

99. オドバピロル <sup>49)</sup>	otu papiror	口の中で多くの
100. オレバピロル	ore papiror	口の中で多数の
101. アコドリハゴ	a=koturi hawe <sup>50)</sup>	祈詞を私は述べ
102. エネオカヒ	ene oka hi	こう言った。
<b>【21丁表】</b>		
103. キナチシナブ	“kina cisinap	「野草の草人形よ、
104. シバセカムイ	sipase kamuy	本当に重い神よ。
105. イタカンチキ	itak=an ciki <sup>51)</sup>	私が申すことを
106. ビリカイヌ	pirka inu	よく聞いて
107. エキナンコンナ	e=ki nankor_ na.	くださいませ。
108. アコロベツボ	a=kor petpo	私どもの川の
109. ベトサンブド	petosanputu	河口に
110. カムイチブ	kamuy cip	神の舟が
111. オヤブルエネ	oyap ruwe ne.	上陸したのです。
112. アコロコタン	a=kor kotan	私どもの村が
113. アズンテ	a=wente	荒らされ
114. ノイネ	noyne	そうな
115. シランキナ	siran ki na.	様子なのですよ。
116. イコツザケヘ	i=kotcakehe <sup>52)</sup>	私の代わりに
117. エタマニワ <sup>53)</sup>	etamani wa <sup>54)</sup>	刀を振るって
118. イコロバレヤン	i=korpare yan	くださいませ」
119. イタカン	itak=an	(と) 私が話す
120. ア ワ	awa	と
121. カムイチシナブ	kamuy cisinap	神の草人形の
122. ビシカニケ	piskanike	まわり (に)
123. タンカムイマフ <sup>55)</sup>	tan kamuy maw	神風が
124. エゴシノゴ	ewesinoye <sup>56)</sup>	渦巻き
125. アルバシリコ	arpa sir ko <sup>57)</sup>	(草人形の) 飛び去る姿が
126. バンナタラ	pannatara <sup>58)</sup>	薄くなっていく。
127. ベトサンブド	petosanputu	河口に
128. エバコロ	epa kor	(草人形が) 到着すると
129. タンカムイトミ	tan kamuy tumi <sup>59)</sup>	神 (同土) の戦いが
<b>【21丁裏】</b>		
130. ウコホブニ	ukohopuni <sup>60)</sup>	起きた
131. キルゴネ <sup>61)</sup>	ki ruwe ne.	のだ。

132.	カンナルイノ	kanna ruyno	(そこで) 再びまた
133.	シネスス	sine susu	一本の柳を
134.	アDOIバ	a=tuypa	私は切った
135.	ルヰネ	ruwe ne.	のだ。
136.	スDOIナウ	sutu inaw <sup>62)</sup>	ストゥイナウの
137.	カムイ	kamuy	神を
138.	アカシルヰネ	a=kar_ ruwe ne.	私は作った。
139.	バクノネコロ	pakno ne kor	そうして
140.	カンナルイノ	kanna ruyno	再びまた
141.	オドバビロル <sup>63)</sup>	otu papiror	口の中で何度も
142.	アコドリカル	a=koturikar	祈詞を述べ
143.	イコツザケヘ	i=kotcakehe	私の代わりに
144.	エタマニクニ	etamani kuni	刀を振るうように
145.	アエバドバレ	a=epatupare <sup>64)</sup>	言葉を添えた。
146.	キロクアワ	ki rok awa	そうしたところ
147.	ビシカニケ	piskanike	(イナウの) まわりで
148.	コフムコサンバ	kohumkosanpa <sup>65)</sup>	突然激しい音がし
149.	タンカムイマフ	tan kamuy maw <sup>66)</sup>	神風が
150.	ウエシノヰ	uesinoye	渦巻いて
151.	カムイマフ	kamuy maw	神風が
152.	トイカ	toy ka	地面から
153.	エホブニワ	ehopuni wa <sup>67)</sup>	舞い上がって
<b>【22丁表】</b>			
154.	アルバシリコ	arpa sir ko	去って行く姿が
155.	バンナタ■ラ	pannatara	薄くなっていく。
156.	ベトサンプト	petosanputu	(イナウが) 河口に
157.	エバ クニ	epa kuni	到着したと
158.	アラムキコロ	a=ramu ki kor <sup>68)</sup>	思った途端
159.	マシキンクス	maskin kusu <sup>69)</sup>	なおいっそう
160.	エンドミラム	wen tumiram <sup>70)</sup>	ひどい激戦が
161.	ウコホブニ	ukohopuni	起こり、
162.	ネヒコラチ	ne hi koraci <sup>71)</sup>	たちまち
163.	レブンイホリソ	repun iwor so <sup>72)</sup>	沖の彼方へ
164.	アエオリカ <sup>73)</sup>	a=ehorka-	(疱瘡神を) 敗走
165.	バシテフミ	paste humi <sup>74)</sup>	させる音を

166. アヌルズネ <sup>75)</sup>	a=nu ruwe ne.	私は聞いたのだ。
167. オロネシ	oro nesi	そうして
168. アウンチセタ	a=uncise ta	私が自分の家に
169. エカンヒネ	ek=an hine	戻って来て
170. ランマカネ	ramma kane	いつものように
171. アナンアワ	an=an awa	暮らしていると
172. オルシネアンタ	or sineanta	ある日
173. カムイヤブン	kamuy yap _hum	神が上陸する音が
174. コドリミムセ	koturimimse	鳴り響いた。
175. タバンベクス	tapanpe kusu	そこで私は
176. アカルワアンベ	a=kar wa an pe <sup>76)</sup>	彫っていたものを
177. アウカオヒネ	a=ukao hine	しまって
178. オロワネシ	orowa nesi	そして
179. ビシタサバン	pis ta sap=an	浜に下りる
180. キロクアワ	ki rok awa	と
<b>【22丁裏】</b>		
181. アテケカルカムイ	a=tekekar kamuy <sup>77)</sup>	私が手作りした神（である）
182. スドイナウ	sutu inaw	ストゥイナウの
183. カムイ	kamuy	神が
184. サンケマサル	sanke masar	手前の砂浜と
185. マクンマサル	makun masar	奥の砂浜
186. ウドルタ	uturu ta	その間に
187. ヘルモトチ	heru motoci <sup>78)</sup>	ただ背骨だけが
188. アコニウケシ	a=koniwkes <sup>79)</sup>	切られない
189. カネワ	kane wa	で
190. エシッチウキワ	esitciw ki wa	倒れ伏して
191. オカルズネ	oka ruwe ne.	いたのだ。
192. ビシカニケ	piskanike	そのまわり（で）
193. アトリメチウ <sup>80)</sup>	a=turimeciw <sup>81)</sup>	私は力足を
194. キルエネ	ki ruwe ne.	踏んで魔を払う。
195. バクノネコロ	pakno ne kor	そうして
196. インカラニアワ	inkar=an awa	見ると
197. レブンカイベ	repun kaype <sup>82)</sup>	沖に向かう波
198. ヤンケカイベ	yanke kaype	岸に寄せる波の
199. シルドウシケタ	sirutur uske ta <sup>83)</sup>	間に

200.	アテケカラカムイ <sup>84)</sup>	a=tekekar kamuy <sup>85)</sup>	私が手作りした神 (である)
201.	ノヤチシナブ	noya cisinap	ヨモギの草人形
202.	キナチシナブ	kina cisinap	野草の草人形 (という)
203.	シバセカムイ	sipase kamuy	本当に重い神で
204.	ヘルモトチ	heru motoci	ただ背骨だけが

【23丁表】

205.	アコニウケシベ	a=koniwkes pe <sup>86)</sup>	残っているものが
206.	エシツチウヒネ	esitciw hine	倒れ伏して
207.	アンルエネ	an ruwe ne.	いたのだ。
208.	ビシカニケ	piskanike	そのまわり (で)
209.	アドリメチウ <sup>87)</sup>	a=turimeciw	私は魔払いを
210.	キルゴネ	ki ruwe ne.	したのだ。
211.	オロワネシ	orowa nesi	それから
212.	カムイチシナブ	kamuy cisinap	神の草人形を
213.	アシリカトフ	asir katuhu	新しい姿に
214.	アコカルカルヒネ	a=kokarkar hine <sup>88)</sup>	整え直して
215.	カムイラマチ	kamuy ramaci	(草人形の) 神の魂の
216.	アコカノシバ	a=kokanospa <sup>89)</sup>	後を追ひ
217.	キルゴネ	ki ruwe ne.	かけたのだ。

【23丁裏】

218.	ゴンカスノ	wen kasuno <sup>90)</sup>	あまりにも
219.	チヤイコルシカ	ciyaykoruska <sup>91)</sup>	気の毒に
220.	アエカルカルクス	a=ekarkar kusu	思ったので
221.	トマリコロ	tomari kor	港を領有する
222.	カムイネ	kamuy ne	神として
223.	アアンテルエネ	a=ante ruwe ne.	(草人形を) あらしめるのだ。
224.	バクノネコロ	pakno ne kor	そして私は
225.	ストウイナウカムイ	sutu inaw kamuy	ストウイナウ神の
226.	オロタアリバアン	oro ta arpa=an <sup>92)</sup>	ところに行き
227.	アシリカドフ	asir katuhu	(イナウを) 新しい姿に
228.	アコカルカル	a=kokarkar	整え直して
229.	カムイラマチ	kamuy ramaci	(イナウの) 神の魂の
230.	アオカノシバ	a=okanospa	後を追ひ
231.	キルゴネ	ki ruwe ne.	かけたのだ。
232.	ゴンカスノ	wen kasuno	あまりにも

233.	チヤイコルシカ	ciyaykoruska	気の毒に
234.	アエカルカルクス	a=ekarkar kusu	思ったので
235.	サンマサルカ	san masar ka	手前の砂浜の上を
236.	アエブンキネレ	a=epunkinere	(イナウに) 守らせる
237.	キルゴネ	ki ruwe ne.	ようにしたのだ。
238.	タバンベクス	tapanpe kusu	だから
239.	アイヌウタラ	aynu utar	人間たちが
240.	レブンウサッキ	repun usapki <sup>93)</sup>	沖の仕事を
241.	キワネヤクカ	ki wa ne yakka	しても
242.	ウサブキ	usapki	(神々が) 仕事を
243.	セルマク	sermak	背後で
244.	エコブンキネ	ekopunkine	守ってくれる
245.	キルゴタバン	ki ruwe tapan.	のだよ。
246.	オイナ神の御悴神 <sup>94)</sup> の歌で <sup>95)</sup> あります <sup>96)</sup>		

## 注

- 1) ki ruy maskin: 『久保寺辞典』に「ki rui mashkin あまりに」(p.131)とある。
- 2) mismurayke: mismu 「退屈する」rayke 「～を殺す」。『神謡・聖伝』に「wenkashuino / mishmu raiké / a-ki wa kusu 余りにも / 徒然なるに / 堪へかねて」(p.290)とあるように、退屈で仕方がない様子。
- 3) サンタブカシ santapkasi: 「サン」という表記の場合、san と sam の可能性が考えられるが、「Pon-nituyehi/ san tapkasi / pen tapkasi ポンニツエヒ山の / 聳ゆる頂の / 東面の山頂の」(『宗教と儀礼』p.84) など san tapkasi の用例が見られることから、ここでは san とした。この『宗教と儀礼』の用例では「san tapkasi / pen tapkasi」のように接頭辞 pen- と対になっていることから、san も接頭辞か。接頭辞 san- は「otu santuka たくさんの刀の柄」といった句で用いられ、『沙流辞典』には「槍や刀剣の関係の語に接頭する。特に、『前に出る』というほどの積極的な意味を表すわけではなく、主として韻律上の手法として音節の数を数える役割を果たしている」(p.603)とある。また、tapkas, -i は「～の上、～の頂」の意味だが、『沙流辞典』に「[...に行く] [...に来る]」等を表す語の前で、村(集落 / 地域 / 国)という場所を表現するのに、歌謡や叙事詩等の韻文ではときおり kotan tapkasi コタン タブカシ という表現が用いられる。この二語で五音節となり、韻文の一行分として整う(『沙流辞典』p.699) ために「kotan tapkasi」を「村べに(この場合故郷)に帰る」と訳していることから、ここでも「川に」の意味とした。
- 4) a=osan'osan: osan (< o- 「(場所)へ」 san 「出る」) の重複形。『バチエラー辞典』に、osan'osan は「To come down to」(p.364)とある。主人公(叙述者)はここで、天の国から人間の国へ降りて来ている。
- 5) amsamamni: 『久保寺辞典』に、am- は「平面上の物に付いて『ひろやかな』気持ちを添へる」意味の接頭辞とある(p.20)。同辞典には用例として「am-set, am-so, am-sokkar (敷座) am-

toi」があげられている。

- 6) アオ・オソルシ a=oosorusi: 鍋沢の表記においては oosorus<sub>5</sub> と oosorus<sub>i</sub> の可能性が考えられる。『沙流辞典』(p.473)などに oosorus<sub>i</sub> という語形は見られるが、oosorus という語形は見当たらないことから、oosorus<sub>i</sub> とした。o-「〈場所〉に」osor「尻」usi「〜に〜を付ける」。意味は「...に腰掛ける」(同前)。
- 7) tapan sinotca: 直訳は「この即興歌」。和訳においては「この」がないほうが自然であることから、訳文では省略した。このように訳では不要ともなる tapan について『沙流辞典』に「論理的には tapan タパン は必要ないが、この語を入れることで一行が五音節に整うと同時に韻文らしい言い方になる」(p.698)とある。
- 8) アエラフクチ a=eraunkuci: エラフクチは eraunkuci。意味は次注 9) を参照。鍋沢は u をしばしばフで表記しているが、ここもそのひとつであることを指摘するためか、ノートでは「フ」の隣に鉛筆書きで「ウ」と書き添えられている。ただし、この鉛筆書きが鍋沢自身の手によるものかは不明である。『久保寺タイプ』を参考にすると、本ノートは金田一京助の手に渡り、久保寺逸彦にも貸し出されたという経緯を経たようなので、こうした鉛筆書きは鍋沢自身ではなく、研究者の手による可能性も高い。
- 9) a=eraunkuci- / kamuynoye: e-「〜について」ra「下方」un「〜にある」kuci「〜の喉」kamuy「非常に立派に」noye「〜をねじる」。『久保寺辞典』に「eraunkuchi kamui noye 喉の奥より美しく調べ出でたり。(美しく歌曲をうたひ出づるにいふ常套句)」(p.66)とある。
- 10) arkonta: 『久保寺辞典』に「arkonta = arkehe 片々, 半分」(p.66)とある。ここでは、歌声が天、海、奥山の三方へ分散していくので、それぞれ「一部」と訳した。
- 11) ciorikinka: ci-「自ら」o-「〈場所〉へ」rikin「上る」-ka「〜させる」。『久保寺辞典』に「登りゆく 高く上つてゆく」(p.46)とある。
- 12) クララツキ kururutki: 「クル」という表記からは kur-と kuru-の可能性が考えられ、『久保寺辞典』(p.148)にも kur(u)rutki とある。が、kurrutki では 3 音節になってしまうことや、『金田一全集 9』(p.292, 461)などに kururutki の用例が多く見られること、また kurrutki という語形は通常 kunrutki (クンラツキ) と音交替を起こすと考えられることから、ここは kururutki とした。『久保寺辞典』(p.148)には「雲が沢山起ってまっ暗になる」意と「断続してきこえる、ところどころ聞える」意があるが、ここでは後者。『ユーカラ集 1』には「轟々と鳴りわたる。-rutki は激しくたくさん鳴る意」(p.139)という説明も見られる。
- 13) metotso: 『千歳辞典』に「metot 山奥」(p.378)とある。また、『祈道全集』に「キムン メトツ 奥山の」(p.65)とある。
- 14) cioarpare: ci-「自ら」o-「〈場所〉へ」arpa「行く」-re「〜させる」。『久保寺辞典』に「chioarpare へ行く」(p.45)とある。
- 15) peker kamuy: 直訳は「明るい神」だが、対句となる nitne kamuy「性悪の神」と反対の性質のカムイを言う語句。そのため、『沙流辞典』(p.520)などでは「pekerkamuy 善い神」とある。
- 16) osinot: o-「〈場所〉で」sinot「遊ぶ」。接頭辞 o- は 25 行目の sinotca etoko を受けている。
- 17) oroneanpe: 『久保寺辞典』には「oroneanpe 『一緒になる』『相和する』と訳し得べし」(p.191)とある。yukar(1) 注20 参照。
- 18) royse kane: 『千歳辞典』に「royse (人、犬、枝の落ちる音などが) 騒がしい音を立てる」(p.428)とある。したがって、royse kane の直訳は「騒がしくて」。
- 19) anramasu / awwesuye: 「非常に心地が良い。気に入った」(『千歳辞典』p.25) という意味の慣用表現。

- 20) nekon ne humi / ne nankor \_ya :nekon は「どのように」が直訳だが、ここでは意識した。鍋沢のテキストでは、不思議な音などを感じた際の表現として「nekonne humi / nenankora」(『アイヌの叙事詩』 p.265) や「nekon ne ruwe / ne nankor`a」(同 : p.381) といった句がしばしば見られる。
- 21) イヨシマケ i=osmake : ノートの表記にしたがうと iyosmake だが, y は挿入音。
- 22) sirsasnu 『バチエラー辞典』によると sirsasnu は「To rustle as a dress or leaves」(p.468)。
- 23) sirtaknu : sir-taknu は r が音韻変化を起こし sittaknu となる場合もあるが、ここではノートの表記に従い sirtaknu のままとしている。taknu は「どしんどしんと地に響いて音がする」(『久保寺辞典』 p.265) で, sir-「辺り」が接頭すると「そこらをどよもしてだうと音がする」(同 : p.254) という意味。
- 24) シリタクヌ / ランケ : sirtaknu ranke で 5 音節となるため、直前の「シリサシヌランケ」のように「シリタクヌランケ」で 1 行となりそうなところだが、ノートでは間に空白があることから、明らかに 2 行に分けて記してあるため、それに従った。以下、本テキストの行区切りは、すべてノートの表記に従っている。
- 25) koyoyamokte : ko-「～に対して」 i-「もの」 oyamokte「～を不思議に思う」。『久保寺辞典』に「koyoyamokte いぶかる、不思議に思ふ 怪しむ」(p.145) とある。
- 26) nusa kor kamuy : nusa kor kamuy「幣場を司る神」の姿については「chipasan (nusa-san) の主神は顕現する時は大蛇の形に現ずるといふ」(『久保寺辞典』 p.179)、「何か変事の場合人間にあらわれる事がありますが、その時は蛇の形をかりてあらわれると云います」(『動物編』 p.227) といった説明が見られる。本テキストでも次行以降で尾を振り回している様子などが語られていることから、この nusa kor kamuy は蛇体で現れているようである。
- 27) sarka konna : 『金田一全集』に「shirka-kese / sarkakonna 鞆の末に／尻尾を振り立て、」(p.374) とある。
- 28) kacinhitara : 『久保寺辞典』に「ぶらぶらと動かす」「尾をふりまはす」(p.115) とある。
- 29) トイタクマフネ tu itak maw ne : 鉛筆書きで、「ト」の脇に「ヅ」,「フ」の脇にも同様に「ウ」と書き足されている。それぞれ、「ト」は to ではなく tu, 「フ」は hu ではなく u(w) であることを明示する書き込み。このような鉛筆書きについては注 8) 参照。
- 30) tu itak maw ne ~ a=nu hi tasi : 直訳は「二つの話す息として / 三つの話す息として / そうであるかのように / 私が聞いたこと」。ene ne pekor / a=nu hi tasi は「mukar-pir / turse humi / ene nepekor / a-nuhi tashi 斧の傷 (木片) / くづれ落つる音は / かくいふ如く / 我に聞こえたり」(『神謡・聖伝』 p.321) のように、何かの物音がメッセージを伴っているように聞こえてくることを言う。このように、神謡や散文説話では、羽ばたきの音などが何らかの内容をもつ声のように聞こえるというモチーフがしばしば見られる。これはカムイから人間へ物事を伝える方法のひとつ。
- 31) pon Okikurmi : このテキストの自叙者 (主人公)。たとえば, Sinutapkaunkur の息子を pon Sinutapkaunkur と呼ぶように, pon ~ で「子供の~, 2 代目の~」を表す。したがって, ここでも「若かりし時代の Okikurmi」ではなく「Okikurmi の息子」の意味。
- 32) eneturpakno : 『久保寺辞典』に「turpak 匹敵する, 及ぶ」(p.283), 「eneturpakno そんなに, それ程までに」(p.62) とある。
- 33) エシキナクカシバ e=siknak kaska : シキナクは siknak「目が見えない」。そのため直訳は「お前は目が見えなすぎる」。ここでは, 人間の村に起きている危機的状況に気づいていないことを責めている語。

- 34) ne hi he tapan: 鍋沢の英雄叙事詩に頻出する文末表現として, ne hi tapan na 「(もの) なのですよ」がある。この語句の終助詞 na の代わりに疑問の副助詞 he を挿入し, 疑問を表す文末表現としたのが ne hi he tapan。この句も鍋沢のテキストではしばしば見られ, 「でないか」(『アイヌの叙事詩』 p.314) などと訳されている。
- 35) サノブツカシ sanoput kasi: ノノートで tu の意味で「ツ」が用いられている例は極めて少なく, -t にあたる場合には「ツ」が用いられていることが多い。そのため, 「サンブツ」は sanoputu ではなく sanoput と記した。sanoput は「河口」(『萱野辞典』 p.256) なので, 直訳は「河口の上」。
- 36) e=siknak hi hetap / e=hawean ya: 直訳は「一体お前は目が見えなすぎる事 / お前は言うのか?」。
- 37) アコブヤヌ a=kopuyanu: 未詳の語。あるいは「アコブヤヌ a=kopuyasu」か。前後の文脈から, 「聞いた」「怒られた」などの意味かと推測した。
- 38) inkar: ここで叙述者が目を向けたのは, 幣場の神から教えられた沙流川河口の方向であろう。
- 39) sonno poka: 『沙流辞典』に「sonno poka やはり本当に, 思ったとおり, 予想したとおり, 聞いたとおり」(p.676) とある。
- 40) フッタチセコル huttat sekor: フッタチは huttat。
- 41) inne cipihi: このように多くの舟で人間の村に寄せて来るものは疱瘡神であるとされる場合が多い(たとえば『神話・聖伝』神話57, 聖伝9など)。したがって, 本テキスト中では明言されていないものの, ここで村を襲おうとしているのは疱瘡神であると考えていいだろう。なお, このテキストの類話(注96)参照)においても, 舟に乗って来るのは疱瘡神であると語られている。
- 42) petosanputu: 『沙流辞典』に「petosanputu 川尻, 川の海への出口」(p.526) とある。
- 43) cioyankekar: ci- 「自ら」 o- 「(場所) に」 yan 「上陸する」 -ke 「～させる」 -kar (他動詞形成接尾辞)。『久保寺辞典』に「chioyanke 漂着した。陸へ上つた」(p.46) とある。
- 44) ene wa poka: 『久保寺辞典』に「ene-wa-poka 如何にか, どういふ風に, 如何にとも 兎にも角にも」(p.62) とある。
- 45) アコウサランクル: 「ン」の隣に鉛筆書きで「ム」と書き足されている。鉛筆書きについては注8) 参照。
- 46) kowsaramkur- / paste: 『千歳辞典』に「kowsaramkurpaste ～にいろいろと思いをさせる。～について思いをめぐらせる」(p.180) とある。
- 47) noya cisinap / kina cisinap: この2行は同格で, noya cisinap も kina cisinap も同じものを指す。noya imos kamuy などとも言い, 「疱瘡が流行ったとか, 流行り風邪などが近くの村に流行ったという話が聞こえた時」のような「最も大切で緊急の場合に頼む神」(『五つの心臓』 p.260) である。地域によって作り方に差異が見られるが, およそ「ヨモギの茎を束ねて, 頭部, 胴体及び上肢をつくる。下肢には, 先端を尖らしたヤナギの棒を二本さす。手には, 縄を掛けた削掛けを垂れ, 左手には, 削掛けを付し, 先を尖らしたヨモギの槍を持たせ, 頭部と胴部とを削掛けで縛る」(『宗教と儀礼』 p.349) といった作り方をすると言う。
- 48) a=eyaymonpok- / tusmak kane: 『千歳辞典』に「eyaymonpoktusmak (仕事について) ～にいそしむ。～で忙しく手を動かす」(p.101) とある。
- 49) オドバピロル: 行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。鉛筆書きによる行頭に付されたチェックや区切りのような記号は, 以下でもしばしば見られるが, 詳細は不明。鉛筆書きについては注8) 参照。

- 50) otu papiror / ore papiror / a=koturi: 『久保寺辞典』に otu papiror ore papiror a=koturi kar で「口の内に二言三言いのりの詞を述べて」とある (p.200)。
- 51) itak=an ciki: 直訳は「私が話したら」。
- 52) i=kotcakehe: ここでの kotcake は『千歳辞典』に「～の代り。～の代理」(p.185) とあるのを参考に訳した。
- 53) エタマニワ: 行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 54) etamani: e- 「～について」 tam 「刀」 ani 「～を持つ」。『久保寺辞典』に「aetamani 我が刀を揮る」(p.14) とある。yukar(1) 注363参照。ここでは(刀を振るって) 疱瘡と戦って追い払うように頼んでいる。
- 55) タンカムイマフ tan kamuy maw: マフは maw。なお、「フ」の隣に鉛筆書きで「ウ」と書き足されている(注8)参照。
- 56) eweshinoye: 『久保寺辞典』に「eweshinoye うずまき起こる」(p.73), 「ueshinoye ぐるぐる竜巻く様に渦巻く」(p.288) とある。
- 57) arpa sir ko: sir ko の ko は虚辞で、「その前にフム hum, シリ sir のような語、その後擬声語・擬態語が来るような常套句に用いられる。語調を整えるだけで、意味上では何も付加しない。韻文中でよく使われる」(『千歳辞典』p.176)。そのため、直訳は「行く様子」。
- 58) pannatara: pan 「薄い、淡い」-natara (状態の継続)。『久保寺辞典』に「pan natara 消える様にすつと中に入る」(p.200) とある。ここでは「arpa siriko / pannatara 戻ってゆくのが / 遠く見えた」(『アイヌの叙事詩』p.169) のように、cisinap 「草人形」が神風に乗って沙流川のほうへ飛び去って行く姿が、遠ざかるに従ってだんだん薄く消えそうに見えること。
- 59) tan kamuy tumi: ここでは、草人形の神 対 疱瘡神という戦いなので、kamuy tumi 「神の戦い」は「神同士の間」と解釈した。
- 60) ukohopuni: 『千歳辞典』に「ukohopuni いっせいに起こる」(p.60) とある。
- 61) キルゴネ: 行頭に鉛筆書きで、区切りのような横線が付されている。
- 62) sutu inaw: 『久保寺辞典』では、「棒幣、刻目を入れただけの inaw」であり「疫神をよける」ものだと説明している (p.258)。だが、『宗教と儀礼』によると、必ずしも「疫神をよける」ためばかりではなく「善神用のものと魔神用のもの」があるとして、様々な用途・種類の sutu inaw をあげている (p.340)。この物語で作られているような疱瘡を追い払うための sutu inaw としては、「疱瘡その他の悪疫流行の際に、村境や海岸、川口に立てる」という kotan kikikar sutu inaw (pp.348-349) を紹介している。これは「頂部を斜に削いで『神の顔』とし」、「頭部に当たる部分」に「房々と削掛けを挿込み垂れ下げて、「神髪 kamui-otopi」として、「腰にはエゾヨモギ noya」の「太刀 emush を差し」、右手には「ヨモギの槍 op」を持たせるといった格好の inaw である。
- 63) オドバピロル: 行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 64) a=epatupare: 『神話集成5』に「ア=パドパレ 私は～に言葉を添える、～に対して物申す」(p.22) とある。
- 65) kohumkosanpa: 『沙流辞典』に「humkosanpa 突然の(ドン、ガラガラッなどの) 激しい音がする」(p.209), 『クトゥネシリカ』に「kohumkosampa ひびきくる」(p.118) とある。
- 66) タンカムイマフ tan kamuy maw: マフは maw。151行目も同様。
- 67) ehopuni: e- 「〈場所〉で」 hopuni 「飛び立つ」。『静内語彙』に「ehopuni [場所] へ飛んで行く」とある。
- 68) epa kuni / a=ramu ki kor: 直訳は「到着したと / 私が思うと」。実際に目で見て確認している

- わけではないが、ストウイナウが沙流川の河口に到着したことを巫術で見通しているため「と思う」と言っている。127～128行目も同様に巫術で見通した様子である。
- 69) maskin kusu: maskin は「あまりに、ますます」(『久保寺辞典』 p.154)。maskin kusu で「なおのこと」(『クトゥネシリカ』 p.166) のような意味になる。
- 70) wen tumiram: 『パチェラー辞典』によると、tumiram 「A very severe war」(p.511)。
- 71) ne hi koraci: 『久保寺辞典』に「nehi korachi 忽ち、それと共に、それにつれて」(p.165) とある。
- 72) レプンイホリソ repun iwor so: ノートの表記は「レプンイホリソ」のように読めるが、repun iwor so か。iwori という語形は「toop kim un iwori ずっと山奥のところ」(『金成叙事32』 p.79) などで見られるが、iwori so という語形は見られないため、音節末子音 r に i 音が挿入されるという鍋沢の書き癖によるものと判断して iwor とした。この iwor so は通常「狩場、猟場」の意味で人間と獣とが会おう場所を指すが、本テキストの文脈ではむしろ「iworo-so 奥地へ」(『久保寺辞典』 p.112) や「kimun iwor so 山の奥へ」(『アイヌの叙事詩』 p.340) のように、(人間の生活圏から) 遠く離れた場所というニュアンスを持つようなので、意識して「彼方」とした。したがって、ここは、草人形とストウイナウが敵である笹舟(に乗った疱瘡神たち)を追い払うことに成功したということになる。
- 73) アエオリカ: 「ア」の脇あたりに、鉛筆書きで「✓」が入っている。行頭の「✓」ならびに区切り記号を除くと、鉛筆による書き込みは、発音どおりではない表記の部分に付されていることが多いため、この行も表記どおりの aeorika ではないことを表している可能性が高い。ここは a=ehorka- か(語釈は注74)参照)。
- 74) a=ehorka- / paste: e- 「(場所) へ」 horka 「反対に」 pas 「走る」-te 「～させる」で、「～を～へ逆方向に走らせる」。ここでは、草人形とストウイナウが優勢になったために疱瘡神たちが後戻りしていくことを言う。
- 75) アヌルゴネ: 行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 76) a=kar wa an pe: 直訳は「私が作っていたもの」。ここでは、自分が鞘に彫刻をしていた刀のこと。yukar(1) 注27) 参照。
- 77) a=tekekar kamuy: 次の行と同格になり、ストウイナウのことを指す。もう一体の「手作りした神」である草人形については、この後200行目以降で出てくる。
- 78) heru motoci: 『人間篇』に「motot (ch-i) せばね(背骨); 脊椎骨; 背柱」(p.231) とある。
- 79) a=koniwkes: ko- 「～に対して」 niwkes 「～しかねる」。「her ikkewe / akoniwkes kar ただの腰骨だけ / 切れなくて」(『アイヌの叙事詩』 p.594) を参考にすると、「motoci 背骨に対して(切ることが)できない」ということか。ストウイナウに持たせていたヨモギの太刀や槍、あるいは削り掛けなどがすべて取れてしまい、芯の部分だけがかりうじて残っている状態。したがって、このストウイナウはかりうじて持ちこたえているものの、瀕死となっている。
- 80) アトリメチウ: 行頭に鉛筆書きで「7」のような文字が記されている。
- 81) a=turimeciw: 『千歳辞典』に「turimeciw 刀を顔近くに突き出して、魔払いの儀礼を行う」(p.283) とある。yukar(1) 注406) 参照。
- 82) repun kaype: 次行 yanke kaype と対になっているため、repun を連体詞「沖の、沖にある」ではなく、自動詞「沖に出る」とした。
- 83) シルドウシクタ sirutur uske ta: 表記では「ル」が脱落しているが sirutur 「あちらとこちらの間」(『萱野辞典』 p.273) か。通常 repun kaype yanke kaype の後は、kaype uturu, sir-utur ta, utursamaha, kaype utur のように「間」を表す言葉が来る。鍋沢のテキストでも「yanke kaype

- / repun kaype / utur samaha 海の折れ波 / 沖の折れ波の / そのあいだに」(『アイヌの叙事詩』 p.604) といった例があることから、このシルドウシケタは sirutur uske ta である可能性が高い。
- 84) アテケカラカムイ：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 85) a=tekekar kamuy：以下、203行目の sipase kamuy まですべて同格で、いずれも草人形の神のことを言う語。
- 86) heru motoci / a=koniwkes pe：直訳は「ただ背骨だけ／に対してし残された者」。背骨だけが切られずに残っているという様子。注79) 参照。
- 87) アドリメチウ：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 88) a=kokarkar：kokarkar には「～の(傷)を手当する」(『千歳辞典』 p.181), 「結ぶ, 絡ふ, 巻く, 包む, 取繕ふ」(『久保寺辞典』 p.136) などの訳もあるが、直前の行で asir katuhu 「新しい姿」と言っていることから、『静内語彙』に「～に～を整えてやる」とあるのを参考にした。
- 89) a=kokanospa：kokanospa という語は未詳。が、この表現のくり返しにあたる230行目で okanospa といっていることから、okanospa 「～の後を追う」と同意の語か(あるいは「アオカノシバ」の誤記か)。ここでは、戦いでボロボロになった草人形の体から出かかってしまった魂を追いかけて捕まえたということか。テキストでは明言されていないが、その捕まえた魂は、直前で新たに作ったと述べられている新品の体に入れ直した (ciramatkore) のであろう。
- 90) wen kasuno：『萱野辞典』に「ウエンカスノ【wen-kasu no】あまりにも」(p.95) とある。
- 91) ciyaykoruska：yaykoruska に ci- / ~ekarkar がついた形。yaykoruska は, yay- 「自分」 ko- 「～に対して」 ruska 「～を怒る」で、「自分の心に...を腹立たしく思う」(『沙流辞典』 p.856) などの訳もあるが、ここは草人形に対する気持ちであることから「気の毒に思ふ」(『久保寺辞典』 p.310) とあるのを参考にした。
- 92) アリバアン arpa=an：アリバは arpa。
- 93) repun usapki：usapki は『沙流辞典』に「何をするにも一生懸命よく働く」(p.786) とある。
- 94) オイナ神の御倅神：「オイナ神の息子」とは、55行目で pon Okikurmi 「若いオキクルミ」と呼ばれていた自叙者のこと。注31) 参照。Okikurmi はオイナ神 (Aeoynakamuy, Aynurakkur) と同一視されることもあるため、ここで鍋沢は本文中の Okikurmi を「オイナ神」と書いているのであろう。
- 95) て：ノートの表記は、変体仮名「天」を用いている。
- 96) 本テキストの類話としては『神謡・聖伝』所収の聖伝9ならびに聖伝10がある。草人形が最後にミントウチの起源にならない点など、本テキストは聖伝10のほうにより近い形である。また、『金田一全集10』所収の「疫病神を撃退する話」(pp.360-361) も本テキストの類話である。こちらのサケへは「ノオーウ」であり、本テキストのサケへ「ノーウ」にも近い。

## Nabesawa-2

【表紙】(すべて右から左への横書き)

アイヌ聖典  
昭和三年二月中  
北海道沙流郡方面典

【1丁裏】

北海道日高国  
沙流郡新平賀 現救者 鍋澤モトアンレキ  
神 傳 (カムイ ユカラ)  
其 語・・・・・・ツブドルマケ・・・・ランラン ビウニシタ  
ビシビシ・・・・・・ランラン ラブシタ  
バケ・・・・・・ビウニシタ と言<sup>1)</sup>

【2丁表】

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 1. リクンモシッタ<br>天国ニ <sup>3)</sup>    | rikun mosir_ ta <sup>2)</sup><br>天の世界で |
| 2. ランマカネ<br>何時モ                    | ramma kane<br>いつも                      |
| 3. カッコルカネ<br>変リナシニ                 | katkor kane<br>変わりなく                   |
| 4. アナルエネ<br>我居リケリ                  | an=an ruwe ne.<br>私は暮らしていたのだ。          |
| 5. トミカヌイゾ<br>タカラ彫刻ケリ               | tomika nuye<br>宝刀の鞘に彫刻し                |
| 6. シリカヌイゾ<br>さや刻なるなり <sup>4)</sup> | sirka nuye<br>太刀の鞘に彫刻し                 |
| 7. タバンババテク<br>そればかり                | tapanpe patek<br>そればかりを                |
| 8. ネブキネアキ<br>働きにけり                 | nepki ne a=ki<br>仕事として                 |
| 9. ランマカネ<br>何つ変り無し                 | ramma kane<br>いつも                      |

10.	キコロアナン そして居るなり	ki kor an=an そうして暮らしていた。
11.	エンカスノ あんまり	wen kasuno あまりにも
12.	ミシムライケ 淋しなるなり <sup>6)</sup>	mismurayke <sup>5)</sup> 退屈で死にそう
13.	アキヒクス 我そして	a=ki hi kusu だったので
14.	アイヌモシリ アイヌの国へ	aynu mosir 人間の国の方を
15.	アコホサリ 我むきたり	a=kohosari 向いて
16.	インカラアンアワ 見て見たなら	inkar=an awa 見たところ
17.	シシリムカ 沙流川の <sup>7)</sup>	Sisirmuka 沙流川の
18.	サノブドフ 川つりに <sup>9)</sup>	sanoputuhu <sup>8)</sup> 川口に
19.	カムイチブ 悪神船	kamuy cip 神の船が
20.	オヤブ 陸船せり	oyap 上陸している
21.	キコロカ <sup>10)</sup> 彼発見せり	ki korka のだが
22.	アコモイレ 我過 <sup>オン</sup> けれ	a=komoyre <sup>11)</sup> 私が遅れ
23.	ヤクン ば	yakun たら
24.	アイヌコタン アイヌの部落が <sup>12)</sup>	aynu kotan 人間の村が
25.	アエンテ あらされ	a=wente 荒らされ
26.	ノイネ けり	noyne そうな
27.	シランルズネ	siran ruwe ne.

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 我思ひます                        | 様子なのだ。                        |
| 【2丁裏】                        |                               |
| 28. タバンベクス                   | tapanpe kusu                  |
| 其の為に <sup>13)</sup>          | そこで                           |
| 29. アカルワアンベ                  | a=kar wa an pe <sup>14)</sup> |
| 我刻物を                         | 自分が作っていたものを                   |
| 30. アイタルコツブ                  | a=itarkocupu <sup>15)</sup>   |
| 入れ物に巻き <sup>16)</sup>        | ござで包んで                        |
| 31. アウカオルヱネ                  | a=ukao ruwe ne.               |
| 我しまつせり                       | 片付けた。                         |
| 32. オロワネシ                    | orowa nesi                    |
| 今度は                          | それから                          |
| 33. カムイコソソソテ                 | kamuy kosonte                 |
| 神の衣を小袖を <sup>17)</sup>       | 神の小袖を                         |
| 34. アエヤイクルカサム <sup>18)</sup> | a=eyaykurkasam-               |
| 我 身上へ                        | 自分の身に                         |
| 35. オビラサ                     | opirasa <sup>19)</sup>        |
| 掛けるなり                        | まとい                           |
| 36. ウラッカネクチ                  | uokkanekut <sup>20)</sup>     |
| 金合帯を                         | 金鎖のベルトを                       |
| 37. エアラサイネノ                  | earsayneno                    |
| たゞ一巻に                        | 一巻きに                          |
| 38. アヤイコサイヱ                  | a=yaykosaye                   |
| 巻きせり                         | 自分に巻き                         |
| 39. カムイランケタム                 | kamuy ranke tam               |
| 神の劔を <sup>21)</sup>          | 神授の刀を                         |
| 40. アクッポケチウ                  | a=kutpokeciw                  |
| 我帯にさせり <sup>22)</sup>        | 帯にさし                          |
| 41. カ [■/バ]ルベカサ              | kaparpe kasa                  |
| うすき兜の                        | 薄手の笠の                         |
| 42. ランドベビ                    | rantupepi                     |
| ひもを                          | あご紐を                          |
| 43. アヤイコユブ                   | a=yaykoyupu                   |
| むすび付けり                       | ぎゅっと結んだ。                      |
| 44. バクノネ [■/コ]ル              | pakno ne kor                  |

	其れから	そうして
45.	ソイワサンマ 我外へ	soywasamma 外に
46.	アオシキル 行きけり	a=osikiru <sup>23)</sup> 出て
47.	スプキハムカ [くもの大神/よし葉上]蝶 <sup>24)</sup>	supki ham ka ヨシの葉の上の
48.	アコロユビ 我の兄	a=kor yupi <sup>25)</sup> 兄さんを
49.	アシレンルヅネ 我さそひけり	a=siren ruwe ne. <sup>26)</sup> 一緒に行こうと誘ったのだ。
50.	カネシンタ 金工の神駕 <sup>27)</sup>	kane sinta 金のシンタ <sup>28)</sup> の
51.	ウブソロルケ 是内より	upsor orke 中に
	<b>【3丁表】</b>	
52.	アオシキル のり入りけり <sup>30)</sup>	a=osikiru <sup>29)</sup> 私たちは乗り、
53.	カネシンタ 金工の神駕	kane sinta 金のシンタは
54.	オロネアンベ 其れの如く <sup>32)</sup>	oroneanpe <sup>31)</sup> 一緒になって
55.	コフムマッキ おとが立り	kohumumatki <sup>33)</sup> 轟々と鳴り
56.	アイヌモシリ アイヌ国の	aynu mosir 人間の国
57.	モシリクルカシ 国の上へ	mosir kurkasi 国土の上へ
58.	アコスヲトツケ 我矢の如く <sup>35)</sup>	a=kosuototke <sup>34)</sup> 急降下し
59.	ラバンルヅネ 下りけり	rap=an ruwe ne. 下りたのだ。
60.	ソンノボカ もっとも	sonno poka <sup>36)</sup> 思ったとおり
61.	シシリムカ	Sisirmuka

- |     |   |                                     |
|-----|---|-------------------------------------|
|     | 沙流河 <sup>カハ</sup> の                           | 沙流川の                                |
| 62. | サノブドフ<br>河つりね <sup>37)</sup>                  | sanoputuhu<br>川口に                   |
| 63. | カムイチブオヤブ<br>悪神船上陸す                            | kamuy cip oyap<br>神の船が上陸して          |
| 64. | キルゴネ<br>着せり                                   | ki ruwe ne.<br>いたのだ。                |
| 65. | スッキハムカ<br>大虫 <sup>クモ</sup> の神                 | supki ham ka<br>ヨシの葉の上の             |
| 66. | アコロユビ <sup>38)</sup><br>我 兄                   | a=kor yupi<br>兄さんは                  |
| 67. | インネ<br>多数 <sup>39)</sup> の                    | inne<br>多くの                         |
| 68. | チブタラ<br>船 等                                   | cip utar <sup>40)</sup><br>舟の       |
| 69. | クルカシケ<br>其上へ                                  | kurkasike<br>上から                    |
| 70. | コヤエツプ <sup>41)</sup><br>網をかぶせり <sup>43)</sup> | koyaecupu <sup>42)</sup><br>網でくるみ   |
| 71. | ヤクチヤロ<br>網の口を <del>むす</del> べり                | ya kutcaro <sup>44)</sup><br>網の入り口を |
| 72. | シナルゴネ<br>むすべり                                 | sina ruwe ne.<br>縛ったのだ。             |
| 73. | バクノネコロ<br>それから                                | pakno ne kor<br>そうして                |
| 74. | ヤウブソルン<br>あみの内へ                               | ya upsor un <sup>45)</sup><br>網の中で  |
| 75. | アコイキカド<br>退治せり                                | a=koyki katu<br>懲らしめる様子は            |
| 76. | トカブレルコ<br>日の三日                                | tokap rerko <sup>46)</sup><br>昼の日数と |
| 77. | クンネレルコ<br>夜三日                                 | kunne rerko<br>夜の日数を                |
| 78. | チウコビシキ<br>敷合計                                 | ciwkopiski <sup>47)</sup><br>併せて    |

【3丁裏】

- |     |                                 |  |
|-----|---------------------------------|--|
| 79. | ノイワンレルコ<br>六中夜                  | noiwan rerko<br>何十日をも                  |
| 80. | チウコビシキ<br>敷へり                   | ciwkoopiski<br>数えることになった。              |
| 81. | アコンロルンベ<br>我戦ひけり                | a=kor_ rorunpe <sup>48)</sup><br>この戦いで |
| 82. | アエウコドイマ<br>我気を長く                | a=eukotuyma-<br>私たちは永い間                |
| 83. | シヤリキキ<br>はげしく切り                 | siarikiki <sup>49)</sup><br>奮戦し        |
| 84. | ドカムイライフム<br>二神の死おと              | tu kamuy ray hum<br>多くの神が死ぬ音           |
| 85. | レカムイライフム<br>三神の死おと              | re kamuy ray hum<br>多数の神が死ぬ音が          |
| 86. | ニキドイサクノ <sup>50)</sup><br>是つゞけり | nikituy sakno <sup>51)</sup><br>絶え間なく  |
| 87. | オロネアンベ<br>最所こへ <sup>52)</sup>   | oroneanpe<br>一緒になって                    |
| 88. | コドリミムセ<br>おとが立けり                | koturimimse<br>鳴り轟いた。                  |
| 89. | キロクアイネ<br>こと如くなり                | ki rok ayne<br>そうしたあげく                 |
| 90. | シカトルカムイ<br>咳病の神は <sup>54)</sup> | sikator kamuy <sup>53)</sup><br>咳病の神が  |
| 91. | オヤオボソ<br>綱のめ依り逃出しけり。            | oyaoposo <sup>55)</sup><br>綱から抜け出した    |
| 92. | キルゴネ<br>そうして                    | ki ruwe ne.<br>のだ。                     |
| 93. | カンナルイノ<br>又重ねて                  | kanna ruyno<br>さらにまた                   |
| 94. | ケムラムカムイ <sup>56)</sup><br>饑饉の神  | kemram kamuy<br>飢饉の神と                  |
| 95. | オムケカムイ<br>風病の神                  | omke kamuy <sup>57)</sup><br>風邪の神とが    |

96. オヤオボソ  
網より逃出けり  
oyaoposo  
網から抜け出した
97. キルヅネ  
そうして  
ki ruwe ne.  
のだ。
98. タバンキレカムイ<sup>58)</sup>  
此三神のみ<sup>59)</sup>  
tapan re kamuy  
この3神に
99. アオラウキ  
遂に逃けり  
a=orawki  
逃げられた
100. キルヅタバ  
そう致しけり  
ki ruwe tapan.  
のです。
101. エモシマアナク  
其外は  
emosma anak<sup>60)</sup>  
その他（の悪神）は
102. アロピッタノ  
最も残らず  
aropittano<sup>61)</sup>  
すべて
103. アロンヌ  
殺けり  
a=ronnu  
殺した
- 【4丁表】
104. キルヅネ  
そうますた<sup>62)</sup>  
ki ruwe ne.  
のだ。
105. オロワネシ  
今度は  
orowa nesi  
それから
106. スッキハムカ  
ぐもの大神<sup>63)</sup>  
supki ham ka  
ヨシの葉の上の
107. アコロユビ  
我の兄  
a=kor yupi  
兄さんと
108. ドラノカイキ  
友に今度<sup>65)</sup>  
turano kayki<sup>64)</sup>  
一緒に
109. カネシクタ  
金の工神駕  
kane sinta  
金のシクタ
110. シンタウブソロ  
神駕内へ  
sinta upsor  
シクタに
111. アオシキルバ  
乗入けり  
a=osikirpa<sup>66)</sup>  
乗った。
112. センラムセコロ  
いちもかわりなし<sup>68)</sup>  
senram sekor<sup>67)</sup>  
いつものことだが

113.	カネシクタ 金の神駕	kane sinta 金のシクタは
114.	コフムマッキ <sup>69)</sup> おとが立り	kohumumatki 轟々と鳴りつつ
115.	カントコトル 天の上へ	kanto kotor 天に
116.	コシゴタイゴ 上りけり	kosietaye <sup>70)</sup> 引き返した
117.	キルゴネ そうして	ki ruwe ne. のだ。
118.	アウンチセタ 我家に	a=uncise ta (今は) 私の家に
119.	ホシビアンワ 帰りけり	hosipi=an wa 戻ってきて
120.	アナナルゴネ 我居ますた	an=an ruwe ne. 暮らしているのだ。
121.	オロワネシ 今度は	orowa nesi それから
122.	アイヌウタラ アイヌ等へ	aynu utar 人間たちに
123.	アエゴンタラプテ 我は彼等へ夢を見せ <sup>72)</sup>	a=ewentarapte <sup>71)</sup> 私は夢を見せた
124.	キルゴネ そうして	ki ruwe ne. のだ。
125.	タバンベクス 其為に	tapanpe kusu そのため
126.	イナウビリカヒ よき ごへい	inaw pirka hi イナウの良いもの
127.	サケビリカヒ よき酒を	sake pirka hi 酒のよいもので
128.	アイゴノミ <sup>73)</sup> さゝげ拜せり	a=i=enomi <sup>74)</sup> 人々は私に祈り
129.	アエヤイカムイ 我 神せり	a=eyaykamuy- それで私は立派な
130.	ネレカネ	nere kane

満足せり	神となって
【4丁裏】	
131. ランマカネ	ramma kane
相変らず	いつも
132. アナンルヰネ	an=an ruwe ne.
我 居けり	暮らしていたのだ。
133. ネヒサマタ	ne hi sama ta
其外わ	そこで
134. オヤオボソ <sup>75)</sup>	oyaoposo
綱より逃出し	綱から抜け
135. キロクカムイ	ki rok kamuy
彼の神	出た神,
136. シカトルケカムイ	sikatorke kamuy
咳病の神	(すなわち) 咳病の神,
137. ケムラム	kemram
饑饉の神	飢饉の
138. カムイ	kamuy
神	神,
139. オムケカムイ	omke kamuy
風病の神	風邪の神,
140. タンレカムイ	tan re kamuy
彼の三神は	この3神が
141. アイヌモシリ	aynu mosir
アイヌの国又	人間の国
142. モシリケルカシ	mosir kurkasi
他の国上へ	国一帯で
143. エスルルケヒ	esururke hi <sup>76)</sup>
流行なり	流行するのは
144. タバンベクス	tapanpe kusu
其為に	このため
145. ネルヰタバン	ne ruwe tapan.
そうなりけり	なのです。

天国ノ大神<sup>77)</sup>ヲ我北海道ヲ助ケ悪神共ヲ退治ス  
三字消代風病神<sup>78)</sup>

其時三悪神彼ノ咳<sup>79)</sup>ノ神饑饉ノ神<sup>80)</sup>■■■右ノ三體逃ケサリ  
 ケリ故ニ此世ニ彼ノ神ノ為ニ流行病アリ  
 天国ノ大神ハアイヌニ夢ヲ見セ付ケ彼等ノ助ヲサトラセケリ  
 又其為に天神へ拜せり<sup>81)</sup>

天国の大神が我々の北海道を助け、悪神たちを退治した。  
 その時、三悪神—風邪の神、咳の神、飢饉の神—この三神が逃げ去ってしまったので、この世にはそれらの神のために流行病があるのだ。  
 天国の大神は人間に夢を見せて、彼らを助けたことを知らせた。  
 また、そのために（人間たちは）天の神に拜んだ。

## 注

- 1) 其語：折り返し句（サケヘ）のこと。本ノートでは「ピウニント」「ラブシタ」で改行となっているが、類話（特に『神謡・聖伝』神謡57）の折り返し句ならびに『久保寺タイプ』を参照すると、メロディの区切りはこの改行通りではなく「cuputurmake, ranran piwninta pispis, ranran rapus tapake piwninta」となるようである。類話については注81)参照。
- 2) rikun mosir: 『静内語彙』に「rikunmosir 天の世界, 人間界にやってくるような一般の神々の住む世界」とある。
- 3) 本ノートには鍋沢本人による和訳も記されているため、それもカナ表記の下（左列）に併記した。なお、右列の和訳はアイヌ語から訳出したものであり、鍋沢による和訳を現代語に直したのではない。鍋沢の和訳はしばしばアイヌ語の直訳ではなく文脈に即したものとなっているため、2種の和訳には多少のずれもある。
- 4) さや刻なるなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「さや刻なる奈り」。
- 5) mismurayke: mismu 「退屈する」 rayke 「～を殺す」。退屈で仕方がない様子。kamuyyukar(1) 注2) 参照。
- 6) 淋しなるなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「淋しなる奈り」。
- 7) 沙流川能：ノートの表記では、変体仮名を用いて「沙流川能」。
- 8) sanoputuhu: 『沙流辞典』に「sanoputuhu …の川口/河口」(p.605) とある。
- 9) 川つりに：「川つり」は「川ちり」（あるいは「川ぢり」）に同じで、「川尻」のこと。これは日本語の北海道道南方言において「イ段の母音が中舌の[i]であり、とくにシ・ジ・チは、ス・ズ・ツと混同される」（『講座方言学』p.22）という特徴があることによるものであろう。本ノートにおいて、しばしばシ・チにあたる語がそれぞれス・ツを用いて表記されているのは、このような「混同」をそのまま音転写しているためだと考えられる。本ノート以外でも、道立図書館所蔵マイクロフィルムの「鍋沢元蔵遺稿」中の「ユウーカラ セタチレス ウゼンベチレス」には「人をほすくて、部下をほすくて」という一文も見られ、シ・スならびにチ・ツの交替とその音転写は、北海道方言の影響を受けたことによる、鍋沢の日本語表記における特徴のひとつだと言える。また、「に」はノートの表記では、変体仮名を用いて「川つり尔」。
- 10) オヤブ/キコロカ oyap / ki korka: この2行で、アイヌの韻文学の基本単位である5音節になるため、実際の口演においてはoyap ki korkaで1行だと考えられるが、ここではノート

の改行に従って行を区切った。以下、すべて同様。

- 11) komoyre : ko 「～に対して」 moyre 「遅い」。テキスト中では何に遅れるのか明記されていないが、文脈から「神の舟への対処」が手遅れになるという意味であろう。
- 12) アイスの部落が：ノートの表記では、変体仮名を用いて「アイヌ能部落可」。
- 13) 其の為に：ノートの表記では、変体仮名を用いて「其能為尔」。
- 14) a=kar wa an pe : 直訳は「私が作っていたもの」。ここでは、自分が鞘に彫刻をしていた刀のこと。yukar(1) 注27) 参照。
- 15) a=itarkocupu : 『久保寺辞典』に「itarkochupu 莫塵と一緒に包む」(p.110) とある。yukar(1) 注28) も参照。
- 16) 入れ物に巻き：ノートの表記では、変体仮名を用いて「入れ物尔巻き」。
- 17) 神の表巻小袖を：一度「衣を」と書いた上から、黒と赤のインクで消し、「小袖を」と書き足している。また、ノートの表記では、変体仮名を用いて「神能小袖を」。
- 18) アエヤイクルカサム：行末に鉛筆書きで、カギ括弧閉じのような区切り記号が付されている。kamuyyukar(1) 注49) も参照。
- 19) a=eyaykurkasam- / opirasa : 『千歳辞典』に「eyaykurkasam'opirasa ~を自分の体に着せかける。~を身にまとう」(p.100) とある。
- 20) ウヲッカネクチ uokkanekut : 「ウヲッカネクチ」は uokkanekut (yukar(1) 注30) 参照。また、ノートの表記にしたがうと uwokkanekut だが、w は挿入音。
- 21) 神の劔を：ノートでは、変体仮名を用いて「神能劔を」。
- 22) 我帯にさせり：ノートでは、変体仮名を用いて「我帯尔させり」。
- 23) osikiru : osikuru は「そこへ転ずる、肩を風を切つて身をひるがへす。身を廻す、ひるがへす」(『久保寺辞典』p.192) といった訳もあるが、ここでは「...の方へ向かって行く、...に行く、...に着く」(『沙流辞典』p.484) とあることを参考にした。
- 24) [くもの大神 / よし葉上] 蠅 : 「よし葉上」と「スプキハムカ」が点線でつながれたうえで、「スプキハムカ」「よし葉上」「くもの大神」がひとつの波括弧でまとめられている。すなわち、「スプキハムカ」の直訳が「よし葉上」であり、意味するところは「くもの大神」だということであろう。この2行の和訳の下に書かれた蠅は、薄い文字で書かれている。ここではクモを意図しているらしいが、『大漢和10』によると、蠅には「渠蠅」でかけろう(蜉蝣)という意味があるが、「クモ」にあたる意味はなく(p.861)、鍋沢の自作の漢字である可能性が高い。
- 25) supki ham ka / a=kor yupi : 「ヨシの葉の上の兄さん」とは、クモ(蜘蛛)のこと。『久保寺辞典』に「shupki hamka Spider = yaushkep の大将なりといふ <shupki ham を yaoshke すると」(p.258) とある。注24) も参照。
- 26) siren : 『沙流辞典』に「siren ... を一緒に行こうとさそう」(p.650) とある。
- 27) 金工の神駕：ノートの表記では、変体仮名を用いて「金工能神駕」。
- 28) シンタ：シンタは「揺籃(赤ん坊を寝かすゆり板)」だが、ここでは神などが乗る「空中の乗り物」(『沙流辞典』p.642) を表す。
- 29) kane sinta / upsor orke / a=osikuru : 直訳は「金のシンタの / 懐のところ / に私たちは身を転じる」。注23) も参照。
- 30) のり入りけり：「のり」のように見える字は、枠外に書き足されている。
- 31) oroneanpe : 『久保寺辞典』に「oroneanpe 『一緒になる』『相和する』と訳し得べし」(p.191) とある。yukar(1) 注20) 参照。ここでは「私」が乗ったシンタと「兄さん」が乗ったシンタがそれぞれ立っている音が響き合っている様子か。

- 32) 其れの如く：ノートの表記では、変体仮名を用いて「其れ能如く」。
- 33) コフムマツキ kohumumatki：辞書ではhummatkiとhumumatkiの両方の形が見られる。地域的に鍋沢の使用語彙に近いと考えられる『沙流辞典』ではhumumatkiあるいはsirhumumatkiという語形のみが掲載されていることを参考にしてkohumumatkiとローマ字化した。意味はkohummatkiも同じで、『久保寺辞典』には、kohummatkiで「段々たる響おこれり。ぶうぶうと鳴る。(幾度も幾度もなり響く。) 鳴りとどろく」(p.135)とある。
- 34) コスヲトツケ kosuototke『静内語彙』に「kosuwototke ～へ急降下する」とある。また、「ako-su-ototke 飛び降りて」(『アイヌの叙事詩』p.421)。なお、ノートの表記にしたがうとkosuwototkeだが、wは挿入音。
- 35) 我矢の如く：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 36) sonno poka：『沙流辞典』に「sonno poka やはり本当に、思ったとおり、予想したとおり、聞いたとおり」(p.676)とある。
- 37) 河つりね：「河つり」は「河ちり」すなわち川尻のこと。注9)参照。また、「ね」は「に」に同じ。すなわち、ここは「河尻に」の意味。小野米一による葛野辰次郎(アイヌ語静内方言話者)の日本語会話の分析では「アサネ[asane](朝に)、ワカイモンネ[wakaimon:ne](若い者に)のように、助詞『に』がネ[ne]と発音されることがある」(『日本語北海道方言』p.27)という特徴が見られる。小野は、アイヌ語ではなく日本語北海道方言の「エ母音が狭く、イとの明瞭な区別を持たない」という特徴によるものだと分析している(同前)。本行においても同様に、「ね」は場所格助詞「ニ」が日本語北海道沿岸方言の影響を受けて「ネ」に近い音になったものを、そのまま音転写した結果だと解釈した。
- 38) アコロユビ：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 39) 多敷の：ノートの文字は「敷」に見えるため、そのまま書き起こしたが、ここでは「敷(数)」の意であろう。以下、この文字は何度か出てくるが、すべて同様に「敷」で書き起こしたが「敷(数)」を意図した字。
- 40) cip utar：直訳は「舟たち」。
- 41) コヤエツプ：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 42) koyaecupu：ko-「～に対して」ya「網」e-「～でもって」cupu「～を丸める、～をつぼめる」。ここでは舟の上から網をかぶせて、一網打尽に捕らえたことを言う。なお、『沙流辞典』にはyaは「網、魚をとる網、(クモの)巣」(p.833)とある。
- 43) 網をかぶせり：ノートの文字は「網」に見えるためそのまま書き起こしたが、文脈から「網」の意か。以下、この文字は何度か出てくるが、すべて同様に「網」で書き起こしたが「網」を意図した字。
- 44) ヤクチャロ ya kutcaro：「クチャロ」はtが脱落しているがkutcaroか。『小辞典』によると、kutcaroはkut「のど」caro「口」で、「沼から水の流れ出る口。沼の水が流れ出て川となる所」(p.55)。したがってya kutcaroの直訳は「網の流れ口」となる。網で舟をくるんで袋状にしたときの出入り口に当たる部分のことと解釈した。
- 45) ya upsor un：直訳は「網の懐へ」。ここでは、捕まえた者たちを「網の中で」折檻することか。
- 46) tokap rerko：直訳は「昼3日」。ここでのrerkoは「『三』という意味がなくなって、単に『日』を表す場合」(『千歳辞典』p.428)の用法。夜も昼も、長い間戦ってきた様子。
- 47) ciwkopiski：ci-「～される(中相)」uko-「一緒に」piski「～を数える」。『久保寺辞典』に「chiukopishki みんな合せて数えて、総計」、「一緒に数へて、指折り数へて」(p.50)とある。
- 48) a=kor\_rorunpe：直訳は「私たちの戦い」。

- 49) eukotuyma- / siarikiki : e- 「～について」 u- 「互い」 ko- 「～に対して」 tuyma 「遠く」 si- 「本  
当に」 arikiki 「一生懸命やる」。『久保寺辞典』には「uko-tuima-shiarikiki 一生懸命努力する」  
(p.292), 「shiarikiki 努める. 奮闘する. ふんばる. 力め戦ふ / aukotuima (いつまでも永  
く) ~」 (p.240) とある。ここでは、舟に乗ってやってきた多くの神を殲滅する為の戦いが永  
く続いた様子。また、ノートの表記にしたがうと siyarikiki だが、y は挿入音。
- 50) ニキドイサクノ：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 51) nikituy sakno : 「nikituy sakno 絶え間なく」(『アイヌの叙事詩』 p.576)。
- 52) 最所こへ：文字はこのように読めるが、意味は不詳。「最も(盛り上がる)所を越えて」とい  
った意味か。
- 53) sikator kamuy : 『人間篇』で sikator-kamuy は幌別方言で疱瘡、天然痘の神 (p.354) とされて  
いる。だが、ここでは鍋沢による和訳で「咳病の神」となっていることから、天然痘ではなく  
「sikatoroke-siyeye シカトロケ病」(同 : p.278) という病を振りまく神を指すものか。この病  
気は「sikatorokemat がこの病気をもたらすと云われ、風邪だとも熱病だとも云う」(同)。ま  
た、金田一京助は「アイヌ聖典」のなかで shikatorokemat を「しはぶき媛」と訳し、「shikatoroke  
は病気の名なり。風邪なりといひ又熱病なりといふ。語原詳かならず、仮りに故ワカルバ翁に  
従ひてかく訳しておく」(『金田一全集11』 p.260) と注釈をつけている。本テキストでは、鍋沢  
の和訳に従い「咳病」とした。
- 54) 咳病の神は：「咳」の字は目偏(あるいは日偏)に見えるが「咳」を意図した文字であろう。  
以下、すべて同様。
- 55) oyaoposo : o- 「〈場所〉へ」 ya 「網」 oposo 「～を通り抜ける」。
- 56) ケムラムカムイ／饑饉の神：書き忘れていたものらしく、アイヌ語・訳ともに、枠外に付け加  
える形で書いてある。
- 57) omke kamuy : 『沙流辞典』によると、omke には「咳をする」と「風邪をひく」の意味がある。  
すでに網から抜け出している sikator kamuy が咳病の神であることから、ここでの omke kamuy  
は鍋沢の訳も参考にして、「風邪の神」とした。
- 58) タバンキレカムイ：ノートでは「ト」を赤鉛筆のようなもので塗りつぶし、「レ」を後から書  
き足したように見える。テキスト中には3神が出てくることから、先に書いた「ト」(ここ  
では tu 「2つ」の意) は書き誤りとして、「レ」 re に改めたものであろう。
- 59) 此三神のみ：「み」には変体仮名「身」を用いて、「此三神の身」。
- 60) emosma : 『沙流辞典』に「emosma ... のほかに」(p.97) とある。
- 61) aropittano : ar- 「全く」 opitta 「全部」 -no (副詞化辞)。『久保寺辞典』に「aropittano 皆悉々  
く、すべて皆」(p.29) とある。
- 62) そうますた：原文ママ。「そう(し)ました」の意味。日本語北海道方言の音韻の特徴である  
シ・スの交替により、シが「す」で音転写されている。注9) 参照。以下、同様。
- 63) ぐもの大神：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 64) turano kayki : 『久保寺辞典』に「turano kaiki と共に」(p.283) とある。この場合の kayki に  
ついて金田一京助は「詞をのぼして語気をゆるやかにする添へのことば。強いて訳せば『もな  
れどこゝには必ずしもよくあたらず』(『金田一全集11』 p.264) と説明している。
- 65) 友に今度：ノートの表記では、変体仮名を用いて「友尔今度」。「友に」はここでは「共に」の  
意味か。
- 66) アオシキルバ a=osikirpa : a=osikirpa で5音節になることから、osikirpa とローマ字化した  
が、本ノートでは -ir の場合の r は「モシリ」のように「リ」で表記されることが多いことから、

a=osikuru pa を意図していた可能性もある。

- 67) senram sekor: 『沙流辞典』に「senram sekor いつものことだが」(p.616)とある。
- 68) いちもかわりなし: 「いつもかわりなし」の意味。管泰雄による織田ステノ(静内)の日本語北海道方言の分析によると、「ツが[tʃi·tʃiu]になる現象は、アイヌ語静内方言話者以外の話者にも、見られる。アイヌ語には[tsu]の音がないことと関連していると思われるが、北海道方言の反映の可能性もあり、今のところ、はっきりしない」(『日本語北海道方言』p.61)という。本行においても、日本語北海道方言におけるチ・ツ交替(注9参照)、あるいはアイヌ語発音の影響のために「いつも」が「いちも」と音転写されたものと考えられる。
- 69) コフムマッキ: 「ッ」は後から挿入されたらしく、「マ」の横に書かれている。
- 70) コシゴタイゴ kosietaye: 『久保寺辞典』に「koshietaye へ引去る、我引き去る、我が身を引いて其の場を去る」(p.141)とある。また、ノートの表記にしたがうとkosiyetaye だが、yは挿入音。
- 71) a=ewentarapte: e- 「～について」wentarap 「夢を見る」-te 「させる」。何についての夢を見せたのか、テキスト中では言及されないが、本文の最後に付された鍋沢による概説によると、人間の村に害悪をなそうとする神々が上陸しかかっていたところを、自叙者とクモの神が食い止めたという一連の出来事を、夢で人間たちに教えたということになる。次々行以下では、それに感謝した人間たちが自叙者に対して祈りを捧げている。
- 72) 我は彼等へ夢を見せ: ノートの表記では変体仮名を用いて「我は彼等へ夢を見世」。
- 73) アイゴノミ: この行のわきに鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 74) アイゴノミ a=i=enomi: ノートの表記にしたがうとaiyenomi だが、yは挿入音。
- 75) オヤオボソ: 行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 76) esururke: e- 「〈場所〉で」sururke 「流行する」。『人間篇』に「sururke [伝染病が] 蔓延する、流行する」(p.277)とある。
- 77) 天国ノ大神: テキスト中には、自叙神が何者であるかについての言及はないが、ここに書き足された鍋沢の概説によると、この「天国ノ大神」が自叙神となる。
- 78) 三字消代風病神: この七文字は、枠外(次行の上部にあたる)に書いてある。「三文字分を消して、代わりに『風病神』を挿入」の意味か。
- 79) 咳: ノートの表記では日偏。注54参照。
- 80) 飢饉ノ神: この後に改行記号が書かれている。
- 81) この神謡の類話としては、『沙流方言1』所収の「神謡3 Saroruncikappo ヨシキリ」、『神謡・聖伝』所収の神謡57「斑文鳥の神の自叙」がある。

## 【5 丁裏】

神 傳 (カムイ ユカラ)

其 語 . . . . . ノウーオウウ . . . . .

## 【6 丁表】

- |     |                                   |  |
|-----|-----------------------------------|--|
| 1.  | クコルヘベルボ<br>我の子熊                   | “ku=kor heperpo <sup>1)</sup><br>「わが子熊よ,   |
| 2.  | クイタクチキ<br>宜く語を                    | ku=itak ciki<br>私が話すから                     |
| 3.  | ピリカイス<br>宜く聞け                     | pirka inu<br>よく聞き                          |
| 4.  | エキナンコンナ<br>そう思けり                  | e=ki nankor_ na. <sup>2)</sup><br>なさいよ。    |
| 5.  | エムシアエコレ<br>刀を上た                   | emus a=e=kore<br>刀をお前に与え                   |
| 6.  | キワネヤクカ<br>そうしたなら                  | ki wa ne yakka<br>ても                       |
| 7.  | エエキタウキ<br>木にあてけり                  | e=ekitawki <sup>3)</sup><br>お前はそれで木を叩き切って, |
| 8.  | ヘカチエネクス<br>子供だから                  | hekaci e=ne kusu<br>お前は子供だから               |
| 9.  | テンネブエネクス<br>子熊だから                 | tennep e=ne kusu <sup>4)</sup><br>赤ん坊だから,  |
| 10. | エゼンテナンコル<br>打ちいたむなり <sup>5)</sup> | e=wente nankor<br>駄目にしてしまうだろう。             |
| 11. | イナウアエコ■レ<br>ごへい上でも                | inaw a=e=kore<br>イナウをお前に与え                 |
| 12. | キワネヤクカ<br>そのとうり <sup>6)</sup>     | ki wa ne yakka<br>ても                       |
| 13. | エエニキクキッ<br>木に打ぐたし                 | e=enikikkik<br>それで木を何度も叩き                  |
| 14. | エゼンテナンコル<br>いたむと思ふ                | e=wente nankor.<br>駄目にしてしまうだろう。            |
| 15. | ヘカチエネクシ                           | hekaci e=ne kus                            |

	兒たから	お前は子供だから
16.	テンネブエネクシ 縹子故に	tennep e=ne kus 赤ん坊だから
17.	チドイゴクワ 木の切りつゑ	cituye kuwa <sup>7)</sup> 切り落とした(だけの)杖
18.	タバンベ■バテク そればかり	tapanpe patek これだけを
19.	エシテコルサム <sup>8)</sup> 手にもつ	e=sitekorsam- 自分の手に
20.	オツテカネ さげて	otte kane <sup>9)</sup> 携えて
21.	エアルバカド 行くのは <sup>10)</sup>	e=arpa katu 行く際には
22.	エネアंकニ 其通り	ene an kuni <sup>11)</sup> こうしなさい。
23.	ドクンネウラル 二黒の雲	tu kunne urar 多くの暗いもやを
24.	エシルヲカオツテカネ 後へ入れけり	e=siruokaotte kane <sup>12)</sup> 自分の(行く)後にかけて
25.	ドベケルウラル 二白雲	tu peker urar 多くの明るいもやを
26.	エシルゴトコ 我前へ入れ	e=siruetoko <sup>13)</sup> 自分の(行く)前に
27.	エオツテカネ 入れ行きけり	e=otte kane <sup>14)</sup> かけて
	<b>【6丁裏】</b>	
28.	イテキネンカ とこへも	iteki nen ka <sup>15)</sup> 決してどこも
29.	エホサリカ うちむかつ <sup>16)</sup>	e=hosari ka 振り向くことも
30.	ソモキノボ むかつの通り	somo ki nopo しないで
31.	ベツトラシ <sup>17)</sup> 河上へ	pet turasi 川に沿って上流へ
32.	エアルバナンコル	e=arpa nankor.

- 行かなけれ■<sup>18)</sup> 行きなさい。  
 33. ベテトッタ petetok ta  
 河のかつへ<sup>19)</sup> 川の源に  
 34. エアルバコル e=arpa kor  
 行くと 行くと  
 35. ドベッチネベタン tu petci ne pet an<sup>20)</sup>  
 河 [■/二] 枝になり<sup>21)</sup> 二股の川になる。  
 36. チュボクワ cuppok wa<sup>22)</sup>  
 北の方の<sup>23)</sup> (その二股の川のうち) 西を  
 37. クシベツ kus pet<sup>24)</sup>  
 通る河 流れる川の  
 38. レコルカド rekor katu  
 姓名<sup>25)</sup> 名前は  
 39. チュボラカンベツ Cuporakan pet<sup>26)</sup>  
 [チュボラ/日の入川] チュボラカン川  
 40. ネルエタバン ne ruwe tapan.  
 で有ます なのですよ。  
 41. ベテトコタ petetoko ta  
 河かつに その川の源に  
 42. カムイエアザ kamuy e=aca  
 神の伯父様 お前の叔父上が  
 43. アンルゴネ an ruwe ne.  
 居所です いるのだ。  
 44. レコルカド rekor katu  
 姓名は (彼らの) 名前は  
 45. エネオカヒ ene oka hi  
 是の如く こういふのだ。  
 46. チュブオラカンクル Cup'orakankur  
 男日の入大ぬし チュボラカンクル  
 47. チュブオラカンマチ Cup'orakanmat<sup>27)</sup>  
 妻日の入大ひめ チュボラカンマッ  
 48. ネルエネ ne ruwe ne.  
 故なり<sup>28)</sup> なのだ。  
 49. チュブカワクシベチ cupka wa kus pet<sup>29)</sup>  
 東の河は (二股の川のうち) 東を流れる川の

50.	レコルカド 姓名	rekor katu 名前は
51.	チュプエリキンベチ 日の上河	Cup'erikin pet <sup>30)</sup> チュプエリキン川
【7丁表】		
52.	ネルズネ 故なり <sup>31)</sup>	ne ruwe ne. なのだ。
53.	ベテトコタ 河のかち	petetoko ta その川の源には
54.	カムイエオナ 神の父上	kamuy e=ona お前の父上が <sup>s</sup>
55.	オカルエネ 居故	oka ruwe ne. いるのだ。
56.	レコルカド 姓名	rekor katu (彼らの) 名前は
57.	エネオカヒ 是の如く	ene oka hi こうだ。
58.	シラルメキヨ <sup>32)</sup> 岩の大神 <sup>34)</sup>	Sirarmekiyo <sup>33)</sup> シラルメキヨ
59.	ツベシカンマチ 妻日の光姫	Cupesikanmat <sup>35)</sup> チュベシカンマツ
60.	ネルズネ 故なり <sup>36)</sup>	ne ruwe ne. なのだ。
61.	チュプカワ 東方	cupka wa 東を
62.	クシベチ 通る河	kus pet 流れる川に
63.	ドラシノボ 河の通り	turasinopo 沿って上流に
64.	エアラバナソコル <sup>37)</sup> 彼行なり <sup>38)</sup>	e=arpa nankor. 行きなさい。
65.	カムイシクマ 神の大山へ	kamuy sikuma <sup>39)</sup> 神の峰に
66.	ドラシエヘメス 登りなり	turasi e=hemesu 沿って上流へ登るのだ。

67. スブリカタ  
岳の上  
nupuri ka ta  
(そうすると) 山の上に
68. カムイエオナ  
神の父上  
kamuy e=ona  
お前の父上が
69. アンルヅネ  
居るなり<sup>40)</sup>  
an ruwe ne.  
いるのだ。
70. キワネヤクネ  
そうなりければ  
ki wa ne yakne  
そうしたら
71. エアフクニ  
家に入る  
e=ahun kuni  
お前は(家)に入るように(しなさい)。
72. エトコホタ  
前 先に<sup>41)</sup>  
etokoho ta  
(だが) その前に
73. ドノイワンスイ  
二度六回  
tu noiwan suy  
何回も
74. アバアッカリ  
戸口よこへまはり  
apa akkari<sup>42)</sup>  
戸口を通り越し
75. エキナンコンナ  
是の如くやるなり<sup>43)</sup>  
e=ki nankor\_ na.  
なさいよ。
76. イマカケタ  
先つ今度は  
imakake ta  
その後で
77. エアフンナンコル  
内へ入る様に<sup>44)</sup>  
e=ahun nankor  
入るように
78. キルヅネナ  
やりなさい  
ki ruwe ne na.  
するのだよ。

## 【7丁裏】

79. イテキネンカ  
とこへも  
iteki nen ka  
決してどこも
80. エホサリノ  
むかづに<sup>45)</sup>  
e=hosari no  
振り向かずに
81. チドヅクワ  
切り木の杖  
cituye kuwa  
切り落とした(だけの)杖
82. チドヅイナウ  
切木のごへい  
cituye inaw<sup>46)</sup>  
切り落とした(だけの)イナウを
83. エシテコロサム  
手に持  
e=sitekorsam-  
自分の手に

84.	ウンテカネ さげり	unte kane <sup>47)</sup> 携えて
85.	エアラバ 行くなり <sup>48)</sup>	e=arpa 行き
86.	キナンコンナ 行くならば <sup>49)</sup>	ki nankor_ na <sup>7)</sup> なさいよ」
87.	セコロオカイベ 此如く故なり <sup>50)</sup>	sekor okay pe ということを
88.	オキクルミ オキクルミ	Okikurmi オキクルミが
89.	イゼルエネ 我に故なり <sup>52)</sup>	ye ruwe ne. <sup>51)</sup> 言ったのだ。
90.	タバンベクス それ故に <sup>53)</sup>	tapanpe kusu そこで
91.	チドゴクワ 切木の杖	cituye kuwa 切り落とした(だけの)杖
92.	タバンベ かの物	tapanpe これ
93.	バテク ばかり	patek だけを
94.	アシテコルサム 手に取り <sup>54)</sup>	a=sitekorsam- 自分の手に
95.	ウンテカネ <sup>55)</sup> さげり	unte kane 携えて
96.	アルバアンルヱネ 行くなり	arpa=an ruwe ne. 私は行くのだ。
97.	ソンノボカ 是の如く <sup>57)</sup>	sonno poka <sup>56)</sup> (オキクルミから)聞いたとおり
98.	ドベツネ 二ツに分れ <sup>58)</sup>	tu pet ne 二股の川となる
99.	ベツアン 河あり	pet an. 川があった。
100.	チュブカワ 東の方	cupka wa 東を
101.	クシベツ	kus pet

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 通る河へ         | 流れる川に             |
| 102. アドラシルエネ | a=turasi ruwe ne. |
| 上りけり         | 沿って私は上流に行くのだ。     |
| 【8丁表】        |                   |
| 103. ベテトコタ   | petetoko ta       |
| 河のかつに        | その川の源に            |
| 104. アルバアンコル | arpa=an kor       |
| 行くなれば        | 行くと               |
| 105. ソンノボカ   | sonno poka        |
| 最も           | (オキクルミから) 聞いたとおり  |
| 106. カムイシクマ  | kamuy sikuma      |
| 神の大山         | 神の峰が              |
| 107. アンルゴネ   | an ruwe ne.       |
| 居る故なり        | あったのだ。            |
| 108. ドラシノボ   | turasinopo        |
| さて山の上へ       | (それに) 沿って上流へ      |
| 109. ヘメスアン   | hemesu=an         |
| 登りなり         | 私は登った             |
| 110. キルゴネ    | ki ruwe ne.       |
| そうして         | のだ。               |
| 111. ヌブリカタ   | nupuri ka ta      |
| 岳の上に         | 山の上に              |
| 112. カネチセ    | kane cise         |
| 金の家          | 金の家が              |
| 113. アンルゴネ   | an ruwe ne.       |
| 居りけり         | あったのだ。            |
| 114. オキクルミ   | Okikurmi          |
| オキクルミ        | オキクルミが            |
| 115. エネイゴヒ   | ene ye hi         |
| 彼語を          | あのようにつつたの         |
| 116. ネアクス    | ne a kusu         |
| 其如く          | だから (言われたとおりに)    |
| 117. ドノイワンスイ | tu noiwan suy     |
| 二度六回         | 何回も               |
| 118. アバアツカリ  | apa akkari        |

	戸口右左よこへまはり	戸口を通り
119.	アキロクアイネ 是如くするなり <sup>59)</sup>	a=ki rok ayne 過ぎたあげく
120.	アフンアンルヅネ 家へ入りけり	ahun=an ruwe ne. (家の中に) 私は入ったのだ。
121.	カムイアオナ 神の父上	kamuy a=ona 私の神なる父
122.	カムイアウヌ 神の母上	kamuy a=unu 私の神なる母が
123.	アンルヅネ 居りけり	an ruwe ne. いたのだ。
124.	オキクルミ オキクルミ	Okikurmi オキクルミが
125.	イユテキアヒ <sup>60)</sup> 彼語を	i=utek a hi <sup>61)</sup> 私を使いに出したことを
126.	アヅワアオケレ 語り納めけり	a=ye wa a=okere 私が話し終え
127.	キロク・クス 其如く	ki rok kusu <sup>62)</sup> たら
128.	カムイアオナ 神の父上	kamuy a=ona 神なる父は
129.	エミナルエネ うち笑ひけり	emina ruwe ne. それを笑って
	【8丁裏】	
130.	エネイタキ <sup>63)</sup>	
131.	エネイタキ 父言事に	ene itak _hi こう言った。
132.	オキクルミ <sup>64)</sup> オキクルミ	“Okikurmi 「オキクルミは
133.	アイヌヘタブ アイヌであらうか	aynu hetap 人間であらうか。
134.	イタクハヅアン 語る事を	itak have an? (人間がそこまで) 話したというのか?
135.	エアニアナク 貴下は	eani anak お前は

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 136. アボホカ<br>私の粹と                   | a=poho ka<br>私の息子                         |
| 137. ソモエネ<br>異ふなり                   | somo e=ne<br>ではない                         |
| 138. キルゴタバン<br>故に                   | ki ruwe tapan.<br>のですよ。                   |
| 139. チユッボクワ<br>北の方                  | cuppok wa<br>西を                           |
| 140. クシベツ<br>通り河                    | kus pet<br>流れる川の                          |
| 141. エトコホタ<br>河のかちに                 | etokoho ta <sup>65)</sup><br>源に           |
| 142. エオナウタラ<br>貴下の父上等               | e=ona utar<br>お前の父上たちが                    |
| 143. オカルゴネ<br>居所なり <sup>66)</sup>   | oka ruwe ne.<br>いらっしゃるのだ。                 |
| 144. イコンヌ<br>悪種                     | ikonnu <sup>67)</sup><br>お前は化け物           |
| 145. ヘベリ<br>子熊故に                    | heper <sup>68)</sup><br>子熊                |
| 146. エネワクス<br>貴下なる由 <sup>69)</sup>  | e=ne wa kusu<br>なので                       |
| 147. エアラケヘワ<br>身の臣辛 <sup>71)</sup>  | e=arkehe wa <sup>70)</sup><br>お前の（体の）片側には |
| 148. チユブノカオマ<br>日の丸形入り              | cup noka oma<br>日の形が入っており                 |
| 149. エアラケヘワ<br>身のかた辛 <sup>72)</sup> | e=arkehe wa<br>お前の（体の）片側からは               |
| 150. ワッカザラセ<br>水たれけり                | wakka carse <sup>73)</sup><br>水が流れて       |
| 151. キルゴタバン<br>それ故                  | ki ruwe tapan.<br>いるのですよ。                 |
| 152. アシヌマ<br>我友は                    | asinuma<br>私                              |
| 153. アナク                            | anak                                      |

本当の	は
154. バセカムイ	pase kamuy
義の神	重い神
【9丁表】	
155. アネワクス	a=ne wa kusu
春成る故	であるから
156. アロカムキンノ	arokamkinno
全く態と	わざと
157. イトムンノ	i=tomunno <sup>74)</sup>
我に差て	私の方に
158. アエウテク	a=e=utek
貴下使持	お前は使い立てされた
159. カド	katu
故	の
160. ネルゴタバン	ne ruwe tapan.
それですから	ですよ。
161. エエトコタ	e=etoko ta
貴下着先に	お前の（来る）前に
162. サケネヤクカ	sake ne yakka
酒なれ共	酒であれ
163. イナウネヤクカ	inaw ne yakka
ごへいなれ共	イナウであれ
164. ボロンノエキワ	poronno ek wa <sup>75)</sup>
澤山来■出	たくさん来て
165. アンルゴネ	an ruwe ne.”
居る蔽なり	いるのだ」
166. セコロカイベ	sekor okay pe
是の如く	ということを
167. イゴコロカイキ <sup>76)</sup>	ye korkayki <sup>77)</sup>
言ながら	言うと
168. サケネヤクカ	sake ne yakka
酒なれども <sup>78)</sup>	酒であれ
169. イナウネヤクカ	inaw ne yakka
ごへいなれ共 <sup>79)</sup>	イナウであれ
170. ウサライゴワ	usaraye wa

	二っに分て	分けて
171.	イセレヒネ 我にそわせ	i=sere hine 私に背負わせてくれて
172.	ソンノアオナハ 本当の父上へ	sonno a=onaha 私の本当の父
173.	オロタアルバアン 帰着なり <sup>81)</sup>	oro ta arpa=an <sup>80)</sup> のところへ私は向かう
174.	キルゴネ そうしました	ki ruwe ne. のだ。
175.	セコロ 其如く	sekor と
176.	イコンヌ 悪間種 <sup>82)</sup>	ikonnu 化け物
177.	ベウレブ 子熊	pewrep 子熊が
178.	ハゴアン 語りけり	hawean. 話した。

## 【9丁裏】

金田一先生アイヌ聖典アル<sup>83)</sup>。オキクルミが悪間の子熊登り  
送リタル時全ク氣が異フ様ニ義の神方へ教祈リ送ナリ  
故現今ハアイヌ共カリウニ山登致しも何処ニ悪熊  
出合フ共勝利ヲエル事ヲ右如シ<sup>84)</sup>

金田一先生の「アイヌ聖典」にある（話だ）。オキクルミが悪魔の子熊を（山に）登らせ送る時に、全く思い違ふように（させて）重い神の方へ（の道を）教えて、祈り送ったものである。

そのため、今はアイヌたちが狩をしに山に登っても、どこで悪い熊に出会っても、大丈夫であるのは右のとおりである。

## 注

- 1) ku=kor heperpo: 子熊への呼びかけ。神謡, さらには引用文中であるにもかかわらず、物語中における一人称主格 a=ではなく、日常会話で用いられる ku= という一人称人称接辞が用いられている理由は不明。ku=はこの次の行でも用いられているが、その後は a= が使われている。

- 2) e=ki nankor:「お前はするだろう」とも訳せるが, nankorで「...しなさいよ(予言の形をとった命令表現の一つ)」(『沙流辞典』p.405)とあることを参考に命令形で訳した。
- 3) ekitawki: ほぼ同意と考えられる13行目の enikkikik が e-「~でもって」ni「木」kikkik「~を何度も叩く」であることを参考にすると, ekitawki は e-「~でもって」KI「木(＜日本語)」tawki「~をばっさり切る」か。
- 4) hekaci e=ne kusu / tennep e=ne kusu: この2行は, 前の行「お前は刀で木を切って」と話の流れが繋がっていない。「お前に刀を渡してもそれを木に打ちつけて(遊んでしまい), 刀を駄目にしてしまうだろう」という流れの途中に, 叩きつけてしまう理由として「お前は子供だから」というフレーズが挿入されている。
- 5) 打ちいたむなり: ノートの表記では, 変体仮名を用いて「打ちいたむ祭り」。
- 6) そのとうり: ノートの表記では, 変体仮名を用いて「そ能とうり」。
- 7) cituye kuwa: cituye は「切れている, 切れた...」(『沙流辞典』p.63), kuwa は「杖, 墓標」。よって, cituye kuwa は枝などを切り落として簡単に成形しただけの kuwa という意味か。ここでは, 子熊の手に持たせているので「杖」と訳したが, 『アイヌの祈詞』によると, 事故死した人には本当の墓標 (sinrit kuwa) を与えることができないので切っただけの墓標 (cituye kuwa) を与える (p.97) とのことなので, ここでの cituye kuwa も単なるステッキではなく, 死んだ者があの世へ向かう道すがら使う杖としての墓標ということか。なお, 本テキストでこの子熊は, 人間の国から親熊のいるカムイの国へ行かされようとしているところである。なお, この子熊にきちんとした kuwa ではなく簡素な kuwa を渡している理由をここでは「お前は子供だから」とのみ語っているが, この話の類話では, この子熊が「恐ろしい為に, 刀を持たされず, 削花も持たされず, 箭も持たされずに来た」(『金田一全集11』p.367), あるいは, イナウを持たせてもそれを弄んで木に叩きつけるのはよろしくないので, cituye kuwa を渡した(『神話集成2』p.92-93)と説明している。類話については注83)も参照。
- 8) エシテコルサム: 行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 9) sitekorsam- / otte: si-「自分の」tek「手」or「~のところ」sam「~のそば」otte「~に~を掛ける」となり, 「自分の手にかける」, すなわち「手に持つ」の意味か。
- 10) 行くのは: ノートの表記では, 変体仮名を用いて「行く能は」。
- 11) ene an kuni: 『久保寺辞典』に「ene-an kuni 斯くあるべし」(p.61)とある。
- 12) シルヲカオotte siruokaotte: si-「自分の」ru「通った道」oka「~の後ろ」otte「~に~を掛ける」。ノートの表記にしたがうと siruwokaotte だが, w は挿入音。
- 13) エシルゴトコ e=siruetoko: ノートの表記にしたがうと esiruwetoko だが, w は挿入音。
- 14) e=siruetoko / e=otte: 2行前の si-ru-oka-otte は, 人称接辞はひとつだけしかないため1語としたが, この行では otte にも人称接辞が付いていることから, siruetoko「自分の道の前」と otte「~に~を掛ける」という2語扱いとなる。
- 15) nen ka: 『沙流辞典』に「nen ka (否定で) どこへも」(p.409)とある。
- 16) うちむかつ: 「むかつ」は「むかつ」(=向かず)。ここでは寄り道をせず, といった意味。
- 17) ベットラシ: 行頭に鉛筆書きで, カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 18) 行かなけれ: ノートの表記では, 変体仮名を用いて「行か奈けれ」。
- 19) 河のかつへ: 「かつ」は水源地を表す北海道方言「かち」「かっち」に同じ。鍋沢の日本語表記におけるチ・ツ交替については kamuyyukar(2) 注9)参照。すなわち「河の水源地へ」の意味。以下, 同様。
- 20) ドベッチネバタン tu petci ne pet an: 「ベッチ」は pet (peci) の意味とも解釈できそうだが,

- 「petchi (pechi) 川, 沼」(『久保寺辞典』p.206) という語形も見られるため、ノートの表記に従って petci とした。したがって、直訳は「2つの川として川がある」だが、鍋沢による訳も参考にして「二股の川に(川が)なる」と解釈した。
- 21) 河 二枝になり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「河 二枝に奈り」。
- 22) cuppok wa：ここでは、wa が「《...に》と訳される場合もある」(『沙流辞典』p.820) とあることを参考にして、「西から(東に向かって)流れる川」ではなく「(二股になった川のうち)西側を流れる川」と解釈した。次注23)も参照。
- 23) 北の方の：ノートの文字は「北」のように見えるため、そのまま書き起こしたが、cup「日」pok「～の下」という意味であることや、反意語 cupka を49行目などで「東」と訳していることから、ここでの cuppok は「日の入」る方向である「西」を表す語と解釈とした。ただし、『方言辞典』で cuppok (八雲方言)に「西から北にかけて」という注記もある(p.238)ように、鍋沢にとっても cuppok は「西から北にかけて」という幅のある方位を指す語として認識されていた可能性も高いだろう。
- 24) kus pet：直訳は「〈場所〉を通る川」。
- 25) 姓名：原文ママ。「姓名」の誤記か。以下、何度か出てくるが、すべて同様。
- 26) Cuporakan pet：川の名前。鍋沢自身は「日の入川」と訳しているが、語義未詳。この名は何度か出てくるが、同一の固有名詞に対して、チュボラカン(Cuporakan)とチュブオラカン(Cup'orakan)という p と o との間に声門閉鎖音が入らない表記と入る表記の両方が使われている。同一の事物を表すことから、和訳では川名・人名を問わず「チュボラカン」で統一した。
- 27) チュブオラカンマチ Cup'orakanmat：女性の名称なので、この直前では彼女の存在には言及していないが、ここで子熊のおじとされているチュボラカンクルの妻の名であろう。また、ノートの表記のマチは mat。
- 28) 故なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「故奈り」。
- 29) チュブカワクシベチ cupka wa kus pet：注22)参照。また、「ベチ」は pet「川」。
- 30) チュブエリキンベチ Cup'erikin pet：川の名前。cup「日」e-「〈場所〉に」rikin「上る」で、「太陽がそこに上る川」か。鍋沢自身は「日の上河」と訳している。また、ノートの表記のベチは pet。
- 31) 故なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「故奈り」。
- 32) シラルメキヨ：ノートでは、「ル」の部分は「ム」と書いた上から「ル」と書き直したように見える。
- 33) シラルメキヨ Sirarmekiyo：語義未詳。ここで子熊の父とされているものの名前。鍋沢が「岩の大神」と訳していることから、シラルは sirar「岩」か。また、「シラル」は sirar と siraru の2通りの可能性が考えられるが、類話(『金田一全集11』(pp.365-367),『神話集成2』(pp.90-105))では「シララメキヨ」という名になっていることから sirar とした。
- 34) 岩の大神：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 35) ツベシカンマチ Cupesikanmat：女性の名称なので、この直前では彼女の存在には言及されていないが、ここで子熊の父とされているシラルメキヨの妻の名であろう。sikan という語は不詳だが、『久保寺辞典』に「chup-eshikan pet, kamui eshikan pet 日廻り川, 神廻り河」という項目がある。また、ノートの表記のマチは mat。
- 36) 故なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「故奈り」。
- 37) エアラバナンコル：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。

- 38) 彼行なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「彼行奈り」。
- 39) sikuma：『小辞典』に「シクマ si-kuma (雅) みね；(大きい) 横山。[si- (大きな; 親の) kuma (横山)]」(p.120) とある。
- 40) 居るなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「居る奈り」。
- 41) 先に：ノートの表記では、変体仮名を用いて「先尔」。
- 42) apa akkari：何度も戸口を通り過ぎて、戸口の前を何度も行ったり来たりすることは、遠慮をしてなかなか中に入らない様子を表す。
- 43) 是の如くやるなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「是の如くやる奈り」。
- 44) 内へ入る様に：ノートの表記では、変体仮名を用いて「内へ入る様尔」。
- 45) むかづに：ノートの表記では、変体仮名を用いて「むかづ尔」。「向かず」に、すなわち、ここでは「寄り道をせずに」といった意味になる。
- 46) cituye inaw：17行目付近では、cituye kuwa のみを持って行くように言っていたはずだが、ここでは cituye inaw も持っていくことになっている。しかしこの後、91行目付近では再び cituye kuwa のみを携えていると語られている。なお類話では、「切ったイナウ」「棒のイナウ」のみが与えられている場合（『金田一全集11』 pp.365-367）と、cituye kuwa だけ持っている場合（『神話集成2』 pp.92-93）とがある。
- 47) sitekorsam- / unte: si- 「自分の」 tek 「手」 or 「～のところ」 sam 「～のそば」 un 「～につく、～にある」-te 「～させる」。『沙流辞典』に「sitekorsam-unte ... を手に持つ」(p.665) とある。注9) の sitekorsamotte と同義。
- 48) 行くなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「行く奈り」。
- 49) 行くならば：ノートの表記では、変体仮名を用いて「行く奈らば」。
- 50) 此如く故なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「此如く故奈り」。
- 51) イヰルエネ ye ruwe ne: 「イヰ」を「イ i-」「ヰ ye」(i= 「私に」 ye 「～に言う」) と解釈することも可能だが、2行前にある sekor okay pe が ye の目的語となっていることから、ここでは ye とした。なお、冒頭からの子熊に向けての発話がオキクルミによるものだったことが、ここでようやく明らかになる。
- 52) 我に故なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「我尔故奈り」。
- 53) それ故に：ノートの表記では、変体仮名を用いて「それ故尔」。
- 54) 手に取り：ノートの表記では、変体仮名を用いて「手尔取り」。
- 55) ウンテカネ：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 56) sonno poka：『沙流辞典』に「sonno poka やはり本当に、思ったとおり、予想したとおり、聞いたとおり」(p.676) とある。
- 57) 是の如く：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 58) ニッに分れ：ノートの表記では、変体仮名を用いて「ニッ尔分れ」。
- 59) 是如くするなり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「是如くする奈り」。
- 60) イユテキアヒ：行頭に鉛筆書きで「✓」が付されている。
- 61) イユテキアヒ i=utek a hi: イユテキは i=utek 「私を使いだす」。また、ノートの表記にしたがうと iyutek だが、y は挿入音。
- 62) ki rok kusu: 直訳は「そうしたので」。
- 63) ~~ネイタキ~~：消してあるのは、書くべき場所を間違えたため。
- 64) オキクルミ：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 65) etokoho ta: etokoho は「その前」などの意味があるが、ここでは「(河川) のいちばん奥、水

源」(『沙流辞典』p.133)の意。

- 66) 居所なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「居所奈り」。
- 67) ikonnu：『千歳辞典』に「ikonnu 災いをもたらすもの。化物」(p.32)とある。
- 68) へべり heper：へべりはheper「子熊」。
- 69) 貴下なる由：ノートの表記では、変体仮名を用いて「貴下奈る由」。
- 70) e=arkehe wa：直訳は「お前の片側から」。
- 71) 身の臣辛：「臣」のここでの意味は不詳。2行後にある同意の句は「身のかた辛」と訳されているため、ここでも「片(片方)」の意味か。なお、行末の「辛」は「から」と読み、ここでは「〈場所〉から」の意の格助詞として使われている。
- 72) 身のかた辛：行末「辛」は注71)と同じ。「身のかたから」。
- 73) wakka carse：『久保寺辞典』に「charse さらりとかける。すうとやる。滝をなしてさらさらと流下る」(p.39)とある。ここから、この子熊は身体の半分には日の文様が入り、もう半分には水が流れているという異形の熊(化け物熊)であることがわかる。この話の類話(『金田一全集11』pp.365-367)でも子熊は同じような姿をしているが、その理由としては、子熊が天の神の血統を引く母親(名をチュベシカンマツ・カムイシカンマツ)と沖の神の血統を引く父親(名をシララメキヨ・カムイメキヨ)との間に生まれた子であるため、「そういう親を持つから、そのしるしで、汝の片側が岩で、そこから水が流れ、汝の片側には、日輪の象がついているのだ」(p.367)と説明している。しかしこのテキストでは、このような姿の由来になると考えられるシララメキヨ・チュベシカンマツ夫妻は主人公の真の両親ではなく、チュボラカンクル・チュボラカンマツ夫妻(西の川筋に住んでいる)こそが真の両親であると語られている。

すなわち、

金田一全集：東の川=チュベリキンベツ・カムイエリキンベツ

西の川=チュベシカンベツ・カムイカンベツ

(子熊は川又にある「神嶽」に行かされる)

※真の親=シララメキヨ・カムイメキヨ(→岩・水)と

チュベシカンマツ・カムイシカンマツ(→日の象)

本テキスト：東の川=チュベリキンベツ(子熊はこちらに行かされる)

=シララメキヨ(→岩)とチュベシカンマツ(→日)

(=本当の両親ではない)

西の川=チュボラカンベツ

=チュボラカンクルとチュボラカンマツ(=真の親)

となる。だが、本テキストの親子関係では、「半身は日の形が入り、半身は水が流れ」という子熊の姿の説明ができない。したがって、本テキストでは混乱が見られるようだが、本来的には『金田一全集11』所収のテキストのような関係性ではなかったかと推測できる。

- 74) i=tomunno：『パチャラー辞典』に、tomunは「Towards. As:- En tomun ek yan, “come to me.” Syn : Orota」(p.505)とある。
- 75) ボロンノエキワ poronno ek wa：エキはek「来る」。
- 76) イゴロコカイキ：行頭に鉛筆書きで、カギ括弧のような区切り記号が付されている。
- 77) ye korkayki：korkaykiはkorkaと同様に「～けれども」という逆接の接続助詞。したがって直訳は「(彼は)言うけれども」。
- 78) 酒なれども：ノートの表記では、変体仮名を用いて「酒なれども」。

- 79) ごへいなれ共：ノートの表記では、変体仮名を用いて「ごへい奈れ共」。
- 80) オロタルパアン oro ta arpa=an：直前に先行詞があることを考えると「オロタ」は or ta と解釈できそうである。だが、鍋沢の表記では or ta の際には「オッタ」と表記されることも多い（たとえば yukar(1) 415行目, 1276行目など）にもかかわらず、ここでは「オロタ」になっていることや、「直前に人間を意味する名詞句が来た場合にも oro が現れることがある」（『文法の基礎』 p.163）という指摘などから、a=onaha / oro ta 「私の父親 / 彼のところ」と解釈して、oro とした。
- 81) 帰着なり：ノートの表記では、変体仮名を用いて「帰着奈り」。
- 82) 悪問種：「悪問」は「あくま（悪魔）」の意味か。
- 83) 金田一先生アイヌ聖典アル：ここで鍋沢が補足しているように、金田一京助もこのテキストと同型の話を採録・公刊している。ただし、ここにあげられている「アイヌ聖典」ではなく「アイヌの神典—アイヌラックルの伝説—」（大正13年，世界文庫刊行会。『金田一全集11』所収）中の「化熊を誑して送った話」（『金田一全集11』では pp.365-367）である。またほかに『神話集成2』所収の「イコンヌ ペウレブ 人を呪った子グマ」（pp.90-105）もこの話の類話である。
- 84) 右如シ：ノートでは縦書きなので、ここまで書かれたテキストのことを指す。

## Nabesawa-3

### 【表紙】

ユカル 傳  
昭和貳拾九年二月  
鍋澤元蔵書ク

### 【見返し】

モトアンレク

宇野アニレシ老母語ル (鍋澤元蔵書ク)  
(ユカル) ニタイバ カイエ ニタイバラマ)

1. アコロエカシ・	a=kor ekasi	お爺さんが
2. チトムテ・レス・	citomteresu	私を大事に育てて
3. チアラレス・	ciararesu <sup>1)</sup>	立派に育てて
4. イヱカルカラ・	i=ekarkar <sup>2)</sup>	くれていた。
5. イネアブクス・	ineapkusu	なんと
6. イヨマブクス・	i=omap kusu <sup>3)</sup>	私を可愛がって
7. シリキヤカ・	sirki ya ka	くれるのだろうか、
8. バロンナワ・	paronna wa <sup>4)</sup>	私の口もとに
9. テコンナワ・	tekonna wa <sup>5)</sup>	手もとに
10. イエゾクヌレ・	i=ecoknure	キスをして
11. ランマカネ・	ramma kane	いつも
12. カチコロカネ・ <sup>6)</sup>	katkor kane	変わりなく
13. オカアンヒケ・	oka=an hike	暮らしていたが、
14. イネフナクン・	inehunak un	どこから
15. ネナンコラ・	ne nankor _ya	なのだろうか、
16. オトオトンリム・	otu otonrim <sup>7)</sup>	何度も轟音が
17. オドキタラ・	otukitara	聞こえてくる。
18. キコロネシ・	ki kor nesi	そうしているうち
19. スクブアンカド・	sukup=an katu	私は大きく
20. ネロクアワ・	ne rok awa	なって
21. タネアナクネ・	tane anakne	今や
22. コソンテチンキ・	kosonte cinki	小袖の裾を

23.	アチシスツポ・	a=cisisutpo <sup>8)</sup>	自分の股に
24.	オランラニ・	oranrani <sup>9)</sup>	入れて隠す
25.	バクノアナンコロ・	pakno an=an kor	ほどになると
26.	アシリキンネ・	asirkinne	新たに
27.	インキモシリ・	inki mosir	どの国 (から)
28.	ネナンコラ・	ne nankor _ya	だろうか、
29.	オドオトンリム・	otu otonrim	何度も轟音が
30.	オトキタラ・	otukitara <sup>10)</sup>	聞こえてくる。
31.	フマシアワ・	humas awa	その音がすると
32.	アコロエカシ・	a=kor ekasi	お爺さんは
33.	エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
34.	カムイ・アミツポ・	“kamuy a=mippo, <sup>11)</sup>	「立派な孫よ、
35.	イタカンチキ・	itak=an ciki	私が話すから
36.	ピリカエヌ・	pirka e=nu	よく聞き
37.	キナンコンナ・	ki nankor_ na. <sup>12)</sup>	なさいよ。
38.	ドムンチカムイ・	tumunci kamuy <sup>13)</sup>	トゥムンチカムイ
39.	コラモシリ・	kor a mosir	の国で
40.	ドミウシ・フム・	tumius hum <sup>14)</sup>	戦争をする音が
41.	ネヒタバクス・	ne hi tapan kusu	しますから
42.	エイカオバス・	e=ikaopas	お前が助けに
43.	キクニヒ・	ki kuni hi	行くの
44.	ネヒタバナ・	ne hi tapan na.	ですよ。
45.	エイカオバス・	e=ikaopas	助けに行ったら
46.	キカドフ・	ki katuhu	お前がすることは
47.	エネアंकニ・	ene an kuni <sup>15)</sup>	こうだ。
48.	ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイ
49.	ウタッドラノ・	utar_ turano	たちと共に
50.	テクサムオルケ・	teksam orke	彼らのそばに
51.	エオシキル・	e=osikiru <sup>16)</sup>	身を投げ
52.	キナンコンナ・	ki nankor_ na.	なさいよ。
53.	イキヤネブ・	ikianep <sup>17)</sup>	決して
54.	ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイと
55.	コイキバブ・	koyki pa p	戦っているものに
56.	エカスイキナ・	e=kasuy ki na.”	加勢するなよ」
57.	セコロカイベ・	sekor okay pe	と

58.	アケウドムカシ・	a=kewtum kasi	私に
59.	エカチウカネ・	ekaciw kane <sup>18)</sup>	釘を刺して、
60.	バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
61.	アコロエカシ・	a=kor ekasi	お爺さんが
62.	マクタテルケ・	mak ta terke	奥に跳んで
63.	カムイハヨクベ・	kamuy hayokpe	立派な鎧を
64.	サブテルエ・	sapte ruwe	出したことには
65.	エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
66.	イナンベナムネ・	inanpe namne <sup>19)</sup>	何と
67.	ハヨクベカムイ・	hayokpe kamuy	(この) 鎧は
68.	ピリカルエ・	pirka ruwe	すばらしいの
69.	オカナンコラ・	oka nankor _ya	だろうか (と)
70.	ラヤブケウドム・	rayap kewtum	感嘆する思いを
71.	アヤイコロバレ・	a=yaykorpore	抱いた。
72.	イコロバレ・	i=korpore	それを私にくれ
73.	トイカシケ・	tuykasike <sup>20)</sup>	ながら
74.	イタクオハヱ・	itak'o hawe	言ったのは
75.	エネオヒ・ <sup>21)</sup>	ene oka hi <sup>22)</sup>	こうだった。
76.	イキヤクナク・	“ikiya kunak <sup>23)</sup>	「万が一にも
77.	アエレス・カド・	a=e=resu katu	私がお前を育てたことを
78.	エゾクニブ・	e=ye kuni p	言っでは
79.	ソモタバンナ・	somo tapan na. <sup>24)</sup>	いけませんよ。
80.	エコイキ・ロクベ・	e=koyki rok pe <sup>25)</sup>	お前の戦う相手が
81.	エコビシ・キバヤクカ・	e=kopisi ki pa yakka	尋ねても
82.	ソモエヱ・キクニブ	somo e=ye ki kuni p	言っでは
83.	ネナンコンナ・ <sup>26)</sup>	ne nankor_ na.”	いけないよ」
84.	セコロオカイベ・ <sup>27)</sup>	sekor okay pe	ということを
85.	タヱキ[■/コ]ロ・	taye ki kor <sup>28)</sup>	言いながら
86.	ハヨクカムイ・	hayok kamuy	鎧を
87.	イコタララ・	i=kotarara	私にくれた。
88.	ヤイレンカネ・	yayrenkane	私は嬉しくなり
89.	アウイナヒネ・	a=uyna hine	受け取って
90.	ケマウンプヱ・	kema un puye	足を入れる穴に
91.	アケマボシバレ・	a=kemapospare	足を通し
92.	テクウンプヱ・	tek un puye	手を入れる穴に

93.	アテクボシバレ・	a=tekpospare	手を通し、
94.	リクンスマチ・	rikun numaci <sup>29)</sup>	上の留め金や
95.	ランケヌマチ・	ranke numaci	下の留め金の
96.	ウルキフムコ・	uruki hum ko	かみ合う音が
97.	キツナタラ・	kiknatarā	カチリと鳴り、
98.	ウラクカネクチ・	uokkanekut <sup>30)</sup>	金鎖のベルトを
99.	エアルサイネノ・	earsayneno	一卷きに
100.	アヤイコサイエ・	a=yaykosaye	自分に巻き
101.	カムイランケタム・	kamuy ranke tam	神授の刀を
102.	アクツポケチウ・	a=kutpokeciw	帯に差し、
103.	カバルベカサ・	kaparpe kasa	薄手の笠
104.	カサラン【1丁表】ドベブ・ <sup>31)</sup>	kasa rantupep	笠のあご紐を
105.	アヤイコユブ・	a=yaykoyupu	ぎゅっと結んだ。
106.	バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
107.	アムソカタ・	amso ka ta	床の上で
108.	ドミシマカ・	tumi simaka	戦いのそぶり
109.	ゼンベシマカ・	wenpe simaka	戦争のそぶりをし
110.	アエヤイタブクルカ・	a=eyaytapkurka-	肩で風を切って
111.	オシキリバ・	osikirpa	身をひるがえした。
112.	キロクアワ・	ki rok awa	そうすると
113.	アコロエカシ・	a=kor ekasi	お爺さんは
114.	オドヘンクROL・	otu henkuror	何度もうなずき
115.	オレヘンクROL・	ore henkuror	幾度もうなずき
116.	イコアヌ	i=koanu	喜んで
117.	アカムイミツボホ・	“a=kamuymippoho	「わが愛孫は
118.	ROLンベプリ・	rorunpe puri	戦いの仕方が
119.	エアシカイシリ・	easkay siri.”	上手だな」
120.	ゼヘンコツバ・	cehenkotpa <sup>32)</sup>	(と) うなずいて
121.	イゾカルカラ・	i=ekarkar <sup>33)</sup>	くれた。
122.	バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
123.	ソイワサムワ・	soywasamma	私が外に
124.	アオシラヅ・	a=osiraye	出た
125.	キロクアワ・	ki rok awa	ところ、
126.	オロヤチキ・	oroyaciki	意外にも
127.	ボルンオンナイ・ <sup>34)</sup>	poru un onnay	洞穴の中で

128.	アイヨレスヒ・	a=i=oresu hi	育てられていた
129.	ネロクオカ・	ne rok'oka.	のだとわかった。
130.	ボルソイナ・	poru soyna	洞穴の外に
131.	アオシライズ・	a=osiraye	出る
132.	バクノネコロ・	pakno ne kor	と
133.	ネブピトホ・	nep pitoho	何の神が
134.	イトレンクス・	i=turen kusu	私に憑いているために
135.	フマシキヤ・	humas ki ya	音がするのか、
136.	イエンカシケ・	i=enkasike	私の上空で
137.	ブシコサンバ・	puskosanpa	破裂するような音がする。
138.	タンカムイマウ・	tan kamuy maw	神風の
139.	ランフムコンナ・	ran hum konna	吹き下りる音が
140.	ドリミムセ・	turimimse	轟々と鳴り響き
141.	カムイマウエトク・	kamuy maw etok	私は神風の前に
142.	アイズコシネ・	a=i=ekosne <sup>35)</sup>	軽々と
143.	スイバカネ・	suypa kane	ゆさぶられながら
144.	オドオドリム <sup>36)</sup>	otu ototrim	何度も轟音が
145.	アヌウシケ・	a=nu uske	聞こえるところ
146.	コバクケサマ・	kopakkesama	の方へ
147.	アヤイドズレ・	a=yaytuyere <sup>37)</sup>	進んでいく。
148.	カムイマウバシテ・	kamuy maw paste	神風を駆って
149.	アキワ・	a=ki wa	行くと
150.	オルフナクタ・	or hunak ta	どこなのか
151.	アルバアンルズ・	arpa=an ruwe	やって来たのは
152.	エネオカヒ・	ene oka hi	こんなところだ。
153.	ルカネニタイ・	ru kane nitay <sup>38)</sup>	水銀の林が
154.	オカナンコラ・	oka nankor _ya	あるとは
155.	アエラミシカリ・	a=eramiskari <sup>39)</sup>	思いがけなかった。
156.	ケナシソカシ・	kenas so kas	木原の上を
157.	タンドミル・	tan tumi ru <sup>40)</sup>	戦いの跡が
158.	エアルバルエ・	earpa ruwe	続いて行く様子は
159.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
160.	マカンカチコロベ・	makan katkor pe <sup>41)</sup>	どんなものが
161.	ドミコンルズ・	tumikor_ ruwe	戦争をし
162.	タマンバルエ・	tamanpa ruwe	太刀を使った

163.	ネナンコラ・	ne nankor _ya	のだろうか。
164.	ドミソクルカ・	tumi so kurka	戦場の上 (に)
165.	ドムンカムイ・ <sup>42)</sup>	tumunci kamuy	トゥムンチカムイ
166.	ウタリヒ・	utarihi	たちの
167.	アDOIバルエ・	a=tuypa ruwe	切られたのが
168.	ドミソクルカ・	tumi so kurka	戦場の上 (に)
169.	アザリカル・	a=carikar	散らされている。
170.	ルカネニタイ・	ru kane nitay	水銀の林の
171.	カンテクカシ・	kantek kasi <sup>43)</sup>	枝先の上に
172.	アコランケルエ・	a=koranke ruwe	落とされた (死体の) 様子は
173.	サウレカネ・	sawre kane <sup>44)</sup>	手ぬるい
174.	シザルクニブ・	sicari kuni p <sup>45)</sup>	奮戦ぶり
175.	ソモネコトム・	somo ne kotom	ではないように
176.	アエサンニヨ・	a=esanniyo	思った。
177.	ドミルクルカ・	tumi ru kurka	戦争の跡の上を
178.	アエホブニ・	a=ehopuni	飛んで
179.	アルバアンアイネ・	arpa=an ayne	行くと
180.	タバンドミソ・	tapan tumi so	この戦場
181.	ドミソクルカ・	tumi so kurka	戦場の上に
182.	クンネニシネ・	kunne nis ne	黒い雲となって
183.	ボヤテキニシネ・	poyatek nis ne <sup>46)</sup>	濃い雲となって
184.	エプタカム・	eputakamu <sup>47)</sup>	かぶさっている。
185.	ニシドムフ・	nis tumuhu	その雲の中に
186.	アバゴオツケ・	a=paweotke	私が頭から飛び込むと
187.	インカルアナルゴ・	inkar=an ruwe	見えたのは
188.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
189.	ボナイヌボンクル・	pon aynu pon kur <sup>48)</sup>	(こんな) 若者が
190.	オカナンコラ・	oka nankor _ya	いるとは
191.	アエラシカリ・ <sup>49)</sup>	a=eramiskari	知らなかった。
192.	ナンニベキ・	nan nipeki <sup>50)</sup>	その顔の輝きは
193.	ヘドクツブネ・	hetuku cup ne	昇る太陽のように
194.	イエヌツブキ・	ienucupki <sup>51)</sup>	まばゆい光が
195.	チウレカネ・	ciwre kane	さして
196.	ラメトクイボロ・	rametok ipor <sup>52)</sup>	勇者の顔つきは
197.	エイボロドイマ・	eyportumma <sup>53)</sup>	顔つきからして

198.	シンナカネブ・	sinna kane p	別格な者が
199.	タヌシコドイ■ワ・ <sup>54)</sup>	tan _huskotoy wa	ずいぶん長い間
200.	ドミコロクニブ・	tumikor kuni p	戦っていた
201.	ネアコトム・	ne a kotom	らしく
202.	アネサンニヨ・	an=esanniyo	思う。
203.	トマンソカシ・	tumam so kasi	体の上の
204.	カシレ・タンビリ・	kasre tampiri <sup>55)</sup>	浅い刀傷は
205.	チマクタツバ・	cima kutatpa <sup>56)</sup>	かさぶたがとれて
206.	ラウネタンビリ・	rawne tampiri	深い刀傷には
207.	チマエロシキ・	cima eroski <sup>57)</sup>	かさぶたができて
208.	オカルエネ・	oka ruwe ne.	いるのだ。
209.	テクサムオロケ・	teksam orke	そのそばで
210.	エタムアニブ・	etam'ani p <sup>58)</sup>	刀で戦っている奴を
211.	アヌカルゴ・ <sup>59)</sup>	a=nukar ruwe	見ると
212.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
213.	イナンベナムネ・	inanpe namne	何と
214.	ボナイヌボンクル・	pon aynu pon kur	(立派な) 若者
215.	オカナンコラ・	oka nankor _ya?	だろうか。
216.	カバルベカサ・	kaparpe kasa	薄手の笠
217.	カサケブサ■ムタ・	kasa kepsam ta <sup>60)</sup>	笠の端の
218.	カムイ【2丁表】オトビ・	kamuy otopi	麗しい髪は
219.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうなのだ。
220.	シトネオトブ・	sito ne otop <sup>61)</sup>	丸餅のような髪
221.	モレウネオトブ・	morew ne otop	渦巻のような髪で
222.	オトブクルカシ・	otop kurkasi	髪の表面は
223.	ミケカネ・	mike kane	照り輝いたり
224.	クルコッカネ・	kurkot kane <sup>62)</sup>	かげったりして
225.	カムイサンナヌ・	kamuy sannanu	神々しい顔に
226.	イエヌブキ・ <sup>63)</sup>	ienucupki-	まばゆい光が
227.	チウレカネ・	ciwre kane	さして
228.	レクルママ・	rekurumama <sup>64)</sup>	ひげの黒みは
229.	ザレハライタブ・	careharayta p	まだ足りないものの
230.	ラメトクイボロ・	rametok ipor	勇者の顔つきは
231.	エイボロドイマ・	eyportumma <sup>65)</sup>	顔つきからして
232.	シンナカネ■・	sinna kane	別格で

233.	アルテクサマ・	ar teksama	(先の若者の) すぐそばで
234.	エ. タمامバ・	etamanpa <sup>66)</sup>	刀で戦っている。
235.	ネイワノスイ・	ney wano suy <sup>67)</sup>	どういうことか
236.	イヤイラクバレブ・	i=yayrakpare p <sup>68)</sup>	私に縁のある者が
237.	ハヨクアナルズ・	hayok=an ruwe	私が装束を着る様
238.	イムチアナルエ・ <sup>69)</sup>	imut=an ruwe <sup>70)</sup>	私が刀を佩く様を
239.	イコエユカラ・	i=koeyukar	真似ているようだ。
240.	テクサモロケ・	teksam orke	そのそばで
241.	エホリビブ・	ehoripi p <sup>71)</sup>	鼓舞している者を
242.	アヌカルズ・ <sup>72)</sup>	a=nukar ruwe	見ると
243.	エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
244.	イナンベナムネ・	inanpe namne	何と (立派な)
245.	ボロスクブクル・	poro sukup kur	壮年の人
246.	オカナンコラ・	oka nankor _ya?	だろうか。
247.	ボロレキヒ・	poro rekihi	立派なひげが
248.	コツバルカシ・	kotpar kasi	襟元の上を
249.	セシケカネ・	seske kane	覆って
250.	シレトク・トラ・	siretok tura	美貌であり
251.	ラメトクドラ・	rametok tura	勇猛であり
252.	アコエラヤブクル・	a=koerayap kur <sup>73)</sup>	感嘆するような人が
253.	ロ■ルンベ・テキサム・ <sup>74)</sup>	rorunpe teksam	戦いのそばで
254.	エホリビ・	ehoripi	鼓舞している。
255.	イヌカルロクベ・	i=nukar rok pe	私を見ると
256.	フイフイナワ・	huyhuyna wa <sup>75)</sup>	あますところなく
257.	イユワンバレ・	i=uwanpare <sup>76)</sup>	じっくり見て
258.	イコバクンワ・	i=kopakun wa	私のほうへ
259.	アリキヒネ・ <sup>77)</sup>	arki hine	来て
260.	エネイタキ・	ene itak _hi	こう言う。
261.	ネイワエキベ・ <sup>78)</sup>	“ney wa ek pe	「お前はどこから来た
262.	エネルズアン・	e=ne ruwe an?	のだ？
263.	ネウン・レコルベ・	neun rekor pe	何という名の者が
264.	エレスキヤ・	e=resu ki ya?	お前を育てた？
265.	アシヌマアナク・	asinuma anak	私は
266.	ヤイコタンカ・	yaykotanka <sup>79)</sup>	自分の村を
267.	エシナアナク・	esina anak	隠すのは

268.	アオヤネネブ・	a=oyanene p <sup>80)</sup>	好まないの
269.	ネルエネ・	ne ruwe ne.	である。
270.	アコロコタヌ・	a=kor kotanu	私の村の
271.	レコロカド・	rekor katu	名は
272.	サンブチネウ・	Sanput ne wa <sup>81)</sup>	サンブツで
273.	シスタブカタ・	Sinutapka ta	シスタブカの
274.	チウセレス・	Ciuseresu <sup>82)</sup>	チウセレスと
275.	カムイオトブシ・	Kamuy'otopus	カムイオトブシ (という)
276.	カムイアカラク・	kamuy a=karku	立派なわが甥
277.	ウタロルケヘ・	utar orkehe	たちが
278.	アクフナルパ・	ak hunarpa	弟を探して
279.	ドレブンモシリ・	tu repun mosir	多くの沖の国を
280.	テケエンテバ・	tekewente pa <sup>83)</sup>	手ずから破壊し
281.	カシチオバシ・	kasi ciopas	私はその助けに
282.	アエカルカルバ・	a=ekarkar pa	駆けつけた。
283.	エンノボカ・	wenno poka <sup>84)</sup>	私は少しばかり
284.	ドミテキサマ・ <sup>85)</sup>	tumi teksama	戦いのそばで
285.	アエコブンキネ・	a=ekopunkine <sup>86)</sup>	守り助けて
286.	キロクアワ・	ki rok awa	いたのだが、
287.	ソモネイベカ・	somo ney peka <sup>87)</sup>	あろうことか
288.	カムイアカラク・	kamuy a=karku	立派な甥とは
289.	エネルヱ・	e=ne ruwe	お前なの
290.	ソモヘネヤ・	somo he ne ya?"	ではないか?」
291.	イタクカラヒケ・	itakkar hike	(と) 話すと
292.	ゼンキンラネ・	wen kinra ne	ひどい怒りが
293.	イコヘドク・	i=kohetuku <sup>88)</sup>	芽生えて
294.	ユブケタムクル・	yupke tamkur	私は激しい太刀影を
295.	アコテルケレ・	a=koterkere	投げつけた。
296.	アキワドナシベ・	a=ki wa tunas pe <sup>89)</sup>	素早くしたのに
297.	アタムエトコ・	a=tam'etoko	私の太刀の先から
298.	エシエタイヱ・	esietaye	さっと身を引く。
299.	ラヂタムタムクル・	ra kus tamkur	下を通る太刀影は
300.	ラプセヌイネ・	rapse nuy ne	飛び散る炎のように
301.	リクシタムクル・	rik kus tamkur <sup>90)</sup>	上を通る太刀影は
302.	ホブニヌイネ・	hopuni nuy ne	舞い上がる炎のように

303.	アエオヌイタ・	a=eonuyta <sup>91)</sup>	私は炎を
304.	ブクテカネ・	pukte kane	燃やして追った
305.	キロクアイネ・	ki rok ayne	あげく
306.	ドブ■ネレブネ・	tup ne rep ne <sup>92)</sup>	バラバラに
307.	アオウサドイゴ・	a=owsatuye	切断した。
308.	カムイ・イノド・	kamuy inotu	(すると) 神の命の
309.	ホブニフムコ・	hopuni hum ko <sup>93)</sup>	飛び去る音が
310.	ケウロトツケ・	kewrototke	響き渡った。
311.	キロクアワ・	ki rok awa	そうすると
312.	カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシが
313.	オドシエンパ・	otu siwenpa	何度も悪口を
【3丁表】			
314.	シロタツパ・	sirotatpa <sup>94)</sup>	ぶちまけ
315.	クルカシケ・	kurkasike <sup>95)</sup>	ながら
316.	イタクオハゴ・	itak'o hawe	言ったのは
317.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
318.	ウサイネ・カタブ・	"usayne ka tap	「これはこれは、
319.	エイキシリ・	e=iki siri	お前がしたことは
320.	アオヤネネナ・	a=oyanene na.	気に食わないな。
321.	ウコイキクルカ・	ukoyki kurka	戦いの上では
322.	コタヌゴワ・	kotanu ye wa	(自分の) 村を言って
323.	ウコイキプタババン・	ukoyki p tapan.	戦うものですよ。
324.	ネイワ・エクベ・	ney wa ek pe	お前はどこから来た者
325.	エネヒネ・	e=ne hine <sup>96)</sup>	なのだ？
326.	エヤイモトオル・	e=yaymotoor	お前自身の起源も
327.	エゴソモキ・	e=ye somo ki	言わないで、
328.	ネプエンイタク・	nep wen itak	何か悪いことばを
329.	サンブドンクル・	Sanputunkur	サンプトウンクル
330.	アコロアザ・	a=kor aca	おじさんが
331.	エロクアワ・	ye rok awa	言った
332.	クルカシケ・	kurkasike <sup>97)</sup>	ために
333.	エオトイエ <sup>98)</sup>	e=otuye <sup>99)</sup>	お前が斬った
334.	キロクシリ・	ki rok siri	の
335.	ネワネヤクカ・	ne wa ne yakka	であっても
336.	イタカンチキ・	itak=an ciki <sup>100)</sup>	私が話すことを

337.	ピリカイス・	pirka inu	よく聞き
338.	エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	なさい。
339.	テエタカネ・	teeta kane	むかし
340.	シヌタブカタ・	Sinutapka ta	シヌタブカで
341.	アコロアイヌ・	a=kor aynu	父と
342.	アコロトット・	a=kor tutto	母とに
343.	イレスワ	i=resu wa	育てられて
344.	オカアンアワ・	oka=an awa	私たちは暮らしていたが
345.	アコロアイヌ・	a=kor aynu	父と
346.	アコロトット・	a=kor tutto	母とが
347.	ウイコムレブンカ・	uymam repunka	交易をしに行き
348.	ネオカケタ・	ne okake ta	その後には
349.	チウセレス・	Ciuseresu	チウセレス
350.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんと
351.	アアクトノケ・	a=ak-tonoke	私たちの弟君と
352.	トラノ・レンアネワ・	turano ren a=ne wa	一緒に三人で
353.	オカアンアワ・	oka=an awa	暮らしていたが
354.	モコロアンヒネ・	mokor=an hine	私たちが寝て
355.	モシアンアワ・	mos=an awa	目覚めると
356.	アアクトノケ・	a=ak-tonoke	弟君が
357.	アイコエイタカ・	a=i=koeikka	さらわれて
358.	オアラリサム・	oararisam	いなくなっていた。
359.	オロワノ・	orowano	それから
360.	チウセレス・	Ciuseresu	チウセレス
361.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
362.	アクフナラクス・	ak hunara kusu	弟を探すために
363.	トレブンモシリ・	tu repun mosir	多くの沖の国
364.	レレブンモシリ・	re repun mosir	多数の沖の国を
365.	オイフナラ・	oihunara <sup>101)</sup>	探しまわり
366.	アクトノケ・ピシワ・	ak-tonoke pisi wa	弟君を尋ねては
367.	イサムアコタン・	isam a kotan	いなかった部落を
368.	コイキカド・	koyki katu	やっつけること
369.	オドケシバタ・	otu kespa ta	幾年
370.	キラボキ・	ki rapoki	その間に
371.	コヤイボロレ・	koyayporore	私たちは（戦いと）共に

372.	アキワタブネ・	a=ki wa tapne	成長して
373.	サンブドンクル・	Sanputunkur	サンプトウンクル
374.	アコロアザ・ <sup>102)</sup>	a=kor aca	おじさんと
375.	エドンアネワ・	etun a=ne wa	二人で
376.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さん
377.	コロ・ロルンベ・	kor rorunpe	の戦いの
378.	カシチオバシ・	kasi ciopas	手伝いを
379.	■アエカルカルヅ・ <sup>103)</sup>	a=ekarkar ruwe	していたの
380.	ネロクアワ・	ne rok awa	だが
381.	エフイネバクノ・	ehuyne pakno <sup>104)</sup>	いくらお前が
382.	アコロアザ・	a=kor aca	おじさんを
383.	エライケ・ヤクカ・	e=rayke yakka	殺したとしても
384.	アルシカルヅ・	a=ruska ruwe	私は怒り
385.	ソモタバンナ・	somo tapan na.	ませんよ。
386.	エモトホ・	e=motoho	お前の素性を
387.	ヱワイヌレ・	ye wa i=nure <sup>?</sup>	言っ て聞かせてくれ」
388.	セコロイタク <sup>105)</sup>	sekor itak	と言う
389.	キブネコロカ・	ki p ne korka	のだが
390.	アコロエカシ・	a=kor ekasi	お爺さんが
391.	イカシバオツテ・	i=kaspaotte	私に言いつけて
392.	キロクカド・	ki rok katu	いたことが
393.	オカロクス・ <sup>106)</sup>	oka rok kusu	あったので
394.	コソモタシヌ・	kosomotasnu	知らんふりを
395.	アキワタブネ・	a=ki wa tapne	して
396.	カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシと
397.	チウセレス・	Ciuseresu	チウセレスとに
398.	アエウコタマ・	a=eukotama <sup>107)</sup>	まとめて
399.	オドワンチバ・	otuwān cipa <sup>108)</sup>	何十もの斬撃を
400.	アコテルケレ・	a=koterkere	投げつけた。
401.	ネラボキ・	ne rapoki	その間
402.	トムンチカムイ・	tumunci kamuy <sup>109)</sup>	トゥムンチカムイ
403.	ウタロルケヘ・	utar orkehe	たちは
404.	コヤイシニレ・	koyaysinire	一休みしている。
405.	ネラボキ・	ne rapoki	そうしている間
406.	アタムコップバ・	a=tamkocuppa <sup>110)</sup>	私は刀で攻撃する

407. キブネコロカ・	ki p ne korka	のだが
408. タムエオクシリ・	tam eok siri	刀にひっかかる様子は
409. オアラリサム・	oararisam	まったくない。
410. ネイタバクノ・	ney ta pakno	(彼らは) いつまでも
411. タムエタイゴ・	tam etaye	刀を抜くことは
412. オアラソモキ・	oar somo ki	全然せずに
413. イビシイタク・	ipisi itak <sup>111)</sup>	問いかける言葉を
414. エウクツケシカ・	ewkutkeska-	次々に
415. ベカ・カネ・	peka kane <sup>112)</sup>	投げかける。
【4丁表】		
416. エネアスゴブ・	ene a=suye p	そうして私が(刀を)振るが
417. タムエオクフミ・	tam eok humi	刀にひっかかる様子は
418. オアラリサム・	oararisam	まったくない。
419. ネテクサマ・	ne teksama <sup>113)</sup>	そのときに
420. イネアブクスン・	ineapkusun	どうしたことか
421. カムイ・イルシカ・	kamuy iruska	神が怒っている
422. フマシナンコロ・ラ・ <sup>114)</sup>	humas nankor _ya? <sup>115)</sup>	ような気配がする。
423. ドムンチクルカ・	tumunci kurka	戦いの上に
424. シバセカムイ・	sipase kamuy	本当に重い神が
425. コオニシボソ・	koonisposo <sup>116)</sup>	雲間から急降下してきた。
426. ドムンチソカ・	tumunci so ka	戦場の上に
427. エンムンパナ・	wen munpana <sup>117)</sup>	ひどい塵ほこりが
428. チホブニレ・	cihopunire	舞い上がり
429. ドムチソカ・ <sup>118)</sup>	tumunci so ka	戦場の上に
430. ブタウン■ニシネ・	puta un nis ne <sup>119)</sup>	蓋つきの雲の如く
431. エプタカム・	eputakamu	かぶさる。
432. ホントモタ・	hontomo ta	その途中で
433. ネコンネフミ・	nekon ne humi	何の音
434. ネナンコラ・	ne nankor _ya	なのだろうか。
435. アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	私の鎧の
436. リクヌマチ・	rikun numaci <sup>120)</sup>	上の留め金と
437. ランケヌマチ・	ranke numaci	下の留め金が
438. ウスラフミ・	usura humi <sup>121)</sup>	切れて(鎧が)外れる音が
439. コナイナタラ・	konaynatara <sup>122)</sup>	鳴りわたり
440. モシソクルカ・ <sup>123)</sup>	mosir so kurka	大地の上に

441.	コアルサツゼブネ・	koarsatcep ne <sup>124)</sup>	干し魚の背を割るように
442.	アラド[ヲ/サ]ノ・	aratusano <sup>125)</sup>	(鎧が割れて) 丸裸になり
443.	アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	私は鎧を
444.	アオラウキクニ・	a=orawki kuni	取り逃がして
445.	セムトライサム・	semturaysam <sup>126)</sup>	なるものかと
446.	ア[キイヨロバレ/エコテカル]・	a=ekotekar <sup>127)</sup>	懸命になった。
447.	モシリソクルカ・	mosir so kurka	大地の上に
448.	アコゼラナ・	a=kocerana-	下りて
449.	コスヲトツケ・	kosuototke <sup>128)</sup>	追いかける。
450.	アキロクアワ・	a=ki rok awa	そうすると
451.	ソモ[シマ/スイ]クス・	somo suy kusu <sup>129)</sup>	よもや
452.	シリキヤカ・	sirki ya ka	そうなるとは
453.	<del>テエラミシカリ<sup>130)</sup></del>	<del>(a=eramiskari)</del>	<del>(思わなかったが)</del>
454.	イエトコワ・	i=etoko wa	私の前から
455.	カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシが
456.	アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	私の鎧を
457.	ウイナヒネ・	uyna hine	取って
458.	ビリカシケネ・	pirka sike ne	立派な荷物として
459.	ヤイコカルカル・	yaykokarkar <sup>131)</sup>	ひとまとめにして
460.	キブネコロカ・	ki p ne korka <sup>132)</sup>	しまったので
461.	ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
462.	アドサアンワ・	atusa=an wa	私は裸で
463.	アタムノシバレ・	a=tamnospare <sup>133)</sup>	刀をふりまわし
464.	キロクアワ・	ki rok awa	たけれど
465.	ソモスイクスン・	somo suy kusun <sup>134)</sup>	まさか
466.	フマシクニ・	humas kuni	(そんな) 気配は
467.	アラムロクアワ・	a=ramu rok awa <sup>135)</sup>	しなかったのに
468.	アレクシコンナ・	arekuskonna	突然
469.	アロリカシ	ar _horikasi	真上から
470.	アイラウコタブ・	a=i=rawkotapu <sup>136)</sup>	抱え込まれて
471.	ネウン・カツコロベ・	neun katkor pe	何者かが
472.	イエキラワ・	i=ekira wa	私をさらって
473.	アレリカシ・	ar _herikasi	真上へ
474.	<del>デイエキラ・</del>	<del>(a=i=ekira)</del>	<del>(私はさらわれ)</del>
475.	ウラルカント・	urar kanto	霞の天

476.	ノチウオカント・	nociw'o kanto <sup>137)</sup>	星の天を
477.	ヤイボソレ・	yayposore	通り抜ける。
478.	シニスカント・	sinis kanto <sup>138)</sup>	本当の天を
479.	アコエソイカルバ・	a=koesoykarpa <sup>139)</sup>	突き抜けると
480.	タンキヌブソ・	tan kinup so	カヤ原が
481.	アルバルコ・	arpa ru ko <sup>140)</sup>	遥かに
482.	マクナタラ・	maknatara <sup>141)</sup>	広々と打ち開けて
483.	キヌブノシキタ・	kinup noski ta	カヤ原の真ん中に
484.	カネザシ・	kane casi	金の城が
485.	アシルコンナ・	as ru konna	建つ様子は
486.	コメウナタラ・	komewnatara <sup>142)</sup>	堂々と立派だ。
487.	ザシテキサム <sup>143)</sup>	casi teksam	山城のそばに
488.	コホラオチヂ・	kohoraociwe <sup>144)</sup>	さっと下りて (から)
489.	■タネボックス・	tanepo kusu	今になって
490.	イエキラベ・ <sup>145)</sup>	i=ekira pe	私をさらった奴を
491.	アヌカル・ルエ・	a=nukar ruwe	見ると
492.	アエラミシカリブ・	a=eramiskari p	見たことがない奴
493.	イキコロカ・	iki korka	だけれど
494.	アイヌラククル・	Aynurakkur	アイヌラックルに
495.	アアルコトムカ・	aarkotomka <sup>146)</sup>	違いない。
496.	ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
497.	イエシヤルボク・	i=esiyarpok-	私を小脇に
498.	アンバカネ・	anpa kane	抱えながら
499.	アバオロッキ・	apaorotki	戸口のすだれを
500.	カイシタブカ・	kaysitapka-	自分の肩の上で
501.	[ネレカネ/エテルケレ]・	eterkere <sup>147)</sup>	跳ね上げた。
502.	シエトコ・	sietoko	私が自分の前に
503.	アシクイルケ・	a=sikuyruke	視線を注いで
504.	インカルアナルエ・	inkar=an ruwe	見たのは
505.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
506.	カネイヌベ・ <sup>148)</sup>	kane inumpe	金の炉ぶちが
507.	バエルコンナ・	paye ru konna	伸びゆく様子は
508.	コトシナタラ・	kotonnatara	輝いていて
509.	カネソカ・	kane so ka	金の床の上に
510.	コテシナタラ・	kotesnatara <sup>149)</sup>	すらりと伸び

511.	タンイヨイキル・	tan iyoykir	宝壇は
512.	ランベシクンネ・	ranpes kunne <sup>150)</sup>	低い崖のように
513.	チシトリレ・	cisiturire	(長く) 伸びている。
514.	エンカシケ・	enkasike	その上に
515.	ニシバムツベ・	nispa mutpe	勇者の太刀の
516.	ヲトサンド【5丁表】カ・	otu santuka	多くの刀の柄が
517.	オウカオマ・	oukaoma	積み重なり
518.	ウエブサクル	uepusakur-	房飾りを
519.	スイバカネ	suypa kane	揺らして
520.	ザシコトル・	casi kotor <sup>151)</sup>	山城の天井が
521.	ミケカネ・	mike kane	輝いたり
522.	クルコツカネ・	kurkot kane	かげったりして、
523.	オハリキソウン・	oharkisoun	左座に
524.	ボメノコ・ <sup>152)</sup>	pon menoko	若い女が
525.	アンナンコラ・	an nankor _ya?	いるのだろうか、
526.	ヌプルベソネ・	nupur pe sone <sup>153)</sup>	巫力の強い者に違いなく
527.	ヌプルザンノヅブ・	nupur cannoyep <sup>154)</sup>	巫力の現れ
528.	トスザンノヅブ・	tusu cannoyep	トウスの現れを
529.	エシルトムタ・	esirutumta-	頭飾りをかぶって
530.	ヌイナカネ・	nuyna kane <sup>155)</sup>	隠しながらも
531.	ムケドレンベ・	mukke turenpe	隠形の憑き神は
532.	エキムイカシ・	ekimuykasi <sup>156)</sup>	その頭の上で
533.	テウニンバゴ・	tewninpaye	またたき
534.	サラドレンベ・	sara turenpe	現形の憑き神は
535.	カバブサイクンネ・	kapap say kunne	コウモリの群のように
536.	エビシカニケ・	episkanike <sup>157)</sup>	彼女のまわりに
537.	サイウニタラ[ヅ/ノバ]・	say'unitara pa <sup>158)</sup>	群れている。
538.	ボンメノコ・	pon menoko	若い女の
539.	ナンニベキ・	nan nipeki	顔の光は
540.	ヘドク・ツブネ・	hetuku cup ne	日の出のように
541.	イエヌツブキ・	ienucupki-	まばゆい光が
542.	チウレ・カネ・	ciwre kane	さして
543.	タンバナネバ・	tanpa ne pa <sup>159)</sup>	今年あたりに
544.	シノツスマチボ・	sinotnumatpo <sup>160)</sup>	遊びの胸紐を
545.	エリコマレ・	erikomare	上へあげる

546.	バクノ・アン・	pakno an	くらしいの(年頃の)
547.	ボンメノコ・	pon menoko	若い女が
548.	オトカシンコブ・	otu ka sinkop	多くの糸の結び目を
549.	ランケカネ・	ranke kane	下げて(糸を繕る)
550.	テクサムオルケ・	teksam orke	そのそばに
551.	アイエアレ・	a=i=eare <sup>161)</sup>	私は座らせられ、
552.	アイヌラクル・ <sup>162)</sup>	Aynurakkur	アイヌラックルが
553.	ドイカシケ・	tuykasike	そうしながら
554.	イタクオハエ・	itak'o hawe	言ったことは
555.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
556.	アコロトレシ・	“a=kor turesi,	「わが妹よ。
557.	ビリカイヌ・	pirka inu	よく聞く
558.	エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	のだよ。
559.	シスタブカ・	Sinutapka	シスタブカの
560.	アゼンアキヒ・	a=wen'akihi	悪弟が
561.	シビトネレ・	sipitonere <sup>163)</sup>	高慢にも
562.	シカムイネレ	sikamuynere <sup>164)</sup>	驕慢にも
563.	サンブドンクル・	Sanputunkur	サンプトウンクル
564.	コルア・アザ・	kor a aca	のおじを
565.	ライケヤクカ・	rayke yakka	殺しても
566.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	悔やむ顔を見せも
567.	ソモキノ・	somo ki no	しないで
568.	ユブウタリ・	yup'utari	兄たちと
569.	コイキシリ・	koyki siri.	戦っていたのだ。
570.	ニタイバ・カイヅ・	Nitaypakaye	ニタイパカイエ・
571.	ニタイバラマ・	Nitayparama <sup>165)</sup>	ニタイバラマ(という)
572.	ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイが
573.	ヌイナレスブ・	nuyna resu p	隠し育てたもの
574.	ネアクス・	ne a kusu	だったから
575.	ゼンカムイ・	wen kamuy	悪い神の
576.	ケウドム・	kewtum	精神を
577.	コロアクス・	kor a kusu	持ったため
578.	ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
579.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	後悔を
580.	ソモキキヤ・	somo ki ki ya?	しないのだろうか。

581.	トビリカクニブ・	tu pirka kuni p <sup>166)</sup>	多くのよいことを
582.	エバカシヌワ・	epakasnu wa	教えてやって
583.	イコロバレヤン・	i=korporare yan.”	おくれ」
584.	セコロオカイベ・	sekor okay pe	と
585.	タゾカネ・	taye kane	言いながら
586.	アバウンクニ・	apa un kuni <sup>167)</sup>	戸口のところ
587.	プヤラウンクニ・	puyar un kuni	窓のところを
588.	セシケヒネ・	seske hine	閉じて
589.	ヘトボホロカ・	hetopo horka <sup>168)</sup>	後戻りして
590.	アルバフムコ・	arpa hum ko	去って行く音が
591.	コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
592.	バクノネコル・	pakno ne kor	そうすると
593.	ボンメノコ・	pon menoko	若い女は
594.	カラカニツ・ <sup>169)</sup>	kor a kanit	持っていた糸巻き棒を
595.	アムソウスツ・ <sup>170)</sup>	amso sowsut	床の隅に
596.	エコオスラ・	ekoosura	投げて
597.	チリキブニ・	cirikipuni	立ち上がり
598.	ビリカボイス・	pirka pon_ su	きれいな小鍋を
599.	ウイナトイカ・	uyna tuyka <sup>171)</sup>	取り出しながら
600.	ドビリカクニブ・	tu pirka kuni p	多くのよいことを
601.	イエバカシヌ・	i=epakasnu	私に教える。
602.	エンキンラネ・	wen kinra ne	私はひどく怒り
603.	イコホブニ・	i=kohopuni	腹を立て
604.	クルカシケ・	kurkasike	ながら
605.	アコタムテルケレ・	a=kotamterkere	刀を
606.	アキワ・ルイベ・	a=ki wa ruy pe <sup>172)</sup>	激しく飛ばすが
607.	アタムエトコ・	a=tam'etoko	(彼女は) 刀の前を
608.	エホブニ・	ehopuni <sup>173)</sup>	飛びのく。
609.	オドケシトタ・	otu kesto ta	毎日毎日
610.	アタムサオツテ・	a=tamsaotte <sup>174)</sup>	刀を走らせた
611.	キロクアイネ・	ki rok ayne	あげくに
612.	アシリキ【6丁表】キンネ・	asirkikinne <sup>175)</sup>	新たに
613.	カムイエクム・	kamuy ek _hum	神の来る音が
614.	コトリミムセ・	koturimimse	鳴り響いた。
615.	キロクアイネ・	ki rok ayne	そのうちに

616.	ザシサムカタ・	casi sam ka ta <sup>176)</sup>	山城のそばに
617.	カムイテルケフム・	kamuy terke hum	神が跳び下りる音が
618.	コナイナタラ・	konaynatara	鳴りわたった。
619.	ドンバフミ・	tunpa humi	鏝の音を
620.	シヨロツテ・	siorotte <sup>177)</sup>	響かせて
621.	チマカアバ・	cimaka apa <sup>178)</sup>	入り口の戸を
622.	チシナアド・	cisina atu	縛る紐を
623.	ウカエトイバ・	ukaetuypa <sup>179)</sup>	何本も切って
624.	アフブルエ・	ahup ruwe. <sup>180)</sup>	入ってくるのだ。
625.	ネイダクス・	ney ta kusu <sup>181)</sup>	先ほどと同じく
626.	アイヌラックル・	Aynurakkur	アイヌラックル (という)
627.	エネアンカムイ・	ene an kamuy <sup>182)</sup>	あれほどの神は
628.	イルシカリチ・	iruska rici	怒りの青筋が
629.	ウラクブンカルネ・	uok punkar ne <sup>183)</sup>	絡まったブドウ蔓のように
630.	エナンクルカシ・	enankurkasi	顔面に
631.	イブキタラ・	ipukitara <sup>184)</sup>	立っていて
632.	エナイヌサニ・	“wen aynu sani <sup>185)</sup>	「悪者の子孫が
633.	アビリカレンカブ・	a=pirkarenkap <sup>186)</sup>	私の善意を
634.	イコレンカカ・	i=korenka ka <sup>187)</sup>	受け入れも
635.	ソモキ・クス・	somo ki kusu	しないから
636.	テイネモシリ・	teyne mosir	湿った国に
637.	ウバカシヌ・モシリ・	upakasnu mosir <sup>188)</sup>	罰の国土に
638.	アオルラ・クニブ・	a=orura kuni p	運び
639.	ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.”	ますよ」
640.	セコロオカイベ・	sekor okay pe	ということを
641.	タイズ・カネ・	taye kane	まくしたて
642.	バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
643.	イラウコタブ・	i=rawkotapu	私を抱え込み
644.	イエヤルボク・	i=eyarpok-	小脇に
645.	アンバカネ・	anpa kane	抱えて
646.	アコラモシリ・	a=kor a mosir <sup>189)</sup>	人間の国
647.	モシリソクルカ・	mosir so kurka	国土の上へ
648.	コスヲトツケ・	kosuototke <sup>190)</sup>	飛び降りた。
649.	アエキサラ[ル/ス]ト <sup>191)</sup>	a=ekisarsutu-	私の耳元で
650.	マウクルル・	mawkururu	風がビュービュー鳴る。

651.	ラバンアイネ・	rap=an ayne	下りるうちに
652.	アコラモシリ・	a=kor a mosir	人間の国を
653.	チオボ [■■■/ソレ]	cioposore	くぐりぬけ
654.	ボクナモシリ・	pokna mosir	下の国を
655.	オボシバワ・	opospa wa	通り抜けて
656.	ラバンアイネ・	rap=an ayne	下りたあげく
657.	アズロクニ・	a=ye rok kuni <sup>192)</sup>	いわゆる
658.	ヤチネモシリ・	yacine mosir	谷地の国
659.	テイネモシリ・	teyne mosir	湿った国に
660.	アコエソヨシマ・	a=koesoyosma <sup>193)</sup>	パッと飛び込んで
661.	インカラルエ・	inkar=an ruwe	見たのは
662.	エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
663.	クンネ・タクッベ・	kunne takuppe	黒い谷地坊主や
664.	フレタクッベ・	hure takuppe	赤い谷地坊主が
665.	エウロクバレ・	eurokpare <sup>194)</sup>	林立して
666.	ルカネニタイ・	ru kane nitay	水銀の林
667.	チザリニタイ・	cicari nitay	散らばった林が
668.	エウロシキレ・	euroskire	立っている。
669.	シランウシケ・	siran uske	そういうところに
670.	イヨルラ・ <sup>195)</sup>	i=orura	私を運んで
671.	タクッベウドル・	takuppe utur	谷地坊主の間に
672.	イゾアレ・ <sup>196)</sup>	i=eare	私を座らせ
673.	ドイカシケ・	tuykasike	ながら
674.	イタコハズ・	itako hawe	言ったのは
675.	エネオヒ・ <sup>197)</sup>	ene oka hi	こうだった。
676.	ポイヤウンベ・ <sup>198)</sup>	“Poyyaunpe	「ポイヤウンベ
677.	アズンイリワキ・	a=wen'irwaki,	悪い同胞め、
678.	エユプトノケ・	e=yup-tonoke	お前の兄君
679.	ウタリヒ・	utarihi	たちが
680.	ズロクイタグ・	ye rok itak	言った言葉を
681.	エコオテルケ・	e=kooterke <sup>199)</sup>	踏みにじり
682.	アズロクイタク・	a=ye rok itak	私が言った言葉を
683.	チコオテルケ・	cikooterke <sup>200)</sup>	踏みにじった。
684.	タバンベクス・	tapampe kusu	それゆえに
685.	ウバカシヌモシリ・	upakasnu mosir	罰の国に

686. アエオルラ・	a=e=orura	お前を連れてきた。
687. キワネヤクネ・	ki wa ne yakne	それだから
688. ドムンチ・エカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さん
689. ドムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんが
690. エバカシヌワ・	e=pakasnu wa	お前を罰して
691. タクッベヘネ・	takuppe hene	谷地坊主にでも
692. チクニヘネ・	cikuni hene	木にでも
693. アエカルクニブ・	a=e=kar kuni p	されるの
694. ネヒタパンナ・	ne hi tapan na.	ですね。
695. エラゴクス・	e=rawe kusu <sup>201)</sup>	お前が好き好んで
696. ヤヨカバシテ・	yayokapaste	後悔を
697. ソモエキクス・	somo e=ki kusu	しなかったのだから
698. エヤイコトムカ・	e=yaykotomka	お前に似つかわしく
【7丁表】		
699. キクニブタブ・	ki kuni p tap	なるべき
700. ネヒタパン■ナ・	ne hi tapan na.”	ですよ」
701. イタクキコロ・	itak ki kor	(と)言うど
702. ヘトボホルカ・	hetopo horka	後戻りして
703. アルバ・フム	arpa hum	行く音が
704. コトリミムセ・	koturimimse	鳴り響いた。
705. オカケタ・	okake ta	その後で
706. ネウンバクノ・	neun pakno	どれほど
707. ホブニアン・	hopuni=an	起き上がろう
708. キクスネコロ・	ki kusu ne kor <sup>202)</sup>	としても
709. アオソロホ・	a=osoroho	尻が
710. シリコドクワ・	sirkotuk wa	地面にくっついて
711. ホブニボカ・	hopuni poka	起き上がることさえ
712. アエアイカブ・	a=eaykap	できない。
713. ネラボキタ・	ne rapoki ta	そうしている間に
714. ケナシバネヒ・	kenas pa ne hi	木原の上手に
715. ドクンネウララ・	tu kunne urar	多くの黒いもやが
716. コヘドク・	kohetuku	出てきて
717. イエンカシケ・	i=enkaske	私の上に向かって
718. コニシネイクル	konissineykur <sup>203)</sup>	雲の一団が
719. オツテカネ・	otte kane	かかってきて

720.	インカラアンルゴ・	inkar=an ruwe	見ると
721.	エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
722.	アゴロククニ・	a=ye rok kuni	いわゆる
723.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんが
724.	トムンチクワ・	tumunci kuwa	魔神の杖を
725.	エテテカネ・	etete kane <sup>204)</sup>	杖にして
726.	セドルカシケ・	seturu kasike	その背後には
727.	ドムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんが
728.	レボツベトント・	repotpe tonto <sup>205)</sup>	海獣の皮と
729.	ヤオツベトント・	yaotpe tonto	陸獣の皮とを
730.	アウゴカルベ・	a=uekar pe <sup>206)</sup>	組み合わせたもの
731.	ネイケ・	ne _hike	で
732.	タムクシクニ・	tam kus kuni	刀が通るか
733.	アエランベウテクベ・	a=erampewtek pe	わからないものを
734.	エオヤウナ・	eoyauna-	肌にぴったりとは
735.	テシケカネ・	teske kane <sup>207)</sup>	つけずに着て
736.	ドムンチクワ・	tumunci kuwa	魔神の杖は
737.	フスコウシベ・	husko us pe <sup>208)</sup>	古くついた血が
738.	クンノウシネ・	kunne ussi ne <sup>209)</sup>	黒い漆のように
739.	チドラシレ・	citurasire	(杖を) 這い上がり
740.	アシリウシベ・	asir us pe	新しくついた血が
741.	フレウシネ・	hure ussi ne <sup>210)</sup>	赤い漆のように
742.	チドラシレ・	citurasire	(杖を) 這い上がる。
743.	エテコロサム・	etekorsam-	それを手に
744.	ウンテカネ・	unte kane <sup>211)</sup>	持って
745.	ウセドル	usetur-	互いに
746.	サムネレカネ・	samnere kane <sup>212)</sup>	寄り添って
747.	アキヒネ・	arki hine	やって来て
748.	トムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんが
749.	クワクルカ・	kuwa kurka	杖の上に
750.	ノトマレ・	notomare <sup>213)</sup>	顎を乗せ
751.	クルカシケ・	kurkasike	ながら
752.	イタコハゴ・	itako hawe	言ったのは
753.	エネカヒ・ <sup>214)</sup>	ene oka hi	こうだった。
754.	ソランノヘタブ・	“soonno hetap <sup>215)</sup>	「本当に

755. ボイヤウンベ・	Poyyaunpe,	ポイヤウンベよ,
756. ニタイバ・カイヅ・	Nitaypakaye	ニタイバカイエ・
757. ニタイバラマ・	Nitayparama	ニタイバラマ (という)
758. トムンチエカシ・	tumunci ekasi	トムンチ爺さんが
759. チホノクカ・	cihonokka <sup>216)</sup>	お前に教えた
760. エエカルカリ・	e=ekarkar _hi	ことを
761. エエイソコロワ・	e=ey Sokor wa	信じて
762. エユウタリ・ <sup>217)</sup>	e=yuputari	兄たちの
763. ビリカイタク・	pirka itak	よいことばを
764. エコオテルケ・	e=kooterke	踏みにじり
765. アエオナカムイ・ <sup>218)</sup>	Aeoy nakamuy <sup>219)</sup>	アエオイナカムイの
766. ビリカイタク・	pirka itak	よいことばを
767. エコオテルケ・	e=kooterke	踏みにじった。
768. タバンベクス・	tapanpe kusu	そのために
769. ウバカシヌモシリ・	upakasnu mosir	罰の国に
770. エオルラワ・ランマ・	e=orura wa 'ramma	運ばれて『依然として
771. ヤヨカバシテ・	yayokapaste	後悔を
772. ソモキチキ・	somo ki ciki	しなかったら
773. バカシヌワ・	pakasnu wa	罰して
774. イコレヤン・	i=kore yan'	ください』(と)
775. ■アオイナカムイ・ <sup>220)</sup>	Aeoy nakamuy	アエオイナカムイが
776. イヅワクス・	ye wa kusu	言ったから
777. アエバカシヌクス・	a=e=pakasnu kusu	お前を罰するために
778. アリキアンカド・	arki=an katu	私たちは来たの
779. ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.	だよ。
780. タクッベネ・	takuppe ne	谷地坊主に
781. エアン[■/ル]スイヤ・	e=an rusuy ya?	なりたいか?
782. チクニネ・	cikuni ne	立ち木に
783. エアンルスイヤ・	e=an rusuy ya?"	なりたいか?」
【8丁表】		
784. ■イタクカラヒタ・	itakkar hi ta	(と) 話したところで
785. アテク■リキクル・	a=tekrikikur-	私が手を高く
786. ブニカネ・	puni kane <sup>221)</sup>	かかげながら
787. アナンクルカシ・	a=nankurkasi	顔の上に
788. チウクシカネ・	ciwkus kane <sup>222)</sup>	涙を流して

789.	イタクアンハゴ・	itak=an hawe	話したことは
790.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
791.	タクベカ・ <sup>223)</sup>	“takuppe ka	「谷地坊主にも
792.	ニタイカ・	nitay ka	林にも
793.	アネクニヒ・	a=ne kunihi	なるのは
794.	アエトランネ・	a=etoranne	いやです。
795.	タネボタブネ・	tanepo tapne	今やっと、こうして
796.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	後悔を
797.	アキルゴ・	a=ki ruwe	したの
798.	ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.	ですよ。
799.	ニタイパカイゴ・	Nitaypakaye	ニタイパカイエ・
800.	ニタイバラマ・	Nitayparama	ニタイバラマの
801.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんが
802.	イエイクカワ・	i=eikka wa	私をさらった
803.	エムコサマ・	emkosama	ために
804.	チウセレス・	Ciuseresu	チウセレス
805.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
806.	イフラナクス・	i=hurana kusu	私を探すため
807.	トビシカンモシリ・	tu piskan mosir <sup>224)</sup>	多くの周辺の国を
808.	オイフナラ・	oyhunara	探し、
809.	ロルンババテク・	rorunpe patek	戦いばかりで
810.	スクプエビッタ・	sukup epitta <sup>225)</sup>	今までずっと
811.	エタサスケ・	etasaske <sup>226)</sup>	辛酸をなめてきました。
812.	タネボタブネ・	tanepo tapne	今まさにこうして
813.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	私は後悔を
814.	アンルゴ・	=an ruwe	しているの
815.	ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.	ですよ。
816.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi,	トゥムンチ爺さん、
817.	イエランボキエン・	i=erampokiwen	私を憐れんで
818.	イコロバレヤン・	i=korpare yan.”	ください」
819.	イタクアンキコロ・	itak=an ki kor	(と) 私が言いながら
820.	アテクリキクル	a=tekrikikur-	手を高く
821.	ブンバアワ・	punpa awa	かかげると
822.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんは
823.	ソンノヘタブ・	“sonno hetap	「本当に

824.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	お前は後悔を
825.	エキハエアン・	e=ki hawe an?"	しているのか？」
826.	イタクカラヒケ・	itakkar hike	(と)言うので
827.	ソンノアンベ・	“sonno an pe	「本当のことを
828.	アゴハエネナ・	a=ye hawe ne na.”	言っています」
829.	セコロ・	sekor	と
830.	イタクアンアワ・	itak=an awa	私が言うと
831.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんは
832.	トムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんの方を
833.	コホサリ・	kohosari	向いて
834.	アコロハヨクベ・	“a=kor hayokpe	「私の鎧を
835.	コロワエク・	kor wa ek.”	持って来い」
836.	イタクカラアワ・	itakkar awa	(と)言うのと
837.	ドムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんが
838.	ヘトボホロカ・	hetopo horka	後戻りして
839.	アルバシリコ・	arpa sir ko	行く姿が
840.	バンナタラ・	pannatara <sup>227)</sup>	薄くなっていく。
841.	シランテクコロ・	siran tek kor	しばらくすると
842.	ドムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんが
843.	エクシリコンナ・	ek sir konna	来るのが
844.	コバンナタラ・	kopannatara	うっすらと見え,
845.	アキルヱ・	arki ruwe	戻って来る様子は
846.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
847.	クンネハヨクベ・	kunne hayokpe	黒い鎧を
848.	エシヤルボク・	esiyarpok-	自分の小脇に
849.	アンバカネ・	anpa kane	抱えて
850.	アキヒタ・	arki hi ta	戻って来たときに,
851.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんは
852.	コロアクワ・	kor a kuwa	持っていた杖を
853.	アゾルボキケ・	a=corpokike	私の下に
854.	エオツケワ・	eotke wa	突き刺して
855.	イヨサウサワ・	i=osawsawa <sup>228)</sup>	私を揺さぶって
856.	イブンバヒネ・	i=punpa hine	持ち上げて
857.	フレヤチ・	hure yaci	赤い谷地
858.	ヤチテクサマ・	yaci teksama	谷地のそばに

859.	イエアシ・	i=easi	私を立てせ
860.	ドイカシケ・	tuykasike	ながら
861.	イタ■クオハズ・	itak'o hawe	言ったのは
862.	エネオヒ・ <sup>229)</sup>	ene oka hi	こうだった。
863.	タネボ・	“tanepo	「今まさに
864.	ヤヨカバシテ・	yayokapaste	お前が後悔を
865.	エキハエ・	e=ki hawe	したというの
866.	ネワネヤクネ・	ne wa ne yakne	なら
【9丁表】			
867.	エネアンクニ・	ene an kuni	こうしなさい。
868.	アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	私の鎧を
869.	アエエルサワ・	a=e=erusa wa	お前に貸すから
870.	エユブタリ・	e=yuputari	お前の兄たち
871.	コンロルンベ・	kor_ rorunpe	の戦いを
872.	コイカオバシ・	koykaopas	助けに
873.	エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	行くのだよ。
874.	ニタイバカイヱ・	Nitaypakaye	ニタイバカイエ (という)
875.	トムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんこそ
876.	ホシキノボ・	hoskinopo	最初に
877.	エコイククニブ・	e=koyki kuni p	やっつけるべきもの
878.	ネヒタバナンナ・	ne hi tapan na.	なのですよ。
879.	エコンロルンベ・	e=kor_ rorunpe	戦いが
880.	シベツテキ・チキ・ <sup>230)</sup>	sipettek ciki	終わったら
881.	アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	私の鎧は
882.	イコルラ・	i=korura	返し
883.	エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na”	なさいよ」
884.	セコロオカイベ・	sekor okay pe	ということを
885.	ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんは
886.	ズカネコロ・	ye kane kor	言いながら
887.	コロハヨクベ・	kor hayokpe	その鎧を
888.	イコタララ・	i=kotarara	私に差し出した。
889.	ヤイレンカネ・	yayrenkane	私は喜んで
890.	アウイナヒネ・	a=uyna hine	受け取って
891.	チキルンブエ・	cikir un puye	足を入れる穴に
892.	アチキリボシバレ・	a=cikirpospare	足を通し

893. テクンプエ・	tek un puye	手を入れる穴に
894. アテクボシバレ・	a=tekpospare	手を通した。
895. ネラボキ・	ne rapoki	その間に
896. ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんと
897. ドムンチフチ・	tumunci huci	トゥムンチ婆さんは
898. バゼワイサム・	paye wa isam	行ってしまった。
899. バクノネコロ・	pakno ne kor	そこで
900. アテクリキクル・	a=tekrikikur-	私は手をかかげて
901. ブンバカネ・	punpa kane	拝礼して
902. ネプカムイエ・	“nep kamuye	「何の神が
903. イドレン[カムイ/キヤ]・	i=turen ki ya	私に憑いているのか、
904. アユ■プタリ	a=yuputari	兄さんたち
905. コロドムンチ・	kor tumunci	の戦いの
906. ドムンチソカ・	tumunci so ka	戦場の上に
907. イヨルラワ・ <sup>231)</sup>	i=orura wa	私を運んで
908. イコロバレヤン・	i=korpare yan.”	ください」
909. イタクアンアワ・	itak=an awa	(と)言うど
910. タンカムイマウ・	tan kamuy maw	神風の
911. ランフムコンナ・	ran hum konna	吹き下りる音が
912. トリミムセ・	turimimse	鳴り響いた。
913. カムイマウシリカ・	kamuy maw sirka	神風の上に
914. アイゴコシネ・ <sup>232)</sup>	a=i=ekosne-	軽く
915. スイバカネ・	suypa kane	揺られつつ
916. リキンアンフミ・	rikin=an humi	上っていく音が
917. アエキサルスト・	a=ekisarsutu-	私の耳元で
918. マウクルル・	mawkururu	ビュービュー鳴り
919. アコロア・モシリ・	a=kor a mosir	人間の国
920. モシリタブカシ・	mosir tapkasi <sup>233)</sup>	国に
921. アコエソヨシマ・	a=koesoyosma	パッと飛びこんだ。
922. イヌアンヒケ・	inu=an hike	聞こえるのは
923. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたち
924. コンロルンベ・	kor_ rorunpe	の戦いの
925. ドオトリミ・ <sup>234)</sup>	tu otonrim	何度もの轟きが
926. オドキタラ・	otukitara	続く音だった。
927. コバクケサマ・	kopakkesama	そちらに

928.	ア■オイラムネレ・	a=oyramnere <sup>235)</sup>	私はひきつけられ
929.	カムイマウ・バシテ・	kamuy maw paste	神風を駆った
930.	アキロクアイネ・	a=ki rok ayne	あげく
931.	ドムンチウラル・	tumunci urar	戦争のもやが
932.	ポヤテクニシネ・	poyatek nis ne	濃い雲になって
933.	ドムンチソカ・	tumunci so ka	戦場の上に
934.	エプタカム・	eputakamu	かぶさっている
935.	ドムンチウララ・	tumunci urar	戦いのもや
936.	ウラルドム・	urar tum	もやの中へ
937.	アバエオツケ・	a=paweoatke	頭から飛び込んだ。
938.	インカルアナルゴ・	inkar=an ruwe	見たものは
939.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
940.	ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイ
941.	ウタリヒ・	utarihi	たちを
942.	ネプ・エウバク・クニブ	nep eupak kuni p <sup>236)</sup>	何者に差し向けるつもりか
943.	■ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
944.	キキリバスシケ・	kikir pasuske <sup>237)</sup>	虫がわいてくる
945.	エカンナユカル・	ekannayukar	かのような。
946.	ニタイバ・カイゴ・	Nitaypakaye	ニタイバカイエ・
947.	ニタイバラマ・	Nitayparama	ニタイバラマ (という)
948.	トムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さん
949.	ドムンチセルマク・	tumunci sermak <sup>238)</sup>	戦いの守護神が (それを)
950.	エホリビ・	ehoripi <sup>239)</sup>	鼓舞している。
951.	アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんを
952.	アヌカルシリ・	a=nukar siri	見ると
953.	エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
954.	ネイタバクノ・	ney ta pakno	どこまでも
	【10丁表】		
955.	ベウレフムセ・	pewre humse	若いおたけびで
956.	エヤイラムコトル・	eyayramkotor-	心を
957.	メウバカネ・	mewpa kane <sup>240)</sup>	奮い立たせながら
958.	ドイマドエブ・	tuyma tuye p	遠く切るものは
959.	コウサベンゾロ	kousapencor-	体をひねって
960.	キリバカネ・	kirpa kane <sup>241)</sup>	斬って
961.	ハンケドイエブ・	hanke tuye p	近く切るものは

962. エヤイテムニコロ・	eyaytemnikor-	両腕の間に
963. オケウドイエ・	okewtuye <sup>242)</sup>	斬り倒し
964. ヘルタムクリ	heru tamkuri	ただ刀影ばかりが
965. カリカネ・	kari kane <sup>243)</sup>	旋回して
966. ドブネウタラ・	tup ne utar	バラバラになった者たち
967. レブネウタラ・	rep ne utar	バラバラになった者たちが
968. ウカタテルケ・	ukataterke <sup>244)</sup>	互いに積み重なっている。
969. ニタイバカイエ・	Nitaypakaye	ニタイバカイエ (という)
970. ドムンチエカシ・	tumunci ekasi	トゥムンチ爺さんは
971. イヌカルアワ・	i=nukar awa	私を見ると
972. サンザオッタ・	sanca or_ ta	口元に
973. ミナカネ・	mina kane	笑みを浮かべて
974. エネイタキ・	ene itak_hi	こう言った。
975. アレシバピト	“a=respa pito	「私の育てた方
976. アレシバカムイ・	a=respa kamuy	育てた神よ、
977. エコンロルンベ・	e=kor_ rorunpe	お前の戦いの
978. セルマクカシ・	sermak kasi	背後を
979. アエコブンキネ・	a=ekopunkine	私が守って
980. エカンアワ・	ek=an awa	来たが
981. ネユンエアルバ・	ney un e=arpa	お前はどこへ行って
982. キルアン・	ki ru an?	いたのだ?
983. アテキサムオロケ・	a=teksam'orke	私のそばに
984. エオシラヅ・	e=osiraye	来る
985. キクニブタブ・	ki kuni p tap	の
986. ネヒタバナ・	ne hi tapan na.”	ですよ」
987. イタクカラヒケ・	itakkar hike	(と) 言うのだが
988. キンラエンキンラネ・	wen kinra ne	ひどい怒りに
989. イコホブニ・	i=kohopuni	私は腹を立てた。
990. ユブケタムケル・	yupke tamkur	強い刀影が
991. ラヨチレウネ・	rayoci rew ne <sup>245)</sup>	虹の弧に
992. クルカシケ・	kurkasike <sup>246)</sup>	なるように
993. アコタムエタイエ・	a=kotam'etaye	刀を抜いた
994. キロクアワ・	ki rok awa	のだが
995. アキワドナシ・ベ・	a=ki wa tunas pe	素早くしたのに
996. アタムエトコ・	a=tam'etoko	私の刀の前を

997. エホプニ・	ehopuni	飛びのき
998. ドイカシケ・	tuykasike	ながら (ニタイバカイエが)
999. イタコハヅ・	itako hawe	言ったのは
1000. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1001. ソンノタシ・	“sonno tasi	「本当に
1002. シスタブカ・	Sinutapka	シスタブカの
1003. コアスルアスベ・	koasur’as pe	評判が高いものを
1004. アスカルスイワ・ <sup>247)</sup>	a=nukar rusuy wa	見たくて
1005. アルバアンアワ・	arpa=an awa	私は行ったのだが
1006. ゾマブテンネブパテク・	comap tennep patek <sup>248)</sup>	愛らしい赤ん坊ばかりが
1007. オカワクス・	oka wa kusu	いたので
1008. イヨッタボンベ・	iyotta pon pe	一番小さいのを
1009. アウイナヒネ・	a=uyna hine	奪って
1010. チトムテレス・	citomteresu	丁寧に
1011. アエエカルカル・	a=e=ekarkar	育てたのが
1012. キロクアワ・	ki rok awa	お前なのだが
1013. チキマテクカ・	cikimatekka	私を慌て
1014. イエカルカル・	i=ekarkar	させてくれる
1015. キフミアン・	ki humi an.	ものだな。
1016. ゾマプレス	comapresu	私はお前を可愛がって
1017. アエカルカラ・	a=e=ekarkar <sup>249)</sup>	育てた
1018. キロクアナ・	ki rok ana <sup>250)</sup>	のだから
1019. [アウトリコイキ/トネイキ]バブ・	a=utari koykipa p	仲間と戦う連中を
1020. エドイバクニブ・	e=tuyka kuni p	お前は切るべき
1021. ネナセコロ・	ne na.” sekor	なのだよ」と
1022. キラドイカ・	kira tuyka	逃げながら
1023. イタクオ・ハヅ・	itak’o hawe	言ったことで
1024. マ■シキンクス・	maskin kusu <sup>251)</sup>	なおのこと
1025. ドルシキンラネ・	turus kinra ne	狂おしい怒りに
1026. イコホプニ・	i=kohopuni	私はかっとなった。
1027. ドルエトコ・	tu ru etoko	何度も逃げる先へ
1028. アタムノシバレ・	a=tamnospare	刀を追わせる
1029. キロクアイネ・	ki rok ayne	うちに
1030. キモイモイケ・	ki moymoyke	(相手は) 動きを
1031. エヤイワイルレ・	eyaywayrure <sup>252)</sup>	誤り, 避け損なって

1032. タムドルクシベ・	tam utur kus pe <sup>253)</sup>	刀を避けるはずのものが
1033. アタムノシキケ・	a=tamnoskike	私の刀の真ん中へ
1034. チベカレ・	cipekare <sup>254)</sup>	向かって来たので
1035. トブ■ネ■レブネ・	tup ne rep ne	私はバラバラに
1036. アオウサトイエ・	a=owsatuye <sup>255)</sup>	斬り払い、
1037. カムイノド・ <sup>256)</sup>	kamuy inotu	神の命の
1038. ホブニフムコ・	hopuni hum ko	飛び去る音が
1039. コトリミムセ・	koturimimse	鳴り響いた。
1040. エンカムイエムシ・	wen kamuy emus <sup>257)</sup>	悪神の刀で
1041. アドエク■ニブ・	a=etuye kuni p <sup>258)</sup>	斬られたもの
1042. ネアクス・	ne a kusu	だったから
1043. ドノイワンスイ・	tu noiwan suy	何十回も
1044. シツブカネヒ・	sicupka ne hi	真東の方へ
<b>【11丁表】</b>		
1045. コフムニウケシテ・	kohumniwkeste <sup>259)</sup>	飛んで行きかね（たあげく）
1046. シツボクネヒ・	sicuppok ne hi	真西の方へ
1047. コフムエラウタ・	kohum'erawta-	音低く
1048. ロルバカネ・	rorpa kane <sup>260)</sup>	沈んで
1049. バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
1050. チウセスレス・	Ciuseresu	チウセレスと
1051. カムイオトブシ・	Kamuy'otopus	カムイオトブシの
1052. テキサモロケ・	teksamoroke	すぐそばで
1053. アエタマニ・	a=etamani	私は刀で戦った。
1054. キロクアワ・	ki rok awa	そうしていると
1055. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さん
1056. ウタリヒ・	utarihi	たちは
1057. イコオトマ・	i=kootuyma <sup>261)</sup>	遠くから
1058. シッケルル・	sikkeruru	私をにらみつけ
1059. タネボボカ・	“tanepo poka	「今になってやっと
1060. ヤヨカバシテ・	yayokapaste	お前は後悔を
1061. エキシリ・	e=ki siri”	したようだな」
1062. セコロカイベ・	sekor okay pe	ということを
1063. タイゾカネ・	taye kane	言いながら
1064. アハンケトイエブ・	a=hanke tuye p	私たちが近く切るものは
1065. アエヤイテムニ・コロ・ <sup>262)</sup>	a=eyaytemnikor-	両腕の間に

1066. オケウドイヅ・	okewtuye	斬り倒し
1067. アドイマトヅブ・	a=tuyma tuye p	遠く切るものは
1068. アコウサベンゾロ	a=kowsapencor-	体をひねって
1069. キルバカネ・	kirpa kane	斬って
1070. ロルンベクルカ・	rorunpe kurka	戦いの上を
1071. マワチカブネ・	mawa cikap ne	飢えた鳥のように
1072. アクシワアニ・	a=kus wa an _hi <sup>263)</sup>	私たちが通り過ぎると
1073. チサマソネ・	cisamasone <sup>264)</sup>	倒れるものが地面を覆い
1074. チトイマドリ・	cituymaturi <sup>265)</sup>	倒れるものが遠く連なる。
1075. イtrenカムイ・	i=turen kamuy	私たちの憑き神
1076. ウタロルケへ・	utar orkehe	たちが
1077. ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイに
1078. ドレンロクカムイ・	turen rok kamuy	憑いた神と共に
1079. ウフムコライエ・	uhumkoraye <sup>266)</sup>	入り乱れる音がし
1080. カムイウコイキ・	kamuy ukoyki	神の戦いは
1081. センネサウレ・	senne sawre <sup>267)</sup>	たやすくはない
1082. アン・コトムノ・	an kotomno	らしく
1083. アエサンニヨ・	a=esanniyo	思う。
1084. ドミソクルカ・	tumi so kurka	戦場の上は
1085. チバトバド・	cipatupatu <sup>268)</sup>	大荒れとなって
1086. シリコロカムイ・	sirkorkamuy	大木で
1087. カイルスイベ・	kay rusuy pe <sup>269)</sup>	折れやすい木は
1088. スプトモルケ・	suptom orke	幹の中ほどで
1089. チコエケケケ・	cikoekekke	折れ砕け
1090. カイコパンベ・	kay kopan pe <sup>270)</sup>	折れがたい木は
1091. シンリツカタ・	sinrit ka ta	根元から
1092. コラベンタルバ・	koopentarpa <sup>271)</sup>	掘り起こされる。
1093. エム・コクス・	emkokusu	そのために
1094. ニカイルクム・	ni kay rukum	木の折れた破片や
1095. ゴントイバナ・	wen toypana	ひどい土ぼこりが
1096. カムイマウ・エトク	kamuy maw etok	神風の先に
1097. チカブボサイネ・	cikappo say ne	小鳥の群のように
1098. エホブンパ・	ehopunpa	飛ばされては
1099. ヘトボホルカ・	hetopo horka	逆に (吹き戻されて)
1100. ロルンベソカ・	rorunpe so ka	戦場の上に

1101. ヤプキンニネ・	yapkir_ ni ne	投げ木のように
1102. イジウオプクンネ・	iciw op kunne <sup>272)</sup>	投げ槍のように
1103. ラブフンコンナ・	rap hum konna	降る音が
1104. コシウシワツキ・	kosiwsiwakki <sup>273)</sup>	うなりをあげる。
1105. アコロルンベ・	a=kor rorunpe	我々の戦いは
1106. ユプケシリ・	yupke siri	激しかった。
1107. イランビシ■キレ・	irampiskire	数え
1108. アキヒケ・	a=ki hike	ると
1109. タネアナクネ・	tane anakne	今は
1110. サクバ・イワンバ・	sak pa iwanpa	夏六年
1111. マタバ・イワンバ・	mata pa iwanpa	冬六年
1112. アキロクアイネ・	a=ki rok ayne	たったのだが
1113. タネアナクネ・	tane anakne	今や
1114. ドムンチカムイ・	tumunci kamuy <sup>274)</sup>	トゥムンチカムイを
1115. セタクイキリ・ <sup>275)</sup>	seta kikir	犬につく虫 (までも)
1116. ウアスラシケ・	uasuraske	噂を伝える (もの) を
1117. アエケシケカル・	a=ekeskekar <sup>276)</sup>	殺しつくした。
1118. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1119. アタムラエチウ・	a=tamraeciw <sup>277)</sup>	私たちは刀を鞘に収め、
1120. ■バクノネコロ・	<del>pakno ne kor</del>	<del>そうして</del>
1121. カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシ
1122. ボナコロユビ・	pon a=kor yupi	兄さんは
1123. アエハヨクロクベ・	a=eheyok rok pe	私が武装していたものを
1124. イコタララ・	i=kotarara	私に差し出した。
1125. アウイナヒネ・	a=uyna hine	私は受け取って
1126. ドムンチカムイ・	tumunci kamuy <sup>278)</sup>	トゥムンチカムイ
1127. コロハヨクベ・	kor hayokpe	の鎧を
1128. アヤイコビタ・	a=yaykopita	脱いで
1129. アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	自分の鎧を
1130. アミヒネ・	a=mi hine	着て
1131. ドムンチカムイ・	tumunci kamuy	トゥムンチカムイ
1132. コロハヨクベ・	kor hayokpe	の鎧に
1133. アオイタクコテ・	a=oytakkote <sup>279)</sup>	(感謝の) 言葉を添えて
1134. アシリコオテルケ・	a=sirkooterke	激しく踏みつけると
1135. ボクナモシリ・	pokna mosir	下の国へ

1136. オランフムコンナ・	oran hum konna <sup>280)</sup>	(鎧が) 落ちる音が
1137. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
【12丁表】		
1138. ハヨクベカムイ・	hayokpe kamuy	鎧が
1139. エベカウシケ・	epeka uske <sup>281)</sup>	当たったところ (で)
1140. ドカムイライフム・	tu kamuy ray hum	多数の神の死ぬ音が
1141. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
1142. バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
1143. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちは
1144. アルイカカ・	ar ikaka (? <sup>282)</sup>	すぐに続けて (?)
1145. エホブンパ・	ehopunpa	飛び立ち
1146. アシヌマカ・	asinuma ka	私も
1147. イトラアンワ・	itura=an wa	一緒に
1148. ヤブアン・アイネ・	yap=an ayne <sup>283)</sup>	帰ると (そこは)
1149. アイエロクニ・	a=ye rok kuni	いわゆる
1150. シヌタブカ・	Sinutapka	シヌタツカの
1151. アコロザシ・	a=kor casi	私たちの山城に
1152. アアルコトムカ・	aarkotomka	違いない。
1153. ザシカムイ・	casi kamuy	山城の神が
1154. アンナンコラ・	an nankor _ya?	いるのだろうか。
1155. カムイエワクシリ・	kamuy ewak siri	神が住まうのを
1156. アヌカルロク・	a=nukar rok	見た
1157. アヤク・アイコネンパ・	a yak a=ikonenpa <sup>284)</sup>	さながらの
1158. セムコラチ・	semkoraci	ごとく
1159. ザシカムイ・	casi kamuy <sup>285)</sup>	山城の
1160. ビリカルエ・	pirka ruwe	すばらしさに
1161. ラヤブケウトム・	rayap kewtum	感心する気持ちを
1162. アヤイコロバレ・	a=yaykorpore	抱き
1163. ザシサムカタ・	casi sam ka ta	山城のそばに
1164. ホラオチウバ・	horaociwpa	サッと降りた。
1165. アキワ・	a=ki wa	そうして
1166. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちが
1167. ホシキノボ・	hoskinopo	先に
1168. アフブルエネ・	ahup ruwe ne.	入った。
1169. イヨシノ・アフナン・	iosno ahun=an	その後から私も入る。

1170. カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシ
1171. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
1172. アムソクルカ・	amso kurka	床の上を
1173. バルバル・	paruparu <sup>286)</sup>	払い
1174. タンルイ・アベ・	tan ruy ape	激しい火を
1175. エバルセレ・	eparsere	扇ぎ起こし
1176. ビリカスケ・	pirka suke	素晴らしい炊事をしに
1177. エヤイケスプカ・	eyaykesupka-	あちらこちら
1178. エワクカネ・	ewak kane <sup>287)</sup>	立ち働いて
1179. ビリカメシ・	pirka mesi	おいしい飯を
1180. ヤンケヒネ・	yanke hine	炊き上げて
1181. イベアンカド・	ipe=an katu	私たちが食事をする様子は
1182. アオモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
1183. バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
1184. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さん
1185. ウタリヒ・	utarihi	たちが
1186. タンビフムカ・	tampi humkan <sup>288)</sup>	刀を抜く音が
1187. ナイコサンバ・	naykosampa	鳴り響く。
1188. エムシメクカ・	emus mekka	刀の峰を
1189. イコキルパ・	i=kokirpa	私のほうに向け
1190. ドイカシケ・	tuykasike	ながら
1191. イタコハゼ・	itako hawe	言ったのは
1192. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1193. アエンアキヒ・	“a=wen'akihi	「悪い弟め、
1194. アエレスボカ・	a=e=resu poka	お前を育てるだけでも
1195. エヤイコラム・	eyaykoramu-	子育てするのに
1196. ベテツネアワ・	petetne awa	苦労したが
1197. トムンチエカシ・ <sup>289)</sup>	tumunci ekasi	トムンチ爺さんに
1198. アエエイ[ツ/■]カワ・ <sup>290)</sup>	a=e=eikka wa	お前を盗まれて
1199. エエヲツコタン	e=eot kotan <sup>291)</sup>	お前の居場所を
1200. チコフナラ・	cikohunara <sup>292)</sup>	探したのだ。
1201. タバンバクス・	tapanpe kusu	だから
1202. スクブネヤクカ・	sukup ne yakka	私たちは成長しても
1203. エリクネスクブ・	erikne sukup <sup>293)</sup>	苦労した生活を
1204. アキロク・アワ・	a=ki rok awa	したのだが

1205. ヤアニホンコ・	yaanihonko <sup>294)</sup>	すんでのところで
1206. ウバカシヌモシリ・	upakasnu mosir	お前は罰の国に
1207. アエオルラワ・	a=e=orura wa	連れて行かれて
1208. ヤヨカバシテ・	yayokapaste	後悔したと
1209. エキシリアン・	e=ki siri an?"	いうのだな」
1210. セコロカイベ・	sekor okay pe	と
1211. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちが
1212. イコバシロタ・	i=kopasrota	私をしっかりとつける (と)
1213. コラムシンネ・	koramusinne <sup>295)</sup>	私は心が
1214. アキワ・	a=ki wa	安らいで (それからは)
1215. ランマカネ・	ramma kane	いつもどおりに
1216. オカアンヒケ・	oka=an hike	暮らしていたが
1217. アヤイコドイマ・	a=yaykotuyma-	思いを
1218. シラムスゴワ・	siramsuye wa	めぐらせて
1219. イヌアンヒケ・	inu=an hike	みると
1220. ドムンチエカシ・	"tumunci ekasi	「トウムンチ爺さんの
1221. ニタイパカイエ・	Nitaypakaye	ニタイパカイエ
1222. コロエンケウドム・	kor wen kewtum	の悪い精神 (のせい) で
1223. オバカネレ・	opakanere <sup>296)</sup>	私は馬鹿に
1224. アキロククス・	a=ki rok kusu	なったから
1225. エムコサマ・	emkosama	そのために
1226. アエオイナカムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイ
1227. コットレシ・	kor_ turesi	の妹を
1228. エネアン【13丁表】カムイ・	ene an kamuy	あれほどの神
1229. エネアンピト・	ene an pito	あれほどの方を
1230. シコイバクテ・	sikoypakte	怒らせて
1231. アキヤセコロ・	a=ki ya?" sekor	しまったのか」と
1232. ヤイヌアンヒケ・	yaynu=an hike	思うと
1233. イベケラ・	ipe kera	食事の味も
1234. アヤイコサクカ・	a=yaykosakka <sup>297)</sup>	感じられない。
1235. ランマカネ・	ramma kane	いつも (どおりに)
1236. アナンヒケ・	an=an hike	暮らしていたが
1237. シネアントタ・	sineantota	ある日
1238. トヌマンイベ・	tu numan'ipe <sup>298)</sup>	大量の夕食を
1239. アエウルオカ・	a=euuoka-	すっかり

1240. カルバレコロ・	karpare kor <sup>299)</sup>	終わると
1241. カネアムセツ・	kane amset	金の寝台
1242. アムセチクルカ・	amset kurka <sup>300)</sup>	寝台の上に
1243. アコヤイタバ・	a=koyaytapa	横になって
1244. ホツケアンカド・	hotke=an katu	私が寝る様子は
1245. アオモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
1246. キブネコロカ・	ki p ne korka	そうしていたが
1247. モコロボカイキ・	mokor pokayki	眠るのも
1248. ア■エトランネ・	a=etoranne	嫌になり
1249. ソッキアサム・	sotki asam	寝床の底を
1250. アンバカムイ・	anpa kamuy	持つ神が
1251. イエリキクル・	i=erikikur-	私を上
1252. オツケベコロ・	otke pekor	突き上げるかのように
1253. アマネンボク・	aman enpok	梁の下を
1254. アンバカムイ・	anpa kamuy	持つ神が
1255. イエラナ・	i=erana-	私を下に
1256. オツケ・ベコロ・	otke pekor	突き刺すかのように
1257. ヤイヌアンワ・	yaynu=an wa	思って
1258. エムコクス・	emkokusu	そのために
1259. ソッキカタ・	sotki ka ta	寝台の上で
1260. シキルマンバ・	sikirmampa <sup>301)</sup>	私は寝返りを打った
1261. アキロクアイネ・	a=ki rok ayne	あげく
1262. ソッキカワ・	sotki ka wa	寝台の上から
1263. アキホブニ・	a=ki hopuni	起き上がり
1264. セタビシボ・	setapispo <sup>302)</sup>	犬が静かに歩くのを
1265. アアイルケ・	a=ayruke <sup>303)</sup>	真似て
1266. イヨイキリカワ・	ioykir ka wa	宝壇から
1267. アコロハヨクベ・	a=kor hayokpe	自分の鎧を
1268. アウイナヒネ・	a=uyna hine	取り出して
1269. チキルクニ・	cikir un kuni <sup>304)</sup>	足を入れるところに
1270. アチキリボシバレ・	a=cikirpospare	足を通し
1271. テクウン・ウシケ・	tek un uske	手を入れるところに
1272. アテクボシバレ・	a=tekpospare	手を通した。
1273. ウラカネクツ・ <sup>305)</sup>	uokkanekut	金鎖のベルトを
1274. エアルサイネノ・	earsayneno	ただ一巻きに

1275. アヤイコサイヅ・	a=yaykosaye	自分の体に巻き
1276. カバラベカサ・	kaparpe kasa	薄手の笠
1277. カサランドベブ・	kasa rantu pep	笠のあご紐を
1278. アヤイコユブ・	a=yaykoyupu	ぎゅっと締める。
1279. バク■ノネコロ・	pakno ne kor	それから
1280. ソイワサンマ・	soywasamma	外に
1281. アオシライヅ・	a=osiraye	出た。
1282. バクノネコロ・	pakno ne kor	そして
1283. カントコトル・	kanto kotor	空へ
1284. アコシエタイヅ・	a=kosietaye	飛び立って
1285. ウラルカント・	urar kanto	霞の天を
1286. アランボソレ・	a=ramposore <sup>306)</sup>	突き抜け
1287. ノチウオカント・	nociw'o kanto	星の天を
1288. アランボソレ・	a=ramposore	突き抜け
1289. [■/カ]ムイモシロル・	kamuy mosir or	神の国に
1290. アコエソヨシマ・	a=koesoyosma	パッと飛び出た。
1291. タン・キヌブソ・	tan kinupso	この木原
1292. キヌブソクルカ・	kinupso kurka	木原の上は
1293. コマクナタラ・	komaknatara	広々と開けている。
1294. キヌブソカシ・	kinupso kasi	木原の上に
1295. チザリコムニタイ・	cicari komnitay	散らばったカシワの木が
1296. エロシキカド・	eroski katu	立っている様子は
1297. アオモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
1298. キヌブソドラシ・	kinupso turasi	木原に沿って
1299. カムイマウ・	kamuy maw	神風を
1300. バシテ・アキワ・	paste a=ki wa	走らせて
1301. アルバアンアイネ・	arpa=an ayne	行くうちに
1302. ホシキノカネ・	hoskino kane	以前
1303. アエオイナ・カムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイが
1304. イヨルラ・ <sup>307)</sup>	i=orura	私を運んだ
1305. カムイカルザシ・	kamuy kar casi	神造りの山城に
1306. クンネトタ・	kunne to ta <sup>308)</sup>	まだ暗いうちに
1307. アコシレバ・	a=kosirepa	到着した。
1308. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1309. セタビシボ・	seta pispo	私は犬が静かに歩くのを

1310. アアイルケ・	a=ayruke	真似て
1311. アブンノカネ・	apunno kane	そっと
1312. アフンアンヒネ・	ahun=an hine	入って
1313. アバテクサムン・	apa teksam un <sup>309)</sup>	戸のそばから
1314. シネキニチ・	sine kinit	一本の茅の茎を
1315. アエイゴヒネ・	a=etaye hine <sup>310)</sup>	引き抜いて
1316. チウナアベ・	ciwnaape	埋み火を
【14丁表】		
1317. アエポイボゴ・	a=epoypoye	かき回すと
1318. カンヌイカタ・	kannuy ka ta	炎で
1319. パルコサンバ・	parkosanpa <sup>311)</sup>	パッと光る。
1320. オハリキソウン・	oharkisoun	左座に
1321. ボンメノコ・	pon menoko	若い娘が
1322. チアマソツキ・	ciama sotki	置かれた寢床
1323. ソツキカタ・	sotki ka ta	寢床の上に
1324. ホツケルゴ・	hotke ruwe	横たわる様子は
1325. ムクルクルカ・	mukru kurka	枕の上に
1326. オクケウマカ・	okkewmaka-	うなじを
1327. アツテ・カネ・	atte kane <sup>312)</sup>	乗せて
1328. ネイタクスン・	ney ta kusun	相変わらず
1329. ボンメノコ・	pon menoko	娘は
1330. シリカゴナ・	sirka wen _ya <sup>313)</sup>	美しいことだ。
1331. カムイサンナヌ・	kamuy sannanu	神々しい顔は
1332. スクシトイクンネ・	sukustoy kunne <sup>314)</sup>	真昼の日差しのように
1333. イエヌツプキ・	ienucupki <sup>315)</sup>	まばゆい光が
1334. チウレカネ・	ciwre kane	さしていて
1335. バクノネコロ・	pakno ne kor	そこで私は
1336. アコラキニツ・	a=kor a kinit	持っている茅の茎（の火）を
1337. アウシカヒネ・	a=uska hine	消して
1338. ボンメノコ・	pon menoko	娘の
1339. テクサマハ・	teksamaha	そばに
1340. アコヤイタババ・	a=koyaytapapa	横になって
1341. ホツケ・アンワ・	hotke=an wa	寝て
1342. アナンアイネ・	an=an ayne	いるうちに
1343. タネアナネ・ <sup>316)</sup>	tane anakne	もはや

1344. ベケルニサツ・	peker nisat	明るい夜明けが
1345. ヘベク・バクノ・	hepeku pakno <sup>317)</sup>	ほのほのするまで
1346. アナンアワ・	an=an awa	私は（そこに）いたが
1347. ボンメノコ・	pon menoko	娘が
1348. ヘサシワ・	hesasi wa	（起きて）私の方を
1349. シキルアワ・	sikiru awa	振り向くと
1350. イヌカルロクベ・	i=nukar rok pe <sup>318)</sup>	私を見つけて
1351. アルベウタンケ・	ar pewtanke	激しい危急の
1352. クスズゴ・	kususuye <sup>319)</sup>	叫びをあげ
1353. トイカシケ・	tuykasike	ながら
1354. イタコ・ハゴ・	itako hawe	言ったことは
1355. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1356. ボカシカウン・	“pokas ka un <sup>320)</sup>	「あんなに
1357. シスタブカウクル・	Sinutapkaunkur <sup>321)</sup>	シスタブカウクルは
1358. チヤイボカシテ・	ciyaypokaste <sup>322)</sup>	私を不足として
1359. チヤイハイタレ・	ciyayhaytare	私に飽き足ら
1360. イエカルカルクス・	i=ekarkar kusu <sup>323)</sup>	なかったから
1361. アビリカ■イゴアブ・	a=pirkaye a p <sup>324)</sup>	私の善意の言葉を
1362. チコオテルケ・	cikooterke	踏み
1363. イゴカルカラベ・	i=ekarkar pe <sup>325)</sup>	にじったの
1364. イキロクアワ・	iki rok awa	だったのに
1365. ヘマンタカルベ・	hemanta kar pe <sup>326)</sup>	何をしに
1366. タネバキタ・	tane pakita <sup>327)</sup>	今頃になって
1367. アリキヒネ・	arki hine	やって来て
1368. イサムタ・ホツケ・	i=sam ta hotke	私のそばに寝て
1369. キルゴアン・	ki ruwe an?“	いるのよ？」
1370. ボンメノコ・	pon menoko	（と）娘が
1371. オドシゼンバ・	otu siwenpa	多くの悪口を
1372. イコスズゴ・	i=kosuye	言って
1373. キロクアワ・	ki rok awa	いると
1374. アエイナカムイ・ <sup>328)</sup>	Aeoynakamuy	アエオイナカムイは
1375. ハヲロモシベ・	haworomos pe <sup>329)</sup>	（その）声で目覚めたが
1376. イコバシロタ・	i=kopasrota	私を叱りつけて
1377. エネオカヒ・	ene oka hi	こう言った。
1378. ウサイ■ネカタブ・	“usayne ka tap	「これはこれは

1379. シスタブカ・	Sinutapka	シスタブカの
1380. アエンアキヒ・	a=wen'akihi	悪い弟が
1381. カッコロシリ・	katkor siri	ふるまうさまは
1382. アオヤネネナ・	a=oyanene na. <sup>330)</sup>	けしからんことだ。
1383. アビリカイトキ・	a=pirkaitaki	私のよい言葉を
1384. チコオテルケ・	cikooterke	踏みにじり
1385. アコットレシ・	a=kor_ turesi	私の妹を
1386. チヤイボカシテ・	ciyaypokaste	不足として
1387. ビリカイトキ・	pirka itaki <sup>331)</sup>	よい言葉を
1388. チコオテルケ・	cikooterke	踏みにじったのは
1389. エエカルカラ・	e=ekarkar	お前だ。
1390. タバンベクス・	tapanpe kusu	だから
1391. シニシコロカムイ	sinis kor kamuy <sup>332)</sup>	天の神 (である)
1392. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神は
1393. ドイリワクネワ・	tu irwak ne wa	二人兄弟で (あるが)
1394. ボニウネカムイ・	poniwne kamuy	その年下の神に
1395. アコットレシ・	a=kor_ turesi	私の妹を
1396. チコエドン・	cikoetun	嫁にやることにした。
1397. タバンベクス・	tapanpe kusu	そこで
1398. ラムチオシマ・	ram ciosma <sup>333)</sup>	我々は同意を
1399. アエカルカルワ・	a=ekarkar wa	して
1400. ウヌカルサケ・	unukar sake	会見の酒
1401. ウエチトノト・	ueciw tonoto <sup>334)</sup>	婚礼の酒を
1402. アカルロクアワ・	a=kar rok awa	醸したのに
1403. アニエビッタ・	an'epitta <sup>335)</sup>	一晩中
1404. チコソモクル■・	cikosomokur	我々に対して無遠慮な
1405. ヤイカタス・	yaykatanu <sup>336)</sup>	ことを
1406. イエカルカル・	i=ekarkar	して
1407. エキシリアン・	e=ki siri an?	いたのか。
1408. ネヒサマタ・	ne hi sama ta <sup>337)</sup>	しかし
1409. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神
1410. コンラメトク・	kor_ rametok	の武勇に対して
1411. チコモイモイヅ・	cikomoymoye <sup>338)</sup>	お前が手並みを
1412. エエカルカル・	e=ekarkar	披露

【15丁表】

1413. キヒアナクネ・	ki hi anakne	することは
1414. サウレクニブ・	sawre kuni p	たやすいことでは
1415. ソモタバンナ・	somo tapan na.	ないでしょうね。
1416. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神に
1417. ドレンロクカムイ・	turen rok kamuy	憑いた神は
1418. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1419. カネフリ・	kane huri	金のフリが
1420. ウビシレホチ・ <sup>339)</sup>	upis re hot <sup>340)</sup>	全部で60羽,
1421. ヤヤンフリ・	yayan huri	ただのフリが
1422. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60羽
1423. ネルエネ・	ne ruwe ne.	なのだ。
1424. サウレカネ・	sawre kane	たやすく
1425. カムイロルンベン・ <sup>341)</sup>	kamuy rorunpe	神の戦争を
1426. エコアンクニブ・	e=koan kuni p <sup>342)</sup>	受けるべきでは
1427. ソモタバンナ・	somo tapan na.	ありませんよ。
1428. イキオクカヨ・	iki okkayo <sup>343)</sup>	お前は生意気な男
1429. エネロクアナ・	e=ne rok ana <sup>344)</sup>	だから
1430. イキネイベカ・	ikineypeka	決して
1431. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神の
1432. タムモンボキ・	tam monpoki	刀下に
1433. エオシマキナ・	e=osma ki na.” <sup>345)</sup>	伏すなよ」
1434. アエオイナカムイ・	Aeoynakamuy	(と) アエオイナカムイが
1435. イラムケシカシ・	i=ramkeskasi <sup>346)</sup>	私の心に
1436. カチウカネ・	kaciw kane	鞭を入れて
1437. カンナ・ルイノ・	kanna ruyno	再び
1438. イタクカルハヅ・	itakkar hawe	言ったのは
1439. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1440. エチウコイキシリ・	“eci=ukoyki siri	「お前たちが戦うときには
1441. エネアンクニ・	ene an kuni	こうするべきだ。
1442. アコロモシリ・	a=kor mosir	私の国
1443. モシリヅブボキ・	mosir cuppoki	国の西に
1444. エチオバヅワ・	eci=opaye wa	行って
1445. エチウコイキクニブ・	eci=ukoyki kuni p	戦うように
1446. ネヒタバンナ・	ne hi tapan na.”	するのですよ」

1447. セコロオカイベ・	sekor okay pe	ということを
1448. タイゾカネ・	taye kane	言い並べると
1449. バクノネロ・ <sup>347)</sup>	pakno ne kor	それから
1450. ソイワサンワ・	soywasamwa <sup>348)</sup>	私は外に
1451. アオシラズ・	a=osiraye	出た。
1452. キロクアワ・	ki rok awa	そうすると
1453. シニシカント・	sinis kanto	本当の天で
1454. プシコサンバ・	puskosanpa	破裂するような爆音がして
1455. バセカムイ・	pase kamuy	重い神の
1456. ランフムコンナ・	ran hum konna	降りてくる音が
1457. ドリミンセ・	turimimse	鳴り響く。
1458. ニシラ■ブエムコ・	nisrap emko <sup>349)</sup>	雲の先端で
1459. スムヌカウカウ・	numnu kawkaw	大粒のあられ
1460. スムヌアプト・	numnu apto	大粒の雨の
1461. エランフムコンナ・	eran hum konna	降る音が
1462. コセベバッキ・	kosepepatki <sup>350)</sup>	バラバラと鳴る。
1463. ネラボキ・	ne rapoki	その間に
1464. ツブボクネヒ・	cuppok ne hi	私が西に
1465. アコイカトリ・	a=koykaturi <sup>351)</sup>	急ぎ足で
1466. キロクアワ・	ki rok awa	向かうと
1467. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神は
1468. オトシヅンバ・	otu siwenpa	何度も悪口を
1469. シロタツパ・	sirotatpa	ぶちまけ
1470. エネイタキ・	ene itak _hi	こう言う。
1471. シスタツカ・	“Sinutapka	「シスタツカの
1472. ボイヤウンベ・	Poyyaunpe	ボイヤウンベ、
1473. ズナイヌサニ・	wen aynu sani,	悪い人間の子孫め。
1474. エイキシリ・	e=iki siri	お前がしたことは
1475. チコマドク・	cikomatum	妻盗みの
1476. ユブケヒケ・	yupke hike <sup>352)</sup>	目に余るもの
1477. イエカルカルヤ・	i=ekarkar ya? <sup>353)</sup>	なのか。
1478. ソオネウサ・	soone usa <sup>354)</sup>	もしや
1479. オホンノカネ・	ohonno kane	長いこと
1480. ゼヤイラムテムカ・	ceyayramtemka <sup>355)</sup>	心のままに
1481. デエエヤイラムテムカ・ <sup>356)</sup>	a=e=eyayramtemka	心のままに

1482. キナンコラ・	ki nankor _ya? <sup>357)</sup>	振る舞ったのか。
1483. エイククス・	e=iki kusu	それならば
1484. チコヤイエツバ・	cikoyayyuppa <sup>358)</sup>	奮戦して
1485. エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.”	足掻けよ」
1486. イタクドラノ・	itak turano	(という) 言葉とともに
1487. アクルカシケ・	a=kurkasike <sup>359)</sup>	私の上に
1488. コタムエタイゾ・	kotam'etaye	向かって刀を抜く。
1489. イルシカ・カムイ・	iruska kamuy	怒れる神
1490. シヤンテ・カムイ・	siyante kamuy	腹を立てた神
1491. ネブネクス・	ne p ne kusu	であるから
1492. ドワンタムチバ・	tuwan tam cipa <sup>360)</sup>	何十の剣撃
1493. レワンタムチバ・	rewan tam cipa	幾十の剣撃を
1494. イコテルケレ・	i=koterkere	私に投げつける
1495. キブネコロカ・	ki p ne korka	のだが
1496. タムウドル・	tam utur	私は刀の間を
1497. ベケンレラネ・	peker_ rera ne	そよ風のように
1498. アマウノヱレ・	a=mawnoyere	ひらりと避け
1499. カン■トコトル・	kantokotor	天へ
1500. アコシエタイゾ・	a=kosietaye	飛び去る。(すると)
1501. ラクシタムクル・	ra kus tamkur	下を通る太刀影は
1502. ラブセヌイネ・	rapse nuy ne	飛び散る炎のように
1503. リクシ・タムクル・	rik kus tamkur <sup>361)</sup>	上を通る太刀影は
1504. ホブニヌイネ・	hopuni nuy ne	舞い上がる炎のように
1505. イゾオヌイタ・	i=eonuyta <sup>-362)</sup>	炎を燃やして
1506. ブクテカネ・	pukte kane	私を追うが
<b>【16丁表】</b>		
1507. テクシチカブネ・	tek us cikap ne <sup>363)</sup>	手の生えた鳥のように
1508. テクシ[チカヅ/トリ]ネ・	tek us tori ne	手の生えた鳥のように
1509. アルラコ・	arurako-	私は翼を
1510. ツツバ・アンワ・	cuppa=an wa <sup>364)</sup>	羽ばたかせて
1511. フムネアンコロ・	humne an kor	ある時は
1512. モシリソクルカ・	mosir so kurka	私は国土の上に
1513. アゼラナ・	a=cerana-	降りて
1514. スヲツツケ・	suototke <sup>365)</sup>	急降下して
1515. アワキナ・	awa kina <sup>366)</sup>	青草の

1516. キナゾルボキ・	kina corpoki	草の下へ
1517. エムケテルケ・	emuketerke <sup>367)</sup>	もぐり走る。
1518. アキアンコロ・	a=ki an kor <sup>368)</sup>	そうしていると
1519. アキナコイバケ・	a=kinakoypake <sup>369)</sup>	私の（いる）草むらの上
1520. アキナコイケセ・	a=kinakoykese	私の（いる）草むらの下を
1521. ■コタタカル・	kotatakar <sup>370)</sup>	（雷の神は）叩き切る。
1522. フムネアンコロ・	humne an kor	またある時は
1523. シリコルカムイ・	sirkorkamuy	私は大木の
1524. カンニテケ・	kanniteke <sup>371)</sup>	梢の枝に
1525. アドクドクドク・	a=kotukkotuk <sup>372)</sup>	飛び移り
1526. イエオラウキヅ・	i=eorawki p	私を取り逃した奴は
1527. シリコロカムイ・	sirkorkamuy	（私のいた）大木の
1528. カンニテケ・	kanniteke	梢の枝を
1529. コランケカル・	korankekar <sup>373)</sup>	切り落とす。（すると）
1530. アンヌキッポ・	annukippo <sup>374)</sup>	彼がしたとおりに
1531. アエモンタサ・	a=emontasa	私は仕返す。
1532. アタムエトコ・	a=tam'etoko	（相手は）私の刀の前を
1533. エホブニ・	ehopuni	飛びのき
1534. アタムニコッタ・	a=tamnikor_ ta <sup>375)</sup>	紙一重で
1535. セットコハヅ・	settok have <sup>376)</sup>	押し殺した声か
1536. カリカネ・	kari kane	聞こえて
1537. ホシキアキヅ・	hoski a=ki p	最初に私がしたのと
1538. コラチネノ・	koraci neno	同じように（して） <sup>377)</sup>
1539. アワキナ・	awa kina	私は青草の
1540. キナコヒバケ・ <sup>378)</sup>	kina koypake	草むらの上
1541. キナコヒケセ・	kina koykese	草むらの下を
1542. アコタタカラ・	a=kotatakar	叩き切る。
1543. シリコロカムイ・	sirkorkamuy	（相手が）大木の
1544. カンテクカシ・	kantek kasi	上の枝の上を
1545. コドクドクコロ・	kotukkotuk kor	飛び回ると
1546. シリコロコロカムイ・ <sup>379)</sup>	sirkorkamuy	私は大木の
1547. カンニテケ・	kanniteke	梢の枝を
1548. アコランケカラ・	a=korankekar	切り落とす。
1549. フムネアンコロ・	humne an kor	またある時は
1550. シルシロルンベ・	sirus rorunpe <sup>380)</sup>	差し向かいでの戦いで

1551. アエウコドイマ・	a=eukotuyma-	私たちは永い間
1552. シアリキキ・	siarikiki <sup>381)</sup>	奮戦した。
1553. エムシカネフム・	emus kane hum	刀の金属音が
1554. オロネアンベ・	oroneanpe <sup>382)</sup>	次々に
1555. コナイナタラ・	konaynatara	鳴りわたる。
1556. シンラボキ・	sir_ rapoki <sup>383)</sup>	その瞬間
1557. イドレンカムイ・	i=turen kamuy	私の憑き神と
1558. カムイドレンベ・	kamuy turenpe	(雷の) 神の憑き物とが
1559. ウフムコツブ	uhumkocupu <sup>384)</sup>	いっしょになって
1560. センネサウレ・	senne sawre <sup>385)</sup>	ずいぶんと
1561. カムイロルンベ・	kamuy rorunpe	神の戦いは
1562. ユプケコトム・	yupke kotom	激しいように
1563. アエサンニヨ・	a=esanniyo	思った。
1564. シアシカムイマウ・	siaskamuymaw <sup>386)</sup>	激しい神風が
1565. ロルンベソカ・	rorunpe so ka	戦場の上に
1566. エランフンコンナ・	eran hum konna	吹き下りる音が
1567. ドリミンセ・	turimimse	鳴り響く。
1568. シリコルカムイ・	sirkorkamuy	大木で
1569. カイコパンベ・	kay kopan pe	折れがたいものは
1570. シンリッカタ・	sinrit ka ta	根元から
1571. コオベンタルバ・	koopentarpa	掘り起こされ
1572. カイルスイバブ・	kay rusuy pa p	折れやすいものは
1573. スプトムオロケ・	suptom orke	幹の中ほどで
1574. チコエケクケ・	cikoekekke	折れ砕け
1575. アワキナ・	awa kina	青草の
1576. キナトイバケ・	kina toypake	草の上
1577. キナトイケセ・	kina toykese	草の下を
1578. カムイマウ・ソソ・	kamuy maw soso	神風が剥がし
1579. カムイマウ・ブンバ・	kamuy maw punpa	神風が持ち上げて
1580. イキンラボキ・	ikin rapoki	いると
1581. インネカムイ・	inne kamuy	多くの神が
1582. アコロルンベ・	a=kor rorunpe	私たちの戦い
1583. ロルンベテクサム・	rorunpe teksam	戦いのそばに
1584. ウレクシバレ・	urekuspare <sup>387)</sup>	やって来ていた。
1585. アエオイナカムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイ

1586. ネワネヤクカ・	ne wa ne yakka	も
1587. アリキキワ・	arki ki wa <sup>388)</sup>	やって来て
1588. コスミナサム・	konuminasam <sup>389)</sup>	せせら笑いを
1589. オマカネ・	oma kane	浮かべ
1590. クルカシケ・	kurkasike	ながら
1591. イタコハゴ・	itako hawe	言ったのは
1592. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1593. カンナカムイ・	“kanna kamuy,	「雷の神よ,
1594. ルイノタマニ・	ruyno tamani	激しく刀を使い
1595. エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.	なさいよ。
1596. アイヌアクボ・	aynu akpo	人間の弟の
1597. タムモンボキ・	tam monpoki	刀下に
1598. エネアヤクネ・	e=ne a yakne <sup>390)</sup>	倒れては
1599. セモクヨラム・	semokkayoram <sup>391)</sup>	男らしくないと
1600. アエコレキナ・	a=e=kore ki na.”	思われるよ」
1601. セコロ・イタクコロ・	sekor itak kor	と言いながらも
1602. フムネ・アンコロ・	humne an kor	時には
1603. アエオイナ・カムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイは
1604. イコホサリ・	i=kohosari	私の方も振り返り
<b>【17丁表】</b>		
1605. シヌタブカ・	“Sinutapka	「シヌタップカの
1606. アイヌアクボ・	aynu akpo,	人間の弟よ,
1607. ルイノタマニ・	ruyno tamani	激しく刀を使い
1608. ルイノ・モイモイケ・	ruyno moy moyke	激しく動くの
1609. エキナンコンナ・	e=ki nankor_ na.”	だよ」
1610. ウゴコホビ・ <sup>392)</sup>	uekohopi	(と) 代わる代わる
1611. イラムケシカシ・	i=ramkeskasi	私たちの心に
1612. カチウカネ・	kaciw kane	鞭を入れる。
1613. フムネアンコロ・	humne an kor <sup>393)</sup>	時には
1614. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神の
1615. シアン・ネトバ・	siannetopa <sup>394)</sup>	本当の体は
1616. シチブニドマム・	sicipni tumam <sup>395)</sup>	舟材にする大木の幹の
1617. シコバヤル・	sikopayar	ようで
1618. キラウスツコンナ・	kiraw sut konna	角の根元は
1619. ネンケカネ・	nenke kane <sup>396)</sup>	ねじれ

1620. ラムラムリキ・	ramram riki	うろこを高く
1621. ロシキカネ・	roski kane	立てて
1622. ラムラム・ウトルワ・	ramram utur wa	うろこの間から
1623. ゴナベイキリ・	wen ape ikir	激しい火の列が
1624. ホラオチゴ・	horaociwe	さっと落ちてくる。
1625. アワキナ・	awa kina	青草の
1626. キナハブクルカ・	kina hap kurka <sup>397)</sup>	草の先が
1627. チタトイ・バクノ・	citatoy pakno <sup>398)</sup>	掘り起こした畑
1628. チタトイカス・	citatoy kasu	以上に（荒廃して）
1629. ウフイワバイゴ・	uhuy wa paye	燃えていく。
1630. フムネアンコロ・	humne an kor	時には
1631. サクルヤンベ・	sak ruyanpe	夏の嵐の
1632. ユプケヒケ・	yupke hike	激しいのが
1633. ホラオチウエ・	horaociwe	さっと落ちて
1634. モシリソクルカ・	mosir so kurka	大地の上に
1635. エランフムコンナ・	eran hum konna	降る音が
1636. サシナタラ・	sasnatara	ザーザーと鳴り
1637. ウフイロクウシケ・	uhuy rok uske	燃えたところが
1638. ウシワバイゴ・	us wa paye	消えていく。
1639. ■ネイタクス・	ney ta kusu	相変わらず
1640. カムイロルンベ・	kamuy rorunpe	神の戦いを
1641. アヌカラ・アヤク・	a=nukar a yak <sup>399)</sup>	見たら
1642. アコイネンパ・	a=koynenpa <sup>400)</sup>	私たちの戦いのようだろう
1643. セムコラチ・	semkoraci	と思うほどに
1644. ロルンベソカ・	rorunpe so ka	戦場の上は
1645. チバドバド・	cipatupatu	大荒れとなる。
1646. イキンラボキ・	ikin rapoki	そうしていると
1647. カムイエクフム・	kamuy ek hum	神の来る音が
1648. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響き
1649. ホントモタ・	hontomo ta	その中ほどで
1650. アコルロルンベ・	a=kor rorunpe	私たちの戦い
1651. ロルンベ・ソカ・	rorunpe so ka	戦場の上に
1652. ホラオチゴ・	horaociwe	さっと下りてきた。
1653. インカルアンアワ・	inkar=an awa	見ると
1654. ネイタクス・	ney ta kusu	相変わらず

1655. アエオイナカムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイ
1656. コツレシ・	kor_ turesi	の妹は
1657. シリカヅナ・	sirka wen _ya	美しいのだ。
1658. サンザオッタ・	sanca or_ ta	口もとに
1659. ミナカネ・	mina kane	笑みを浮かべつつ
1660. アコットムンチ・	a=kor_ tumunci	私たちの戦いの
1661. テクサンカシ・	teksam kasi	そばに
1662. ルクシバレ・	rukuspare <sup>401)</sup>	近づいて
1663. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神と
1664. アエオイナカムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイの
1665. シクドルフ・	sik uturuhu	目を
1666. ドシマクヒネ・	tusmak hine <sup>402)</sup>	かいくぐって
1667. カネアワンキ・	kane awanki	金の扇を
1668. イコタララ・	i=kotarara	私に差し出す。
1669. ヤイレンカネ・	yayrenkane	私は嬉しくなり
1670. アウイナヒネ・	a=uyna hine	受け取って
1671. アウブソレカッタ・	a=upsorekatta <sup>403)</sup>	懐に押し込んだ。
1672. クンネヘネ・	kunne hene	夜も
1673. トカブヘネ・	tokap hene	昼も
1674. アコンロルンベ・	a=kor_ rorunpe	戦いで
1675. アエウコドイマ・	a=eukotuyma-	永い間
1676. シアリキキ・	siarikiki	力闘した。
1677. ネイタパクノ	ney ta pakno	いつまでも
1678. ベウレ・シンカ・	pewre sinka <sup>404)</sup>	若いおたけびをあげ
1679. アエヤイラム	a=eyayram-	胸を
1680. コトルメウパ <sup>405)</sup>	kotormewpa	張り
【18丁表】		
1681. メウバカネ・	mewpa kane	元気を起こして
1682. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1683. カネアワンキ・	kane awanki	金の扇を
1684. アサナサンケ・	a=sanasanke	出して
1685. アヌカラルズ・	a=nukar ruwe	見ると
1686. エネオカヒ・	ene oka hi	このようだった。
1687. アワンキアルケ・	awanki arke	扇の片面には
1688. サクルヤンベ・	sak ruyanpe	夏の嵐の

1689. ドノカオルケ・	tu noka orke	数々の絵が
1690. アエヌヅカラ・	a=enuyekar	描かれて
1691. アワンキ・アルケ・	awanki arke	扇の片面には
1692. ルカネアプト・	ru kane apto	水銀の雨が
1693. アヌヅカラベ・	a=nuyekar pe	描かれているの
1694. ネロクオカ・	ne rok'oka	だった。
1695. タバンベ・クス・	tapanpe kusu	そこで
1696. ルカネアプト・	ru kane apto	水銀の雨が
1697. アヌヅウシケ・	a=nuye uske	描かれている面を
1698. アイトタヌレ・	a=itutanure <sup>406)</sup>	向けて
1699. アハンケバル・	a=hankeparu	近く扇ぎ
1700. アドイマバル・	a=tuymaparu	遠く扇ぐと
1701. ネヒコラチ・	ne hi koraci	その(絵の)とおり
1702. ルカネアプト・	ru kane apto	水銀の雨が
1703. チラナランケ・	ciranaranke	降り注ぐ。
1704. キロクアワ・	ki rok awa	そうすると
1705. カムイオピッタ・	kamuy opitta	神々全員が
1706. エネイタキ・	ene itak _hi	こう言った。
1707. ウバクラメトク・	“upak rametok <sup>407)</sup>	「力が伯仲する勇者
1708. ウバクウタルバ・	upak utarpa	力が拮抗する首領(同士)が
1709. ウコイキシリ・	ukoyki siri	戦う様子を
1710. アヌカラルスイワ・	a=nukar rusuy wa	見たくて
1711. アリキアンアワ・	arki=an awa	来たのに
1712. ウサイネカタブ・	usayne ka tap <sup>408)</sup>	いやはや
1713. ボイヤフンベ・	Poyyaunpe	ポイヤウンベが
1714. カチコロシリ・	katkor siri	していることは
1715. アオヤネネナ・	a=oyanene na.	気に食わないね。
1716. フンナウイスイ・	hunna un_ suy <sup>409)</sup>	いったい誰が
1717. ルカネアプト・	ru kane apto	水銀の雨で
1718. エライルスイア <sup>410)</sup>	eray rusuy _ya?“	死にたいものか」
1719. オドシエンバ・	otu siwenpa	(と) 何度も悪口を
1720. シロタツバコロ・	sirotatpa kor	ぶちまけながら
1721. アルキラレ・	arukirare <sup>411)</sup>	一目散に逃げた。
1722. ネイタバクノ・	ney ta pakno	いつまでも
1723. カネアワンキ・	kane awanki	私が金の扇を

1724. アドイマバル・	a=tuymaparu	遠く扇ぎ
1725. アハンケバル・	a=hankeparu	近く扇ぎ
1726. キロクアワ・	ki rok awa	していると
1727. カンナカムイ・	kanna kamuy	雷の神の
1728. ドマンソカシ・	tumam so kasi	体の上に
1729. ルカネアプト・	ru kane apto	水銀の雨が
1730. オシマヒタ・	osma hi ta	入りこんだ途端に
1731. ボネウマケ・	pone umake <sup>412)</sup>	(雷の神の) 骨がほぐれて
1732. ホラオチヅ・	horaociwe	崩れ落ち
1733. カムイノド・ <sup>413)</sup>	kamuy inotu	神の魂の
1734. ホプニフムコ・	hopuni hum ko	飛び行く音が
1735. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り轟いた。
1736. バクノネコロ・	pakno ne kor	それから
1737. アヤイコトイマ・	a=yaykotuyma-	思いを
1738. シランスイバワ・	siramsuypa wa	めぐらせていると
1739. イヌアンヒケ・	inu=an hike	私が聞いて
1740. アエイナカムイ・ <sup>414)</sup>	Aeoynakamuy	アエオイナカムイが
1741. イタクロクカド・	itak rok katu	言っていたことには
1742. カンナカムイ・	“kanna kamuy	「雷の神に
1743. シドレンテベ・	siturente pe	憑いているものは
1744. カネフリ・	kane huri	金のフリが
1745. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60羽
1746. ヤヤンフリ・	yayan huri	ただのフリが
1747. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60羽
1748. ネナセコロ・	ne na.” sekor	なのだよ」と
1749. イタクロキ・	itak rok _hi	話していたことを
1750. アエシカルン・	a=esikarun	思い出した。
1751. タバンベクス・	tapanpe kusu	そこで
1752. シリコロカムイ・	sirkorkamuy	大木を
1753. アエムシエドイバ・	a=emus’etuypa	刀で切って
1754. タンネニテク・	tanne nitek	長い木の枝を
1755. アタンネドイバ・	a=tannetuypa	長く切り
1756. タクネニテク・	takne nitek	短い木の枝を
1757. アタクネドイバ・	a=taknetuypa	短く切り
1758. アキシ【19丁表】ウシケ・ <sup>415)</sup>	a=kisma uske	自分が握るところを

1759. アオチシチシ・	a=ociscis <sup>416)</sup>	削り
1760. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60本を
1761. アドイバヒネ・	a=tuyupa hine	切って
1762. アアリヒネ・	a=ari hine	置くと
1763. シンキルイベ・	sinki ruype	私は疲れが激しい
1764. アネクス・	a=ne kusu	ので
1765. アムサマムニ・	amsamamni <sup>417)</sup>	平らかな倒れ木
1766. サマンニクルカ・	samamni kurka	倒れ木の上に
1767. アオソルシ・	a=osorusi <sup>418)</sup>	腰を下ろして
1768. アナンアワ・	an=an awa	いると
1769. カントコトル・	kanto kotor	天で
1770. フムシカネ・	humus kane	音がして (いるので)
1771. インカラルルヅ・	inkar=an ruwe	見ると
1772. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1773. クンネニシ・	kunne nis	黒い雲
1774. ボヤテキニシ・	poyatek nis <sup>419)</sup>	濃い雲が
1775. ランシリコンナ・	ran sir konna	下りてくる様子は
1776. ラママチキ・	ramamatki <sup>420)</sup>	すっと落ちるようだ。
1777. イルカトムタ・	iruka tum ta <sup>421)</sup>	一瞬で
1778. アイゴロックニ・	a=ye rok kuni	いわゆる
1779. カネフリ・	kane huri	金のフリ
1780. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60羽
1781. ヤヤンフリ・	yayan huri	ただのフリ
1782. ウビシレホチ・	upis re hot	全部で60羽が
1783. イエンカシケ・	i=enkaske	私の上に
1784. コラゾンナシテ・	koraconnaste <sup>422)</sup>	さっと下りてくる。
1785. アキホブニ・	a=ki hopuni	私は起き上がり
1786. ビリカ・カンニ・	pirka kanni	立派な棒を
1787. アヤイコカルカル・	a=yaykokarkar	持つと
1788. アモンエトコ・	a=mon'etoko	私の手の前で
1789. シウシワツキ・	siwsiwatki	風がうなり
1790. ウカattoイマノ・	ukattuymano <sup>423)</sup>	間をあげながら
1791. アモンエトコ・	a=mon'etoko	私の手の前で
1792. リンナタラ・	rimnatara <sup>424)</sup>	ドシンと鳴り響く。
1793. トムチカムイ・	tumunci kamuy <sup>425)</sup>	フリが

1794. ライエバヅフミ・	rayepaye humi <sup>426)</sup>	死に行く音
1795. フムエトコ・	hum etoko	音は
1796. コタクネタクネ・	kotaknetakne <sup>427)</sup>	とぎれとぎれだ。
1797. クンネレルコ・	kunne rerko <sup>428)</sup>	夜の日数は
1798. ノイワンレルコ・	noiwan rerko	幾晩も
1799. トカブレレルコ・	tokap rerko	昼の日数は
1800. ノイワンレルコ・	noiwan rerko	幾日も
1801. アコイキアイネ・	a=koyki ayne	戦ったあげく
1802. フリドミ・	huri tumi	フリとの戦いを
1803. ヤヅボソレ・	yayeposore <sup>429)</sup>	すっかり片づけ
1804. アキヒネ・	a=ki hine	終えて
1805. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1806. アコラモシリ・	a=kor a mosir	私たちの国に
1807. ■アオイラムネレ・	a=oyramnere	心が移った。
1808. アコゼラナ・	a=kocerana-	私は下りて
1809. スオトツケ・	suototke	急降下して
1810. トミサンベチ・	Tomisanpeci <sup>430)</sup>	トミサンベツ
1811. シヌタブカ・	Sinutapka	シヌタツカの
1812. アコロザシ・	a=kor casi	私たちの山城
1813. ザシテクサム・	casi teksam	山城のそばに
1814. アゾランケ・	a=coranke	下りた。
1815. アフンアンアワ・	ahun=an awa	家に入ると
1816. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちが
1817. イコホサルバ・	i=kohosarpa	私を振り返り
1818. ミナカネ・	mina kane	笑い
1819. ドイカシケ・	tuykasike	ながら
1820. イタコハヅ・	itako hawe	言ったことは
1821. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
1822. アアクトノケ・	“a=ak-tonoke	「弟君が
1823. マチコンルスイ・	maci kor_rusuy	奥さんをほしくて
1824. カン■ナカムイ・	kanna kamuy	雷の神と
1825. コロ・ロルンベ・	kor rorunpe	の戦争を
1826. ヤヅボソレ・	yayeposore	すっかり片付けて
1827. ホシツバ・ヤクン・	hosippa yakun	帰ったのなら
1828. ビリカワ・セコロ・	pirka wa.” sekor	よかったよ」と

1829. イタクバコロカ・	itak pa korka	言うのだが
1830. タシクシクニ・	tas kus kuni <sup>431)</sup>	私が息が通る程度に
1831. アヤイコセシケ・	a=yaykoseske	体を丸めて
1832. アアマ・ソッキ・	a=ama sotki	置かれた寝台
1833. ソッキルカ・	sotki kurka	寝台の上に
1834. アコヤヨスラ・	a=koyayosura	身を投げ出して
1835. [■/ラ]シマカネ・	ramma kane	いつものように
1836. オカアンアワ・	oka=an awa	暮らしていたところ
1837. シネアント■タ・カ <sup>432)</sup>	sineantota	ある日
1838. カントコトル・	kanto kotor	天で
1839. フムシカネ・	humus kane	音がして
1840. ネプカムエ・	nep kamuye	何の神
【20丁表】		
1841. ネナンコラ・	ne nankor _ya	だろうか、
1842. バセフミ・	pase humi	大きな音を
1843. シドラレ・	siturare	伴って
1844. ランフムコンナ・	ran hum konna	下りの音が
1845. コドリミムセ・	koturimimse	鳴り響く。
1846. ニシラブエムコ・	nisrap emko	雲の先端で
1847. ヌンス・カウカウ・	numnu kawkaw	大粒のあられ
1848. ヌムヌアプト・	numnu apto	大粒の雨の
1849. エ■ランフムコンナ・	eran hum konna	降る音が
1850. コセババッキ・	kosepepatki	バラバラと鳴る。
1851. アコロザシ・	a=kor casi	私の山城
1852. ザシテクサムン・	casi teksam un	山城のそばへ
1853. テルケフミ・	terke humi	跳び下りる音は
1854. メノコソネ・	menoko sone	女に違はなく
1855. イコロサシフミ・	ikor sas humi <sup>433)</sup>	首飾りがする音
1856. コサシナタラ・	kosasnatara	する音がする。
1857. シランテクコロ・	siran tek kor	しばらくして
1858. ラムノカネ・	ramno kane	低くかがみながら
1859. アバチマカ・	apa cimaka <sup>434)</sup>	戸を開けて
1860. アフブクニ・	ahup kuni	入ってくるが、
1861. コツザラツ・	kotcawot	その前に
1862. カムイ・イメル・	kamuy imeru	神の光が

1863. ザシウブソロ・	casi upsor	山城の中を
1864. エマクコサンバ・	emakkosanpa <sup>435)</sup>	光り輝かせる。
1865. イメルタブカ・	imeru tapka	光の小山が <sup>5</sup>
1866. アフブクニブ・	ahup kuni p	入ってくるようなのを
1867. アアヌカルロクワ・ <sup>436)</sup>	a=nukar rok wa	見ると
1868. ア[エオイ/イヌ]ナカムイ・	Aeoynakamuy	アエオイナカムイ
1869. コットレシ・	kor_ turesi	の妹が
1870. ポロ[チタルベ/ケトシ]・	poro ketusi	大きなゴザ袋を
1871. トモタルシ・	tomotarusi <sup>437)</sup>	荷縄で背負い
1872. アフブワ[■■■/アリ]キ・	ahup wa arki	入ってきた。
1873. アコロユビ	a=kor yupi	兄さん
1874. ウタリヒ <sup>438)</sup>	utarihi	たちは
1875. エネイタキ・	ene itak _hi	こう言う。
1876. カムイドレシボ・	“kamuy turesipo,	「神の妹よ,
1877. エラシヤクン・	e=ran yakun	あなたが下りて来てくれて
1878. ビリカワ・セコロ・	pirka wa.” sekor	よかったよ」と
1879. イタクバアワ・	itak pa awa	言って
1880. エラム・シラビピ・	eramusirapipi	(兄が) ほっと一安心した
1881. ネトムノ・	ne kotomno	ように
1882. アエサンニヨ・	a=esanniyo	私は思った。
1883. カムイドレシボ・	kamuy turesipo	神の妹は
1884. イネアブクスン・	ineapkusun	なんとまあ
1885. ユブテクシリ・	yuptek siri	(こんな) 働き者が
1886. オカナンコラ・	oka nankor _ya	いるとは
1887. アエラミシカリ・	a=eramiskari	知らなかった。 <sup>439)</sup>
1888. ボンメノコ・	pon menoko	娘の
1889. ビリカズヅブ・	pirka suwe p	おいしい料理を
1890. アエコロ・	a=e kor	食べながら
1891. ランマカネ・	ramma kane	いつものように
1892. オカアンアワ・	oka=an awa	暮らしていたが
1893. シネアントタ・	sineantota	ある日
1894. チウセレス・	Ciuseresu	チウセレス
1895. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんは
1896. ネコン・ヤイヌシリ・	nekon yaynu siri	何を思ったの
1897. ネナンコラ・	ne nankor _ya?	だろうか。

1898. レボウサチ・ <sup>440)</sup>	rep o usat	沖にある熾を
1899. ヤオラヅ・	yaoraye	陸の方に寄せ
1900. ヤオウサチ・ <sup>441)</sup>	ya o usat	陸にある熾を
1901. レボラヅ・	reporaye	沖の方に寄せ
1902. ウドルフ・	uturuhu	その間を
1903. オツケカネ・	otke kane	突きながら
1904. ナイバカネ・	naypa kane	筋をつけて
1905. オカロクアイネ・	oka rok ayne	いたあげく
1906. カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシに
1907. コヘトツトリ・	kohetutturi <sup>442)</sup>	顔を寄せ耳打ちし
1908. ネプワアンベ・	nep wa an pe	なにやら
1909. エコイソイタク・	ekoysoytak	話して聞かせて
1910. キロクアワ・	ki rok awa	いたところ
1911. カムイオトプシ・	Kamuy'otopus	カムイオトプシ
1912. アコユビ・ <sup>443)</sup>	a=kor yupi	兄さんは
1913. イコバクケ	i=kopakke	私の方に
<b>【21丁表】</b>		
1914. エナンキル・	enankiru	顔を向け
1915. エネイタク・	ene itak _hi	こう言う。
1916. インカラクス・	‘inkar kusu	「さあさあ
1917. アアクトノケ・	a=ak-tonoke,	我らが弟君,
1918. ピリカヌヤン・	pirka nu yan.	よくお聞きなさい。
1919. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
1920. イタクハヅ・	itak hawe <sup>444)</sup>	言うには
1921. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだ。
1922. ロルンベバテク・	‘rorunpe patek	『戦争ばかりに
1923. エリクネスクブ・	erikne sukup	苦勞した生活を
1924. アキルヅ・	a=ki ruwe	私たちがした
1925. エムコサマ・	emkosama	ために
1926. エカシヌサカ・	ekasi nusa ka <sup>445)</sup>	父祖の祭壇が
1927. コライナタラ・	koraynatara	潰れかかっている。
1928. サケアカルフ・	sake a=kar wa	酒を作つて
1929. エカシカルヌサ・	ekasi kar nusa	父祖の祭壇を
1930. エリキブニ・	erikipuni	建て直し
1931. アキルスイ・	a=ki rusuy	たい

1932. アナクキコロカ・	anakkikorka	のだけれど
1933. アクトノケ・	a=ak-tonoke	弟君に
1934. エコオリバク・	ekooripak	対して遠慮
1935. アキルゴネ・	a=ki ruwe ne.’	するのだ』(とかわれて)
1936. アエヌレ■ハゴ・	a=e=nure hawe	お前に聞かせた
1937. ネナセコロ・	ne na.” sekor	のだよ」と
1938. イタクワクス・	itak wa kusu	話すので
1939. マカナクアニ・	“makanak an _hi	「どんなことでも
1940. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
1941. カンススイベ・	kar_ rusuy pe	したいことを
1942. アコバンルエ・	a=kopan ruwe	嫌がることは
1943. ソモタブアンナ・	somo tap’an na”	しませんよ」
1944. イタカンアワ・	itak=an awa	と言うと
1945. イネアブクスン・	ineapkusun	なんとまあ
1946. エヤイコブシテク・	eyaykopuntek	それを喜ぶ
1947. シリヤカ・	siri ya ka	のだろうか。
1948. アコユビ・ <sup>446)</sup>	a=kor yupi	兄さんが
1949. イワンタラ・	iwan tara	6つの俵を
1950. ブイカレ・	puykare	倉から出して
1951. サケカルカド・	sake kar katu	酒を作る様子は
1952. アラモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
1953. カムイ・クルスベ・ <sup>447)</sup>	kamuy ku rusuy pe	まさに神が飲みたいものに
1954. ソネクス・	sone kusu	なって
1955. トノトフラ・	tonoto hura	酒のにおいが
1956. ザシウブソロ・	casi upsor	山城の中に
1957. エエドシナツキ・	eetusnatki	立ち込める。
1958. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうすると
1959. ウシウタラ・ <sup>448)</sup>	ussiw utar	召し使いたちで
1960. イナウドゴベ・	inaw tuye pe	イナウを切る者は
1961. シンナカネ・	sinna kane	それぞれに
1962. イナウケヒケ・	inawke hike	イナウを削る者は
1963. ウコエビケブ・ <sup>449)</sup>	ukoepirkep-	互いに小刀を
1964. ホシテカネ・	hoste kane <sup>450)</sup>	走らせて
1965. イヌンバクニブ・	inumpa kuni p <sup>451)</sup>	酒こしをする者は
1966. ウコイザリ・	ukoicari-	みんなでザルを

1967. テレケレ・	terkere <sup>452)</sup>	渡しあう。
1968. イナウケ・サスム・	inawke sas _hum	イナウを削る音
1969. イヌンバ・サスム・	inumpa sas _hum	酒こしをする音が
1970. オロネアンペ・	oroneanpe	一緒になって
1971. コサシナタラ・	kosasnata	響く。
1972. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうして
1973. チウセレス・	Ciuseresu	チウセレス
1974. アコロユビ・	a=kor yupi	兄さんが
1975. イイヤシケウクワ・	iaskeuk wa <sup>453)</sup>	人々を招待するために
1976. チウテキ・ウシウ・	ciwtek ussiw <sup>454)</sup>	召し使いに
1977. スレア・ヰ <sup>455)</sup>	nure _hawe	言いつけた声によると
1978. イネアブクスン・	ineapkusun	なんと（こんなに）
1979. アウタリ・インネ・	a=utari inne	仲間が多い
1980. ハウアシヤカ・	haw'as ya ka	こととは
1981. アエラミシカリ・	a=eramiskari	知らなかった。
1982. ホシノポ・	hosnopo <sup>456)</sup>	最初に
1983. サンプドンクル・	“Sanputunkur	「サンプトゥンクル
1984. アコロアザ・	a=kor aca <sup>457)</sup>	おじさんを
1985. アタクハエアシ・	a=tak” haweas	呼ぶぞ」という声が出て
1986. イヨチウンクル・	“Iyociunkur	「イヨチウンクル
1987. イシカルンクル・	Iskarunkur	イシカルンクル
1988. ルベットムウンクル・	Rupettom'unkur	ルベットムウンクル
1989. ドンニボクンクル・	Tunnipokunkur	トゥンニボクンクルを
1990. アタクハヰアシ・	a=tak” haweas	呼ぶぞ」という声もして
1991. チウテキ・ウシウ・	ciwtek ussiw	召し使いが
1992. バヰフムコンナ・	paye hum konna	（呼びに）行く音が
1993. トリミムセ・	turimimse	鳴り響いた。
1994. シランテクコロ・	sirantek kor	しばらくして
1995. ニシバアシケ・	nispa aske <sup>458)</sup>	首領たちが手をつないで
<b>【22丁表】</b>		
1996. シアウオラヰ・	siaw'oraye	中に入ってくる。
1997. ドレシコロヒケ・	turesi kor hike	妹を持つものは
1998. トレシドラワ・	turesi tura wa	妹と連れ立って
1999. サコロヒケ・	sa kor hike	姉を持つものは
2000. サドラワ・	sa tura wa	姉と連れ立って

2001. アフブルズネ・	ahup ruwe ne.	入ってくる。
2002. アユプタリ・	a=yuputari	兄さんたちは
2003. ウエカブ・イタク・	uekap itak	挨拶しあう言葉を
2004. エサナニンパ・	esananinpa <sup>459)</sup>	交わした。
2005. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうすると
2006. サンプドンクル・	Sanputunkur	サンプトゥンクルが
2007. チリキプニ・	cirikipuni <sup>460)</sup>	立ち上がり
2008. ニゼンチニカ・	niwen cinika <sup>461)</sup>	猛々しい足踏みを
2009. イコトリ・	i=koturi	私の方に踏み出し
2010. トイカシケ・	tuykasike	ながら
2011. イタコハエ・	itako hawe	言ったのは
2012. エネオカヒ・	ene oka hi	こうだった。
2013. アエンカルクフ・	“a=wenkarkuhu,	「我が悪甥よ、
2014. ネプゼンイタク・	nep wen itak	どんな悪い言葉を
2015. アエワヘタブ・	a=ye wa hetap	私が言った
2016. クルカシケ・	kurkasike	ために
2017. イヨトゴヤ・	i=otuye ya? <sup>462)</sup>	私をぶった切ったのだ？
2018. タネボホカ・ <sup>463)</sup>	tanepo poka	今こそ
2019. ヤヨカバシテ・	yayokapaste	お前は後悔を
2020. エキワヘタブ・	e=ki wa hetap	して
2021. エアンルエアン・	e=an ruwe an? <sup>??</sup>	いるのか？」
2022. イタクドラノ・	itak turano	(という)言葉とともに
2023. タンビフンコ・	tampi hum ko	刀を抜く音が
2024. ナイコサンバ・	naykosanpa	チャリンと響く。
2025. シクドルバクノ・	sik utur pakno	眉間のあたりまで
2026. イバコヤサ・	i=pakoyasa <sup>464)</sup>	頭を打ち割られ
2027. アエラム・	a=eramu-	私は気持ちが
2028. コシラビビ・	kosirapipi	休まった。
2029. バクノネコロ・	pakno ne kor	そして
2030. タバンイクソ・	tapan ikuso	酒宴の席は
2031. チシトリレ・	cisiturire	ずっと長く伸びている。
2032. アシヌマカ・	asinuma ka	私も
2033. ■イキリコツザタ・	ikir kotca ta	宝列の前の
2034. カバルベ・オチケ・	kaparpe otcike <sup>465)</sup>	高価なお膳と
2035. カバラベ・ドキ・	kaparpe tuki	立派な杯に

2036. アヤイベカレ・	a=yaypekare <sup>466)</sup>	向かって、
2037. エアルソネノ・	ear sone no <sup>467)</sup>	一人用の座に
2038. アナンカド・	an=an katu	座る様子は
2039. アオモンモモ・	a=omommomo	かくかくしかじか。
2040. バクノネコロ・	pakno ne kor	そうすると
2041. カムイドレシボ・	kamuy turesipo	神の妹が
2042. アニブンタリ・	anipuntari	両口の銚子を
2043. エシムコ・	esimukko-	脇に
2044. アンバカネ・	anpa kane	抱えて
2045. イクソウドル・	ikuso utur	酒宴の席の間を
2046. エルトツケ・	erututke <sup>468)</sup>	歩きまわり
2047. イヨマレ・	iomare <sup>469)</sup>	酌をした。
2048. ビリカトノト・	pirka tonoto	すばらしい酒で
2049. エウコピリカ・	eukopirka-	立派な宴が
2050. マクテッカ・	maktekka <sup>470)</sup>	開かれ
2051. ウシウ・ウタリ・	ussiw utar <sup>471)</sup>	召し使いたちは
2052. シノツトゴ・	sinot toye <sup>472)</sup>	遊び躍って
2053. ツチウバレ	ciwciwpare <sup>473)</sup>	動き回っている。

## 注

- 1) チアラレス ciararesu : 「ci=araresu 大事に育て」(『音声資料11』 p.104)。ci=tomteresu / ci=araresu / a=ekarkar で「身分の高い人の子どもを大切によく育てることを表す常套表現」であり、ci- (中相接頭辞) ara 「飾る, 綺麗にする」 resu 「～を育てる」と解釈している (同 : p.105)。ara は「飾る. 綺麗にす」(『久保寺辞典』 p.27)。この解釈を参考に、ciarresu ではなく ciararesu とローマ字化した。
- 2) イゾカルカラ i=ekarkar : ノートの表記にしたがうと iyekarkar だが, y は挿入音。
- 3) イヨマブクス i=omap kusu : i=omap kusu / sirki ya ka の直訳は「私を可愛がるために / (そのようなことが) 起きたのか」。なお, ノートの表記にしたがうと iyomap だが, y は挿入音。
- 4) paronna : par 「口」 or 「～のところ」 -na 「の方」 wa 「から」。『萱野辞典』には「パロンナタ [paronna ta] 直接に」とある (p.380) が, 『アイヌの叙事詩』の「tekorna wa / paronna wa 手のひらに / 口許に」(p.135) を参考に, 直訳に近い形で訳出した。
- 5) tekonna : tek 「手」 or 「～のところ」 -na 「の方」 wa 「から」。注4) 参照。
- 6) カチコロ katkor : 「カチコロ」は katkor。
- 7) オトオトニリム otu otonrim : otu は「2つの」が直訳だが, 「多数」を表すので「何度も」と訳した。yukar(1) 注33) も参照。otonrim は「thumping sound. The report of guns」(『バチエラー辞典』 p.371), 「傲かな物音 (どんとどんといふ)」(『久保寺辞典』 p.195) とある。ここでは, 遠くから聞こえてくる戦いの音を otonrim という語で表現している。なお, この後のスト

ーリー展開によって判明するが、この音は主人公の兄たちがレブンクルの村を巡って戦っている音である。

- 8) cisisutpo : ci 「陰莖」 si- 「自身の」 sut 「～の根本」 -po (指小辞)。すなわち、「自分の陰部のこと」(『金田一全集11』 p.176)。『アイヌの叙事詩』(p.12, 137) や『久保寺辞典』(p.241) では、sicisutpo という語形だが、『アイヌの叙事詩』(p.103) には、achisisutpo という形も見られる。そのため、ここでは sicisutpo の誤記ではなく、ノートどおりの語形でローマ字化した。
- 9) oranrani : ranrani は「下す、さげる、しずめる、ぐいぐい押付ける」(『久保寺辞典』 p.220)。接頭辞 o- 「〈場所〉へ」がついた oranrani で「そこへ下す。押し遣る。坐らす。」(同前)。kosonte cinki / a=cisisutpo / oranrani は、「小袖の裾が短かくなって、自分の陰し所をかくそうとしている様子」(『アイヌの叙事詩』 p.137) であり、成長して体が大きくなってきたことを言う。金田一京助によれば、「腰の辺のあらはになるのを気にする程の年齢」になったということで、「小童より青少年」に達したことをいう(『金田一全集11』 p.176)。
- 10) otukitara : 『久保寺辞典』に、tukitara は「tuk (高まり起る) もり上つて起る。itara 継続動作態」(p.196) とある。
- 11) kamuy a=mippo : 直訳は「神のわが孫」だが、ここでの kamuy 「神」はカムイそのものではなく「神のように立派な、非常に立派な...」(『沙流辞典』 p.270) という美称としての表現。
- 12) ki nankor\_ na : nankor に「... しなさいよ (予言の形をとった命令表現の一つ)」(『沙流辞典』 p.405) とあることを参考に命令形で訳した。
- 13) tumunci kamuy : 「魔神。戦いの神」(『千歳辞典』 p.281), 「悪い神の一つ。いくさの神あるいは、殺戮の神らしい」(『沙流辞典』 p.735) とある。このテキストでは、tumunci kamuy という語が、①主人公を育てていた老爺、②①の仲間たち、③地下の世界にいて罰を与える老夫婦の神、という異なる三者を指している。この行での tumunci kamuy はこのうちの②に当たる。
- 14) tumius : tumi 「戦争」 us 「～につく」。『沙流辞典』には「tumius ... で戦争がある」(p.734) とある。
- 15) ene an kuni : 『久保寺辞典』に「ene-an kuni 斯くあるべし」(p.61) とある。
- 16) osikiru : osikuru は「～〈場所〉へ身を転じる。～〈場所〉の方へ向きなおる」(『千歳辞典』 p.116), 「...の方へ向かって行く、...に行く、...に着く」(『沙流辞典』 p.484), 「そこへ転ずる、肩を風を切つて身をひるがへす。身を廻す、ひるがへす」(『久保寺辞典』 p.192) とある。したがって、前行からの直訳は「(彼らの) そばのところに／向かっていく」となるが、物理的に移動するというより味方をするように言い聞かせている場面であるため、意識した。また、『千歳辞典』には、「kamuy hayokpe hayokpe nikor a=osikuru 神の鎧、鎧のすきまに向き直つて(着た)」(p.295), 「orowa hayokpe tuyor a=osikuru hine sipine=an hine それから、よろいの中へと身を転じて、それを身につけ」(p.207) などの用例があり、この場合は「向かう」というより「(隙間などに) 身を入れる」に近い使い方になっている。
- 17) イキヤネブ ikianep : 『久保寺辞典』に ikianep 「ゆめ…すべからず」(p.97) とある。ノートの表記にしたがうと ikiyanep だが、y は挿入音。
- 18) a=kewtum kasi / ekaciw : ekaciw は e- 「～の頭」 kaciw 「～を刺す、～を突き刺す」か。したがって、直訳は「私の心の上を／突き刺した」となるが、ここでは老爺が主人公に強く言い聞かせている場面なので、文脈に合わせて意識した。
- 19) inampe namne : 「inampe namne 何とまあ、何と立派な」(『久保寺ノート1』 p.33, 『久保寺ノート5』 p.62) とある。

- 20) トイカシケ tuykasike : tuykaske と tuykasike の両方の可能性があるが、音節数を 4 ないし 5 に近づけるため、tuykasike とローマ字化した。以下、同じ。
- 21) エネオヒ : 「カ」が脱落しているが ene oka hi 「このようである」か。
- 22) tuykasike / itako hawe / ene oka hi : 発話が始まる際の常套句。直訳は「その上で (そうしながら) / 言葉を置いた (入れた) 声は / このようにあること」。
- 23) ikiya kunak : 『萱野辞典』に「イキヤクナク [ikiya kunak] 「万が一にも～してはいけない」(p.48) とある。
- 24) somo tapan na : tapan は改まった言い方としての「～です」に当たるので、直訳は「ないのですよ」になるが、「somo tapan na. ゆめし給ふな」(『久保寺辞典』p.206) という訳例もあることから、文脈に即して禁止の意味とした。
- 25) e=koyki rok pe : rok は完了したことを表す助動詞 a の複数形なので、「お前が戦った相手」が直訳になるが、この文脈ではまだ戦っていない相手なので、音節数を 1 つ増やすために挿入されているものと解釈した。
- 26) キクニブネナンコンナ : 「キ」は後から書き足されたようである。
- 27) セコロオカイベ : 「ロ」は後から書き足されたようである。
- 28) taye : ta (強調) ye 「～を言う」。yukar(1) 注19) 参照。
- 29) スマチ numaci : 鍋沢の表記においては音節末子音に i 音を伴って t がチと書かれる場合もあるため、スマチは numat, numaci の両方の可能性がある。rikun に修飾される場合としては、rikun numaci (『ユーカラ集 3』p.462) という語形が確認できることを参考に、所属形 numaci でローマ字化した。numat (numaci) については「hayokpe 『鎧』というものは、前部で観音開きのように左右に開くようになっており、それを numat 『結び紐』で閉じ合わせるものと考えられていた。ここでは uruki 『互いに呑み込む』という動詞が使われており、結ぶのではなく、バックルのようにかちりとほまり合うようなものが想定されているようである」(『叙事研』p.100) と説明されていることから、「紐」ではなく「(鎧の) 留め金」(『静内語彙]) とした。
- 30) ウラクカネクチ uokkanekut : ノートの表記にしたがうと uwok だが、w は挿入音。また、カネクチは kanekut。yukar(1) 注30) 参照。
- 31) カサランドベブ : 末尾の「ブ」は後から書き足されたもの。鉛筆書きのような薄い文字で書かれていることから判断した。
- 32) cehentokpa : 「chi-ehentokpa / i-ekakkar うなずいて / くれて」(『アイヌの叙事詩』p.461) の cie- が縮約されて ce- になったものであろう。
- 33) イゾカルカラ i=ekarkar : ノートの表記にしたがうと iyekarkar だが、y は挿入音。
- 34) ボルンオンナイ poru un onnay : 『久保寺辞典』に「por 洞穴」という語もあるが、通常洞穴は poru であることと、鍋沢の表記においては同一音素が連続する場合にしばしば片一方が脱落することから、「ボルン」は por un ～ではなく poru un ～ の u がひとつ脱落した表記とした。
- 35) アイゴコシネ a=i=ekosne : ノートの表記にしたがうと aiyekosne だが、y は挿入音。
- 36) オドリム : 「ン」が脱落しているが、otonrim か。
- 37) yaytuyere : yay- 「自分」 tuye 「～を切る」 -re 「～させる」。『沙流辞典』に「(そこ) へ進んで行く」(p.869) とある。
- 38) ru kane : 「焼けて柔らかくなった鉄 : 水銀ではない」(『千歳辞典』p.419) という説明があり、本テキストにおいても ru kane が毒であることが明示されるような表現はないため、こちらの

- 解釈も有力である。しかしながら、北海道立図書館所蔵の鍋沢元蔵遺稿ノートの「ワッカサッカスクブ」(請求番号HM365, 整理番号18)では、鍋沢自身がルカネ (ru kane) を「水銀」と訳している。そこで、本テキストにおいても鍋沢の訳に従って「水銀」とした。
- 39) oka nankor \_ya / a=eramiskari: 直訳は「あるだろうか／知らなかった」。そんなものがあるとは思ってもよらなかった ru kane nitay を見たということ。
- 40) tan tumi ru: ここではまだ戦場にはたどり着いておらず、トゥムンチカムイたちがすでに倒された跡を眺めている。
- 41) マカンカチコロベ makan katkor pe: カチコロはkatkor。『アイヌの叙事詩』(p.428)に「makan katkorpe どんな姿の者か」とあるのを参考にした。
- 42) ドムンカムイ: 「チ」が脱落しているが tumunci kamuy か。
- 43) kante kasi: 「kan-tek kasi 枝先の上」(『アイヌの叙事詩』p.591)。ノートの表記の「カシ」は kas とも kasi とも考えられるが、kante kasi で 3 音節、kante kasi で 4 音節となるため、ここでは kasi で表記した。
- 44) sawre: 『久保寺辞典』に「saure 軽い、緩い、たやすい、弱い (yupke の対) 聊 (いささかの、軽少の) ざつとした、それ程でもない、平凡の つねなみの」(p.236) とある。
- 45) シザル sicari: シザルは sicari か。sicari は「shichari ふんばる?」(『久保寺辞典』p.240), 「shimoipa (はたらけ), moimoike (はたらけ), koyaiyuppa (ふんばつせよ) などいうと同じ」(『金田一全集9』p.154) といった「奮発する、奮闘する」という語釈と、si-「自ら」cari「～を撒き散らす」であることから、「Shicharichari, adj. Scattered」(『パチエラー辞典』p.447) とあるように、「散らばる」という語釈とが見られる。ここでは、前者の意味で解釈した。
- 46) ボヤテキ poyatek: ボヤテキは poyatek。『久保寺辞典』に「poya-tek 群々と湧き立つた。むらむらと黒く湧く状」(p.363) とある。
- 47) eputakamu: e-「(場所)に」puta「ふた」kamu「～にかぶさる」。yukar(1) 注396 参照。
- 48) pon aynu pon kur: 直訳は「若いアイヌ、若い人」。「うら若き少人」(『久保寺辞典』p.211) などのように訳される。
- 49) アエラシカリ a=eramiskari: 「ミ」が脱落しているが a=eramiskari。本ノートをはじめとして鍋沢は「エラミシカリ (eramiskari)」を用いており (155行目ほか)、「エラムシカリ」という語形は用いられていないため、「ミ」を補って eramiskari とした。
- 50) ナンニベキ nan nipeki: 鍋沢の表記においては音節末子音に-i 音を伴って書かれる場合もあるため、ニベキは概念形 nipek の語尾に-i が挿入された表記の可能性もある。だが、ここでは「[u] nan nipeki 顔の輝き」(『音声資料8』p.56)などを参考に「顔の光」という所属形 nipeki とした。
- 51) ienucupki / ciwre: ienucupki は「照らしかがやかす光」(『久保寺辞典』p.95)。ienucupki ciwre で「そこに日の光がさす」(『沙流辞典』p.259) という意味になり、非常に美しい顔の形容。
- 52) ラメトクイボロ rametok ipor: 本ノートの表記では、ro と r との区別がないため、この表記からは ipor (概念形)、iporo (所属形) の 2 通りが考えられる。「勇者の顔つき」と訳せるが、これは「勇者の持つ顔つき」という所有ではなく、「勇者のような顔つき」という連体修飾と解釈し、概念形 ipor でローマ字化した。ほかの英雄叙事詩テキストでは、rametok ipor (『金田一全集10』p.398), rametok iporo (『アイヌの叙事詩』p.440) が共に見られる。ただし、rametok iporo の例は鍋沢のテキストのものがほとんどであり、これらは元来、本ノートと同じくカナ表記であったと考えられるため、所属形を意図して表記したのか疑問が残る。
- 53) エイボロドイマ eyportumma: 『沙流辞典』には eyportumma sinna で「...で顔つきからして違

- っている」(p.166)とある。ほかのテキストでも「rametok iporo / e-iporo tumma / sinna kanep 勇者の容貌 / 容貌をあらわして / 別に見える者」(『アイヌの叙事詩』p.144)、「eipor tum wa 顔の色から」(『神話集成7』p.94)のように *tuyma* ではなく *tumma* (*tum\_wa*) を用いた語形でのみ確認できる。そのため、ノートには「エイボロドイマ」と記されているが、*eyportumma* の意と判断した。ただし、*yukar*(3) においても「エイボロドイマ」という表記が見られる(924行目)ことから、単なる書き損じではなく、鍋沢の書き癖(あるいは言い癖)、さらには *eyportuyma* という語形も使用していたという可能性も考えられる。
- 54) タヌシコドイワ *tan\_huskotoy wa*: 『音声資料9』に「*tan huskotoy wa* ずいぶん長い間」(p.18)とある。
- 55) タンピリ *tampiri*: ノートの表記からは「リ」は *ri* とも *r* とも考えられる。鍋沢による『クトゥネシリカ』では同様の表現が「*rawne pirihi / chima eroski / kasre pirihi chima kutappa*」(p.170)となっており、ここでは明らかに所属形である。ここもそれに従って、所属形 *tampiri* とした。206行目「ラウネタンピリ」も同様。*tampir* は「刀傷」(『沙流辞典』p.694)とある。
- 56) *cima kutatpa*: 「*chima kutatpa* かさぶたがはがれ落ちる」(『ユーカラ集9』p.366)。『クトゥネシリカ』(p.170)では *chima kutappa* とローマ字化されているが、*cima* 「かさぶた」*kuta* 「～が剥がれる」-*t(a)* (重複形語尾) -*pa* (複数接尾辞) と考えられるため、*cima kutatpa* とした。
- 57) *cima eroski*: 「*chima eroski* かさぶたができ」(『クトゥネシリカ』p.170)。浅い刀傷はかさぶたが取れ、深い刀傷にはかさぶたができるとは、いずれも傷が治りつつあることを表す。戦い後の傷を治してもらった場面で使われることが多い常套表現だが、本テキストでは、戦っている最中なので、戦いの初めの頃につけられた傷が治りかけるほど長い間戦っていたことを言う表現。
- 58) エタムアニ *etam'ani*: *e-* 「～について」*tam* 「刀」*ani* 「～を持つ」(*yukar*(1) 注363)も参照。「*aetamani* 我が刀を揮る」(『久保寺辞典』p.14)のように *etamani* と表記されていることが多いが、ここではノートの表記に従って *etam'ani* [*etam?ani*] とした。
- 59) アヌカルゴ *a=nukar ruwe*: 『アイヌの叙事詩』所収「ニタイバカイエ」における、同じ場面(p.144)では「*anukar ruwene* われ見たのである」と *a=nukar* を使った表現が見られる。ほかにも「*anukar ruwe / ene okahi* われ見てみると / こうである」(同:p.139)という表現が見られることから、ノートの表記のアヌカルゴは *a=nukar ruwe* の意で、「ル」がひとつ脱落したものと解釈した。
- 60) *kepsam*: 『久保寺辞典』に「*kepsam* はし、はづれ / *kasa-kepsam ta kamui san-nanu hetuku chup ne iantasare* 兜のはづれ 神々しいかんばせ我へ照りかへす」(p.126)とある。
- 61) *sito ne otop*: あまり多くは見られない比喩表現だが、「*sitone otop / morewne otop* 丸餅の如き髪 / から草の如き髪」(『アイヌの叙事詩』p.602)とあるように、髪がカールしてボリュームがある様子(すなわち、アイヌにおける美髪の原因)を表現したもの。
- 62) *kurkot*: 『千歳辞典』に「*kurkot* かげる。光が暗くなる; *ミケ カネ クルコツ カネ mike kane kurkot kane* 『光ったり、かげったり』 = 『光が明滅して、ピカピカ輝いて』という常套句で用いられることが多い」(p.167)とある。
- 63) イエヌブキ *ienucupki-*: 前後のつながりから、*cu* が脱落しているが *ienucupki* と解釈した。語釈などは注51)参照。
- 64) *rekurumama-* / *careharayta*: 『久保寺辞典』に「*rekurumama chiarehaita* 髯のまだのびと、のはぬもの。頤鬚の黒み未だとのはず」(p.223)とある。また「*cheharaita* といふことあり」(同前)ともあり、ノートでは、後者の語形に強調を表す *ar-* 「全く」が挿入した *c-ar-*

eharayta という語形になっている。

- 65) エイボロドイマ / シンナ eyportumma- / sinna: ノートの表記はドイマだが、ローマ字化にあたっては tumma とした。注53) 参照。
- 66) エ, タマムバ etamanpa: 「エ」のすぐ下に点があるように見えるが、意味は不詳。汚れか。
- 67) ney wano suy: 「neywanosuy どうしたことか」(『アイヌの叙事詩』p.283) を参考にした。直訳は「どこからまた」。
- 68) i=yayrakpare p: 『久保寺辞典』に「yairakparep ゆかりを引く者. 縁者.」, 「yai-rakpare (1) 血筋を引く, 親類関係にある. / (2) 関係がある」(p.312) とある。
- 69) イムチ imut: イムチは imut。
- 70) imut=an: imut は、i-「もの」mut 「～を佩く」。『アイヌの叙事詩』では「imut-an ruwe われ帯をしめた」という訳がつけられている個所もある (p.144) が、mut は「(刀) を佩く, ～を帯びる」であるため、「刀を佩く」と訳した。
- 71) ehoripi: 辞書やテキストにおいては、ehoripi や複数形 ehorippa について、「(槍や杖) を持って踊る」(『静内語彙』), 「踊りあがって」(『ユーカラ集 1』p.140), 「踏舞する」(『アイヌの叙事詩』p.66) のように踊りを意図した訳, 「跳びはねしつ」(『アイヌの叙事詩』p.578), 「跳躍して」(『ユーカラ集 4』p.104) のように飛び跳ねる意味, 「力足を踏みたりけり」(『金田一全集 9』p.176), 「力足を踏み」(『ユーカラ集 1』p.350) のような足を踏む動作, さらに「指揮をとって」(『アイヌの叙事詩』p.147) のように、種々の訳がある。だが、いずれも魔払いの踊り (horippa) の仕草を指すようである。魔払いの踊りとは、「声をそろえて行進」し、「左手に……杖を, 右手は拳を握って, 男子の抜刀を立て、突き出し, 突き出しするのに合わせて」女子は「“ho, oi!” を連呼し、行進する」(『ユーカラ集 1』p.350) ものである。ここでは、戦いの後ではなく、最中にあるという状況から「鼓舞する」という訳を用いた。
- 72) アヌカルゴ a=nukar ruwe: ノートの表記に r をひとつ補って、a=nukar ruwe とした (注59) 参照)。
- 73) koerayap: 『久保寺辞典』に「koerayap 感嘆す」(p.134) とある。
- 74) テキサム teksam: テキサムは teksam 「～のそば」。
- 75) huihuyna wa: 『久保寺辞典』に「huihui na wa 初めから, どこからどこまで」(p.91) とある。
- 76) イユワンバレ i=uwanpare: ノートの表記にしたがうと iyuwanpare だが、y は挿入音。
- 77) アリキ arki: アリキは arki。以下、arki 「来る (複数)」についてはすべて「アリキ」という表記が用いられており、「アラキ」もしくは「アルキ」という表記は見られない。
- 78) エキベ ek pe: エキは ek 「来る」。
- 79) yaykotanka- / esina: yay- 「自分の」kotan 「村」ka 「～の上」esina 「～を隠す」。『ユーカラ集 6』に「yai kotan ka / eshina おのれの村も / 包みかくして」(p.78) とある。
- 80) oyanene: 『久保寺辞典』に「oyanene 好まず」, 「oyanene 嫌ひなる事」(p.198) とある。『アイヌの叙事詩』(p.199ほか) では「おかしいものだ」などの訳もされている。
- 81) サンブチ Sanput: サンブチは Sanput。
- 82) チウセレス Ciuseresu: 鍋沢の表記において「ス」は su と考えられるが、「ウ」は u と w の可能性がある。だが、Ciuseresu で 5 音節になることと、本テキストの異伝にあたる英雄叙事詩「天界の端で龍と戦った少年の物語」(語り: 平賀さだ, 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター所蔵, 公開資料番号 YC800020-02 ならびに YC800021) という音声資料においては Ciuseresu と発音しているように聞こえることから、ここでは Ciuseresu とローマ字化した。

- 83) tekewente: 『静内語彙』に「tekewente ～を手で破壊する」とある。
- 84) エンノボカ wenna poka: 『久保寺辞典』に「wenna poka 謙辞, ちつとでも (671) いささかばかりにても, 少しにても」(p.306) とある。
- 85) テキサマ teksama: テキサマは teksama。
- 86) ekopunkine: 鍋沢の祈詞でしばしば見られる語。『アイヌの祈詞』では、「守護する」(p.79ほか), 「見守る」(p.108ほか), 「守る」(p.73ほか) などの訳が当てられており, ここもその訳に準じた。
- 87) somo ney peka: 『静内語彙』に「somoneypeka あろうことか」とある。ここでは, 甥であるカムイオトブシたちが探している弟というのは, お前のことではないかと言うこと。
- 88) kohetuku: 『久保寺辞典』に「kohetuku 起る」(p.135) とある。
- 89) a=ki wa tunas pe: 『アイヌの叙事詩』に「aki wa tunaspe われするのが速いのに」(p.298ほか) とある。
- 90) リクシタムクル rik kus tamkur: ノートの表記に従うと ri kus tamkur となる。しかし, 鍋沢のテキストにおいては, ri kus tam kur (『アイヌの叙事詩』p.149, p.276, p.310ほか) がある一方で, rik kus tam kur という用例もある (『アイヌの叙事詩』p.306, p.588ほか)。ri と rik とでは, ri 「高い」kus 「～を通る」より rik 「高所」kus 「～を通る」のほうが意味が適切である。また, この行と対句になっている ra kus tamkur (295行目) の ra 「低所」と対になるのは rik 「高所」であろう。そこで, ここでは「ク」がひとつ脱落しているが rik kus であるとした。なお, 鍋沢のテキスト以外では『金田一全集 9』p.445に rikush tamkur という用例が見られるが, 同ページの注では「rik (上) -kush (通る) -tam (刀) -kur (影)」の意味であると説明されている。また, この ra kus tamkur 以下の 4 行は, 主人公が刀を振り回している様子の常套表現である。
- 91) a=eonuyta- / pukte: eonuytapukte は, e- 「<場所>」に o- 「～の末端」 nuy 「炎」 ta (=tak) 「塊」 pukte 「～を燃えあがらす, ～をたち渡らせる」か。『金田一全集 9』によると, 「追いかける迫力の形容」に使われる語 (p.445)。
- 92) tup ne rep ne: 直訳は「二つになる, 三つになる」だが, ここではバラバラに切断された死体のこと。yukar(1) 注404 参照。
- 93) 命 (魂) が飛び去るとは, すなわち殺されたことを意味する。英雄叙事詩における常套的な表現。アイヌ英雄叙事詩では, 東に飛んで行く魂は再び生き返れるが, 西に飛んで行くと二度と生き返れないとされるため, この直後に魂が飛んで行った方向について語られることが多い。『アイヌの叙事詩』所収の「ニタイパカイエ」においてもサンプトゥンクルの魂が飛んで行く方向が叙述されているが, このテキストではそれが省略されている。
- 94) シロタツバ sirotatpa: 『久保寺辞典』に「sirotatpa たたきつける. まき散らす. / tu shiwempa ～ 数々の荒口をいふ」(p.252) とある。yukar(1) 注81 参照。
- 95) kurkasike: 『沙流辞典』に「kurkasike (動詞句の前に置かれて) ... している間に, ... しながら」(p.365) とある。ローマ字表記については yukar(1) 注134 参照。
- 96) ney wa ek pe / e=ne hine: 直訳は「どこから来たものがお前であって」。
- 97) ye rok awa / kurkasike: 直訳は「言ったところ / その上で」。
- 98) エオトイエ: 「ト」は, 後から書き足されている。
- 99) e=otuye: 『沙流辞典』に「otuye (稲や草) を根元から刈る。(小さい木) を根元から(一切りに) 切る」(p.496) とあるように, otuye は通常, 木や草を刈る(根元からばっさり斬る) 意味で使われる語。ここでは, 「i=otuye 私を斬る」(『神話集成 9』p.114) や「ikaopashpe...

- …anotuyekar 援けに駆けつけるもの……我すっかり斬り去る」(『ユーカラ集 8』 p.241) のように、人間をばっさり斬り殺す意味で使われている。
- 100) itak=an ciki: 直訳は「私が話したら」。
- 101) oihunara: o- 「場所」へ」 i- 「もの」 hunara 「～を探す」。
- 102) アコロアザ: 「口」は鉛筆書きのような薄い文字で書き足されている。
- 103) アエカルカルズ: ノートの表記に r をひとつ補って a=ekarkar ruwe とした。
- 104) ehuyne pakno: 『久保寺辞典』に「ehuine 何処 / ~pakno どれ程にも、何処までも」(p.57) とある。
- 105) セコロイタク: この行は後から書き足されたらしく、次行「キブネコロカ」の脇に書かれている。
- 106) オカロクス: ノートの表記に k をひとつ補って oka rok kusu とした。
- 107) a=eukotama: 『萱野辞典』に「エウコタマ [e-u-kotama] 一緒に、ともに、あわせて」(p.126) とある。
- 108) cipa: 『パチエラー辞典』に、cipa は「To strike at with a sword」(p.84) とある。ここでは名詞として使われているため意識した。
- 109) tumunci kamuy: ここでは、主人公を育てていた老爺の仲間たち。注13) 参照。
- 110) アタムコップバ a=tamkocuppa: ノートでは「ツ」の字が右に寄っているため促音「ッ」のように見えるが、それでは意味が取れない。そこで、促音ではなくこのノートの用字では cu にあたる大きな「ツ」を意図した字だと解釈して、tamkocupu 「～を刀で攻撃する。～を刀でやりこめる」(『千歳辞典』 p.249) の複数形 tamkocuppa とした。
- 111) イビシ ipisi: ①自動詞 ipisi (< i- 「もの」 pisi 「～を尋ねる」), ② i=pisi 「私に尋ねる」という2つの可能性がある。だが、pisi は「～を尋ねる」で、聞く相手を目的語として取る場合には、kopisi 「～に～を尋ねる」となることから、ここは ipisi 「ものを尋ねる」と解釈した。『アイヌの叙事詩』(p.153) にも「ipisi itak 尋ねる言葉」という表現がある。
- 112) ewkutkeska- / peka: e- 「～について」 u- 「互い」 kutkes 「喉の奥」 ka 「～の上」 peka 「～を受け渡す、～を受け止める」か。『アイヌの叙事詩』には「e-ukutke or / peka kane 共に喉元を鳴らして / 一緒に歌う」(p.73) という表現があるが、『久保寺辞典』に「eukutkeska 口々相承け」, 「ewkutkes oro uyna = ukouk = earkutkes peka kane」(p.72), 『パチエラー辞典』に「Ukutkes-peka v.i. To give voice in unison.」(p.531) とあることから、「次々に、入れ替わり立ち替わり」質問を投げかけてくる様子とした。
- 113) ne teksama: 直訳は「そのそば」だが、「そのかたはら、さうしながら、猶、しかのみならず」(『久保寺辞典』 p.169) や「それと同時に」(『宗教と儀礼』 p.177) とあることを参考に、ここでは位置関係というよりも時間的に接近しているという意味とした。
- 114) ナンコロ・ラ: 表記どおりの nankor ra ではなく ナンコラ nankor ya とした。「ナンコロ」のところでページの下端に達して改行しているため、~nankor / -r ya のように r 音が重複してしまったものであろう。
- 115) kamuy iruska / humas nankor ya: 直訳は「神が怒る／感じだろうか」。
- 116) koonisposo: ko- 「～に向かって」 o- 「～の尻」 nis 「空」 poso 「～を通り抜ける」で、直訳は「空から～に落ちる」。ここでは「落ちる」ような勢いではあっても自らの意思で降りてきている。
- 117) wen munpana: 『アイヌの叙事詩』に「wen munpana 悪い土煙り」(p.313) とある。
- 118) ドムチ: 「ン」が脱落しているが、tumunci 「戦い」か。

- 119) puta un nis ne :puta 「ふた」 un 「～につく」 nis 「雲」 ne 「～である」。『クトゥネシリカ』に「puta un nis ne 黒雲の如く」(p.217)とある。
- 120) リクンスマチ rikun numaci : ママチという表記には numat と numaci の可能性が考えられるが、ここは numaci とした。注29) 参照。
- 121) usura : 『久保寺辞典』には「usura 切れはなれる、きれてばらばらになる、離れる」(p.299)とある。
- 122) konaynatara : 『クトゥネシリカ』に「konaynatara 鳴りわたる」(p.98)とある。yukar(1) 注281) 参照。
- 123) モシソ : 「リ」が脱落しているが、mosir so 「国土の面」とした。
- 124) koarsatcep ne : 『久保寺辞典』に「koarsatcep 干魚の背 koarsatcep ne 割した如く割れる」(p.133)とある。「ru an toykurka / ko-ar satchepne 大地の上に／崩れ落ちた」(『アイヌの叙事詩』 p.241)のように、鎧が壊されるなどして割れたときに用いられる比喩。
- 125) aratusano : ar- 「まったく」 atusa 「裸になる」 -no (副詞化接辞)。
- 126) semturaysam : 『久保寺辞典』に「semturaisam aekotekar なるものか 死すとも…せじ」(p.238)とある。
- 127) a=ekotekar : 『久保寺辞典』に「aekotekar 懸命になる」(p.13)とある。前注126)も参照。
- 128) アコゼラナ / コスヲトツケ a=kocerana- / kosuototke : 「akoherana ぴゅっと下り」(『アイヌの叙事詩』 p.559), 「suwototke 急に降下する」(『静内語彙』) という意味で、『アイヌ・モシリ』には「コゼラナクル / コスヲトツケ ビューと下り / 降りて来た」(p.461)とある。さっと急降下してくる様子を言う語。ノートの表記にしたがうと kosuwototke だが、w は挿入音。
- 129) somo suy kusu : 『久保寺辞典』に「shomo shui kusu よもや何々せんとは」(p.257)とある。ここでは「よもや、そのようなことをされる (=カムイオトプシに鎧を取られる)とは思わなかったのに」という意味。
- 130) ノートでこの行が棒線で消されている。通常、「somo suy kusun / inkaran kunihi / aramu rok awa よもや / 見るとは / 思わなかったのに」(『アイヌの叙事詩』 p.255)のように、somo suy kusu と呼応する動詞には否定形は使われていないことから、eramiskari 「わからない」という否定の意味を含む動詞は不適当と考えたためか。
- 131) yaykokarkar : yaykokarkar は「身支度をする」(『久保寺辞典』 p.310), 「To have, To hold. Possess」(『パチェラー辞典』 p.564)とある。鍋沢のテキストでは、「pirka sike ne / a-yaykokarkar / a-se hine こよなき獲物 / 自ら作り / 背に負って」(『アイヌの叙事詩』 p.27)のように「(荷を)作る」と訳している場合と、「pirka sike ne / yaykokarkar 良き小荷物に / 自ら背負って」(同 : p.155)のように、「(荷を)背負う、持つ」と訳す場合が見られる。ここでは、荷物として持つためにまとめている動作とした。
- 132) ki p ne korka : 直訳は「したのだが」。
- 133) a=tamnospare : 「atam-nospare 太刀をふりまわし」(『クトゥネシリカ』 p.45)
- 134) somo suy kusun : somo suy kusu (注129))と同じ。
- 135) humas kuni / a=ramu rok awa : 直訳は「感じがすると / 私は思わなかったが」。
- 136) アイラウコタブ a=i=rawkotapu : 『アイヌの叙事詩』(p.163)では irawkotap となっているが、同書 p.604 や 『千歳辞典』(p.404), 『久保寺辞典』(p.18, 106, 222) など rawkotapu となっている例が多いため、rawkotapu とした。rawkotapu は「～を抱きかかえる」(『千歳辞典』 p.404), 「抱く。坐っている者の下の方から抱き取る。すくひ取る様に抱へる」(『久保寺辞典』 p.222)

という意味。

- 137) urar kanto / nociwo kanto : 英雄叙事詩の世界観では「天」は六層ある。「霞の天」, 「星の天」はそのうちのひとつ。
- 138) sinis kanto : 六層ある天のうち, 最上層の天。
- 139) a=koesoykarpa : 「koesoykarpa (背にも) 突きぬける」(『クトゥネシリカ』 p.102)。soykar は『久保寺辞典』に「soikar (-pa) 出てくる」(p.259) とある。
- 140) ル ru : ruwe と同じ名詞化辞。「ru konna ... しているのは...」(『沙流辞典』 p.585) という表現があるため, ここでは「ル」は ruwe の脱字ではなく, ru とした (konna と ko は同じで, 音節数によって使い分ける)。したがって arpa ru ko の直訳は「行くのは」となる。
- 141) maknatara : 『沙流辞典』によると, mak-は「明るさや開放を表す語根」(p.376) とある。ここでは kinup so についての表現なので, 「はるばる打開けている」(『久保寺辞典』 p.153) のように, 広がっている様子を表す。
- 142) komewnatara : 『沙流辞典』に「as ru konna komewnatara ... が立っているのが堂々と立派ですばらしい」(p.325) とある。建っているものが荘厳で立派な様子を言う語。cise 「家」や casi 「山城」, cikuni 「木」などが堂々とそびえ立っているさまをいう際に多く使われる。
- 143) テキサム : テキサムは teksam 「～のそば」。
- 144) kohoraociwe : 『沙流辞典』に「horawociwe (飛んで来た神などが) 空から地上にサッと下りる」(p.200) とある。
- 145) i=ekira pe : 通常, 「もの」を表す語は, kira のような母音の直後には pe ではなく p が来る。しかし, 韻文では韻律に乗せて音を伸ばしたり, 音節数を 5 音節にしたりする都合上, しばしば pe になることもある。したがってここではノートの表記「pe」のまま p に直すことはしなかった。なお, この行は pe を入れて全部で 5 音節になっている。
- 146) aarkotomka : 『千歳辞典』に「aarkotomka ～に違いない (もの); <a=『人が』 ar-『まったく』 kotom 『～のようである』 -ka 『～させる』」(p.2) とある。
- 147) kaysitapka- / eterkere : 『久保寺辞典』には kaysitapka-eterkere で「己が背の上に投飛ばしたり」(p.116), 「我が肩もてとばしかかげる」(p.122) とある。戸になっている簾を, 手を使わずに頭や体で払うようにして荒々しく入ってくる様子。
- 148) イヌベ : 「ン」が脱落しているが inumpe 「炉縁」か。
- 149) kotesnatara : tesnatara は「平坦な様, そつくり揃つてあり, すらりと延びる」(『久保寺辞典』 p.272), 「穏やか, なめらか, 平たい」(『萱野辞典』 p.323)。ここでは炉ぶちがすらっと長く伸びている様子を言う。
- 150) ranpes kunne : 「ranpes kunne / chisiturire 低い崖のように / 延べられて」(『アイヌの叙事詩』 p.157)。ranpes は「山の端, 崖の端」(『萱野辞典』 p.465), 「海岸の砂浜 (otanikor) より上の, 坂になっている所が二段になっているときその下の方の斜面」(『沙流辞典』 p.561) だというのが, ここでは鍋沢の既刊テキストの訳を参考にした。
- 151) casi kotor : 沙流方言で kotor は「～の面」の意味 (たとえば nupuri kotor 「山の斜面」) だが, cise kotor や casi kotor となったときは「cisekotor 家の天井 (天井だけ, 壁は入らない)」(『沙流辞典』 p.346), 「chise kotor (家の中の空間)」(『久保寺辞典』 p.143) とある。また, 鍋沢のほかのテキストでは「chasi kotor 山城の胸板」(『アイヌの叙事詩』 p.30) と訳されている。ここでは, 壁際に積み重ねられた宝物に反射して家の内側が光り輝いている様子である。
- 152) ボメノコ : 「ン」が脱落しているが, pon menoko 「若い女」か。
- 153) nupurpe sone : 『ユーカラ集 6』に「nupurpe sone いみじき巫女とおほしく」(p.136) とある。

- 154) *cannoyep*: 『沙流辞典』に「*cannoyep* 現れ。 *nupur pe sone / nupur cannoyep / esirutumka / nuyna kane* [雅] 本当に霊力のあるものだが霊力の現れを頭飾りをかぶって自分の中に隠して」(p.42) とある。
- 155) *エシルトムタ / スイナカネ esirutumta- / nuyna kane*: 『沙流辞典』に「*esirutum ta nuyna ...* を頭飾りをかぶって自分の中に隠す」(p.126) とある。
- 156) *ekimuykasi*: 『アイヌの叙事詩』に「*ekimuy kasi* その頭の上に」(p.292) とある。
- 157) *episkanike*: *e-*「～の頭」*piskan*, *-i-ke*「～のまわり」か。なお、鍋沢以外でも「*mukke turenpe nociw kiru ne episkanike tewnin kane* 隠形の憑き神が、星をひるがえしたように、(頭の) 回りで明滅している」(『千歳辞典』p.268), 「*sara turenpe / kapapsai kunne / epishkanike / kurun kane* 現形の憑き神 / 蝙蝠の群れるよう / その身のまわりに / 晦み渡らせ」(『ユーカラ集 9』p.295) といった用例が見られ、女性の巫力の強い様子を描写する際の常套表現において使われることが多い。
- 158) *say'unitara pa*: *say*「(鳥などの) 群」*un*「～につく」*itara*「～し続けている」*pa* (複数) か。
- 159) *tanpa ne pa ~ pakno an*: 若い娘の年格好を形容する際の常套表現。 *yukar*(1) 注186) も参照。
- 160) *シノツスマチボ sinotnumatpo*: 鍋沢の表記においては音節末子音に *-i* 音を伴って *t* がチと書かれる場合もあるため、*ヌマチ* は *numaci* と *numat* の可能性があるが、「*sinotnumatpo* 胸ひも、女性の下着 (*mour* モウル) の襟もとを開かないようにとめるひも」(『沙流辞典』p.641) を参考に *sinotnumatpo* とした。
- 161) *a=i=eare*: *a* = 「人が」 *i* = 「私を」 *e-* 「〈場所〉に」 *a* 「座る」 *-re* 「～させる」。*ieare* わたしを据え」(『ユーカラ集 1』p.78)。
- 162) *アイヌラクル*: *k* をひとつ補って *Aynurakkur* 「アイヌラックル」とした。
- 163) *sipitonere*: *si-*「自分を」*pito*「神」*ne*「～である」*-re*「～させる」。*『久保寺辞典』*に「*shipitonere* 高慢する」(p.248) とある。次注164) も参照。
- 164) *sikamuynere*: *si-*「自分を」*kamuy*「カムイ」*ne*「～である」*-re*「～させる」。*『久保寺辞典』*に「*shikamui-nere* 高慢する、悪魔のくせに神様のふりをする。お高く止まる。高慢にかまへる」(p.241) とある。
- 165) *Nitaypakaye / Nitayparama*: 主人公をさらって育てたトゥムンチカムイの名。なお、本テキストの異伝にあたる『アイヌの叙事詩』所収の「ニタイパカイエ」では *Nitaypa-kaye* とのみ呼ばれ (p.173ほか)、本テキストのように対句の名にはなっていない。『アイヌの叙事詩』(p.133) には「ニタイパカイエとは *nitay-parama nitay-pakaye* 〈林の上折り曲げ、林の上折り切る〉という、たつまきの魔物の名であるといわれている」とあるので、*nitay*「林」*pa*「～の上端」*kaye*「～を折る」の意味か。*rama* という語は未詳だが、『金田一全集 9』(p.440) で *cityumarama* という語について、「*tuima* (遠く) *-rama* (地を這う、倒れころぶ)」と解釈しており、この *rama* か。
- 166) *tu pirka kuni p*: 『ユーカラ集 4』に「*tu pirka kunip* 二つのいいこと」(p.341) とある。 *yukar* (1) 注35) 参照。
- 167) *apa un kuni*: *apa*「戸」*un*「～にはまる、～に付く」*kuni*「～するはずのこと (形式名詞)」。「*pyur un kuni* 窓のあること」(『ユーカラ集 9』p.172)。
- 168) *hetopo horka*: *hetopo*「逆に、反対に」*horka*「反対に、逆方向に」で、『久保寺辞典』に「*hetopo horka* 引返してまた。引返す」(p.85) とある。
- 169) *カラカニツ kor a kanit*: ノートの表記どおりには *kar kanit*「(糸を) 作っていた糸巻き棒」となるが、*kanit*「糸巻き棒」を使う際には *kar*「～を作る」ではなく *eka*「(糸) を纏る」を伴う

- ことが多い(例えば『神謡・聖伝』(p.107)に「a-eka rok kanit」とある)。また、『アイヌの叙事詩』の同じ場面では「kor'a ka-nit / etaypa hine 持っていた糸巻きを / 抜いて」(p.60)という表現が使われている。したがって、ノートの「カラカニツ」は『アイヌの叙事詩』と同じ表現 kor a kanit を意図した誤記と解釈した。
- 170) アムソウスツ amso sowsut : am-は、『沙流辞典』で接頭辞として項目が立てられているように、amso「床」、amset「寝台」といった語の一部として現れ、単独では使われない。また、am-「広がった」sowsut「～の隅」という訳も収まりが悪い。そのため、ここではam sowsutではなく「アムソウスツ amso sowsut」を意図したものと解釈した。
- 171) uyna tuyka : ここでの tuyka は「(動詞の後に置かれて) ... している最中」(『沙流辞典』p.745)の意。
- 172) a=ki wa ruy pe : 『ユーカラ集3』に「aki wa rupe はげしくわれはやったのに」(p.191)とある。
- 173) ehopuni : e-「(場所)へ」hopuni「飛び立つ」。『静内語彙』に「ehopuni [場所]へ飛んで行く」とあり、『アイヌの叙事詩』に「atam etoko / ehopuni 太刀の先に / 飛び去って」(p.254)という用例が見られる。hopuni 自体は「飛び立つ」であり、飛びながら逃げるという意味はないが、e-がここでは格助詞 peka と同様に線的な範囲を示し、女が刀を避けるために刀の延長線上に跳びすさった様子を表しているものとして、「飛びのく」と意識した。
- 174) アタムサオツテ a=tamsaotte : sawot「～から逃げる」(『千歳辞典』p.196)という語形が多く見られるが、saotで「逃げ来る、逃げ戻る、恐れる?」(『久保寺辞典』p.234)、「To run away」(『パチエラー辞典』p.436)といった記述もあるため、ノートの表記のまま saot とした。そのため、tam「刀」saot「～から逃げ去る」-te「～させる」。この語の用例は少ないようだが、「北蝦夷古謡遺篇」に「チタイサオツテ / アニエカラカラ 太刀もて追ひ、 / 追はれつ追ひつして」(『金田一全集9』p.74) (citaysaotte / an=i=ekarakara の tay は tan「刀(樺太方言)」が音交替したもの)という用例が見られる。
- 175) アシリキキンネ asirkikinne : 「アシリキキンネ」は、ノートにおいて「キ」と「キ」のところで改ページされていることもあって「アシリキンネ」を意図した誤記の可能性もある。だが、鍋沢によるほかのテキストに「asirkikinne また新たに」(『アイヌの叙事詩』p.210)という表現もあるため、「アシリキキンネ asirkikinne」という語形としてローマ字化した。あるいは、asirkikinne で5音節になるため、音節数あわせの技法としてkiをひとつ多く足している可能性も考えられる。
- 176) casi sam ka ta : sam「～のそば」もka「～の上」も共に位置名詞であるため、通常は連続しないが、～sam ka taという言い回しは、鍋沢や金成マツの英雄叙事詩ではしばしば見られ、たとえば『アイヌの叙事詩』にも「chasi sam ka ta」という表現がある(p.279)。
- 177) シヨロツテ siorotte : 「tunpa humihi / siyorotte 鏢の音を / ひびかせて」(『アイヌの叙事詩』p.262)など鍋沢のテキストにおいては「鳴る」「響く」のような音を伴う訳語がつけられている。また、『ユーカラ集2』には「shi-or『自身・そこに』otte『たくさんにする』、『伴い生じる』」(p.430)とあることから、「伴って音が生じる」のような意味か。また、ノートの表記にしたがうと siyorotte だが、yは挿入音。
- 178) cimaka apa : cimakaで「Open」(『パチエラー辞典』p.80)、apa cimakaで「戸が開く」(『久保寺辞典』p.25)とあるように、cimakaは「開く」の意味。しかし、この文脈で「開いている戸」とすると、588行目で戸が閉められていることと矛盾する。したがって、「cimaka apa 入口の戸」(『アイヌの祈詞』p.77ほか)という訳を参考に「chimaka apa」で入口のことを表す

語と解釈した。

- 179) ukaetuypa: 『久保寺辞典』に「ukaetuypa 幾本も切る」(p.289) とある。
- 180) ruwe: ここでは感嘆表現。
- 181) ney ta kusu: 『久保寺辞典』に「neita kusu 何時でも(この語あれば常に反語となる)」(p.166) とある。ただし、ここでは平叙文で久保寺の説明のように反語にはなっていない。訳は「いつでも怒っている」となることから、アイヌラックルが家を出たときと同様に「いまだに」怒っている旨を言いたいものとした。
- 182) ene an kamuy: ene an kamuy や ene an pito における ene an は、ただの指示語ではなく、「さばかりの (such)」(『久保寺辞典』 p.61) のように、感嘆の気持ちを含む表現になる。
- 183) ウラクブンカルネ uok punkar ne: 「uok punkar ne 蔓が絡まったように」(『神話集成7』 p.100) という意味だが、怒りで青筋が立っている様子の比喩。なお、ノートの表記にしたがうと uwok だが、w は挿入音。
- 184) ipukitara: 『沙流辞典』に「ipukitara (顔に) ありありと出ている」(p.241) とある。怒っている様子が顔に表れていることを言う表現。
- 185) wen aynu sani: ここでは、主人公を罵って言う語句。
- 186) renkap: renkap, -i は、『久保寺辞典』に「renkapi のぞみ。心掟。仕業? / wen renkapi 悪い根性、悪企」(p.224) とある。したがって、pirka renkap は単に「良い心」というより、「pirika renkapi 良き裁量」(『ユーカラ集1』 p.174) のように意図を表す語であるとし、ここでは「善意」と訳した。
- 187) i=korenka: korenka は「...を承知する」(『沙流辞典』 p.336)。
- 188) upakasnu mosir: 直前の teyne mosir と同じく最下層に位置する世界のことか。『バチエラー辞典』には upakasnu で「To punish.」とある (p.535)。
- 189) a=kor a mosir: 「私の国」が直訳だが、ここでは天の国に対して人間の国を指す。
- 190) コスヲトツケ kosuototke: 『静内語彙』に「kosuototke ~へ急降下する」とある。また、「ako-su-ototke 飛び降りて」(『アイヌの叙事詩』 p.421) 。なお、ノートの表記にしたがうと kosuwototke だが、w は挿入音。
- 191) アエキサラスド: 「キ」は脇に書かれており、後から挿入されたいらしい。
- 192) a=ye rok kuni: 『萱野辞典』に「アイエロックニ [a=ye rok kuni] 言うところの、(噂に聞いていたはずの、人々が前々から口に何度もしていた、いわゆる)」(p.2) とある。
- 193) a=koesoyosma: soyosma は「外へぼつと出る、突然外に出る」(『久保寺辞典』 p.261) の意味で、「akoesoyosma 出て行った」(『アイヌの叙事詩』 p.171) と訳される場合が多い。本テキストの文脈では「出る」というより、teyne mosir に入っていくところなので「kamuy mosir / ko-esoyosma 神の国へ / 入ってしまう」(『アイヌの叙事詩』 p.113) を参考にした。
- 194) eurokpare: 『アイヌの叙事詩』に「e-urokpare 互いに並べ」(p.97) とある。
- 195) イヨルラ i=orura: ノートの表記にしたがうと iyorura だが、y は挿入音。
- 196) i=eare イゾアレ: ノートの表記にしたがうと iyeare だが、y は挿入音。意味は注161) 参照。
- 197) エネオヒ: 「カ」が脱落しているが、ene oka hi 「このようである」か。
- 198) ボイヤフンベ Poyyaunpe: ボイヤフンベは Poyyaunpe。主人公の仇名。鍋沢の既刊テキストでは「ポイヤウンベ」(『アイヌ・モシリ』 p.517)、Poyyaunpe (『アイヌの叙事詩』 p.158ほか) となっているため、それにしたがってローマ字・和訳は「Poyyaunpe ポイヤウンベ」とした。なお、鍋沢の英雄叙事詩では Poyyaunpe であって Ponyaunpe という語形は見られない。
- 199) kooterke: 『沙流辞典』に「kooterke ...の...を踏みつける/ふみにじる」(p.330) とある。

- 200) cikooterke: 多くの場合, ci-kooterke / ekarkar のように ci- ~ ekarkar で呼応し, 人称接辞も ekarkar に接頭する。しかし, ここでは文脈から「お前が踏みにじった」と考えられるにもかかわらず, e=ekarkar を欠いている。同じような例として「ciko-oterke / ne wa neyakun 踏み付けて / しまったからには」(『アイヌの叙事詩』 p.503) があり, ここでは cikooterke が名詞として扱われている。本テキストでも同様に cikooterke を名詞として扱っているために人称を欠いたものか。なお, ci- ~ ekarkar で呼応する場合に ekarkar を欠く例は, 鍋沢のほかのテキストにおいても, 「Poyyaunpe / e-ot mosiri / chikohunara ポイヤウンベの / 住む国を / 探した」(『アイヌの叙事詩』 pp.247-248) など, しばしば確認できる。
- 201) e=rawe kusu: rawe は「望む」(『萱野辞典』 p.458)。「e-rawe kusu / e-ikip ne kusu 汝が好き好んで / したことから」(『神話・聖伝』 p.102, p.317) のように, 自分がしたことの報いを受ける際に使われる。
- 202) ki kusu ne kor: 直訳は「しようとする」と。
- 203) コニシネイクル / オツテ konissneykur- / otte: コニシネイクルは s をひとつ補って konissineykur とした。「konish-shineikur- / atte kane 一むらの雲を / 打ち掛けて」(『金田一全集 9』 p.414)。また, その注として「ko (そこに向かって, その方へ, そこへ, 即ち戦場の真上へ) nish (雲) shine (ひとつ) ikur (雲翳, かげ) -atte (掛ける)。雲が真上へ来てとまって動かなくなる」とある。otte は「~を~に掛ける」(『萱野辞典』 p.174)。ここでは黒い霧が主人公に向かってくる様子。
- 204) etete: 『千歳辞典』に「etete ~を突っ張る。~を杖のようにしてつく」(p.88) とある。
- 205) repotpe tonto / yaotpe tonto / a=uekar pe: 『アイヌの叙事詩』に「repotpe tonto / ya-otpe tonto / ci-u-ekarpe 海獣の皮と / 陸獣の皮とを / 組み合わせせたもの」(p.512) とある。この「皮を組み合わせせたもの」が何であるのかは本テキスト中で明示はされていないが, 上記の『アイヌの叙事詩』における同様の描写は hayokpe 「鎧」についてであることから, ここでも老婆の着ている hayokpe 「鎧」の描写であろう。
- 206) アウヰカル a=uekar: ノートの表記にしたがうと auwekar だが, w は挿入音。
- 207) eoyauna- / teske: 「エオヤウナ テスバ・カネ 固い上着の そとへ逸れた様な恰好で / 着て」(『アイヌ・モシリ』 p.498) や「aeoyauna- / teshke kane 膚にびったり / 着けずに着て」(『ユーカラ集 7』 p.284) といった用例から, 鎧がごわごわしている硬い皮で作られているために体にフィットしない様子か。teske は「反る, 反れる」(『沙流辞典』 p.714)。eoyauna は不詳だが, 『アイヌの叙事詩』には「e-oyawna 『そこに広がって』」(p.221) とある。
- 208) husko us pe: 直訳は「古くついたもの」。『アイヌの叙事詩』(p.166) などに見られる同様の表現から, ここは「血」のことを言っているものとして意識した。次注209)参照。
- 209) クンネウシネ kunne ussi ne: ウシは, ノートの表記に s をひとつ補って ussi 「漆」とした。『アイヌの叙事詩』には「husko uspe / kunne ussi ne / asir uspe / hure ussi ne 古く着いた血が / 黒漆のよう / 新しく着いた血が / 赤漆のよう」(p.166) という同様の表現が見られる。
- 210) フレウシネ hure ussi ne: 738行目と同じく, 「ウシ」は ussi。前注209)参照。
- 211) etekorsam- / unte: e- (音節数あわせの接頭辞) tek 「手」or 「~のところ」 sam 「~のそば」 un 「~につく, ~にある」-te 「~させる」か。
- 212) usetur- / samnere: usetursamnere は u- 「互い」 setur 「背中」 sam 「~のそば」 ne 「である」-re 「~させる」だが, この場合「u- ~ -re という構文」で「『みんなが一斉に~する』という意味で用いられる」(『千歳辞典』 p.51) ため, ここでは爺婆の片方がもう片方の背中に寄り添っ

ているという意味とした。

- 213) kuwa kurka / notomare: 『アイヌの叙事詩』に「op kurkasi / enot omare 槍の上に / あごを突出し」という例があり、この表現について「槍を持って首を突出して言う様子、何か非常の命令を出すというときの儀礼的な動作」だという説明がある (p.31)。ここでは「命令」ではないが主人公に対しての申し渡しを行うにあたっての所作であろう。
- 214) エネカヒ: 「オ」が脱落しているが ene oka hi か。
- 215) ソランノヘタブ soonno hetap: soonno は「soonno hetap」(『金田一全集9』p.188) のように sonno と同じように使われる。そのため「ソランノ」は sonno の強調形と捉えてノートの表記通りに soonno とした。『久保寺辞典』に sonno hetap は「本当にまあ、まことかや」という「感動的な声、感声」(p.260) とある。
- 216) cihonokka: honokka という語自体は辞書には見られないが、yayhonokka で「勉強する」(『沙流辞典』p.850)、「自習する」(『方言辞典』p.162: 沙流) とある。yay- は「自分を、自分に」であることから yay-honokka は「自分・～に教える」という語構成が推測されるため、honokka を「教える」の意味で解釈した。
- 217) エユウタリ: 「ブ」が脱落しているが e=yuputari 「お前の兄たち」か。
- 218) アエオナカムイ: 「イ」が脱落しているが Aeoynakamuy 「アエオイナカムイ」か。
- 219) Aeoynakamuy: ここまで Aynurakkur 「アイヌラックル」と呼ばれていた人物と同一。
- 220) アオイナカムイ: 「エ」が脱落しているが Aeoynakamuy か。
- 221) a=tekrikikur- / puni: 『パチエラー辞典』に tekrikikurpunpa で「To lift up the hands as in salutation」(p.496) とある。拝礼のために手を胸の前に掲げるしぐさを言う。
- 222) ciwkus: ciwkus は『萱野辞典』に「泣く: 顔の表を涙が流れるように泣く」(p.315) とある。また、『久保寺辞典』には「nan-kurkash chiu kush kane, ki konneshi, oka an. 顔の上に川が流れる様に、毎日泣いてばかり暮っていた」(p.164) とある。涙を滂沱と流す様を、ciw 「水の流れ」(ここでは涙) が nankurkas 「顔の上」を kus 「(場所) を通る」と表現している。
- 223) タクベカ: タクベは、ノートの表記に p をひとつ補って takuppe とした。
- 224) tu piskan: 『ユーカラ集1』に「tu piskan mosiri 二つのまわりの国」(p.147) とある。
- 225) sukup epitta: sukup は「成長する、子どもから大人へ、若年から壮年になり壮年期をすごして老年へと向かって成長して/年を取っていく、(若い大人として) 暮らす/人生を過ごす」(『沙流辞典』p.682)。epitta は「一つのもの全部(全体、... じゅう。)(同:p.110)。したがって、ここでは主人公の兄・チウセレスがそれまでの半生を主人公を探すことに費やしてきたことをいう。
- 226) etasaske: tasaske は『久保寺辞典』に「からい、つらい目に遭ふ」(p.268) とあり、e- 「～について」tasaske 「つらい目にあう」か。訳は「etasaske wa 辛酸を分ち合うぞ」(『クトゥネシリカ』p.59) も参考にした。
- 227) pannatara: 『久保寺辞典』に「pan natara 消える様にすつと中に入る」(p.200) とある。
- 228) イヨサウサワ i=osawsawa: ノートの表記にしたがうと iyosawsawa だが、y は挿入音。「a=osawsawa 我々はゆり動かして」(『くらしと言葉5』p.79) とあり、osawsawa はゆすってぐらつかせることか。
- 229) エネオヒ: 「カ」が脱落しているが ene oka hi 「このようである」か。
- 230) シベツテキ sipettek: シベツテキは sipettek<sub>o</sub>。sipettek は「終わる」(『萱野辞典』p.271)、「無事に終わる」(『久保寺辞典』p.248)。
- 231) イヨルラ i=orura: ノートの表記にしたがうと iyorura だが、y は挿入音。

- 232) アイゴコシネ a=i=ekosne- : ノートの表記にしたがうと aiyekosne だが, y は挿入音。
- 233) kotan tapkasi : tapkas, -i は「～の上」の意味だが、『沙流辞典』(p.699)では「『…に行く』『…に来る』等を表す語の前で, 村(集落 / 地域 / 国)という場所を表現するのに, 歌謡や叙事詩等の韻文ではときおり kotan tapkasi コタン タッカシ という表現が用いられる。この二語で五音節となり, 韻文の一行分として整う」として, 「kotan tapkasi」を「村べに(この場合故郷)に帰る」と訳している。
- 234) ドオトリミ : 「ン」が脱落し, m の直後に -i 音が挿入された表記となっているが, tu otornim か。意味は注7)参照。
- 235) a=oyramnere : 『久保寺辞典』に「oiramnere 心をとめる, 関心を持つ. 心を寄せる」(p.184)とある。
- 236) nep eupak kuni p : 『久保寺辞典』に「eupak へあてる, 対抗する?」(p.72)とある。鍋沢ワカルバの英雄叙事詩に「nep eupak kunip / kikirpashushke / penununke / shikopayar 何に充てんといふ積りか / 虫の湧くやう / 洪水の溢るゝ / さながらそのやう」(『金田一全集9』p.332)とあり, 同ページの注には「e (に) upak (充てる, あてがう, さしむける)」、「敵は我一人のみなれば, こんな大勢は入らぬ筈, 何, 誰へ向けようとしてのこの大勢だか」とある。同じ表現は同書p.441にもあり, いずれも多人数の敵とたった一人で対峙する際に, 「相手はただ一人だというのに, あまりにも多くの人を誰と対戦させるつもりで準備したのか」と揶揄する意味合いで用いられている。
- 237) kikir pasuske : pasuske は『久保寺辞典』に「ものめく, わきたつ, うごめく」(p.203)。kikir 「虫」が湧くようというのは, 敵の圧倒的な多さをいう場合の常套的な表現。
- 238) tumunci sermak : 白沢ナベによる英雄叙事詩中に「tumunci kamuy rorunpe kamuy, a=kor\_ tumunci tumunci sermak 戦いの神, 戦争の神よ。我が戦いの守護神よ」のように, tumunci kamuy と tumunci seremak が同格として扱われている用例が見られる(『叙事研』p.116)。本テキストでも, ここまでに出てきた tumunci kamuy と同じ意味として使われているものであろう。
- 239) ehoripi : 注71) 参照。ここでも仲間たちを景気づけ(あるいは, けしかけ)るように鼓舞している様を言うものか。
- 240) eyayramkotor- / mewpa : 『久保寺辞典』に「ramkotor mewe (meupa) 胸を張り元気を振ひ起す」(p.218)とある。yukar(1) 注71) も参照。
- 241) kousapencor- / kirpa : kousapencorkiru の複数形。『久保寺辞典』には kousapencorkiru で「右に左に上体を回転する, 腰をひねる」(p.20), 「あっちへ向ひ, こなたに転ず usa (両側) penchoro (上体) kiru (廻転する)」(p.204)とある。
- 242) eyaytemnikor- / okewtuye : e- 「～について」 yay- 「自分の」 temnikor 「両手で作った輪の中」 o- 「(場所)で」 kew 「体」 tuye 「～を切る」。
- 243) heru tamkuri / kari kane : 「tamkur kari 刀影のさばる」(『金田一全集9』p.484)。heru 「ただ」 tam 「刀」 kuri 「～の影」 kari 「回る」。刀の影だけしか見えないほど刀を素早く振るっているということか。
- 244) ukataterke : 『アイヌの叙事詩』に「ukataterke 互いに重なり合う」(p.525)とある。ここでは, 死体が山となること。
- 245) rayoci rew ne : 「rayochireu ne 虹如くうねりて」(『金田一全集9』p.412), 「rayochi 虹, reu うねり, ne のように」(同)。刀を抜いたその切っ先の軌跡が円弧を描くようである様子か。
- 246) kurkasike : 直訳は「その上に」あるいは「そうしながら」だが, 前後の文脈にあわせて意識し

- た。
- 247) アヌカルスイワ：ノートの表記に r をひとつ補って, a=nukar rusuy wa とした。
- 248) comap : ci-omap の縮約形。『久保寺辞典』に「chi-omap 愛らしい」(p.45) とある。
- 249) アエカルカラ a=e=ekarkar ノートの表記に従うと a=ekarkar となるが, これでは文脈から推測できる「私がお前を育てた」という意味の「お前を」にあたる人称を欠いてしまう。また, この部分と主語と対象が同じであると考えられる1010~1011行目でも citomte resu / a=e=ekarkar となっていることから, ノートの表記に e をひとつ補って a=e=ekarkar の意と解釈した。
- 250) ki rok ana : ana は不詳の語だが, 「chihoma ituren / iki rok ana 恐怖の憑依 / なのだから」(『久保寺ノート 5』 p.85), 「kinin tusure / ene rok ana いたずら八卦する / 汝だもの」(『ユーカーラ集 9』 p.116) といった用例が見られる。いずれも理由を表す接続詞として訳されているため, ここもその訳に従った。
- 251) maskin kusu : maskin は「あまりに, ますます」(『久保寺辞典』 p.154), maskin kusu で「なおのこと」(『クトゥネシリカ』 p.166) のような意味になる。
- 252) eyaywayrure : wayru は「間違い (をやる)」(『萱野辞典』 p.481) という意味なので, e-「～について」yay-「自分」wayru 「間違いをする」-re「～させる」で, ここでは動きを誤ったことか。次行以降では刀を避け損なったニタイパカイエが刀の真ん中へ躍り出て, 切られてしまっている。
- 253) tam utur kus pe : 直訳は「刀の間を通るもの」。振るわれる刀と刀の間を通るということから, ここでは刀を避けるという意味とした。
- 254) cipekare : 『久保寺辞典』に「cipekare そこへ向つてゆく」(p.46) とある。
- 255) a=owsatuye : 『久保寺辞典』に「ausatuye 我切断す」(p.35) とあるが, 「tupne repne / a-ousatuye 二つに, 三つに / 斬り散らす」(『アイヌの叙事詩』 p.243) ほか, 鍋沢のテキストにおいては owsatuye という語形でのみ見られる。
- 256) カムイノド：ノートの表記に「イ」をひとつ補って, kamuy inotu の意とした。
- 257) wen kamuy emus : 本ノート中, wen kamuy という言い方はこの部分以外では575行目に見られる。そこではニタイパカイエのことを指しているため, ここでも wen kamuy emus はニタイパカイエからもらった刀を意味しているものであろう。したがって, この場面で主人公は, 鎧は罰の国の tumunci ekasi から借りたものを着ているが, 刀は冒頭でニタイパカイエから譲られたものをいまだに持っていることになる。なお, 『アイヌの叙事詩』所収の「ニタイパカイエ」中にもしばしば wen kamuy という言い方は出てくるが, いずれもニタイパカイエかその仲間たちのことを指す語となっている。
- 258) ノートの表記どおりには a=tuye kuni p 「斬られたもの」となるが, 前行の wen kamuy emus 「悪神の刀」とのかかわりからノートの表記ではアの直後の e-「～でもって」が脱落したものと考えて, ローマナイズではこれを補った。また, 『アイヌの叙事詩』の同様の場面でも「wen kamuy emusi / aetuyep ne kusu 魔神の太刀で / 斬ったため」(p.177) とある。
- 259) kohumniwkeste : ko-「～に対して」hum 「音」niwkes 「～しかねる」-te「～させる」。この文脈での「音を立てる」は, 「死んだ魂が飛んでいく」とほぼ同義であるため, 悪神の刀で切られたために東 (= 生き返れる魂が向かう方向) には行きかね, 西 (= 生き返れない魂が向かう方向) へと飛んで行く様子となる。yukar(1) 注384) 参照。
- 260) kohum'erawta- / rorpa : 「kohumerawta / rarpa kane 音を低く / 沈んでいく」(『アイヌの叙事詩』 p.244) は, 生き返れない者の魂が西の地平の彼方に向かう際に用いられる常套表現。

- 261) イコオトマ / シッケルル i=kootuyma-sikkeruru: 『沙流辞典』に「kootuyma sikkeruru ... を遠くから目をむいてにらむ」(p.629)とあることから、「イ」が脱落しているがi=kootuyma-sikkeruru「私を遠くから目をむいてにらむ」とした。
- 262) アエヤイテムニ・コロ: 「ニ」と「コ」の間に、通常は行や語の区切りに使われている中黒のような点が見られる。しかし、「ニ」の部分でページの一番下に達していることから、ここでは筆記の際の改行に当たって挿入されたもので、区切りを意図したものではないと解釈した。
- 263) a=kus wa an \_hi: 『クトゥネシリカ』に「akus wa anhi われ通り過ぎるところ」(p.53)とある。
- 264) cisamason: 金田一京助によると、「samaは仆れて横になること; so(板敷の表, 畳の表など)ne(のようになる)」(『金田一全集9』p.440)であり、「この前か, この次に対語 chituumaturi(倒るるもの遠く連なり)などあるべき所」(同:p.426)とある。
- 265) cituymaturi: 鍋沢ワカルバの英雄叙事詩では, cituymaturi は cituymarama と共に cisamason の対語として使われており, いずれもほぼ同義の語。「我が追いかけて, 逃ぐるものと我との走り通る所, 群集ただひとさわりに顛落して倒るるものとおくつらなる」(『金田一全集9』p.440)という意味。なお, 鍋沢元蔵のテキストでは cituymarama は用いられず, cisamason の対としては cituymaturi が見られるのみである (『アイヌの叙事詩』p.299, 304)。
- 266) uhumkoraye: 『金田一全集9』には「憑神たちのたたかう音が互に打寄って一つ音に合して鳴りとどろく」様子だという説明がある (p.283)。u-「互いに」hum「音」ko-「と共に」raye「〜へやる, 〜へ行かせる」。ここでは「uhumkorayepa 共に音が入り乱れ」(『クトゥネシリカ』p.227)とあることを参考にした。
- 267) senne sawre: 『久保寺辞典』に「senne 打消辞. 否定形」, 「senne saure 軽からず」(p.238)とある。
- 268) cipatupatu: 『久保寺辞典』に「chipatupatu はたはたと煽る, もくもくまき上がる」(p.46)とある。
- 269) kay rusuy pe: 直訳は「折りたいもの」。
- 270) kay kopan pe: 直訳は「折れようとしなないもの」。
- 271) koopentarpa: ここでの opentarpa (単数形 opentari) は「根から掘り起こす意」(『金田一全集9』p.176)。そのため, ko-「〜と共に」opentar (i)「〜を根元から掘り起こす」-pa (複数接尾辞)。
- 272) iciw op kunne: 『久保寺辞典』に「ichiuop 投げ木」(p.95)とある。
- 273) kosiwsiwakki: 『萱野辞典』に「コシユーシユワツキ【kosiw-siw-atki】びゅーっと風が鳴る, 木の枝に風があたって鳴る, 風の音がうなりをあげる」(p.237)とある。
- 274) tumunci kamuy: ここでは主人公を育てた老翁 (=ニタイバカイエ) の仲間たちを指す。
- 275) セタクイキリ seta kikir: クイキリは kikir「虫」の意。「seta kikir 犬にたかる虫」(『ユーカラ集1』p.246)。yukar(1)注434も参照。
- 276) seta kikir ~ a=ekeskekar: 敵の村を殲滅する際の常套表現。yukar(1)注434~436参照。
- 277) アタムラエチウ a=tamraweciw: 『久保寺辞典』(p.266)には, tam raechiu と tam rawechiu とが載っているが, ここではノートの表記にしたがって tamraeciw とした。意味は「刀を鞘に収める」で, 「atam rawechiw わが太刀を鞘に納め」(『クトゥネシリカ』p.230)とある。
- 278) tumunci kamuy: 以下の tumunci kamuy は, 罰の世界にいるトゥムンチカムイ夫妻のこと。
- 279) a=oytakkote: oytakkote は「...に引導をわたす, 葬式をする」(『沙流辞典』p.502)などとある。しかし, ここでは感謝の言葉と共に, 鎧をトゥムンチカムイ夫婦に送り返している場面であ

- り、死者への引導渡しとは異なる行為になる。したがって、言葉の原義である o- 「～の末端」 itak 「言葉」 kote 「～を～に結びつける」という意味とした。
- 280) oran : o- 「(場所) に」 ran 「下りる」。『沙流辞典』に「oran ... に降りる」(p.478) とある。ここでは主人公が鎧を落としているため意識した。
- 281) epeka uske : epeka は「... に (くじで) 当たる, ちょうど (正面に) 当たる, 該当する」(『沙流辞典』 p.108)。ここで鎧に当たった者が誰なのか明言されていないため、状況は不明確である。可能性としては、(1) 地下の世界に落ちていく最中、たまたまその周辺にいた神などにぶつかった、(2) 地下のトゥムンチカムイ夫婦にぶつかった、が考えられるが、直後に「神の死ぬ音」とあることから、鎧の持ち主であるトゥムンチカムイが死ぬより、(1) である可能性が高い。
- 282) アルイカカ ar ikaka : 未詳の語句。訳は「ikakashi すぐあとへついて」(『ユーカラ集3』 p.183) を参考にした。
- 283) yap=an ayne : yap (単数形 yan) は「陸 / 岸に上がる」(『沙流辞典』 p.838) と訳されることが多いため「上がったあげく」と訳せるが、ここでは「北海道へ行く / 来る / 帰る」(同) を参考に意識した。
- 284) アヤク・アイコネンバ a yak a=ikonenpa : a は前行末の rok を単数形に書き直したのか。yak は「～と (言う / 思う)」。ノートの表記 a=ikonenpa に似た語形としては「ekonenpap たぐへりべき」(『久保寺辞典』 p.59), 「aekonenpap たぐへつべき」(『金田一全集10』 p.229), 「akoynenpa よく似たことだと」(『アイヌの叙事詩』 p.488), 「akoenenpa さながらだ」(『ユーカラ集4』 p.176) がある。ここにあげた用例を見ると, koenenpa (金成マツの語) と koynenpa (鍋沢の語) があり, -e- と -i- とで互換性があるようである。したがって、ノートの表記「アイコネンバ」は『久保寺辞典』にある ekonenpa の e- が i- に置き換わった語形と解釈し、誤記とはせずそのままローマ字化した。意味は、いずれも「それさながらだ、そのとおりである」で、ここでは「シヌタツカの山城が神の住まいであるかと思まがうほど美しい」ということであろう。
- 285) casi kamuy : 直訳は「山城の神」だが、「山城神とは単に山城ということ、……単に城そのものを神と呼んでいる」(『金田一全集9』 p.309) とあることから、訳では「山城」とした。
- 286) paruparu : 『沙流辞典』に「paruparu ... をはたく、... にはたきをかける。so kurka paruparu 床(ゆか)の上をはたく」(p.513) とある。ここでは長い間、留守にしていたため床を掃除している。
- 287) eyaykesupka- / ewak : 『久保寺辞典』に「eyaikeshupka ewak kane あちらこちら静に歩く」(p.73) とある。よい料理を作るために、駆け回っている様子をいう常套表現。
- 288) フムカ humkan : ノートの表記は「ン」が脱落しているが humkan か。humkan は「A sound. To make a noise」(『バチエラー辞典』 p.172) で、「atampi humkan 私の刀を抜く音」(『久保寺ノート5』 p.103) のような用例もある。
- 289) トムンチエカシ : この行は削除されている。次行 a=e=eikka で2項動詞の項が2つとも人称接辞で埋まっているため、ここで「トゥムンチ爺さん (に) / 人にお前が盗まれた」となると文法的に不適となることから、削除されたものであろう。
- 290) アエイツカワ : 行頭の「ア」は書き足されたらしく、横に付け加えられるように書かれている。したがって、何らかの理由から tumunci ekasi / e=eikka wa から a=e=eikka wa に変更したらしい。前行の注289) も参照。
- 291) e=eot kotan : 『久保寺辞典』に「eot kotan-u 彼の居所」(p.64) とある。eot は「～に赴く」。

- ～を訪れる」(『千歳辞典』 p.77)。
- 292) cikohunara: 通常は「chikohunara / echiekarkar hawe さがすことを / 汝らがしていること」(『ユーカー集9』 p.269)のようにci～ ekarkarで呼応して、ekarkarに人称接辞を伴うが、本テキストでは人称とekarkarを欠いている。注200)も参照。
- 293) erikne sukup: 『久保寺辞典』などでは、eritne sukupという語形で「休まる間もなく、経るに脳みつつけたる」(p.67)とある。e-「～について」rit「筋」ne「である」sukup「育つ」と分析できることから、eritneが本来の語形だと考えられるが、鍋沢のテキストでは「erikne sukup 苦労した生活」(『アイヌの叙事詩』 p.148)など、一貫してerikneを用いている。そのため、鍋沢が使用している語形としてはerikneであると解釈して、ここではノートの表記どおりにローマ字化した。なお、-tn- が -kn- へ変化する現象は、nitne「硬い」が「ニクネ[nikne]」(『萱野辞典』 p.342)とあるように、しばしば見られる。
- 294) yaanihonko: 『久保寺辞典』に「yaanihonko 全く少しのところ、すんでに」(p.308)とある。『萱野辞典』ではyaanihonko, naanihonkoなどの語形もあげられているが、『アイヌの叙事詩』(p.482ほか)を見る限りでは、鍋沢はyaanihonkoという形のみを用いているようである。
- 295) koramusinne: koramusinneは「～で安心する」(『静内語彙』), 「In comfort. Without trouble」(『バチエラー辞典』 p.268)。ここでは、1184行目以下で兄たちが主人公の額を峰打ち(メッカ打ち)することで、ニタイパカイエ(=トゥムンチカムイ)によって主人公に植えつけられたとされる悪い考えを追い出している。主人公の心が安らいだのはこのため。
- 296) opakanere: opakanereは「(～で)馬鹿になる」(『萱野辞典』 p.177), 「To make a fool of. To deprive one of his senses」(『バチエラー辞典』 p.342)とある。
- 297) a=yaykosakka: yayko-「ひとりで」sak「～を欠く」-ka「～させる」。ここでは、食事をしてはいるものの、その味がわからず砂を噛むようである様子。
- 298) トヌマンイベ tu numan'ipe: 「tu numanipe / re numanipe ふたつの夕食 / みっつの夕食」(『久保寺ノート5』 p.94)。numan'ipeは「The evening meal」(『バチエラー辞典』 p.337)。『クトゥネシリカ』の注に「正式には tunuman ipe, renuman ipe aeur etoko. aer oka, karpare kor という。また略して onuman ipe, aeuru etoko……ということもある。／ここでは夕食のお椀を次々に重ねて食べることを表現したものである」(p.10)とある。
- 299) a=euuoka- / karpare: 『久保寺ノート5』に「aeuruoka / karapare na すっかり／終えました」(p.94)とある。前注298)も参照。
- 300) アムセチクルカ amset kurka: 鍋沢の表記においては音節末子音に-i音を伴ってtがチと書かれる場合もあるため、アムセチはamuset, amuseciの両方の可能性がある。既刊テキストを見る限りamset kurkaという表現は多く見られるが、amseci kurkaは見られないため、amsetとした。
- 301) sikirmampa: 『アイヌの叙事詩』(p.464)ではasikirmanpaとなっているが、ノートの表記が「ル」であることから、『久保寺辞典』にもshikirmampaとあることから、ここではsikirmampaとした。『久保寺辞典』に「shikirmampa ごろりごろり寝返を打つ。寝返りを打つ」(p.242)とある。「寝床の底を持つ神」以下ここまで、横になっても眠れない様子を表す常套表現。
- 302) setapispo: 「setapishpo 犬が静かに歩くよう」(『久保寺ノート1』 p.82)とあり、音を立てずに動く様子を言う語。『金田一全集9』に「pishno(又pinuno 小声にささやく、とも)は、声低く、ささやきの声して、こっそり、ひそやかに。pishno-pishno こそこそと。seta-pishno 犬の出入りの足音の音なき如くにひっそりと」(p.177)とある。
- 303) a=ayruke: 『久保寺辞典』に「airuke 真似る」(p.18)とある

- 304) cikir un kuni: ここの～un kuni は注167)と同じ。
- 305) ウヲカネクツ uokkanekut: ノートの表記にkをひとつ補ってuokkanekutとした。また、ノートではu<sup>w</sup>okkanekut だが、yは挿入音。
- 306) アランボソレ a=ramposore: ノートの表記からはranposoreの可能性もあるが、「a(我)ram(低く、下へ)posore(潜り抜ける、通らせる);我通り抜けて下っていく」(『神謡・聖伝』p.659)という解釈を参考に、ramposoreとした。意味は『久保寺辞典』に「aramposore 我つきぬける」(p.27)とある。
- 307) イヨルラ i=orura: ノートの表記にしたがうとiyorura だが、yは挿入音。
- 308) kunne to ta: 直訳は「夜に」。kulleは『方言辞典』に沙流方言として「夜(昼間に対する)」(p.253)とあるように、夕・宵・夜中などの細分化された時間は指さず、漠然と昼に対する夜を言う。ここでは、明るくなる前に、主人公がアエオイナカムイの山城に飛んで来た様子と言うことから意識した。
- 309) apa teksam un: unは『沙流辞典』(p.769)で「連用句をつくる、つまり動詞にかかる」用法として説明されている使い方。2行後のetayeにかかり、「戸のそばから……引き抜いた」となる。「戸のそば」とは、入り口近くの萱葺きになっている壁のこと。なお、同様の場面について金田一京助は、「側壁といひたれどアイヌ風の家は四壁は壁にはあらずして茅束を立て、縛りつけたるものなり。その茅を一本抜き取るをいふなり」(『金田一全集11』p.117)と説明している。
- 310) シネキニチ/アエイゴヒネ sine kinit / a=etaye hine: 『沙流辞典』に「kinit カヤの茎」(p.131), 「kinit sinep etaye cuna ape epoypoye (彼は)カヤを一本引き抜いていけてある火をかきまわした(明りをつくるための動作)」(同)とあることを参考に、ノートの表記はタがひとつ脱落したものと解釈し、これを補った。
- 311) parkosanpa: 『ユーカラ集3』に「parkosanu ぱっと光って」(p.191)とある。
- 312) okkewmaka- / atte kane: 直訳は「うなじを後方に / 掛ける(ぶらさげる)」。女が枕に頭を乗せて仰向けに眠っている様子。yukar(1)注344)も参照。
- 313) sirka wen \_ya: 直訳は「sirka wen ya その容貌わるかろうか」(『ユーカラ集3』p.306)だが、意味するところは疑問というより反語で、「悪い容貌であるはずがなく、美しい」ということになる。そのためここでは、「Neita kusu pon nitnekamui sirka wena いつでも悪魔の子は様子が美しい」(『神謡集』p.138, 139)とあるのを参考にした。
- 314) sukustoy kunne: sukustoyは「真昼の明るい光」(『沙流辞典』p.683)。kulleは「～のように」。
- 315) イエヌツッキ ienucupki: ノートでは「ツ」がやや小さく書かれているように見えるが、前後のつながりから大きい「ツ」、すなわちcuと判断した。語釈などは注51)参照。
- 316) タネアナネ: 「ク」が脱落しているが、tane anakne「今は」の意か。
- 317) hepeku: hepekuは「(太陽や火が)照る」(『静内語彙』)。ここでは夜が明ける様子。
- 318) i=nukar rok pe: 直訳は「私を見たが」。
- 319) ar pewtanke / kususuye: 『久保寺辞典』に「arpeutanke akususuye peutanke の声をあげる / ～ekususuye 驚きの叫びを振りしぼる(916) 驚きの叫びを不意に放つ」(p.29)とある。
- 320) pokas ka un: 『沙流辞典』に「pokas ka un...a p あんなに...だったのに」(p.537)とある。
- 321) Sinutapkaunkur: 「シスタツカの人」の意味。ここでは主人公(ポイヤウンベ)のこと。
- 322) ciyaypokaste: 『久保寺辞典』に「chiyaipokashte 我を不足とす」(p.51)とある。
- 323) i=ekarkar kusu: 人称接辞が、e=i=ekarkar「お前が私に～する」ではなくi=ekarkar「彼が私に～する」となっていることから、1356行目以降、主人公のことを三人称で語っている。1363

- 行目の i=ekarkar も同じ。
- 324) a=pirkaye a p: 『神話・聖伝』に「a-pirka yepi 私の心からの言葉」(p.79) とある。
- 325) イヰカルカラベ i=ekarkar: ノートの表記にしたがうと iyekarkar pe だが, y は挿入音。注 323) も参照。
- 326) hemanta kar pe: 『沙流辞典』に「hemanta karpe 何をするために, なんのために」(p.180) とあり, 「hemanta kar pe ek ruwe an 何しに来たのか」(『音声資料2』 pp.10-11) といった用例も見られる。
- 327) tane pakita: 『萱野辞典』に「タネパキタ [tane pak-ita] 今頃になって」(p.295) とある。
- 328) アエイナカムイ: 「オ」が脱落しているが, Aeoynakamuy の意か。
- 329) ハワロモシ haworomos: oromos は「To awake out of a sleep or dream」という意味の自動詞(『パチエラー辞典』 p.363)。haw 「声」はこの直前に妹がまくし立てた声を指し, haworomos で「声で眠りから覚める」か。ただし, この解釈では haw 「声」o- 「〜で」 oromos 「眠りから覚める」のように, o がもうひとつ必要になる。特に本ノートの表記では, 連続する同音素のひとつを落として書くことがあるため, hawooromos を念頭に置いている可能性は高い。だが, yaykaokuyma (< yay- 「自分」 ka 「〜の上」 okuyma 「小便をする」) のように, 意味上「〜で」が必要になる場合に連続する o のひとつが省略されている語もあることから, haworomos という語形の可能性も考えられる。ここではノートの表記にしたがって haworomos でローマ字化した。
- 330) a=oyanene: oyanene は「好ましくない」の意味(注80)参照) だが, 文脈に合わせて意識した。「katkor shiri / aoyanene ふるまうこと / けしからん」(『ユーカラ集4』 p.247)。
- 331) ビリカイトキ pirka itaki: 鍋沢の表記においては音節末子音に i 音を伴って, k がキと書かれる場合もあるため, イタキは itak, itaki の両方の可能性があるが, 1383行目と対応していることから, ここでは所属形 itaki と解釈した。したがって「彼女 (=アエオイナカムイの妹) のよい言葉」。
- 332) sinis kor kamuy: 『アイヌの叙事詩』所収の「ニタイバカイエ」では「kanna kamuy / kor akihi 雷神の / 弟の神」(p.190) と, 兄がともに kanna kamuy 「雷神」だとされていることから, sinis kor kamuy と kanna kamuy は別の人物を表すのではなく同格と解釈した。
- 333) ram ciosma: ramosma 「同意する, 納得する」(『萱野辞典』 p.462) に ci- / ekarkar の ci- が付いた形。ここでは, 雷の神の弟にアエオイナカムイの妹を結婚させることで互いに同意したことを言う。
- 334) ウエチトノト ueciw tonoto: ウエチは「ウ」が脱落しているが ueciw。『萱野辞典』に「ウエチューサケ [u-e-ciw sake] 結婚の酒」(p.90) とある。
- 335) アニエピッタ an'epitta: アニエピッタは an'epitta 「一晩中, 夜どおし」。
- 336) cikosomokur / yaykatanu: 『沙流辞典』に「cikosomokur koyaykatanu … に対して無礼なことをする / 言うこと」(p.53) とある。
- 337) ne hi sama ta: 『久保寺辞典』に「nehi samata かつ又」(p.165) とある。ただしこの行では「かつ又」という添加の意味で訳しても前後のつながりがわかりにくいので, 意識した。
- 338) cikomoy moye: ko- 「〜に対して」 moymoyke 「動く」であるため, 同様の表現は, 「a-irwak nispa / kor rametok / chikomoy moye / ekarkar siri 従弟の勇士 / の勇気を / ゆり動かし / した様子」(『アイヌの叙事詩』 p.402) などと訳されているが, ここでは意識した。主人公に対し「お前は雷の神にはかなわないぞ」と脅している場面である。
- 339) レホチ: ホチは hot 「20」。「レホチ」という表現はこの後も何度か出て来るが, 以下すべて同

様。

- 340) upis: 『久保寺辞典』に「upish みんなで、総計して、すべて」(p.296)とある。
- 341) カムイロロンベン: ロロンベンは「ン」がひとつ余分だが、rorunpe か。
- 342) koan: 『沙流辞典』に「koan ... が与えられる、... があひせられる」(p.314)とある。
- 343) iki okkayo: 久保寺逸彦は iki okkayo や iki menoko といった表現について、「iki < i (事物を指示する接辞「それ」汎称目的格) ki (する、為す); 人を罵る語として「憎い」「生意気な」「凶々しい」等の意を持つ、「iki-okkayo (生意気な男. 男子を罵っている)」と説明している(『神謡・聖伝』p.599)。
- 344) e=ne rok ana: ana は理由を表す接続詞か。注250) 参照。
- 345) ikineypeka / tam monpoki / e=osma ki na: 直訳は「決して刀の下にお前は入るなよ」。すなわち「切られるな」ということ。ikineypeka は人称を伴う禁止表現であるため、e-osma の e- は人称接辞と解釈した。
- 346) i=ramkeskasi / kaciw: 「i=ramkeskaciw 私を励まし」(『アイヌ神話集成 8』pp.40-41)。yukar (1) 注225) 参照。
- 347) バクノネロ: 「コ」が脱落しているが、pakno nekor の意か。
- 348) ソイワサンワ soywasamwa: soywasamma 「(家などから) 外へ」(『沙流辞典』p.681)と同じ。ノートの表記では wa の部分が音韻交替を起こさず wa のままで表記されている。
- 349) nisrap emko: emko は「～の半分」の意味だが、「nisrap emkoho 雲の先端」(『アイヌの叙事詩』p.226)とといった表現を参考に「先端」とした。yukar(1) 注280) 参照。
- 350) kosepepatki: kosepepatki は「(雨などの音が) ザアッと / バラバラバラっと鳴る」(『沙流辞典』p.339)であり、特に「風雨や風雪の音などにいう語」(『金田一全集 9』p.357)。
- 351) a=koykaturi: a=koykaturi で「疾走する」(『クトゥネシリカ』p.26)のように急いで移動する意味で使われる。yukar(1) 注388) 参照。
- 352) yupke hike: 直訳は「激しい方」。
- 353) i=ekarkar ya: 「お前が私に」だとすると人称接辞は e=i= になるはずなので、ここでは主人公は三人称扱いで「彼が私にしたのか」とした。
- 354) ソオネウサ soone usa: ソオネ soone は sone 「本当である」の強調形。sone usa は、「sone usa / akor rorunpe / yayeposore / aki nankora 果して / わが戦を / くぐりぬけること / できるのであろうか」(『アイヌの叙事詩』p.233)のように、疑問や仮定条件節のなかで「本当に」「果たして」「もしも」などのように疑念を表す語として訳されている例が多い。
- 355) ceyayramtemka: 『久保寺辞典』に「ramtemka? 心のままにする」(p.218)とある。『ユーカラ集 9』にも「cheyairamtemka / eekarkar wa 自分で心のままに / 振舞って」(p.33)とある。
- 356) チエエヤイラムテムカ a=e=ceyayramtemka: 前行と同じ動詞で、人称接辞が異なる語句だが、棒線で削除されている。
- 357) ki nankor \_ya: ki に人称接辞がついていないことから、ここまでポイヤウンペは三人称扱いとなっている。
- 358) cikoyayuppa: 『久保寺辞典』に「koyaiyuppa 奮発せよ」(p.145)とある。
- 359) a=kurkasike: 「私の上」は文法的に正しくは i=kurkasike となるはずである。a= が使われている理由は未詳。
- 360) tam cipa: cipa は『バチエラー辞典』に「To strike at with a sword」(p.84)とある。そのため tam 「刀」cipa 「刀で攻撃する」。ここでは名詞として使われているため意識した。

- 361) リクシ・タムクル rik kus tamkur: ノートの表記にkをひとつ補って, rik kus tamkurとした。  
注90) 参照。
- 362) イゾオヌイタ i=eonuyta-: ノートの表記にしたがうと iyeonuyta だが, y は挿入音。
- 363) tek us cikap ne: 『久保寺辞典』に「tek-ush tori ne, kamui nishka akoshietaye 手の生へたる鳥の如くに天空の上に我引去る, 人が空を飛翔する時の常套的用法」(p.271) とある。
- 364) arurakocuppa=an: ar- 「全く」 u- 「互いに」 ra 「翼, 羽」 ko- 「～と共に」 cuppa 「～をつぼめる, ～を閉じる (複数形)」。「arurako / chup pa an kane 全く翼を共に / 閉ぢており」(『クトゥネシリカ』p.221) とあるが, 『金田一全集 9』に「飛鳥の翼を上下する動作の叙述」(p.293) という説明があることから, 翼を動かしている様子と解釈した。
- 365) スヲツケ suototke: ノートの表記にしたがうと suwototke だが, w は挿入音。
- 366) awa kina: 「awa kina < a-a-kina 坐る, 確説法 kina 草全体 坐っている草 草は野原の中に坐っている」(『久保寺辞典』 p.35)。『アイヌの叙事詩』では, 「青草」「生えたる青草」といった訳が当てられているため, それに従った。
- 367) emuketerke: 『アイヌの叙事詩』に「emuke terke もぐり走れば」(p.591) とある。e-muke-の語義は不詳だが, 『アイヌの叙事詩』(p.63) には emukeeraye の説明として「e-muke-eraye <そこに・かくれて・這う>」とある。
- 368) a=ki an kor: 未詳の語句。文法的に適切な形としては, 「a=ki wa an=an kor 私がそうしていると」や「iki=an kor そうすると」が予想される。
- 369) a=kinakoypake: 『金田一全集 9』に「kina, 草, koi, 浪。かなわずなりて丈なす草の中へもぐって草を分けて逃走すると, 草が浪をたてて走るとおりむくむくとあがるをいう。pake は頭, koipake 波浪の高く立つその頂, なみがしら」(p.289) とある。
- 370) kotatar: ko- 「～と共に」 tata 「～を刻む」 -kar (他動詞形成接尾辞)。『ユーカラ集 9』には「草むくむくさして叢を逃げると, 敵は, その草の高まる先々を草と共に叩き切りて我を攻める」(p.289) とある。
- 371) kanniteke: kan-は「上, うら, 末, 梢の穂, 見え渡る様」(『久保寺辞典』 p.118)。kan- 「末 nitek 「木の枝」なので, 梢の枝と解釈した。
- 372) a=kotukkotuk: 直訳は「私は (木の枝) にくつつきくつつき」だが, 「kotukkotuk 飛び回り」(『アイヌの叙事詩』 p.311) のような訳もされているように, ここでは枝から枝へと飛び移っている様子。木々を飛び回っている際に枝にしがみついている様子を「(枝に) くつつき」と表現しているものだろうか。
- 373) korankekar: 『アイヌの叙事詩』に「akoranke kar われ切り落す」(p.311) とある。
- 374) annukippo: 『金田一全集 9』に「annukippo わがしてやりたるとおりを」(p.326) とある。ここまで主人公は草に潜ったり木を飛び移ったりして逃げていたが, ここからは攻守交替で, 相手にされた攻撃を主人公が同じようにやり返す。
- 375) a=tamnikor\_ ta: 直訳は「私の刀の隙間に」。ここでいう「刀の隙」とは, かりうじて避けたため, 相手の体と刀とにわずかな隙間しかないということか。
- 376) settok hawe: 『久保寺辞典』に「settok hau kan 忍泣きの声 / kokari kane 人々にきこえてくる」(p.239) とある。ほかに「settok hawe シャクリあげる声」(『ユーカラ集 3』 p.217), 「settok hawe 困った声」(『久保寺ノート 3』 p.83) という訳もあることから, 泣く行為そのものではなく, 声を押し殺すことをいう語と考え, ここでは「危うかった」と吐息をもらしている様子とした。
- 377) 先に主人公がしたのと同じように, 雷の神が草むらのなかに逃げ込んでいる。

- 378) キナコヒバケ / キナコヒケセ：ノートの表記は「コヒバケ」「コヒケセ」は1519~1520行目と同じ語であるため、それぞれ koypake, koykese。
- 379) シリコロコロカムイ：「コロ」が多いが sirkorkamuy か。
- 380) sirus rorunpe：既刊テキストでは「互に向き合う戦」（『アイヌの叙事詩』p.312）、「激しい戦争」（同：p.394）、「いつまでもの大いさ」（『ユーカラ集3』p.147）などの訳があり、大きく分けて (1) 互いに（長い間）拮抗した戦い、(2) 互いに飛び回ることなく一ヶ所で相対している戦い、という意味が確認できる。ここでは、前行 humne an kor 「時には」が、これまで戦い方が変更されるときにそれぞれ登場していることや、sirus < sir 「大地」us 「(場所) につく」という原義、「shir-ush 『一所に停滞する』 wenpe 「戦い」 動かないでほとんどひととこゝろに戦う」（『ユーカラ集3』p.147）を参考に、(2)の意とした。
- 381) a=eukotuyma- / siarikiki：『久保寺辞典』に「shiarikiki 努める。奮闘する。ふんばる。力め戦ふ / aukotuima (いつまでも永く) ~」(p.240) とある。kamuyyukar(2) 注49) 参照。
- 382) oroneanpe：『久保寺辞典』に「『一緒になる』『相和する』と訳し得べし」(p.191) とある。yukar (1) 注20) 参照。
- 383) sir\_ rapoki：「Sin rapoki その時」（『アイヌの叙事詩』p.400）など、鍋沢のテキストでは、しばしば見られる語句。「シン」は sir の音韻交替か。
- 384) uhumkocupu：u- 「互い」hum 「音」ko- 「〜と共に」cupu 「〜をすぼめる」。音を伴いながら距離が縮まるということから、uhumkoraye / uhumkochupu で「音がお互い離れたり / 一緒になったりして」（『久保寺ノート5』pp.48-49）のように訳される。
- 385) senne sawre：直訳は「弱くない」。
- 386) sias kamuy maw：「sias kamuy maw 激しい神風」（『クトゥネシリカ』p.216）ほか、鍋沢のテキストにはしばしば見られる表現。sias は si- 「本当に」as 「(風が) 吹く」という意味の強調表現か。
- 387) urekuspare：ure 「足」kus 「(場所) を通る」-pa (複数) -re 「〜させる」。「aurekushte 我足をはこび」（『ユーカラ集9』p.294）の複数形。
- 388) アリキキワ arki ki wa：ノートの表記どおり arikiki wa 「一生懸命やって」と解釈すると、前後と文脈が繋がらない。そのため、arki 「来る (複数)」ki (補助動詞) wa 「〜して」の、arki 「来る (複数)」の r の直後に -i 音を挿入した表記とした (注77) 参照。
- 389) konuminasam：「konuminasam につこり微笑を」（『金田一全集』p.141）と、善意の笑みを浮かべるような訳もあるが、「あざわらひ」（同：p.378）のように好意のこもらない笑みであることも多い。『久保寺辞典』に「konuminasam せせら笑を浮べる (ふくむ)」（p.138）とある。
- 390) tam monopki / e=ne a yakne：直訳は「刀の下に／お前がなったら」。すなわち、「お前が刀で斬られたら」ということ。注345) も参照。
- 391) semokkayoram：『久保寺辞典』に「sem-okkayo-ram aekore 男でないと云はれる。臆したりといはる 男でないと笑はれる」(p.237) とある。
- 392) ウゴコホビ：ノートの表記にしたがうと uwekohopi だが、w は挿入音。
- 393) humne an kor：この行は1620行目の ramram riki 以降にかかっているものか。
- 394) siannetopa：sian は si- 「本当の」ar- 「全く」が音韻交替を起こしたもの。ここでは kanna kamuy 「雷の神」の真の姿 (= 正体) は次行以下で語られるように竜のような姿だとしている。ただし、『アイヌの叙事詩』所収の「ニタイバカイエ」では、このテキストとは逆に、竜の姿は鎧 (hayokpe) を装着した姿であり、若者の姿のほうが真の姿だとされている。
- 395) sicipni tumam：sicipni は si- 「大きい」cip 「舟」ni 「木」で、cipni は丸木舟の材になる木のこ

- と。「chipni tumam 川舟の体」(『アイヌの叙事詩』 p.194), 「shichipni tumam 巨木の胴体」(『ユーカラ集6』 p.263) などの訳が見られる。
- 396) nenke : nenke は「ねぢける / ram nenke ainu 心のねぢけた人 (樺太)」(『久保寺辞典』 p.167), 「心のねぢけている; 根性の曲っている (2) ramu-nenke [ra-mu-nen-ke らむ・ネンケ] [その心・ねぢけている]《ウソロ》」(『人間篇』 p.169) とある。これらの辞書にあげられている用例では心がねじ曲がっている様子を表しているが、本テキストでは物体がねじれている様子。
- 397) kina hap kurka : hap は通常「梢 (こずえ)。木のでっぺん」(『千歳辞典』 p.323) だが、「kina hap kitai 草の先」(『神謡・聖伝』 p.100) のように草について使われている例もある。
- 398) citatoy pakno / citatoy kasu : 直訳は「掘り起こされた畑と同じくらい / 掘り起こされた畑以上に」。草一本残らず焼き尽くされたことを言う語。yukar(1) 注424も参照。
- 399) kamuy rorunpe / a=nukar a yak : 『クトゥネシリカ』に「kamuy rorunpe / anukar yakun / semkorachi 神の戦いを / われ見ている / 如くで」(p.185) とある。次注400も参照。
- 400) a=koynenpa : 『アイヌの叙事詩』に「akoynenpa よく似たことだと」(p.488) とある。「akoynenpa われらそのまゝにし」、「我それを模倣す a (我) ko (共に) e (それについて) nempa (nena の複数, まねる)」(『金田一全集9』 p.192) と同じ意味か。人間同士の戦いであるにもかかわらず「神戦もかくやと思う許、神の戦を見たらこのようであろうもしれずの意」(同) とあるように、戦いの激しさをいう表現。
- 401) rukuspare : ru 「道」 kus 「〈場所〉を通る」 -pa (複数) -re 「～させる」。『アイヌの叙事詩』に「iteksamake / erukuspare わが側に / 歩いてきた」(p.314) とある。
- 402) tusmak hine : tusmak は『久保寺辞典』(p.284) に「(1) 先を争ふ」と「(2) 隙を視ふ、隙を覗いて出抜く」という2つの意味合いがあげられている。ここでは(2)の意味。『クトゥネシリカ』に「aynu sik-utur / atusimak hine 人の見ないように / すきをみて」(p.24) とある。
- 403) a=upsorekatta : upsor 「懐」 ekatta 「～を〈場所〉につっこむ」。
- 404) pewre sinka : sinka は『久保寺辞典』に「shinka 雄たけび」(p.246) とある。
- 405) アエヤイラムコトルメウパ : ノートでは行の切れ目として使われる「。」を欠いており、全体で1行抜いにも見えるが、ここでは4音節ずつ2行に分けて記した。ただし、956~957行目のように、a=eyayramkotor / mewpa kane と mewpa の前で改行となることが多い。そのためもあってか次行に「メウバカネ」が来ており、mewpa が重複することになっている。
- 406) a=itutanure : 『久保寺辞典』に「itutanure 我に向ける」(p.111) とある。ここでは、i-は一人称目的格の人称接辞「私に」ではなく、「人・もの」を表す接頭辞か。
- 407) upak : 『沙流辞典』に「upak 皆 / 両方とも同じく、同じほどに、同じぐらいに」(p.775) とある。
- 408) usayne ka tap : 『久保寺辞典』に「usainekatap こはそも如何に、これはしたり」(p.298) とある。「驚きの問投詞」(『金田一全集9』 p.304) として英雄叙事詩ではしばしば使われる。
- 409) hunna un\_ suy : hunna は「誰」、un は「(強めの一種、考慮・納得を表すことが多い。) ... ね、なあ」(『沙流辞典』 p.770), suy は「また」。hunna un suy で hunna を強調した言い方になる。
- 410) エライルスイア eray rusuy \_ya : ノートの表記どおりでは eray rusuy a となるが、末尾を a のまま解釈すると前後の文脈から外れてしまう。そのため、疑問の終助詞 ya の y が音韻交替により落ちたものとした。
- 411) arukirare : 『千歳辞典』に「arukirare (大勢が) 一目散に逃げる」(p.22) とある。
- 412) umake : 『萱野辞典』に「ウマケ [umake] ほごれる」(p.117) とある。

- 413) カムイノド:「イ」がひとつ脱落しているが, kamuy inotu か。
- 414) アエイナカムイ:「オ」が脱落しているが, Aeoynakamuy か。
- 415) アキシウシケ a=kisma uske:「akisma uskehe / a-ochischis われ握るところを / けずりならし」(『アイヌの叙事詩』 p.348) という表現があることから, 「マ」が脱落しているものとして, これを補い, a=kisma uske とした。
- 416) a=ociscis:『久保寺辞典』に「ochishchish けづる, こしらふ」(p.182) とある。
- 417) amsamamni: am-は「平面上の物に付いて『ひろやかな』気持ちを添へる」意味の接頭辞(『久保寺辞典』 p.20)。kamuyyukar(1) 注5)も参照。
- 418) osorusi: osor 「尻」usi 「～を～につける」。『久保寺辞典』に「腰掛ける」(p.193) とある。
- 419) ボヤテキニシ poyatek nis: ボヤテキは poyatek 「濃い」。
- 420) ラママチキ ramamatki: ラママチキは ramamatki。ramamatki は「倒れさうに, 或は落ちさうによるよるとして行く」(『久保寺辞典』 p.140), 「一生懸命にやつている 一すじに, 音たてずにやる」(同: p.217)。「ひゅーっと飛ぶ(進む)。すーっと流れる; 一直線に行く様を表わす」(『千歳辞典』 p.192) などとあるが, ここでは直後に「iruka tum ka 一瞬で」と言っていることから, 『千歳辞典』の訳を参考にした。
- 421) iruka tum ta: 『萱野辞典』に「イルカドムタ [iruka tum ta] ちょっとの間」(p.83) とある。
- 422) koraconnaste: ra 「羽」conna 「下方」(< cor (=corpok) 「下」-na 「～の方に」) as 「立つ」-te 「～させる」。『久保寺辞典』に「rachonna-ashte 羽根をすばめてすつと下りる ra = rap」(p.216) とある。ほかに, 「koratonnasite はばたきして下りてくる」(『アイヌの叙事詩』 p.256), 「ratonnaste (鳥が獲物に向かって) サツとななめになって, スーツと下りて来る」(『沙流辞典』 p.565) という形も見られるが, ratonnaste では語義が不明となるため, raconnaaste が本来的な形で, それが ratonnaste に変化したものか。本テキストの「コラゾンナシテ koraconnaste」は, いずれにも見られない形である (-aa- が -a- になったのみの, いわば中間形である) が, ノートの表記どおりにローマナイズした。なお, どのように「下りて来る」のかは辞書・テキストによって訳に違いも見られるが, この文脈においては急降下する様子であろう。
- 423) ukattuymano: 「ukattuymano 長い間をおいて」(『沙流辞典』 p.753), 「ウカッドイマ [u-kattuyma] 間をあける」(『萱野辞典』 p.100) とある。「ukattuymano / sinep arayke / tu-p arayke 間をおいては / 一人殺し / 二人殺し」(『クトゥネシリカ』 p.120) という用例から, ここでは一羽のフリを倒してから次のフリを倒すまでの時間的な間隔があいていることと解釈した。
- 424) rimnatara: 何が rimnatara 「鳴り響く」のか, 明示されていないが, rimnatara は「ドシン」という音が響くことなので, 対フリ用に作っていた棒がフリに当たった音であろう。
- 425) トムチカムイ tumunci kamuy: フリを指す語と解釈した。ノートの表記は「トムチ」にも「トムケ」にも見える。解釈の可能性として, (1)「チ」の場合, 「ドムンチ」の「ン」が脱落したもの。ただし, 本テキストではほかにフリたちのことを tumunci kamuy と呼称する個所がないため, tumunci kamuy = フリか, 疑問は残る。(2) 同じく「チ」の場合, 「トムチ」= tonci として, tonci が「Very bad. Useless. Evil」(『パチェラー辞典』 p.505) という意味であることから tonci kamuy 「大変悪い神」とすることもできそうだが, 本ノートにおいては「n」を「ム」で書いている例がほかにないため, 可能性としては低い。(3)「ケ」の場合, 「トムケ」にあたる語としては, 『パチェラー辞典』に tomke で「Shin-ing」とある (p.504) のが, 相当する語であろうと考えられる。だが, 敵対していたフリに対して美称を用い, 「輝ける神」と言うのは相応しくない。以上のように, いずれも疑問が残るが, この中では(1) の tumunci kamuy が様々なテキストでも頻繁に出て来る表現である一方で, (2) tonci kamuy, (3) tomke kamuy と

- いう表現はほぼ皆無に近いことと、『アイヌの叙事詩』中に huri nitnehi 「魔の鷲」のことを「Tumunchi kamuy 魔神」（『アイヌの叙事詩』 p.503）と呼んでいる例が見られることから、(1)とした。
- 426) rayepaye: ray 「死ぬ」 e- 「～について」 paye 「行く（複数）。『ユーカラ集2』（p.96）には単数形の「raye oman humi 死んでゆくたましいの音」という表現が見られる。
- 427) kotaknetakne: 『金田一全集11』に taknetakne について、「takne は短き義。taknetakne 短く短く切るること」（p.183）とあり、ここから文脈に即して意識した。
- 428) kunne rerko: 直訳は「夜3日」。ここでの rerko は「[三] という意味がなくなって、単に『日』を表す場合」（『千歳辞典』 p.428）という用法。夜も昼も、長い間戦ってきたことを言う。
- 429) yayeposore: 『久保寺辞典』に「yayeposore 潰滅（かいめつ）させる」（p.308）とある。
- 430) トミサンベチ Tomisanpeci: ノートの表記の癖から Tomisanpet と Tomisanpeci の2通りの可能性が考えられるが、ここは Tomisanpeci とした。yukar(1) 注2) 参照。
- 431) tas kus kuni: 『千歳辞典』に「tas kus kuni maw kus kuni yaykoseske wa oka ruwe ene an hi ne akusu 息が通る程度に、息が通う程度に体を丸めて縮こまっていたが（恐ろしいので身を縮めて小さくなっていることを表わす常套句）」（p.244）とある。ここでは恐ろしいというより不貞寝に近い。
- 432) シネアントタ・カ: 行末「カ」は、次行「カントコトル」の行頭「カ」が重複して書かれたものか。ひとつめの「カ」でノートの下端に達して改行しているため、誤って2度「カ」を書いてしまったのであろう。
- 433) ikor sas humi: 『久保寺辞典』に「sash ざあざあといふ音。摩擦する音／ruyampe sash／inumpahumi, inauke sash(h)umi sas」（p.235）とあるように、sas は広い範囲にわたる摩擦音を表す語であることから、ここでの ikor sas humi は ikor 同士の立てる硬い音ではなく、ikor が着物と擦れるような音か。また、ikor 自体は通常「宝物」と訳されるが、ここでは特に女が首に掛けている首飾りを指していると考えられる。
- 434) ramno kane / apa cimaka: 『萱野辞典』に「ラムノ カネ アバ マカ=体を低くして戸を開けた」（p.463）とある。
- 435) emakkosanpa: 『久保寺辞典』に「mak-kosanu ぼつと一辺に明るくなる」（p.153）とある。e- は「（場所）で」。ここでは、アエオイナカムイの妹の美しさによって、山城の中が光り輝くようであること。
- 436) アアヌカルロクワ: アがひとつ多いが、a=nukar rok wa とした。行頭の「ア」でページの下端に達し、改行しているため、「ア」を重複して書いてしまったものか。
- 437) tomotarusi: 『沙流辞典』に「tomotarusi ... を背負うために荷縄をかける、... を荷縄で背負う」（p.721）とある。
- 438) アコロユビウタリヒ: ノートでは改行や単語の区切りを表す「・」は書かれておらず、「アコロユビウタリヒ」でひとまとまりのようにも見えるが、全体で8音節になるため、4音節ずつ2行に分けた。
- 439) 非常によく働くことをいう表現。
- 440) レボウサチ: レボウサチは rep o usat.
- 441) ヤオウサチ: ヤオウサチは ya o usat.
- 442) kohetutturi: ko- 「～に対して」 he- 「頭」 tutturi 「～を伸ばし伸ばしする（< turi 「～を伸ばす」の重複形）。『久保寺辞典』に kohetutturi で「顔をのべて、耳打ちする」（p.135）。
- 443) アコユビ: 「口」が脱落しているが a=kor yupi か。なお、1948行目でも同様に「アコユビ」と

書かれている。鍋沢の表記においては同一音素が連続する際にその片方が脱落する特徴があることから、「口」の書き落としの可能性のほかに、a=koy yupi と音韻交替した上で、y が脱落した可能性も考えられる。

- 444) イタクハゴ: 本テキストにおける同様の表現では「イタクハゴ」となっていることが多い。もっとも、itako となる場合には tuykasike, kurkasike のような位置名詞を直前に伴うが、ここではそれがないため、誤記とはせずにノートの表記どおりに itak とした。
- 445) ekasi nusa ka: 直訳は「先祖の祭壇の上」。yukar(1) 注16) も参照。
- 446) アコユビ: 「口」が脱落しているが a=kor yupi 「私の兄」か。注443) も参照。
- 447) カムイ・クルスベ kamuy ku rusuy pe: 「ス」の直後の「イ」が脱落しているが kamuy ku rusuy pe か。「kamuy ku rusuy pe 神の飲みたいもの」(『クトゥネシリカ』p.86) とは、すなわち酒のこと。
- 448) ウシウタラ: ウシウタラは、ノートの表記に s と u(w) をひとつずつ補って、ussiw utar とした。
- 449) ウコエビケブ: 「リ」が脱落しているが、ukoepirkep か。
- 450) ukoepirkep- / hoste: 「神謡・聖伝」に「uko-epirkep / hoshte kane 互ひに小刀を / 走らせて」(p.70) とある。yukar(1) 注445) も参照。
- 451) inumpa kuni p: 直訳は「酒こしをするべきもの」。すなわち「酒こしの役目の者」の意味。ただし、田村すず子が kuni について「日常語では、kuni は、これからそうする、どうなる、という話に使われる語だが、ユーカラではしばしば、これからのことかすんだことかに関係なく、形式的に使われて、韻律を整える働きをする」(『音声資料11』p.21) と説明しているように、ここでの kuni は単に音節数を2つ分増やすために挿入されたという解釈もできる。
- 452) ukoicari- / terkere: ukoicari- / terkere: u- 「互いに」 ko- 「～に対して」 icari 「ざる」 terke 「跳ねる」-re 「～させる」。箒をお互いにやりとりする動作を指しているものか。yukar(1) 注444) 参照。
- 453) イイヤシケウクワ: 「イ」がひとつ多いが、「イヤシケウクワ」か。i- 「人」 aske uk 「～を招待する」。さらにノートの表記では、iyaskeuk となっているが、y は挿入音。
- 454) チウテキウシウ: チウテキは ciwtek. ciwtek は「To serve」(『パチエラー辞典』p.94)。「ウシウ」は s をひとつ補って ussiw とした。
- 455) ヌレア・ゴ nure \_hawe: 「ア」の下に行や語の区切りを表す際に用いられている「・」があるように見えるが、ここで語を区切ると解釈がしにくくなることから、区切りとはしなかった。あるいは、「ア」でノートの下端に達しているため、挿入してしまったものか。nure hawe の直訳は「聞かせる声」。
- 456) hosnopo: 『久保寺辞典』に「hoshno 初めに / Iyotta ~ 一番先に」(p.90) とある。
- 457) a=kor aca: 最初の戦いで主人公によって殺されたサンプトゥンクルが、生き返っている。
- 458) nispa aske / siaworaye: 『久保寺辞典』に「nispa ashke chiaworaye 首領達が手を繋いで内へ入って来る 招待された客が皆手をつなぎ腰をこごめて入る、家のものは戸口に迎へて、先頭の者の手をとつて請じ入る。 / shi-aworaye (au (内) oraye (そこへ寄せる) chi = shi.) (p.173) とある。
- 459) esananinpa: 『千歳辞典』に「sanaininpa ~を前に引っ張り出す《韻》: < sa 『前』-na 『～の方に』 ninpa 『～を引きずる』」(p.200) とある。
- 460) cirikipuni: cirikipuni は「(風が) 上へ上げる」(『沙流辞典』p.59), 「顔を上げる」(『静内語彙』) などとあるが、ここでは「chirikipuni 起ち上りたり」, 「高くあがる, 即ち起ちあがる」(『金

- 田一全集9』p.386) とあるのを参考にした。
- 461) niwen cinika : cinika は『久保寺辞典』に「足踏」(p.44) とある。
- 462) イヨトゴヤ i=otuye ya : ノートの表記にしたがうと iyotuye だが, y は挿入音。語釈は注99) 参照。
- 463) タネボホカ : 本ノートの表記で「ホ」は基本的に ho だが, ここでは po で tanepo poka か。
- 464) sik utur pakno / i=pakoyasa : 『久保寺辞典』に「shikutur pakno, epa koyashpa 眉間のあたりまで刀で切割る」(p.244) とある。すなわち, 刀で主人公の額を峰打ちしている。ここでは, ニタイパカイエ (= トウムンチカムイ) によって植えつけられたとされる悪い考えを追い出すことを意図しての試み。そのため, この直後に主人公はすっきりした気分と述べている。注295) も参照。
- 465) kaparpe otcike / kaparpe tuki : 直訳は「薄いお膳 / 薄い杯」。ここでいう「薄い」は立派で高価な品を意味しているため, それぞれ意識した。
- 466) a=yaypekare : 『沙流辞典』に「yaypekare ... に向かって / ... を目指して行く」(p.863) とある。ここでは, 立派なお膳や杯が並べてある座 (ear so) を目指している。
- 467) ear sone no : ear sone no は「一枚の inau-so の上に唯一人坐ること」(『久保寺辞典』p.54) であり, ここでは上座に設けられた特等席に座ること。
- 468) erututke : 『久保寺辞典』に「斡旋す, 酒間を斡旋す」(p.67) とある。yukar(1) 注192) も参照。
- 469) イヨマレ iyomare : ノートの表記にしたがうと iyomare だが, y は挿入音。
- 470) eukopirka- / maktekkka : ukomaktekkka で「皆で一緒に(宴会)を打ち開く」(『沙流辞典』p.758) とある。この語に「素晴らしく」を表す pirka が抱合された語形。u- 「互い」 ko- 「〜に対して」 pirka 「よく」 mak 「開ける(語根)」-tek 「ちょっと〜する」-ka 「〜させる」。
- 471) ウシウウタリ ussiw utar : ウシウは s がひとつ脱落しているが ussiw 「召し使い」。ウタリはここでは utar 「〜たち」。
- 472) sinot toye : toye は「Many」(p.500) とあるように, 多くが集まることを意味する語か。次注473) も参照。
- 473) ツチウバレ ciwciwpare : ノートの表記では基本的に「ツ」は cu になるが, 「horippa toye uciwciw 大勢で楽しそうに踊って動き回る。 / sinot toyehe uciw'uciw 大勢で楽しそうに遊んであっちへ行ったりこっちへ来たりする」(『沙流辞典』p.728) を参考に, ciwciwpare とした。

## Nabesawa-4

### 【表紙】

昭和貳拾九年三月

夫 澳津彦命<sup>1)</sup>

火神祈道

婦 澳津姫命<sup>2)</sup>

門別町 富川町 大町三九九<sup>3)</sup>

三九九番 鍋澤元蔵

子息 強 巳<sup>4)</sup>

### 【1丁表】

(1) 火神ノ何時テモノ祈道

火の神に平時に祈る際の祈詞

澳津姫命<sup>5)</sup>

- |               |                              |           |
|---------------|------------------------------|-----------|
| 1. モシリコロフチ,   | mosir kor huci <sup>6)</sup> | 国土を司る姫神   |
| 2. バセカムイ。     | pase kamuy,                  | 重い神よ。     |
| 3. エアイヌ ミツポ。  | e=aynumitpo <sup>7)</sup>    | 私は若輩者で    |
| 4. クネワタブネ,    | ku=ne wa tapne               | あって、このとおり |
| 5. エカシイタク。    | ekasi itak                   | 父祖のことばが   |
| 6. コイタライヅ。    | koitaraye <sup>8)</sup>      | わからなくなった  |
| 7. クキクス。      | ku=ki kusu                   | ので        |
| 8. クコロ ミチ。    | ku=kor mici                  | 私の父が      |
| 9. カンビ クルカ。   | kampi kurka                  | 紙の上に      |
| 10. エヌヱイタク。   | enuye itak <sup>9)</sup>     | 書いたことばを   |
| 11. イレスフチ。    | iresu huci <sup>10)</sup>    | 育ての姫神に    |
| 12. エコイタツカラ。  | ekoytakkar <sup>11)</sup>    | 捧げ唱え      |
| 13. クキハヅネ。    | ku=ki hawe ne.               | 申し上げるのです。 |
| 14. イキネイベカ。   | ikineypeka <sup>12)</sup>    | 決して       |
| 15. チコシヤンテ。   | cikosiante <sup>13)</sup>    | 私に立腹しないで  |
| 16. アエネカルカンナ。 | a=en=ekarkar_ na.            | くださいな。    |
| 17. トノイレンカ,   | tono irenka                  | 和人のやり方には  |

18.	カムイネヤッカ。	kamuy ne yakka	神であっても
19.	ニウケシクス、	niwkes kusu <sup>14)</sup>	抗いがたく
20.	エシイレンカ、	esiirenka-	自分たちの方法を
21.	コイカラルベ、	koykarar pe <sup>15)</sup>	やらせるものが
22.	トノニシバ、	tono nispa	和人の首領
23.	ネワクス、	ne wa kusu	であるので
24.	イレンカアルケ、	irenka arke	(その) 方法の半分を
25.	クコイカルヤッカ、	ku=koykar yakka <sup>16)</sup>	真似してはいますが
26.	エカシノミブ、	ekasi nomi p	父祖の祈るものが
27.	カムイネワクス、	kamuy ne wa kusu <sup>17)</sup>	カムイですから、
28.	ケヤイセルマク、	k=eyaysermak-	私自身の守護神から
29.	エヌブンラム、	enupur_ ram <sup>18)</sup>	力を得た心を
30.	エコシラッキ、	ekosiratki <sup>19)</sup>	お守りにしている
31.	クキワクス、	ku=ki wa kusu	ので

【1 丁裏】

32.	カムイフチ、	kamuyhuci <sup>20)</sup>	(こうして) 神のお婆さんに
33.	クノミシリ、	ku=nomi siri	私は祈るの
34.	ネヒタバンナ、	ne hi tapan na.	ですよ。
35.	クゴロウイタク、	ku=ye rok itak	私が言う言葉の
36.	チコホサリ、	cikohosari	方を向いて
37.	エネカルカラン、	en=ekarkar _yan.	ください。
38.	スクブ。クルアナク、 <sup>21)</sup>	sukup kur anak <sup>22)</sup>	育ちゆく人たちの
39.	スクブルゴトク、	sukup ruetok <sup>23)</sup>	先々のことで
40.	エコイラゴブ、	ekoyrawe p <sup>24)</sup>	望むのは
41.	エネオカヒ、	ene oka hi	こうです。
42.	ピリカスクブ、	pirka sukup	立派に成長し
43.	ニサシヌスクブ、	nisasnu sukup	健康に成長し
44.	ウタルドラノ、	utar turano	仲間と一緒に
45.	ネルエネ、	ne ruwe ne.	いることです。
46.	セコロアンヤクン、	sekor an yakun	ということなので
47.	クコロヘカツタル、	ku=kor hekattar	私の子供たち
48.	コエドレンノ、 <sup>25)</sup>	koeturenno <sup>26)</sup>	ともども
49.	クセルマクカシ、	ku=sermak kasi	私の背後を
50.	カムイオインカル、	kamuy oinkar <sup>27)</sup>	見守ってください。
51.	シサムニシバ、	sisam nispa	和人の長者と

52.	アイヌニシバ,	aynu nispa	アイヌの長者の
53.	コマウコビリカ,	komawkopirka <sup>28)</sup>	運が良くなり
54.	ウサブキテコロ,	usapki tek or <sup>29)</sup>	働く(者の)手に
55.	イヨマクニ,	ioma kuni <sup>30)</sup>	(成果が) 入るよう
56.	チエコインカル,	ciekoinkar <sup>31)</sup>	見守ってください。
57.	ナサマタ,	na sama ta <sup>32)</sup>	さらにまた
58.	イレスカムイ,	iresu kamuy	育ての媼神
59.	コエドレンノ,	koeturenno	ともども
60.	トノマチヤ,	tono maciya	和人の町に
61.	エコシヤチ,	ekosiat <sup>33)</sup>	身を置いて
62.	クキヒマスキン,	ku=ki hi maskin <sup>34)</sup>	いるので, なおさら
63.	ヘムサマケ,	hem samake <sup>35)</sup>	(いい目を見るのは)
64.	コヤヤプテネ,	koyayaptene <sup>36)</sup>	困難な
65.	クキルヱ,	ku=ki ruwe	こと
66.	ネヒタバンナ,	ne hi tapan na.	なのですよ。
67.	ナサマタ,	na sama ta	さらにまた
68.	アコロアトンプ,	a=kor a tumpu <sup>37)</sup>	私たちの家
69.	トンプウブソル,	tumpu upsor	家の中に
70.	ヰン【2丁表】アクニヰ,	wen a kuni p	悪いものが
71.	オカロクヤクン,	oka rok yakun	いたならば
72.	チドイマヌヰ,	citymanuwe <sup>38)</sup>	遠くへ払い,
73.	ピリカ。クニヰ,	pirka kuni p	よいものは
74.	アエヤイトンプオロ	aeayitumpuor <sup>39)</sup>	自身の家にて(?)
75.	エコブンキネ,	ekopunkine	守って
76.	エキナンコンナ,	e=ki nankor_ na.	くださいな。
77.	モシリコロフチ,	mosir kor huci	国土を司る媼神
78.	バセカムイ,	pase kamuy.	重い神よ。
79.	一ノゼ■ホルカケブ又ワ	サケ <sup>40)</sup> 神様ニ奉ゲル事 <sup>41)</sup>	

## 注

- 1) 澳津彦命(オキツヒコノミコト):「澳」は「燠」の意か。「津」は格助詞「つ」(「~の」の意)。したがって、全体では「燠の男神」の意味。この男神は、「北部方言地方では(石狩・十勝・天塩・北見・釧路及び樺太) 往々火神を……男女一対の神のように考えている」(『金田一全集12』p.228) といった観念によるものか。ただし、本ノートならびに『アイヌの叙事詩』など鍋沢の

手による祈詞のテキスト中では火の女神に対する呼びかけのみが見られることから、実際には、鍋沢は女神のみを火の神として考えていたのであろう。

- 2) 澳津姫命 (オキツヒメノミコト) : 「燠の女神」の意味 (注1) 参照)。本ノートにおいて鍋沢は、「火の女神」(mosir kor huci など) の和訳として、この語を使用している。また、ノートでは「澳津彦命」と「澳津姫命」とは、括弧で結ばれている。さらに「姫」の部分は「彦」と書き間違えた文字を消した上で隣に「姫」と書き足されている。
- 3) 大町三九九 : 薄いインクで書かれている。後から書き足されたものか。
- 4) 子息 強巳 : 薄いインクで書かれている。後から書き足されたものか。
- 5) 澳津姫命 : この行は鉛筆書きらしき薄い文字で、タイトルの「火神」と1行目「モシリコロフチ」の間に書かれている。「モシリコロフチ」の補足説明 (和訳) であろう。注2) 参照。
- 6) mosir kor huci : 『千歳辞典』に「mosir kor huci 大地を守る女神 ; 火の女神の別称」(p.381) とある。鍋沢の祈詞においては、火の女神をこの名称で呼ぶことも多い。
- 7) e=aynumitpo : 『沙流辞典』では mippo, mitpo の2つの語形が項目立てられており、「ミッポ」というノートの表記からは mitpo と mippo の可能性が考えられる。しかし本ノートにおいて「ミチポ」と書かれている箇所があることから、鍋沢の語彙としては mitpo であると判断した (inonnoytak (3) 注2) 参照)。この aynumitpo (mippo) は、鍋沢のテキストのみならず祈詞ではしばしば見られる言い回しである。逆に祈詞以外ではほとんど使われておらず、祈詞特有の決まり文句と言えそうである。この語句について『くらしと言葉4』では、「単に『孫』『子』『子孫』という意味であるのか、『和人』に対しての『アイヌ』という意味合いを含んでいるのか判断が付け難い。……『祖先の人達と比べて何とも未熟な』という意識で使っている言葉のように思う」(p.290) と若月亭が注をつけている。e=aynumitpo の直訳は「お前の人間の孫」で、鍋沢自身が和訳をつけたテキストでも「人々の孫たち」(『アイヌ祈道集』p.45) といった訳が多いが、本ノートを見る限りでは、若月の解釈のように自身を謙遜しているような使い方と、「aynumitpo の身体が健康になる」のように一般的に人間を指すらしい使い方、他村の人と比較して「我々」というような使い方が見られる。いずれにしても親族名称としての「孫」そのものではないことから、それぞれの文脈にあわせて意識した。また、行頭の「エ」は e=「お前の」、すなわち祈っている相手である火の女神のことを指すものと解釈したが、aynu mippo (mitpo) に人称接辞がついている用例はほかには見つからなかったため、明確な意味は不明である。e= によって「あなたに護られている人間」のような意味が付け加わるものであろうか。
- 8) koitaraye : 『くらしと言葉4』(p.271) に ku=koitaraye とあることから、koytaraye ではなく koitaraye とした。「ene ashpe ka / koitaraye / aki awa どうあるかも / わからなくなって / いるのに」(『ユウカラ集3』p.131) のように、状況などがまったくわからない時に使われる用例が見られ、「akotaraye 何もわからなくなる」(『久保寺辞典』p.20) や「aattaraye あと我わかずなりたり」(『金田一全集9』p.277) といった語もほぼ同様の意味で使われている。英雄叙事詩においては気を失う場合に使われることが多いが、ここでは先祖伝来の祈詞の文句が覚えなくなってきていることを言う。
- 9) ku=kor mici / kampi kurka / enuye itak : この記述からは、鍋沢元蔵の父親も祈詞を筆録して残していたように読める。しかし、そういった記録は確認できず、詳細は不明。あるいは、本ノートに記した祈詞を子孫たちがそのまま述べることを念頭に置いた文句で、ku=kor mici は子息から見た鍋沢自身のことを指しているのか。
- 10) iresu huci : 火の女神のこと。『萱野辞典』に「イレスフチ [i-resu-huci] 火の神へお祈りの時に親しみと尊敬の念を込めて言う言葉」(p.83) とある。

- 11) ekoytakkar: e- 「～について」 ko- 「～に対して」 itak 「話す」 -kar (他動詞形成接尾辞)。「aeko -itak kar 捧げ唱える」(『アイヌの祈詞』 p.18ほか)。
- 12) ikineypeka: 『沙流辞典』に「ikineypeka けっして (... してはいけない)」(p.223) とある。
- 13) チコシヤンテ cikosiante: ci- (中相接頭辞) ko- 「～に対して」 siant 「怒る」。また、ノートの表記にしたがうと cikosiyante だが、y は挿入音。
- 14) tono irenka ~ niwkes kusu: 『アイヌの祈詞』にも「tono irenka / kamuy neyacka / niwkes kusu」という、まったく同じ表現があり (p.86), ここでは、「和人の規則が / 神でさえ / できなくなったゆえ」に山も荒らされて神も穏やかに暮らしてはいられなくなったと述べられている。本テキストでも「和人の意向ややり方が激しくなってきて、神であってもどうにもしがたいものなので」、あるいは「神の力を和人の意向にさからって行使できなくなったので」のような意味か。なお、irenka niwkes については「irenka niukesh 手に及ばない」(『久保寺辞典』 p.107), 「irenkaniwkeste ~に要求を断らせない」(『静内語彙』) などとある。
- 15) esiirenka- / koykarar: e- 「～について」 si- 「自ら」 irenka 「意向」 ko- 「～に対して」 i- 「人に」 kar 「～を作る」 -ar 「～させる」。すなわち、自分たちの意向・やり方を (アイヌたちに) 真似させ、押しつけること。
- 16) irenka arke / ku=koykar yakka: irenka はここでは tono irenka と同じ。和人の風習に半分ほどは従っているが、もう半分 (祈詞など) はアイヌの風習をそのまま行っている、ということか。
- 17) kamuy ne wa kusu: 直後から挿入句で、この句は32~33行目の「kamuyhuci / ku=nomi 神のお婆さんを / 私は祈る」にかかる。
- 18) k=eyaysermak- / enupur: e- 「～について」 yay- 「自分の」 sermak 「守護神」 e- 「～でもって」 nupur 「巫力が強い」。自分の守護神がついていてくれることによって力を得たということか。
- 19) ekosiratki: 『沙流辞典』に「kosiratki ... をお守りにする」(p.340) とある。和人の風習が盛んな時代であるにもかかわらず、カムイへの祈りをすることができる理由の説明。
- 20) kamuyhuci: 『沙流辞典』に「Kamuy-huci 火の女神 (呼び名)」(p.271) とある。
- 21) スクブ。クルアナク、: スクブの直後の「。」は赤鉛筆で記されている。
- 22) sukup kur: sukup は「成長する、子どもから大人へ、若年から壮年になり壮年期をすごして老年へと向かって成長して / 年を取っていく」(『沙流辞典』 p.682)。したがって、sukup kur は子供から壮年までの広い世代を指す。
- 23) スクブルゴトク sukup ruetok: 直訳は「成長する先」。ノートの表記にしたがうと ruwetok だが、w は挿入音。
- 24) ekoyrawe: 『久保寺辞典』に「koirawe のぞむ、期待する、希望する」(p.135) とある。
- 25) コエドレンノ: ノートの表記「エ」は「ゴ」のようにも見えるが、濁点がほかの個所よりも大きく、つぶれているように見えることから、一度濁点を振った後に黒く塗りつぶして消そうとしているものと判断した。なお、59行目にも同じ語が出てくるが、そちらでもコエドレンノと記されている。
- 26) koeturenno: koeturenno は ko- (虚辞的な接頭辞) e- 「～について」 turen 「～に憑く」 -no (副詞化辞) か。『萱野辞典』に「コエドレンノ 【ko-e-turen no】 (それと) 合わせて」(p.233) とある。
- 27) kamuy oinkar: 『千歳辞典』に「oinkar (カムイが) ~を見守る」(p.111) とある。したがって直訳は、「カムイが見守る」。
- 28) komawkopirka: ko 「～に対して」 mawkopirka 「運がいい、運がよくなる」。
- 29) usapki: 『沙流辞典』に「usapki 何をするにも一生懸命よく働く」(p.786) とある。

- 30) イヨマ ioma:i-「もの」oma「〈場所〉に入っている」。『久保寺辞典』に「…の中へ入ってくる」(p.113)とある。前行からの usapki tek or / ioma kuni は「働く手の / 中へ入ってくるように」が直訳になる。すなわち、「働くものが報われるように」の意味。なお、ノートの表記にしたがうと iyoma だが、y は挿入音。
- 31) ciekoinkar:ci- (中相接頭辞) e-「〜について」koinkar「〜を見守る」。
- 32) na sama ta: 直訳は「もっとそばで」だが、鍋沢の祈詞では、「さらにまた」「なおもまた」「さらに」(『アイヌの祈詞』p.13, 93ほか)などの訳でしばしば使われている接続句。
- 33) エコシヤチ ekosiat: エコシヤチは ekosiat。また、「ekosiat 身を定めて働く」(『アイヌの祈詞』p.128)、「ekosiat そこに働いていた」(同:p.152)があることから、「ヤ」となっているのはわたり音の y が挿入されているためと解釈して、ekosiat とした。こうした用例から、「〈場所〉で働く」の意味を表す語だと考えられるが、ここでは意識した。
- 34) ku=ki hi maskin: 直訳は「私がすることはあまりにも」。
- 35) hem samake: 未詳の語句。直訳は「何のそば」か。文脈から暫定的に訳した。
- 36) koyayaptene: 『久保寺辞典』に「koyaiapte 出来難い、不可能」(p.144)とあるが、ne の用法は不詳。なお、同じような表現は鍋沢のほかのテキストにも見られ、「koyayapte ne / aki wa kusu 勝てない / 私であるゆえ」(『アイヌの叙事詩』p.558)とある。
- 37) a=kor a tumpu: この祈詞では、「私」は ku=, 「あなた」は e= という人称が使われているため、この句における a= は包括的一人称複数主格と解釈した。したがって、「a=kor a tumpu」は、あなた (=火の神) とわたし (=語り手) の住むこの部屋」。なお、tumpu 自体は「部屋」の意味だが、火の女神が守護する範囲としては部屋より家が適当と考え、「家」と意識した。
- 38) チドイマヌヅ cituymanuwe: ノートの表記は「ヌヅ」にも「スヅ」にも見える。「ヌヅ」であれば nuwe「〜を掃く」、 「スヅ」であれば suye「〜を振る」であろうが、ここは wen a kuni p を遠くに追い払う意味であると考えられるので、「掃き出す」意味の nuwe と解釈した。したがって、ci- (中相接頭辞) tuyma「遠くに」 nuwe「〜を掃く」。
- 39) aeyaytumpuor- / ekopunkine: 直後の e=ki によって行為の主体が示されているため、行頭の a は人称ではないものとしたが、その用法や意味は不詳である。a- (?) e-「〜について」 yay-「自分の」 tumpu「部屋」 or「〜のところ」 e-「〈場所〉で」 ko-「〜に対して」 punkine「守護する」か。
- 40) サケ: 隣に、「酒」と鉛筆で書かれている。
- 41) 一ノゼ■ホルカケプ又ワ サケ 神様ニ奉ゲル事:「1本の cehorkakep 又は酒を神様にさげること」。cehorkakep は「短い削り掛けを逆向きに削ってつけたイナウ、火の女神などに捧げる」(『千歳辞典』p.252)。

## 【2 丁裏】

(ハルソイオ) 風引キ<sup>1)</sup>又ワ流行病ノ オハラヒharusoy'o<sup>2)</sup>風邪を引いたとき または  
流行病のときのお祓い (の祈詞)火ノ神ニ澳キ津姫の命<sup>3)</sup>

火の神 (に対して)

- |                                  |                              |             |
|----------------------------------|------------------------------|-------------|
| 1. イレスフチ                         | iresu huci                   | 育ての媼神       |
| 2. バセカムイ                         | pase kamuy,                  | 重い神よ。       |
| 3. クコロ[ヘカッターラ/又大人] <sup>4)</sup> | ku=kor hekattar              | 子供 (又は大人) が |
| 4. タスムカラシリ,                      | tasumkar siri <sup>5)</sup>  | 病気になって      |
| 5. エネクゴヒ,                        | ene ku=ye hi                 | どうしようも      |
| 6. イサムワクス                        | isam wa kusu <sup>6)</sup>   | ないので        |
| 7. エカシカルブリ,                      | ekasi kar puri               | 父祖の習わし      |
| 8. ネアクス                          | ne a kusu                    | ですから        |
| 9. クコロミチ                         | ku=kor mici                  | 私の父が        |
| 10. カンビカタ                        | kampi ka ta                  | 紙の上に        |
| 11. スイバ イタク                      | nuypa itak                   | 書いた言葉を      |
| 12. イレスカムイ                       | iresu kamuy                  | 育ての媼神に      |
| 13. エコイタクカラ                      | ekoytakkar                   | 捧げ唱え        |
| 14. クキハゴ                         | ku=ki hawe                   | 申し上げるの      |
| 15. ネヒタパンタパンナ                    | ne hi tapan na.              | ですよ。        |
| 16. タバンベパテク                      | tapanpe patek                | こればかりを      |
| 17. アイヌコツザ                       | aynu kotca                   | 人間の代わりに     |
| 18. アエテクイケブ。                     | a=etekuyruke p <sup>7)</sup> | 貴女が渡すものは    |
| 19. ハルビリカブ。                      | haru pirka p                 | 食料のよいもの     |
| 20. ネアクス。                        | ne a kusu                    | なので         |
| 21. カムイフチ。                       | kamuyhuci                    | 神のお婆さんの     |
| 22. サマタ。                         | sama ta                      | そばに (それを)   |
| 23. カヌヤクン。                       | k=anu yakun                  | 私が置いたら      |
| 24. イカタニカムイ。                     | ikatani kamuy <sup>8)</sup>  | 悪い病気の神に     |
| 25. チラムスツコレ。                     | ciramsutkore <sup>9)</sup>   | 捧げて,        |
| 26. チハルコレ                        | ciharukore                   | 食料を与えてください。 |
| 27. ネテクサマ。                       | ne teksama <sup>10)</sup>    | それだけではなく    |
| 28. アアイヌミツポ。                     | a=aynumitpo                  | 若輩者 (な私) の  |
| 29. コツザケタ。                       | kotcake ta <sup>11)</sup>    | 代わりに        |

30.	ヤイエイカタイタク	yay'eykataytak <sup>12)</sup>	断ってくださる
31.	ネロクアヤク。	ne rok a yak	のであれば
32.	チモニハキ。	cimonihaki <sup>13)</sup>	その手を払い
33.	チテケハキ	citekehaki	その手を払って
34.	ネアヤクン	ne a yakun	くださるなら
35.	アヌミツポ。	aynumitpo <sup>14)</sup>	私も人間の
36.	ドマムソカシ。	tumam so kasi <sup>15)</sup>	体は
37.	コラッチ【3丁表】クニブ。	koratci kuni p <sup>16)</sup>	平穏になるもの
38.	ドマシヌ クニブ	tumasnu kuni p	頑強になるもの
39.	ネヒタパンナ。	ne hi tapan na.	なのですよ。
40.	モシリコロフチ	mosir kor huci	国土を司る媼神、
41.	バセカムイ — <sup>17)</sup>	pase kamuy.	重い神よ。

## 注

- 1) 風引き：「風邪引き」の意。
- 2) harusoy'o: haru「食料」soy「～の外」o「～を〈場所〉に置く」。病気の神に食料を持たせて、病気が村の外に出て行くようにと、火の神に祈る儀礼。本テキストは、この儀礼にあたっての祈詞。同様の儀礼としては、『人間篇』に haru-e-kamuy-nomi がある。これは疱瘡神に「糧食を捧げて、村内え入らないで遠くえ行って貰う」という「疱瘡神を追いしりぞける祭儀」(p.384)。
- 3) 火ノ神二澳キ津姫の命：タイトルと思われる「(ハルソイオ)」と祈詞の最初の行「イレ スフチ」の間に付け足されたように書かれている。「火の神である焔の女神」という意味なので、「イレ スフチ」の補足説明(和訳)として書き足されたものであろう。inonnoytak(1) 注2)も参照。
- 4) クコロ【ヘカッター / 又大人】：行頭に括弧が、「ヘカッター」と「又大人」が並んで書かれている前後に区切りのような横線が、それぞれ鉛筆で書き足されている。
- 5) tasumkar: -kar は他動詞形成接尾辞だが、ここでは目的語にあたる名詞を欠いているので、他動詞化ではなく語調を整えることを目的として接尾しているようである。
- 6) ene ku=ye hi / isam wa kusu: 『沙流辞典』によると、ene...hi ka isam で「どう...しようもない」(『沙流辞典』p.246)なので、「病気になったことは / どう言いようもないので」が直訳だが、「ku=nukar rusuy wa ene ku=ye hi ka isam a p 会いたくてどうしようもなかったんだのに」(『千歳辞典』p.98)を参考に意識した。
- 7) アエテクイケ a=etekuyruke p: 「エテクイケ」は「ル」が脱落しているが etekuyruke か。a=「あなたが」e-「～について」tek「手」uyruke「〈場所〉に～を置く」で、ここでは、あなた(=火の神)が病気の神の手に haru pirka p を置くこと、すなわち病気の神に食べ物を捧げることだと解釈した。
- 8) ikatani kamuy: 『沙流辞典』には ikatani の複数形と推測できる ikatanpa-kamuy が「悪い病気の神」(p.221)とある。単数形 ikatani は既刊の辞書では確認できないが、むかわ町在住の吉村冬子によると、祈詞に限られて用いられる語句で、通常は使わないという。
- 9) ciramsutkore: ci- (中相接頭辞) ram「心」sut「～の根元」kore「～に～を与える」。「ikeske pito

- / chiram-sutkore 禍い人を / 捧げ」(『アイヌの祈詞』 p.130)。
- 10) ne teksama: 直訳は「そのそば」だが、『久保寺辞典』には ne teksama の訳語として「そのかたはら」以外に「猶、しかのみならず」もある (p.169)。
- 11) kotcake ta: ここでの kotcake は『千歳辞典』に「～の代り。～の代理」(p.185) とあるのを参考にした。
- 12) yay'eykataytak: yayekatyak は「断る」(『沙流辞典』 p.439)。具体的には、病気の神に対して自分たちの村に来ることを断ることか。
- 13) cimohaki / citekehaki: それぞれ ci-「自ら」 teke「～の手」 haki「～を掃く」、ci-「自ら」 moni「～の手」 haki「～を掃く」。haki は、『久保寺辞典』に「掃く < 邦語」(p.76) とある。したがって、語の直訳は「自らの手を掃く」となるが、ここでは文脈から、火の神が手を払うことによって、病気の神を追い払うことを意味すると解釈した。
- 14) アヌミツボ aynumitpo: 「アヌ」は「イ」が脱落しているが aynu か。
- 15) tumam so kasi: 直訳は「胴の面の上」。
- 16) koratci: ko-「～に対して」 ratci「穏やかだ」。「ne'a rera / koratchi hine 例の風が / 静かになったので」(『アイヌの叙事詩』 p.483)。
- 17) テキストの最後に長めの棒線が書かれている。祈詞の最後に発せられる掛け声(咳払い)を表記したものか。以下のテキストでも、すべて同様。

【3丁表 (つづき)】

病ノ神ニ次ニ 悪神流行病ノ神ニ向フ事業

病気の神の次に

悪神である流行病の神に向かって(言う)言葉

1.	イカタニ。カムイ。	ikatani kamuy,	悪い病気の神よ、
2.	モシリコロ フチ。	mosir kor huci	国土を司る媼神
3.	オロワノ。	oro wano	から
4.	チハルコレ。	ciharukore	食料を与えて
5.	アイエ カルカンナ。	a=i=ekarkar_ na. <sup>1)</sup>	もらってください。
6.	アイヌミチボ。	aynumitpo <sup>2)</sup>	私どもを
7.	チアヌンコバ。	cianunkopa <sup>3)</sup>	他の人と間違えて
8.	ネアヤクネ。 <sup>4)</sup>	ne a yakne	襲うようなら
9.	チモニハキ。	cimonihaki	手で払いのけられ
10.	チテケハキ。	citekehaki <sup>5)</sup>	払われますよ。
11.	ネワオラ。	ne wa ora	そして
12.	カムイウタラバ。 <sup>6)</sup>	kamuy utarpa	(病の) 神の首領は
13.	ハルビリカブ。	haru pirka p <sup>7)</sup>	よい食料のほうに
14.	エヤイドマム。	eyaytumam-	ご自分の体を
15.	アンテカネ。	ante kane <sup>8)</sup>	向けて
16.	ビリカモシリ。	pirka mosir	すばらしい大地を
17.	エコシキリバ	ekosikirpa <sup>9)</sup>	向いて
18.	キナンコンナ	ki nankor_ na.	くださいませ。

注

- 1) ciharukore / a=i=ekarkar\_ na : a=i= は「人が(不定人称主格)・あなたに(敬意の二人称目的格)」か。
- 2) アイヌミチボ aynumitpo : ミチボは mitpo。ここでの aynumitpo は、他村の人と比較して「我々」という意味か。inonnoytak(1) 注7)も参照。
- 3) cianunkopa : anunkopa は「～を他人とみなす。～を他人のように扱う」(『千歳辞典』p.14)。ここでは「inki patum / utumkas yakka / cianunkopa / koisam kuni 如何なる疫病が / 流行して来ましようとも / 他人と間違えられて襲われることの / ないよう」(『宗教と儀礼』p.58) という訳を参考にした。
- 4) ネアヤクネ : ノートでは「ヤ」の文字がにじんでいるためか、欄外に「ヤ」の文字を書き足している。
- 5) cimonihaki / citekehaki : 直訳は「自らの手を掃く」(inonnoytak(2) 注13) 参照) だが、inonnoytak

- (2) における火の神への祈りからすると、火の神が病気の神を払いのけるはずである。さらに、ここでは ci- と対応する ekarkar も欠落している (yukar(2) 注200) 参照) ことから、本来は a=e=ekarkar 「あなたが〜される」が直後に続いて、「(火の神から) その手を払いのけられますよ」という意味になると解釈した。
- 6) カムイウタラバ：ノートでは「バ」は後から書き足されているように見える。それによって字間が詰まってしまうため、「ウタラバ。」と次行の「ハルビリカブ」との間に区切りのようなものが入っている。
- 7) haru pirka p: 流行病の神を追い払うために、「自分たちのいるこの場所よりも食料が豊富なすばらしい土地へ去ったほうがよい」とほかの場所へ気を向けようとしている。16行目の pirka mosir 「すばらしい大地」も同様の意味。
- 8) eyaytumam- / ante kane:e- 「〈場所〉に」 yay- 「自分の」 tumam 「胴体」 an 「ある」 -te 「〜させる」。
- 9) ekosikirpa: 鍋沢のテキストに「potara kamuy / chitunas nisuk / tumpu upsor / ekosikir 祈禱の神が / 突然やとわれて / 家の中に / 入って」(『アイヌの叙事詩』 p.122) という表現があることから、e- は人称接辞ではなく ekosikir (pa) という動詞の一部 (すなわち接頭辞) と解釈した。

【3丁裏】

急病ニ火神ニ奉ゲル祈道  
火ノ神澳津姫命

急病の時に火の神に捧げる祈詞

- |                              |                              |                     |
|------------------------------|------------------------------|---------------------|
| 1. モシリコロフチ。                  | mosir kor huci               | 国土を司る媼神,            |
| 2. バセカムイ。                    | pase kamuy,                  | 重い神よ。               |
| 3. クコロア。テンネブ。                | ku=kor a tennep              | 私の赤ん坊が              |
| 4. タスムカル。シリ。                 | tasumkar siri                | 病気になって              |
| 5. チキマテクカ。                   | ci=kimatekka <sup>1)</sup>   | 私たちは驚いた             |
| 6. ネワクス。                     | ne wa kusu                   | ので                  |
| 7. イレスフチ。                    | iresu huci                   | 育ての媼神に              |
| 8. コアスラニ。                    | koasurani                    | 危急をお知らせ             |
| 9. クキハズ。                     | ku=ki hawe                   | するの                 |
| 10. ネヒタパンナ。                  | ne hi tapan na.              | ですよ。                |
| 11. ネブアイヌフ。                  | nep aynuhu                   | どんな人間でも             |
| 12. エヤイドマムオロ。                | eyaytumam'or-                | 自身の体や               |
| 13. エウドマムオロ。                 | eutumam'or-                  | 互いの体を               |
| 14. エコブンキネブ。                 | ekopunkine p <sup>2)</sup>   | 守れるものは              |
| 15. イサムワクス。                  | isam wa kusu                 | いないので               |
| 16. カムイフチ。                   | kamuyhuci                    | 神のお婆さんに             |
| 17. クヌレハズ。                   | ku=nure hawe                 | お聞かせするの             |
| 18. ネヒタパンナ。                  | ne hi tapan na.              | ですよ。                |
| 19. オッシ。キキリ。                 | ossi kikir                   | 腹の中の虫が              |
| 20. [アルカレシリ。/タスムカレシリ]        | arkare siri / tasumkare siri | 痛くさせたの /<br>病気にさせたの |
| 21. ネナン[■/コ]ラ。               | ne nankor _ya?               | でしょうか。              |
| 22. オロワウンスイ。                 | orowaun suy                  | そしてまた               |
| 23. ソモネヤクン。                  | somo ne yakun                | そうでないならば            |
| 24. ネブイケシケツブ。                | nep ikeske p <sup>3)</sup>   | 何か障るものが             |
| 25. カムイシッキウトル。 <sup>4)</sup> | kamuy siki utur              | 神の目を                |
| 26. エトシマククス。                 | etusmak kusu <sup>5)</sup>   | すり抜けたために            |
| 27. タスムカルシリ。                 | tasumkar siri                | 病気になったの             |
| 28. ネナンコラ。                   | ne nankor _ya?               | でしょうか。              |
| 29. ゼンワ。アンベ。                 | wen wa an pe <sup>6)</sup>   | 悪いものを               |
| 30. チドイマヌズ                   | cityu manuwe <sup>7)</sup>   | 遠くに払って              |

31. ネオカケ。	ne okake	その後は
32. エアイヌミチポ。	e=aynumitpo	私ども人間の
33. ドمامソカシ。	tumam so kasi	体を
34. チドマシヌレ。	citumasnure	強くして
35. トノクスリ。	tono kusuri	和人の薬に
36. チラマツコレ。	ciramatkore	魂を持たせ、
37. アイヌミツポ。	aynumitpo	私ども人間の
38. ドمامソカシ。	tumam so kasi	体が
39. チコニシビ。	cikonisipi <sup>8)</sup>	回復するように
40. ネナンコンナ。	ne nankor_ na.	してくださいな。
41. パセカムイ —	pase kamuy.	重い神よ。

## 注

- 1) tasumkar siri / ci=kimatekka: 直訳は「病気になった様子に / 私たちは驚かされた」。
- 2) eyaytumam'or- / eutumam'or- / ekopunkine p:e-「～でもって」yay-「自身の」tumam「身体」or「～のところ」/ e-「～でもって」u-「互いの」tumam「身体」or「～のところ」/ e- (音節数合わせの接頭辞) ko-「～に対して」punkine「番をする, 守護神となる」か。eyaytumam'or と eutumam'or がともに ekopunkine にかかっている。人間というものは, 自分の身体や他人の身体を守る手段がないので, だからこそカムイに祈っているのだ, ということか。
- 3) nep ikeske p:『久保寺辞典』に「i-keshke 嫉み咀ふ, 人を障る, 人を呪う」(p.97) とある。
- 4) カムイシツキウトル: ノートでは, 「シツキウトル」の「シ」と「キ」との間の幅が狭く, 「ツ」は後から書き入れたように見える。
- 5) kamuy siki utur / etusmak: kamuy「神」siki「～の目」utur「～の間」etusmak「～の先回りをする」。「kamuy sikuturu tusmak wa」《ホロベツ》【雅】「神様の油断を見すまして」(『人間篇』p.395) とあるように, 神が見ていない隙に, 神の目を盗んで, の意味。
- 6) wen wa an pe: 19行目 ossi kikir「腹の中の虫」や24行目 nep ikeske p「何か障るもの」を指す。wa an pe「～しているもの」なので, 性根そのものが悪いもの (= wen pe) とは異なり, 悪さをはたらいているものという意味になる。
- 7) チドイマスズ ciuymanuwe: ci- (中相接頭辞) tuyma「遠くに」nuwe「～を掃く」。inonnoytak (1) 注38) も参照。
- 8) cikonisipi: 『アイヌの叙事詩』に「chikonisipi 快復して」(p.124) とある。

【4丁表】

イレスカムイ

育ての神（である）

火ノ神様へ

火の神へ

（ゼンタラブ<sup>1)</sup>）火神ニ夢見ノ時 祈道

（夢）火の神に夢を見た時に祈る言葉

	澳津姫命		火の神
1.	モシリコロフチ。	mosir kor huci,	国土を司る媼神よ,
2.	アイヌ。アナク。	aynu anak	人間というものは
3.	テエタワノ。	teeta wano	昔から
4.	ヌブルエカス。	nupur ekasu <sup>2)</sup>	（自分の）巫力以上に
5.	エヤイセルマコロ。	eyaysermakor-	自身の守護神から
6.	エヌブンラム。	enupur_ ram <sup>3)</sup>	得た巫力で
7.	ネブタラブ。	nep tarap <sup>4)</sup>	何かの夢を
8.	エヤイセルマコロ。	eyaysermakor-	自身の背後に
9.	エタカルンデ。	etakarunte <sup>5)</sup>	見る
10.	ネロクアワ。	ne rok awa	のですが,
11.	ネブタラブ。	nep tarap	（これは）何の夢
12.	ネナンコラ。	ne nankor _ya?	なのでしょう。
13.	チエヤイセルマク。	cieyaysermak-	自身の背後に
14.	エタカルンデ。	etakarunte	夢を見た
15.	キロクヤクネ。	ki rok yakne	ならば,
16.	カムイフチ。	kamuyhuci	（そして）神のお婆さんが
17.	ヌワネヤク。	nu wa ne yak	（それを）聞いたら,
18.	アイヌミチボ。	aynumitpo	私ども人間が
19.	ビリカクニブ。	pirka kuni p	無事であるように
20.	セルマク。オルケ。	sermak orke	背後で
21.	チコシクカ【4丁裏】シマ。	cikosikkasma	見守り,
22.	ナサマタ。	na sama ta	さらにまた
23.	セルマクオルケ。	sermak orke	背後に
24.	ゼエヤムカラベ。	ceeyamkarpe <sup>6)</sup>	危険なものを
25.	タカルン。カド。	takar un katu	夢見る様子
26.	ネロクアヤクン。	ne rok a yakun	であったら
27.	ゼンワアンベ。	wen wa an pe	悪いものも
28.	ゼンウラリ。	wen urari	悪いもやも
29.	チドイマヌヅ。	cituymanuwe <sup>7)</sup>	遠くに払って

30.	アイヌミツポ。	aynumitpo	私ども人間が
31.	ネブ。ウサブキ。	nep usapki	何の働きを
32.	キワネヤクカ。	ki wa ne yakka	していても
33.	トمامソカシ。	tumam so kasi	体を
34.	チコブンキネ。	cikopunkine <sup>8)</sup>	守って
35.	アキナンコンナ。	a=ki nankor_ na.	くださいませ。
36.	モシリコロフチ。	mosir kor huci	国土を司る媼神,
37.	バセカムイー。	pase kamuy.	重い神よ。

## 注

- 1) ゼンタラブ : wentarap 「夢を見る」。また、この語の右隣に薄いインクで「ユメミ」と書き足されている。
- 2) nupur ekasu : ekasu は e- 「～について」 kasu 「～以上である」。『久保寺辞典』に「ekasu それにも優りて」(p.58) とある。
- 3) eyaysermakor- / enupur : e- 「～について」 yay- 「自分の」 sermak 「守護神」 or 「～のところ」 e- 「～でもって」 nupur 「巫力が強い」か。夢は神が人間に見せると考えられていたことから、夢を見たのも自分の巫力以上に sermak の力によるものだという意味か。
- 4) ネブタラブ nep tarap : nep pitoho 「何神」(『アイヌの叙事詩』 p.465) のように、nep は所属形を伴うことが多いが、tarap の所属形は tarapi (hi) であることから、「タラブ」は tarapu ではなく概念形 tarap とした。
- 5) eyaysermakor- / etakarunte : e- (音節数を整える接頭辞) yay- 「自分の」 sermak 「背後」 or 「～のところ」 e- 「〈場所〉に」 takar 「夢」 un 「～につく」 -te 「～させる」か。したがって直訳は「自分の背後に夢をつけさせる」となり、ここでは「(人間が) 夢を見せられる」の意か。なお、takar は『沙流辞典』『千歳辞典』によると「～を夢に見る」という意味の他動詞なので、そのままでは名詞として扱うことはできないが、「pirka takar ne よき夢のやうに」(『金田一全集 10』 p.318) のように、takar が名詞扱いされている用例もあり、ここもその用法か。なお、『静内語彙』や『バチエラー辞典』(p.487), 『人間編』(p.434) には、自動詞ならびに名詞とある。
- 6) ceeyamkarpe : 『アイヌの叙事詩』に「nep akkari / chieeyamkarpe 何よりも / 危険なもの」(p.46) とある。
- 7) チドイマヌゴ cituymanuwe : ci- (中相接頭辞) tuyma 「遠くに」 nuwe 「～を掃く」。inonnoytak (1) 注38) 参照。
- 8) cikopunkine / a=ki nankor\_ na : 『久保寺辞典』に「chikopunkine aki kusu-ne na. 加護を我とふべし」(p.43) とある。

## Nabesawa-5

### 【表紙】

著者 鍋澤元蔵 北海道日高国  
子息 強巳 沙流郡門別町  
富川大町三九九  
㊤旅館

ユカ ル 典

昭和参拾四年二月

### 【見返し】

(白紙)

### 【1丁表】

(ユカル) (ボンソヤ「ウンマチ」イワン」ロクンデウ」ウコエタイズ)<sup>1)</sup> 和人に なにわ  
ぶしと言<sup>2)</sup>

1. ドミサンベチ」	Tomisanpeci <sup>3)</sup>	トミサンベツの
2. シスタブカタ」	Sinutapka ta	シスタブカで
3. アコロユビ」	a=kor yupi	兄さんと
4. アコロサボ」	a=kor sapo	姉さんが
5. イレスワ」	i=resu wa	私を育てて
6. オカアン」ヒケ」	oka=an hike	暮らしていて
7. アシヌマアナク」	asinuma anak	私は
8. ロルンソカタ」	rorunso ka ta <sup>4)</sup>	上座の
9. カネアムセツチ」	kane amset <sup>5)</sup>	金の寝台
10. アムセツクルカ」	amset kurka	寝台の上で
11. アイヨレス」	a=i=oresu <sup>6)</sup>	育てられていた。
12. イネアブクスン」	ineapkusun	なんと
13. アコロユビ」	a=kor yupi	兄さんや
14. アコロサボ」	a=kor sapo	姉さんが
15. イエオリバックワ」	i=eoripak wa	私を敬って

16.	シリキヤカ]	sirki ya ka	いることか
17.	アエラミシカリ]	a=eramiskari <sup>7)</sup>	聞いたこともないほどだ。
18.	アコロサポ]	a=kor sapo	姉さんは
19.	デムツナワ]	temsutna wa <sup>8)</sup>	袖を肩までまくりあげて
20.	ヤスケワ]	yaske wa	手を洗って
21.	ピリカスケ]	pirka suke	立派な料理をつくり
22.	エヤイケスッカ]	eyaykesupka <sup>9)</sup>	あちらこちら
23.	エワツカネ]	ewak kane	立ち働き
24.	アコロユピ]	a=kor yupi	兄さんは
25.	カバラベオツチケ]	kaparpe otcike <sup>10)</sup>	立派なお膳
26.	カバルベイタンキ]	kaparpe itanki	高価なお椀を
27.	ウオエロシキ]	uoeroski <sup>11)</sup>	たくさん並べて
28.	イコイブンバ]	i=koypunpa	私に食事を差し出し、
29.	イネアブクスン]	ineapkusun	なんと（兄と姉が）
30.	チトムテレス]	citomteresu	私を大事に育てて
31.	チアラレス]	ciararesu <sup>12)</sup>	立派に育てて
32.	アイヰカルカラ] <sup>13)</sup>	a=i=ekarkar	くれる
33.	シリキヤカ]	sirki ya ka	ことか
34.	アエラミシカリ]	a=eramiskari	聞いたこともないほどだ。
35.	アコロユピ]	a=kor yupi	兄さんと
36.	アコロサポ]	a=kor sapo	姉さんは
37.	イネアツクスン]	ineapkusun	なんと
38.	シレトッコロワ]	siretokkor wa	美貌である
39.	シランヤカ]	siran ya ka	ことか
40.	アエラシカリ]	a=eramiskari <sup>14)</sup>	聞いたこともないほどだ。
41.	ネイタコタンダ]	ney ta kotan ta	どこの村に
42.	エドルバクシリカ]	eturpak sirka	（彼らに）匹敵する容貌
43.	エドルバク] ナンカ]	eturpak nanka	匹敵する顔立ち（の者）が
44.	オカナンコラ]	oka nankor _ya	あるかも
45.	アエラミシカリ]	a=eramiskari	わからない（ほどだ）。
46.	アコロザシ]	a=kor casi	私たちの山城
47.	ザシウブソロ]	casi upsor	山城の中には
48.	タバンイヌマ]	tapan inuma <sup>15)</sup>	宝壇が
49.	ランベシクンネ]	ranpes kunne <sup>16)</sup>	低い崖のように
50.	チシドリレ]	cisiturire	（長く）伸びている。

51. エンカシケ]	enkasike	その上では
52. ニシバムツベ]	nispa mutpe	長者の太刀が
53. <del>ウタルバ]</del> <del>ムツベ]</del> <sup>17)</sup>	<del>(utarpa mutpe)</del>	<del>(首領の太刀が)</del>
54. ウコブサクル]	ukopusakur-	互いに房飾りを
55. スイバカネ]	suypa kane	揺らして
56. ザシウブソロ]	casi upsor	山城の中が
57. エニベッオマ]	enipek'oma	光り輝いている。
58. カネアムセチ]	kane amset	金の寝台
59. アムセツカタ]	amset ka ta	寝台の上で
60. シリカヌヱ]	sirka nuye	刀の鞘に彫刻を
61. トミカヌヱ]	tomika nuye	宝刀の鞘に彫刻を
62. アキコロネシ]	a=ki kor nesi	しながら
63. ラムマカネ] <sup>18)</sup>	ramma kane	いつもいつも
64. アナンアワ]	an=an awa	私は暮らしていたが
65. オロシネアンダ]	oro sineanta	ある日
66. インキコタン]	inki kotan	どこの村 (から)
67. ネナンコラ]	ne nankor _ya?	だろうか。
68. オロワノ]	oro wano	そこから
69. カムイエクム]	kamuy ek _hum <sup>19)</sup>	神の来る (かのような) 音が
70. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響き
71. アコロザシ]	a=kor casi	私たちの山城
72. アットムンノ]	attom unno <sup>20)</sup>	めがけて
73. エックトノノ]	ek kotomno	来るように
74. アエサンニヨ]	a=esanniyo	思っ
75. アナンアワ]	an=an awa	いたが
76. ホントモタ]	hontomo ta <sup>21)</sup>	そのうちに
77. ザシラッサムン]	casi ras sam un <sup>22)</sup>	山城の割木の柵のそばへ
78. アイヌテルケフム]	aynu terke hum <sup>23)</sup>	人間が跳び下りる音が
79. コリンコサンバ]	korimkosanpa	ドシンと響いた。
80. オッカヨ] ソネ]	okkayo sone	男に違いなく
81. ドンバフンミ]	tumpa humi <sup>24)</sup>	鐙の音を
82. シヨロツテ]	siorotte <sup>25)</sup>	響かせて
83. ラッチタラ]	ratcitarā	ゆっくりと
84. アバ[マカ/チマカ] <sup>26)</sup>	apa cimaka	戸を開けて
85. アフブワ] アリキ]	ahup wa arki <sup>27)</sup>	入って来て

86.	オハリキシワ]	oharkiso wa <sup>28)</sup>	左座に
87.	ロックルエネ]	rok ruwe ne.	座ったのだ。
88.	オカロクアイネ]	oka rok ayne	そうしていたあげく
89.	ラチウリキクル]	(raciwrikikur-)	(目を上げて)
90.	ブンバカネ] <sup>29)</sup>	(punpa kane)	(顔を見ながら)
91.	エネイタックヒ] <sup>30)</sup>	(ene itak hi)	このように言った
92.	イタクハズ	itak hawe	話した言葉は
93.	エネオカヒ <sup>31)</sup>	ene oka hi	こうだった。
94.	イヨチウンクル]	“Iyociunkur	「イヨチウンクル
95.	コロウウッシウ] <sup>32)</sup>	kor ussiw	の召し使いが
96.	アネ【1丁裏】ワタブネ]	a=ne wa tapne	私で、(主人は)このとおり
97.	イウテクハズ]	i=utek hawe	私を使いに出して
98.	エネオカヒ]	ene oka hi	こう言いました。
99.	キルイマシキン]	‘ki ruy maskin	『あまりにも
100.	エカシカルヌサ]	ekasi kar nusa	父祖が作った祭壇
101.	ヌササンカシ]	nusasan kasi <sup>33)</sup>	祭壇が
102.	コライナタラ]	koraynatara <sup>34)</sup>	さびれている。
103.	タバンベクス]	tapanpe kusu	だから
104.	サケアカルワ]	sake a=kar wa	酒を造って
105.	タナントオッタ]	tananto or_ ta	今日
106.	イナウエブニ]	inaw’epuni <sup>35)</sup>	(祭壇に) イナウを捧げる
107.	アキクニブ]	a=ki kuni p	つもり
108.	ネルエネ]	ne ruwe ne.	なのだ。
109.	セコランクス]	sekor an kusu	ということなので
110.	シスタブカタ]	Sinutapka ta	シスタブカの
111.	カムイアアキ]	kamuy a=aki,	立派なわが弟よ、
112.	ユブドラノ]	yup turano	お兄さんといっしょに
113.	ドレシドラノ]	tures turano <sup>36)</sup>	妹さんといっしょに
114.	イコイクタ[シバマ/サ]	i=koykutasa	私の酒宴に来て
115.	イコロバレヤン]	i=korpore yan.’	ください]
116.	イヨチウンクル]	Iyociunkur	(と) イヨチウンクル
117.	アコロニシバ]	a=kor nispa	ご主人様が
118.	イユテックワ]	i=utek wa <sup>37)</sup>	使いによこしたので
119.	エックアンルズ]	ek=an ruwe	私は来たの
120.	ネヒタバナン]	ne hi tapan na.”	ですよ]

121. ウッシウニシバ]	ussiw nispa	(と) 召し使いの長が
122. ズ [ヨロ/ルエ]ネシ <sup>38)</sup>	ye ruwe ne.	言ったのだ。
123. <del>ドオンカミトイ]</del>	<del>(tu onkami toy)</del>	<del>(何度も礼拝を)</del>
124. <del>ウカクシパレ]</del> <sup>39)</sup>	<del>(ukakuspare)</del>	<del>(繰り返し)</del>
125. ■キロクアワ] <sup>40)</sup>	ki rok awa	そうしたところ
126. アコロユピ]	a=kor yupi	兄さんは
127. イコパクサマ]	i=kopaksama	私のほうに
128. エナンキル]	enankiru <sup>41)</sup>	顔を向けて
129. イヨチウンクル]	“Iyociunkur	「イヨチウンクル (という)
130. テイリワクニシバ] <sup>42)</sup>	irwak nispa	兄弟分の長者
131. コロアソンコ]	kor a sonko	の伝言を
132. アアクトノケ]	a=ak-tonoke,	わが弟君よ,
133. エヌヘキヤ]	e=nu he ki ya?”	お前は聞いたかい？」
134. イタクルエネ]	itak ruwe ne.	(と) 話した。
135. タバンベクス]	tapanpe kusu	そこで
136. イタックアンハズ]	itak=an hawe	私が言ったことは
137. アコロユピ]	“a=kor yupi	「兄さん
138. アコロサポ]	a=kor sapo	姉さんと
139. アドラワ]	a=tura wa	連れだって
140. バゴアンハズ]	paye=an hawe	行くことに
141. ネワセコロ]	ne wa.” sekor	なりますね」と
142. イタカンアワ]	itak=an awa	私が言うと
143. ウッシウニシバ]	ussiw nispa	召し使いの長は
144. ビリカソンコネ]	pirka sonko ne	よい言伝として
145. エホシピ]	ehosipi	(私の返答を持って) 戻る。
146. キロクアワ]	ki rok awa	そうすると
147. アコロユピ]	a=kor yupi	兄さんの
148. エラムカ]	eramuka-	気持ちが
149. シラビビ]	sirapipi <sup>43)</sup>	安まった
150. ネコトノ]	ne kotomno	ように
151. アエサンニヨ]	a=esanniyo	私は思った。
152. アカラワアンベ]	a=kar wa an pe <sup>44)</sup>	私は彫っていたものを
153. アイタラコツプ]	a=itarkocupu <sup>45)</sup>	ごぎで包んで
154. イヨイキリクルカ]	ioykir kurka <sup>46)</sup>	宝壇の上に
155. アエアヌカラ]	a=eanukar	置いた。

156.	バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
157.	カムイハヨクベ」 <sup>47)</sup>	kamuy hayokpe	立派な鎧を
158.	アウイナヒネ]	a=uyna hine	手に取って
159.	チキリウンブヱ]	cikir un puye	足を入れる穴に
160.	アチキリボシバレ]	a=cikirpospare	足を通し
161.	テックンブヱ]	tek un puye	手を入れる穴に
162.	アテックホシバレ」 <sup>48)</sup>	a=tekpospare	手を通す。
163.	カネボンカサ]	kane pon kasa	金の小笠を
164.	アキムイラリレ]	a=kimuyrarire <sup>49)</sup>	頭にかぶり
165.	■カサランドバップ]	kasa rantupep	笠のあご紐を
166.	アヤイコユブ]	a=yaykoyupu	ぎゅっと結び、
167.	ウオッカネクツ]	uokkanekut	金鎖のベルトを
168.	エアラサイネノ]	earsayneno	一卷きに
169.	アヤイコサイヱ]	a=yaykosaye	自分に巻き
170.	カムイランケタム]	kamuy ranke tam	神授の刀を
171.	アクツポケチウ]	a=kutpokeciw	帯に差す。
172.	アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
173.	アコロサポ]	a=kor sapo	姉さん
174.	ネワネヤクカ]	ne wa ne yak <sup>50)</sup>	も
175.	シユクカドフ]	siyuk katuhu	立派に装った姿は
176.	アオモンモモ]	a=omommomo	かくかくしかじか。
177.	アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
178.	アコロサポ]	a=kor sapo	姉さんは
179.	イネアブクスン]	ineapkusun	なんとまあ
180.	シユク■コトムマ]	siyuk kotom _wa	立派な装いが似合う
181.	シランヤカ]	siran ya ka	ことか
182.	アエラミシカリ]	a=eramiskari	聞いたこともないほどだ。
183.	ウコイメル	ukoimeru-	共に光を
184.	ドルバカネ]	turpa kane <sup>51)</sup>	放っていて
185.	ホシキノボ]	hoskinopo	私はまっさきに
186.	ソイネアックス]	soyne=an kusu	外に出るために
187.	アバテキサム]	apa teksam <sup>52)</sup>	戸のそばへ
188.	アオシキル」 <sup>53)</sup>	a=osikiru	向かって
189.	キロクアワ]	ki rok awa	行ったのだが
190.	ソモスイクスン]	somo suy kusun	よもや

191. フマシクニ]	humas kuni	そんな感じがするとは
192. アラムロクアワ]	a=ramu rok awa	思わなかったのに
193. ダンルイエシナ]	tan ruy esna	ひどいくしゃみに対して
194. アコマカ【2丁表】ネアンベ]	a=komakaneanpe-(?) <sup>54)</sup>	何だかわからないが(?)
195. タプカルカネ]	tapkar kane <sup>55)</sup>	踏舞をして
196. カンナルイノ]	kanna ruyno	再び
197. ソイネアンクス]	soyne=an kusu	外に出ようと
198. ネロクアワ]	ne rok awa	したが
199. カンナルイノ]	kanna ruyno	再び
200. ダンポロエシナ]	tan poro esna	大きなくしゃみに対して
201. アコマカネアンベ]	a=komakaneanpe-(?)	何だかわからないが(?)
202. ダブカラカネ]	tapkar kane	踏舞をすると
203. アイッケウスミ]	a=ikkewnumi <sup>56)</sup>	私の背骨が
204. チブクロト]	cipukrototo <sup>57)</sup>	ぼきんと折れた
205. セムコラチ]	semkoraci	ようになり
206. ミムタラカタ]	mimtar ka ta	私は庭に
207. ホラオチヅ]	horaociwe	倒れた
208. アキルゴネ]	a=ki ruwe ne.	のだ。
209. ダンポロヌワプ]	tan poro nuwap	大きなうめきを
210. アキロクアワ]	a=ki rok awa	あげると
211. アコロユビ]	a=kor yupi	兄さんと
212. アコロサポ]	a=kor sapo	姉さんは
213. キマテクドラ]	kimatek tura	驚きながら
214. アリキヒネ]	arki hine	やって来て
215. アベテクサム]	ape teksam	炬のそばに
216. イエ`オタンネ] <sup>58)</sup>	i=eotanne-	私を長々と
217. ドルバカネ]	turpa kane <sup>59)</sup>	横たえて
218. リ[■■■/チ]ニヌイベ]	ri cininuype	高い枕を
219. イエアヌカラ]	i=eanukar <sup>60)</sup>	私にあてがう。
220. アコロユビ] <sup>61)</sup>	a=kor yupi	兄さんは
221. ドカムイシンリツ]	tu kamuy sinrit	多くの神の根源を
222. オベンタリ]	opentari <sup>62)</sup>	明らかにして(助力を乞い)
223. アコロサポ] <sup>63)</sup>	a=kor sapo	姉さんは
224. ドベツタクサ]	tupet takusa <sup>64)</sup>	2つの細長い(?)タクサを
225. ア■■ヲライゴ]	aw oraye <sup>65)</sup>	家の中に持って入って来て

226. イクルカシケ]	i=kurkasike	私の上を
227. エシダイキ]	esitayki	叩く。
228. アナンアイネ]	an=an ayne	そうしているうちに
229. ボンノボカ]	ponno poka	少しだけ
230. サンベシドリ]	sampesituri	気分が楽に
231. アキヒクス]	a=ki hi kusu	なったので
232. アコロユビ]	“a=kor yupi,	「兄さん,
233. イクタヤン」 <sup>66)</sup>	ikutasa yan.	酒宴に行ってください。
234. アコロサポ]	a=kor sapo,	姉さん,
235. エチバゴヤッカ]	eci=paye yakka	あなたがたが行っても
236. [エチ / ビリカ]オカケタ」 <sup>67)</sup>	pirka	私はちゃんとして
237. アナン[キヤカ / アイネ]	an=an ayne	いて、やがて
238. ビリカアンヤクン]	pirka=an yakun	よくなったら
239. エチオシ]	eci=osi	あなたたちの後から
240. アルバクニブ]	arpa kuni p	行くつもり
241. アネナ]	a=ne na.”	ですよ」
242. イタカンアワ]	itak=an awa	と私が話しても
243. イホツバボカ]	i=hoppa poka	私を置いていくなんで
244. コライニウケシバ]	korayniwkkes pa <sup>68)</sup>	できそうにないようだ。
245. アナツキコロカ]	anakkikorka	けれども (兄と姉は)
246. オリバクルイバブ]	oripak ruy pa p	ひどく遠慮していたが
247. ソエンパウ]	soyenpa wa	外に出て
248. バゼルエネ]	paye ruwe ne.	出かけて行った。
249. オカケヘタ]	okakehe ta	そのあとで
250. アナンアワ]	an=an awa	私は (そのまま) いたが
251. ホンドモダ]	hontomo ta	そのうちに
252. インキコタン]	inki kotan	どこの村 (から)
253. ネナンコラ]	ne nankor _ya	なのだろうか。
254. オロワノ」 <sup>69)</sup>	oro wano	そこから
255. カムイエクム]	kamuy ek _hum	神の来る (かのような) 音が
256. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響き,
257. ドナシエクベ]	tunas ek pe	急いで来る者
258. チエソネレ]	ciesonere	とおぼしく
259. アコロアザシ]	a=kor a casi	私の山城
260. アットムンノ]	attom unno	めがけて

261. エッペ」ネコドムノ」	ek pe ne kotomno	来るように
262. アエサンニヨ」	a=esanniyo	思った。
263. ホンドモダ」	hontomo ta	そのうちに
264. ザシラシサムン」	casi ras sam un	山城の割木の柵のそばへ
265. アイヌテレケフン」	aynu terke hum	人間が跳び下りる音が
266. リンコサンバ」	rimkosanpa	ドシンと響いた。
267. メノコアイヌ」	menoko aynu	女の人
268. ネコトムノ」	ne kotomno	であるらしく
269. ダマザルセフム」	tama carse hum <sup>70)</sup>	首飾りの玉が鳴る音と
270. オロネアンベ」	oroneanpe <sup>71)</sup>	一緒に(首飾りが服と)
271. コサシナダラ」	kosasnatara <sup>72)</sup>	擦れる音がする。
272. オリバクルイベ」	oripak ruy pe	ひどく遠慮している者
273. チエソネレ」	ciesonere	とおぼしく
274. オドイワスイ」	otu iwan_ suy	何度も何度も
275. アバ」アッカリ」	apa akkari <sup>73)</sup>	戸を通り越して
276. イキロクアイネ」	iki rok ayne	いたあげく
277. ラムノカネ」	ramno kane	低く
278. アバチマカ」	apa cimaka	戸が開くと
279. コツザラツノ」	kotcawot no <sup>74)</sup>	先に
280. ドイメルクル」	tu imeru kur	多くの輝きが
281. チアヲライヅ」	ciaworaye <sup>75)</sup>	家の中へ射しこんで
282. アフワアリキ」	ahup wa arki	(女が)入って来た。
283. オリバクルイベ」 <sup>76)</sup>	oripak ruy pe	ひどく遠慮している者が
284. アバテックスム」	apa teksam	戸の脇の
285. [オ/コ]シキル」	kosikiru	ほうを向いて
286. オトブチンキ」	otop cinki	髪のを
287. エシッチウレ」	esitciwre <sup>77)</sup>	地面につけるほど
288. オカロクアイネ」	oka rok ayne	頭を下げていたあげく
289. コンラムコンナ」	konram konna	意を
290. ユッコサヌ」	yupkosanu <sup>78)</sup>	決して
291. ラチウリキクル」	raciwrikikur-	目を
292. ブンバカネ」	punpa kane <sup>79)</sup>	上げたのを
293. アヌカラヒケ」	a=nukar hike	見ると
294. イネアブクスン」	ineapkusun	なんとまあ
295. ボンメノコ」	pon menoko	若い女の

296. シレトク【2丁裏】コロワ」	siretokkor wa	器量がよい
297. シランナンコラ」	siran nankor _ya	ことだろうか
298. アエラミシカリ」	a=eramiskari	見たことがないほどだ。
299. アコロサポ」	a=kor sapo	私の姉さん
300. バテクタシ」	patek tasi <sup>80)</sup>	たったひとりだけが
301. コロシレトク」	kor siretok	その美貌は
302. ゼイフナラ」	ceyhunara <sup>81)</sup>	他に探しようもないほど
303. イキロクアワ」	iki rok awa	(美しい) と思っていたのに
304. タブエアシリ」	tap easir	今はじめて
305. アコロサポ」	a=kor sapo	姉さんに
306. エドルバクシリカ」	eturpak sirka	匹敵する容貌
307. ネナンコラ」	ne nankor _ya?	であろうか (と思えた)。
308. ダンバネバ」	tanpa ne pa <sup>82)</sup>	今年あたりに
309. シノツマチポ」	sinotnumatpo <sup>83)</sup>	遊びの胸紐を
310. ウダサレ」	utasare	取り替えた
311. バクノアンベ」	pakno an pe	くらの (年頃の) 者
312. イキコロカ」	iki korka	だが
313. ホマリタラ」	homaritara	かすかに
314. エドメッカシ」 <sup>84)</sup>	etumekkasi <sup>85)</sup>	鼻の頭に
315. ゼンクルミンドム」	wenkur mintum	卑しい人の顔つきを
316. チオレンデ」	ciorente <sup>86)</sup>	帯びている
317. ボンメノコ」	pon menoko	若い女の
318. ビリカルゴ」	pirka ruwe	美しいようすは
319. アオモンモモ」	a=omommomo	かくかくしかじか。
320. ボンメノコ」	pon menoko	若い女が
321. イタツカラハゴ」	itakkar hawe	話したことは
322. エネオカヒ」	ene oka hi	こうだ。
323. アコロアコタン」	“a=kor a kotan	「私たちの村の
324. レコルカド」	rekor katu	名前は
325. ボイソヤコダン」	Poysoya kotan	ポイソヤ村
326. ネルゴネ」	ne ruwe ne.	でございます。
327. ボイソヤウンクル」	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルには
328. ヤイリワキコロ」	yairwakikor <sup>87)</sup>	男兄弟はなく
329. シネドレシヌ」	sine turesnu	ひとりの妹を持って
330. アンルエネ」	an ruwe ne.	暮らしているのです。

331. ボイソヤウンマチ」コロ」 Poysoyaunmat kor<sup>88)</sup> (その) ボイソヤウンマツの  
 332. ボンマツウッシウ」 pon mat ussiw 召し使いの小娘が  
 333. アネワ」 a=ne wa 私で、  
 334. オカアンアワ」 oka=an awa 私たちが暮らしていると、  
 335. オロオヤチキ」 orooyaciki<sup>89)</sup> 気づいたときには  
 336. クロマトタ」 kuromato ta<sup>90)</sup> 真っ暗な夜に  
 337. アコトマリ」 a=kor\_ tomari<sup>91)</sup> 私どもの港に  
 338. イワンロクンデウ」 iwan rokuntew<sup>92)</sup> 何隻もの戦艦が  
 339. オヤンロクオカ」 oyan rok'oka 上陸していたのです。  
 340. レブンシルンクル」 Repunsirunkur レブンシルンクルが  
 341. ホシキノボ」 hoskinopo 最初に  
 342. カイデアス」 kayte anu<sup>93)</sup> 錨を投じました。  
 343. ドタヌヤンペ」 tutanu yan pe<sup>94)</sup> 次に上陸する  
 344. アドイヤウンクル」 Atuyyaunkur アトゥイヤウンクルが  
 345. カイデア[■/ッ]テ」 kayte atte<sup>95)</sup> 錨を下ろし、  
 346. ドタヌヤンペ」<sup>96)</sup> tutanu yan pe 次に上陸する  
 347. ボンモシリウンクル」 Ponmosir'unkur ポンモシルンクルが  
 348. カイデアアッテ」 kayte atte 錨を下ろし、  
 349. ドタヌヤンペ」 tutanu yan pe 次に上陸する  
 350. ノテトクンクル」 Notetokunkur ノテトクンクルが  
 351. カイデアアッテ」 kayte atte 錨を下ろし、  
 352. ドタヌヤンペ」 tutanu yan pe 次に上陸する  
 353. オマンベシウンクル」 Omanpes'unkur オマンペスンクルが  
 354. カイデアアッテ」 kayte atte 錨を下ろし、  
 355. ドタヌヤンペ」 tutanu yan pe 次に上陸する  
 356. アドイザルンクル」 Atuycarunkur アトゥイチャルンクルが  
 357. カイデアアッテ」 kayte atte 錨を下ろしました。  
 358. パクノネコロ」 pakno ne kor そうしたところ  
 359. クロマトタ」 kuroma to ta 真っ暗な夜に  
 360. ボイソヤウンマチ」 Poysoyaunmat ボイソヤウンマツに  
 361. テコシマフンカン」 tekosma humkan<sup>97)</sup> 手を出す音が  
 362. リンコサンパ」 rimkosanpa 響いたのです。  
 363. ボイソヤウンマツ」 Poysoyaunmat ボイソヤウンマツが  
 364. リミムセハヅ」 rimimse hawe 危急の叫びをあげる声は  
 365. エネオカヒ」 ene oka hi このようでした。

366.	ネコタンウンベ]	‘ne kotan un pe	『どの村のもの
367.	ネモリヒウンベ]	ne mosir un pe <sup>98)</sup>	どの国のものだから、
368.	アオアッチキリ]	a=oatcikiri	私の片足にも
369.	アハイバレブ]	a=haypare p <sup>99)</sup>	及ばないものが
370.	セタテクバシテ]	seta tek paste <sup>100)</sup>	犬のように素早く
371.	イヅカルカンナ <sup>101)</sup>	i=ekarkar_ na.	私をさらうのですよ。
372.	アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん、
373.	イカドナシカ]	i=ka tunaska <sup>102)</sup>	早く私を助けて。
374.	イキワイキブ]	iki wa iki p <sup>103)</sup>	こいつを
375.	イコライケワ]	i=korayke wa <sup>104)</sup>	殺して
376.	イコロバレヤン]	i=korpare yan’	ください]
377.	セコロカイベ]	sekor okay pe	ということを
378.	リミンセドイカ]	rimimse tuyka	危急の声をあげながら
379.	イ[タコヒネ/ゴキラベ]	‘i=ekira pe <sup>105)</sup>	『私をさらっている奴を
380.	チコタタカルラン・ <sup>106)</sup>	cikotatakar _yan’	切り刻んでください]
381.	ハワシアワ	hawas awa	と言うのが聞こえますと
382.	ポイソヤウンクル]	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルは
383.	キホブニ]	ki hopuni	跳び起きて
384.	ホッケコソンデ]	hotke kosonte <sup>107)</sup>	寝具の小袖を
385.	エオバラ]	eopara	帯をせずに着て
386.	ハンネカネ]	hamne kane <sup>108)</sup>	ひらひらさせながら
387.	ソサムオツベ]	sosam’otpe <sup>109)</sup>	壁に掛かっている刀を
388.	シコエタヱ]	sikoetaye	引っぱり出すと
389.	アイヌエキラブ]	aynu ekira p	人さらいを
390.	ケセアンバ]	kese anpa	追いかけてました (が)
391.	レブンシルンクル]	Repunsirunkur	レブンシルンクル
392.	コロロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の
393.	チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
394.	タモラウキレ]	tamorawkire <sup>110)</sup>	刀からとり逃がし
395.	アトイヤウンクル]	Atuyyaunkur	アトイヤウンクル
396.	コロロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の
397.	チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
398.	ダモラウキレ]	tamorawkire	刀からとり逃がし
399.	ボンモシリウンクル]	Ponmosir’unkur	ボンモシルンクル
400.	コロロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の

401. チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
402. タモラウキレ]	tamorawkire	刀からとり逃がし
【3丁表】		
403. ノテトクンクル]	Notetok'unkur	ノテトクンクル
404. コロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の
405. チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
406. タモラウキレ]	tamorawkire	刀からとり逃がし
407. ネイタバクノ]	ney ta pakno	どこまでも
408. マテキラッ]	mat ekira p	女さらいの
409. オカノシバ]	oka nospa	後を追いかけて
410. アシリキンネ]	asirkinne	また新たに
411. オマンベシウンクル]	Omanpes'unkur	オマンペスンクル
412. コロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の
413. チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
414. タモラウキレ]	tamorawkire	刀からとり逃がし
415. アトイザルンクル]	Atuycarunkur	アトウイチャルンクル
416. コンロクンデウ]	kor_ rokuntew	の戦艦の
417. チブシケカタ]	cipsike ka ta	船の積み荷の上で
418. タモラウキレ]	tamorawkire	刀からとり逃がしました。
419. マテキラッ]	mat ekira p	女さらいは
420. ヤイゴンヌカラベ]	yaywennukar pe	難儀しましたが
421. ボンモシリウンクル]	Ponmosir'unkur	ボンモシルンクル
422. コロクンデウ]	kor rokuntew	の戦艦の
423. チブシケカ]	cipsike ka	船の積み荷の上を
424. コイカドリ]	koykat <sup>111)</sup>	大股でまたいでいきます。
425. ネヒダエアシリ]	ne hi ta easir	そこでやっど
426. ポイソヤウンクル]	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルは
427. コルドレシ]	kor turesi	彼の妹を
428. シコエタイゾ]	sikoetay <sup>112)</sup>	取り返して
429. サノダクルカ]	sanota kurka	砂浜の上に
430. ヨロドレシ]	(kor turesi)	(彼の妹を)
431. コエヤブキリ]	koeyapkir	放り投げますと
432. マテキラッ]	mat ekira p	女さらいを
433. エタムエトコ]	etam'etoko-	太刀の先で
434. コセンナダラ]	kosennatara <sup>113)</sup>	ザッと斬り裂き

435. ボンモシリウンクル]	Ponmosir'unkur	ボンモシルンクルの
436. [ロシヌカド/チタタケヅ]	citata kewe <sup>114)</sup>	ばらばらの死体が
437. [ネロヨカ/ホラオチヅ]	horaociwe	崩れ落ちました。
438. イキンラボキ]	ikinrapoki <sup>115)</sup>	その間
439. ボイソヤウンマツ]	Poysoyaunmat	ボイソヤウンマツは
440. ■サノタクルカ]	sanota kurka	砂浜の上に
441. アコエヤブキリベ]	a=koeyapkir pe	放り投げられましたが
442. ウンチセタ]	uncise ta	家に
443. アルバヒネ]	arpa hine	戻って
444. ハヨクルヅネ] <sup>116)</sup>	hayok ruwe ne.	武装したのです。
445. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
446. デクンアカム]	tek un akam <sup>117)</sup>	手にはめるアカム
447. ザルセアカム]	carse akam <sup>118)</sup>	紐付きのアカム (の紐) を
448. デコロサイヅ]	tek or saye <sup>119)</sup>	手に巻きつけ
449. ウブソロエカッタ]	upsor ekatta	(アカム)を懐に突っ込み
450. ビスンサノタ]	pisun sanota	浜の砂浜へ
451. チオサンケ]	ciosanke	出ました。
452. イワンロクンデウ]	iwan rokuntew	何隻もの戦艦の
453. クルカシケ]	kurkasike	上に
454. エシコマレ]	esikomare <sup>120)</sup>	目を注ぎ
455. ニズンチニカ]	niwen cinika <sup>121)</sup>	猛々しい足踏みを
456. コドリカラ]	koturikar	踏み出すと
457. ウッソロワ]	upsor wa	懐から
458. ザルセアカム]	carse akam	紐付きのアカムを
459. サナサッテ]	sanasapte	出して
460. エヤイタッスカ]	eyaytapsutka-	自ら肩を
461. リテリテ]	riterite <sup>122)</sup>	回します。
462. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
463. オアッニヒ] <sup>123)</sup>	oatcinihi	片足を
464. サタアシ]	sa ta asi	手前に立て
465. オアッニヒ]	oatcinihi	片足を
466. マッタアシ]	mak ta asi	奥に立て
467. ザルセアカム]	carse akam	紐付きのアカムを
468. イワンロクンデウ]	iwan rokuntew	何隻もの戦艦へ
469. エコニスイヅ]	ekonisuye <sup>124)</sup>	投げました。

- |                              |                               |                |
|------------------------------|-------------------------------|----------------|
| 470. カヤニキタイ]                 | kayani kitay                  | 帆柱のてっぺん        |
| 471. シネイキンネ]                 | sine ikinne <sup>125)</sup>   | すべてに           |
| 472. アッコノイヱ]                 | at konoye <sup>126)</sup>     | (アカム)の紐がからみつき、 |
| 473. アツ[ヲ/サ]ルケセ]             | at sarkese <sup>127)</sup>    | 紐の端を           |
| 474. ボイソヤウンマチ]               | Poysoyaunmat                  | ポイソヤウンマツは      |
| 475. テッコノイヱ] <sup>128)</sup> | tekkonoye <sup>129)</sup>     | 手にまきつけて        |
| 476. コヤイオトイドン]               | koyay'otoytum-                | 力を振り           |
| 477. アンバカネ]                  | anpa kane <sup>130)</sup>     | しぼって           |
| 478. ネラボキ]                   | ne rapoki                     | そうしている間に       |
| 479. ボイソヤウンクル]               | Poysoyaunkur                  | ポイソヤウンクル (という) |
| 480. ハヨクサクニシバ]               | hayok sak nispa               | 鎧のない勇士は        |
| 481. ロクンデウ]                  | rokuntew                      | 戦艦の            |
| 482. ウッソロ] エタamani]          | upsor etamani                 | 中で刀で戦っていました。   |
| 483. ドカムイライフム]               | tu kamuy ray hum              | 多くの神の死ぬ音が      |
| 484. ウヲフンタクル]                | uohumtakur-                   | ひとつに合わさって      |
| 485. プツテカネ]                  | pukte kane <sup>131)</sup>    | 相和して           |
| 486. ダンカムイマフ]                | tan kamuy maw <sup>132)</sup> | 神風が            |
| 487. コフムマチキ]                 | kohumumatki <sup>133)</sup>   | 轟々と響き          |
| 488. アドイソクルカ]                | atuy so kurka                 | 海の上で           |
| 489. ゴンベウブン]                 | wen peupun <sup>134)</sup>    | 激しい水しぶきが       |
| 490. ウコホブニ]                  | ukohopuni <sup>135)</sup>     | 巻き起こりました。      |
| 491. ネヒコラチ]                  | ne hi koraci <sup>136)</sup>  | それにつれて         |
| 492. イワンロクンデウ]               | iwan rokuntew                 | 何隻もの戦艦は        |
| 493. アウトムエキク]                | a=utom'ekik <sup>137)</sup>   | 胴体同士でぶつかり合い    |
| 494. シンナトイネ]                 | sinnatoyne <sup>138)</sup>    | ばらばらになって       |
| 495. オロネアンベ]                 | oroneanpe                     | (その音が) 一挙に     |
| 496. ケウシタラ]                  | keusitara <sup>139)</sup>     | 鳴り響きます。        |
| 497. ネイタバクノ]                 | ney ta pakno                  | いつまでも          |
| 498. ボイソヤウンマチ]               | Poysoyaunmat                  | ポイソヤウンマツが      |
| 499. アツサラケシダ]                | at sarkes ta                  | 紐の端で           |
| 500. コムケカネ]                  | komke kane <sup>140)</sup>    | (体を) 曲げて       |
| 501. キロクアイネ]                 | ki rok ayne                   | (船を) 引っ張ったあげく  |
| <b>【3 丁裏】</b>                |                               |                |
| 502. イワンロクンデウ]               | iwan rokuntew                 | 何隻もの戦艦は        |
| 503. サノダクルカ]                 | sanota kurka                  | 砂浜の上に          |

504. コネシリ]	kone siri	粉々になった姿で
505. アコヤンケカラ]	a=koyankekar <sup>141)</sup>	陸上げされました。
506. バクノネコロ] <sup>142)</sup>	pakno ne kor	そうして
507. ベツドラシ]	pet turasi	川に沿って上手へ
508. タバンロロンベ]	tapan rorunpe	この戦争は
509. アモイレルド]	a=moyrerutu <sup>143)</sup>	ゆっくり押しずらされ
510. アコロサボ]	a=kor sapo <sup>144)</sup>	お姉さまの
511. テッサモロケ]	teksam orke	すぐそばで
512. アエタマニ]	a=etamani	私は刀で戦いました。
513. キロクアワ]	ki rok awa	そうしていますと
514. ボイソヤウンマチ]	Poysoyaunmat	ボイソヤウンマツ
515. アコロサボ]	a=kor sapo	姉さまは
516. エネイタクヒ]	ene itak hi	こう言いました。
517. エアニアナク]	'eani anak	『あなたは
518. ソモイカスイノ]	somo ikasuy no	手伝わないで
519. ドミサンベツ]	Tomisanpet	トミサンベツ
520. シスタブカタ]	Sinutapka ta	シスタツカの
521. カムイユッポ]	kamuy yuppo <sup>145)</sup>	立派な兄さんに
522. コアスラニ]	koasurani.'	危急を知らせて]
523. アコロサボ]	a=kor sapo	(と) お姉さまが
524. イユテクワ]	i=utek wa <sup>146)</sup>	私を思い出してするので
525. エクアンコロカ]	ek=an korka	私は来たのですが
526. ソネウサ]	sone usa	本当に (シスタツカの)
527. コタンエベカ]	kotan epeka <sup>147)</sup>	村に正しくたどり
528. アキヘキヤ]	a=ki he ki ya?"	着けたのでしょうか]
529. イタクルエネ]	itak ruwe ne.	(と) 話したのだ。
530. イヌネワ]	inu ne wa	私は聞いて
531. アキブネコロカ]	a=ki p ne korka	いた (だけだ) けれど
532. アネケフイケ]	a=neykehuyke <sup>148)</sup>	どこが
533. アラカアワ]	arka a wa	痛かったと
534. フマシナンコラ]	humas nankor _ya?	いふのだろうか。
535. アム■ソカタ]	amso ka ta	(痛みも忘れ) 床の上で
536. アキホブニ]	a=ki hopuni	私は立ち上がり
537. ボンメノコ] <sup>149)</sup>	pon menoko	若い女のほうに
538. ニズンチニカ]	niwen cinika	猛々しい足踏みを

539. アコドリカル]	a=koturikar	踏み出した
540. キロクアワ]	ki rok awa	ところ
541. オヨヨドラ]	oyoyo tura <sup>150)</sup>	(女は) 驚きの叫びと共に
542. アバノシキ]	apa noski	戸口の真ん中に
543. バゴオツケ]	paweotke <sup>151)</sup>	頭から飛び込んだ。
544. シキリバヒタ]	sikirpa hi ta	(彼女が) 身を翻したときに
545. セドルカシケ]	seturu kasike	その背に
546. アイイラリレ]	a=yayrarire <sup>152)</sup>	私はピッタリくっついて
547. チマカアバ]	cimaka apa	開いている戸
548. アバノシキ]	apa noski	戸口の真ん中に
549. アバエオツケ]	a=paeotke <sup>153)</sup>	頭から飛び込んだ。
550. ビスンキロル]	pisun kiroru	浜手の立派な道
551. キロルホントムダ]	kiroru hontom ta	立派な道の途中で
552. アオシコニ]	a=osikoni	私は (女を) つかまえると
553. アエシカリ]	a=esikari	(彼女を) つかんで
554. アエシヤルボク]	a=esiyarpok-	小脇に
555. アンバカネ]	anpa kane	抱えて
556. サノタカタ]	sanota ka ta	砂浜の上に
557. アルッコサンバ]	a=rutkosanpa <sup>154)</sup>	さっと飛び出ると
558. カイベクルボク]	kaype kurpok	波がしらの下に
559. アバゴオツケ]	a=paweotke	頭から飛び込んだ。
560. バゼルイゼブルプ]	paye ruy cep rup	激しく泳ぐ魚の群
561. ゼブルプバケ]	cep rup pake	魚の群の先頭を
562. アエホユプ]	a=ehoyupu	私が走ると
563. カネボンカサ]	kane pon kasa	金の小笠
564. カサケブサマ]	kasa kepsama <sup>155)</sup>	笠の端に
565. チウカルフミ]	ciw kar humi <sup>156)</sup>	波のあたる音が
566. オロネアンベ]	oroneanpe	一斉に
567. コセベバッキ]	kosepepatki <sup>157)</sup>	パラパラと鳴る。
568. ホンメノコ] <sup>158)</sup>	pon menoko	若い女は
569. アテムニコッタ] <sup>159)</sup>	a=temnikor_ ta	私の腕の中で
570. ホバゴバイゴ]	hopayepaye	足をばたつかせてもがく
571. アナッキコロカ]	anakkikorka	けれども
572. アユツケキシマ]	a=yupkekisma	私が (女を) きつく掴んで
573. アルバアンアイネ]	arpa=an ayne	行ったあげくに

574. サノタクルカ]	sanota kurka	砂浜の上に
575. アコゼ[子チウ/ヤオツケ]	a=koceyaotke <sup>160)</sup>	乗り上げた。
576. インカルアンアワ]	inkar=an awa	見ると
577. ボンメノコ]	pon menoko	若い女の
578. シキクルカシ]	siki kurkasi <sup>161)</sup>	目は
579. ケムリツオマ]	kemrit oma	血走り
580. レタルシキヌミ]	retarsiknumi <sup>162)</sup>	白目を
581. イヅサンケ]	i=esanke <sup>163)</sup>	むき出している。
582. サノダクルカ]	sanota kurka	砂浜の上に
583. アコエヤブキリ]	a=koeyapkir	私は(女を)投げた。
584. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
585. インカルアンルエ]	inkar=an ruwe	見たものは
586. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
587. ソンノボカ]	sonno poka	本当に
588. イワンロクンデウ]	iwan rokuntew	何隻もの戦艦が
589. コネシリ]	kone siri	粉々になった姿で
590. サノタクルカ]	sanota kurka	砂浜の上に
591. アエザリカル]	a=ecarikar	撒き散らされていた。
592. ベツドラシ]	pet turasi	川に沿って上手へ
593. タバンロルンベ]	tapan rorunpe	この戦争の
594. アルバルヅ]	arpa ruwe	通った跡が
595. コマクナダラ]	komaknatara	広がっている。
596. イネアブクスン]	ineapkusun	なんとまあ
597. ボイソヤウンクル]	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルが
598. トレシドラノ]	turesi turano	妹とともに
599. シザラバルヅ] <sup>164)</sup>	sicarpa ruwe	奮闘した跡
600. シモイバルヅ]	simoypa ruwe	働いた跡が
601. オカナンコラ]	oka nankor_ ya?	あることだろう。
602. ロルンベソカ]	rorunpe so ka	戦場の上に
603. ドアイヌノケウ]	tu aynu nokew <sup>165)</sup>	多くの人間の死体
604. レアイヌノケウ]	re aynu nokew	数多の人間の死体が
605. アエザリカル]	a=ecarikar	撒き散らされている。
606. ベツトラシ]	pet turasi	川に沿って上手へと
607. ドミル【4丁表】クルカ]	tumi ru kurka	戦いの跡の上を
608. アエホブニ]	a=ehopuni <sup>166)</sup>	私は飛んでいく。

609.	ホユブネワ]	hoyupu ne wa	走ったり
610.	テルケネワ]	terke ne wa	跳んだり
611.	アキッネコロカ]	a=ki p ne korka	したのだが
612.	アケウドムコンナ]	a=kewtumkonna	私の心は
613.	ドルシタラ]	turusitara <sup>167)</sup>	狂ったようになり
614.	イドレンカムイ]	i=turen kamuy	私の憑き神は
615.	イエンカシケ]	i=enkasike	私の上空で
616.	コフムエブシ]	kohum'epus <sup>168)</sup>	音を立てる。
617.	タンカムイマウ]	tan kamuy maw	神風の
618.	ランフムコンナ]	ran hum konna	吹き下りる音が
619.	コドリミムセ]	koturimimse	鳴り響き
620.	カムイマウシリカ]	kamuy maw sirka	私が神風の上に (乗って)
621.	アエホユブ]	a=ehoyupu	疾走して
622.	アルバアンアイネ]	arpa=an ayne	行くうちに
623.	ベツルトムン]	petru tom un	川筋の中ほどから
624.	オドオトンリン]	otu otonrim <sup>169)</sup>	何度も轟音が
625.	オドクカネ]	otuk kane <sup>170)</sup>	轟々と響いて
626.	イヌアンヒケ]	inu=an hike	聞こえていたが
627.	ネコンネワ]	nekon ne wa	どうして
628.	フマシナンコラ]	humas nankor _ya?	音がしているのだろうか。
629.	ロルンベフミ]	rorunpe humi	戦争の音が
630.	ドウトロルケ]	tu utur orke <sup>171)</sup>	時々
631.	コトンデクトンデク] <sup>172)</sup>	kotuntektuntek <sup>173)</sup>	何度も大きく響く。
632.	ネコンネフミ]	nekon ne humi	どうしたこと
633.	ネナンコラ]	ne nankor _ya	なのか
634.	アエラミシカリ]	a=eramiskari	わからない。
635.	アルバアンルエ]	arpa=an ruwe	私が行くのは
636.	ベツラントモ]	pet rantomo <sup>174)</sup>	川の中流に
637.	ロルンベウラル]	rorunpe urar	戦争のもやが
638.	プタウンニシネ]	puta un nis ne	蓋つきの雲となって
639.	エブタカム]	eputakamu <sup>175)</sup>	かぶさっている (ところで)
640.	ク[𛄁/ツ]ドムフ]	kuttumuhu <sup>176)</sup>	その中に
641.	アバゴオツケ]	a=paetoke	私が頭から飛び込むと
642.	インカラアンルエ]	inkar=an ruwe	見えたのは
643.	エネオカヒ]	ene oka hi	こうだ。

644. ボイソヤウンマチ」	Poysoyaunmat	ポイソヤウンマツは
645. ミハヨクベ」	mi hayokpe	着ている鎧の
646. ヘルベンラム」	heru penramu	ただ胸（の部分）ばかりを
647. テケオクテ」	tekeokte <sup>177)</sup>	手で押さえ
648. コロユビヒ」	kor yupihi	彼女の兄さんは
649. ハリキサナム」	harkisam _wa <sup>178)</sup>	左で（彼女を）
650. エシヤルボク」	esiyarpok-	小脇に
651. アンバカネ」	anpa kane <sup>179)</sup>	抱えて（いたが）
652. タネアナクネ」	tane anakne	今は（彼らは）
653. ロルンバウドル」	rorunpe utur	戦いの中で
654. コモンラチチ」	komonracici <sup>180)</sup>	手をだらりと下げ
655. コテクラチチ」	kotekracici	手をぶらさげ
656. ドワンオブサキリ」	tuwan op sakir <sup>181)</sup>	（敵の）何十の槍に
657. アエニヌコロ」	a=eninu kor <sup>182)</sup>	貫かれながら
658. オベシザリ」	op esicari	槍で奮闘し
659. タメシザリ」	tam esicari	刀で奮闘して
660. ドワンヌミキリ」	tuwan numikiri	何十の群衆を
661. ウカエドヅ」	ukaetuye <sup>183)</sup>	切りまくる。
662. タパンベクス」 <sup>184)</sup>	tapanpe kusu	このために
663. ロルンベクルカ」	rorunpe kurka <sup>185)</sup>	戦場では
664. コトンテクカド」	kotuntek katu <sup>186)</sup>	大きな音がしたの
665. ネロクオカ」	ne rok'oka.	であったか。
666. イホマケウドム」	ihoma kewtum	（兄妹に）可哀相な気持ち
667. イケンス」ケウドム」	ikemnu kewtum	憐れむ気持ちを
668. アヤイコロバレ」	a=yaykorpore	私は抱いた。
669. インカランヒケ」	inkar=an hike	見ていると
670. タネアナクネ」	tane anakne	今は
671. ヘルクワンノ」	herukuwanno <sup>187)</sup>	ただ
672. イモヌシバレ」	i=monuspare <sup>188)</sup>	私の腕の見せどころ
673. ネコトムノ」	ne kotomno	であるように
674. アエサンニヨ」	a=esanniyo	思われた。
675. タパンベクス」	tapanpe kusu	そこで
676. ボイソヤウンマチ」	Poysoyaunmat	ポイソヤウンマツと
677. ボイソヤウンクル」	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルとを
678. アエウコダマ」	a=eukotama <sup>189)</sup>	いっしょにして

679. ドブネレブネ]	tup ne rep ne	バラバラに
680. アドイバヒネ]	a=tuypa hine <sup>190)</sup>	私は切って
681. アオイタクコテ]	a=oytakkote <sup>191)</sup>	言葉を添えて
682. インカラクス]	“inkar kusu	「さてさて
683. アコラシンリツ]	a=kor a sinrit	私の一族が
684. ノミカムイ]	nomi kamuy,	祀っている神よ,
685. ボイソヤウンクル]	Poysoyaunkur	ポイソヤウンクルを
686. ドレシトラノ]	turesi turano	妹ともども
687. シキヌレワ]	siknure wa <sup>192)</sup>	生きかえらせて
688. イコロバレヤン]	i=korpare yan.”	ください]
689. イタカンキコロ]	itak=an ki kor	(と) 言いながら
690. カンドコトル]	kanto kotor	(兄妹の死体を) 天空に
691. アエコニスイヅ]	a=ekonisuye	ぶん投げた
692. キロクアワ]	ki rok awa	ところ
693. ソンノボカ]	sonno poka	本当に (兄妹が)
694. シクスカムイネ]	siknu kamuy ne	生き返る死霊として
695. バイヅフンコンナ]	paye hum konna	飛んで行く音が
696. コドリミンセ]	koturimimse	鳴り響いた。
697. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
698. ドミソクルカ]	tumi so kurka	戦場に
699. アコダムエダイヅ]	a=kotam’etaye	向かって私は刀を抜き
700. アハンケドヅブ]	a=hanketuye p	近く切るものは
701. アエヤイテムニコロ]	a=eyaytemnikor-	両腕の間に
702. オケウドイヅ]	okewtuye <sup>193)</sup>	斬って
703. アドイマドイヅブ]	a=tuymatuye p	遠く切るものは
704. アコウサベンゾロ]	a=kowsapencor-	体を
705. キルカネ]	kiru kane	ひねって (斬ると)
706. オブコロヌミ]	op kor numi	槍を持つ列は
707. シンナカネ]	sinna kane	それぞれに
708. くコロヌミ]	ku kor numi	弓を持つ列は
709. シンナカネ]	sinna kane	それぞれに,
710. オブコロヌミ]	op kor numi	槍を持つ列が
711. エアネヌムネ]	eane num ne <sup>194)</sup>	先に立って
712. イコヤイサナ]	i=koyaysana-	私の前へ
713. サブテカネ]	sapte kane <sup>195)</sup>	進み出てくると

【4丁裏】

714. アオブコタタ]	a=opkotata	私は槍と共に切り刻む。
715. クコロヌミ]	ku kor numi	弓を持つ列は
716. クヌムカタ]	kunum ka ta <sup>196)</sup>	弓柄の上で (矢が)
717. コザウザワッキ]	kocawcawatki <sup>197)</sup>	空気を裂く音を立てる。
718. ドナシエクアイ]	tunas ek ay <sup>198)</sup>	早く来る矢は
719. ヌムシカウカウネ]	numus kawkaw ne	大粒のあられのように
720. アイコドナシ]	a=i=kotunas-	私に向かってすばやく
721. ランケカネ]	ranke kane <sup>199)</sup>	落ちてきて
722. ドイマエクアイ]	tuyma ek ay	遠く来る矢は
723. コヌスバシネ]	konus upas ne <sup>200)</sup>	綿雪のように
724. アイコドイマ]	a=i=kotuyma-	私に向かって遠く
725. ランケカネ]	ranke kane <sup>201)</sup>	落ちてきて
726. アイウドル]	ay utur	矢の間
727. オブウドル]	op utur	槍の間を
728. アエシネネ]	a=esinene <sup>202)</sup>	私は避ける。
729. イヱハイタバ]	i=ehayta pe <sup>203)</sup>	私を討ち損じたもの
730. オハオカワ] <sup>204)</sup>	ohaoka wa <sup>205)</sup>	同士で
731. ウオブコラルバ]	uopkorarpa	互いに槍を立て合って
732. ウアイコラルバ]	uaykorarpa <sup>206)</sup>	互いに矢を立て合って
733. ウアシシハウコ]	uasis haw ko <sup>207)</sup>	罵り合う声で
734. ベブニタラ]	pepunitara <sup>208)</sup>	大騒ぎだ。
735. エネアライケブ]	ene a=rayke p	こうして殺しても
736. エネアダイヅブ]	ene a=tuye p	こうして切っても
737. ネイタバクノ]	ney ta pakno	いつまでも
738. オラケカド]	orake katu <sup>209)</sup>	減る様子は
739. オアラリサン]	oararisam	まったくなく
740. ネイタバクノ]	ney ta pakno	いつまでも
741. キキリサイ] バツゼ]	kikir say patce	虫の群れが飛び散り
742. キキリサイムルセ]	kikir say murse <sup>210)</sup>	虫の群れがむらがる
743. エカンナユカル]	ekannayukar	かのような。
744. シンラボキ]	sir_ rapoki <sup>211)</sup>	そのとき
745. シアシカムイマウ]	siaskamuymaw <sup>212)</sup>	激しい神風が
746. ロルンベソカ]	rorunpe so ka	戦場の上に
747. エランフンコンナ]	eran hum konna	吹き下りる音が

748. コドリミンセ]	koturimimse	鳴り響く。(すると)
749. モシリカウシベ]	mosir ka us pe <sup>213)</sup>	地の上に生えている
750. シリコロカムイ]	sirkorkamuy	樹木の神が
751. モサシリクルカ] <sup>214)</sup>	mosir kurka	国土の上に
752. ドベノヤネ]	tu pe noya ne <sup>215)</sup>	何十ものヨモギのように
753. コヘビタツバ]	kohepitatpa <sup>216)</sup>	ぱっと舞い上がり
754. カイルスイベ]	kay rusuy pe	折れたいものは
755. スットモロケ]	suptom orke	幹の中ほどで
756. チコエケッケ]	cikoekekke	折れ砕け
757. カイコバンベ]	kay kopan pe	折れたくないものは
758. シンリツカタ]	sinrit ka ta	根元から
759. コオベンタルバ]	koopentarpa <sup>217)</sup>	掘り起こされた。
760. エムコクス]	emkokusu	そのために
761. ドミソクルカ] <sup>218)</sup>	tumi so kurka	戦場の上を
762. ニカイルクム]	ni kay rukum	木の折れた破片や
763. ゴントヒラ]	wen toyra <sup>219)</sup>	ひどい土ほこりが
764. チカッボサイネ]	cikappo say ne	小鳥の群のように
765. ロルンベソカ]	rorunpe so ka	戦場の上を
766. エウゴホブニ]	ewehopuni <sup>220)</sup>	飛んで行っては
767. ヘトボホルカ]	hetopo horka <sup>221)</sup>	逆に(吹き戻されて)
768. ロルンベソカ]	rorunpe so ka	戦場の上に
769. イチウオブクンネ]	iciw op kunne <sup>222)</sup>	投げ槍のように
770. ヤブキリニネ]	yapkir ni ne	投げ木のように
771. ドムンチソカ]	tumunci so ka	戦場の上に
772. エラブフンコンナ]	erap hum konna	降る音が
773. コシウシワッキ]	kosiwsiwatki <sup>223)</sup>	うなりをあげる。
774. エムコクス]	emkokusu	そのために
775. ニエライベ]	ni eray pe	木によって死んだものは
776. シンナカネ]	sinna kane <sup>224)</sup>	一団となって(いる。)
777. ネイタバクノ]	ney ta pakno	いつまでも
778. ベウレフムセ]	pewre humse <sup>225)</sup>	若いおたけびで
779. アエヤイラ[≠/ム]コトル]	a=eyayramkotor-	私は心を
780. メウバカネ]	mewpa kane <sup>226)</sup>	奮い立たせると
781. アユッケスイズブ]	a=yupkesuye p	私が激しく振った刀は
782. ラヨチレウネ]	rayoci rew ne	虹の弧のように

783. ドワンヌミキリ]	tuwan num ikir	何十もの群衆を
784. アエカンドヅ]	a=ekantuye <sup>227)</sup>	片端から切って
785. アエカンザリ]	a=ekancari	片端から散らし
786. ハリキサンマ]	harkisam _wa <sup>228)</sup>	左で
787. アモン[タルカシ/カコンナ]	a=monkakonna <sup>229)</sup>	私が振るう腕は
788. コシウシワッキ]	kosiwsiwatki	うなりをあげた。
789. アノキクカルベ]	a=nokikkar pe <sup>230)</sup>	強く叩いたものは
790. ライゼブドルセ]	raycep turse <sup>231)</sup>	死骸が落ちる (ようで)
791. アゼンキツカラベ]	a=wenkikkar pe	激しく叩いたものは
792. ゼブテシテケ]	cep testeske <sup>232)</sup>	魚がバタバタする
793. エカンナユカラ]	ekannayukar	かのような。
794. アノオテルケブ]	a=nooterke p	強く踏んづけたものは
795. ライゼブドルセ]	raycep turse	死骸が落ちる (ようで)
796. アゼンオテルケブ]	a=wen'oterke p	激しく踏んづけたものは
797. ゼブテシテシケ]	cep testeske	魚がバタバタする
798. エカンナユカル] <sup>233)</sup>	ekannayukar	かのような。
799. イヌアンヒケ]	inu=an hike	聞こえてきたのは
800. カムイロルンベ]	kamuy rorunpe <sup>234)</sup>	神 (同士) の戦い
801. ネワネヤッカ]	ne wa ne yakka	であって, それもまた
802. ユッケコトム]	yupke kotom	激しそうな
803. フマシフミ]	humas humi	音がして
804. イドレンカムイ]	i=turen kamuy	私の憑き神と
805. アヌンドレンベ]	anun turen pe <sup>235)</sup>	よそ者の憑き神が
806. ウフムコライズ]	uhumkoraye <sup>236)</sup>	音と共に離れて行ったり
807. ウフムコユブ]	uhumkoyupu <sup>237)</sup>	音と共に距離を縮めたりし,
808. アヌンドレンベ]	anun turen pe	よそ者の憑き神は
809. アランスタラ]	arannutara <sup>238)</sup>	完全に打ち負かされて
【5丁表】		
810. レブンクルモシリ]	repunkur mosir	レブンクルの国へ
811. アエオホルカクル]	a=eohorkakur <sup>239)</sup>	敗走
812. バシテコトム]	paste kotom	させられたかのような
813. フマシカネ]	humas kane	音がした
814. ホンドモタ]	(hontomo ta)	(その途中で)
815. ヤクアラム]	yak a=ramu	と思った。
816. ホンドモタ]	hontomo ta	その途中で

817. レブンクル」	repunkur	レブンクルの
818. ドレンベ」	turen pe	憑き神が
819. フムリキクル」	humrikikur-	音を高々と
820. ブンバキコロ」	punpa ki kor <sup>240)</sup>	上げると
821. イドレンカムイ」	i=turen kamuy	私の憑き神は
822. ヤウンクルモシ[■/リ]	yaunkur mosir <sup>241)</sup>	ヤウンクルの国へ
823. アエオホルカ」	a=eohorka-	敗走
824. バシデコドム」	paste kotom	させられたかのように
825. サウレカネ」	sawre kane <sup>242)</sup>	弱まって
826. カムイロルンベ」	kamuy rorunpe	神(同士)の戦争は
827. ユッケコトム」	yupke kotom	激しいように
828. アエサンニヨ」	a=esanniyo	思われた。
829. タネアナクネ」	tane anakne	今は
830. イランビシキレ」	irampiskire <sup>243)</sup>	日にちを数えた
831. アキヒケ」 <sup>244)</sup>	a=ki hike	ところ
832. ドカブレルコ」	tokap rerko <sup>245)</sup>	昼の日数は
833. ノイワンレルコ」	noiwan rerko	幾日も
834. クンネレルコ」	kunne rerko	夜の日数は
835. ノイワンレルコ」	noiwan rerko	幾晩も
836. ドミコロバテク」	tumikor patek	戦争ばかり
837. アキロクアイネ」	a=ki rok ayne	したあげく
838. タネアナクネ」	tane anakne	今となっては
839. モヨウタリ」	moyo utari	わずかな人々(だけ)が
840. チシドリレ」	cisiturire <sup>246)</sup>	立ち並ぶ。
841. アハンケノシバ」	a=hankenospa	私は近く追いかけて
842. アドイマ」ノシバ」	a=tuymanospa	遠く追いかけて
843. アロンヌアイネ」	a=ronnu ayne	殺したあげく
844. セタウイキリ」	seta kikir <sup>247)</sup>	犬につく虫(までも)
845. ウア■スルアシテ」	uasuruaste	罍を立てる(もの)を
846. アエケシケカル」	a=ekeskekar <sup>248)</sup>	殺しつくした。
847. タネアナクネ」	tane anakne	今や
848. ロルンベ」ニシクル」	rorunpe niskur	戦争の雲が
849. ヘザカルヱ」	hecaka ruwe	晴れる様子は
850. ドイマモシリ」	tuyma mosir	遠い国の
851. ルヤンベニシネ」	ruyanpe nis ne	雨雲となり

852.	コニセバラ]	konisepar-	ばらばらにちぎれ
853.	サンケカネ]	sanke kane <sup>249)</sup>	失せて (しまった。)
854.	バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
855.	アムサマン [■/ニ]	amsamamni <sup>250)</sup>	平らかな倒れ木の
856.	クルカシケ]	kurkasike	上に
857.	アエオソルク]	a=eosorkur-	私が腰を
858.	チウレカネ]	ciwre kane <sup>251)</sup>	下ろして
859.	ヤイシニレ] アキワ]	yaysinire a=ki wa	休んで
860.	インカルアンヒケ]	inkar=an hike	見たところ
861.	ボイソヤコタン] <sup>252)</sup>	Poysoya kotan	ボイソヤ村の
862.	ベテトコホ]	petetokoho	川上に (ある)
863.	カムイヌプリ]	kamuy nupuri	立派な山
864.	ヌプリカタ]	nupuri ka ta	山の上に
865.	ザシアシルゴ]	casi as ruwe	山城が建っている
866.	ネアベコロ]	ne apekor	かのように
867.	インカルアンヒケ]	inkar=an hike	見えたのだが
868.	■ドカリケへ]	“tukarikehe	「その手前で
869.	エエホシビ]	e=ehosipi <sup>253)</sup>	お前は帰る
870.	キヘキヤ]	ki he ki ya?”	のか?」
871.	ヤイヌアックス]	yaynu=an kusu	と思ったので
872.	アテクリキクル]	a=tekrikikur-	手を高く
873.	ブンバカネ]	punpa kane <sup>254)</sup>	かかげながら
874.	イタカンハゴ]	itak=an hawe	私が話したことは
875.	エネオカヒ]	ene oka hi	こうだ。
876.	ネッカムイナム]	“nep kamuy nam <sup>255)</sup>	「何の神が
877.	イドレンキヤ]	i=turen ki ya?	私に憑いているのですか。
878.	ニシバロクル]	nispa rok ru <sup>256)</sup>	私は勇士の住むところへ
879.	コシサノンカル]	kosisanonkar <sup>257)</sup>	様子を見に行つて
880.	アキルスイナ]	a=ki rusuy na.	みたいのですよ。
881.	チコフムモレ]	cikohummore <sup>258)</sup>	どうぞ音を静めて
882.	イコロバレヤン]	i=korpora yan.”	くださいませ」
883.	イタカンアワ]	itak=an awa	(と) 言う
884.	イドレンカムイ]	i=turen kamuy	私の憑き神は
885.	ドイマモシリ]	tuyma mosir	遠い国に向かって
886.	コフムテルケレ]	kohumterkere <sup>259)</sup>	音を立てて去って行く。

887. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうして
888. オニシサクレラ]	onissak rera <sup>260)</sup>	私は雲なしの風
889. マフシリカシ <sup>261)</sup>	maw sirkasi	風の上に(乗って)
890. アエホブニ]	a=ehopuni	飛び立ち
891. ベテトクネヒ]	petetok ne hi	川上に
892. アコイカドリ]	a=koykaturi <sup>262)</sup>	急いで
893. アルバアンルズ]	arpa=an ruwe	行くと,
894. ソンノボカ]	sonno poka	思ったとおり
895. ザシアシルズ]	casi as ruwe	山城が建っている様子は
896. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
897. トンドザシ]	tonto casi	皮の山城
898. ブタウンザシ]	puta un casi <sup>263)</sup>	蓋つきの山城は
899. アバウンクニ]	apa un kuni <sup>264)</sup>	入り口のあるところ
900. プヤルン【5丁裏】クニ]	puyar un kuni	窓のあるところが
901. アエランベウテク]	a=erampewtek	(どこなのか) わからない
902. シランヒケ]	siran hike	様子だが
903. ■カバットイボ]	kapar_ toypo	薄い土を
904. アヤイカクシデ]	a=yaykakuste <sup>265)</sup>	自分の上にかけて
905. イカツカラ] シノッザ]	ikatkar sinotca <sup>266)</sup>	恋歌を
906. アエラフンクチ <sup>267)</sup>	a=eraunkuci-	喉の奥から
907. オイナカネ]	oyna kane <sup>268)</sup>	謡って
908. アナンアイネ]	an=an ayne	いるうちに
909. アレクシコンナ]	arekusonna	まったく突然
910. トンドザシ]	tonto casi	皮の山城の
911. スットモホ]	suptomoho	中ほどが
912. シマカヒネヒ]	simaka hi ne hi <sup>269)</sup>	開いて
913. アイヌソイネワ]	aynu soyne wa	人間が外に出て(きたのを)
914. アヌカラルズ]	a=nukar ruwe	見ると
915. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
916. イナンベナンネ]	inanpe namne <sup>270)</sup>	何と素晴らしい
917. ボンメノコ]	pon menoko	若い女が
918. オカナンコラ]	oka nankor _ya?	いるのだろうか。
919. ナンニベキ]	nan nipeki	顔の光は
920. スクシトイクンネ]	sukustoy kunne <sup>271)</sup>	真昼の明るい光のように
921. イエヌツァキ]	ienucupki-	まばゆい光が

922. チウレカネ」	ciwre kane <sup>272)</sup>	さして
923. カムイ」イボロ■」	kamuy ipor	立派な顔つきの
924. エイボロドイマ」	eyportumma <sup>273)</sup>	顔つきからして
925. シンナカネ」	sinna kane	(ほかの人とは) 別格で
926. タンバナネバ」	tanpa ne pa	今年あたりに
927. シノツスマツボ」	sinot numatpo	遊びの胸紐を
928. エリコマレ」	erikomare	高くあげる
929. バクノアンベ」	pakno an pe	くらの(年頃の)ものが
930. ソイエンバヒネ」	soyenpa hine	外に出て
931. テッカキボ」	tekkakipo <sup>274)</sup>	手びさしを
932. リッイルケ」 <sup>275)</sup>	rikuyruke	高く上げて
933. エネイタクヒ」	ene itak hi	こう話した。
934. ネコンネハヅ」	“nekon ne hawe	「何の声
935. シノツザカナウ」	sinotca kanhaw <sup>276)</sup>	即興歌のにぎやかな声
936. ネナンコラ」	ne nankor _ya?	だったのかしら。
937. アヌワクス」	a=nu wa kusu	(その声を) 聞いたから
938. ソイネ」アンアワ」	soyne=an awa	私は外に出たのに
939. ネプアヌカラフミカ」	nep a=nukar humi ka	何も見え
940. イサムルエアン」	isam ruwe an.”	ないなんて」
941. セコロオカイベ」	sekor okay pe	ということを
942. エヤイコバビリ」	eyaykopapir-	ひとり小声で
943. エイタクカネ」	eitak kane <sup>277)</sup>	言って
944. キロクアイネ」	ki rok ayne	いたあげく
945. ヘトボホロカ」	hetopo horka	後戻りして
946. アフブノイネ」	ahup noyne	(山城に) 入るらしく
947. シキリバ <del>イ</del> ネヒダ」	sikirpa hi ta	身を翻したときに
948. ホマンレラネ」	homar_ rera ne	私はかすかな風のように
949. ボンメノコ」	pon menoko	若い女の
950. セドルフ」	seturuhu	背中に
951. アコドクヒネ」	a=kotuk hine	くっついて
952. アフブアンアワ」	ahup=an awa	入ると
953. トンドザ」	tonto casi <sup>278)</sup>	皮の山城の
954. オンナイケタ」	onnayke ta	中に
955. ダンボロチセ」	tan poro cise	大きな家が
956. アシルコンナ」	as ru konna	建っている様子は

957. コメウナタラ]	komewnatara	堂々と立派だ。
958. オロヤチキ]	oroyaciki	なるほど
959. ウオルンザシ]	uorun casi <sup>279)</sup>	重なった山城
960. ネロクオカ]	ne rok'oka	だったのか。
961. アフアアワ]	ahup=an wa	(その山城に) 入って
962. シゼトク■オ」 <sup>280)</sup>	sietok'o	自分の前に
963. シクイルケ]	sikuyruke <sup>281)</sup>	視線を注いで
964. アキルヱ]	a=ki ruwe	見たのは
965. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
966. ドムンチウナルベ]	tumunci unarpe	トゥムンチのおばさんが
967. オシソウンマ]	osisoun_wa	右座に
968. ロクルヱ]	rok ruwe	座る様子は
969. エネオカヒ]	ene oka hi	このようだ。
970. レボツベトンド]	repotpe tonto	海獣の皮と
971. ヤオツベトンド]	yaotpe tonto	陸獣の皮とを
972. チヱタンダクブ]	ciwetantaku p <sup>282)</sup>	縫い合わせたもので
973. ケツカブヱ]	ketkar puye <sup>283)</sup>	皮張りの穴が
974. ツベカレブ]	cupekare p <sup>284)</sup>	向かい合ったものを
975. エオヤウナ]	eoyauna-	肌にぴったりとは
976. デスケカネツ]	teske kane p <sup>285)</sup>	つけずに着た者で、
977. カネクワ]	kane kuwa	金の杖
978. チノヱクワ]	cinoye kuwa	ねじれている杖は
979. フシコウシベ]	husko us pe	古くついた血が
980. クンネウッシネ]	kunne ussi ne	黒い漆のように
981. アシリウシベ]	asir us pe	新しくついた血が
982. フレウシネ]	hure ussi ne <sup>286)</sup>	赤い漆のように
983. チドラシレ]	citurasire	(杖を) 這い上がる。
984. エシテクスアマ]	esiteksama	(それを) すぐそばに
985. オマレカネ]	omare kane	置いて
986. オドカシンコブ]	otu ka sinkop	多くの糸の結び目を
987. ランケカネ]	ranke kane <sup>287)</sup>	下げて (糸を縫って)
988. オカルエネ]	oka ruwe ne.	いたのだ。
989. オハリキソウン]	oharkisoun <sup>288)</sup>	左座では
990. ボンメノコ]	pon menoko	若い女が
991. オドカシンコブ]	otu kasinkop	多くの糸の結び目を

992. ランケカネ]	ranke kane	下げて (糸を縫って)
993. イナンメノコ]	inan menoko	どの女も
994. ウラボッカリ]	urapokkari: <sup>289)</sup>	互いに劣ることも
995. ソモキノ]	somo ki no	なく
996. ビリカルヅ]	pirka ruwe	美しいことに
997. アコエラヤブ]	a=koerayap	私は感嘆した。
998. イサネメノコ]	isane menoko: <sup>290)</sup>	(下座の女は) 姉である女
999. ネコトムノ]	ne kotomno	らしく
1000. アエサンニヨ]	a=esanniyo	思われた。
【6丁表】		
1001. セドルアコドク]	seturu a=kotuk	私が背中にくっついた
1002. ボンメノコ]	pon menoko	若い女が
1003. コロアドンプ]	kor a tumpu	彼女の部屋
1004. ドンプアバ]	tumpu apa	部屋の戸を
1005. モイレマカ]	moyre maka	ゆっくり開けて
1006. ドンプウブソロ]	tumpu upsor	部屋のなかに
1007. オアフンヒケ]	oahun hike	入ったところで
1008. セトルワ]	seturu wa	私が (女の) 背中から
1009. アメシコサンバ]	a=meskosanpa: <sup>291)</sup>	さっと離れて
1010. ボンメノコ]	pon menoko	若い女の
1011. オシマケタ]	osmake ta	後ろに
1012. アシアンアワ]	as=an awa	立つと
1013. フマシクニ]	humas kuni	(女は) 気配がすると
1014. オヤモクテ]	oyamokte	不審に思って
1015. ヤイタブクルカ] <sup>292)</sup>	yaytapkurka-	自分の肩ごしに
1016. エコホサリ]	ekohosari	振り返ると
1017. カニボロカタ] <sup>293)</sup>	kaniporo ka ta: <sup>294)</sup>	顔色が
1018. コライコサンバ]	koraykosanpa: <sup>295)</sup>	さっと青ざめた。
1019. ドノイワイスイ]	tu noywan_ suy	何度も
1020. イドカリケ]	i=tukarike	私の手前に
1021. コシクエラナ]	kosik'erana-	視線を低く
1022. アツテカネ]	atte kane: <sup>296)</sup>	落として
1023. キロクアイネ]	ki rok ayne	いたあげく
1024. エネイタクヒ]	ene itak hi	こう言った。
1025. ソオンノヘタッ]	“soonno hetap: <sup>297)</sup>	「本当にまあ

1026. シヌタブカト]	Sinutapka ta	シヌタブカの
1027. カムイラメトク]	kamuy rametok,	神の勇者よ、
1028. エイキシリ]	e=iki siri	あなたは何ということを
1029. ダバンベネヤ]	tapanpe ne ya? <sup>298)</sup>	しているのですか。
1030. アシヌマアナク]	asinuma anak	私は
1031. ヤイモオル] <sup>299)</sup>	yaymotoor	自分の生まれを
1032. エシナアナク]	esina anak	隠すことは
1033. アオヤネネ]	a=oyanene	嫌いなのです。
1034. リクンモシリタ]	rikun mosir ta	天の国の
1035. ドムンチカムイ]	tumunci kamuy <sup>300)</sup>	トゥムンチカムイが
1036. アウスフネワ]	a=unuhu ne wa	私の母親であって
1037. アユビヒ] ドンアン]	a=yupihi tun an	兄さんが二人いて
1038. アサハアン]	a=saha an	姉がいて
1039. イヨツタポンベ]	iyotta ponpe	一番小さいものが
1040. アネルエネ]	a=ne ruwe ne.	私なのです。
1041. オカアンアワ]	oka=an awa	私たちが暮らしていると
1042. アコロトツ]	a=kor totto	母さんは
1043. エネイタケヒ]	ene itak hi	こう言いました。
1044. アイヌモシリ]	‘aynu mosir	『人間の国が
1045. ビリカハエ°]	pirka hawe	素晴らしいということで
1046. ドアスルオロケ]	tu asur orke	多くの噂を
1047. アヌクス] <sup>301)</sup>	a=nu kusu	聞いたので
1048. アイヌモシリ]	aynu mosir	人間の国に
1049. アオラブ[子/ヤ]クネ]	a=orap yakne	降りたら
1050. ビリカウレシバ°]	pirka urespa	立派な子育てを
1051. アキクニツ]	a=ki kuni p	できるようなの
1052. ネナセコロ]	ne na.’sekor	ですよ』と
1053. イタクワ]	itak wa	話して
1054. アイヌモシリ]	aynu mosir	人間の国に
1055. アオラブ] ルエ°]	a=orap ruwe	私たちは降りたの
1056. ネロクアワ]	ne rok awa	でしたが
1057. アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
1058. ウタリヒ]	utarihi	たちは
1059. ケシト] アンコロ]	kesto an kor	毎日
1060. キムンドウンクル]	Kimuntounkur	キムントウンクルの

1061. コシネウバクス]	kosinewpa kusu	ところに遊びに
1062. バヅルヱネ]	paye ruwe ne.	行くのでした。
1063. アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
1064. ウタリヒ]	utarihi	たち
1065. コンラメトク]	kor_ rametok	の武勇
1066. カスアッカリ]	kasu akkari	よりも遥かに
1067. アコルトット]	a=kor tutto	母さん
1068. コロラメトク]	kor rametok	の武勇は
1069. アコイシトマッ]	a=koysitoma p	恐ろしいもの
1070. ネロクアワ]	ne rok awa	なのですが
1071. カムイネアンクル]	kamuy ne an kur,	神の如き人よ、
1072. エエクシリアン]	e=ek siri an?	来てしまったですか？
1073. キワネヤッカ]	ki wa ne yakka	それならば
1074. チバロスケ]	ciparosuke	あなたの食事の世話を
1075. アエエカルカンナ]	a=e=ekarkar_ na.”	いたしましょうね]
1076. セコロイタクコロ]	sekor itak kor	と言うと
1077. ウブソロワ]	upsor wa	懐から
1078. カネアワンキ]	kane awanki	金の扇を
1079. サッテヒネ]	sapte hine	取り出して
1080. エバルバル]	eparuparu	扇ぐ。
1081. ラモロエドス]	ramor etusu	心の中で巫術を
1082. キコトムノ]	ki kotomno	しているらしく
1083. アエサンニヨ]	a=esanniyo	思われた。
1084. オカアンアワ]	oka=an awa	そうしていたところ
1085. カバルベオッチケ]	kaparpe otcike	高価なお膳
1086. ■カバルベイトンキ]	kaparpe itanki	立派なお椀が
1087. アウ■ヲエ■ロシキ]	a=uoeroski <sup>302)</sup>	たくさん並べられた。
1088. セセク] メシ]	sesek mesi	熱い飯が
1089. オマヒネ]	oma hine	入っていて
1090. ボンメノコ]	pon menoko	(その椀を) 若い女は
1091. テコロカシケ]	tek or kasike <sup>303)</sup>	手の上に
1092. ゴランデカラ]	corantekar <sup>304)</sup>	乗せた。
【6 丁裏】		
1093. ボンメノコ]	pon menoko	若い女が
1094. ネアオツケ] <sup>305)</sup>	nea otcike	そのお膳を

1095. イテクサマ]	i=teksama	私のそばに
1096. オライバヒタ]	oraypa hi ta	押しやったときに
1097. ロ■ルンベ」バテク]	rorunpe patek	私は戦争ばかりに
1098. エリクネスクブ]	erikne sukup <sup>306)</sup>	苦労した生活を
1099. アキクス]	a=ki kusu	送ったために
1100. イベボカイキ]	ipe pokayki <sup>307)</sup>	食事さえも (しないで)
1101. イノヱノイネ]	i=noye noyne <sup>308)</sup>	身がねじれるように
1102. ヤイスアックス]	yaynu=an kusu	(空腹だと) 思ったので
1103. アウイナヒネ]	a=uyna hine	私は (お膳を) 受け取って
1104. オドスイ」レスイ]	otu suy re suy	何度も何度も
1105. イタンキコシツ]	itankikosip <sup>309)</sup>	お代わりを
1106. アキルヱネ]	a=ki ruwe ne.	したのだ。
1107. オカアニアワ]	oka=an awa	そうしていると
1108. ホンドモダ]	hontomo ta	そのうちに
1109. ネイワネヤ] <sup>310)</sup>	ney wa ne ya	どこからなのか
1110. カムイアリキフム]	kamuy arki hum	立派な人物の来る音が
1111. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響き
1112. ケウロトツケ]	kewrototke	鳴り轟く。
1113. ホンドモタ]	hontomo ta	その途中で
1114. ドントザシ]	tonto casi	皮の山城
1115. サシテクサムン] <sup>311)</sup>	casi teksam un	山城のそばへ
1116. アイヌテルケフム]	aynu terke hum	人間が跳び下りる音が
1117. ミムコサンバ]	rimkosanpa <sup>312)</sup>	ドシンと響く。
1118. ドンバフミ]	tumpa humi	鐙の音も
1119. シヨロツテ]	siyorotte	伴って鳴る。
1120. インカルスイベ]	inkar rusuy pe <sup>313)</sup>	私は見たいもの
1121. アネクス]	a=ne kusu	だから
1122. ドンプアバ]	tumpu apa	部屋の戸を
1123. ボンノアマカ]	ponno a=maka	少し開けた。
1124. ■アイス」アフブワ]	aynu ahup wa	男が入ってきて
1125. アヌカルルヱ]	a=nukar ruwe	私が見たのは
1126. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだ。
1127. ホシキアフンベ]	hoski ahun pe	先に入ってきたものは
1128. カネハヨクベ]	kane hayokpe	金の鎧を
1129. エドママカシ]	etumam kasi <sup>314)</sup>	体の上に

1130. テスナタラ]	tesnatara <sup>315)</sup>	きちんと着て
1131. アフルヅネ]	ahun ruwe ne.	入ってきた。
1132. オシアフベ]	osi ahun pe <sup>316)</sup>	後から入ってきたものは
1133. フレハヨッベ]	hure hayokpe	赤の鎧を
1134. エドマムカシ]	etumam kasi	体の上に
1135. コテシナダラ]	kotesnatara <sup>317)</sup>	きちんと着ている。
1136. イナンベナムネ]	inanpe namne	なんとまあ
1137. ボナイスボンクル]	pon aynu pon kur <sup>318)</sup>	若い人
1138. ウタロロケへ]	utar orkehe	たちは
1139. シレトッコロワ]	siretokkor wa	美貌で
1140. シランナンコラ]	siran nankor _ya	あるのだろうか (と)
1141. ラヤブケウドム]	rayap kewtum	感嘆の思いを
1142. アヤイコロバレ]	a=yaykorpore	抱いた。
1143. アベエトコ]	ape etoko	(男たちは) 火の前に
1144. ココイサンコッカ]	kokoysankokka-	膝をそろえて
1145. エシツチウレ]	esitciwre <sup>319)</sup>	座った
1146. キロクアワ]	ki rok awa	のだが
1147. ゴンルブネマツ]	wen rupne mat	ひどい老女が
1148. エカア] カニツ]	eka a kanit	繕っていた糸巻き棒を
1149. マクンソウスツ]	makun sowsut	奥の隅に向かって
1150. コオスラ]	koosura	投げ
1151. ドイカシケ] <sup>320)</sup>	tuykasike	ながら
1152. イタクオハヱ]	itak'o hawe	言ったのは
1153. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
1154. ネコンネフミ]	“nekon ne humi	「どういうこと
1155. ネナンコラ]	ne nankor _ya?	なのだろうか。
1156. アイヌフラ] アンフミ]	aynu hura an humi	人間の匂いがするよう
1157. オカヤセコロ]	oka ya?” sekor	だね?」と
1158. イタクロクアワ]	itak rok awa	(と) 言ったのだが
1159. ボナイスボンクル]	pon aynu pon kur	若い人
1160. ウタリヒ]	utarihi	たちは
1161. エネイタッヒ]	ene itak hi	こう言った。
1162. ボンモシマキムントウンクル]	“Kimuntounkur	「キムントウンクルを
1163. ケシトアンコロ]	kesto an kor	毎日
1164. アコシネヅ]	a=kosinewe	私たちは訪問して

1165. キロククス]	ki rok kusu	いたので
1166. ネフラハ]	ne huraha	その匂いを
1167. アコロトット]ヌハヱ°]	a=kor tutto nu hawe	母さんは嗅いだの
1168. ネナンコロワ]	ne nankor wa”	でしょうね]
1169. イタクロクアワ]	itak rok awa	(と) 言ったが
1170. ヌハヱ]	nu hawe	(老女が) 聞く様子は
1171. オアラリサム]	oarisam	まったくない。
1172. アヅンポコロベ]	“a=wenpokorpe <sup>321)</sup>	「私の悪い息子
1173. ウタリヒ]	utarihi	たちは
1174. チヅンコスンケ]	ciwenkosunke	ひどい嘘を
1175. イエカルカルヤ]	i=ekarkar ya?	私につくのかい?
1176. ボイソヤコタン]	Poysoya kotan	ポイヤヤ村に
1177. イワンロクンデウ]	iwan rokuntew	何隻もの戦艦が
1178. オヤンワ]ドミアルヱ°]	oyan wa tumi a ruwe	上陸して戦争をしたのさ。
1179. ネヒオロタ]	ne hi oro ta	そこで
1180. ボイヤウンマチ]	Poysoyaunmat	ポイヤウンマツが
1181. シスタブカ]	Sinutapka	シスタブカに
1182. コアスラニ]	koasurani	救いを求めて
1183. ボイヤウベ] <sup>322)</sup>	Poyyaunpe	ポイヤウンペが
1184. ロルベクルカ] <sup>323)</sup>	rorunpe kurka	戦いの
1185. コイカオバシ]	koykaopas	応援に行った
1186. キコトムの]	ki kotomno	らしく
1187. ヤイヌアンアワ]	yaynu=an awa	思ったのだが
1188. ソモネイベカ]	somo ney peka <sup>324)</sup>	あろうことか
<b>【7丁表】</b>		
1189. アヅンマツネボ]	a=wenmatnepo	私の悪い娘
1190. ウタリヒ]	utarihi	たちが
1191. ボイヤフンベ]	Poyyaunpe <sup>325)</sup>	ポイヤウンペに
1192. コオチウバシテ]	koociwpaste <sup>326)</sup>	劣情を抱いて
1193. コキニンバシテ]	kokininpaste <sup>327)</sup>	欲情を抱いて
1194. エチキバハヱ°]	eci=ki pa hawe	いるという話
1195. ネヒタパン]	ne hi tapan.	なのだ。
1196. ソンノタシ]	sonno tasi	本当に
1197. カムイオツタカ]	kamuy or_ ta ka	神のところにも
1198. アイヌオツタカ]	aynu or_ ta ka	人間のところにも

1199. エトルバク」シリカ」	eturpak sirka <sup>328)</sup>	(彼に) 匹敵する容貌は
1200. イサムルヱネ」	isam ruwe ne.	いないのだ。
1201. カムイオッタ」	kamuy or_ ta	神のところの
1202. コシプトノ」	kosimpu tono <sup>329)</sup>	コシンプの首領
1203. タプエアシリ」	tap easir <sup>330)</sup>	だけが
1204. コロシレトク」	kor siretok	その美貌が
1205. アエドルバッカ」	a=eturpakka <sup>331)</sup>	匹敵する
1206. ネヤクネアヱベ」	ne yakne a=ye pe <sup>332)</sup>	のだと言われるもの
1207. イキロクアワ」	iki rok awa	だったが
1208. ウサイネカタブ」	usayne ka tap <sup>333)</sup>	何ともはや
1209. エチハウコロハヱ」	eci=hawkor hawe	お前たちが言ったことは
1210. アオヤネネナ」 <sup>334)</sup>	a=oyanene na.”	気に食わないね」
1211. ゼンルブネマチ」	wen rupne mat <sup>335)</sup>	(と) 悪い老女が
1212. イタクロクアワ」	itak rok awa	話したが
1213. ボナイヌボンクル」	pon aynu pon kur	若い人
1214. ウタリ」	utari	たちは
1215. エネイタクヒ」	ene itak hi	こう言った。
1216. ウサイネカタブ」	“usayne ka tap	「これはこれは
1217. アゼンコロ」トット」	a=wen-kor tutto	わが悪い母さんが
1218. ハウコロハヱ」	hawkor hawe	話したことは
1219. アオヤネネナ」	a=oyanene na.	遺憾に思いますね。
1220. アオカアナク」	aoka anak	私たちは
1221. ウタルサククニブ」	utar sak kuni p	仲間がいないもの
1222. アバサククニブ」	apa sak kuni p	親戚がいないもの
1223. アネバヤクン」	a=ne pa yakun	だから
1224. ウタルバエニシテ」	utarpa eniste <sup>336)</sup>	首領を頼りに
1225. アキヒケ」	a=ki hike	することが
1226. ゼンベヘアン」	wenpe he an?	悪いことなのですか？
1227. ネプエヱヒ」	nep e=ye hi	あなたは何を言うの
1228. ネヒヘタバン」	ne hi he tapan?”	ですか」
1229. ボナイヌボンクル」	pon aynu pon kur	(と) 若い人
1230. ウタリヒ」	utarihi	たちは
1231. シネブシリネ」	sinep siri ne <sup>337)</sup>	異口同音に
1232. ゼルエネ」	ye ruwe ne.	言うのだ。
1233. カエカコロアンア」	kaeka kor an a	糸繕りをしていた

1234. ボシメノコ]	pon menoko	若い女が
1235. カラカニツ]	kor a kanit <sup>338)</sup>	持っていた糸巻き棒を
1236. マクンソウスズ]	makun sowsut <sup>339)</sup>	奥の隅に向かって
1237. コオスラ]	koosura	投げ
1238. トイカシケ]	toykasike	ながら
1239. イタクオハヱ]	itak'o hawe	言ったことは
1240. アヅンコロ] トット]	“a=wen-kor totto,	「悪い母さん,
1241. ネブエヱヒ]	nep e=ye hi	あなたは何を言うの
1242. ネヒヘタバン]	ne hi he tapan?	ですか。
1243. ソンノタシ]	sonno tasi	本当は
1244. アマタキヒ]	a=matakihi	私の妹が
1245. カムイラメトク] トラノ]	kamuy rametok turano	立派な勇者とともに
1246. アフンカトフ]	ahun katuhu	入ってきたことを
1247. アエランベウテクワ]	a=erampewtek wa	私は知らないで
1248. アナシルヱ]	an=an ruwe	いたの
1249. ソモネコロカ]	somo ne korka	ではないけれど
1250. アユブタリ]	a=yuputari	兄さんたちが
1251. ゼブコラチ]	ye p koraci	言ったように
1252. ウタルバ] エニシテ]	utarpa eniste	首領を頼りに
1253. ニシバエニシテ]	nispa eniste <sup>340)</sup>	勇士を頼りに
1254. アキルスイワ]	a=ki rusuy wa	したくて
1255. モシマン]	mosmano	黙って
1256. アナンアワ]	an=an awa	いたのに
1257. ネブエヱヒ]	nep e=ye hi	そんなことを言ったり
1258. エハウコロハヱ]	e=hawkor hawe	しゃべったり
1259. ネヒネヤクカ]	ne hi ne yakka <sup>341)</sup>	しても
1260. ソネウサ]	sone usa <sup>342)</sup>	本当に
1261. エシキヌクニ]	e=siknu kuni <sup>343)</sup>	生きられると思うなら
1262. エヤイコスンケ]	e=yaykosunke. <sup>”344)</sup>	自己欺瞞です」
1263. セコロオカイベ]	sekor okay pe	という
1264. イタクサカヨ]	itak sakayo	言い争いの
1265. ホブニハヱ]	hopuni hawe	起きる声が
1266. オカロクアイネ]	oka rok ayne	あったあげく
1267. ズンルブネマチ]	wen rupne mat	悪い老女が
1268. エネイタクヒ]	ene itak hi	こう言った。

1269. エポタシ]	“epo tasi <sup>345)</sup>	「ええい、
1270. アヅンボコルベ]	a=wenpokorpe	悪い子ども
1271. ウタリヒ] <sup>346)</sup>	utarihi,	たちめ、
1272. アエチシクヌレクニブ]	a=eci=siknure kuni p	お前たちを生かしては
1273. ソモタバナン]	somo tapan na.”	おかないぞ]
1274. イタクドラノ]	itak turano	(と) 言いながら
1275. ドムンチクワ]	tumunci kuwa	魔神の杖を
1276. スヅフンコンナ]	suye hum konna	振る音が
1277. シユコサンパ]	siwkosanpa <sup>347)</sup>	しゅっと鳴る。
1278. クワエトコ]	kuwa etoko	杖の前から
1279. ボナイヌボンクル]	pon aynu pon kur	若い人は
1280. エホブンバ]	ehopunpa <sup>348)</sup>	飛びのき
1281. ザシウブソロ]	casi upsor	山城の中で
1282. エンドミラン]	wen tumi ran <sup>349)</sup>	激しい戦いが
1283. ウコホブニ]	ukohopuni	起こった。
1284. ザシベンノク]	casi pennok <sup>350)</sup>	山城の上手の軒や
1285. ザシバンノケン]	casi pannok un <sup>351)</sup>	山城の下手の軒へ (跳んで)
1286. ウタムコツプ]	utamkocupu <sup>352)</sup>	攻撃しあう。
【7 丁裏】		
1287. ズンルッネマチ]	wen rupne mat	悪い老女は
1288. エヤイオドワシブ]	eyay’otuwasi p <sup>353)</sup>	(腕前を) 自負するもの
1289. イキロククス]	iki rok kusu	だから
1290. ダマンバシリ]	tamanpa siri	太刀を用いるのが
1291. ボナイヌボンクル]	pon aynu pon kur	若い人
1292. ドンネヤクカ]	tun ne yakka	二人であっても
1293. アランヌダラ]	arannutara	(彼らは) 手も足も出ない。
1294. アタムコツ■バ]	a=tamkocuppa <sup>354)</sup>	(老女に) 攻撃された
1295. シリキアイネ]	sirki ayne	あげくに
1296. キヤンネニシバ]	kiyanne nispa	年上の勇士の
1297. イノドオルケ]	inotu orke	魂が
1298. ホブニフミ]	hopuni humi	飛び去る音が
1299. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響く。
1300. ホントモタ]	hontomo ta	そのうちに
1301. フレハヨクベ] <sup>355)</sup>	hure hayokpe	赤い鎧の
1302. ボニウネニシバ]	poniwne nispa	年下の勇士の

1303. イノドオルケ]	inotu orke	魂が
1304. ホブニフミ]	hopuni humi	飛び去る音が
1305. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響く。
1306. キロクアワ]	ki rok awa	そうすると
1307. ボンメノコ]	pon menoko	若い女
1308. ウタリヒ]	utarihi	たちが
1309. チシリミムセ]	cisrimimse <sup>356)</sup>	泣き叫んで
1310. アゼンコロトット]	“a=wen-kor totto,	「ひどい母さん,
1311. エエオカドネクス]	e=eokatune kusu <sup>357)</sup>	ただでは済まないからと
1312. エイキシリ]	e=iki siri	したことが
1313. ダンベネヤ]	tanpe ne ya?	これなのですか。
1314. アナクキコロカ]	anakkikorka	けれども
1315. アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
1316. ウタリヒ]	utarihi	たちの
1317. ルオカケヘ]	ruokakehe	(死んだ) 後には
1318. チドイコタダ]	citoykotata	私たちが切り刻んで
1319. アエカルカンナ]	a=ekarkar_ na. <sup>358)</sup>	やりますよ。
1320. チヤイコユツバ]	ciyaykoyuppa <sup>359)</sup>	あなたもしっかり
1321. エキナンコンナ]	e=ki nankor_ na.”	やりなさいな」
1322. イタクドラノ]	itak turano	(という) 言葉とともに
1323. ボンメノコ]	pon menoko	若い女
1324. ウタリヒ]	utarihi	たちは
1325. ヘンルブネマチ <sup>360)</sup>	wen rupne mat	悪い老女の
1326. クルカシケ]	kurkasike	上に
1327. コダムエタイバ]	kotam'etaypa	向かって刀を抜いた。
1328. アヌカルヒケ]	a=nukar hike	私は見ていたが
1329. ネイタバクノ]	“ney ta pakno	「いつまでも
1330. イヨロインカル]	ioroinkar <sup>361)</sup>	遠くから見物して
1331. エキヘキヤ]	e=ki he ki ya?”	いるのか」
1332. ヤイヌアンクス <sup>362)</sup>	yaynu=an kusu	(と) 思ったので
1333. ゴンルッネマチ <sup>363)</sup>	wen rupne mat	悪い老女の
1334. クルカシケ]	kurkasike	上に
1335. [■/コ]タムエタイヰ]	kotam'etaye	向かって私は刀を
1336. アキシリ]	a=ki siri.	抜いた。
1337. イネアブクスン]	ineapkusun	なんとまあ

1338. キラエニダン]	kira enitan <sup>364)</sup>	逃げるのが速い
1339. シリキヤカ]	sirki ya ka.	ことか。
1340. リッシタムクル]	rik kus tam kur <sup>365)</sup>	上を通る太刀影は
1341. ホブニヌイネ]	hopuni nuy ne	舞い上がる炎のように
1342. ラクシダムクル]	ra kus tam kur	下を通る太刀影は
1343. ラッセヌイネ]	rapse nuy ne	飛び散る炎のように (して)
1344. アイカブサンマ]	aykap sam _wa <sup>366)</sup>	左側では
1345. アテクスムデケ]	a=teknunteke	こぶしを
1346. ドナウケッサイネ]	tu nawkep say ne <sup>367)</sup>	多くの鉤の列のように
1347. アナクキコロカ]	anakkikorka	したけれども
1348. タメオクフミ]	tameok humi	刀があたる感触も
1349. テクエオクフミ]	tek'eok humi	手がひっかかる感触も
1350. オアラリサム]	oararisam	まったくしない。
1351. ヤイゼンヌカルベ]	yaywennukar pe <sup>368)</sup>	進退窮まった者は
1352. リクススイクルカ]	rikunsuy kurka	天窓を通して
1353. ヤイベカレ]	yaypekare <sup>369)</sup>	逃げ
1354. レンアネワ]	ren a=ne wa <sup>370)</sup>	私たちは三人で
1355. チオカオシバ]	ciokanospa <sup>371)</sup>	その後を追いかける。
1356. カンドコトル <sup>372)</sup>	kanto kotor	(老女は) 天空へ
1357. コシエダイエ <sup>373)</sup>	kosietaye <sup>373)</sup>	去った。
1358. <del>ダン</del> ベタネボックス <sup>374)</sup>	tanepo kusu <sup>375)</sup>	すぐさま
<b>【8丁表】</b>		
1359. ウノシバチカブ <sup>376)</sup>	unospa cikap	私は追いかけてあう鳥が
1360. カッコロ [クニ/シリ] <sup>377)</sup>	katkor kuni (siri)	振る舞う様子と
1361. アシコバヤラ]	a=sikopayar	同じようにした。
1362. ルエトコ]	ruetoko	その行く先
1363. ルオカケ <sup>378)</sup>	ruokake	その行った後を
1364. アタムノシバレ]	a=tamnospare	刀で追いかける。
1365. エネヘタッネ]	ene hetap ne <sup>379)</sup>	これほどまでも
1366. レンアネワ <sup>380)</sup>	ren a=ne wa	われわれは三人で
1367. アキダマニ]	a=ki tamani	刀を振った。(が)
1368. ダムエオクフミ]	tam'eok humi	刀にひっかかる感触も
1369. テクエオク フミ]	tek'eok humi	手にひっかかる感触も
1370. オアラリサン]	oararisam	まったくしない。
1371. フンネアンコロ]	humne an kor <sup>381)</sup>	時には

1372. アイヌモシリ]	aynu mosir	人間の国土に
1373. コゼラナ]	kocerana-	下りて
1374. スラトツケ]	suototke <sup>382)</sup>	追いかけて
1375. アワキナ]	awa kina <sup>383)</sup>	青草の
1376. キナコイバケ]	kina koypake <sup>384)</sup>	草むらの上
1377. キナコイ] ケセ]	kina koykese	草むらの下と
1378. アコタタカル]	a=kotatakar	一緒に叩いた。(が)
1379. ヤヤバブラン]	yayapapu ram	恥じる気持ちで
1380. アヤイコロバレ]	a=yaykorpore	私は抱いた。
1381. ネイタパクノ]	“ney ta pakno	「いつまで
1382. ゴンルッネマチ]	wen rupne mat	悪い老女を
1383. シエシノツテ]	siesinotte <sup>385)</sup>	からかって
1384. エキヘキヤ]	e=ki he ki ya?”	いるのか]
1385. ヤイヌアンマ]	yaynu=an _wa	(と) 思って
1386. ドムンチクワ]	tumunci kuwa	私は魔神の杖に向かって
1387. エムシメツカ]	emus mekka	刀の峰を
1388. アコドリカル]	a=koturikar	伸ばして
1389. アシタイキアワ]	a=sitayki awa <sup>386)</sup>	叩き落とすと
1390. ゴンルッネマチ]	wen rupne mat	悪い老女は
1391. ドムンチクワ]	tumunci kuwa	魔神の杖を
1392. テクラクツテ]	tekrakupte <sup>387)</sup>	放してしまった。
1393. ウイナクニ]	uyna kuni	(女が杖を) 拾おうとする
1394. コツボキタ]	kotpoki ta	前に (杖を)
1395. アシコエタイゴ]	a=sikoetaye <sup>388)</sup>	私は自分の方へ引っ張り
1396. ゴンルッネマチ]	wen rupne mat	悪い老女の
1397. ドルエトコ]	tu ru etoko	行く先々
1398. レルエトコ]	re ru etoko	行く先々で
1399. ドムンチ] クワ]	tumunci kuwa	私が魔神の杖を
1400. アスゴフンコンナ]	a=suye hum konna	振る音が
1401. コシウシワツキ]	kosiwsiwatki	うなりをあげる。
1402. タネボクス]	tanepo kusu	すぐさま
1403. アモンエトコ]	a=mon'etoko	私の手の前で
1404. コリンコサンバ]	korimkosanpa <sup>390)</sup>	ドシンと響き
1405. イノドオロケ]	inotu orke	魂の
1406. ホブニフミ]	hopuni humi	飛び去る音が

1407. ドリミムセ]	turimimse	鳴り響いた。
1408. シアンライクニブ]	sian ray kuni p <sup>391)</sup>	完全に死ぬ者は
1409. シアフン] ツッボク]	siahuncuppok <sup>392)</sup>	真西へ
1410. コフメラウタ]	kohumerawta-	音低く
1411. ロルバカネ]	rorpa kane <sup>393)</sup>	沈んでいき
1412. バクノネコロ]	pakno ne kor	そうすると
1413. ボシメノコ]	pon menoko	若い女
1414. ウタリヒ]	utarihi	たちが
1415. セメアンチシボ]	semean cispo	すすり泣きをして
1416. コセウツカン]	koseutkan-	しゃくりあげ
1417. リキンカネ]	rikin kane <sup>394)</sup>	すすりあげて
1418. ドイカシケ]	tuykasike	そうしながら
1419. イタクオ] ハヅ]	itak'o hawe	言ったのは
1420. エネオカヒ]	ene oka hi	こうだった。
1421. アゼンウヌフ]	“a=wen'unuhu	「私たちの悪い母は
1422. ドムンチカムイ]	tumunci kamuy	トゥムンチカムイ
1423. ネロククス]	ne rok kusu	であったから
1424. アロンヌ] ヤクカ]	a=ronnu yakka	殺されても
1425. アオシクル] ルヅ]	a=oskur ruwe	いたましく思うことは
1426. ソモネコロカ] <sup>395)</sup>	somo ne korka	ないのですが
1427. アコロユビ]	a=kor yupi	兄さん
1428. ウタリヒ]	utarihi	たちは
1429. アオシクルフミ]	a=oskur humi.”	いたましいわ」
1430. セコロオカイベ] <sup>396)</sup>	sekor okay pe	ということを
1431. ゴバヒケ]	ye pa hike	言うと
1432. イホマケウドム]	ihoma kewtum	私は憐れみの気持ちを
1433. アヤイコロバレ]	a=yaykorpore	抱いた。
1434. アシキンネ] <sup>397)</sup>	asirkinne	今度は
1435. ボシメノコ]	pon menoko	若い女
1436. ウタリヒ] <sup>398)</sup>	utarihi	たちは
1437. エネイタクヒ]	ene itak hi	こう言った。
1438. アムイラメトク] <sup>399)</sup>	“kamuy rametok,	「立派な勇士さま,
1439. ボンノ] イコシニワ]	ponno i=kosini wa	少し私たちの所で休んで
1440. イコロバレヤン]	i=korpore yan.	くださいませ。
1441. スケアン] ヤクネ] <sup>400)</sup>	suke=an yakne	私たちが料理をしたら

1442. イベアン」 クス 【8丁裏】	ipe=an kusu	食事を
1443. ネナ」 セコロ」	ne na.” sekor	しましうね」と
1444. イタクバヒケ」	itak pa hike	話すと
1445. アイゴエセ」	a=ieese-	私はそれに承諾の
1446. チウレカネ」	ciwre kane <sup>401)</sup>	返事をして
1447. トンドザシ」	tonto casi	皮の山城
1448. ザシウブソロ」	casi upsor	山城の中に
1449. アシキリバ」	a=sikirpa	向かった。
1450. ボンメノコ」	pon menoko	若い女
1451. ウタリヒ」	utarihi	たちは
1452. ビリカスケ」	pirka suke	すばらしい料理のために
1453. エヤイクスツカ」	eyaykesupka-	あちらこちら
1454. エウツカネ」	ewak kane	立ち働いて
1455. ビリカメシ」	pirka mesi	すばらしい飯を
1456. ヤナヤツテ」	yanayapte <sup>402)</sup>	(鍋から) 取り上げ
1457. カバラベ」 オツチケ」	kaparpe otcike	立派なお膳や
1458. ■カバルベ」 イタンキ」 <sup>403)</sup>	kaparpe itanki	高価なお椀を
1459. ウヲエロシキ」	uoeroski <sup>404)</sup>	たくさん並べ
1460. イコイブンバ」	i=koypunpa	私に食べ物差し出した。
1461. オドソナビ」	otu sonapi	多くの高盛りのご馳走を
1462. アウコロシキ」	a=ukoroski <sup>405)</sup>	ずらりと並べて
1463. イベアンカド」	ipe=an katu	食事をする様子は
1464. アオモンモモ」	a=omommomo	かくかくしかじかだ。
1465. バクノネコロ」	pakno ne kor	そうして
1466. アヤイコドイマ」	a=yaykotuyma-	思いを
1467. シランスイバワ」	siramsuypa wa	めぐらせて
1468. イヌアンヒケ」	inu=an hike	みると
1469. ボンメノコ」	“pon menoko	「娘
1470. ウタリヒ」	utarihi	たちを
1471. エコロア」 ザシ」	e=kor a casi <sup>406)</sup>	お前の山城に
1472. エオルラクニブ」	e=orura kuni p	運ぶべき
1473. ネヒヘタバシ」	ne hi he tapan?	だろうか。
1474. ネコンネチキ」	nekon ne ciki	どうしたら
1475. ビリカヤ」	pirka ya?”	良いのか」

1476. アエヤイコドイマ]	a=eyaykotuyma-	(と) 思いを
1477. シラムスイバ]	siramsuypa	めぐらせて
1478. アナン	an=an.	いた。

## 《謝辞》

本テキストの翻刻・訳注にあたっては、田村雅史氏をはじめ藤田護氏、小林美紀氏との勉強会において多くの指導・助言をいただいた。さらに、札幌学院大学 奥田統己先生をはじめ、吉村冬子氏、深澤美香氏、岡田一祐氏にも個人的に様々な助言・指摘をいただいた。記して感謝したい。

最後に、ノート画像の撮影にあたっては、国立民族学博物館 齋藤玲子先生ならびに北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 佐々木利和先生に御協力・便宜をはかっていただいた。改めて感謝申し上げる。

## 注

- 1) 鍋沢による本テキストのタイトル。Poysoyaunmat iwan rokuntew ukoetaye。直訳は「ボイソヤウンマツと六隻の戦艦が引|っ張り合う」。
- 2) 和人に なにわぶしと言：本テキストそのものではなく、「ユカル」(yukar 英雄叙事詩) についてのこと。『金田一全集7』に「Yaisamaneを『くどきぶし』だというアイヌは、詞曲をば、『此はアイヌの祭文だ』と云っている。『浄瑠璃だ』とも」(p.132) とあるように、英雄叙事詩のことを、メロディに乗せた物語として楽しんだという点で「和人が語る『なにわぶし』と同じだ」と説明しているものか。
- 3) ドミサンベチ Tomisanpeci：鍋沢の表記においてはTomisanpetとTomisanpeciの2通りの可能性が考えられるが、ここはTomisanpeciとした。yukar(1) 注2) 参照。
- 4) rorunso ka ta：直訳は「上座の上で」。
- 5) カネアムセッチ kane amset：鍋沢の表記においてアムセッチはamsetとamseciの可能性が考えられるが、ほかのテキストを見る限りkane amset という表現は多く見られるが、kane amseciは見られないため、amsetとした。
- 6) アイヨレス a=i=oresu：ノートの表記にしたがうとaiyoresuだが、yは挿入音。
- 7) ineap kusun ~ a=eramiskari：eramiskariは「知らない、わからない」の意味であるため、直訳は「なんとまあ / 私の兄と / 私の姉は / 私を敬っている / 様子であるのか / 私はわからない」。非常に丁寧に育ててくれているという感嘆の表現として意識した。この後も何度かineap kusun …… ya ka / a=eramiskariという表現は出てくるが、すべて同様。
- 8) デムツナワ temsutna wa：「ス」が脱落しているが、temsutna「袖を肩までまくり上げる」(『沙流辞典』p.712) か。
- 9) eyaykesupka- / ewak：『久保寺辞典』に「eyaikeshupka ewak kane あちらこちら静に歩く」(p.73) とある。よい料理を作るために、駆け回っている様子をいう常套表現。
- 10) kaparpe otcike / kaparpe itanki：直訳は「薄いお膳 / 薄いお椀」。ここでいう「薄い」は立派で高価な品を意味しているため、それぞれ意識した。
- 11) ueroski：「次々に重ねる」などの意味もあるが、ここでは「たくさん並べる」(『沙流辞典』p.813) こと。

- 12) チアラレス ciararesu: 「chi-ara resu 善美な養育」(『アイヌの叙事詩』 p.457)。yukar(2) 注1)も参照。
- 13) アイヅカルカラ a=i=ekarkar: ノートでは行頭「ア」の右脇に鉛筆書きらしきチェック(✓)が書かれている。鉛筆書きについては kamuyyukar(1) 注8)も参照。また、ノートの表記にしたがうと aiyekarkar だが、y は挿入音。
- 14) アエラシカリ a=eramiskari: 「ミ」が脱落しているが a=eramiskari か。本ノートをはじめとして鍋沢は「エラミシカリ (eramiskari)」を用いており(34行目など)、「アエラムシカリ」という語形は使われていないため、「ミ」を補った。
- 15) tapan inuma: 直訳は「この宝壇」。
- 16) ranpes kunne: 「ranpes kunne / chisiturire 低い崖のように / 延べられて」(『アイヌの叙事詩』 p.157)。yukar (2) 注150)も参照。
- 17) ウタルバムツペ: nispa mutpe / utarpa mutpe で同義並列の対句になりうるが、この1行は鉛筆書きならびに赤による棒線で削除されている。
- 18) ラムマカネ: ノートでは行頭「ラ」の右脇に鉛筆書きのようなチェック(✓)が書かれている。
- 19) kamuy ek \_hum: ここで kamuy と称されている者は、78行目で aynu 「人間」だとされているため、kamuy はここでは神(カムイ)そのものではなく「(神のように)立派な人物」を表す。
- 20) attom unno: ar- 「まったく」 tom 「面の中ほど」 unno 「〈場所〉へ」。『久保寺辞典』に「ar-tom (o) まつただ中」(p.29)とあるが、ここでは、通り過ぎるのではなく、まさしく自分たちの山城をめがけてやって来ているという意味。
- 21) hontomo ta: 「～の途中で」が直訳だが、『久保寺辞典』には「途端に、忽ちに」「そのなかばにて、そのうちに、その間に、…するや否や、…する途旦に」(p.88)といった、時間の経過を表す際の用法も見られることを参考に訳した。
- 22) casi ras sam un: ras は「割り木、木片」の意味で、ここでは「木片、柵 / rashu(-hu) 割木の柵、柵の木」(『久保寺辞典』 p.221)。
- 23) aynu terke hum: terke は「跳ねる、跳ぶ」の意味だが、ここでは空を飛んで近づいてきた者が山城近くに着陸した様子をいうため、「跳び下りる」と意識した。
- 24) ドンバフンミ tumpa humi: 「フンミ」は humi の意味か。
- 25) シヨロッテ siyorotte: 「tunpa humihi / siyorotte 鏝の音を / ひびかせて」(『アイヌの叙事詩』 p.262) など鍋沢のテキストにおいては「鳴る」「響く」のような音がする様子を表す訳がつけられている。『ユーカラ集2』には「shi-or 『自身・そこに』 otte 『たくさんにする』、『伴い生じる』」(p.430)とあることから、「伴って音が生じる」のような意味か。なお、ノートの表記にしたがうと siyorotte だが、y は挿入音。
- 26) アバ [マカ/チマカ]: 「マカ」を赤で消したうえで、後から右隣に黒で「チマカ」が書き足されている。
- 27) アフブワアリキ ahup wa arki: アリキは arki。以下、arki 「来る(複数)」についてはすべて「アリキ」という表記が用いられており、「アラキ」もしくは「アルキ」という表記は見られない。
- 28) オハリキソワ oharkiso wa: オハリキソは oharkiso。
- 29) ラチウリキタル／ヅンバカネ: この2行は鉛筆と思しき棒線で削除されている。
- 30) ㊦ネイタツタヒ: この1行は鉛筆書きと赤による棒線で削除されている。
- 31) イタクハズエネオカヒ: 「㊦ネイタツタヒ」の左隣に書き足されている。

- 32) コロチウツシウ：ノートでは行頭「コ」の右脇に鉛筆書きのようなチェック（✓）が書かれている。また、「ア」は赤によるバツ印（×）で消されている。
- 33) nusasan kasi：直訳は「祭壇の上」。yukar(1) 注16)も参照。
- 34) koraynatara：『久保寺辞典』に「korainatara 廃滅に帰して久しくなつた」(p.140)とある。yukar(1) 注17)参照。
- 35) inaw'epuni：inaw「イナウ」e-「～の頭」puni「～を持ち上げる」。「pase-onkami の時に、その神に inau を捧げる」こと（『久保寺辞典』p.101）。また、『アイヌの宗教と儀礼』（p.89）には「Inau-epuni『木幣を供える』の儀」の一連の流れが説明されている。
- 36) tures：本テキストの主人公には妹はいないので、ここでは主人公の姉のことを指す。イヨチウソクルから見て妹分にあたるということから、tures「妹」と言っているものか。
- 37) イユテック i=utek：ノートの表記にしたがうと iyutek だが、y は挿入音。
- 38) ゴ ~~コ~~ / ルエ~~ネ~~：「コロ」と「シ」は共に鉛筆と赤による棒線で削除されている。
- 39) ギ~~オン~~カ~~ミ~~キ~~イ~~ / ウ~~カ~~ク~~シ~~バ~~レ~~：この2行は鉛筆と赤による棒線で削除されている。
- 40) キロクアワ：ノートでは行頭「キ」の右脇に鉛筆でチェック（✓）が書かれている。
- 41) enankiru：e-「〈場所〉に」nan「顔」kiru「～の向きを変える」。『久保寺辞典』に「enankiru 面を向ける」(p.61)とある。
- 42) テイリワクニシバ：「ア」は鉛筆によるバツ印（×）で消されている。
- 43) エラムカ / シラビビ eramuka- / sirapipi：「カ」は後から書き足されたらしく、脇に挿入されている。『沙流辞典』に「eramusirapipi … のことで安心する、気持ちがあまる」(p.117)とあるが、kaが挿入された語形は確認できない。しかし同様の例として、eramukittararke「To be afraid. To be in dread. To be struck with awe. Syn：Kimatek. Ishitoma.」（『バチェラー辞典』p.127）という語が、「aneramuka / kittararke わが思いも / 恐ろしくなる」（『ユーカラ集5』p.302）のように、ramuの直後にkaが挿入された語形で用いられていることがある。音節数が多い語を2行に分けるという音節数あわせの技法のひとつであろう。ここでもeramuka- / sirapipiと4音節ずつ2行に分けることを意図して「カ」を挿入したのものか。
- 44) a=kar wa an pe：直訳は「私が作っていたもの」。具体的には、60～62行目で鞘に彫刻を施していた刀のこと。yukar(1) 注27)参照。
- 45) a=itarkocupu：『久保寺辞典』に「itarkochupu 莫塵と一緒に包む」(p.110)とある。yukar(1) 注28)も参照。
- 46) イヨイキリ ioykir：ノートの表記にしたがうと iyoykir だが、y は挿入音。
- 47) カムイハヨクベ：ノートでは行頭「カ」の上に鉛筆でチェック（✓）が書かれている。
- 48) アテックホシバレ a=tekpospare：ノートの表記では「ホシバレ hospare」だが、160行目の a=cikirpospareと対になっていることから pospare「～に～を通す」とした。
- 49) a=kimuyrarire：kimuy「頭のとっぺん」rari「～を押さえつける」-re「～させる」。すなわち、頭にかぶるとのこと。「kaparpe kasa / akimuy rarire 薄作りの笠を / わが頭に冠り」（『アイヌの叙事詩』p.105）。
- 50) ne wa ne yak：「～であるならば」という条件を表す句だが、ここでは文脈から、ne yakka「～もまた」と同じ意味で使っているものと解釈した。
- 51) ukoimeru- / turpa：u-「互い」ko-「～と共に」imeru「光」turpa「～を伸ばす」。「iresu sapo / repunkut turesh / Omanpeshkaunmat / ukokushishpa / ukoimeru- / turpa kane 養姉 / 沖の国の妹 / オマンベシカ媛 / もろとも / 互に光りを / ひきみたり」（『金田一全集9』p.308）のように、複数の人間がいずれも美しいということを使う語。

- 52) アバテキサム apa teksam: 「テキサム」は teksam。
- 53) アオシキル: ノートでは行頭「ア」の右脇に鉛筆でチェック (✓) が書かれている。
- 54) akomakaneanpe- / tapkar: 未詳の語句。201~202行目にも同一の語句があり、ここでは tapkar をしたことによって背骨を痛めたと考えられるため、主人公を指す人称接辞 a= は tapkar まで掛かっているものとして、この2行で1単語と見なした。ko- 「〜に対して」 tapkar 「踏舞する」の間に mak ean pe 「どのようなもの」が副詞的な意味合いとして抱合されたものか。
- 55) tapkar: 大きなくしゃみをしたことから、風邪の神などを避けるための魔払いの儀式として tapkar を行っているものか。
- 56) a=ikkewnumi: ikkew 「腰」 num(i) 「粒」。ここでは、ikkew numi で「背骨」(『アイヌの叙事詩』 p.592)。
- 57) cipukrototo: 『久保寺辞典』に「chipukrototo ほきんと折れる. ほきんと折れる音」(p.47) とある。なお、主人公がこのような事態に陥る理由は、本テキスト中では語られないまま終わる。
- 58) イエオタンネ i=eotanne-: ノートの表記にしたがうと iyeotanne だが、y は挿入音。
- 59) イエオタンネ / ドルバ i=eotanne- / turpa: 「apeteksam nehi / eotanne / turpa kane 焔のそばに / 長々と / 横たえました」(『久保寺ノート5』 pp.75-76)。
- 60) i=eanukar: e- 「(場所) に」 anu 「〜を置く」-kar (他動詞形成接尾辞)。「ri chininuipe / iyeaukar 高枕を / 我にあてがひたり」(『金田一全集9』 p.267)。
- 61) アコロユビ: ノートでは行頭「ア」の上に鉛筆でチェック (✓) が書かれている。
- 62) tu kamuy sinrit / opentari: kamuy sinrit opentari は「神々を祈るにその神々の起源を明かし、その根源を言ひあらはして神助を乞ふ」こと(『久保寺辞典』 p.118)。
- 63) アコロサボ: ノートでは行頭「ア」の右脇に丸 (○) が書かれている。
- 64) ドベツタクサ tupet takusa: 未詳の語句。『久保寺辞典』に「死霊の後を追って呼びもどす、といふ。tama-sai ならん。 / ~asana sanke, iresu yupi, kotpara-kashi, aeomare. tupet takusa, repet takusa, iresu yupi, kurkashke, aeshitaiki」(p.217) とあることから、「ドベツ」は tupet とした。だが、これがどのようなものかは未詳。
- 65) aw oraye: oraye は「〜を〈場所〉に押しやる」だが、文脈に合わせて、外で用意したタクサを中にかけてきた様子と解釈した。
- 66) イクタヤン ikutasa yan: 「サ」が脱落しているが、ikutasa 「酒宴に招かれて行く」か。
- 67) [エチ / ビリカ] オカケタ: 「エチ」は鉛筆と赤による棒線で削除されている。その右脇に書かれた「ビリカ」は鉛筆書きのように見える。
- 68) korayniwkes: 『沙流辞典』に「... することができない気がする」(p.335) とある。
- 69) オロワノ: ノートでは行頭「オ」の右脇に鉛筆書きでチェック (✓) が書かれている。また、「ワ」は書き忘れたらしく、後から書き足されている。
- 70) tama carse hum: carse は「滑る」という意味もあるが、ここでは「etor, tumush などをざくざく着けたる様。又その音」(『久保寺辞典』 p.39) の意味で、首飾りの玉同士が触れる際の音のことであろう。
- 71) oroneanpe: 『久保寺辞典』に「『一緒になる』『相和する』と訳し得べし」(p.191) とある。ここでは首飾りの立てる音と、首飾りが服と擦れる音とが響きあう様子か。yukar(1) 注20 参照。
- 72) kosasnatara: sas は「ざざざといふ音. 摩擦する音」(『久保寺辞典』 p.235) なので sasnatara が表しているのは摩擦による音となる。そのため、ここでは首飾りの玉同士が立てる音ではな

- く、玉が着物と擦れる音を言うものか。
- 73) otu iwan\_ suy / apa akkari : 遠慮しているため、戸口の前を行ったり来たりばかりしていて、なかなか中に入らない様子。
- 74) kotcawot no : 『千歳辞典』に「kotcawot 人の前を逃れるように」(p.186)とある。ここでは本人が入ってくるよりも先に光が家の中に差し込んでくる様子。
- 75) ciaworaye : ci-「自ら」aw「家の中」oraye「～を〈場所〉に押しやる」。『久保寺辞典』に「chi-aworaye 内へ射しこむ」(p.40)とある。
- 76) オリバトルイベ : ノートでは行頭「オ」の右脇に鉛筆書きでチェック(✓)が書かれている。
- 77) otop cinki / esitciwre : 直訳は「髪の手を / 頭を地面に突き刺さらせる」となるが、「髪のはしを……下へ地面へつける。面を伏せ恭々しく地へつく程頭を下げて、髪のはしが地へ曳いてちつと落ち着く義」(『久保寺辞典』p.195)という意味。
- 78) konram konna / yupkosanu : 『沙流辞典』に「konram konna / yupkosanpa 心をキュッとひきしめる = 意を決して思い切って…する」(p.328)とある。
- 79) raciwikikur- / punpa : 『千歳辞典』に「目を上げて相手の顔を見る」(p.405)とある。
- 80) patek tasi : patek「～だけ、～ばかり」tasi(強調)。「patek tashi たった一人の」(『久保寺辞典』p.203)を参考にした。
- 81) kor siretok / ceyhunara : ceyhunara は ci- (中相接頭辞) e-「～について」i-「人・もの」hunara「～を探す」で、「(美貌)に関して人を探す」という意味か。「kor siretok / aeihunara / iki rok korka その容貌を / この上ないものと / 思っていたが」(『クトゥネシリカ』p.135)、「imoshiri-ka eihunara(a)p この世で一等のものに思っている、探しても及ぶものがないと想ふ。」(『久保寺辞典』p.100)のように、ほかに並ぶ者がいないほど優れているという意味で用いられる例が見られる。
- 82) tanpa ne pa ~ pakno an pe : 若い娘の年格好を形容する際の常套表現。yukar(1) 注186)も参照。
- 83) シノツスマチボ sinotnumatpo : スマチボは numatpo (yukar(2) 注160)参照。『沙流辞典』に「sinotnumatpo 胸ひも、女性の下着 (mour モウル) の襟もとを開かないようにとめるひも」(p.641)とある。
- 84) エドメッカシ : ノートでは行頭「エ」の右脇にチェック(✓)が書かれている。
- 85) etumekkasi : etumekkasi は「鼻筋」(『人間篇』p.318)。yukar(1) 注111)参照。
- 86) ciorente : ci-「自ら」o-「〈場所〉へ」ren「沈む」-te「～させる」。『久保寺辞典』に「chi-orente 沈む」(p.45)とあるが、ここでは文脈に合わせて意識した。
- 87) yairwakikor : yay-「自分の」irwaki「～の兄弟」kor「～を持つ」。『沙流辞典』に「yairwakikor 男の子が一人だけである、男の兄弟がいない」(p.851)とある。
- 88) ボイソヤウンマチコロ Poysoyaunmat kor : 「マチ」は mat。以下、すべて同様。
- 89) オロオヤチキ orooyaciki : orooyaciki という語形が多く見られることから、or'oyaciki である可能性もある。だが、『パチエラー辞典』(p.363)に「Oro-oya-chiki」とあるため、ノートの表記どおりに orooyaciki とした。orooyaciki は「気がついてみると、そうか、なるほど (以前に知らなかったことがわかって、なぜかとけたときに言う)」(『沙流辞典』p.483)。
- 90) kuromato ta : 『久保寺辞典』に「ぬばたまの夜を」(p.148)とある。
- 91) アコトマリ a=kor\_ tomari : ノートでは「ト」が通常よりもやや小さく見えるが、a=kor\_ tomari の意味か。
- 92) iwan rokuntew : rokuntew は辞書では「大船」「弁財船」などと訳されている。丸木舟とは異なる

- る、他民族が用いる帆の付いた大型船のことを指す語。ここでは商船などとは異なり戦いのために用いられている船なので、「戦艦」と意識した。
- 93) kayte anu : 『パチエラー辞典』に kayte は「An anchor」とある (p.223)。したがって直訳は「錨を置く」だが、ここでは意識した。
- 94) tutanu yan pe : 直訳は「次に上陸するもの」で、次行のアトゥイヤウンクルと同格になる。以下、同様。
- 95) kayte atte : atte は「～を掛けてぶらさげる」(『千歳辞典』 p.11) なので、ここでは錨を下ろすことか。
- 96) ドタヌヤンベ : ノートでは行頭「ド」の右脇に丸印 (○) が書かれている。
- 97) tekosma humkan : tekosma は tek「手」 osma「〈場所〉に入る」。「手を掛くる」「ばたりと手があたること」(『金田一全集 9』 p.452) という意味。ここでは何者かがポイズヤウンマツを奪い去ろうとしている様子を言う。humkan の kan は「上、うら、末、梢の穂、見え渡る様 遠く聞える音」(『久保寺辞典』 p.118)。
- 98) ネモリヒウンベ ne mosir un pe : ノートの表記は「モリヒ」と読める。mosirih の「シ」が脱落したとも考えられるが、直前の「ne kotan un pe」と対になっていることや、ne mosir un pe という言い方はほかのテキストでもしばしば見られる (たとえば『神話集成 9』 p.20) が、ne mosiri(hi) un pe という言い方は見られないことから、概念形「mosir」を意図したものと判断した。
- 99) a=oaticikiri / a=haypare p : haypare (あるいは haypa) という語は辞典には見られないが、「Aoara kemaha / ahayparep / seta-tek paste / iekarkanna わたしの片足に / 足りない者に / 犬でもさらう如くに / させられる」(『クトゥネシリカ』 p.115) という用例や、『沙流辞典』(p.849) には「a=kor pokayki / a=yayhaytare / a=yayhaypare 私が連れそうにはつり合わない、連れそうことができない」という例がある。『沙流辞典』の例では yayhaytare と yayhaypare とが同義並列の対句と考えられることから haypa は hayta と同じく「足りない」という意味か。
- 100) seta tek paste : 直訳は「犬が手を走らせる」。「犬の逃げるように早く逃げる」(『ユーカラ集 6』 p.130) という意味の語句。
- 101) イゾカルカンナ i=ekarkar\_ na : ノートの表記にしたがうと iyekarkar na だが、y は挿入音。
- 102) i=ka tunaska : ka(si) tunaska は「急いで救ふ」(『久保寺辞典』 p.123)。yukar(1) 注332) も参照。
- 103) iki wa iki p : 『久保寺ノート 2』に「iki wa ikip そやつが」(p.29) という用例がある。
- 104) i=korayke : i=「私を」 ko-「～と共に」 rayke「～を殺す」と解釈して「(敵を) 私もろとも殺す」と解釈している例もある (たとえば『ユーカラ集 3』 p.120)。しかしここでは、直前で「助けて」と言っていることから自分も一緒に斬ってほしいのではなく、「ikotuye wa / ikoraike wa / ikoropare yan 私のために切って / 殺して / ください」(『久保寺ノート 2』 p.47) のような意味とした。この場合、i=「私に」 ko-「～に対して」 rayke「～を殺す」か。
- 105) イゾキラ i=ekira : ノートの表記にしたがうと iyekira だが、y は挿入音。
- 106) チコタタカルラン / ハワシアワ : この 2 行は、後から挿入されている。「チコタタカルラン」は r がひとつ余分だが cikotatar yan の意味か。
- 107) hotke kosonte : 『千歳辞典』に「hotke kosonte 寝具として上にかけるための着物」(p.358) とある。
- 108) eopara / hamne : 『萱野辞典』に「オペラハムネハムネ 【opera-hamne-hamne】 ひらひらさせる : 着物を着て帯を締めずにひらひらさせている」(p.180) とある。「eopara / hamne hamne

帯しないで着て / ひらひら動く」(『ユーカラ集3』 p.78) とあるように、ここでは急いで着物を羽織ったために、帯を締めず、着物をひらひらさせている様子。

- 109) sosam'otpe: 『沙流辞典』に「sosamotpe 壁に掛かっている刀」(p.677) とある。
- 110) tamorawkire: tam 「刀」 orawki 「～を取り逃がす」 -re 「～させる」。直訳は「刀に(相手)を取り逃がさせる」だが、刀を振るっても逃げられてしまうという意味で「atamorawkire わが太刀で斬り逃す」(『アイヌの叙事詩』 p.151) のように訳される。
- 111) koykaturi: 『久保寺辞典』に「ikaturi 大股を超える、またぐ」(p.96), 「akoikaturi 我大股に超えたり」(p.19) とある。
- 112) sikoetaye: 直訳は「...を自分の方へひっぱり / 引き寄せる」(『沙流辞典』 p.631)。
- 113) etam'etoko- / kosennatara: sennatara は「ser-natara の音便。ser- は刀の肉を切る音」(『金田一全集9』 p.448) とあり、「スバと鳴りて」(同: p.438), 「一撃に斬り下げる」(『クトゥネシリカ』 p.40), 「切れる音じわりじわり」(『ユーカラ集6』 p.238) などの訳が当てられている。いずれの場合も刀で(敵の)身体を斬るときに用いられている表現。「aetametoko- / sennatara わが太刀さきに / ジワリと鳴りわたる」(『金田一全集9』 p.448) を参考にこの2行で1語扱いとした。
- 114) citata kewe: ci- 「～される(中相)」 tata 「～を刻む」 kewe 「死体」で、『久保寺辞典』に citata kewe で「ばらばらの骸 切断せられた屍」(p.49) とある。
- 115) ikinrapoki: 「Ikin rapoki その時に」(『アイヌの叙事詩』 p.173)。
- 116) ハヨクルゴネ: ノートでは行頭「ハ」の上に鉛筆書きで丸印(○)が書かれている。
- 117) tek un akam: akam は『久保寺辞典』に「輪 [n] (1) 円形のもの(Shitono の如き) (2) 輪。金盤。或器の一。円盤投に用ひる 円盤状のもの。周囲に刃あり。投げて人を殺す。(3) 姥百合の澱粉糲より製す円盤状の食品」とある。ここでは(2)の武器としての akam。ただし本テキストで登場する akam は、後に明らかになるように、刃で斬ることを目的とした投擲武器としては使われない。むしろ、akam に紐(縄)が付いていることが特徴で、akam を投げることで相手に紐(縄)を絡みつかせるといった使い方がされる。本テキスト以外でも、「rukani akam / rukani haitush / chiekotpap みずかねのアカム / みずかねの縄(を) / つけたのを」(『ユーカラ集1』 pp.236-237) とあったり、ru kane akam を「くさり鎌のようなもの」(『アイヌの叙事詩』 p.246) と説明したりしているように、縄や紐が付いている akam はしばしば登場する。また、tek un akam というのは「tekorun-akam 腕輪」(『久保寺ノート5』 p.100) とあるように腕輪のように手首にはめるような akam だと解釈した。
- 118) carse akam: carse は「滑る」の意味と、「etor, tumush などをざくざく着けたる様。又その音」という意味がある(注70参照)。at 「紐」について carse が用いられている「atcharse hum / tununitara さらに綱をほどく音 / 鳴りひびきたり」(『金田一全集9』 p.140) という用例を参考に、ここではアカムに紐が「ざくざく着」いている様子を表しているものとした。
- 119) tek or saye: ここで手(手首)に巻いたのは紐の部分で、次行で懐に突っ込んでいるのはアカムの本体(円盤状の部分)と解釈した。
- 120) esikomare: sikomare (< sik 「目」 omare 「～を<場所>に入れる」)で「目を注いで見る」(『ユーカラ集3』 p.103)。e- はここでは音節数を整えるための接頭辞か。
- 121) niwen cinika: 『久保寺辞典』(p.44) に cinika は「足踏」とある。
- 122) エヤイタツスカ / リテリテ eyaytapsutka- / riterite: e- 「～について」 yay- 「自分の」 tapsut 「肩」 ka 「～の上」 riterite 「～を伸ばし伸ばしする」と考えられるので、エヤイタツスカはtが脱落しているが eyaytapsutka か。eyaytapsutka-riterite について金田一京助は「棒を振上げて打

- ちおろす前、腕ならしに棒を振って腕をのばしのばし肩を試みること」(『金田一全集9』p.177)と説明している。鍋沢のテキストには、力を込めて投げる際の準備動作の表現として「アエヤイタブスツカ。コリテリテ ワ。……チコエヤブリキ。(a=eyaytapsutka- / koriterite wa …… cikoeayapkir) 神汝の肩をば / 回して…… 投げつけて」(『折道全集』p.52)とある。本テキストでも力を込めて紐付きのアカムを投げるために肩を回しているということか。
- 123) オアツニヒ oatcinihi: オアツニヒは「チ」が脱落しているが, oar\_cinihi か。465行目も同様。
- 124) a=ekonisuye : ekonisuye は「投げる」(『萱野辞典』p.134), 「打つける」(『久保寺辞典』p.13)。yukar(1) 注245)も参照。
- 125) sine ikinne : sine ikinne (< sine 「ひとつの」 ikir 「列」 ne 「である」) は「一様に、皆そろって」(『沙流辞典』p.223)の意味。ここでは、多くの戦艦すべてを一本のアカムの紐でまとめて捕捉する様子。
- 126) at konoye : 『久保寺辞典』には konoye 「絢(な)ふ」(p.138)とあるが、ここでは帆柱にアカムの紐が巻き付いた様子か。
- 127) at sarkese : 『沙流辞典』に「sarkes いちばん末の端」(p.609)とある。
- 128) テッコノイゴ : ノートでは行頭「テ」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 129) tekkonoye : tek 「手」 ko- 「〜と共に」 noye 「〜をねじる」。ここでは「atekkonoye 我が手に巻きつけ」(『ユーカラ集5』p.245)のように、アカムの紐が取れないように、自分の手にしっかりと巻きつけた様子。
- 130) koyayotoyotum- / anpa : ko- 「〜に対して」 yay- 「自分」 o- 「〈場所〉から」 toy- 「激しい」 tum 「力」 anpa 「〜を持つ(複)」。
- 131) ウラフンタクル / ブツテ uohumtakur- / pukte : u- 「互い」 o- 「〈場所〉に」 hum 「音」 ta (=tak) 「塊」 kur (虚辞) pukte 「〜をたち渡らせる」か。「ukohumkur 一つになつた音 一つに連なった音」(『久保寺辞典』p.291), 「uopukte (声)が相和して起きる」(『千歳辞典』p.56)などを参考に、死んだ魂がいくつも飛んでいく音が響きあっている様子を言う語と解釈した。ノートの表記にしたがうと uwohumtakur だが, w は挿入音。
- 132) ダンカムイマフ tan kamuy maw : マフは maw。
- 133) コfumマチキ kohumumatki : コfumマチキは kohumumatki。意味は kohummatki と同じで、『久保寺辞典』には kohummatki で「段々たる響おこれり。ふうふうと鳴る。(幾度も幾度もなり響く。) 鳴りとどろく」(p.135)とある。kamuyyukar(2) 注33)も参照。
- 134) wen peupun : wen 「程度がひどい」 pe 「水」 upun 「吹雪、雪煙」。
- 135) ukohopuni : 『千歳辞典』に「ukohopuni いっせいに起こる」(p.60)とある。
- 136) ne hi koraci : 『久保寺辞典』に「nehi korachi 忽ち、それと共に、それにつれて」(p.165)とある。
- 137) a=utomekik : u- 「互い」 tom 「〜の胴体」 e- 「〈場所〉で」 kik 「〜を叩く」か。ここでの a= は受身を表すため、直訳は「互いの胴を叩かれる」となる。海の激しいうねりや、ポイソヤウンマツがアカムの紐を引っ張ったことによって、船同士がぶつかり合っている様子。
- 138) sinnatoyne : 『久保寺辞典』に「shinnatoine 別にする、別々にやる」(p.246)とあるが、keusitara の意味(注139)参照)も参考にして意識した。
- 139) keusitara : 『久保寺辞典』には keus で「かんかん鳴りひびく」、keusitara で「鳴りさわぐ」(p.127)とある。yukar(1) 注21)参照。
- 140) Poysoyanmat / at sarkes ta / komke : komke は「折れ曲がっている」ことなので、ここでは

アカムの紐の端を握っているポイヤウンマツが体を「く」の字に曲げるほど踏ん張って船を引っ張っている様子。

- 141) a=koyankekar : ko- 「～に向かって」 yanke 「陸に上げる」 kar (他動詞形成接尾辞)。  
142) アコヤンケカラ / バクノネコロ : ノートでは、この2行の行頭にそれぞれ赤でカギ括弧が書かれている。  
143) pet turasi / tapan rorunpe / a=moyrerutu : ポイヤウンマツが船を(粉々にして)上陸させたため、戦いの場が海上から陸側に移ってきた様子を言う。  
144) a=kor sapo : ポイヤウンマツのこと。ポイヤウンマツと彼女の召し使いの間には血縁関係はないが、「sapo 姉」は実姉に限らず親しい女性のことを言う語。  
145) kamuy yuppo : 主人公のこと。  
146) イユテク i=utek : ノートの表記にしたがうと iyutek だが、y は挿入音。  
147) kotan epeka : 『久保寺辞典』に「epeka 真直に指す。正しくあたる」(p.64)とある。「Shinutapka / aepeka yakun シスタブカの郷へ / われ正しく着くならば」(『金田一全集9』p.362)。ポイヤウンマツから言われたとおりシスタブカに正しく到着することができたのかを尋ねている。  
148) アネケフイケ a=neykehuyke : 「aneikehuike / araka awa / humash ya ka / aeramishkari わが何処のところか / 痛むものにて / ありしかも / われ知らず」(『金田一全集9』p.361) という用例があることから、ノートの表記「アネケフイケ」は、「イ」が脱落しているが a=neykehuyke とした。『萱野辞典』に「ネイケフイケ【neyke huyke】どこもかしこも」(p.355)とある。『金田一全集9』によると、この場合は「どこが痛いのが痛いのもも打忘れ、などという語気」で「痛さも忘れて飛び起きて救いに駆け出す」という様子。  
149) ボンメノコ : ノートでは行頭「ボ」の右脇に赤でチェック(✓)が書かれている。  
150) oyoyo tura : 「Oyoyo tura 驚きのさけびと共に」(『金田一全集9』p.421)。  
151) apa noski / paweotke : paweotke は pa(w)「頭」e-「〈場所〉に」otke「～を突き刺す」か。「apanoshki / a-pa-e-otke 戸口の中央へ / 頭をつつこむようにして」(『神話・聖伝』p.167)。同ページには「吊り蓆を頭ではねのける様」という注がある。ここでは、勢いよく外に飛び出して行く様子。  
152) seturu kasike / a=yayrarire : 『沙流辞典』に「seturu kasi yayrarire 彼の背中の上を押えつける = 彼のあとにピタッとくっつく」(p.864)とある。ここでも同様に、外に出て行った女のすぐ後に続いて、主人公が外に出て行く様子。  
153) アバエオツケ a=paeotke : 543行目ならびに559行目では「バズオツケ」だがこの行では「ズ」ではなく「エ」となっている。いずれもノートの表記にそのまま従ってローマ字化した。  
154) a=rutkosanpa : rutkosanpa は rut「押しずらす(語根)」-kosanpa「急に～する」だが、「urar tura / arutkosampa 雲霧と共に / われらふと入りぬ」(『金田一全集10』p.105)、「urar tura / rutkosanu 霧と共に / ほつとあらはれたる」(同 : p.387)のように「さっと入る」「急に現れる」などの訳があてられていることが多い。  
155) kasa kepsama : kepsam は「はし、はづれ」(『久保寺辞典』p.126)。  
156) ciw kar humi : ciw は「水の早い流れ。それが当たって起こる波」(『千歳辞典』p.251)。  
157) kosepepatki : kosepepatki は「(雨などの音が) ザアアッと / パラパラバラッと鳴る」(『沙流辞典』p.339)であり、特に「風雨や風雪の音などという語」(『金田一全集9』p.357)。ここでは疾走しているために波しぶきなどが多くかかってくる様子。  
158) ホンメノコ : pon menoko の意か。

- 159) アテムニコッタ：ノートでは「テ」の右脇に赤でチェック（✓）が書かれている。
- 160) a=koceyaotke：ko-「～に向かって」c(i) -「自ら」e-「～でもって」ya「陸」otke「～を突く」か。『萱野辞典』に「チェヤオッケ【c=e-ya-otke】岸へ着く：舟の頭が岸へ突き刺さるようにして着く」(p.301)とある。
- 161) siki kurkasi ~ i=esanke：直訳は「目の表面に / 血管があり / 白目を / 私に出す」。この女は、主人公につかまれて海の中を移動している最中に溺れ死んでしまっている。
- 162) レタルシキヌミ retarsiknumi：シキヌミはsiknumi。
- 163) イゾサンケ i=esanke：ノートの表記にしたがうとiyesankeだが、yは挿入音。
- 164) シザラバルゴ：ノートでは行頭「シ」の右脇に赤でチェック（✓）が書かれている。
- 165) tu aynu nokew：nokewは「したい（死体）；死骸」(『人間篇』p.196)。
- 166) a=ehopuni：e-「〈場所〉へ」hopuni「飛び立つ」。『静内語彙』に「ehopuni [場所] へ飛んで行く」とある。
- 167) turusitara：『久保寺辞典』に「turusitara 狂気の様になつて前後を忘れてしまふ」(p.284)とある。
- 168) kohum'epus：「kohumepus 音を立てて」(『アイヌの叙事詩』p.496)。『ユーカラ集1』には「hum『音』epus『爆(は)ねる, 噴火する』」で「轟々と雷音を発する」(p.187)意味とある。
- 169) otu ototrim：ototrimは「thumping sound. The report of guns」(『バチェラー辞典』p.371), 「傲かな物音(どんどんといふ)」(『久保寺辞典』p.195)。ここでは、遠くから聞こえてくる戦いの音で、629行目のrorumpe humiと同じものを指す。
- 170) otuk：『バチェラー辞典』によるとotukは「To give forth a thumping sound」(p.372)。
- 171) tu utur orke：「tu uturorkehe そのあいだあいだ」(『アイヌの叙事詩』p.224)。似た表現として、tu utur samaがあり、これも「あひだあひだ」(『金田一全集9』p.370)などと訳されている。また、『久保寺辞典』には「tu-utur sama たびたび, 時々」とある。いずれも時間的な「間」を指し、断続的に続くという意味を表す語句。
- 172) コトンデクトンデク：ノートでは行頭「コ」の右脇に赤でチェック（✓）が書かれている。
- 173) コトンデクトンデク kotuntektuntek：『久保寺タイプ』では「ko-tontek-tontek」とローマ字化されているが、tontekは「Calm. Peaceful」(『バチェラー辞典』p.506)という意味である。ここでは戦いの音が聞こえている様子であることから「ト」はtuと解釈して、kotuntek「～をゆるがすほどひびく」(『千歳辞典』p.285)とした。
- 174) pet rantomo：『久保寺辞典』に「pet rantom 中流, 水源地」(p.207)とある。
- 175) eputakamu：e-「〈場所〉に」puta「ふた」kamu「～にかぶさる」。yukar(1)注396参照。
- 176) kuttumuhi：「Ne kuttum その真ただ中に」(『アイヌの叙事詩』p.348)。「tumはtom(中)と同じ」(『金田一全集9』p.488)とある。kut-については「kut 咽喉」(同)という解釈と、「kur-tom = kuttom」(『久保寺辞典』p.148)のように虚辞のkurが音韻交替したものという解釈とがある。kuttumの用例を見る限りでは「tutoyankuttum 深く土中に」(『金田一全集9』p.488)のように「咽喉」にあたる意味は特に見受けられないことや、本ノートにおいて鍋沢が最初は「クル」と書いている(が後に改めている)ことから、kut-tum < kur-tumか。
- 177) mi hayokpe / heru penramu / tekeokte：戦い続けていたポイソヤウンマツの鎧が原形をとどめないほどぼろぼろになったため、かろうじて残った胸の部分を自分の手で押さえて体を隠そうとしている様子。tekeokteはtek「手」eok「～に引っかかる」-te「～させる」。「Mi-kosonte / heru penram / tek-eokte 着いた小袖は / たった上体のみで / 手を掛けて」(『クトゥネシカ』p.170)。

- 178) ハリキサマ harkisam \_wa:「ハリキサム」は harkisam. r の直後に-i の音が挿入された表記。
- 179) esiyarpok- / anpa: 動作主も被動作主も三人称なので、(1) 兄 (ポイヤウンクル) が妹 (ポイヤウンマツ) を抱えている、(2) 妹が兄を抱えている、というどちらの解釈も可能である。644行目以降はすべてポイヤウンマツが主語であると捉え、妹が兄を抱えているものと解釈すると、ポイヤウンマツは (右手で) 自分の鎧の胸元を押さえながら、左手で兄を抱えていることになるが、「槍で奮闘し / 刀で奮闘し」(658~659行目) と続くことから、動作主は少なくとも片手は空いていると考えられる。そのため、648行目で動作主が変わり、兄が妹を抱えているものと解釈した。
- 180) komonracici / kotekracici: ko-「～に対して」 mon「手」 racici「～をだらんとぶらさげる」。『アイヌの叙事詩』に見られる同じ表現の場面では、鎧が「数多の裾の切れ切れが / 落ちてしまい / ただ肌のうわべが / 見えている」(p.495) ほどの劣勢になった勇士が殺される直前に「komonrachichi / kotekrachichi 腕を下げ / 手を下げて」いると語られる (p.496)。このほか、毒の風によって「わが胸のさま / 溶けてくる如く」になった主人公が「どうしたものかと」困惑する場面で「tam ani hontom / akotekrachichi 太刀を握る力 / わが腕もだらりと下がり」(p.231) のように使われるなど、危機的な状況にまで追いつめられてしまったために力が入らない様子を表す語句のようである。
- 181) tuwan op sakir: 直訳は「二十の槍の竿」。sakir は「竿、長い棒」のことだが、ここでは穂先に対する持ち手の部分を特に示すわけではなく、槍全体を指していると解釈した。
- 182) a=eninu: ninu はここでは「貫く」(『久保寺辞典』p.171) という意味。「tuwan opshakir / rewan opshakir / aieninu 数十の鎗に / 幾十の鎗に / 我刺し貫かれ」(『ユーカー集 8』p.106)。a= は不定人称でここでは受身。
- 183) ukaetuye:『久保寺辞典』に「ukaetuye 幾本も切る」(p.289)、「aukaetuye われ撃つ」(p.34) とある。
- 184) タパンベクス: ノートでは行頭「タ」の右脇に赤でチェック (✓) が書かれている。
- 185) rorunpe kurka: 直訳は「戦いの上」だが「rorunpe kurka 戦場に」(『クトゥネシリカ』p.216) を参考に訳した。
- 186) rorunpe kurka / kotuntek katu: 624行目、629行目で聞こえていた音 (otu otornim) の正体が、ここで明らかになっている。注169) も参照。
- 187) herukuwanno:『久保寺辞典』に「herukuwanno ただただ全く、ひたすらに」(p.84) とある。
- 188) i=monuspare: i=「私を」 mon「手」 us「～につく」 -pa (複数) -re「～させる」。monus は「Busy」(『バチエラー辞典』p.303) とあることから、「私を忙しくさせる」という意味か。この文脈ではポイヤウンクル兄妹を助けること。
- 189) a=eukotama:『萱野辞典』に「エウコタマ [e-u-kotama] 一緒に、ともに、あわせて」(p.126) とある。
- 190) Poysoyaunmat ~ a=tuypa hine: 助ける相手であるはずのポイヤウンクル兄妹を殺しているのは、一度殺した後で蘇生させようとしているため。同様のモチーフとして、『叙事研』所収の「トゥムンチベンチャイ、オコッコベンチャイ」に、殺されてカワガラスになった叔母を主人公が「細かく叩いて刻」みながら「生き返らせ」てくれるように祈る場面がある (p.106)。
- 191) a=oytakkote: oytakkote は「...に引導をわたす、葬式をする」(『沙流辞典』p.502) などとある。しかし、ここでは nomikamuy に対しての祈詞であるため、oytakkote の原義である o「～の末端」 itak「言葉」 kote「～を～に結びつける」に近い意味として解釈した。
- 192) シキヌレワ sikhure wa: シキヌレは sikhure。

- 193) a=eyaytemnikor- / okewtuye : e- 「～について」 yay- 「自分の」 temnikor 「両手で作った輪の中」 o- 「〈場所〉で」 kew 「体」 tuye 「～を切る」。
- 194) eane num ne : eane は『沙流辞典』によると e- 「その頭」 ane 「細い」 (p.650) で、「Thin. High or squeaky as the voice」(『バチェラー辞典』 p.98), num は「大勢の人の群の中の一人一人」(『沙流辞典』 p.440) なので、「細い人々となる」が直訳。槍を持っている人々が細長い列を作ったということ。『ユーカー集4』の「『とがった組となり』は少数で先に立ってすゝむ組の意」(p.266) という eane num ne についての説明を参考に意識した。
- 195) i=koyaysana- / sapte : i= 「私に」 ko- 「～に対して」 sa 「前の方」 -na 「～のほうに」 sapte 「～を前へ出す」か。『ikoyaysana / sapte kane われの前に / 出てくる』(『クトゥネシリカ』 p.66)。
- 196) kunum ka ta : 『久保寺辞典』に「kunum 弓柄」(p.147) とある。
- 197) kocawcawatki : 『千歳辞典』に「kocawcawatki 矢が飛ぶ時、あるいは大砲の玉が飛ぶ時に、ビューッと音を立てている」(p.184) とある。
- 198) tunas ek ay ~ ranke kane : この部分の常套表現としては、「hanke ek ay / numus kawkaw ne / aikotunas / ranke kane, / tuyma ek ay / konus upas ne / aikomoyre / ranke kane 近く飛びくる矢は / 大粒のあられの如く / われへすばやく / 落ちてくる, / 遠く飛びくる矢は / 大雪の如くに / われへ静かに / 落ちてくる」(『クトゥネシリカ』 p.151) のように、近く来る矢=早く落ちる, 遠く来る矢=遅く落ちる, という対が一般的である。そのため、本テキストにおける早く来る矢=早く落ちる, 遠く来る矢=遠く落ちる, というペアは、書き間違いの可能性も考えられるが、表記どおりに訳した。
- 199) a=i=kotunas- / ranke kane : ko- 「～に対して」 tunas 「早い」 ranke 「～を下ろす」。「aikotunas / ranke kane われへすばやく / 落ちてくる」(『クトゥネシリカ』 p.151) など。
- 200) konus upas ne : konus upas は「雪片の大きなもの」(『久保寺辞典』 p.138)。
- 201) a=i=kotuyma- / ranke : ほかのテキストでは、kotuy~~ma~~ranke ではなく、komoyreranke 「～を～に対して遅く下ろす」が来ることが多い。注198)も参照。
- 202) a=esinene : 『久保寺辞典』に「aeshinene 我が身を屈め交はす」(p.14) とある。『金田一全集 9』(p.250) には「a (我) e (そこ, 矢の間) shi (自身) nene (回転す)」という語釈がある。
- 203) イゾハイタベ i=ehayta pe : 『沙流辞典』に「ehayta ... にはずれる, (人) に当たらない」(p.81) とある。ノートの表記にしたがうと iyehayta pe だが, y は挿入音。
- 204) オハオカワ : ノートでは行頭「オ」の上に赤でチェック (✓) とカギ括弧らしき記号が書かれている。
- 205) ohaoka wa : 『沙流辞典』に「ohaoka ... だけにいる (他にだれもない)」, 「... ohaoka wa ... だけで」(p.455) とあることから, i=ehayta pe / ohaoka wa の直訳は「私を外した者 / だけで」となる。
- 206) uaykorarpa : u- 「互いに」 ay 「矢」 ko- 「～と共に」 rarpa 「～を押さえつける (複)」。「u-aykorarpa 矢の立て合いて」(『アイヌの叙事詩』 p.581)。
- 207) uasis haw ko : 『久保寺辞典』に「ashishi 罵る. 叱る」(p.31) とあることから, uasis で「互いに罵る」。敵同士が相討ちになってしまったために「ポイヤウンベに射ればよいのに, おれに中てたと口々に, 射られたものの罵る声々遠く起る」(『金田一全集 9』 p.197) という様子。
- 208) pepunitara : 『沙流辞典』に「pepunitara にぎやかである」(p.522) とある。
- 209) orake katu : orake は「減る, 減ずる」(『久保寺辞典』 p.190)。
- 210) kikir say murse : 「kikir say murse 虫の群のかたまり」(『クトゥネシリカ』 p.213) という訳があることから, murse は『方言辞典』に見られる「群がる」(p.183 : 八雲) という意味か。

ここでは敵の群集が大勢いる様子を喩えた表現。

- 211) sir\_ rapoki : 「Sin rapoki その時」(『アイヌの叙事詩』 p.400) など、鍋沢のテキストではしばしば見られる接続句。
- 212) sias kamuy maw : 「sias kamuy maw 激しい神風」(『クトゥネシリカ』 p.216)。yukar(2) 注386)も参照。
- 213) mosir ka us pe : 直訳は「地面の上に生えているもの」で、次行の sirkorkamuy 「大地を持つ神 = 大木」と同格。
- 214) モマシリクルカ : 「リ」は鉛筆書きらしき薄い文字で後から書き足されている。
- 215) tu pe noya ne : 『金田一全集9』には「tu (二つ、数々の) pe-noya (水蓬) -ne (のよう)に。noyaが蓬、peは水、水蓬のたわみ易いもののように大木がたわむ」(p.416) という説明がある。ただし「水蓬」はpe noyaの直訳らしく、このような名称の植物があるわけではないようである。このpe noyaは大風で大木が簡単に飛ばされてしまう様子を言う際に用いられる表現であるため、「やわらかい草」というほどの意味か。『アイヌの叙事詩』では「数多の若いよまぎのように」(p.193)、「青草のように」(p.487)などと訳されている。
- 216) kohepitatpa : 『久保寺辞典』に「kohepitatpa 身を弾かせて起き上がる ずつと高く起る、ぱつと起る」(p.134)とある。
- 217) koopentarpa : ko「～と共に」opentar(i)「～を根元から掘り起こす」-pa(複数)。ここでのopentarpa(単数形opentari)は「根から掘り起こす意」(『金田一全集9』p.176)。
- 218) ドミソクルカ : ノートでは行頭「ド」の上に赤鉛筆でカギ括弧が書かれている。
- 219) ゴントヒラ wen toyra : トヒラはtoyra。『小辞典』にtoyraは「土ほこり」(p.134)とある。
- 220) ewehopuni : 『沙流辞典』にewehopuniは「...を(巻き風)が巻き上げて行ってしまふ / 飛んで行く」(p.141)とある。
- 221) hetopo horka : hetopo「逆に、反対に」horka「反対に、逆方向に」。『久保寺辞典』に「hetopo horka 引返してまた、引返す」(p.85)とある。
- 222) iciw op kunne : 『久保寺辞典』に「ichiuop 投げ木」(p.95)とある。
- 223) kosiwsiwakki : 『萱野辞典』に「コシューシュワッキ【kosiw-siw-atki】びゅーっと風が鳴る、木の枝に風があたって鳴る、風の音がうなりをあげる」(p.237)とある。
- 224) sinna kane : 多くの場合「別々になって」と訳されるが、この文脈にはそぐわない。「emus kor pe sinna kane op kor pe sinna kane hine 刀を持つものは別々に、槍を持つものは別々に (= 刀を持つ一団がおり、それとは別に槍を持つ一団がいる)」(『千歳辞典』p.228)のように、sinna kaneはある集団と、それとは異なる別の集団とがいるという意味で用いられる語であるため、ここではni eray pe「木でもって死ぬ者」たちが、(ほかの人たちとは別の)ひとつの集団となって飛んで行く様子とした。
- 225) pewre humse : 魔払いのための声を発するという。yukar(1) 注70)も参照。
- 226) a=eyayramkotor- / mewpa : 『久保寺辞典』に「ramkotor mewe (meupa) 胸を張り元気を振り起す」(p.218)とある。yukar(1) 注71)も参照。
- 227) a=ekantuye : 『久保寺辞典』に「ekantuye 片ばしから斬る <e(それにて) kan(上, 末, 下端)」(p.58)とある。
- 228) ハリキサナム harkisam\_wa : 「ハリキサム」はharkisam。
- 229) a=monkakonna : 『金田一全集9』に「amonkakonna わが揮ふ腕」(p.245)とある。
- 230) a=nokikkar pe : no- (強調の接頭辞) kik「～を毟る, ～を打つ」-kar(他動詞形成接尾辞)。『アイヌの叙事詩』に「anokik kar われ激しく打ちつけ」(p.239)とある。

- 231) raycep turse : raycep は「動物の死骸」で、『沙流辞典』には「人間については言わない、言う  
とすれば憎んでいた人を犬猫にたとえて言うときだけ」(p.567)とある。ここでも主人公に強  
く叩かれて死にそうになっている敵を動物の死骸に喩えている。
- 232) ゼプテシテケ cep testeske : 「シ」がひとつ脱落しているが, cep testeske. 797行目に同じ表  
現が確認できる。testeske は「ハタハト<sup>(ママ)</sup>と魚等が跳ねる, そる」(『久保寺辞典』p.272)。raycep  
turse と同様に, 主人公に強く叩かれた敵が死にそうになっている様子の比喩。
- 233) エカンナユカル : ノートでは行頭「エ」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 234) kamuy rorunpe : 『金田一全集 9』には kamuy rorunpe について, 「天上に於ける, 彼我の憑神  
と憑神との戦」という説明がある (p.283)。
- 235) anun turen pe : anun は「他人, よそ者, 見知らぬもの」。ここでは主人公が戦っている相手の  
こと。
- 236) uhumkoraye : u- 「互いに」 hum 「音」 ko- 「と共に」 raye 「～へやる, ～へ行かせる」。憑き神  
たちの戦っている音が互いに離れて行く様子か。yukar(2) 注266) 参照。
- 237) ウフムコユブ uhumkoyupu : ukohumkoyupu で u- 「互いに」 hum 「音」 ko- 「～と共に」 yupu  
「～を引き締める」と解釈できるため, ノートの表記どおりにローマ字化した。しかし, 『久保  
寺ノート 5』に「uhumkoraye / uhumkochupu 音がお互い離れたり / 一緒になったりして」  
(pp.48-49) のように uhumkoraye との対句では uhumkocupu が用いられている例があることか  
ら, ウフムコユブは uhumkocupu を意図した脱字の可能性も高い。u- 「互いに」 hum 「音」 ko-  
「～と共に」 cupu 「～をつぼめる」は, 前行 ukohumraye とは逆に, 憑き神同士が戦っている  
音が互いに近づく様子。806～807行目で憑き神たちが激しく戦っている様子を表す。
- 238) arannutara : 「arannutara 全く手を出す事も出来ず」(『アイヌの叙事詩』p.399)。『久保寺辞典』  
に「arannotara 全く打負ける(打負かされる) 終に打負かすく ar annutara = annotara」(p.27)  
とある。
- 239) a=eohorkakur- / paste : e- 「〈場所〉へ」 o- 「～の尻」 horka 「反対に」 kur (虚辞) pas 「走る」  
-te 「～させる」で, 「～を～へ後ろに走らせる」。主人公の憑き神が優勢になり, その勢いに  
押された敵の憑き神が後退を余儀なくさせられている様子。
- 240) humrikikur- / punpa : hum 「音」 riki 「高所, 高く」 kur (虚辞) punpa 「～を持ち上げる(複  
数)」。レプンクルの憑き神が勢いを取り戻した様子。
- 241) yaunkur mosir : 「ヤウンクルの国」は, 主人公たちの暮らす場所。
- 242) sawre kane : ここでの sawre は「弱る, 衰へる, 減る」(『久保寺辞典』p.236) の意。
- 243) irampiskire : 『千歳辞典』に「irampiskire (日数などを) 数える」(p.47) とある。
- 244) アキヒケ : ノートでは行頭「ア」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 245) tokap rerko : 直訳は「昼3日」。ここでの rerko は「三」という意味がなくなって, 単に「日」  
を表す場合(『千歳辞典』p.428) という用法。昼も夜も, 長い間戦ってきたことを言う。
- 246) cisiturire : ci- 「自ら」 situri 「伸びる」 -re 「～させる」。「伸びている」という意味(『沙流辞典』  
p.62, 『久保寺辞典』p.49) であり, 「Tapan inuma / ram-pes kunne / chisiturire この宝壇が  
/ 低い丘の如く / ずっと延び」(『アイヌの叙事詩』p.407) のように, 宝壇や焔緑, 枕などが  
伸びている様子に使われることが多いが, ここでは「op kor numi / ri-hastay ne / chisiturire  
槍を持つ群は / 高い枝の林の如く / 立ち並んでいる」(『クトゥネシリカ』p.66) のように群  
集が立ち並んでいる様子。
- 247) セタクイキリ seta kikir : クイキリは kikir 「虫」。「seta kikir 犬にたかる虫」(『ユーカラ集  
1』p.246)。yukar(1) 注434) も参照。

- 248) seta kikir ~ a=ekeskekar: 敵の村を殲滅する際の常套表現。yukar(1) 注434)~436) 参照。
- 249) konisepar- / sanke : 『久保寺辞典』には epar kur で「ちぎれちぎれに、ばらばらに / Iyosh nishkuri, ruyampe nish ne nisheparkur, sanke kane 後より来る雲は雨雲となりばらばらにちぎれて出て来れる」とある (p.64)。この場合の kur は虚辞と考えられるため、epar で「ちぎれちぎれに」という意味か。そのため、ko- (虚辞) nis 「雲」 epar 「ちぎれちぎれに」 sanke 「～を出す」と考えられるが、文脈からは雲が出るのではなく消えている様子。
- 250) amsamamni : am- は「平面上の物に付いて『ひろやかな』気持ちを添へる」意味の接頭辞 (『久保寺辞典』 p.20)。kamuyyukar(1) 注5) 参照。
- 251) a=eosokur- / ciwre : ciwre で「落ちつく。下ろす」(『久保寺辞典』 p.50) とあるので、e- 「〈場所〉に」 osor 「尻」 kur (虚辞) ciwre 「～を下ろす」となり、「〈場所〉に腰を下ろす」という意味。
- 252) ボイソヤコタン : ノートでは行頭「ボ」の上に赤で、カギ括弧が書かれている。
- 253) e=ehosipi : 主人公が自分で自分に語りかけているため、e= 「お前」は主人公自身のこと。ehosipi は e- 「〈場所〉で」 hosipi 「帰る」。
- 254) a=tekrikikur- / punpa : 『パチエラー辞典』に tekrikikurpumpa は「To lift up the hands as in salutation」(p.496) とある。拜礼のために手を胸の前に掲げるしぐさを言う。
- 255) nep kamuy nam : nam は『久保寺辞典』に「nam (さへ、語勢的助辞、後置詞)」(p.130) とある。
- 256) nispa rok ru : 『クトゥネシリカ』に「nispa rok ru 勇士の住むところ」(p.195) とある。
- 257) kosisanonkar : 『沙流辞典』に sisanonkar で「様子を見に行く」(p.663) とある。
- 258) cikohummore : 『久保寺辞典』に「chikohummore 音を鎮める」(p.43) とある。
- 259) kohumterkere : 『ユーカラ集1』に「humterkere 『音を跳ばした、音をたて、跳んだ』」(p.408) とある。憑き神などが音を立てながら移動する様子に用いられる語。
- 260) onissak rera : 『アイヌの叙事詩』に「onis sak rera 雲無しの風」(p.518) とある。
- 261) マフシリカシ maw sirkas : マフは maw。
- 262) a=koykaturi : a=koykaturi で「疾走する」(『クトゥネシリカ』 p.26) のように急いで移動する意味で使われる。yukar(1) 注388) 参照。
- 263) puta un casi : puta un 「蓋つき」とは山城全体がすっぽりと皮で覆われている様子を言う。外から見ただけでは出入り口や窓がどこにあるのかわからないのは、このためである。なお、953 ~957行付近でもこの山城の造りについて語られている。
- 264) apa un kuni : 「puyar un kuni 窓のあること」(『ユーカラ集9』 p.172)。yukar(2) 注167) も参照。
- 265) a=yaykakuste : yay- 「自分」 ka 「～の上」 kus 「〈場所〉を通る」 -te 「～させる」なので、直訳は「...を自分の上を通す」(『沙流辞典』 p.851) だが、この文脈では「私は土けむりをかぶって身をかくしていた」(同) という意味で使われる。
- 266) ikatkar sinotca : 『萱野辞典』に「イカッカラ シノッチャ=人の心を混乱させる歌=恋歌」(p.46) とある。
- 267) アエラフンクチ : エラフンクチは eraunkuci。意味は次注268) を参照。
- 268) a=eraunkuci- / oyna : e- 「～について」 ra 「下方」 un 「～にある」 kuci 「～の喉」 oyna 「オイナを語る」。『久保寺辞典』にある「eraunkuci kamui noye 喉の奥より美しく調べ出でたり。(美しく歌曲をうたひ出づるにいふ常套句)」(p.66) と同義の語。
- 269) simaka hi ne hi : simaka は「tumi shimaka / rorumpe shimaka いくさの仕真似 / た、かひの

- 仕真似) (『金田一全集 9』 p.491) のように、「仕真似」と訳される使い方も多いが、『久保寺辞典』では「shimaka 仕真似, はつと開ける」(p.244) とあり、鍋沢のテキストでも「simaka hine 開いて」(『アイヌの叙事詩』 p.257) のように「開く」という意味で simaka が使われている例も見られるため、ここでも「開く」の意味とした。「ヒネヒ」は不詳だが、hine hi という連続が文法的には困難であることから、hi「こと」ne「～である」hi「ところ」か。
- 270) inampe namne : 「inampe namne 何とまあ, 何と立派な」(『久保寺ノート 1』 p.33, 『久保寺ノート 5』 p.62)。
- 271) sukustoy kunne : sukustoy は「真昼の明るい光」(『沙流辞典』 p.683)。kulle は「～のように」。
- 272) ienucupki- / ciwre : ienucupki は「照らしかがやかす光」(『久保寺辞典』 p.95)。iyenucupkiwre で「そこに日の光がさす」(『沙流辞典』 p.259) という意味になり、非常に美しい顔の形容。
- 273) エイボロドイマ eyportumma : 「rametok iporo / e-iporo tumma / sinna kanep 勇者の容貌 / 容貌をあらわして / 別に見える者」(『アイヌの叙事詩』 p.144) という用例があることから、ノートには「エイボロドイマ」と記されているが、eyportumma の意とした。『沙流辞典』には「eyportumma sinna ... で顔つきからして違っている」(p.166) とある。yukar(2) 注53 も参照。
- 274) tekkakipo : 『萱野辞典』に「テッカキ **【tek-kaki】** 手庇 (てびさし)。 / テッカキポ リクイルケ ラウイルケ = 手庇を上げたり下げたりしながら遠くを見る」(p.323) とある。
- 275) リクイルケ rikuyruke : 「ク」が小さく書かれているように見えるが、rikuyruke (< rik 「高所」 uyruke 「〈場所〉に～を置く」) とした。
- 276) シノツザカナウ sinotca kanhaw : 『千歳辞典』に「kanhaw こわだかな声。騒いでいる声」(p.153) とある。「カナウ」は kan-haw の h が音韻交替によって落ちたもの。
- 277) eyaykopapir- / eitak : 『クトゥネシリカ』に「eyaykopapir / eitak kane ひとり言を / 言う」(p.153) とある。
- 278) トンドザ tonto casi : 「シ」が脱落しているが、tonto casi 「なめし皮の山城」か。
- 279) uorun casi : uorun は「互に, 相重なる」(『久保寺辞典』 p.303)。「u-orun chasi 相重ねた城」(『アイヌの叙事詩』 p.56)。本文の文脈では、通常の上から皮でできた山城が覆いかぶさっているという入れ子構造になっている。
- 280) シゾトクオ sietok'o : ノートの表記にしたがうと siyetok'o だが、y は挿入音。
- 281) sikuyruke : sik 「目」 uyruke 「〈場所〉に～を置く」。『久保寺辞典』に「shik-uiruke 見渡す。眼を配る」(p.244) とある。
- 282) repotpe tonto / yaotpe tonto / ciwetantaku p : 『バチエラー辞典』に uwetantak で「To sew together.」(p.552) とあるが、pe (子音の直後に来る際の語形) ではなく p (母音の直後に来る際の語形) が後続していることから、uetantak ではなく uetantaku とした。「rep otpe tonto / ya otpe tonto / ciwetantakup 海獣の皮と / 陸獣の皮を / 縫い合わせたもの」(『アイヌの叙事詩』 p.220)。
- 283) ケツカブゾ ketkar puye : 未詳の語句。ketkar 「皮を張りほす」(『久保寺辞典』 p.127) puye 「穴」か。皮張りにあたっては、皮の隅に穴を開け、そこに皮をびんと張るための棒を刺すが、その穴のことか。また、ここではそのように穴が開いているまま、なめしなどの加工をしていない、張って干したままの毛皮という意味か。
- 284) ツベカレブ cupekare p : 「chiupekare 相対し」(『金田一全集10』 p.415) という語があることから、cupekare < ci- 「自ら」 upeka 「向かい合う」 -re 「～させる」とした。upeka は『久保寺辞典』に「相対す, 向ひ合ふ」(p.296) とある。ここでは穴 (注283) 参照) が互いに向かい

合っていることか。

- 285) eoyauna / teske kane p: 「aeoyauna- / teshke kane 膚にぴったり / 着けずに着て」(『ユーカラ集7』p.284) といった用例から、鎧がごわごわしている硬い皮で作られているために体にフィットしない様子か。yukar(2) 注207)も参照。
- 286) フレウシネ hure ussi ne: 2行前の「クンネウッシネ kunne ussi ne」と対句になっていることから、この行の「ウシ」はsがひとつ脱落しているが、ussi「漆」とした。
- 287) otu ka sinkop / ranke: 「糸をよっていくうちに、自然によった糸がねじれて輪ができる。それが糸がのびるに従って自然に下に下がっていく様子を描写した表現」(『千歳辞典』p.228)。yukar(1) 注271)参照。
- 288) オハリキソウン oharkisoun: 「オハリキソウン」はoharkisoun。
- 289) urapokkari / somo ki no: 「u-rapok-kari / somo neyakun まさり劣りは / しないゆえ」(『アイヌの叙事詩』p.315) のように、優劣つけがたいという意味で用いられる語句。
- 290) isane menoko: 糸縫りをしている pon menoko 「若い女」のこと。その女が、主人公が背中にくっついていて女の姉のようだと述べている。
- 291) a=meskosanpa: mes 「剥げる」(mesu 「～を剥がす」の語根) -kosanpa 「瞬間的に～になる」。なお、『アイヌの叙事詩』(p.70) には「mes 〈折れる, さける〉」とある。
- 292) ヤイタブクルカ yaytapkurka: 「クル」は脇に書かれており、後から挿入されたものと見られる。
- 293) カニボロカタ: ノートでは行頭「カ」の上にカギ括弧が書かれている。
- 294) kaniporo ka ta: kanipor は kan- 「上の」 ipor 「顔色」で、「顔の上部, 額の辺りの顔色を云う」(『人間篇』p.94)。
- 295) koraykosanpa: ko- (虚辞) ray 「死ぬ」 -kosanpa 「瞬間的に～になる (複数)」か。raykosanu で「さつと蒼ざめる」(『久保寺辞典』p.216) という意味になる。
- 296) kosik'erana- / atte: 『千歳辞典』に「sikeranaatte ～〈場所〉に視線を落とす。相手の顔をまともに見ずにうつむく」(p.210) とある。また、「tukarike sikeranaatte 『～の手前に視線を落とす』という形で、恐れ慎んでいる様子」(同) という意味になる。
- 297) soonno hetap: ソオンノ soonno は sonno の強調形。『久保寺辞典』に sonno hetap は「本当にまあ、まことかや」という「感動的な声, 感声」(p.260) とある。yukar(2) 注215)参照。
- 298) e=iki siri / tapanpe ne ya: 直訳は「お前のしたことは / これなのか」だが、「kamuy ne an kur / eiki siri / tapanpe ne ya 神の勇者の / することは / 全くたまげたことか」(『アイヌの叙事詩』p.292) のように驚嘆の意を含む語句か。
- 299) ヤイモオロ yaymotoor: 「ト」が脱落しているが、yaymotoor (<yay- 「自分の」 moto 「素性, 起源」 or 「～のところ」) か。
- 300) tumunci kamuy: 「魔神。戦いの神」(『千歳辞典』p.281), 「悪い神の一つ。いくさの神あるいは、殺戮の神らしい」(『沙流辞典』p.735) という意味。
- 301) アヌクス: ノートでは行頭「ア」の上にチェック (✓) が書かれている
- 302) アウヲエロシキ a=uoesroski: ノートの表記にしたがうと a=uwoeroski だが、w は挿入音。ここでは「たくさん並べる」(『沙流辞典』p.813) という意味。
- 303) tek or kasike: tek 「手」 or 「～のところ」 kasike 「その上」。or も ka (sike) も位置名詞なので、通常は連続しないはずだが、「paro-or kashi 口に」(『神謡・聖伝』p.445) のように、韻文においては or + ka (si) という例も見られる。
- 304) corantekar: 「～を下ろす」の意味で使われるのは ranke が多いが、「kor'a poho / rante ki wa

その息子を / 降らせて」(『アイヌの叙事詩』 p.327), 「ruwesan kurka / a-e-ai-rana / -rante ruwe 下り口の道を / 下に / 下っていった」(『神話・聖伝』 p.413) など, rante が使われる例も見られる。したがって, 多く見られる語形は ciorankekar だが, ここではノートの表記のまま corantekar < c(i)-「自ら」o-「場所」へ」rante 「～を下ろす」-kar (他動詞形成接尾辞) として, 誤記扱いとはしなかった。

- 305) ネアオツケ nea otcike: 「チ」が脱落しているが, otcike 「お膳」か。
- 306) erikne sukup: 『アイヌの叙事詩』に「erikne sukup 苦勞した生活」(p.148) とある。yukar (2) 注293) も参照。
- 307) ipe pokayki : pokayki は「...だけでも」(『沙流辞典』 p.353) とあるが, 「ipepokayki / inoye noy ne 食事もしないで / 死ぬほど」(『クトゥネシリカ』 p.244) を参考に否定の意味を添えた。
- 308) i=noye noyne: 直訳は「私をねじるように」だが, 『千歳辞典』に「penekamuy i=noye noyne humas 空腹の神が私をよじるような感じだ=腹が減って死にそうだ」(p.310) とあるように, 非常に腹が減っている様子をいう。
- 309) itankikosip: 『萱野辞典』に「イタンキコシパ【< itanki-ko-hosipi】 お代わりをする」(p.60) とある。『金田一全集11』には kosip について「ko は『共に』といふやうなる接辞にて, shipi は返すといふ動詞」(p.162) だという説明がある。
- 310) ネイワネヤ: ノートでは「ヤ」と重なるようにチェック (✓) が書かれている。あるいはノートでは次の行にあたる「サシテクサムン」(1115行目) の「テク」に対するチェックか。
- 311) サシテクサムン casi teksam un: ノートの表記はサシだが casi 「山城」か。
- 312) ミムコサンバ rimkosanpa: ミムコサンバ mimkosanpa は不詳の語。どこからかやって来た人間が山城の近くに飛び降りるという場面では, 「aynu terke hum / korimkosanu 人が跳ぶ音が / ドシンと鳴る」(『アイヌの叙事詩』 p.183), 「aynu terke hum / konaynatara 人の跳びおりる物音が / 鳴りわたる」(『クトゥネシリカ』 p.88) のように rimkosanu (複数形 rimkosanpa) や konaynatara といった語が用いられることが多いことから, ミムコサンバは rimkosanpa を意図した誤記と解釈した。
- 313) インカルスイベ inkar rusuy pe: ノートの表記に r をひとつ補って inkar rusuy pe 「見たいもの」とした。
- 314) etumam kasi: etumam の e- について金田一京助は, 直前にある「hayokpe を受けて, それをもて (体の上を包む) の意」(『金田一全集9』 p.476) と説明している。
- 315) tesnatara p: tesnatara は「平坦な様」(『久保寺辞典』 p.272)。ここでは身体にぴったり合った鎧を着ているということ。yukar(1) 注171) も参照。
- 316) オシアフベ osi ahun pe: 1127行目 hoski ahun pe 「先に入るもの」の対になることから, 「ン」が脱落しているが osi ahun pe 「後に入るもの」の意とした。
- 317) kotesnatara: 「etumam kasi / kotesnatara 胴体の上に / きちんとして」(『アイヌの叙事詩』 p.512) のように, 身体にぴったり合った鎧を着ている様子。yukar(1) 注171) も参照。
- 318) pon aynu pon kur: 直訳は「若いアイヌ, 若い人」。「うら若き少人」(『久保寺辞典』 p.211) などのように訳される。
- 319) kokosankokka- / esitciwre: koksankokkaesitciwre で「(そこ) でひざをそろえて座る」(『沙流辞典』 p.356), 「に座す, にあぐらをかく」(『久保寺辞典』 p.135) とあり, 意味上, 語頭の ko- は不要だが『アイヌの叙事詩』(p.30ほか) で, 鍋沢は ko-kosankokka- / esitciwre という語を使っていることから, ここも書き間違いなどではないと考え, ノートの表記通りにローマナイズした。

- 320) ドイカシケ：ノートでは「シ」と「ケ」の間あたりにチェック（✓）が書かれている。
- 321) a=wenpokorpe:po だけで「子供、息子」の意味だが、「awen po korpe わが悪いせがれ」（『アイヌの叙事詩』 p.296）のように、po kor pe で「息子」の意味となる用例も見られる。
- 322) ボイヤウンベ Poyyaunpe:「ン」が脱落しているが、Poyyaunpe「ボイヤウンベ」。yukar(2) 注 198)も参照。
- 323) ロルベクルカ rorunpe kurka:「ン」が脱落しているが、rorunpe「戦い」の意。
- 324) somo ney peka:『静内語彙』に「somonepeka あろうことか」とある。
- 325) ボイヤウンベ Poyyaunpe: ボイヤウンベは Poyyaunpe。
- 326) koociwpaste:ko-「～に対して」ociw「欲情」pas「走る」-te「～させる」で「みだらなことをしかける」（『人間篇』 p.167）。
- 327) kokininpaste:ko-「～に対して」kinin「淫情、好色」pas「走る」-te「～させる」。『ユーカラ集3』に「kokininpashte みだら心をかけて」（p.473）とある。kociwpasteと同義反復の対句。
- 328) eturpak:『久保寺辞典』に「eturpak 匹敵する」（p.71）とある。
- 329) コシンプトノ kosimpu tono:「ン」が脱落しているが、kosimpu tono「コシンプの親方」の意味か。『萱野辞典』（p.238）には「コシンプというのは海の妖精で、絶世の美女または美男を言う」とあり、本テキストでもボイヤウンベの美貌に匹敵するものとして、美しい魔物であるコシンプをあげている。鍋沢のテキストにおいて美貌を言う際にコシンプを挙げる例では「rikun mosir ta / horokew kamuy / poniwne kamuy / kor siretok / a-e-ihunara, / atuy-so ka ta / kosimpu kamuy / kor siretok / a-e-ihunara, / aynu mosir ta / Poyyaunpe / kor siretok / a-e-ihunara 天国には / 狼神の / 弟神 / その美貌が / 一番, / 海上の世界では / コシンプ神の / 美貌が / 一番, / 人間世界では / ボイヤウンベ / の美貌が / えらばれ」（『アイヌの叙事詩』 p.247）のように、各界でもっとも美しいものとして列挙されている。
- 330) tap easir:直訳は「今になって初めて」。kosimpu tono「コシンプの首領」ほどの美貌があって初めて主人公に匹敵するということは、それだけ主人公が美貌であるということ。
- 331) a=eturpakka:eturpak「匹敵する」-ka「～させる」なので直訳は「匹敵させられる」。「akot tureshi / aeturpakka / pirka pon menoko / oka ruwene 我妹子（わぎもこ）に / 較べられる / 美しい乙女が / 居たのである」（『ユーカラ集8』 p.94）。
- 332) ne yakne a=ye pe:yakne a=ye は yak a=ye「～と言われる」を意図しているものか。通常、間接話法で用いられる yak「～と（いう・思う）」は、仮定条件「～したら」を表す yak とは異なり、yakne と互換できないが、ここではノートの表記に従ってローマ字化した。
- 333) usayne ka tap:『久保寺辞典』に「usainekatap これは如何に、これはしたり」（p.298）とある。これは「驚きの問投詞」（『金田一全集9』 p.304）。
- 334) アオヤネネナ：ノートでは行頭「ア」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 335) ェ°ンルプネマチ wen rupne mat:「マチ」は mat。以下、何度か出てくる語句だがすべて同様。
- 336) ウタルバエニシテ utarpa eniste:ノートでは「シ」を書きそびれたらしく後から挿入されている。ここは、母親がボイヤウンベに対して悪態をついたことに対する言葉であることから、ここでの utarpa「首領」は、これまで息子たちが遊びに訪れていたというキムントウンクルではなく、主人公・ボイヤウンベのことであろう。enisteは「...を頼りに / あてにして安心している」（『沙流辞典』 p.100）。
- 337) sinep siri ne:『金田一全集9』に見られる用例では「Use nishpa / shinep shirine / utar kurkashi / anuirototo たゞの首領だちをば / ひとつに / 大勢の上へ / われ火の如く追討てば」（pp.245

- 246) のように多くのものがひとかたまりになる様子に使われている。ここも、二人の息子たちが口々に述べている言葉がひとつにまとまっている様子か。
- 338) カラカニツ kor a kanit: ノートの表記どおりには, kar kanit 「(糸を) 作っていた糸巻き棒」となるが, 『アイヌの叙事詩』(p.60) で「kor'a ka-nit / etaypa hine 持っていた糸巻きを / 抜いて」という表現が使われていることなどから, 「カラカニツ」は kor a kanit を意図した誤記と解釈した。yukar(2) 注169) 参照。
- 339) マクソウスズ makun sowsut: 「ズ」を用いた表記は本ノートではほかに見られないため, sowsut と sowsutu の可能性が考えられるが, 文法上はここで所属形にする必要がないことや, 「makun so-ushut」(『神謡・聖伝』p.356) という用例が見られることから sowsut とした。
- 340) utarpa eniste / nispa eniste: utarpa 「首領」, nispa 「勇士」は共に主人公・ポイヤウンペのこと。
- 341) nep e=ye hi / e=hawkor hawe / ne hi ne yakka: 直訳は「何をお前が言うこと / 声に出すこと / であっても」。
- 342) sone usa: 「sone usa / akor rorunpe / yayeposore / aki nankora 果して / わが戦を / くぐりぬけること / できるであろうか」(『アイヌの叙事詩』p.233) のように, 疑問や仮定条件節のなかで「本当に」「果たして」「もしも」などのように疑念を表す語として訳されている例が多い。
- 343) エシキヌクニ e=siknu kuni: エシキヌは e=siknu。
- 344) e=siknu kuni / e=yaykosunke: 直訳は「お前が生きると (いうように) / お前は自分に向かって嘘をつく」。
- 345) epo tasi: 『沙流辞典』に「epo えーい!」があり, 例文として「epo tasi e=tura an=an nek! お前と一緒になんかいるものか」とある。
- 346) ウタリヒ: ノートでは行頭「ウ」の上に赤でチェック (✓) とカギ括弧が書かれている。
- 347) siwkosanpa: siwkosanu 「しうと鳴る, さつと音がする」(『久保寺辞典』p.255) の複数形。yukar(1) 注207) 参照。
- 348) ehopunpa: 「atam etoko / ehopuni 太刀の先に / 飛び去って」(『アイヌの叙事詩』p.254)。刀を避けるために跳びすぎる様子。yukar(2) 注173) も参照。
- 349) wen tumi ran / ukohopuni: 『ユーカラ集9』に「wentumi ran / ukohetuku 悪いたたかいが降って / 相起こった」(p.316) とある。なお, 鍋沢のテキストには「wen tumi ran」という表記もある(『クトゥネシリカ』p.183) が, 「戦いが勃発する」ことを表していることから ram (「心」「低い」) よりも tumi ran 「戦いが下りる」のほうが適切であろうとして, ここでは ran とした。
- 350) casi pennok: pennok は「上の方の軒, 東の方の軒」(『萱野辞典』p.405)。『金田一全集9』には「Chise-pennok / chise-pannok 家の東の軒に / 家の西の軒に」(p.333) とあり, 同ページの注には nok について「草で段々に小口を切りそろえて屋根を葺く, その段々の小口をいう」とある。
- 351) casi pannok un: pannok は「下の方の軒, 西の方の軒」(『萱野辞典』p.380)。
- 352) utamkocupu: 『千歳辞典』に「tamkocupu で ~を刀で攻撃する。~を刀でやりこめる」(p.249) とある。ここでは, 老女 (tumunci unarpe) と息子たちとが交戦している様子。1275行目では老女は tam 「刀」ではなく tumunci kuwa 「魔神の杖」を手にして戦っているが, tamkocupu で「応戦する」という意味になるため, ここでも tamkocupu という表現を使い, \*kuwakocupu とは言っていない。
- 353) eyayotuwasi p: otuwash(i) この人ならばと頼にする。自矜す, 恃(たの)む, 自負する。頼

- りとする、たのむ」(『久保寺辞典』p.197), 「eyayotuwasī ~について自分を頼りにする」(『静内語彙』)とあることから、直訳は「自分を頼みにするもの」。
- 354) アタムコツバ a=tamkocuppa: ノートの表記にpをひとつ補ってcuppaの意とした。tamkocuppaはtamkocupu「~を刀で攻撃する。~を刀でやりこめる」(『千歳辞典』p.249)の複数形。
- 355) フレハヨクベ: ノートでは行頭「フ」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 356) cisrimimse: 『金田一全集10』では、「chish rimimse 泣きながら踏歌する」(p.189)と訳され、「死を哭するように節をつけて儀式的に泣哭することあり、chish rimimseは、それを詞曲語で飾って云った語……いわゆる ukewehomshuの式」(同)と説明されている。
- 357) e=eokatune kusu: 「eokatune / ki ruwe-an'a? 汝のあとにて只には / 済むべきか」(『金田一全集10』p.154)。1272~1273行目で「生かしてはおかない」と言っていたように、息子たちを「ただでは済まない」と思ったために殺したのか、ということか。
- 358) a=kor yupi / utarihi / ruokakehe / citoykotata / a=ekarkar: 直後に女たちが母親に刀を向けていることから、toykotata「激しく刻む、土と共に刻む」ことになる対象は母親である。また、「iruokake / tamomare kunip / tuima kane / Atuisarunkur われらの後に / 仇を討つべきものが / 遙かなる / アヅイサラびと」(『金田一全集9』p.192)のような表現が見られることから、ここでのruokakeは亡き兄たちの後を受けるという意味で、全体としては「兄たちの後(を受けて、今から)私たちが(母を)激しく刻む」ということか。
- 359) ciyaykoyuppa: yaykoyuppa (単数形yaykoyupu)は、「~を自分にギュッと締める」という意味(『沙流辞典』p.858など)。ここでは、「chiyaykoyuppa / eki nankon na もっと腕を烈しく / して来い」(『アイヌの叙事詩』p.485)のように激しく行う様子を表す語として用いられている。この発話内で自分たちのことはa=で表しているため、e=「お前が」は敵対する母親のことになる。敵となる母親に対して「しっかりやれ」と挑発しているものか。
- 360) ヘンルペネマチ wen rupne mat: ノートの表記「ヘン」はwen。
- 361) イヨロインカル ioroinkar: 『萱野辞典』に「イヨロインカラ【i-oro-inkar】見物する、遠くから見る」(p.80)とある。ノートの表記にしたがうとiyoroinkarだが、yは挿入音。
- 362) ヤイスアックス: ノートでは行頭「ヤ」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 363) ゴンルペネマチ: ノートでは行頭「ゴ」の上にカギ括弧が書かれている。
- 364) enitan: 『沙流辞典』に「enitan (走る/逃げる)の速い」(p.100)とある。
- 365) リクシタムクル rik kus tamkur: ノートの表記に従うとri kus tamkurだが、鍋沢によるほかのテキストでrik kus tam kurという用例が見られる(『アイヌの叙事詩』p.306ほか)ことなどから、ノートの表記では「ク」が脱落しているがrik kusとした。yukar(2)注90も参照。
- 366) aykap sam\_wa / a=teknumteke / tu nawkep say ne: 「右には刀を乗り左は空手で敵を掴もうと握り握りす」(『金田一全集9』p.445)とあるように、老女をつかまえるために左手を振り回している様子をいう。
- 367) tu nawkep say ne: 『千歳辞典』に「nawkep 鈎状になったもの。湾曲したもの」(p.293)とある。老女を捕まえるために手を鈎状に湾曲させている様子。
- 368) ヤイゼヌカールペ yaywennukar pe: 画像では「ヌ」の部分が消失しているように見えるが、実際は消えかかっているもののうっすらと確認することができる。yaywennukar peは「難儀する者」とも「難儀したが」とも訳せるが、ここでは前者で解釈し、老女(wen menoko)のことを指す語とした。主人公が振り回す刀や手から逃げ回っていた老女だったが、家の中に逃げ場がなくなったということ。
- 369) rikunsuy kurka / yaypekare: 直訳は「天窓の上を / 目指していく」。すなわち、天窓を通して、

- そこから逃げようとしているということ。
- 371) ren a=ne wa: 直訳は「3人で私たちはあって」。この3人は、主人公と tumunci kamuy の娘たち(姉妹)。
- 372) チオカオシバ cioka nospa: ノートの表記のとおり「チオカオシバ」とすると不詳の語となるため、ci-oka nospa か。oka nospa は「...の後を追う」(『沙流辞典』p.461)。なお、語頭 ci- の意味するところは不明だが、追いかけるのは主人公たちであるにも関わらず主格人称接辞を欠いていることから、ci-okanospa / a=ekarkar を意図したものの a=ekarkar を欠いてしまったものか。yukar(2) 注200)も参照。
- 373) カンドコトル kanto kotor: 画像では「カン」の部分が消失しているように見えるが、実際は消えかかっているもののうっすらと確認することができる。
- 374) kosietaye: 『久保寺辞典』に「koshietaye へ引去る、我引き去る、我が身を引いて其の場を去る」(p.141)とある。
- 375) ~~タネ~~タネボクス: 「ダンベ」の部分は黒と赤の棒線で削除されている。
- 376) tanepo kusu: 『久保寺辞典』に tanepo kusu で「今し」(p.266)とある。「たった今、ちょうど今」という意味から意識した。
- 377) ウノシバチカブ: この行の上部枠外に「?」と書かれている。本文よりも濃い文字で書かれているように見えることから、後から書き足されたようである。
- 378) カッコロ [クニ/シリ]: ノートでは「クニ」と書かれた隣に「シリ」が書かれている。この箇所はほかの部分より濃い文字であることから、後から書き足されたものだとわかる。ただし、「クニ」が書き間違いだったというわけでもないらしく、消された形跡はない。むしろ、薄れかかっている「ッコロク」を書き直すと共に「クニ」も書き足されていることから、この部分は「クニ」を使っても「シリ」を使っても良いという意図で両方書いているようである。
- 379) ルオカケ: ノートでは行頭「ル」の上に赤でカギ括弧が書かれている。
- 380) ene hetap ne: 『久保寺辞典』に「ene-hetap-ne あれ程にも、こんなにもまあ、ああまでも」(p.61)とある。
- 381) レニアネワ: 「レ」の部分は薄くなっている。
- 382) humne an kor: 『アイヌの叙事詩』では「humnean kor 時には」(p.591)などと訳されている。
- 383) コゼラナ / スラトツケ kocerana- / suototke: 「コゼラナクル / コスラトツケ ビューと下り / 降りて来た」(『アイヌ・モシリ』p.461)のように、さっと急降下してくる様子を言う語。yukar(2) 注128)も参照。また、ノートの表記にしたがうと kosuwototke だが、w は挿入音。
- 384) awa kina: 『アイヌの叙事詩』では、「青草」「生えたる青草」といった訳が当てられているため、それに従った。yukar(2) 注366)参照。
- 385) kina koypake: kina 「草」 koy 「波」 pake 「～の上端」。yukar(2) 注369)参照。
- 386) siesinotte: 『千歳辞典』に「siesinotte ～をからかう。～をもてあそぶ；< si- 『自分』 e- 『～で以て』 sinot 『遊ぶ』 -te 『～させる』」(p.206)とある。
- 387) tumunci kuwa ~ a=sitayki awa: sitayki は「～を叩く」。主人公は刃の方ではなく刃の mekka 「峰」を使っていることから、杖を叩き切ろうとしたのではなく、取り落とそうとしているものか。
- 388) tekraukpte: 「tekraukpte つかまってる手をひらいて」(『金田一全集12』p.227)。ここでは手を開いて杖を放してしまったこと。
- 389) アシコエタイゴ: ノートでは行頭「ア」の上に丸で囲んだ「45」という数字と、赤でカギ括

弧が書かれている。この数字は『久保寺タイプ』におけるページ数と対応しているのではないかと考えられるが、詳細は不明。

- 389) a=sikoetaye: 老女が取り落とした杖を、彼女が拾い上げる前に主人公が奪い取っている様子。この直後から、奪った杖を使って主人公は老女へ攻撃する。
- 390) korimkosanpa: 老女を杖でぶん殴った音。
- 391) sian ray kuni p: 直訳は「本当に死ぬべき者」。生き返ることができない者の魂のことで、ここでは死んだ老女を指す。
- 392) siahuncuppok: 『萱野辞典』に「アフンチュッポク【ahun-cup-pok】 西の方, 日の入る方」(p.30) とある。si-は「真の, 本当の」という意味の接頭辞。
- 393) kohumerawta- / rorpa: 「kohumerawta / rarpa kane 音を低く / 沈んでいく」(『アイヌの叙事詩』 p.244) は、生き返れない者の魂が西の地平の彼方に向かう際に用いられる常套表現。
- 394) semean cispo / koseutkan- / riten kane: 『久保寺辞典』に「semean chishpo koseutkan rikinitara すすり泣き, しやくり上げる. なきまねをしてすすり上げしやくりあげる」(p.237) とある。
- 395) ソモノコロカ: ノートでは行頭「ア」の上に丸で囲んだ「46」という数字と、赤でカギ括弧が書かれている。
- 396) セコロオカイベ: 「イ」は書きそびれたらしく、後から書き足されている。
- 397) アシキンネ: 「リ」が脱落しているが asirkinne 「新たに」か。
- 398) ウタリヒ: ノートではこの行の脇に赤で傍線が付されている。
- 399) アムイラメトク: 「ア」は「カ」の誤字で kamuy rametok の意か。
- 400) スケアンヤクネ / イベアックス: ノートではこの行の脇に赤で傍線が付されている。
- 401) アイゼエセ / チウレ a=ieese- / ciwre: ioeseciwre 「～に承諾の返事をする」(『千歳辞典』 p.27) や、『沙流辞典』で eyeese-ciwre 「... についてエーと承諾の返事をする」を e- 「～について」 i- 「人」 e- 「～に」 ese 「承諾の返事」 ciwre 「～を刺す」と分析している (p.162) ことを参考に、「イゼ」は ye ではなく、ie の間に y が挿入されて iye となったものと解釈した。なお、鍋沢の語彙としては「a-ye ese kur / chiwre kane われは、よしと / 応じる」(『アイヌの叙事詩』 p.76) のように ieese(kur)ciwre という語形である。
- 402) yanayapte: ya 「陸」-na 「～の方に」 yapte 「～を陸に上げる(複)」。単数形は yanayanke。『アイヌの叙事詩』では「pirka mesi / yanayanke 良き飯を / 炊き上げて」(p.182) のように「炊き上げる」と訳されていることが多いが、ほかのテキストでは「Yanayapte やがて取り上げ」(『ユーカラ集8』 p.43) のように「(できあがった料理を) 取り上げる」のように訳されることも多い。ここでは語義から飯を(炉の中央から) ya すなわち炉の端の方へ取り上げる動作として訳した。
- 403) カバルベイトンキ: ノートでは行頭「ア」の上に「47」という数字と、赤でカギ括弧が書かれている。
- 404) ウヲエロシキ uoeroski: ノートの表記にしたがうと uwoeroski だが、w は挿入音。
- 405) a=ukoroski: ukoroski は「一緒に / 共に... を立てる」(『沙流辞典』 p.763) だが、この文脈では多くのご馳走を並べている様子。
- 406) e=kor a casi: e= 「お前」とは主人公自身のこと。心中発話において、自分で自分に対して「お前」と呼んでいる。